

**保健科学部**

**(作業療法学科)**

**シラバス**

*Syllabus 2020*

|                     |  |   |          |            |              |               |
|---------------------|--|---|----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 情報処理演習   |   | 授業コード    | 110079B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科(2年)  |   | ナンバリング   | 9CC221B01  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 柴田 文孝(非常勤講師)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1年時の情報処理入門で学んだ知識をさらに深く、Word や Excel の各種機能について学び、応用力を高める。講義のレポート作成や論文作成には不可欠の Word は、目次作成、グラフの挿入などについてもできるようになる。また Excel では関数を組み合わせた文字列操作やデータ集計の関数、データ分析につかうグラフ作成を習得する。このほか Web ページと HTML の基礎についても理解しその作成方法を知る。   |   |          |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) Word でラベルや封筒、はがき印刷の機能を使い、名刺カードを作成できる。<br>2) Web ページについて理解し、HTML のタグを使い簡単な Web ページを作成できる。<br>3) Word 文書の段組みやドロップキャップ、図形描画などの機能を使った文書を作成できる。<br>4) Excel の新グラフ、パレート図やサンバーストを作成しデータ分析ができる。<br>5) Excel の日付関数を使って、月ごとに曜日が変化するカレンダーを作成できる。条件付き書式を使い、日曜日や誕生日のセルに塗りつぶしを設定できる<br>6) IF 関数や VLOOKUP 関数を組み合わせ、指定した月ごとに表示が変わる時間割表を作成できる。<br>7) Word の目次作成機能を使い、レポートの目次ページを作成できる。タブとリーダー機能を使い、目次項目にリーダーを作成できる。<br>8) Word の差し込み印刷機能を使い、Excel で作成したデータを差し込むことができる。Word で PDF 文書として保存し印刷できる。<br>9) Excel のデータベース関数を使って、特定のデータだけを抽出できる。<br>10) Word 文書に Excel で作成した組織図を「図として貼り付け」た文書を作成できる。<br>11) Word 文書に段落の網掛けを設定し、一部の段組みやリーダー設定、ページ罫線の付いた文書を作成できる。<br>12) グラフ作成機能について知り、文書中に積み上げ棒グラフやドーナツグラフを挿入したレポートを作成できる。 |   |          |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |   |          |            |              |               |
| 評価方法                | 毎回の講義で作成したファイルの評価を60%、課題の提出状況及び授業態度、まとめとして実施する小テストなどを40%として総合的に評価する。評価の基準は初回授業時に説明する。  |   |          |            |              |               |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | パソコンのスキルアップは日々の積み重ねになるので、講義で学んだことは配布プリントを使い、自宅パソコンや学内のパソコンで復習し理解しておくこと。またシラバスを確認し、次の講義の用語や操作等について調べておくこと。個人用パソコンの所有者で学内 LAN に接続できるものはできるだけ個人パソコンを使用するのが望ましい。   |   |          |            |              |               |
| オフィスアワー             | 講義日の授業前後の可能な時間に授業実施教室で質問や相談に応じる。また前もって連絡があれば、教室の空き時間や非常勤講師控室で対応する。   |   |          |            |              |               |
| 授業計画                |  |   |          |            |              |               |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当            |
| 1                   | 1)   | Web メールログイン確認<br>Word で名刺を作る ラベルと封筒の作成  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 2                   | 2)   | [HTML] 簡単な Web ページを作成する<br>文字や画像、イラストをブラウザで表示させる Web ページへリンクさせる                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 3                   | 3)   | [Word パンフレット作成 1]<br>縦書きの段組文書作成 レイアウト機能 段区切り  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 4                   | 3)   | [Word パンフレット作成 2]<br>文書内に自由に表を配置する イラストの挿入と図形配置                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 5                   | 4)   | [Excel グラフ作成]<br>補助円つきグラフ パレート図 サンバースト  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 6                   | 5)   | [Excel 日付関数]<br>WEEKDAY 関数などを使って万年カレンダーを作成する  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 7                   | 6)   | [Excel VLOOKUP 関数 IF 関数]<br>検索値に合致したセルを参照し、条件に応じた値を返す                               |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 8                   | 5)6)   | [Excel 日付関数と VLOOKUP 関数のネスト]<br>月ごとに自動処理する時間割を作成する                                  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 9                   | 7)   | [Word] 目次作成<br>レポートの目次ページ作成 タブとリーダー ページ番号   |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 10                  | 8)   | [Word と Excel のコラボレーション] 差し込み印刷と PDF 保存<br>Word 文書に Excel で作成したデータを差し込み、PDF 文書で保存する |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 11                  | 9)   | [Excel データベース機能]<br>データベース関数を使って特定の条件のデータを集計する                                      |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 12                  | 10)  | [Word と Excel]<br>Excel で作成した組織図を Word 文書に貼り付ける                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 13                  | 7)11)  | [Word 案内文書作成]<br>段落の網掛け タブとリーダー 段組 イラスト挿入 ページ罫線                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 14                  | 12)  | [Word グラフ入り文書作成 1]<br>ページ設定とインデント 文字数と行数設定  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 15                  | 12)  | [Word グラフ入り文書作成 2]<br>Word のグラフ機能 積み立て縦棒グラフ ドーナツグラフ                                 |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。  |          |            |              |               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特に指定しないが、分からないパソコン用語や操作方法は、その都度インターネットで検索すること。                                      |          |            |              |               |

|                     |   |                                    |            |              |           |     |
|---------------------|---|------------------------------------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | キャリア教育  | 授業コード                              | 110005B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)  | ナンバリング                             | 9CC222B01  | AL科目         | ○         |     |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)   | 開講学期                               | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 選 択       |     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>本講義は、社会人・職業人として自立していくために基盤となる、「自らの力で生き方を選択していくことができる」よう必要な能力や態度を育成することを通じて、一人一人のキャリア発達を促していくことを目標としている。</p> <p>そのために、脳科学と認知心理学に基づいた「脳と心の仕組み」を活用して「生きる力」を育むための教育プログラム(下記教材)を中心として講義を進めていく。ゲームやディスカッションを通して楽しく学び、脳と心の仕組みを活用する方法を身体に記憶させていく。あわせて、脳と心に効果のあるボディワークについても紹介する。それらを通して、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力、論理的思考力・創造力、意欲・態度、価値観)を身に付けることにつなげていく。</p> <p>〔教材〕<br/>川口菜旺子、伊藤卓也他:メンートル先生の遊んで脳トレ8ステップ。メンターリング・アソシエイツ。</p>  |                                    |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1)キャリア教育で育成する力について理解できる</li> <li>2)いろいろな人と交わり、意見交換できる</li> <li>3)各回の自らの目標を決め、実行できる</li> <li>4)各回での学びを生活の中に汎化できる</li> <li>5)各回、作業療法で活用できることを見つけることができる</li> <li>6)自分自身の心身の状態、「脳が気持ちがいい」を確認できる</li> <li>7)自分自身を振り返ることができる</li> <li>8)脳が変わると行動が変わる仕組みを説明することができる</li> <li>9)言葉が脳に及ぼす影響について説明できる</li> <li>10)日頃、習慣として行っていることを挙げ、分析できる</li> <li>11)自己効力感とは何であるかを説明できる</li> <li>12)脳が感知しやすいものは何であるか確認できる</li> <li>13)脳に感知させるためにはどうしたらよいか説明できる</li> <li>14)賞賛を受け入れる効果を体験してみる</li> <li>15)小さな成功体験に気づき、自尊心を身につけることができる</li> <li>16)作業療法における段階付けと自尊心について意見を述べるができる</li> <li>17)枠(或)を超えて自らの願望をストレートに表現してみる</li> <li>18)前向きに自己の将来を設計する力を付けることができる</li> <li>19)自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うことができる</li> <li>20)自ら望む結果を真剣に考えることができる</li> </ol> |                                    |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、キャリア形成についての授業を行う。  |                                    |            |              |           |     |
| 評価方法                | 各授業内でのディスカッション等の参加状況及び各授業終了後のミニレポート(経験とその省察)7割、総括レポート3割で総合評価を行う。  |                                    |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 目標を持ち、主体的に参加すること。<br>復習として振り返り(省察)レポートを作成すること(30分程度)。<br>講義の中で学んだことを日常の中で実践し、次回の授業で報告するためにまとめること(30分程度)。  |                                    |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 火曜日 12:30~13:00   |                                    |            |              |           |     |
| 授業計画                |   |                                    |            |              |           |     |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                            |            |              | 授業<br>方法  | 担当  |
| 1                   | 1)~<br>5),7)  | オリエンテーション, 自己紹介, 自己理解の実際(1)        |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 2                   | 2~7)  | 脳と心のためのボディワーク, ポリヴェーガル理論           |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 3                   | 2)~8)   | 脳と心のしくみ                            |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 4                   | 2)~<br>7)9)   | セルフワークと脳の働き                        |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 5                   | 2)~<br>7)10)<br>11)   | 自己効力感を身につける                        |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 6                   | 2)~<br>7)12)<br>13)   | 意識の焦点を変えると人生が動き出す                  |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 7                   | 2)~<br>7)14)  | 賞賛を活かして能力アップ                       |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 8                   | 2)~<br>7)15)<br>16)   | 自尊心を高める(決める→やる→ほめる)                |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 9                   | 1)~<br>7),18<br>~20)  | 自分らしい生き方に気づく 人生すごろく「金の糸」(小学生~中学生)  |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 10                  | 1)~<br>7),18<br>~20)  | 自分らしい生き方に気づく② 人生すごろく「金の糸」(高校生~大学生) |            |              | 講義・演習・SGD | 内 勢 |

|                    |                      |   |           |     |
|--------------------|----------------------|---|-----------|-----|
| 11                 | 2)～<br>7)17<br>～19)  | 脳の抑制を外して心のを聴く   | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 12                 | 2)～<br>7)18<br>～20)  | 望む結果を真剣に考える①  | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 13                 | 2)～<br>7)18<br>～20)  | 望む結果を真剣に考える②  | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 14                 | 2)～<br>7),18<br>～20) | アフターセッション・プロセス  | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 15                 | 1)～<br>20)           | 自分らしい生き方の実現のために 自己理解の実際(2)  | 講義・演習・SGD | 内 勢 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |                      | 使用しない。  |           |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |                      | 職業相談場面におけるキャリア理論及びカウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査<br>{file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/ZW4C3Q7H/0165.pdf}<br>ステファン・W・ポージェス:ポリヴェーガル理論入門. 春秋社, 2018.<br>その他、講義の中で随時紹介する。 |           |     |

|                     |  |                      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|----------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 国際保健福祉論  |                      |          | 授業コード  | 110070B401 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | スポーツ健康福祉学科・臨床福祉学科・子ども保育福祉学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科・薬学科・動物生命薬科学科・生命医科学科(2年)  |                      |          | ナンバリング | 9CG221B02  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 日田 剛(福・福)、秋葉 敏夫  | 開講学期                 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>本学の学則第1条に「本学は(中略)国際化社会に向けて、介護・福祉、医療、薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする」とある。この目標実現に資するために大学共通科目として本講義が設定されている。この講義は本学が持つ学部・学科の教員がそれぞれの専門分野から保健、及び福祉に関する講義を行う形式をとる。さらに、海外で長年国際保健に取り組んできた非常勤講師からも、世界の保健状況についての情報を得ることができ、学生諸君は授業を通して保健福祉に関する多角的な視点が持てるようになる。</p> |                      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)健康の定義、福祉の定義を説明できる。<br/>2)薬学部、保健科学部、社会福祉学部のそれぞれの視点から国内外の保健と福祉の関係を説明することができる。<br/>3)世界の小児保健の状況について述べるができる。<br/>4)世界の主要な感染症について現状と対策が説明できる。</p>  |                      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | <p>医師としての経験を有し、海外で長年にわたって保健医療協力活動(JICA 専門家等)を重ねてきた実務経験者を、非常勤講師として招聘している。</p>   |                      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | <p>各回の授業で小レポートを課し、理解度合いをチェックする。学習への取り組み姿勢(小レポートの質、質問などによる授業への参加など)を20%、全講義終了後に提出する最終課題レポート80%で単位判定を行う。</p>   |                      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>本講義はオムニバスで行われるので、事前準備は難しい。したがって授業中に適切にノートを取り、配布資料やインターネットなどをを用いて十分に復習することが肝要である。</p>  |                      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水・木・金曜日 12:30 から 13:00 まで  |                      |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                      |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容              |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 国際保健福祉とは(イントロダクション)  |          |        |            | 講 義          | 稲田        |
| 2                   | 2)   | 薬学と国際保健福祉            |          |        |            | 講 義          | 黒川        |
| 3                   | 2)   | リハビリテーションと国際保健福祉     |          |        |            | 講 義          | 立石        |
| 4                   | 2)   | 臨床工学と国際保健福祉          |          |        |            | 講 義          | 竹澤        |
| 5                   | 2)   | 臨床検査医学的見地から見た国際保健福祉  |          |        |            | 講 義          | 清水(慶)     |
| 6                   | 2)   | 人獣共通感染症と国際保健福祉       |          |        |            | 講 義          | 明石        |
| 7                   | 2)   | 鍼灸と国際保健福祉            |          |        |            | 講 義          | 渡邊        |
| 8                   | 3)   | 世界の小児保健の現状           |          |        |            | 講 義          | 嶋田        |
| 9                   | 4)   | 世界の主要な感染症 HIV/AIDS   |          |        |            | 講 義          | 嶋田        |
| 10                  | 4)   | 世界の主要な感染症 マラリア       |          |        |            | 講 義          | 嶋田        |
| 11                  | 4)   | 世界の主要な感染症 結核         |          |        |            | 講 義          | 嶋田        |
| 12                  | 4)   | 世界の主要な感染症 肝炎ウイルス     |          |        |            | 講 義          | 嶋田        |
| 13                  | 2)   | 世界の高齢者の保健福祉          |          |        |            | 講 義          | 清水        |
| 14                  | 2)   | 世界の精神保健福祉            |          |        |            | 講 義          | 西田        |
| 15                  | 2)   | 世界の子供の保健福祉           |          |        |            | 講 義          | 日田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。必要に応じて資料を提供する。 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。               |          |        |            |              |           |

|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医療統計学演習   |   |           | 授業コード  | 110022B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)  |   |           | ナンバリング | 2CC221B01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 樋口博之(保・作)   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>医療統計学は、医療従事者が科学的根拠に基づいて治療を行うために必要な知識である。<br/>         現在、多くの統計ソフトが市販されているが、その基本的なポイントを把握していなければ、大きな間違いとなる。また、解析された結果を正しく解釈することができない。<br/>         本授業では、講義と演習により、統計の基礎的な手法を習得することを目標とする。</p> |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)統計の意味が理解できる。<br/>         2)統計の基本的な手法が理解できる。<br/>         3)エクセル(Microsoft)を用いて統計処理ができる。<br/>         4)医療データを基に、適切な統計法を選択し、解析された結果を正しく解釈できる。</p>  |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | レポートと単位認定試験にて評価する。  |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>演習で使用する USB メモリ(1GB 程度)を持参すること。また、ファイルの保存など、パーソナル・コンピューターの基本的な操作ができることが望ましい。</p> <p>1コマ当たり4時間を目安に予習・復習を行うこと。</p>   |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜日 12:00~13:00 研究室   |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | オリエンテーション - 統計学とは?  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 2                   | 1)  | 尺度(名義、順序、間隔)について  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 3                   | 1)  | 平均値、中央値、最頻値の違い  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 4                   | 1)  | 調査目的と質問票・評価法(目的にあった統計法)   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 5                   | 1)2)  | 検定法について理解する   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 6                   | 2)3)  | 2 標本の差の検定   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 7                   | 2)3)  | 1 標本の検定   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 8                   | 2)3)  | 回帰分析 相関とは何か?  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 9                   | 2)3)  | エクセル統計処理①   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 10                  | 2)3)  | 多重ロジステック回帰分析とは? オッズ比とは?   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 11                  | 2)3)  | 分割表の検定(X2 検定)   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 12                  | 2)3)  | 差の検定  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 13                  | 2)3)  | 分散分析  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 14                  | 3)4)  | 信頼性・再現性とは?  |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 15                  | 3)4)  | エクセル統計処理②<br>総合演習   |           |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | リハビリテーション統計学(石川朗、種村留美)、中山書店<br>ISBN:978-4-521-73667-9   |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | バイオサイエンスの統計学(市原清志)、(株)南江堂<br>ISBN: 978-4-524-22036-6<br>エクセル活用 コメディカル統計テキスト(宮城重二)、医歯薬出版(株)<br>ISBN:978-4-263-24253-7<br>※必ずしも購入する必要はない。 |           |        |            |              |           |

|                     |  |   |           |        |            |              |   |
|---------------------|--|---|-----------|--------|------------|--------------|---|
| 科目名                 | 英語コミュニケーション  |   |           | 授業コード  | 110031B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科(2年)  |   |           | ナンバリング | 2CC221B02  | AL 科目        | ○   |
| 担当者                 | 柳田雅美(非常勤講師)  | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義、<br>Role Playing<br>Activity<br>TPR(Total Physical Response)<br>Presentation |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、英語を用いた言語活動において基本となりえる語彙や表現についての再確認を行い、一般社会および臨床の場面でより実践的なレベルにおける知識や運用を可能にすることを目標とする。医療専門用語を学びつつ、インターナショナルな場面でも実際の医療現場における会話シーンを想定し、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指す。特に検査等の現場で患者様に対し、身体動作に的確な指示出しができるよう TPR を駆使し、動作の指示だしが多用されるエクササイズインストラクターとしてのプレゼンテーションを英語で行ってみる。 |   |           |        |            |              |   |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)実際の医療現場で必要とされる英語の基礎力を身につけるために、「リスニング」「リーディング」「ライティング」「スピーキング」に関する基本的知識と技能をバランスよく使える。<br>2)医療現場で役立つ専門語彙、重要語句や症状等を説明する表現が言える。<br>3)英語を用いた実際のコミュニケーションにおいて情報の聞き取りや指示、説明の基本となる表現、フレーズなどが使える。<br>4)実践的なレベルにおける英語の知識や運用能力を実際のコミュニケーションドリルを通して体得する。               |   |           |        |            |              |   |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |   |           |        |            |              |   |
| 評価方法                | 授業取組姿勢、タスクプレゼンテーション 40%、復習テスト 10%、学期末テスト 50%の割合で評価   |   |           |        |            |              |   |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | unit 毎に予習、復習をすること。特に医療用語に関しては自分にしっかり取り込むべきものとして繰り返し復習すること。リスニングにおいても、クラス時に難があれば聞き取れるまで付属の CD を活用して努力をすること。グループワークは最終プレゼンテーションに繋がっていくので積極的に取り組むこと。予習、復習各 1 時間程度、特に復習には重点をおくこと。  |   |           |        |            |              |   |
| オフィスアワー             | 授業前後の可能な時間 教室にて  |   |           |        |            |              |   |
| 授業計画                |  |   |           |        |            |              |   |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当  |
| 1                   | 1)2)3)<br>4)   | 授業の進行や、学び方について説明。Unit 1 First Visit   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 2                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 1 First Vsit (Interview Sheet)<br>Unit 2 At the Examination Room               |           |        |            | R P<br>講 義   | 柳 田   |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 3 Flue Symptoms  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 2,Unit 3 Role Playing / Total Physical Response                                |           |        |            | R P<br>T P R | 柳 田   |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 4 Pain Problem   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 6                   | 2)3)   | Review (Activity)<br>Exercise instructor TPR の進行の説明                                 |           |        |            | A C T        | 柳 田   |
| 7                   | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 5 Stomachache  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 8                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 6 Abdominal Pain   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 9                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 7 Urinalysis   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 10                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 8 Cholesterole   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 11                  | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 9 Anemia   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 12                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 10 Injury  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 13                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 12 Alcohol Poisoning   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 14                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 13 Ultrasound Examination  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 15                  | 2)3)   | The presentation of "Exercise Instructor"<br>Review (words and phrases run-through) |           |        |            | R P<br>A C T | 柳 田   |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | Medical English Clinic /西原俊明 西原真弓 Tony Brown<br>(Cengage Learning) ISBN978-4-86312-154-6   |   |           |        |            |              |   |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特に指定しない  |   |           |        |            |              |   |

|                     |   |                    |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 心理学   |                    |          | 授業コード  | 110086B401 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(1年)  |                    |          | ナンバリング | 2CC112B02  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期               | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 健常児(者)の基本的な心理学的知見を身につけた医療従事者となるために、感覚と知覚、学習、記憶、性格、概念、対人行動、情動についての基本事項を修得する。   |                    |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)心理学とは何か、心理学の歴史を説明できる。<br>2)感覚、知覚に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>3)学習に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>4)記憶に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>5)性格に関する理論を説明できる。<br>6)概念に関する理論を説明できる。<br>7)対人行動に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>8)情動に関する理論を説明できる。 |                    |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |                    |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の授業後の確認シートにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この確認シートの提出を15%、学期末の単位認定試験を85%として、単位認定を行う。  |                    |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり4時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。   |                    |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |                    |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                    |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容               |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 心理学とは、心理学の歴史       |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 2                   | 2)  | 感覚、知覚(1)           |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 3                   | 2)  | 感覚、知覚(2)           |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 4                   | 3)  | 学習(1)              |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 5                   | 3)  | 学習(2)              |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 6                   | 4)  | 記憶(1)              |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 7                   | 4)  | 記憶(2)              |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 8                   | 5)  | 性格(1)              |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 9                   | 5)  | 性格(2)              |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 10                  | 6)  | 概念(1)              |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 11                  | 6)  | 概念(2)              |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 12                  | 7)  | 対人行動(1)            |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 13                  | 7)  | 対人行動(2)            |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 14                  | 8)  | 情動(1)              |          |        |            | 演習           | 内藤        |
| 15                  | 8)  | 情動(2)              |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。講義レジュメを配布する。 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜紹介する。            |          |        |            |              |           |



|                     |  |      |          |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 教育学  |      | 授業コード    | 110057B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 保健科学部(2年)  |      | ナンバリング   | 2CC221B03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 登坂 学(福・福)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義の目的は大きく二つに分けられる。一つは、人間の歴史において教育が果たしてきた役割を理解し、教育が我々の社会にとって必要不可欠なものであることを認識することである。そのうえで二つ目は、医療専門職として、あるいは親として、地域の大人として、自分なりの教育観を形成することである。なぜなら医療の現場において作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士等は様々な年齢層や社会的立場の患者さんと接し、治療やリハビリテーションについて説明したりアドバイスをしたりする。また時には医療の範囲を超えて悩みを打ち明けられることもあるかもしれない。まさに教育者としての一側面を有する職業だと考える。そのためにも「教育とは何か」「人をいかに育てるか」という人類共通の課題に関心を持ち、考えていってほしい。 |      |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人間をとりまく環境を考察するためのさまざまな視点を理解し説明できる。<br>2)教育に関連する諸問題が発生する社会環境や構造を冷静に観察することができ、単純な自己責任論から距離を置きつつ分析・発言することができる。<br>3)ディスカッションやグループワーク、全体発表等の機会を通じて自分の意見を率直に表明できる。さらには他者の意見とすり合わせを行ったうえで建設的議論を行うことができるようになる。<br>4)様々な教育的課題を乗り越えようとする人間の姿を描写した映画やルポルタージュの視聴及び解釈により、上記の「問い」の考察のためのヒントを掴み、自分なりに考えを表明できるようになる。  |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | ○ 担当者はかつて横浜市役所で生涯学習の実務に従事しており、大学及び大学院で専攻した社会教育・生涯学習の専門的知識と併せて実践的な指導が可能である。   |      |          |            |              |           |
| 評価方法                | 2-3時間に1回のペースで提出を求められる個別ワーク課題(50%)＋最終授業で提出を求められる主課題(50%)の合算で判定する。   |      |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 一斉授業に加えて、個人課題及びグループワークやディスカッション等、アクティブラーニング型の授業コンテンツも多いため、何よりも主体的な参加姿勢及び貢献が求められる。なお、毎回最低1時間の予習・復習が必要である。   |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜 12:30-13:00、水曜 12:30-13:00、木曜 12:30-13:00。  |      |          |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業 方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|---------|-----|
| 1  | 1)2)3)      | 自己紹介と授業のオリエンテーション<br>人間の成長と教育(その1)<br>・最初の教育としての「名前」及び「名づけ」に注目し、個別作業・グループ発表・全体発表を通じて自己紹介し、自分の考えを発表できる。<br>・発達段階と教育の関係について知識を理解したうえで、人間の成長にとって不可欠な営みが教育であることを説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 2  | 1)2)3)      | 人間の成長と教育(その2)<br>・世界に目を転じ、発達段階に依拠する教育制度が機能しない事例があることを認識し説明できる。<br>・そこに私たちはどのように関わるか、個別作業やグループディスカッションを通じて教育をめぐる諸問題をグローバルな視点で認識することができ、自分なりに解決策を見出し、それを発表できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 3  | 1)2)3)      | 教育の目的と目標<br>・関係法令に記された「教育の目的と目標」について理解したうえで、我が国の教育政策の基本的な考え方を理解し説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 4  | 1)2)3)      | 理想の教育とは——個人により異なる教育観<br>・国が教育の大綱を決めたとしても、家庭や個人のレベルで「どのような教育が望ましいか」、「子どもをどのように育てたいか」、ということになると、大きな違いが出てくる。個別作業やグループディスカッションを通じて、子ども中心の教育観とはどのようなものかを考え、意見を表明できる。  | 講 義     | 登 坂 |
| 5  | 4)          | 映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その1)<br>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。                                | 視 聴     | 登 坂 |
| 6  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その1)「いじめ」<br>・学校における病理…「いじめの現状」について客観的データを基に事実を認識し、状況を説明できる。<br>・教育病理の根底にあるもの…「ピアプレッシャー」について認識し、説明することができる。<br>・「いじめ」を題材にしたサブカルチャー作品を認識・吟味し、創作者の意図を考え、自分なりの考えを表明できる。                                 | 講 義     | 登 坂 |
| 7  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その2)「いじめ」<br>・いじめが主題のサブカルチャー作品の感想文を皆で共有することにより、社会全体で取り組むべきテーマであることを認識できる。<br>・国や地方自治体(教育委員会)及び各学校はどのようにいじめに対処しようとしているのかを理解したうえで、自分なりの解決策を提言することができる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 8  | 1)2)3)      | 教育の諸原理——「系統主義」と「経験主義」<br>・懐かしい童謡を聴くことで、楽曲が象徴する授業の二つの考え方を直観し、続いてサブノートを活用しつつそれぞれを支える教育観や思想を理解し、自分なりに説明することができる。<br>・二つの立場の長所・短所を踏まえてどちらの教育観により共感を覚えるか SGD を通じて自分恩考えをまとめ、発表することができる。                            | 講 義     | 登 坂 |
| 9  | 1)2)3)      | 人にとって社会規範とは——「生活指導」「校則」の問題<br>・学校における様々な校則を思い出し紹介する中から、校則の教育的意義や問題点を認識でき、子どもにとって真に必要な校則やその決定プロセスの大切さについて自らの見解を表明できる。<br>・生きていく上でのルールを守り、他者と関係性ネットワークを構築することが大人になるための重要なプロセス(社会化)であることを理解したうえで、実際の支援方法を考察できる。 | 講 義     | 登 坂 |
| 10 | 1)2)3)      | 子どもにとって理想の先生とは——私のイチ推し先生<br>・これまでの学校課程で出会った先生のなかで最も思い出に残る先生を思い出し、そこから個別ワーク→グループワーク→全体発表へと進んでいく。  | 視 聴     | 登 坂 |

|                    |        |  |     |     |
|--------------------|--------|--|-----|-----|
|                    |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのなかで子どもが求める良い先生とはどのような先生か、親が求める良い先生とはどのような人物か考えることができ、それをもとに意見交換することができる。</li> <li>・さらにそれを国や地方自治体、つまり社会が求める教員像と比較し、その共通点や相違点等を認識し、説明することができる。</li> </ul>  |     |     |
| 11                 | 4)     | <p>映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その2)</p> <p>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。</p>   | 視 聴 | 登 坂 |
| 12                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その3)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における子どもの人権侵害の最たるものが「虐待」である。公式データを基に虐待をめぐる現状を客観的に把握して説明することができる。</li> <li>・虐待の4類型を理解し、それぞれについて説明できる。</li> <li>・映像資料にて二人の母親の子どもへの接し方を紹介したうえで、各自の感想を相互に発表・意見交換できる。</li> </ul> | 講 義 | 登 坂 |
| 13                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その4)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の内容を引き継ぎ、家庭における虐待を防止するために国や地方ではどのような対策が講じられているのか理解し、それを説明できる。</li> <li>・子どもと虐待の問題を一緒に考えるためにはどのような配慮が必要か理解し、それを説明できる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 14                 | 1)2)3) | <p>医療専門職と生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブノートを使用しつつ生涯学習の重要性を理解し、それを説明できるようになる。</li> <li>・OJTの重要性と自己教育の意識について認識でき、それを説明できる。</li> <li>・自らもまた生涯学習の担い手であることを認識でき、医療専門職としてどのような貢献ができるか、個別作業とSGDを通じて考えを深め、それを発表できる。</li> </ul>   | 講 義 | 登 坂 |
| 15                 | 1)2)3) | <p>授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業を振り返って各自が最も興味を持った内容を記述したうえで相互に発表し、本科目の内容を総括することができる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 特に指定しない。   |     |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 講義において適宜指示する。  |     |     |

|                     |  |      |          |            |              |            |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 運動学  |      | 授業コード    | 120149D201 | 単位数<br>(時間数) | 4<br>(60)  |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |      | ナンバリング   | 21C213P01  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 立石修康(保・作)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 運動器系障害のリハビリテーションに貢献できる作業療法士となるために、テコやベクトル等の力学的知識をもとにして、人間の身体運動、特に筋と関節の運動メカニズムについて理解し、運動器系障害の理解に結びつける基礎を修得する。   |      |          |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)姿勢と重心の関係が説明できる。<br>2)運動の面と軸および関節運動の方向と名称について説明できる。<br>3)関節の基本構造と形態およびその機能について説明できる。<br>4)筋と腱の基本構造と形態およびその機能について説明できる。<br>5)筋収縮によって起こる運動を、テコおよびベクトルの知識を用いて説明できる。<br>6)下肢の関節の運動について説明できる。<br>7)人間の歩行について説明できる。 |      |          |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得)、特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして、上肢や下肢などの運動器のしくみや運動障害について演習を交えながら実践的な授業を行う。  |      |          |            |              |            |
| 評価方法                | 毎授業の終了前15分間を「理解の確認時間」として、SGDおよびノートの整理や質疑応答によるフィードバックを行う。評価は、この確認時間の成果、および授業自体への取り組み姿勢を10%、単位認定試験等を90%として単位認定を行う。なお、単位認定試験の問題の80%程度を受験者本人による自己採点とし、理解度のフィードバックを行う。再試験にあっても、授業自体への取り組み姿勢10%を反映させる。               |      |          |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の授業内容について60程度の予習と復讐を行うこと。<br>骨や筋の触診を行なうので、短パンやTシャツ等の着用をその都度指定する。特に、男子学生には上半身を露出させることがある。何らかの事情で脱衣できない場合は、事前に申し出ること。事情を聴取の上、配慮する。   |      |          |            |              |            |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 13:00~17:00  |      |          |            |              |            |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当   |  |
|--------------------|-------------|--|----------|------|--|
| 1                  | 1)2)        | 【運動学の基礎1】 姿勢と重心の関係を理解する<br>【運動学の基礎2】 運動の面と軸、および関節運動の方向と名称を理解する             | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 2                  | 3)4)        | 【運動学の基礎3】 関節の基本構造とその機能を理解する<br>【運動学の基礎4】 筋と腱の構造と機能を理解する                    | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 3                  | 3)4)5)      | 【運動学の基礎5】 関節形態と、関節に対する筋張力の伝達を理解する<br>【運動学の基礎6】 筋収縮とテコ系の関係を理解する             | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 4                  | 5)5)        | 【運動学の基礎7】 筋収縮の様態についてを理解する<br>【運動学の基礎8】 筋収縮の様態、特に二関節筋についてを理解する              | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 5                  | 3)6)        | 【運動学の基礎9】 関節包内運動についてを理解する<br>【筋・関節各論1】 股関節の屈筋と伸筋についてを理解する                  | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 6                  | 6)6)        | 【筋・関節各論2】 股関節の内転筋と外転筋について理解する<br>【筋・関節各論3】 股関節の内旋筋と外転筋について理解する             | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 7                  | 6)6)        | 【筋・関節各論4】 股関節の関節生理、特に関節形態について理解する<br>【筋・関節各論5】 股関節の関節生理、特に靭帯の機能について理解する    | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 8                  | 6)6)        | 【筋・関節各論6】 股関節の関節生理、特にパウエル理論について理解する<br>【筋・関節各論7】 膝関節の伸筋について理解する            | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 9                  | 6)6)        | 【筋・関節各論8】 膝関節の屈筋について理解する<br>【筋・関節各論9】 膝関節の関節生理、特に関節形態について理解する              | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 10                 | 6)6)        | 【筋・関節各論10】 膝関節の関節生理、特に靭帯の機能について理解する<br>【筋・関節各論11】 膝関節の関節生理、特に自動回旋について理解する  | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 11                 | 6)6)        | 【筋・関節各論12】 足関節の底屈筋と背屈筋について理解する<br>【筋・関節各論13】 足関節の関節生理、特に関節形態について理解する       | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 12                 | 6)6)        | 【筋・関節各論14】 足関節の関節生理、特に靭帯の機能について理解する<br>【筋・関節各論15】 足関節の関節生理、特に安定化機構について理解する | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 13                 | 6)6)        | 【筋・関節各論16】 足部の筋について理解する<br>【筋・関節各論17】 足部の関節生理、特にアーチについて理解する                | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 14                 | 6)7)        | 【筋・関節各論18】 足部の関節生理、特に扁平足について理解する<br>【歩行1】 正常歩行について理解する                     | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 15                 | 7)7)        | 【歩行2】 異常歩行について理解する<br>【歩行3】 歩容分析について理解する                                   | 講義、SGD   | 立石修康 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 基礎運動学第6版(中村 隆一) 医歯薬出版【978-4263211533】                                      |          |      |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない  |          |      |  |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 運動学実習  |      |           | 授業コード  | 120151B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |      |           | ナンバリング | 21C213P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・実習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 運動器系障害のリハビリテーションに貢献できる作業療法士となるために、前期の運動学で学んだ力学的知識をもとに、人間の身体運動、特に上肢の筋と関節の運動メカニズムについて理解し、運動器系の障害理解に結びつける基礎を修得する。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)上肢の関節の運動について説明できる。<br>2)体幹の運動について説明できる。  |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得)、特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして、上肢と体幹の運動器のしくみや運動障害について演習を交えながら実践的な授業を行う。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎授業の終了前15分間を「理解の確認時間」として、SGDおよびノートの整理や質疑応答によるフィードバックを行う。評価は、この確認時間の成果、および授業自体への取り組み姿勢を10%、単位認定試験等を90%として単位認定を行う。なお、単位認定試験の問題の80%程度を受験者本人による自己採点とし、理解度のフィードバックを行う。再試験にあっても、授業自体への取り組み姿勢10%を反映させる。 |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の授業内容について60分程度の予習と復習をおこなうこと。<br>骨や筋の触診を行なうので、短パンやTシャツ等の着用をその都度指定する。特に、男子学生には上半身を露出させることがある。何らかの事情で脱衣できない場合は、事前に申し出ること。事情を聴取のうえ配慮する。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 13:00~17:00  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業方法   | 担当   |
|----|-------------|---|--------|------|
| 1  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肩甲帯の周囲筋について理解する                | 講義、SGD | 立石修康 |
| 2  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肩関節の屈筋と伸筋について理解する              | 講義、SGD | 立石修康 |
| 3  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肩関節の内転筋と外転筋、および内旋筋と外旋筋について理解する | 講義、SGD | 立石修康 |
| 4  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肩関節と肩甲帯の関節生理について理解する           | 講義、SGD | 立石修康 |
| 5  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肘関節の屈筋と伸筋について理解する              | 講義、SGD | 立石修康 |
| 6  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肘関節の関節生理、特に関節構造について理解する        | 講義、SGD | 立石修康 |
| 7  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>肘関節の関節生理、特に靭帯の機能について理解する       | 講義、SGD | 立石修康 |
| 8  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>前腕と手関節の筋について理解する               | 講義、SGD | 立石修康 |
| 9  | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>前腕と手関節の関節生理について理解する            | 講義、SGD | 立石修康 |
| 10 | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>手関節の筋について理解する                  | 講義、SGD | 立石修康 |
| 11 | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>手関節の関節生理について理解する               | 講義、SGD | 立石修康 |
| 12 | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>手の筋について理解する                    | 講義、SGD | 立石修康 |
| 13 | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>手の関節生理について理解する                 | 講義、SGD | 立石修康 |
| 14 | 1)          | 【筋・関節各論1】<br>手の関節生理、特に支配腱膜の構造と機能について理解する    | 講義、SGD | 立石修康 |
| 15 | 2)          | 【筋・関節各論1】<br>体幹の筋について理解する                   | 講義、SGD | 立石修康 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 基礎運動学第6版(中村 隆一) 医歯薬出版 【978-4263211533】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |  |                     |          |            |              |           |    |
|---------------------|--|---------------------|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 人間・運動発達学   |                     | 授業コード    | 121241B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |                     | ナンバリング   | 21C211P01  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)  | 開講学期                | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>作業療法の仕事をするには、治療の対象である人間を理解する必要がある。人間発達学は、人間は発達する存在であるという観点から「人とは何か」、つまり「自分とは何か」を理解しようとする学際的な学問(生物学、生理学、解剖学、発生学、遺伝学、比較行動学などの自然科学の分野の基礎知識と心理学、社会学、分化人類学などの人文科学の分野の基礎知識が含まれる)であるといえる。文理融合の考え方を養い、人間の質的变化のプロセスを体系的に理解する。運動学は人間の運動の科学であり、医学、物理学、心理学、社会学などの多くの学問を統合したものの上に成立している。運動学の基礎的な知識は、医師、理学療法士、作業療法士、体育指導者などにとって必須である。運動機能の発達は、神経系の成熟、骨・関節・筋の運動器の成長、運動学習と密接に関係する。運動機能を中心に正常発達と異常な発達の概要、およびその評価法に関する知識を修得する。</p>  |                     |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体的発達、認知的発達、情緒的・社会的発達について説明できる。</li> <li>2) 発達評価、発達課題論、発達課題について説明できる。</li> <li>3) パーソナリティの発達について説明できる。</li> <li>4) 発達、発達分析、中枢神経系の発生と運動発達、胎児および幼児の運動発達について説明できる。</li> <li>5) 発達診断に必要な原始反射と反応、正常発達：うつ伏せの発達について説明できる。</li> <li>6) 仰向けの発達、ボイタ法、精神遅滞の見つけ方、脳性麻痺の見つけ方について説明できる。</li> <li>7) 正常な反射と反応、それらの異常、GM assessment の意義について説明できる。</li> <li>8) 姿勢制御の機構と立位姿勢の異常について説明できる。</li> <li>9) 歩行とは、歩行の周期性、小児の歩行、高齢者の歩行、歩行の性差と加齢変化について説明できる。</li> <li>10) 異常歩行・歩行障害の診断手引き、移動の動作パターンと時間計測、走行、階段の昇降について説明できる。</li> </ol> |                     |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は小児科医であり、学外で定期的な一般診療のほか小児保健(検診や予防接種)に関する業務を行っている。  |                     |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。   |                     |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で生物学の基礎知識を身につけておくこと。  |                     |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 1:800~19:00  |                     |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |                     |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)   | 乳児・幼児前期の発達①         |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 2                   | 1)3)   | 乳児・幼児前期の発達②         |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 3                   | 1)2)   | 幼児後期の発達①            |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 4                   | 1)2)   | 幼児後期の発達②            |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 5                   | 1)3)   | 学童期の発達①             |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 6                   | 1)2)3)   | 学童期の発達②             |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 7                   | 1)2)3)   | 学童期の発達③             |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 8                   | 1)3)   | 青年期の発達              |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 9                   | 4)   | 運動発達                |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 10                  | 5)   | 乳児の発達のみかた①          |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 11                  | 6)   | 乳児の発達のみかた②          |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 12                  | 7)   | 反射と反応、GM assessment |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 13                  | 8)   | 姿勢                  |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 14                  | 9)   | 歩行と走行①              |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 15                  | 10)  | 歩行と走行②              |          |            |              | 講義        | 園田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しません。             |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しません。             |          |            |              |           |    |

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 内科学   | 授業コード  | 120818B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)  | ナンバリング | 21C212P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 内科学は、臨床医学の基礎をなす。日常診療のなかで頻度の高い疾患と、最近話題になることの多い疾患について、概要、頻度、症候と病態生理、診断、治療と予後の要点を作業療法との関連で理解し、国家試験はもとより、将来の職業で役立つために、内科学の知識を修得する。  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)全身的症状あるいは訴えの生理学的背景と発生機序について説明できる。<br>2)代表的な疾患の診断法を説明できる。<br>3)代表的な疾患につて、その概念、病態、臨床検査、治療法な、予後などについて説明できる。<br>4)免疫・アレルギーについて説明できる。<br>5)各器官・臓器の構造と機能について説明できる。<br>6)ビタミンとビタミン欠乏症につて説明できる。<br>7)血液の成分、性状、機能、造血組織の解剖と生理、血液幹細胞について説明できる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は医師であり、専門は小児科だが、場合によっては内科疾患も診察治療する。   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。  |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で勉強して生物学の基礎知識を身につけておくこと。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 1:800~19:00   |        |            |              |           |

| 授業計画               |               |                   |          |    |  |
|--------------------|---------------|-------------------|----------|----|--|
| 回数                 | SBOs<br>No.   | 授業内容              | 授業<br>方法 | 担当 |  |
| 1                  | 1)            | 臨床医学総論、症候学        | 講義       | 園田 |  |
| 2                  | 1)~3)         | 感染症①              | 講義       | 園田 |  |
| 3                  | 1)~3)         | 感染症②              | 講義       | 園田 |  |
| 4                  | 1)~4)         | 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全① | 講義       | 園田 |  |
| 5                  | 1)~4)         | 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全② | 講義       | 園田 |  |
| 6                  | 1)~<br>3)5)   | 循環器疾患①            | 講義       | 園田 |  |
| 7                  | 1)~<br>3)5)   | 循環器疾患②            | 講義       | 園田 |  |
| 8                  | 1)~<br>3)5)   | 呼吸器疾患①            | 講義       | 園田 |  |
| 9                  | 1)~<br>3)5)   | 呼吸器疾患②            | 講義       | 園田 |  |
| 10                 | 1)~<br>3)5)   | 消化器疾患①            | 講義       | 園田 |  |
| 11                 | 1)~<br>3)5)   | 消化器疾患②            | 講義       | 園田 |  |
| 12                 | 1)~<br>3)5)   | 内分泌疾患             | 講義       | 園田 |  |
| 13                 | 1)~<br>3)5)6) | 代謝性疾患             | 講義       | 園田 |  |
| 14                 | 1)~<br>3)5)7) | 血液・造血疾患           | 講義       | 園田 |  |
| 15                 | 1)~<br>3)5)   | 腎・泌尿器疾患           | 講義       | 園田 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |               | 使用しません。           |          |    |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |               | 使用しません。           |          |    |  |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 整形外科学  |      |           | 授業コード  | 120641b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |      |           | ナンバリング | 21C212P02  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 高齢化社会は一段と進み、骨・関節に関連した運動器疾患は大幅に増加した。一般社会でも、運動器疾患の予防と治療の重要性が認識されるようになった。整形外科学およびリハビリテーションが目指す全人的・現代的医療のキーワードとして locomotive quality of life というのがある。国家試験はもとより、将来的に医療最前線の仕事に従事するのに役立つために、整形外科的知識を修得する。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)骨・軟骨・関節の構造、生化学、病態生理を説明できる。<br>2)診察の基本、検査、治療(保存療法、手術療法)の概要を説明できる。<br>3)主要疾患の概要を説明できる。<br>4)関節の機能解剖、疾患について説明できる。<br>5)骨折と脱臼について説明できる。  |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は医師であり、専門は小児科であるが、救急の場合は整形外科的な処置も行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で勉強して生物学の基礎知識を身につけておくこと。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 18:00~19:00  |      |           |        |            |              |           |

| 授業計画               |             |   |           |     |  |  |  |
|--------------------|-------------|---|-----------|-----|--|--|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授 業<br>方法 | 担 当 |  |  |  |
| 1                  | 1)2)        | 整形外科の基礎科学と総論(正常構造と機能、骨と関節の病態生理、主要症状、診察、検査、治療)   | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 2                  | 2)3)        | 疾患総論(感染症、リウマチおよび類似疾患、慢性関節疾患および類似疾患、血行障害および類似疾患) | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 3                  | 2)3)        | 疾患総論(先天性骨系統疾患、先天異常症候群、代謝性骨疾患、骨・軟骨腫瘍と類似疾患)       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 4                  | 2)3)4)      | 疾患各論:肩関節  | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 5                  | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:肘関節  | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 6                  | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:手関節および手指①                                  | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 7                  | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:手関節および手指②                                  | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 8                  | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:股関節①                                       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 9                  | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:股関節②                                       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 10                 | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:膝関節①                                       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 11                 | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:膝関節②                                       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 12                 | 2)3)<br>4)  | 疾患各論:足関節と足趾                                     | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 13                 | 2)3)<br>5)  | 外傷学:外傷学総論                                       | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 14                 | 2)3)<br>5)  | 外傷学:骨折・脱臼①                                      | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 15                 | 2)3)<br>5)  | 外傷学:骨折・脱臼②                                      | 講 義       | 園 田 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しません。   |           |     |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しません。   |           |     |  |  |  |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 神経内科学  |   |          | 授業コード  | 120621B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |   |          | ナンバリング | 21C211P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)・武居 光雄(非常勤講師)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義 SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 神経内科学は、脳神経や脊髄・末梢神経、筋肉の疾患を専門とする内科です。対象は神経系を侵す身体性疾患のすべてです。身体性疾患のなかには、身体機能の障害のほかに行動や心理過程の障害も含まれます。行動・心理過程に生じた異常のすべてを対象とするのが神経心理学です。現在、リハビリテーションの対象となる方の7割くらいが神経内科疾患といわれます。ですから、リハビリテーションの分野で仕事をする人にとって、神経内科学は避けて通れない学べき科目といえます。国家試験のためでなく、試験を突破したあとも、将来的に医療最前線の仕事に従事するのに役立つために、神経内科的知識を修得しましょう。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病態が説明できる。<br>2)神経疾患の診断、治療、基本的なリハビリテーションについての知識を説明できる。<br>3)各臓器の役割分担について説明できる。<br>4)臓器、組織を構成する細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。<br>5)個々の障害に対する治療の概略とその治療効果を検証するのに適した評価法を説明できる。   |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は小児科医であるが、神経内科疾患を診察する機会もある。武居は内科専門医であり、大分県で自身の病院を経営しており、日々神経内科疾患診療を行っている。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)(園田 60点)、集中講義および学外見学のときの学習への取り組み姿勢と試験の点数(武居 40点)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で勉強して生物学の基礎知識を身につけておくこと。  |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 1:800~19:00  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 序論(障害とリハビリテーションプログラム、中枢神経系の解剖と機能)   |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 2                   | 2)   | 神経学的診断法(神経学的診断と評価、神経学的検査法)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 3                   | 2)   | 神経症候学①(意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神、運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮)   |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 4                   | 2)   | 神経症候学②(錐体外路徴候、不随意運動、運動失調、感覚障害)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 5                   | 2)   | 神経症候学③(高次脳機能障害:失語症、高次脳機能障害:失認)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 6                   | 2)   | 神経症候学④(高次脳機能障害:失行、高次脳機能障害:記憶障害、認知症、高次脳機能障害:注意障害)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 7                   | 2)   | 神経症候学⑤(高次脳機能障害:遂行機能障害構音障害、嚥下障害、脳神経外科領域の疾患)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 8                   | 3)4)5)   | 神経疾患各論①(脳血管障害)  |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 9                   | 3)4)5)   | 神経疾患各論②(認知症、脳腫瘍)  |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 10                  | 3)4)5)   | 神経疾患各論③(外傷性脳損傷、脊髄疾患)  |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 11                  | 3)4)5)   | 神経疾患各論④(変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患)  |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 12                  | 3)4)5)   | 神経疾患各論⑤(末梢神経障害、てんかん、筋疾患)  |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 13                  | 3)4)5)   | 神経疾患各論⑥(感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 14                  | 3)5)5)   | 小児神経疾患、神経疾患に多い合併症(廃用症候群と誤用症候群)  |          |        |            | 講義           | 園田        |
| 15                  | 1)2)   | このリハビリテーションが重要(脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、認知)   |          |        |            | 講義 SGD       | 武居        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 絵でみる脳と神経 第3版-しくみと障害のメカニズム JJN ブックス(馬場 元毅) 医学書院【ISBN】978-4-260-00816-7<br>簡易 神経学 第4版(岩田 誠, 岩田 淳 翻訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル【ISBN】978-4-895-92462-7 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しません。   |          |        |            |              |           |



|                     |   |                   |           |            |              |           |    |
|---------------------|---|-------------------|-----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 小児科学  |                   | 授業コード     | 120563B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)  |                   | ナンバリング    | 21C212P03  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)   | 開講学期              | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 小児の成長と発達に関する基本的事項、成長や発達に問題を有する小児期に頻度の高い疾患(先天異常、先天性代謝異常、代謝・内分泌疾患、新生児疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化管・肝・胆道疾患、血液疾患、悪性腫瘍、腎・泌尿器疾患、精神疾患、感染症など)を中心に、国家試験はもとより将来の職業で役立つために、小児科学の知識を修得する。  |                   |           |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) key age での身体計測値と発達を説明できる。<br>2) 問診・診断のしかた、主要症状と疾患の関係、治療総論の内容、心肺蘇生の方法、診断・治療手技を説明できる。<br>3) 重要疾患の特徴的な症状および検査所見を説明できる。<br>4) 新生児の生理機能の特徴、主要徴候と鑑別診断について説明できる。<br>5) 小児の循環器疾患の血行動態について説明できる。<br>6) 小児の腹部腫瘍の鑑別ができる。<br>7) 気管支喘息は病態から症状、検査所見から説明できる。<br>8) 小児感染症の特徴(感染様式、年齢と起炎菌、季節性など)を説明できる。 |                   |           |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は、小児科医であり、学外で定期的に臨床業務(一般診療、検診、予防接種まど)を行っている。  |                   |           |            |              |           |    |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。  |                   |           |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で生物学の基礎知識を身につけておくこと。   |                   |           |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 18:00~19:00   |                   |           |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |                   |           |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容              |           |            | 授業<br>方法     | 担当        |    |
| 1                   | 1)  | 成長と発達、精神疾患        |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 2                   | 2)  | 栄養、小児保健、小児診断、治療総論 |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 3                   | 2)3)  | 救急疾患と対応、先天異常      |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 4                   | 2)3)  | 先天代謝異常症           |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 5                   | 2)3)4)  | 代謝・内分泌疾患          |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 6                   | 2)3)4)  | 新生児疾患①            |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 7                   | 2)3)5)  | 新生児疾患②            |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 8                   | 2)3)5)  | 循環器疾患①            |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 9                   | 2)3)6)  | 循環器疾患②            |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 10                  | 2)3)  | 呼吸器疾患、消化器・肝・胆道疾患  |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 11                  | 2)3)6)  | 血液疾患              |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 12                  | 2)3)  | 悪性腫瘍、腎・泌尿器疾患      |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 13                  | 2)3)7)  | 神経疾患、運動器疾患        |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 14                  | 2)3)8)  | アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全 |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 15                  | 8)  | 感染症               |           |            | 講義           | 園田        |    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しません。           |           |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しません。           |           |            |              |           |    |

|                     |  |   |            |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 精神医学 I   |   |            | 授業コード  | 120702B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科2年   |   |            | ナンバリング | 21C112P02  | AL 科目        | -         |
| 担当者                 | 中山 広宣(保・作)   | 開講学期  | 2020 年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 精神医療に関する歴史と法律を学ぶことで、精神障害者の処遇を正しく理解すると同時に精神医療の実際を学ぶ。<br>脳の基本的な構造と働き(精神機能)を学ぶことにより、精神疾患の病態を理解する。<br>各種精神疾患の概念、症状、治療を学ぶことで臨床における実践を可能にする。   |   |            |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)精神医療の歴史を学ぶことで精神医療の基本的理念を理解し述べるができる。<br>2)精神病患者に関する法律、福祉、社会支援について述べるができる。<br>3)精神機能の障害と精神症状について概説ができる。<br>4)精神疾患における診断と評価方法(人格テスト、精神症状評価、社会生活技能評価など)について概説できる。<br>5)意思決定(統合機能)、感情(情緒)、記憶を司る脳機能を理解し、概説することができる。<br>6)脳の神経機能、神経伝達物質を概説できる。<br>7)各種精神疾患の成因、症状、治療(薬物療法、精神療法、リハビリテーション)、予後について説明できる。 |   |            |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 精神科病院において常勤職員として12年、非常勤職員として27年(現在に至る)の実務臨床経験をもとに、精神医療の変遷と最新の精神医療を教授する。  |   |            |        |            |              |           |
| 評価方法                | 定期試験及び授業受講態度(小レポートや発表)   |   |            |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習ではテキストを読んで難解な部分を明確にして講義に臨み、復習では資料を必ず読んで理解を深めることに努力してください。最低でも講義の前後にテキスト、資料を黙読することを心がけてください。  |   |            |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間終了後  |   |            |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |            |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |            |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1,2  | 精神医学とは:定義, 特色, 精神障害の概念  |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 2                   | 1,2  | 精神医療の歴史(欧米・日本):中世, 近代, 現代における変遷                               |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 3                   | 2  | 精神医療と法律:精神保健福祉法・医療観察法   |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 4                   | 3,4  | 精神機能について:意識, 知能, 記憶, 感情, 意志, 思考                               |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 5                   | 3,4  | 精神症状について:精神症状の種類と疾患   |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 6                   | 3,4  | 精神疾患の診断と評価:面接, 観察, 心理学的検査, 科学的検査                              |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 7                   | 4,5,6  | 精神機能と脳機能:前頭葉, 側頭葉, 頭頂葉, 後頭葉, 辺縁系                              |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 8                   | 4,5,6,7  | 脳器質性精神障害:アルツハイマー型認知症, 前頭側頭型認知症, レビー小体型認知症, 血管性認知症などの症状と治療, 予後 |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 9                   | 4,7  | 症状性精神障害:代謝性, 膠原病, 内分泌障害による精神障害と治療                             |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 10                  | 4,7  | 精神作用物質の精神障害:アルコール, 薬物などによる精神障害と治療                             |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 11                  | 4,7  | てんかん:てんかんの分類, 発作症状と精神症状, 治療と対応, 予後                            |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 12                  | 4,7  | 神経症性障害:不安神経症, 恐怖症性不安障害, 強迫性障害, ストレス関連障害, 解離性障害, 転換性障害などの症状と治療 |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 13                  | 4,7  | 摂食障害:神経性無食欲症, 神経性大食症の症状と治療.<br>睡眠障害:睡眠障害の種類と治療                |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 14                  | 4,7  | 人格障害:種類と特徴, 治療と対応   |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 15                  | 4,7  | 精神遅滞:精神遅滞の原因, 症状と対応<br>発達障害:特異的発達障害や自閉性スペクトラム障害の症状と対応         |            |        |            | 講 義          | 中 山       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 (ISBN 978-4-260-02434-1)         |            |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版  |            |        |            |              |           |

|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 精神医学Ⅱ  |  |           | 授業コード  | 120703B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |  |           | ナンバリング | 21C211P03  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 中山 広宣(保・作)   | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>授業概要: 1. 精神医学Ⅰに引き続き各種精神疾患(障害)主に内因性精神疾患の成因と症状, 治療とリハビリテーションについて説明する。2. 対象者を理解し, 治療的関係を確立する為に必要な精神分析理論, 支持的療法について説明する。3. 各種精神療法の治療構造を概説することで精神科作業療法の治療構造の理解を促す。</p> <p>一般目標: 近年の社会構造や疾病構造の変化により, 精神的・心理的な障害を持った対象者が増加している。よって本講義の目標は, 各種精神疾患の概念, 症状, 治療を学ぶことで臨床における心構えを確立し, 加えて精神障害者の精神・心理を理解して実践を可能にすることである。</p> |  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種精神疾患の成因を説明できる。</li> <li>2. 各種精神疾患の精神症状を述べることができる。</li> <li>3. 薬物療法について述べるができる。</li> <li>4. 精神療法の種類とその内容を説明できる。</li> <li>5. 精神障害者のリハビリテーションの流れと社会資源を述べるができる。</li> <li>6. 精神科作業療法の治療構造を述べるができる。</li> </ol>   |  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 精神科病院において常勤職員として12年, 非常勤職員として27年(現在に至る)の実務臨床経験をもとに, 精神医療の変遷と最新の精神医療を教授する。  |  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 定期試験及び授業受講態度(小レポートや発表)   |  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習ではテキストを読んで難解な部分を明確にして講義に臨み, 復習では資料を必ず読んで理解を深めることに努力してください。最低でも講義の前後にテキスト, 資料を黙読することを心がけてください。  |  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週の講義前後 30分程度を設定。  |  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1,2,3  | 睡眠障害: 睡眠障害の種類と治療<br>人格障害: 種類と特徴, 治療と対応                                       |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 2                   | 1,2,3  | 精神遅滞: 精神遅滞の原因, 症状と対応<br>発達障害: 特異的発達障害や自閉性スペクトラム障害の症状と対応                      |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 3                   | 1,2,3  | 気分障害: うつ病の症状, 治療と対応<br>躁鬱病の症状, 治療と対応   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 4                   | 1,2,3  | 統合失調症の病型と症状  |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 5                   | 1,2,3  | 統合失調症の病態仮説: 心理学的仮説, 生化学的仮説, 脳科学的仮説   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 6                   | 1,2,3  | 統合失調症の回復過程と治療, 対応, リハビリテーション   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 7                   | 1,2,3,4,<br>5  | 薬物治療: 抗精神病薬, 抗うつ薬, 気分安定薬, 抗てんかん薬, 抗不安薬<br>リハビリテーション: SST, 心理教育, 認知行動療法, デイケア |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 8                   | 4  | 精神分析療法: 意識, 前意識, 無意識, イド, 自我, 超自我, 防衛機制<br>陽性転移, 陰性転移, 逆転移, 抵抗, 行動化, 解釈, 洞察  |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 9                   | 4  | 各種精神療法の治療醸造: 森田療法, 行動療法, 心理劇, 箱庭療法など   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 10                  | 4  | 精神療法の基本: 傾聴, 受容, 共感, 支持  |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 11                  | 2,4  | 疾患別精神療法: 統合失調症, うつ病  |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 12                  | 5,6  | 精神科作業療法の理論背景   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 13                  | 6  | 精神科作業療法の治療構造   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 14                  | 6  | 精神科作業療法の作業活動と治療的意義   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 15                  | 6  | 精神医学, 精神医療のまとめ   |           |        |            | 講 義          | 中山        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院【ISBN 978-4-260-02434-1】<br>精神医学Ⅰと同じ  |  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版   |  |           |        |            |              |           |

| 科目名                 | 老年医学   |  | 授業コード    | 121099B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |       |
|---------------------|--|--|----------|------------|--------------|-----------|-------|
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |  | ナンバリング   | 21C212P04  | AL科目         | ○         |       |
| 担当者                 | 小川 敬之(非常勤講師)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 高齢者に頻度の高い疾病について、正常の解剖と生理ならびに障害のメカニズムとその原因が理解できるようになる。  |  |          |            |              |           |       |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)高齢社会とはどのような社会かを知る<br>2)老年期の特徴を理解できる<br>3)老年期にかかりやすい疾患を理解できる<br>4)老年期の疾患にたいする治療について理解できる<br>5)老年期の医療制度について理解できる |  |          |            |              |           |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士としての長年の経験を活かし、老年期の疾患やその治療法、医療制度等について教授する。   |  |          |            |              |           |       |
| 評価方法                | 定期試験および講義中の口頭試問。   |  |          |            |              |           |       |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 講義をきちんと聴いて予習復習に努めること。1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと   |  |          |            |              |           |       |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間   |  |          |            |              |           |       |
| 授業計画                |  |  |          |            |              |           |       |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |       |
| 1                   | 1), 2)   | 【医学の3要素】<br>3要素を覚えその意味を理解でき、日常生活活動も分析しながら過ごすことができる。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 2                   | 1),<br>2), 5)  | 【日本の医療費と医療保険のシステム】<br>年間の国家予算、総医療費の額を覚えることで何百億、何千億、何兆円という額の多少が判断できるようになる。さらに自分が医療機関に雇った際の金銭の流れが理解できる。            |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 3                   | 2),<br>3), 4)  | 【脳血管障害1】<br>「梗塞」を理解することで出血と梗塞の違いがわかる。随意運動の命令の伝わり方を覚えることによって特有な症状が理解できる。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 4                   | 2),<br>3), 4)  | 【脳血管障害2】<br>臨床例を示しながら診断手順、治療の実際を説明しリハビリに至るまでの過程を伝えることで臨場感が体験できる。   |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 5                   | 2),<br>3), 4)  | 【パーキンソン病】<br>4大症状を絶対として、脳の変性疾患であるパーキンソン病を覚えることで、他の変性疾患も将来同じように理解できるようになる。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 6                   | 2),<br>3), 4)  | 【パーキンソン症候群】<br>DVDを用いてパーキンソン症候群を説明することで、パーキンソン病、パーキンソン症候群の実際が印象づけられ、理解が深まり忘れないようになる。                             |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 7                   | 2),<br>3), 4)  | 【高齢老人の日常生活自立度と認知症度】<br>日常生活自立度のJ1~G2、認知症度I~Mが覚えられる。まだ見たこともない高齢者をこの2つの指標のみで推定できるようになる。<br>【老人性白内障】<br>上記疾病が理解できる。 |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 8                   | 2),<br>3), 4)  | 【炎症と呼吸器1】<br>炎症の5徴候を覚えることにより、その概念が理解できる。<br>空気が肺に入る仕組みがわかり、肺の予備能力が普段の何倍もあることを知る。                                 |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 9                   | 2),<br>3), 4)  | 【呼吸器2】<br>肺炎、結核、喘息、慢性閉鎖性肺疾患、肺がんを理解する。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 10                  | 2),<br>3), 4)  | 【骨折と骨粗しょう症】<br>骨代謝を知り高齢者の骨が折れやすくなっている理由、そのイメージを知る。さらに代表的な3大骨折を覚える。   |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 11                  | 2),<br>3), 4)  | 【糖尿病1】<br>糖尿、血糖値、インスリン、膵臓、細胞でのエネルギー産生の仕組みを理解することによって糖代謝および栄養学の概念がわかる。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 12                  | 2),<br>3), 4)  | 【糖尿病2】<br>糖尿病が糖代謝の異常に基づくものであることがわかり、その合併症、治療が理解できるようになる。<br>【じょくそう・皮膚掻痒症】<br>上記疾病の成因と予防・治療が理解できる。                |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 13                  | 2),<br>3), 4)  | 【循環器1】<br>正常の血液循環を覚え、心不全、虚血性心臓病、弁膜症を理解する。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 14                  | 2),<br>3), 4)  | 【循環器2】<br>不整脈、高血圧、動脈瘤を理解する。<br>【老人性難聴】<br>上記疾患の特徴と対策を覚える。  |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 15                  | 2),<br>3), 4)  | 【消化器疾患】<br>食道、胃、大腸、肝臓の加齢による特徴を癌を中心として学ぶ。   |          |            | 講義・演習        | 小川        |       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 老年医学系統講義テキスト カラー版 日本老年医学会 西村書店 2013【978-4-89013-430-4】   |          |            |              |           |       |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |          |            |              |           |       |

|                     |  |                          |          |        |            |              |           |    |
|---------------------|--|--------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 神経科学特論   |                          |          | 授業コード  | 121456B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年生)  |                          |          | ナンバリング | 21C112P03  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 吉田 健(非常勤講師)  | 開講学期                     | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 神経系の構造や機能について、解剖学、生理学、神経生理学的視点で理解する。まずは、神経系の成り立ちである細胞、神経結合、活動電位などを理解する。その後、末梢神経系・中枢神経系の全体像を把握し、その上で脊髄、脳幹、大脳皮質、大脳基底核、視床、小脳など運動・感覚中枢の機能と構造を学ぶ。さらに、上位中枢と下位中枢の機能と質的な違いに着目し、神経系の階層性について理解することを目標とする。  |                          |          |        |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 神経系の基本的な構成やはたらきについて理解する。<br>2) 神経系の生理的事象について理解する。<br>3) 末梢神経と中枢神経の機能と構造を理解する。<br>4) 脳室や脳脊髄液、髄膜などの機能と構造を理解する。<br>5) 大脳の構造と機能を理解する。<br>6) 小脳の構造と機能を理解する。<br>7) 脳幹の構造と機能を理解する。<br>8) 自律神経系の構造を理解する。<br>9) 自律神経系(交感神経と副交感神経)のはたらきについて理解する。<br>10) 脳神経の構造と機能を理解する。<br>11) 脳内の血管系の支配領域や動脈枝について理解する。<br>12) 運動出力系(主に下行線維)の走行やはたらきについて理解する。<br>13) 感覚入力系(主に上行線維)の走行やはたらきについて理解する。 |                          |          |        |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士として臨床で勤務経験を有する教員が、神経の構造と機能についての基本的な事項から臨床症状との関連性について解説します。  |                          |          |        |            |              |           |    |
| 評価方法                | 筆記試験(80%)、学習ノート(20%)   |                          |          |        |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本講義は、解剖学、生理学の知識を必要とする。そのため、講義に臨むにあたり、関連分野を学習し理解しておかなければならない。予習、復習の方法としてはノート作りを行い、事前・事後学習(各60分を目安に)を行ってもらう。また、講義だけでなく教員への質問、ディスカッションを通して学ぶことが必要となる。   |                          |          |        |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週水曜 15:00~17:00   |                          |          |        |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |                          |          |        |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                     |          |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)   | 授業オリエンテーション/細胞、神経伝達、神経構造 |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 2                   | 2)   | イオンチャネル、活動電位、シナプス伝達      |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 3                   | 3)   | 神経系の構造と機能(末梢神経と中枢神経について) |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 4                   | 4)   | 脳室と脳脊髄液、髄膜               |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 5                   | 5)   | 大脳の構造と機能①                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 6                   | 5)   | 大脳の構造と機能②                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 7                   | 5)   | 大脳の構造と機能③                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 8                   | 6)   | 小脳の構造と機能                 |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 9                   | 7)   | 脳幹の構造と機能①                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 10                  | 7)   | 脳幹の構造と機能②                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 11                  | 8)9)   | 自律神経の構造と機能               |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 12                  | 10)  | 脳神経の構造と機能                |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 13                  | 11)  | 脳の血管の構造と機能               |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 14                  | 12)  | 神経系の伝導路(運動出力系:錐体路など)     |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 15                  | 13)  | 神経系の伝導路(感覚入力系)           |          |        |            |              | 講義        | 吉田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖(第2版)(監訳:坂井 建雄/河田 光博) 医学書院【978-4-260-01441-0】<br>生理学テキスト 第7版(大地 陸男)文光堂【978-4-8306-0226-9】<br>病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 メディックメディア【978-4-89632-686-4】  |                          |          |        |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 解剖学アトラス 原著第10版(平田 幸男)文光堂【978-4-8306-0036-4】  |                          |          |        |            |              |           |    |

|                     |  |      |              |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | リハビリテーション医学  |      |              | 授業コード  | 120088B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科 2年  |      |              | ナンバリング | 21C211P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 福本 安甫(非常勤講師)、武居<br>光雄(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | リハビリテーション医学では外科手術や薬物療法では順調な社会復帰ができない場合に、機能訓練や福祉機器などを利用して社会復帰を支援する。2001年にWHOで国際生活機能分類(ICF)が採択され、それまで障害というマイナス面だけに注目していたが生活機能というプラス面に注目するように大きく変化した。本講義では日常生活や社会生活を困難にする障害の中でも、とくに小児疾患、整形疾患、中枢疾患、内部疾患についてのリハビリテーションについて教授する。 |      |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)リハビリテーションの意味について説明できる<br>2)障害について理解できる(ICFの理解)。<br>3)リハビリテーション医療の提供・方法論について説明できる。<br>4)リハビリテーションで関わる具体的な疾患について説明できる。   |      |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 医師、作業療法士としての経験に基づき授業を展開する。   |      |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | レポート課題、期末試験などを総合して評価する。  |      |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 集中講義で行われることが多いので、講義の日程などに注意しておくこと。1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。   |      |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 授業前後の可能な時間   |      |              |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方法 | 担 当 |  |  |  |
|--------------------|-------------|--|-----------|-----|--|--|--|
| 1                  | 1)          | 【リハビリテーション医学総論1】<br>リハビリテーションの理念と組織を学ぶ。  | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 2                  | 1)          | 【リハビリテーション医学総論2】<br>リハビリテーション医学とは何かを学ぶ。  | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 3                  | 1)2)        | 【リハビリテーション医学総論3】<br>障害学:障害の科学的研究について学ぶ。  | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 4                  | 1)2)        | 【リハビリテーション医学総論4】<br>基礎学(運動学)を学ぶ。   | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 5                  | 1)2)        | 【リハビリテーション医学総論5】<br>基礎学(機能回復の生理学)を学ぶ。  | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 6                  | 2)3)        | 【リハビリテーション医学総論6】<br>基礎学(運動治療学)を学ぶ。   | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 7                  | 2)3)        | 【リハビリテーション医学の実際】<br>目標志向的アプローチについて学ぶ。  | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 8                  | 2)3)        | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション診断学について学ぶ。  | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 9                  | 2)3)        | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。  | 講 義       | 武 居 |  |  |  |
| 10                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(リウマチ)  | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 11                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(パーキンソン)  | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 12                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(神経難病1)   | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 13                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(神経難病2)   | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 14                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(認知症・精神1)   | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 15                 | 2)3)4)      | 【リハビリテーション医学の実際】<br>リハビリテーション治療学について学ぶ。(認知症・精神2)   | 講 義       | 福 本 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 福本:リハビリテーション総論改訂第2版(椿原彰夫) 診断と治療社【978-4-7878-1880-5】<br>武居:目でみるリハビリテーション医学[第2版](上田敏) 東京大学出版会【978-4-13-062402-2】 |           |     |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | なし   |           |     |  |  |  |

|                     |   |                               |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | レクリエーション論   |                               |           | 授業コード  | 120102B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)  |                               |           | ナンバリング | 21C222P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 樋口博之(保健・作業)   | 開講学期                          | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・実技     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>作業療法の領域は、身体障害、発達障害、精神障害の三つに分類され、老年期認知症は第四の領域と考えられている。また、高齢化が進む日本においては心身ともに健康な高齢者づくりが重要となっている。本授業では、レクリエーションに関する基礎理論を学び、レクリエーション演習を行う。</p> <p>コミュニケーション能力とレクリエーション・リーダーとしての積極性を高めることを目標とする。</p> |                               |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)レクリエーション活動の基礎と応用について学ぶ。</p> <p>2)参加者が楽しく活動できる雰囲気をつくることができる。(コミュニケーション・ワーク)</p> <p>3)安全面に配慮し、対象者に合わせたレクリエーション活動の指導ができる。</p>   |                               |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |                               |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業態度、レポート、実技テストにより総合的に評価する。   |                               |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>体育館利用時には、運動に適した服、室内用シューズを着用すること。屋外またレクリエーション・ルームで授業を行うこともある。</p> <p>コミュニケーション・ワーク(4回)とレクリエーション・ワーク(4回)の準備として、計4時間の準備学習を行い、グループごとにレポートを提出すること。</p> <p>※レクリエーション・インストラクターを取得する学生は必修となります。</p>    |                               |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火曜日 12:30~13:30 研究室 ※前年度と時間割が変更となった場合、オフィスアワーも変更するかもしれません   |                               |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                               |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                       |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | レクリエーションの概論①                  |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 2                   | 1)  | レクリエーションの概論②                  |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 3                   | 2)  | レクリエーション支援の方法①【コミュニケーション・ワーク】 |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 4                   | 2)  | レクリエーション支援の方法②【コミュニケーション・ワーク】 |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 5                   | 2)  | レクリエーション支援の方法③【コミュニケーション・ワーク】 |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 6                   | 2)  | レクリエーション支援の方法④【コミュニケーション・ワーク】 |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 7                   | 1)  | レクリエーション支援の理論①                |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 8                   | 1)  | レクリエーション支援の理論②                |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 9                   | 3)  | レクリエーション活動の習得①【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 10                  | 3)  | レクリエーション活動の習得②【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 11                  | 3)  | レクリエーション活動の習得③【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 12                  | 3)  | レクリエーション活動の習得④【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 13                  | 3)  | レクリエーション活動の習得⑤【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 14                  | 3)  | レクリエーション活動の習得⑥【実技】            |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 15                  | 1)2)<br>3)  | 総 括                           |           |        |            | 講義・実技        | 樋 口       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 授業時に連絡します。  |                               |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | ※必ずしも購入する必要はない<br>レクリエーション支援の基礎、(財)日本レクリエーション協会   |                               |           |        |            |              |           |

|                     |   |                        |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | レクリエーション演習  |                        |          | 授業コード  | 121127A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |                        |          | ナンバリング | 21C321P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 樋口 博之(保・作)  | 開講学期                   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | レクリエーションとは娯楽や気晴らしの意味をもち、その内容はスポーツ、ネイチャー、カルチャー、福祉の4つに日本レクリエーション協会では分類している。作業療法士は、臨床現場で障害者を対象としたレクリエーション活動を行う機会がある。本授業では、個人・集団に対してレクリエーション指導が行えるように実習することを目的とする。<br>主に、室内で行うレクリエーションをグループごとに企画し、実施する。 |                        |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)参加者が楽しく活動できる雰囲気をつくることのできるレクリエーション活動の知識を習得する<br>2)目的に合わせたレクリエーション・プログラムを作成することができる<br>3)対象者の特徴を理解した上で、安全面に配慮し、レクリエーション活動の指導ができる  |                        |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |                        |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業態度、レポートにより総合的に評価する。   |                        |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 体育館利用時には、運動に適した服、室内用シューズを着用すること。屋外またレクリエーション・ルームで授業を行うこともある。<br>※レクリエーション・インストラクターを取得する学生は必修となります。  |                        |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火曜日 12:30～13:30 研究室 ※前年度と時間割が変更となった場合、オフィスアワーも変更するかもしれません   |                        |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                        |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | レクリエーション事業論①           |          |        |            | 講義・演習        | 樋 口       |
| 2                   | 1)  | レクリエーション事業論②           |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 3                   | 2)  | レクリエーション支援演習①          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 4                   | 2)  | レクリエーション支援演習②          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 5                   | 1)  | レクリエーション事業論③           |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 6                   | 1)  | レクリエーション事業論④           |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 7                   | 2)  | レクリエーション支援演習③          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 8                   | 2)  | レクリエーション支援演習④          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 9                   | 2)  | レクリエーション支援演習⑤          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 10                  | 3)  | レクリエーション支援演習⑥          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 11                  | 3)  | レクリエーション支援演習⑦          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 12                  | 3)  | レクリエーション支援演習⑧          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 13                  | 3)  | レクリエーション支援演習⑨          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 14                  | 3)  | レクリエーション支援演習⑩          |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 15                  | 1)2)3)  | 総括【臨床実習にレクリエーションを活用する】 |          |        |            | 講義・実技        |           |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 授業時に紹介する               |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 授業時に紹介する               |          |        |            |              |           |



|                     |   |   |          |            |              |               |
|---------------------|---|---|----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 作業療法研究法   |   | 授業コード    | 120411A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年次)   |   | ナンバリング   | 21C311P01  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1. 作業療法に関連する研究の必要性について説明することができる。<br>2. 研究デザイン(主に臨床研究)について説明できる。<br>3. 自身の興味・関心を研究テーマに昇華できる。<br>4. 自身の考案した研究テーマにもとづいて研究計画書を作成することができる。  |   |          |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究の意義を理解し説明できる。また、研究の流れを理解し説明できる。<br>2) 文献レビューの目的と方法を理解し、説明できる。<br>3) 文献を収集しレビューできる。<br>4) 事例研究の目的と方法を理解し、その特徴を説明できる。<br>5) 調査的研究の目的と方法を理解し、その特徴を説明できる。<br>6) 実験的研究の目的と方法を理解し、その特徴を説明できる。<br>7) シングルケース実験法の目的と方法を理解し、説明できる。<br>8) 文献的研究の目的と方法を理解し、その特徴を説明できる。<br>9) 文献レビューの基づいて自身の研究テーマを立案し、研究計画書を作成できる。 |   |          |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法や神経科学に関する学会・論文発表経験や、九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学教室 共同研究員(H30～)としての研究実績に基づき、研究の基本知識から研究計画立案までを修得できる授業を行う。   |   |          |            |              |               |
| 評価方法                | 講義内で実施する理解度テスト(10%)、課題(30%)、研究計画書(60%)で評価する。  |   |          |            |              |               |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 教科書や各自で収集した論文などを事前に読み、1時間程度予習すること。また常日頃から関心のあるテーマに関する論文を収集し、精読すること。   |   |          |            |              |               |
| オフィスアワー             | 木曜日 14:00～17:00   |   |          |            |              |               |
| 授業計画                |   |   |          |            |              |               |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |          |            | 授業<br>方法     | 担当            |
| 1                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定①】 研究疑問から、研究テーマについて考えることができる。                |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 2                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定②】 研究テーマの細部について検討できる。                        |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 3                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定③】 研究テーマの細部の修正ができる。                          |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 4                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定④】 研究テーマの絞り込みができる。                           |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 5                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索①】 文献レビューについて理解し、説明できる。                |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 6                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索①】 文献レビューについて理解し、説明できる。                |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 7                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索③】 文献を読み、内容を理解・整理できる。                  |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 8                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索④】 文献の内容をカード化できる。                      |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 9                   | 4)5)6)  | 【研究方法の検討①】 研究の意義について理解し、説明できる。                        |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 10                  | 4)5)6)  | 【研究方法の検討②】 研究疑問について理解し、説明できる。                         |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 11                  | 4)5)6)  | 【研究方法の検討③】 仮説について理解し、説明できる。                           |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 12                  | 4)5)6)  | 【研究方法の検討④】 実験的研究について理解し、説明できる。                        |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 13                  | 7)8)  | 【研究方法の検討⑤】 記述的研究について理解し、説明できる。                        |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 14                  | 7)8)9)  | 【研究計画①】 研究プロトコルについて理解し、説明できる。                         |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 15                  | 7)8)9)  | 【研究計画②】 研究計画を考案できる。                                   |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | PT・OTのための臨床研究はじめての一步(山田 実編)羊土社(ISBN978-4-7581-0216-2) |          |            |              |               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特になし。   |          |            |              |               |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 管理運営学   |      |          | 授業コード  | 120238A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(15) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |      |          | ナンバリング | 21C421P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 福本 安甫(非常勤講師)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 円滑かつ効果的な作業療法の施行にあたって職場環境の整備は重要な要素となることから、環境整備に必要な人的・物的な管理に加えリスク管理あるいは自己管理などを含めて、管理運営に関する基礎知識を修得する。  |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)組織構成員としての役割を説明できる。<br>2)管理・運営の意味することを説明できる。<br>3)環境整備について説明できる。<br>4)リスク管理とその対応について説明できる。<br>5)社会人として・医療従事者としての倫理的配慮を説明できる。<br>6)自己管理と自己研鑽の必要性を説明できる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士として臨床で勤務経験を有する教員が、作業療法士としての職業倫理や管理運営の考え方について具体的事例を通じて解説します。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学期末に行う単位修得試験によって評価する。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1回の授業につき4時間程度の予習復習を行うこと。毎回の授業内容に合わせて、作業療法士としての態度について考え、まとめておくとともに必ず「質問を準備」しておくこと。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 授業前後の可能な時間  |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|---|------------|-----|
| 1  | 1)          | 科目の概要と目的の説明。<br>作業療法の役割と職域、組織の成り立ちとマネジメント<br>組織とそれを構成する構成員の役割について考える。 | 講 義        | 福 本 |
| 2  | 1)2)        | 作業療法業務のマネジメント<br>作業療法部門における人的・物的管理について考える。                            | 講 義        | 福 本 |
| 3  | 2)3)        | 作業療法業務のマネジメント<br>作業療法部門の円滑な運営とそれに必要な環境整備を理解する。                        | 講 義        | 福 本 |
| 4  | 4)          | 医療安全のマネジメント<br>医療事故と作業療法におけるリスク管理およびその対応について考える。                      | 講 義        | 福 本 |
| 5  | 5)          | 医療サービスのマネジメント<br>社会人としての礼節と接遇を理解する。                                   | 講 義        | 福 本 |
| 6  | 5)6)        | 作業療法をとりまく諸制度<br>作業療法と診療報酬の関係を理解し、医療従事者としての責任と義務について考える。               | 講 義        | 福 本 |
| 7  | 5)6)        | 作業療法士の職業倫理<br>臨床における倫理的諸問題と自己研鑽の必要性について理解する。                          | 講 義        | 福 本 |
| 8  | 1)~6)       | 作業療法臨床実習の理解と管理体制<br>まとめと臨床対応への基本態度を理解する。                              | 講 義        | 福 本 |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |
|    |             |   |            |     |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 作業療法管理学入門(大庭潤平 編著)医歯薬出版【978-4-263-26568-0】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                       |  |  |            |        |            |              |           |
|-----------------------|--|--|------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                   | 作業療法評価 I   |  |            | 授業コード  | 121534B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)              | 作業療法学科(2 年次)   |  |            | ナンバリング | 21C211P05  | AL 科目        | ○         |
| 担当者                   | 田中 睦英(保・作)   | 開講学期   | 2020 年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)   | 評価の概要について理解できる。面接や観察などから得られる情報の種類を理解し、作業療法士としての評価技術や体動を学ぶ。また、評価結果を解釈、統合を事例を用いて理解する。<br>記録や報告の意義と特徴について、SOAP 形式のノートを作成する中で理解する。   |  |            |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)        | 1) 作業療法評価の目的と意義を説明できる。<br>2) 面接の目的を説明できる。<br>3) 面接者としての技法、態度について説明できる。<br>4) 観察の目的を説明できる。<br>5) 観察者としての技術、態度について説明できる。<br>6) 面接や観察、情報収集から得られる情報について説明できる。<br>7) 記録と報告の違いを説明できる。<br>8) 記録と報告の内容を説明できる。<br>9) 関節可動域 (ROM) のデータを読み、ROM の観点からの障害像を考察できる。<br>10) 生活行為向上マネジメント (MTDLP) について概要が説明できる。 |  |            |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育    | 身体障害分野と老年期分野における作業療法士としての臨床経験を活かし、作業療法評価の意義と臨床的思考過程の基礎を理解できるよう、事例検討を交えながら学習を進める。   |  |            |        |            |              |           |
| 評価方法                  | 筆記試験 (80%)、課題 (20%) で評価する。   |  |            |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等      | 本講義を受講するに当たって、あらかじめ解剖学や生理学の事前学習を必要とする。本講義では、座学のみでなく、グループワークなどの演習を行う。各自予習したことや学んだことを基に、ディスカッションし、理論的思考を養ってもらう。また、講義の予習と復習毎回 1 時間程度行い、評価学のノート作成を行ってもらう。  |  |            |        |            |              |           |
| オフィスアワー               | 毎週木曜日 14:00~17:00  |  |            |        |            |              |           |
| 授業計画                  |  |  |            |        |            |              |           |
| 回数                    | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |            |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                     | 1)   | 講義オリエンテーション、評価の意義と目的                                   |            |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 2                     | 1)   | 評価の過程 (評価過程の考え方、評価過程の展開)                               |            |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 3                     | 2)3)   | 作業療法面接の目的と手法を学習する。                                     |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 4                     | 4)5)   | 観察評価の目的と手法を学習する。                                       |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 5                     | 6)   | 【情報収集①】カルテ情報の収集方法を理解する。                                |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 6                     | 6)   | 【情報収集②】他部門情報の収集方法を理解する。                                |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 7                     | 7)8)   | 【記録・報告】SOAP による記録方法を理解する (Subjective / Objective data) |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 8                     | 7)8)   | 【記録・報告】SOAP による記録方法を理解する (Assessment / Plan)           |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 9                     | 7)8)   | 【記録・報告】演習課題を通じて SOAP による記録方法を修得する。                     |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 10                    | 9)   | 【解釈と統合①】関節可動域 (ROM) 検査のデータの結果から活動・参加で生じる問題を考察する。       |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 11                    | 9)   | 【解釈と統合②】関節可動域 (ROM) 検査のデータを心身機能的観点から解釈する。              |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 12                    | 9)   | 【解釈と統合③】活動・参加と心身機能との因果関係を可視化する。                        |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 13                    | 9)   | 【解釈と統合④】活動・参加における問題点と心身機能の問題点を統合・解釈する。                 |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 14                    | 10)  | 【生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論①】MTDLP の概要を理解する。              |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 15                    | 10)  | 【生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論②】MTDLP を用いた臨床的思考過程を理解する。      |            |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 教科書 (著者名) 出版社名 [ISBN] | 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 (岩崎 テル子) 医学書院 【978-4260267137】<br>ベッドサイドの神経の診かた 改訂 17 版 (田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦) 南山堂 【978-4525247171】  |  |            |        |            |              |           |
| 参考書 (著者名) 出版社名 [ISBN] | 特になし   |  |            |        |            |              |           |

|                            |  |                                      |          |        |            |              |           |
|----------------------------|--|--------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 作業療法評価Ⅲ  |                                      |          | 授業コード  | 121457B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)                   | 作業療法学科(3年生)  |                                      |          | ナンバリング | 21C311P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 田中 睦英(保・作)、内勢 美絵子<br>(保・作)、江口喜久雄(保・作)、中<br>田 富久(保・作)   | 開講学期                                 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必 須        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 作業療法評価において身体障害領域、発達障害領域、精神障害領域の対象者の評価ができればようになるため各領域ごとの評価に関する知識、技術を修得する。   |                                      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | ①脳血管障害患者の動作の特徴と評価との関連性について説明できる。<br>②脳血管障害患者の評価(FMA, SIAS)の特徴について説明できる。<br>③脳血管障害患者のADL評価におけるOTの関わりを説明できる。<br>④発達過程作業療法における資料・情報収集の方法、必要となる情報項目、収集の理由について説明できる。<br>⑤発達過程作業療法における面接の方法、ポイントになる点、注意点をあげることができる。<br>⑥発達過程作業療法における観察の方法、ポイントになる点、注意点をあげることができる。<br>⑦発達過程作業療法で用いる評価項目を列挙し、評価内容を説明できる。<br>⑧内部障害の作業療法評価を実践できる。<br>⑨精神科における作業療法の評価を説明し、実践することができる。<br>⑩精神科領域における老年期作業療法の評価を説明し、実践することができる。 |                                      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 各領域(身体障害・精神障害・発達障害・老年期)における臨床経験に基づき、既習の領域共通評価と領域特異的評価について学習し、臨床評価実習に必要な水準の技術・知識の習得ができるよう、講義を実施する。<br>筆記試験(80%)、演習レポートなど(20%)   |                                      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 本講義では、作業療法の各領域ごとの評価に関する知識、技術を学ぶ。そのため、作業療法評価Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や各講義毎に提示される予習のポイントを予習(60分程度)すること。また、講義中のノートや資料を参考に復習(60分程度)を必ず行うこと。  |                                      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 講義時間以外の在室中   |                                      |          |        |            |              |           |
| 授業計画                       |  |                                      |          |        |            |              |           |
| 回数                         | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                              |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                          | ⑧  | 内部障害の評価①:運動耐容能評価                     |          |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 2                          | ⑧  | 内部障害の評価②:呼吸器・循環器障害のフィジカルアセスメント       |          |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 3                          | ⑧  | 内部障害の評価③:事例検討                        |          |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 4                          | ④⑤   | 発達過程作業療法の評価① 資料・情報収集、面接              |          |        |            | 講義・SGD       | 内 勢       |
| 5                          | ⑥  | 発達過程作業療法の評価② 観察                      |          |        |            | 講義・SGD       | 内 勢       |
| 6                          | ⑦  | 発達過程作業療法で用いる評価法① 身体評価、ADL評価          |          |        |            | 講義・SGD       | 内 勢       |
| 7                          | ⑦  | 発達過程作業療法で用いる評価法② 全般的発達評価、知覚・認知評価、社会性 |          |        |            | 講義・SGD       | 内 勢       |
| 8                          | ⑨⑩   | 精神科作業療法における評価について                    |          |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 9                          | ⑨⑩   | 精神科作業療法における疾患別評価について                 |          |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 10                         | ⑨⑩   | 精神科領域における老年期作業療法の評価について①             |          |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 11                         | ⑨⑩   | 精神科領域における老年期作業療法の評価について②             |          |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 12                         | ①②<br>③  | 脳血管障害の評価① 基本肢位と動作の特徴                 |          |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 13                         | ①②<br>③  | 脳血管障害の評価② FMA, SIAS                  |          |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 14                         | ①②<br>③  | 脳血管障害の評価③ ADLにおける評価                  |          |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 15                         | ①②<br>③  | 脳血管障害の評価④ 動作分析                       |          |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】         | 標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版(能登真一他)医学書院【978-4-260-03003-8】   |                                      |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】         | ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦)南山堂【978-4525247171】<br>MMT-頭部・頸部・上肢(PT・OTのための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一、仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903134】<br>MMT-体幹・下肢(PT・OTのための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一、仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903141】   |                                      |          |        |            |              |           |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 機能代償 I   |   |          | 授業コード  | 121467A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 21C311P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 四肢切断のリハビリテーションに貢献できる作業療法士となるために、機能を補う方法としての義手と義足の種類と構造および適応について理解し、特に義手については、そのチェックアウトおよび訓練方法を修得する。  |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 切断の術式や断端の成熟の概要を理解・説明できる。<br>2) 義肢や装具のバイオメカニクスの概要を理解・説明できる。<br>3) 義足について説明できる。<br>4) 義手について説明できる。<br>5) 義手のチェックアウトについて説明できる。<br>6) 筋電義手について説明できる。  |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得)、特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして、義手や義足について実践的に授業する。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 毎授業の終了前15分間を「理解の確認時間」として、SGDおよびノートの整理や質疑応答によるフィードバックを行う。評価は、この確認時間の成果、および授業自体への取り組み姿勢を10%、単位認定試験等を90%として単位認定を行う。なお、単位認定試験の問題の80%程度を受験者本人による自己採点とし、理解度のフィードバックを行う。再試験にあっても、授業自体への取り組み姿勢10%を反映させる。 |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の授業内容について、60分程度の予習と復習を行うこと。  |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日の13時～17時  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 切断の術式や断端の成熟の概要                                    |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 2                   | 2)   | 義肢や装具のバイオメカニクスの概要                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 3                   | 3)   | 義足のうち、大腿義足についてその構造                                |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 4                   | 3)   | 義足のうち、下腿義足についてその構造                                |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 5                   | 3)   | 義足のうち、下腿義足、特にPTBソケットについてその構造                      |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 6                   | 4)   | 前腕義手のコントロールシステムについて                               |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 7                   | 4)   | 上腕義手のコントロールシステムについて                               |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 8                   | 4)   | 肩義手の構造と操作方法について                                   |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 9                   | 4)   | 上腕義手の構造と操作方法について説明できる                             |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 10                  | 4)   | 前腕義手の構造と操作方法について説明できる                             |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 11                  | 4)   | 特にミュンスターとノースウェスタンソケットについて説明できる                    |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 12                  | 5)   | 上腕義手のチェックアウトについて説明できる                             |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 13                  | 5)   | 前腕義手のチェックアウトについて説明できる                             |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 14                  | 5)   | 上腕義手と前腕義手の操作エクササイズを実践できる                          |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 15                  | 6)   | 筋電義手の構造と操作方法について説明できる                             |          |        |            | 講義、SGD       | 立石        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 義肢装具学(川村 次郎・陳 隆明 他) 医学書院【ISBN-13: 978-4260005104】 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない   |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |           |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 機能代償Ⅱ   |      | 授業コード     | 121468A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |      | ナンバリング    | 21C312P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 機能障害に陥った四肢や体幹を支持したり修正したりする方法として装具がある。本授業では、上肢装具・下肢装具・体幹装具の種類と構造および適応について学び、その臨床応用を習得する。さらに、作業療法士の装具療法として重要なスプリント作成を修得する。  |      |           |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)装具の概要について説明できる。<br>2)体幹装具について説明できる。<br>3)下肢装具について説明できる。<br>4)上肢装具について説明できる。<br>5)スプリントを制作できる。   |      |           |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得)、特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして、上下肢や体幹の装具について実践的に授業する。   |      |           |            |              |           |
| 評価方法                | 毎授業の終了前15分間を「理解の確認時間」として、SGDおよびノートの整理や質疑応答によるフィードバックを行う。評価は、この確認時間の成果、および授業自体への取り組み姿勢を10%、および単位認定試験等を90%として単位認定を行う。<br>なお、単位認定試験の問題の80%程度を受験者本人による自己採点とし、理解度のフィードバックを行う。<br>再試験にあっても、授業自体への取り組み姿勢10%を反映させる。 |      |           |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の授業内容について、60分程度の予習と復習をおこなうこと。   |      |           |            |              |           |
| オフィスアワー             | 研究室にて、毎週金曜日 13:00~17:00   |      |           |            |              |           |

| 授業計画 |             |                               |          |    |  |  |
|------|-------------|-------------------------------|----------|----|--|--|
| 回数   | SBOs<br>No. | 授業内容                          | 授業<br>方法 | 担当 |  |  |
| 1    | 1)          | 装具の概要                         | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 2    | 2)          | 体幹装具の種類と構造                    | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 3    | 2)          | 頸椎装具、特にフィラデルフィアカラーやハロー装具      | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 4    | 2)          | 体幹装具、特にミルウォーキー装具やボストン装具の構造と適応 | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 5    | 3)          | 下肢装具の構造と機能                    | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 6    | 3)          | 長下肢装具の構造と機能                   | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 7    | 3)          | 短下肢装具の構造と機能                   | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 8    | 4)          | 肩装具の構造と機能                     | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 9    | 4)          | 肩装具、特にBFOの構造と機能               | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 10   | 4)          | 肘装具の構造と機能                     | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 11   | 4)          | 手の装具、特に手関節背屈スプリントの構造と機能       | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 12   | 4)          | 手の装具、特に対立スプリントの構造と機能          | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 13   | 4)          | 手の装具、特に拘縮矯正スプリントの構造と機能        | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 14   | 4)          | 手の装具、特にフレクサーヒンジスプリントの構造と機能    | 講義・SGD   | 立石 |  |  |
| 15   | 4)          | スプリント制作                       | 講義・SGD   | 立石 |  |  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 義肢装具学(川村 次郎・陳 隆明 他) 医学書院 【978-4-260-00510-4】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。                                       |

|                     |  |  |          |            |              |               |
|---------------------|--|--|----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 日常生活活動技能 I   |  | 授業コード    | 121312A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |  | ナンバリング   | 21C211P06  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 田中睦英(保・作)  | 開講学期                                     | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1年次に学習した日常生活の基本的な知識を整理し、専門的知識に統合する。特に日常生活を支援する専門家として求められる評価の視点と方法を修得することを目的とする。  |  |          |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 日常生活活動の概念と定義について説明できる。<br>2) 国際生活機能分類(ICF)における日常生活活動の位置づけと関連性について説明できる。<br>3) 日常生活活動の評価法について説明できる。<br>4) ADL(主にセルフケア)の評価の視点と介入について説明できる。<br>5) 日常生活関連活動(IADL)の評価の視点と介入について説明できる。<br>6) 自助具の種類と適用について説明できる。<br>7) 住環境と様々な支援機器について説明できる。<br>8) コミュニケーションとその障害について説明できる。<br>9) 機能的自立度評価法(FIM)の基本を理解し採点できる。 |  |          |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 現在も作業療法士として臨床活動を実践している教員が、事例を交えながら日常生活活動の基本的概念や評価法を指導する。   |  |          |            |              |               |
| 評価方法                | 筆記試験(90%)、確認テスト(10%)   |  |          |            |              |               |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 分からないことや疑問点は積極的に質問すること。1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。  |  |          |            |              |               |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 14:00~17:00  |  |          |            |              |               |
| 授業計画                |  |  |          |            |              |               |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                     |          |            | 授業<br>方法     | 担当            |
| 1                   | 1)   | 日常生活活動の概念と作業療法の役割(概念と範囲)について理解する。        |          |            | 講義           | 田中            |
| 2                   | 1)   | 日常生活活動の概念と作業療法の役割(ADLの成り立ちとOT)について理解する。  |          |            | 講義           | 田中            |
| 3                   | 2)   | 国際生活機能分類(ICF)の概略と日常生活活動との関連について理解する。     |          |            | 講義           | 田中            |
| 4                   | 3)4)   | ADLの評価の視点と介入について理解する①(機能的移動・食事・排泄)       |          |            | 講義           | 田中            |
| 5                   | 3)4)   | ADLの評価の視点と介入について理解する②(更衣・整容・入浴)          |          |            | 講義           | 田中            |
| 6                   | 3)5)   | IADLの評価の視点と介入について理解する①(炊事・掃除・洗濯)         |          |            | 講義           | 田中            |
| 7                   | 3)5)   | IADLの評価の視点と介入について理解する②(買い物・家屋管理・維持・経済管理) |          |            | 講義           | 田中            |
| 8                   | 6)   | 自助具の概念と目的・選定の考え方について理解する。                |          |            | 講義           | 田中            |
| 9                   | 6)   | 自助具制作のポイント・自助具の種類について理解する。               |          |            | 講義           | 田中            |
| 10                  | 7)   | 日常生活を支援する機器と住環境整備の基礎について理解する。            |          |            | 講義           | 田中            |
| 11                  | 8)   | コミュニケーションとその障害・評価と支援方法について理解する。          |          |            | 講義           | 田中            |
| 12                  | 3)9)   | 機能的評価法(FIM)①:特徴と概要について理解する。              |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 13                  | 3)9)   | 機能的評価法(FIM)②:運動項目の概要と採点基準を理解する。          |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 14                  | 3)9)   | 機能的評価法(FIM)③:認知項目の概要と採点基準を理解する。          |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 15                  | 3)9)   | 機能的評価法(FIM)④:事例を実際に採点し採点方法を修得する。         |          |            | 講義・演習        | 田中            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学(濱口豊太)医学書院【9784260020381】<br>新イラストによる安全な動作介助のてびき 第3版(飛松好子 編著/岩崎洋・吉田由美子・井上美紀 著)<br>医歯薬出版【9784263217313】<br>動作分析 臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(石井慎一郎)メジカルビュー社【978-4-7583-1474-9】  |  |          |            |              |               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | なし   |  |          |            |              |               |

|                     |  |      |          |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 地域作業療法学 I  |      | 授業コード    | 120746B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療学科(3年)  |      | ナンバリング   | 21C311P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 三宮 基裕(福・福)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>【授業の概要】<br/>作業療法士として住環境整備の点から助言ができるようになるために、日本の住宅の問題、住宅改修のプロセスと具体的な改修方法、そして関係する法律や助成制度について学ぶ。</p> <p>【一般目標(GIO)】<br/>身体に障害のある方や加齢等により心身機能が低下した方が住宅で生活する時の生活環境上の問題を認識し、将来、福祉職として必要となる生活環境整備の基本的知識を修得する。</p>  |      |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)住環境整備の意義を理解し、住環境整備における福祉職の役割を説明できる。<br/>2)住環境整備に関わる基本的な用語を理解し、説明ができる。<br/>3)住環境整備のプロセスとそれに関わる専門職を理解し、それぞれの役割が説明できる。<br/>4)関連する法制度を理解し、制度活用のプロセスが説明できる。<br/>5)建築図面を読み取り簡単な平面図が描ける。<br/>6)高齢者や障がいのある方の生活において生じる日本住宅の問題が列挙できる。<br/>7)住環境整備の方法が列挙できる。<br/>8)住環境整備の方法を立案できる。</p> |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 該当なし   |      |          |            |              |           |
| 評価方法                | 各回の授業で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、授業への参加)を30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。   |      |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次回講義の内容をシラバスで確認し、参考書等の該当箇所を予め読んで予習しておくこと。<br>復習として、毎時間の学習内容をノートにまとめておくこと。※試験は直筆のノートのみ持ち込みを認める。   |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火・水 15:00~17:00 研究室  |      |          |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                        | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|-----------------------------|----------|----|
| 1  | 1)          | 住環境整備の意義                    | 講義       | 三宮 |
| 2  | 2)          | ノーマライゼーションとリハビリテーション        | 講義       | 三宮 |
| 3  | 2)          | バリアフリーとユニバーサルデザイン           | 講義       | 三宮 |
| 4  | 3)          | 住環境整備のプロセス                  | 講義       | 三宮 |
| 5  | 4)          | 介護保険制度と住環境整備                | 講義       | 三宮 |
| 6  | 5)          | 住宅図面の読み取りと作図法               | 講義・演習    | 三宮 |
| 7  | 6)          | 日本住宅の問題と住環境整備               | 講義       | 三宮 |
| 8  | 4)5)7)      | 移動空間の整備①(移動に関わる福祉用具)        | 講義       | 三宮 |
| 9  | 4)5)7)      | 移動空間の整備②(アプローチ、玄関、廊下、階段)    | 講義       | 三宮 |
| 10 | 4)5)7)      | トイレ空間の整備①(排泄に関わる福祉用)        | 講義       | 三宮 |
| 11 | 4)5)7)      | トイレ空間の整備②(手すり、段差解消、便座、スペース) | 講義       | 三宮 |
| 12 | 4)5)7)      | 浴室空間の整備①(入浴に関わる福祉用具)        | 講義       | 三宮 |
| 13 | 4)5)7)      | 浴室空間の整備②(手すり、段差解消、浴槽)       | 講義       | 三宮 |
| 14 | 5)7)8)      | 住環境整備の提案①(サニタリー空間の環境整備)     | 講義・演習    | 三宮 |
| 15 | 5)7)8)      | 住環境整備の提案②(戸建住宅の環境整備)        | 講義・演習    | 三宮 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 OT・PTのための生活環境整備論第2版(野村歡・橋本美芽 著)三輪書店【978-4-89590-425-4】  
改訂4版 福祉住環境コーディネーター3級公式テキスト(東京商工会議所 編)東京商工会議所【978-4924547599】



|                            |  |  |          |        |            |              |           |
|----------------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 地域作業療法学Ⅱ   |  |          | 授業コード  | 121285A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(15) |
| 配当学科(学年)                   | 作業療学科(4年)  |  |          | ナンバリング | 21C411P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 内勢 美絵子(保・作)、田中 睦英<br>(保・作)、矢花 芙美子(非常勤講<br>師)、金子茂稔(非常勤講師)、長<br>友優紀(非常勤講師)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義、SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 医学モデルを基盤としながらも、生活モデルの視点を併せ持って地域に臨む作業療法への需要は年々増加傾向にある(小川ら;2011)。そのような中、公的保険外サービスの中で実践するOTが着目されている(寺門ら;2017)。本講義では、そういった地域での作業療法を実践する先達や他職種から最新情報について学ぶことを目的としている。あわせて、地域において多職種連携を実践するにあたり必要な心構えについて学んでいく。<br>小川恵子編集:標準作業療法学地域作業療法学第2版. 医学書院, 2011.<br>寺門貴編集:未来投資会議の流れの中でOTの生きる道. 臨床作業療法 14(5), 2017. |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1)地域作業療法について概説できる。<br>2)各領域の地域作業療法の実践の場について説明できる。<br>3)各領域の地域作業療法の実践について説明できる。<br>4)他職種との連携と協働の重要性について説明できる。<br>5)地域作業療法実践における心構えや準備について説明できる。   |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 科目担当者(内勢、田中、矢花、金子、長友)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき地域での作業療法を実践するための講義を実施する。<br>グループ課題4割、総括レポート6割として総括的評価を行う。  |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 教科書の該当頁を事前に予習すること。(60分)<br>目標を持って、主体的に授業に参加すること。<br>各回振り返りのレポートを作成すること。(60分)<br>その他グループ課題に要する時間。(4時間程度)  |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 内勢:木曜 12:30~13:00, 田中:水曜 12:00~12:30   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                       |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                         | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                          | 1)   | 地域作業療法の基盤と背景、制度・社会生活支援・連携                              |          |        |            | 講義、SGD       | 内勢、田中     |
| 2                          | 2)~5)  | 地域作業療法の実践の場と実践例① 身体機能領域、老年期領域                          |          |        |            | 講義、SGD       | 田中        |
| 3                          | 2)~5)  | 地域作業療法の実践の場と実践例② 精神機能領域、発達領域                           |          |        |            | 講義、SGD       | 内勢、矢花     |
| 4                          | 4)~5)  | 地域作業療法実践のための心構え①                                       |          |        |            | 講義、SGD       | 内勢、矢花     |
| 5                          | 4)~5)  | 地域作業療法実践のための心構え②                                       |          |        |            | 講義、SGD       | 内勢、矢花     |
| 6                          | 1)~5)  | 地域作業療法の実践事例①   |          |        |            | 講義、SGD       | 金子        |
| 7                          | 1)~5)  | 地域作業療法の実践事例②   |          |        |            | 講義、SGD       | 金子        |
| 8                          | 1)~5)  | 地域作業療法の実践事例②   |          |        |            | 講義、SGD       | 長友        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】         |  | 標準作業療法学地域作業療法学第3版(編大熊 明他編集)医学書院【ISBN978-4-260-03165-3】 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】         |  | 寺門貴編集:未来投資会議の流れの中でOTの生きる道. 臨床作業療法 14(5), 2017.         |          |        |            |              |           |

|                     |  |  |          |            |              |                     |
|---------------------|--|--|----------|------------|--------------|---------------------|
| 科目名                 | 地域作業療法学演習  |  | 授業コード    | 120749A202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)           |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |  | ナンバリング   | 21C312P03  | AL科目         | ○                   |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)  | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義,演習,SGD,習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義は、多くの職種による連携によって進められる職業リハビリテーションの中での作業療法士として必要な基礎知識および技術、役割について学ぶことを目的としている。就労を目指す障害を持つ者への援助を行う上で、基本的な職業の意義、職業発達理論、職業選択および適性に関する知識、作業療法評価および援助について修得する。また、障害者を取り巻く法制度、雇用問題等を知る。さらに、地域における就労の実際について、見学・体験実習を通して学ぶ。                                 |  |          |            |              |                     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのかを説明できる。<br>2) 就労支援に関する理論を説明できる。<br>3) 当事者の就労に係る諸制度を説明できる。<br>4) 当事者の就労支援に係る支援技術を説明できる。<br>5) 就労支援における作業療法士の役割を説明できる。<br>6) 作業療法における職業評価を説明できる。<br>7) 職業関連活動における作業療法の治療(訓練)過程を説明できる。<br>8) 就労支援関連施設の見学・体験実習に参加し、報告することができる。 |  |          |            |              |                     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づいた就労支援についての授業を行う。また、地域における障害者就労の現場における見学・体験実習では、実務者による講義を予定している。  |  |          |            |              |                     |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(レポートの提出状況、授業態度)の評価20%、見学・体験実習の参加状況・報告書20%、学期末の単位認定試験60%として総括的評価を行う。   |  |          |            |              |                     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・自分の意見を積極的に発言すること。<br>・予習(30分)、復習(30分)として講義レポートを実施すること。<br>・GWを利用して、身近な人に対して「働くこと」「障害を持つ人の就労について」インタビューを実施し、レポートにまとめる(3時間)。<br>・第13回の講義では、準備(2時間)、見学・体験実習(6時間)、スライド作成(2時間)を要する。  |  |          |            |              |                     |
| オフィスアワー             | 木曜日:12:30~13:00  |  |          |            |              |                     |
| 授業計画                |  |  |          |            |              |                     |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当                  |
| 1                   | 1)2)   | 【就業支援に必要な考え方1】<br>就業支援とは、企業の視点の理解  |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 2                   | 1)   | 【就業支援に必要な考え方2】<br>就業支援に関連する諸理論①  |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 3                   | 1)   | 【就業支援に必要な考え方2】<br>就業支援に関連する諸理論②  |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 4                   | 1)3)   | 【就業支援に必要な考え方3】<br>就業支援と支援ネットワーク  |          |            | 講義,実習,SGD    | 内勢                  |
| 5                   | 1)3)   | 【インタビューを通して障害のある人の就業を考える】<br>民間企業等における障害者就労の実態を整理する                      |          |            | 講義,実習,SGD    | 内勢                  |
| 6                   | 4)   | 【就業支援に必要な知識1】<br>障害特性と職業的課題(身体,知的,精神,発達,難病)                              |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 7                   | 3)   | 【就業支援に必要な知識2】<br>障害者雇用に関する制度の概要  |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 8                   | 5)   | 【職業関連活動における作業療法1】<br>就労支援における作業療法の役割,関連職種・機関との連携,作業療法の対象者・実施施設           |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 9                   | 5)6)   | 【職業関連活動における作業療法2】<br>作業療法評価過程  |          |            | 講義,演習        | 内勢                  |
| 10                  | 1)5)6)<br>7)   | 【職業関連活動における作業療法3】<br>作業療法士による就労支援の実際(身体障害)                               |          |            | 講義,SGD       | 内勢                  |
| 11                  | 1)5)6)<br>7)   | 【職業関連活動における作業療法4】<br>作業療法士による就労支援の実際(精神障害)                               |          |            | 講義,SGD       | 内勢                  |
| 12                  | 1)5)6)<br>7)   | 【職業関連活動における作業療法5】<br>作業療法士による就労支援の実際(知的障害,発達障害)                          |          |            | 講義,SGD       | 内勢                  |
| 13                  | 1)3)4)<br>5)8)   | 【就労現場の見学・体験実習1】<br>特別支援学校,就労移行支援事業所,就労継続支援事業所,作業所,一般企業,特例子会社への見学・体験実習    |          |            | 実習           | 内勢                  |
| 14                  | 1)3)4)<br>5)8)   | 【就労現場の見学・体験実習2】<br>特別支援学校,就労移行支援事業所,就労継続支援事業所,作業所,一般企業,特例子会社への見学・体験実習の報告 |          |            | 実習           | 内勢                  |
| 15                  | 1)3)4)<br>5)8)   | 【就労現場の見学・体験実習3】<br>特別支援学校,就労移行支援事業所,就労継続支援事業所,作業所,一般企業,特例子会社への見学・体験実習の報告 |          |            | 実習           | 内勢                  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 2019年度版就労支援ハンドブック(独立行政法人 高齢・障害・求職者支援機構)<br><a href="http://www.jeed.or.jp/disability/data/handbook/handbook/html5.html#page=1">http://www.jeed.or.jp/disability/data/handbook/handbook/html5.html#page=1</a>   |  |          |            |              |                     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 職業相談場面におけるキャリア理論及びカウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査<br>[file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/ZW4C3Q7H/0165.pdf]   |  |          |            |              |                     |

|                     |  |  |            |            |              |            |
|---------------------|--|--|------------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 高次脳機能障害作業療法  |  | 授業コード      | 120384A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)  |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3 年次)   |  | ナンバリング     | 21C312P04  | AL 科目        | ○          |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)   | 開講学期   | 2020 年度 後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態 講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>1. 脳血管障害や外傷性脳損傷に随伴する症状である高次脳機能障害の疾患特性について解剖学・神経心理学の観点から学ぶことで、MRI 等の読映と観察結果から適切な評価を選択し、結果を解釈する能力を涵養する。</p> <p>2. 各神経心理検査の特徴を理解し、臨床ツールとして活用できる知識を習得する。</p> <p>3. 事例検討演習を通じ、高次脳機能障害を有する対象者の障害構造を理解し、作業療法プログラムを立案・実行できる能力を習得する。</p>   |  |            |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1) 神経心理学の観点から高次脳機能障害の概要を説明できる。</p> <p>2) 注意障害の特徴と評価法について説明できる。</p> <p>3) 半側空間無視、視覚失認、Balint 症候群の特徴と病巣、評価法について説明できる。</p> <p>4) 失行(行為の障害)の特徴と病巣、評価法について説明できる。</p> <p>5) 記憶障害の特徴と病巣、評価法について説明できる。</p> <p>6) 遂行機能障害の特徴と病巣、評価法について説明できる。</p> <p>7) 神経心理検査を実際に使用し、高次脳機能障害の作業療法評価が実践できる。</p> <p>8) 高次脳機能障害を有する事例に対し、適切な評価バッテリーを選択し、実施計画を立案することができる。</p> <p>9) 神経心理検査の結果を解釈し、作業療法における目標設定とプログラムの立案ができる。</p> |  |            |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 脳血管障害患者を主とする回復期リハビリテーション病院での経験に基づき、高次脳機能障害の病態について神経解剖や神経生理の知見を交えながら講義を進め、作業療法士に必要な基本的な評価・介入方法の理解を促す。   |  |            |            |              |            |
| 評価方法                | 定期試験 70%、講義内小テスト 20%、受講態度 10%で総合的に評価する。  |  |            |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 講義の最後に小テストを毎回実施するので、事前に予習をして講義に臨むこと。また授業ノートを必ず作成すること。これらの予復習を 1 回の講義につき 60 分行うこと。  |  |            |            |              |            |
| オフィスアワー             | 月曜日 14:00~17:00  |  |            |            |              |            |
| 授業計画                |  |  |            |            |              |            |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |            |            | 授業<br>方法     | 担当         |
| 1                   | 1)   | 神経心理学的観点による高次脳機能障害の定義  |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 2                   | 2)   | 注意障害: 注意の種別と注意障害の臨床症状、評価法について  |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 3                   | 3)   | 失認(特に視覚モダリティ): 半側空間無視の中核症状と併発しやすい症状・臨床像、評価法(BIT)について                     |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 4                   | 4)   | 失行: 行為の障害のメカニズムと症状、評価法について   |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 5                   | 5)   | 記憶障害: 記憶の種別と記憶障害の症状(認知症を中心に)、評価法について                                     |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 6                   | 6)   | 遂行機能障害: 外傷性脳損傷や前頭葉障害による遂行機能障害の臨床症状と評価法について                               |            |            | 講 義          | 田 中        |
| 7                   | 2)7)   | 【演習】注意障害の神経心理学検査と作業療法評価  |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 8                   | 3)7)   | 【演習】半側空間無視の神経心理学検査と作業療法評価: 主に行動性無視検査(BIT)について                            |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 9                   | 3)7)   | 【演習】視覚失認・構成障害の神経心理学検査と作業療法評価   |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 10                  | 4)7)   | 【演習】失行の神経心理学検査と作業療法評価  |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 11                  | 5)7)   | 【演習】記憶障害の神経心理学検査と作業療法評価  |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 12                  | 6)7)   | 【演習】遂行機能障害の神経心理学検査と作業療法評価  |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 13                  | 7)   | 【演習】認知症の神経心理学検査と作業療法評価   |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 14                  | 8)9)   | 【事例検討①】脳卒中後遺症患者の事例検討を通じ、評価バッテリーの選択や評価結果の解釈方法を理解する。                       |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 15                  | 8)9)   | 【事例検討②】脳卒中後遺症患者の事例検討を通じ、高次脳機能障害患者に対する作業療法ゴールの設定、プログラムの立案について理解を深め、実践できる。 |            |            | 講義・演習        | 田 中        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 高次脳機能障害学 第 2 版(石合純夫著)医歯薬出版【9784263213964】  |  |            |            |              |            |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | なし。  |  |            |            |              |            |

|                     |  |                      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|----------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床特論   |                      |          | 授業コード  | 121083B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年次)  |                      |          | ナンバリング | 21C421P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 佐藤 浩二(非常勤講師)・田中<br>英明(非常勤講師)・釘宮 慎太郎<br>(非常勤講師)・田中 睦英(保<br>作)   | 開講学期                 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1. 長期実習に際して、実習先職員の方々に好感を抱いて頂けるように、押さえておくべき基本的態度やマナーを習得する。また患者様・利用者様に関わる上での基本技術の復習し、実践レベルまで習熟する。<br>2. これまでに学習してきた内容を昇華し、より実務的な内容を知る事と、臨床現場での実践的な考え方を知り、スムーズな実習進行ができるようになる。   |                      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 評価の実技と判定の方法について理解し、実践できる。<br>2) 治療技法とその注意点について実技を通して学び、実践できる。<br>3) 支援技術とその注意点について実技を通して学び、実践できる。<br>4) 実際の臨床場面のVTRを視聴し、現時点でできること、知識・技術が不足している点を自覚し、実習前準備につなげることができる。<br>5) 実習で赴く病院や介護施設に従事する職員構成について学び、その職種や役割について列挙・説明できる。<br>6) 各職員(職種)の専門性と、対象者との関係性について学び、説明できる。<br>7) 臨床実習指導者の役割を理解し、実習指導を受ける心構えを涵養する。<br>8) 職員に対する接遇を修得し、実践できる。<br>9) 対象者に対する接遇を修得し、実践できる。<br>10) 総合臨床実習の全体像を把握し、実習前準備につなげることができる。 |                      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 現職の作業療法士かつ所属施設の作業療法部門管理責任者の指導により、臨床実習における実践的な技術・知識を修得する。   |                      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各教員の提示する課題レポート 80%、確認テスト 10%、受講態度 10%で評価する。  |                      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 3年次履修の作業療法技能に関する専門科目すべてについて復習しておくこと。また臨床実習を想定して、自身の長・短所を挙げ、短所については対応策を検討すること。これらの事前学習に毎回 60分費やすこと。   |                      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 開講日の 12:00~13:00   |                      |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                      |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容              |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 臨床実習の概要と心得           |          |        |            | 講 義          | 田中(英)     |
| 2                   | 1)   | 評価の実技と結果の判定について      |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 3                   | 2)   | 治療技法の実技と注意点について①     |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 4                   | 2)   | 治療技法の実技と注意点について②     |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 5                   | 3)   | 支援技術の実技と注意点について①     |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 6                   | 3)   | 支援技術の実技と注意点について②     |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 7                   | 4)   | VTR 学習にて自助点を知る       |          |        |            | 講義・実技        | 田中(英)     |
| 8                   | 1)~<br>4)  | 2~7 の復習と確認テスト        |          |        |            | 講 義          | 田中(英)     |
| 9                   | 5)   | 施設職員の構成について          |          |        |            | 講 義          | 佐 藤       |
| 10                  | 6)   | 対象者と関わる職員の立場について     |          |        |            | 講 義          | 佐 藤       |
| 11                  | 7)   | スーパーバイザーとケースバイザーについて |          |        |            | 講 義          | 佐 藤       |
| 12                  | 8)   | 職員に対する接遇             |          |        |            | 講義・実技        | 釘 宮       |
| 13                  | 9)   | 対象者に対する接遇            |          |        |            | 講義・実技        | 釘 宮       |
| 14                  | 10)  | 臨床実習の全体像を把握する①       |          |        |            | 講 義          | 釘 宮       |
| 15                  | 10)  | 臨床実習の全体像を把握する②       |          |        |            | 講 義          | 釘 宮       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特になし。  |                      |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特になし。  |                      |          |        |            |              |           |

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生活環境論   |   |          | 授業コード  | 120653B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 21C321P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 寺師 良輝(非常勤講師)・小林 博光(非常勤講師)・江原 喜人(非常勤講師)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>【授業の概要】<br/>         障害者や高齢者に対する生活支援技術や工学的な考え方、適用技術、応用事例などについて理解する。</p> <p>【一般目標】<br/>         車いすや福祉車両などの移動支援機器、移乗を支援する機器や設備の種類と特徴、車いす上での姿勢や褥瘡防止のための用具や手法、公共建築物などの社会環境の改善、コミュニケーション支援のための各種スイッチ、環境制御装置などの機能や適用方法、情報通信機器のアクセシビリティなどについて、講義や実習を通して体得する。<br/>         障害者や高齢者に配慮した住宅改修の方法を学び、作業療法士として必要となる生活環境整備の基本的知識を修得する。</p> |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 障害者/高齢者のための情報通信機器の種類と概要を理解する。<br>2) コミュニケーション支援機器とその入力方法について基本的構造と適用方法の基礎を理解する。<br>3) 障害者/高齢者の移動を実現する福祉用具とその環境について関係性を理解する。<br>4) 車いすの選択と適合のため、その種類と特徴を理解する。<br>5) 車いす上での姿勢や褥瘡防止のための用具や手法について理解する。<br>6) 移乗やその他介助のための機器とその適用方法について理解する。<br>7) 福祉用具とその使用者について人間工学的に計測/評価する手段を理解する。  |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 寺師・小林・江原ともに、総合せき損センターの医用工学研究室にて20年以上におよび、障害者の自立支援のための工学的な調査・研究・開発を行っている。これらの実務経験に基づき、より現場での活用を意識した支援技術、適用技術、応用事例についての講義・実習を行う。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学期末の筆記試験(60%)および、授業におけるレポートや実習の取り組み(40%)を基に総合的に評価する。  |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 講義日の前日までに参考書をダウンロードし概観する。授業内容をwebで検索、閲覧し、興味を高める(30分)。<br>講義後に配付資料・ノート・返却したレポートなどの記録を読み直して復習を行う(30分)。  |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 該当講義時の教室または非常勤講師控え室にて、講義前後の休み時間などの可能な時間   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)  | リハビリテーション工学概論   |          |        |            | 講 義          | 寺師良輝      |
| 2                   | 1)2)  | コミュニケーション機器の種類と活用   |          |        |            | 講 義          | 寺師良輝      |
| 3                   | 1)2)  | コンピュータアクセシビリティ  |          |        |            | 講 義          | 寺師良輝      |
| 4                   | 1)2)  | コミュニケーション支援/スイッチの製作   |          |        |            | 実 習          | 寺師良輝      |
| 5                   | 1)2)  | コミュニケーション支援/入力と出力   |          |        |            | 講 義          | 寺師良輝      |
| 6                   | 3)4)  | 移動の目的と方法  |          |        |            | 講 義          | 小林博光      |
| 7                   | 3)4)  | 電動車いすの種類と活用方法   |          |        |            | 講 義          | 小林博光      |
| 8                   | 3)4)  | 電動車いすのコントローラと適用   |          |        |            | 講 義          | 小林博光      |
| 9                   | 3)4)  | 障害者が運転する福祉車両  |          |        |            | 講 義          | 小林博光      |
| 10                  | 3)4)  | 介助者が操作する福祉車両  |          |        |            | 講 義          | 小林博光      |
| 11                  | 3)4)  | 手動車いす/姿勢保持機能と体圧分散   |          |        |            | 講 義          | 江原喜人      |
| 12                  | 3)5)  | 手動車いす/移動と移乗の機能  |          |        |            | 講 義          | 江原喜人      |
| 13                  | 3)4)  | 住環境と車いす   |          |        |            | 講 義          | 江原喜人      |
| 14                  | 3)6)  | 社会環境と車いす  |          |        |            | 講 義          | 江原喜人      |
| 15                  | 7)  | 福祉用具の臨床的評価  |          |        |            | 講 義          | 江原喜人      |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 国際福祉機器展(一般財団法人 保健福祉広報協会)<br>はじめての福祉機器 選び方・使い方<br><a href="https://www.hcr.or.jp/useful/howto">https://www.hcr.or.jp/useful/howto</a><br>のサイトの、<br>福祉機器選び方・使い方セミナー 副読本(2019年版)<br>から、以下の副読本をダウンロード<br>1. 基本動作編<br>2. 住宅改修編<br>3. 自立支援編 |          |        |            |              |           |

|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床見学実習 I  |                                     |          | 授業コード  | 121329A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(1年)  |                                     |          | ナンバリング | 21C112P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)                         | 開講学期                                | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 学外の病院等の現実の作業療法場面で、対象者および作業療法士と接することで、社会人(前医療人)としての接遇を学び、疾患の概要と作業療法の専門性を理解し、次年度からの専門教育に向けた学習モチベーションを形成する。            |                                     |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)施設の概要を説明できる。<br>2)前医療人としての態度を身につける。<br>3)作業療法士の仕事を説明できる。<br>4)自らの職業的適性を確認できる。                                     |                                     |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。  |                                     |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 臨床見学実習施設の実習指導者の評価と学内での提出物および実習セミナーでの評価を総合して評価する。  |                                     |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や対患者リスクが高い場合は、実習中止となることがある。1コマ当たりの1時間を目安に予習・復習を行うこと |                                     |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。   |                                     |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 領域1:施設の概要を理解する。                     |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 2                   | 2)  | 領域1:対象者との関わりを通して社会人(前医療人)としての態度を学ぶ。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 3                   | 3)  | 領域1:作業療法士の仕事、特に対象者理解について理解する。       |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 4                   | 3)  | 領域1:作業療法士の仕事、特に作業療法介入について理解する。      |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 5                   | 4)  | 領域1:現実の作業療法士の仕事と自らの適正や志向性について理解する。  |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 6                   | 1)  | 領域2:施設の概要を理解する。                     |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 7                   | 2)  | 領域2:対象者との関わりを通して社会人(前医療人)としての態度を学ぶ。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 8                   | 3)  | 領域2:作業療法士の仕事、特に対象者理解について理解する。       |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 9                   | 3)  | 領域2:作業療法士の仕事、特に作業療法介入について理解する。      |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
| 10                  | 4)  | 領域2:現実の作業療法士の仕事と自らの適正や志向性について理解する。  |          |        |            | 実習           | 学科全教員     |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                              |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                              |          |        |            |              |           |

|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床見学実習Ⅱ   |                                     |          | 授業コード  | 121330A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(1年)  |                                     |          | ナンバリング | 21C112P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)                         | 開講学期                                | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 学外の病院等の現実の作業療法場面で、対象者および作業療法士と接することで、社会人(前医療人)としての接遇を学び、疾患の概要と作業療法の専門性を理解し、次年度からの専門教育に向けた学習モチベーションを形成する。            |                                     |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)施設の概要を説明できる。<br>2)前医療人としての態度を身につける。<br>3)作業療法士の仕事を説明できる。<br>4)自らの職業的適性を確認できる。                                     |                                     |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。  |                                     |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 臨床見学実習施設の実習指導者の評価と学内での提出物および実習セミナーでの評価を総合して評価する。  |                                     |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や対患者リスクが高い場合は、実習中止となることがある。1コマ当たりの1時間を目安に予習・復習を行うこと |                                     |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。   |                                     |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 領域1:施設の概要を理解する。                     |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 2                   | 2)  | 領域1:対象者との関わりを通して社会人(前医療人)としての態度を学ぶ。 |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 3                   | 3)  | 領域1:作業療法士の仕事、特に対象者理解について理解する。       |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 4                   | 3)  | 領域1:作業療法士の仕事、特に作業療法介入について理解する。      |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 5                   | 4)  | 領域1:現実の作業療法士の仕事と自らの適正や志向性について理解する。  |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 6                   | 1)  | 領域2:施設の概要を理解する。                     |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 7                   | 2)  | 領域2:対象者との関わりを通して社会人(前医療人)としての態度を学ぶ。 |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 8                   | 3)  | 領域2:作業療法士の仕事、特に対象者理解について理解する。       |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 9                   | 3)  | 領域2:作業療法士の仕事、特に作業療法介入について理解する。      |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 10                  | 4)  | 領域2:現実の作業療法士の仕事と自らの適正や志向性について理解する。  |          |        |            | 実習           | 全員        |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                              |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                              |          |        |            |              |           |

|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床体験実習   |  |           | 授業コード  | 121470A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |  |           | ナンバリング | 21C211P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)  | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 実 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床実習指導者の指導・見守りのもと、領域共通の作業療法評価や治療・援助技術を体験することで、講義で習得した諸技術の臨床応用の基盤を形成する。   |  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習指導者の作業療法場面を見学することで、作業療法体験に必要な事前学習や準備ができる</li> <li>2. 臨床実習指導者の指導・見守りのもと、作業療法評価や治療・援助技術の模倣体験ができる。</li> <li>3. 体験実習を通じて基礎知識・技術を臨床応用することの実際を体験し、(特に自分自身の)問題点や疑問点を述べるができる。</li> <li>4. 実際に対象者に関わることで疾患・障害像の理解を深め、接遇や社会人(前医療人)としての態度をブラッシュアップすることができる。</li> <li>5. 作業療法体験を通じてこれまで学んだ知識を統合し、疾患・障害に応じた作業療法評価や治療・援助技術など、実習で体験したことの意味を説明できる。</li> <li>6. 臨床体験で学び得た知識・技術をもとに自身の課題を明確にし、次年度以降の学習目標を立てることができる。</li> </ol> |  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 当該施設の実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。  |  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実習指導者の評価と学内での提出物および実習セミナーでの評価を総合して評価する。  |  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や对患者リスクが認められる場合は、実習中止となることがある。体験にあたっては、前日に十分な練習しておくこと。一つの体験について1時間を目安に練習・復習を行うこと   |  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。  |  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 施設の概要を理解する。  |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 2                   | 1)   | 臨床実習指導者による作業療法を理解する。自らの作業療法体験に必要な、事前学習や準備ができる。     |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 3                   | 1)   | 評価を模倣体験することができる。                                   |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 4                   | 2)   | 治療を模倣体験することができる。                                   |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 5                   | 2)   | 援助技術を模倣体験することができる。                                 |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
|                     | 2)   | 体験から自分自身の問題点や疑問点を述べるができる。                          |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
|                     | 3)   | 疾患と障害像の理解を深めることができる。                               |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
|                     | 4)   | 臨床実習指導者を手本として、接遇や社会人(前医療人)としての態度をブラッシュアップすることができる。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
|                     | 4)   | 疾患・障害に応じた作業療法評価や治療・援助技術などの意味を説明できる。                |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
|                     | 5)   | 体験から自身の課題を明確にし、次年度以降の学習目標を立てることができる。               |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|                     |  |  |           |        |            |              |           |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |  |           |        |            |              |           |



|                            |  |   |           |        |            |              |           |
|----------------------------|--|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 臨床評価実習   |   |           | 授業コード  | 121086B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(90) |
| 配当学科(学年)                   | 作業療法学科(3年)   |   |           | ナンバリング | 21C312P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)   | 開講学期                                      | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 臨床実習      |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 深い人間理解を基盤とした作業療法士になるために、臨床実習指導者の指導・見守りのもと、現実の対象者の作業療法評価を体験することで、講義で習得した評価技術の臨床応用の基盤を形成する。  |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人としての対象者接遇ができる</li> <li>2. 領域ごとの評価計画を立案できる</li> <li>3. 疾患ごとの評価計画を立案できる</li> <li>4. カルテ情報を理解できる</li> <li>5. 担当対象者の評価計画を立案できる</li> <li>6. 個々の評価の準備ができる</li> <li>7. 個々の評価を実践できる</li> <li>8. 評価結果を考察できる</li> <li>9. 対象者の障害のフォーミュレーションが作成できる</li> <li>10. 問題点を抽出できる</li> <li>11. ゴールを設定できる</li> <li>12. 作業療法の介入プランを立案できる</li> </ol> |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 当該施設の実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。また、教員による電話訪問指導も行う。<br>実習指導者の評価と学内での提出物および実習セミナーでの評価を総合して評価する。   |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や对患者リスクが認められる場合は、実習中止となることがある。評価の実践にあたっては、前日に十分な練習をしておくこと。一つの体験について1時間を目安に練習・復習を行うこと   |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。ただし、実習半ばで教員が電話を入れ実習状況を聴取する(実習電話訪問指導)。また、必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。  |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                       |  |   |           |        |            |              |           |
| 回数                         | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                                   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 2                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 3                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 4                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 5                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 6                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 7                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 8                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 9                          | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 10                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 11                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 12                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 13                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 14                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 15                         | 1~12   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた評価実習を行う。 |           |        |            | 実 習          | 学科全教員     |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】         |  | 使用しない                                     |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】         |  | 使用しない                                     |           |        |            |              |           |

|                     |   |   |          |        |            |              |            |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 総合臨床実習 I  |   |          | 授業コード  | 121282H201 | 単位数<br>(時間数) | 8<br>(360) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |   |          | ナンバリング | 21C414P01  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)   | 開講学期                                    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 臨床実習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 大学で学んだ知識や技術を学外の臨床実習施設で実践し作業療法の職業人・専門職として必要な総合的かつ基本的技術の習得、および実践に適応できる技術を習得する。  |   |          |        |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)3年間学んできた作業療法を実際場面の中で統合していく。<br>2)評価、プランニング、実施、再評価ができる。<br>3)医療人としての規律が守れる。<br>4)臨床実習を終えた後、レポート、口頭発表にて報告ができる。                                    |   |          |        |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 当該施設の実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。また、教員による訪問指導も行う。   |   |          |        |            |              |            |
| 評価方法                | 臨床実習施設での評価と学内での実習セミナーおよびケースレポートなどの提出物を総合的に評価する。詳細は、後に配布する実習ガイダンスにて説明する。   |   |          |        |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や对患者リスクが認められる場合は、実習中止となることがある。実践にあたっては、前日に十分な練習をしておくこと。一つの体験について1時間を目安に練習・復習を行うこと |   |          |        |            |              |            |
| オフィスアワー             | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。ただし、実習半ばで教員が実習施設に出向き相談を受け付ける(実習訪問指導)。また、必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。   |   |          |        |            |              |            |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |            |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                    |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当         |
| 1                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 2                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 3                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 4                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 5                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 6                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 7                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 8                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 9                   | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 10                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 11                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 12                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 13                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 14                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 15                  | 1)~4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 |          |        |            | 実習           | 学科全教員      |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                                  |          |        |            |              |            |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                                  |          |        |            |              |            |

|                     |   |      |           |        |            |              |            |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 総合臨床実習Ⅱ   |      |           | 授業コード  | 121283H201 | 単位数<br>(時間数) | 8<br>(360) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |      |           | ナンバリング | 21C414P02  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)・内勢 美絵子<br>(保・作)・田中 陸英(保・作)・江口<br>喜久雄(保・作)・中田富久(保・<br>作)・園田 徹(保・作)・樋口 博之<br>(保・作)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 臨床実習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 大学で学んだ知識や技術を学外の臨床実習施設で実践し作業療法の職業人・専門職として必要な総合的かつ基本的技術の習得、および実践に適応できる技術を習得する。  |      |           |        |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)3年間学んできた作業療法を実際場面の中で統合していく。<br>2)評価、プランニング、実施、再評価ができる。<br>3)社会人としての規律が守れる。<br>4)臨床実習を終えた後、レポート、口頭発表にて報告ができる。                                    |      |           |        |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 当該施設の実習指導者は5年以上の経験を持つ作業療法士であり、それぞれの専門領域で総合的な実習指導と支援を行う。また、教員による訪問指導も行う。   |      |           |        |            |              |            |
| 評価方法                | 臨床実習施設での評価と学内での実習セミナーおよびケースレポートなどの提出物を総合的に評価する。詳細は、後に配布する実習ガイダンスにて説明する。   |      |           |        |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | フィールドは実際の作業療法場面であり実際の対象者である。従って、主体的かつ真摯な実習姿勢が要求される。実習姿勢が修正できない場合や对患者リスクが認められる場合は、実習中止となることがある。実践にあたっては、前日に十分な練習をしておくこと。一つの体験について1時間を目安に練習・復習を行うこと |      |           |        |            |              |            |
| オフィスアワー             | 学外臨床実習のため、オフィスアワーの設定はない。ただし、実習半ばで教員が実習施設に出向き相談を受け付ける(実習訪問指導)。また、必要があれば、電話による相談を随時受け付ける。   |      |           |        |            |              |            |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                                 | 授 業 方 法 | 担 当   |
|----|-------------|---|---------|-------|
| 1  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 2  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 3  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 4  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 5  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 6  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 7  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 8  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 9  | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 10 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 11 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 12 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 13 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 14 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |
| 15 | 1)~<br>4)   | 学科の実習教育方針のもと、それぞれの領域の実習施設の対象者に応じた実習を行う。 | 臨床実習    | 学科全教員 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 指定しない。

|                     |   |                                  |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|----------------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 研究特論  |                                  |           | 授業コード  | 121525A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年次)   |                                  |           | ナンバリング | 21C323P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)  | 開講学期                             | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1. 指定された研究テーマ・研究方法によりデータ収集ができる。<br>2. 収集したデータを整理し、統計解析ができる。<br>3. 統計解析の結果を解釈し、考察できる。<br>4. 研究成果を口述発表できる。  |                                  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)与えられた研究テーマにもとづき、研究デザインを決定できる。<br>2)研究仮説を考案できる。<br>3)決定した研究デザインと仮説に基づき、予備研究を計画・実行できる。<br>4)予備研究の結果を踏まえ、本研究の計画修正ができる。<br>5)被験者へのインフォームド・コンセントができる。<br>6)適切な環境設定でデータ収集ができる。<br>7)収集したデータを整理し、統計解析ができる。<br>8)統計解析の結果を解釈し、考察できる。<br>9)発表スライドを作成し、研究成果を口述発表できる。 |                                  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法や神経科学に関する学会・論文発表経験や、九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学教室 共同研究員(H30～)としての研究実績に基づき、グループで一つのテーマに対し研究計画立案からデータ収集、統計解析、プレゼンテーションまで行えることを目標に授業を行う。   |                                  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 研究成果の発表:30%, ポートフォリオ:40%, 総括レポート:30%  |                                  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本講義はグループ演習が中心であるが、学生個々の研究に対する意識付けや自主学習が必須である。与えられた研究テーマに関連する文献の収集や抄読、統計手法の学習など予復習を各 60 分程度行うこと。   |                                  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 9:00～12:00  |                                  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                                  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                          |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | グループごとに提示した研究テーマに関連する文献を収集・抄読する① |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 2                   | 1)  | グループごとに提示した研究テーマに関連する文献を収集・抄読する② |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 3                   | 1)2)  | 収集した文献を参照し研究仮説を設定する①             |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 4                   | 1)2)  | 収集した文献を参照し研究仮説を設定する②             |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 5                   | 1)2)  | 収集した文献を参照し研究デザインを決定する①           |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 6                   | 1)2)  | 収集した文献を参照し研究デザインを決定する②           |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 7                   | 1)2)  | 収集した文献を参照し研究デザインを決定する③           |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 8                   | 3)  | 予備研究を計画・実行する。                    |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 9                   | 4)5)6)  | 予備研究を踏まえ本実験を実施する①                |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 10                  | 4)5)6)  | 予備研究を踏まえ本実験を実施する②                |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 11                  | 7)  | 統計解析を実施する。                       |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 12                  | 8)  | 結果を解釈・考察する。                      |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 13                  | 8)9)  | プレゼンテーションを作成する。                  |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 14                  | 9)  | グループ発表①                          |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 15                  | 9)  | グループ発表②                          |           |        |            | 講義・演習        | 田 中       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | なし。   |                                  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | なし。   |                                  |           |        |            |              |           |

|                     |   |   |              |        |            |              |             |
|---------------------|---|---|--------------|--------|------------|--------------|-------------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I  |   |              | 授業コード  | 121310A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |   |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○           |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)   | 開講学期                                      | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義, SGD, 演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 地域における発達障がいを持つ子どもとその家族を支える療育や、子育て支援、地域で暮らす発達障がいを持つ成人についての概要を知り、実際の関わりを通して支援および研究の視点を養う。第一段階:療育や子育て支援に関する現状を文献にて学習する。第二段階:実際の現場に赴き関連職種や当事者から情報収集を行うなどのフィールドワークや調査研究の実施、またはそれらに関する文献研究を行う。第三段階:前述の内容を論文としてまとめる。 |   |              |        |            |              |             |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究疑問を列挙できる。<br>2) 研究の流れを説明できる。<br>3) 文献レビューについて説明できる。<br>4) 文献を読み、内容を理解、整理できる。<br>5) 研究テーマを決定することができる。<br>6) 研究方法を選定できる。<br>7) 研究計画を作成することができる。<br>8) 予備研究を実施することができる。                                     |   |              |        |            |              |             |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づいた作業療法研究についての授業を行う。  |   |              |        |            |              |             |
| 評価方法                | 課題への取り組み、課題の発表、論文作成などを総合して評価する。   |   |              |        |            |              |             |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 主体的に取り組むこと。講義時間以外に30時間の自己学習、フィールドワークを実施すること。  |   |              |        |            |              |             |
| オフィスアワー             | 木曜日 12:30~13:00   |   |              |        |            |              |             |
| 授業計画                |   |   |              |        |            |              |             |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                                   |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当          |
| 1                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定①】<br>研究疑問から、研究テーマについて考えることができる。 |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 2                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定②】<br>研究テーマの細部について検討できる。         |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 3                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定③】<br>研究テーマの細部の修正ができる。           |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 4                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定④】<br>研究テーマの絞り込みができる。            |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 5                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索①】<br>文献レビューについて理解し、説明できる。 |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 6                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索①】<br>文献レビューについて理解し、説明できる。 |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 7                   | 4)  | 【研究テーマに関する文献の検索③】<br>文献を読み、内容を理解、整理できる。   |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 8                   | 4)  | 【研究テーマに関する文献の検索④】<br>文献の内容をカード化できる。       |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 9                   | 2)  | 【研究方法の検討①】<br>研究とは何かについて理解し、説明できる。        |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 10                  | 1)2)  | 【研究方法の検討②】<br>研究疑問について理解し、説明できる。          |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 11                  | 1)2)<br>3)4)  | 【研究方法の検討③】<br>仮説について理解し、説明できる。            |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 12                  | 2)6)  | 【研究方法の検討④】<br>実験的研究について理解し、説明できる。         |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 13                  | 2)6)  | 【研究方法の検討⑤】<br>記述的研究について理解し、説明できる。         |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 14                  | 2)8)  | 【研究計画①】<br>研究プロトコルについて理解し、説明できる。          |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 15                  | 7)  | 【研究計画②】<br>研究計画を考えることができる。                |              |        |            | 講義, SGD, 演習  | 内 勢         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                                    |              |        |            |              |             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 授業の中で紹介する。                                |              |        |            |              |             |

|                     |   |                            |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|----------------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I  |                            |              | 授業コード  | 121310A204 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |                            |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)  | 開講学期                       | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 作業療法の発展に貢献できる作業療法士となるために、研究能力の基礎を育成する。本研究室では、非利き手書字(テーマ1)、徒手筋力検査手技の検証(テーマ2)、福祉機器の開発(テーマ3)を前提として、研究の基礎を習得する。 |                            |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究の概要や意味を説明できる。<br>2) テーマを設定することができる。<br>3) 研究プロトコルを立案することができる。<br>4) 研究倫理について概念と意味と方法を説明できる。            |                            |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得)、特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして指導する。   |                            |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 取り組み姿勢を10%、テーマ設定、研究計画およびパイロットスタディーの立案までを90%として総合的に評価する。   |                            |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自分で調べる技術を身につけておくこと。各担当ごとの内容を確認すること。各回の授業内容について、60分程度の予習と復習を行うこと。  |                            |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 研究室にて、毎週金曜日 13:00~17:00   |                            |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                            |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                    |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 研究とは何かについて理解し、説明できる。       |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 2                   | 1)2)  | 研究疑問について理解し、説明できる。         |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 3                   | 1)2)  | 仮説について理解し、説明できる。           |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 4                   | 1)2)  | 実験的研究について理解し、説明できる。        |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 5                   | 1)2)  | 記述的研究について理解し、説明できる。        |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 6                   | 1)2)  | データ処理について理解し、説明できる。        |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 7                   | 1)2)  | 文献レビューについて理解し、説明できる。       |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 8                   | 3)  | 研究プロトコルについて理解し、説明できる。      |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 9                   | 3)4)  | 研究倫理について概念と意味と方法を説明できる。    |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 10                  | 3)  | 研究疑問から、研究テーマについて考えることができる。 |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 11                  | 3)  | 研究テーマの細部について検討できる。         |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 12                  | 3)  | 研究テーマの細部の修正ができる。           |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 13                  | 2)  | 研究テーマの絞り込みができる。            |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 14                  | 3)  | 研究計画を立案することができる。           |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 15                  | 3)  | 予備研究を立案することができる。           |              |        |            | 講義・演習        | 立石        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                      |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                      |              |        |            |              |           |

|                     |   |                  |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I  |                  |              | 授業コード  | 121310A209 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |                  |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)   | 開講学期             | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義および討論   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 染色体異常、奇形症候群、精神遅滞を伴う小児への作業療法を含めた包括医療をテーマにする。脳科学の分野では脳の構造だけではなく機能面でも新しい知見が次々に明らかにされている。染色体異常、奇形症候群、精神遅滞児の臨床においては、小児科医や小児精神科医のみではなく、教育、心理、福祉、保育、言語治療、看護、リハビリテーション、行政など多くの職種の方々のかかわりが必要である。かかわることができるために、最近の新しい脳科学の知見と組み合わせ、染色体異常、奇形症候群、精神遅滞児の診断、成因、養育の方法について修得する。  |                  |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究疑問から、研究テーマについて考え、細部について検討、細部の修正、絞り込みができる。<br>2) 文献レビューについて理解し、説明できる。文献を読み、内容を理解、整理できる。文献の内容をカード化できる。<br>3) 研究とは何か、研究疑問、仮説、実験的研究、記述的研究について理解し、説明できる。<br>4) 研究プロトコル、研究計画について理解し、研究計画書を作り、修正することができる。<br>5) 対象者に説明し、同意を得て、データを収集することができる。データの入力と分析方法、処理について理解し、説明できる。<br>6) 論文のアウトライン、方法と結果、考察と研究背景、文献を書くことができ、論文を仕上げることができる。<br>7) パワーポイントで、プレゼンテーションを作成し、内容を、規定時間に合わせて修正し、発表ができ、質問に答えることができる。 |                  |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は、現在までに学会発表および論文執筆をしてきた。  |                  |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 課題の発表、論文作成などを総合して評価する。  |                  |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>自分で調べる技術を身につけておくこと。  |                  |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 18:00~19:00   |                  |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                  |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容          |              |        |            | 授 業<br>方 法   | 担 当       |
| 1                   | 1)  | 研究テーマの決定①        |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 2                   | 1)  | 研究テーマの決定②        |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 3                   | 2)  | 研究テーマに関する文献の検索①  |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 4                   | 2)  | 研究テーマに関する文献の検索②  |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 5                   | 3)  | 研究方法の検討①         |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 6                   | 3)  | 研究方法の検討②         |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 7                   | 4)  | 研究計画①            |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 8                   | 4)  | 研究計画②            |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 9                   | 5)  | データの収集           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 10                  | 5)  | データの分析①          |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 11                  | 5)  | データの分析②          |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 12                  | 6)  | 論文の執筆①           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 13                  | 6)  | 論文の執筆②           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 14                  | 7)  | 発表(プレゼンテーション)の準備 |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 15                  | 7)  | 発表(プレゼンテーション)    |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特になし。            |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特になし。            |              |        |            |              |           |

|                            |   |      |              |        |            |              |           |
|----------------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 特別課題研究 I  |      |              | 授業コード  | 121310A206 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)                   | 作業療法学科(3年)  |      |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 樋口博之(保・作)   | 開講学期 | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 興味あるテーマの先行研究を検索し、研究テーマを決定する。次に、研究目的にあった研究方法(研究計画)を作成し、測定(調査)を実施する。得られたデータを分析して研究発表を行う。(特別課題研究Ⅱでは、研究論文をまとめる)<br>研究分野は作業療法に限定せず、運動生理学、行動科学、予防医学に関する内容とし、一人で研究計画を立案し、実施、まとめることができることを目標とする。                              |      |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1)先行研究を検索・整理し、研究テーマを見つける<br>2)研究目的にあった研究計画を立案する<br>3)研究計画を実施し、結果をまとめる<br>4)研究発表を行う  |      |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | レポート提出、課題研究発表、論文作成等を総合して成績を評価する。  |      |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 【指導方針】<br>ヒトを対象とした研究を基本とする。したがって、研究の目的や測定法を十分に説明するための、コミュニケーション能力が最低限必要である。研究は、教員からの指示待ちだけでは進行しないと考える。よって、研究に対して積極的な学生であれば、学術的に高いレベルの指導も行う。<br>※課題研究発表は特別課題研究Ⅱで行いますが、研究データの収集ができない場合は再履修となります。平均1コマ当たり2時間の予習・復習を行うこと。 |      |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 火曜日 12:30～13:30 研究室   |      |              |        |            |              |           |

| 授業計画               |             |   |  |  |  |          |     |
|--------------------|-------------|---|--|--|--|----------|-----|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                                   |  |  |  | 授業<br>方法 | 担当  |
| 1                  | 1           | 研究テーマの設定①                                 |  |  |  | 講義・演習    | 樋 口 |
| 2                  | 1           | 研究テーマの設定②                                 |  |  |  |          |     |
| 3                  | 1           | 研究テーマの設定③                                 |  |  |  |          |     |
| 4                  | 2           | 研究計画の立案① MS-word を利用する                    |  |  |  |          |     |
| 5                  | 2           | 研究計画の立案②                                  |  |  |  |          |     |
| 6                  | 2           | 研究計画の立案③                                  |  |  |  |          |     |
| 7                  | 3           | 研究結果をまとめる① Excel や図表作成ソフトを利用する            |  |  |  |          |     |
| 8                  | 3           | 研究結果をまとめる②                                |  |  |  |          |     |
| 9                  | 3           | 研究結果をまとめる③                                |  |  |  |          |     |
| 10                 | 3           | 研究結果を考察する①                                |  |  |  |          |     |
| 11                 | 3           | 研究結果を考察する②                                |  |  |  |          |     |
| 12                 | 3           | 研究結果を考察する③                                |  |  |  |          |     |
| 13                 | 4           | 研究発表の準備① PowerPoint を利用する                 |  |  |  |          |     |
| 14                 | 4           | 研究発表の準備②<br>課題研究の発表 ※他のゼミとの合同発表会を予定しています。 |  |  |  |          |     |
| 15                 | 4           | ※論文発表までのモデル内容です。                          |  |  |  |          |     |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | なし  |  |  |  |          |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 授業中に紹介する                                  |  |  |  |          |     |



|                     |  |                          |              |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I   |                          |              | 授業コード  | 121310A205 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |                          |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)   | 開講学期                     | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 科学的根拠に基づいたリハビリテーションの実践が言われて久しいが、エビデンスレベルの高い作業療法に関する研究は決して多くはない。この講義では、将来臨床家として作業療法に関する研究が実践できるよう、課題解決の過程およびその方法を学習することを目的とする。研究テーマは自由であるが、以下の内容が望ましい; 1) 健康成人の認知機能(視覚認知・ワーキングメモリ・情動など)に関する神経生理学・認知神経心理学的研究、2) 認知症者の認知機能障害に関する研究、3) 高齢者の転倒予防。また文献抄読を通じて、神経科学に関する最新の知見についても学習する。 |                          |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 課題研究の意義と目的について理解・説明できる。<br>2) 研究疑問を挙げ、研究テーマを検討できる。<br>3) 研究デザインについて理解・説明できる。<br>4) 研究における倫理的事項を理解し実践できる。<br>5) 文献レビューから研究テーマを設定し、研究計画を立案できる。<br>6) 予備研究を計画・実行できる。<br>7) 予備研究から研究計画書(実験プロトコル)を作成できる。   |                          |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法や神経科学に関する学会・論文発表経験や、九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学教室 共同研究員(H30~)としての研究実績に基づき、研究計画立案からデータ収集、統計解析、プレゼンテーションまでを独力でいえるようになることを目標に授業を行う。   |                          |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 研究成果の発表 60%、ゼミノート(ポートフォリオ) 30%、受講態度 10%で評価する。  |                          |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自身の関心領域や研究テーマに関する書籍・論文を精読すること。また定期的に文献抄読会を開催するので、1回の講義につき、自主学習や事前準備を60分以上行うこと。   |                          |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 前期 木曜日 14:00~17:00<br>後期 月曜日 14:00~17:00   |                          |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                          |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                  |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | オリエンテーション                |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 2                   | 2)   | 研究疑問とテーマを考える             |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 3                   | 3)   | 研究様式と分類について              |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 4                   | 4)   | 倫理的義務と責任について             |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 5                   | 5)   | 文献レビューの意味と方法             |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 6                   | 5)   | 研究疑問と文献レビューから研究テーマを発見する① |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 7                   | 5)   | 研究疑問と文献レビューから研究テーマを発見する② |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 8                   | 5)   | 研究疑問と文献レビューから研究テーマを発見する③ |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 9                   | 5)   | 研究テーマの絞り込み               |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 10                  | 5)   | 研究の手順・手法と研究計画書案の作成       |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 11                  | 6)   | 予備研究(パイロットスタディ)の実施①      |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 12                  | 6)   | 予備研究(パイロットスタディ)の実施②      |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 13                  | 7)   | 研究計画書の作成①                |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 14                  | 7)   | 研究計画書の作成②                |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 15                  | 7)   | 研究計画書の作成③                |              |        |            | 講 義          | 田 中       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特になし。                    |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特になし。                    |              |        |            |              |           |

|                     |   |  |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I  |  |              | 授業コード  | 121310A202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |  |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 江口 喜久雄(保・作)   | 開講学期                                   | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>精神科における作業療法では、目に見えない症状に対してアプローチを実施することが多いため、何を基準として治療効果を検証しているのか判断できないことが多いと言われる。</p> <p>そのため、この講義では、認知症の人を含めた精神科における作業療法において根拠に基づいた治療を実施するために、関連する文献を検索し学習する。その後、研究テーマを決定し、実際の病院で、患者や医療スタッフから情報収集を行う、もしくは研究テーマに関連する文献研究を行うことで、根拠に基づく治療を実施できる作業療法士になれるように基本的姿勢を養う。</p> |  |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1) 研究疑問を挙げることができる</p> <p>2) 研究テーマを決定することができる</p> <p>3) 必要な文献を検索することができる</p> <p>4) 研究方法を説明することができる</p> <p>5) 研究計画書を作成することができる</p>   |  |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床での実務経験や今まで実施してきた研究結果を用いて、講義・演習を実施する。   |  |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 研究計画書作成(50%)、課題への取り組み姿勢(課題提出、質問・発言などの参加)(50%)にて評価する。  |  |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本科目は、自ら積極的に取り組むことが大切である。さらに、1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。  |  |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月~木曜日(12:30~13:00)  |  |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                                |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定①】 研究疑問から、研究テーマについて考える。       |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 2                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定②】 研究テーマの細部について検討できる。         |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 3                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定③】 研究テーマの細部の修正ができる。           |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 4                   | 1)2)  | 【研究テーマの決定④】 研究テーマの絞り込みができる。            |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 5                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索①】 文献検索方法を把握し、検索できる。    |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 6                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索②】 文献の種別を理解し、説明できる。     |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 7                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索③】 文献レビューについて理解し、説明できる。 |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 8                   | 3)  | 【研究テーマに関する文献の検索④】 文献を読み、内容を理解し、整理できる。  |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 9                   | 4)  | 【研究方法の検討①】 研究とは何かについて理解し、説明できる。        |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 10                  | 4)  | 【研究方法の検討②】 研究疑問について理解し、説明できる。          |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 11                  | 4)  | 【研究方法の検討③】 仮説について理解し、説明できる。            |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 12                  | 4)  | 【研究方法の検討④】 実験的研究について理解し、説明できる。         |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 13                  | 4)  | 【研究方法の検討⑤】 記述的研究について理解し、説明できる。         |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 14                  | 4)  | 【研究計画①】 研究プロトコルについて検討し、説明できる。          |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 15                  | 5)  | 【研究計画②】 研究計画を立案することができる。               |              |        |            | 講義・演習        | 江 口       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 指定なし。                                  |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 指定なし。                                  |              |        |            |              |           |

|                     |   |                   |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究 I  |                   |              | 授業コード  | 121310A207 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |                   |              | ナンバリング | 21C323P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中田 富久(保・作)  | 開講学期              | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 身体障害領域のリハビリテーションは日進月歩で変化し、AI,IOT、ロボットなどの参画も盛んになってきた。これらが作業療法で臨床応用されるのは遠いことではない。研究は、使う、作る、伝えるといった3側面を持ち、これらを包括的に捉え、対象者に生じる作業の問題を研究のプロセスを通して解決できる基礎を養うことを目標とする。テーマは自由であるが、身体障害領域のものが好ましく、特に自動車運転、脳損傷者の自己認識、機能障害などがよい。 |                   |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | ①研究の目的、意義について説明できる<br>②研究疑問から、研究テーマを決定できる<br>③研究デザインを検討・理解し選定できる<br>④研究倫理について理解できる<br>⑤研究計画を立案しプロトコルを作成することができる<br>⑥予備研究を実施することができる<br>⑦予備研究を踏まえ研究計画書を作成することができる  |                   |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 指導教員(中田)の臨床経験、学会発表、論文執筆の経験から指導を行う   |                   |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 到達目標の達成具合(70%)、取り組み姿勢(15%)、授業態度(15%)  |                   |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 主体性が重要であり、1時間以上の学習を習慣的に行うこと。  |                   |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間以外の在室中  |                   |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                   |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容           |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | ①   | オリエンテーション         |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 2                   | ②   | 研究疑問と文献レビューについて   |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 4                   | ②   | 研究テーマの設定①         |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 4                   | ②   | 研究テーマの設定②         |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 5                   | ②   | 研究テーマの設定③         |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 6                   | ③   | 研究デザインについて①       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 7                   | ③   | 研究デザインについて②       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 8                   | ④   | 研究倫理について          |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 9                   | ⑤   | 研究プロトコルの作成        |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 10                  | ⑥   | 予備研究の実施①          |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 11                  | ⑥   | 予備研究の実施②          |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 12                  | ⑦   | 予備研究の検討と研究計画書の作成① |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 13                  | ⑦   | 予備研究の検討と研究計画書の作成② |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 14                  | ⑦   | 予備研究の検討と研究計画書の作成③ |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 15                  | ⑦   | 予備研究の検討と研究計画書の作成④ |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特に使用しません  |                   |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた友利 幸之介/京極 真/竹林 崇【978-4-260-03662-7】   |                   |              |        |            |              |           |

|                     |  |  |              |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ  |  |              | 授業コード  | 121311A202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)   |  |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)  | 開講学期   | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義、演習、SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 地域における発達障がいを持つ子どもとその家族を支える療育や、子育て支援についての概要を知り、実際の関わりを通して支援および研究の視点を養う。第一段階:療育や子育て支援に関する現状を文献にて学習する。第二段階:実際の現場に赴き関連職種や当事者から情報収集を行うなどのフィールドワークや調査研究の実施、またはそれらに関する文献研究を行う。第三段階:前述の内容を論文としてまとめる。 |  |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)研究計画を作成することができる。<br>2)予備研究を実施することができる。<br>3)データ収集ができる。<br>4)データ分析ができる。<br>5)論文作成ができる。<br>6)発表が出来る。<br>7)論理義務と責任について説明できる。  |  |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づいた作業療法研究についての授業を行う。   |  |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 課題への取り組み、課題の発表、論文作成などを総合して評価する。  |  |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 主体的に取り組むこと。講義時間以外に30時間の自己学習、フィールドワークを実施すること。   |  |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 木曜日 12:30～13:00  |  |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 【研究計画③】<br>予備研究の結果に基づき、研究計画を修正できる。                                 |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 2                   | 1)   | 【研究計画④】<br>研究計画書を書くことができる。   |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 3                   | 1)   | 【研究計画⑤】<br>研究計画書を修正することができる。                                       |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 4                   | 2)   | 【予備研究①】<br>予備研究について理解し、説明できる。                                      |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 5                   | 2)   | 【予備研究②】<br>予備研究を実践できる。   |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 6                   | 3)7)   | 【データの収集】<br>対象者に説明し、同意を得て、データを収集することができる。研究の倫理的義務と責任について理解し、説明できる。 |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 7                   | 4)   | 【データの分析】<br>データの入力と分析方法ができる。                                       |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 8                   | 4)   | 【データの分析②】<br>データ処理について理解し、説明できる。                                   |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 9                   | 5)   | 【論文の執筆①】<br>論文のアウトラインを書くことができる。                                    |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 10                  | 5)   | 【論文の執筆②】<br>方法と結果を書くことができる。  |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 11                  | 5)   | 【論文の執筆③】<br>考察と研究背景、文献を書くことができ、論文を仕上げるすることができる。                    |              |        |            | SGD・演習       | 内 勢       |
| 12                  | 6)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備①】<br>パワーポイントで、プレゼンテーションを作成できる。                   |              |        |            | 演 習          | 内 勢       |
| 13                  | 6)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備②】<br>プレゼンテーションの内容を、規定時間に合わせて修正できる。               |              |        |            | 演 習          | 内 勢       |
| 14                  | 6)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備③】<br>発表の予演を行い、内容を修正できる。                          |              |        |            | 演 習          | 内 勢       |
| 15                  | 6)   | 【発表(プレゼンテーション)】<br>発表ができ、質問に答えることができる。                             |              |        |            | 演 習          | 内 勢       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 授業の中で紹介する。   |              |        |            |              |           |

|                     |   |      |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ   |      |              | 授業コード  | 121311A203 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |      |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 立石 修康(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 非利き手書字(テーマ1), 徒手筋力検査手技の検証(テーマ2), 福祉機器の開発(テーマ3)より一つのテーマを選択し, 研究計画を立案し, 研究プロセスを実践し, 結果を考察し, 研究を発表し, 研究能力を育成する。  |      |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 全ての段階において研究倫理を遵守した方法を実践できることを前提に, 特別課題研究Ⅰに引き続き, 以下を到達目標とする。<br>3) 研究プロトコルを立案することができる。<br>4) データを収集することができる。<br>5) データを解釈し考察することができる。<br>6) プレゼンテーションができる。 |      |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士(1981年免許取得), 特に身体障害領域の作業療法士としての実務経験を活かして指導する。  |      |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 取り組み姿勢を50%、研究結果、成果物、論文作成、発表等を50%とし総合的に評価する。   |      |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自分で調べる技術を身につけておくこと。<br>各担当ごとの内容を確認すること。<br>各回の授業内容について、60分程度の予習と復習を行うこと。  |      |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日、13時から17時  |      |              |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                           | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|-----------------------------------|------------|-----|
| 1  | 3)          | 予備研究を実践できる。                       | 講義・演習      | 立 石 |
| 2  | 3)          | 予備研究の結果に基づき、研究計画を修正できる。           | 講義・演習      | 立 石 |
| 3  | 3)          | 研究計画書を書くことができる。                   | 講義・演習      | 立 石 |
| 4  | 3)          | 研究計画書を修正することができる。                 | 講義・演習      | 立 石 |
| 5  | 3)          | 研究に必要な文献を探すことができる。                | 講義・演習      | 立 石 |
| 6  | 3)          | 文献を読み、内容を理解、整理できる。                | 講義・演習      | 立 石 |
| 7  | 4)          | 対象者に説明し、同意を得て、データを収集することができる。     | 講義・演習      | 立 石 |
| 8  | 4)          | データの入力と分析方法ができる。                  | 講義・演習      | 立 石 |
| 9  | 5)          | 論文のアウトラインを書くことができる。               | 講義・演習      | 立 石 |
| 10 | 5)          | 方法と結果を書くことができる。                   | 講義・演習      | 立 石 |
| 11 | 5)          | 考察と研究背景、文献を書くことができ、論文を仕上げることができる。 | 講義・演習      | 立 石 |
| 12 | 6)          | パワーポイントで、プレゼンテーションを作成できる。         | 講義・演習      | 立 石 |
| 13 | 6)          | プレゼンテーションの内容を、規定時間に合わせて修正できる。     | 講義・演習      | 立 石 |
| 14 | 6)          | 発表の予演を行い、内容を修正できる。                | 講義・演習      | 立 石 |
| 15 | 6)          | 発表ができ、質問に答えることができる。               | 講義・演習      | 立 石 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |   |                  |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ   |                  |              | 授業コード  | 121311A204 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |                  |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)   | 開講学期             | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義と討論     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 特別課題研究Ⅰに引き続き、染色体異常、奇形症候群、精神遅滞を伴う小児への作業療法を含めた包括医療をテーマにする。染色体異常、奇形症候群、精神遅滞児の臨床においては、小児科医や小児精神科医のみではなく、教育、心理、福祉、保育、言語治療、看護、リハビリテーション、行政など多くの職種の方々のかかわりが必要である。かかわることができるために、最近の新しい脳科学の知見と組み合わせ、染色体異常、奇形症候群、精神遅滞児の診断、成因、養育の方法について修得する。   |                  |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究疑問から、研究テーマについて考え、細部について検討、細部の修正、絞り込みができる。<br>2) 文献レビューについて理解し、説明できる。文献を読み、内容を理解、整理できる。文献の内容をカード化できる。<br>3) 研究とは何か、研究疑問、仮説、実験的研究、記述的研究について理解し、説明できる。<br>4) 研究プロトコル、研究計画について理解し、研究計画書を作り、修正することができる。<br>5) 対象者に説明し、同意を得て、データを収集することができる。データの入力と分析方法、処理について理解し、説明できる。<br>6) 論文のアウトライン、方法と結果、考察と研究背景、文献を書くことができ、論文を仕上げることができる。<br>7) パワーポイントで、プレゼンテーションを作成し、内容を、規定時間に合わせて修正し、発表ができ、質問に答えることができる。 |                  |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は、いままで学会発表および論文執筆を行ってきた。  |                  |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 課題の発表、論文作成などを総合して評価する。  |                  |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>自分で調べる技術を身につけておくこと。  |                  |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 18:00～19:00   |                  |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                  |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容          |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 研究テーマの決定①        |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 2                   | 1)  | 研究テーマの決定②        |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 3                   | 2)  | 研究テーマに関する文献の検索①  |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 4                   | 2)  | 研究テーマに関する文献の検索②  |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 5                   | 3)  | 研究方法の検討①         |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 6                   | 3)  | 研究方法の検討②         |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 7                   | 4)  | 研究計画①            |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 8                   | 4)  | 研究計画②            |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 9                   | 5)  | データの収集           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 10                  | 5)  | データの分析①          |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 11                  | 5)  | データの分析②          |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 12                  | 6)  | 論文の執筆①           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 13                  | 6)  | 論文の執筆②           |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 14                  | 7)  | 発表(プレゼンテーション)の準備 |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 15                  | 7)  | 発表(プレゼンテーション)    |              |        |            | 講義と討論        | 園 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特にありません          |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特にありません。         |              |        |            |              |           |

|                     |   |      |              |        |            |              |                  |
|---------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|------------------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ   |      |              | 授業コード  | 121311A205 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)        |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |      |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○                |
| 担当者                 | 樋口博之(保・作)   | 開講学期 | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | ※通年科目です<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 特別課題研究Ⅰで行った研究内容を研究論文としてまとめる。<br>総合臨床実習(長期実習)以外の時間で、客観的に論文をまとめる能力を身につける(集中講義)。 |      |              |        |            |              |                  |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 投稿規定(要項)に従った形式で論文を作成する<br>2) 査読(コメント)に対して、必要な修正が行える                        |      |              |        |            |              |                  |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |      |              |        |            |              |                  |
| 評価方法                | 研究論文の作成および投稿までのプロセスを総合して評価する  |      |              |        |            |              |                  |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 特別課題研究Ⅰの単位を取得していること<br>※平均1コマ当たり2時間の予習・復習を行うこと。                               |      |              |        |            |              |                  |
| オフィスアワー             | 火曜日 12:30～13:30 研究室   |      |              |        |            |              |                  |

| 授業計画 |             |   |  |  |  |          |     |
|------|-------------|---|--|--|--|----------|-----|
| 回数   | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   |  |  |  | 授業<br>方法 | 担当  |
| 1    | 1)2)        | 第一段階) 研究論文をまとめるために、MS-Word(原則)を使用して、添削と修正を繰り返し行います。また、図表の作成は Excel と PowerPoint を使用します。 |  |  |  | 講義・演習    | 樋 口 |
| 2    |             | 第二段階) 投稿規定に沿った形式であるか確認した後、論文の投稿を行う。   |  |  |  |          | 樋 口 |
| 3    |             | 第三段階) 査読コメントに対して、必要な修正を加えて再投稿を行う。   |  |  |  |          | 樋 口 |
| 4    |             |   |  |  |  |          |     |
| 5    |             |   |  |  |  |          |     |
| 6    |             |   |  |  |  |          |     |
| 7    |             |   |  |  |  |          |     |
| 8    |             |   |  |  |  |          |     |
| 9    |             |   |  |  |  |          |     |
| 10   |             |   |  |  |  |          |     |
| 11   |             |   |  |  |  |          |     |
| 12   |             |   |  |  |  |          |     |
| 13   |             |   |  |  |  |          |     |
| 14   |             |   |  |  |  |          |     |
| 15   |             |   |  |  |  |          |     |

|                    |            |
|--------------------|------------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない      |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 必要に応じて紹介する |

|                     |  |                      |              |        |            |              |           |     |
|---------------------|--|----------------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ  |                      |              | 授業コード  | 121311A206 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)   |                      |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○         |     |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)   | 開講学期                 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演 習       |     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 科学的根拠に基づいたリハビリテーションの実践が言われて久しいが、エビデンスレベルの高い作業療法に関する研究は決して多くはない。この講義では、将来臨床家として作業療法に関する研究が実践できるよう、課題解決の過程およびその方法を学習することを目的とする。研究テーマは自由であるが、以下の内容が望ましい; 1) 健康成人の認知機能(視覚認知・ワーキングメモリ・情動など)に関する神経生理学・認知神経心理学的研究、2) 認知症者の認知機能障害に関する研究、3) 高齢者の転倒予防。また文献抄読を通じて、神経科学に関する最新の知見についても学習する。 |                      |              |        |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 予備研究から研究計画書を作成できる。<br>2) データ収集ができる。<br>3) 統計について理解し、得られたデータを処理・解析できる。<br>4) 解析結果から先行研究を踏まえて考察できる。<br>5) 研究結果のプレゼンテーションができる。   |                      |              |        |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法や神経科学に関する学会・論文発表経験や、九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学教室 共同研究員(H30~)としての研究実績に基づき、研究計画立案からデータ収集、統計解析、プレゼンテーションまでを独力でできるようになることを目標に授業を行う。   |                      |              |        |            |              |           |     |
| 評価方法                | 研究成果の発表 60%、ゼミノート(ポートフォリオ) 30%、受講態度 10%で評価する。  |                      |              |        |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自身の関心領域や研究テーマに関する書籍・論文を精読すること。また定期的に文献抄読会を開催するので、1回の講義につき、自主学習や事前準備を60分行うこと。   |                      |              |        |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 前期 木曜日 14:00~17:00<br>後期 月曜日 14:00~17:00   |                      |              |        |            |              |           |     |
| 授業計画                |  |                      |              |        |            |              |           |     |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容              |              |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当  |
| 1                   | 1)   | 文献・資料の収集・整理①         |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 2                   | 2)   | 文献・資料の収集・整理②         |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 3                   | 3)   | データの収集①              |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 4                   | 4)   | データの収集②              |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 5                   | 5)   | データ処理について(統計ソフトの使用法) |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 6                   | 5)   | データ処理①               |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 7                   | 5)   | データ処理②               |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 8                   | 5)   | 結果の分析①               |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 9                   | 5)   | 結果の分析②               |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 10                  | 5)   | 分析結果の考察①             |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 11                  | 6)   | 分析結果の考察②             |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 12                  | 6)   | 分析結果の考察③             |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 13                  | 7)   | 発表準備①                |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 14                  | 7)   | 発表準備②                |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 15                  | 7)   | 発表                   |              |        |            |              | 演 習       | 田 中 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特になし。                |              |        |            |              |           |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特になし。                |              |        |            |              |           |     |



|                     |   |   |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ   |   |              | 授業コード  | 121311A207 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(4年)  |   |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 江口 喜久雄(保・作)   | 開講学期  | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 精神科における作業療法では、目に見えない症状に対してアプローチを実施することが多いため、何を基準として治療効果を検証しているのか判断できないことが多いと言われる。<br>そのため、この講義では、認知症の人を含めた精神科における作業療法において根拠に基づいた治療を実施するために、関連する文献を検索し学習する。その後、研究テーマを決定し、実際の病院で、患者や医療スタッフから情報収集を行う、もしくは研究テーマに関連する文献研究を行うことで、根拠に基づく治療を実施できる作業療法士になれるように基本的姿勢を養う。  |   |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究テーマを決定することができる。<br>2) 必要な文献を検索することができる。<br>3) 研究方法を説明することができる。<br>4) 研究計画書を作成することができる。<br>5) 予備研究を実施することができる。<br>6) 予備研究の結果に基づいた研究計画書の修正ができる。<br>7) 対象者に説明し、同意を得ることができる。<br>8) 倫理的義務と責任について理解し、説明できる。<br>9) データの収集を行うことができる。<br>10) 統計処理を行いデータの分析ができる。<br>11) 論文を作成することができる。<br>12) 他者に伝えるためのプレゼンテーションを作成することができる。 |   |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床での実務経験や今まで実施してきた研究結果を用いて、講義・演習を実施する。   |   |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 課題研究発表(50%)、課題への取り組み姿勢(課題提出、質問・発言などの参加)(50%)にて評価する。   |   |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本科目は、自ら積極的に取り組むことが大切である。さらに、1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。  |   |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月～木曜日(12:30～13:00)  |   |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)<br>3)4)  | 【研究計画①】 研究計画書を書くことができる。   |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 2                   | 1)2)<br>3)4)  | 【研究計画②】 研究計画書を修正することができる。                                       |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 3                   | 5)  | 【予備研究①】 予備研究について理解し、説明できる。                                      |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 4                   | 5)  | 【予備研究②】 予備研究を実践できる。   |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 5                   | 6)  | 【予備研究③】予備研究の結果に基づいた研究計画書の修正ができる。                                |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 6                   | 7)8)<br>9)  | 【データの収集】 対象者に説明し、同意を得て、データを収集することができる。研究の倫理的義務と責任について理解し、説明できる。 |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 7                   | 10)   | 【データの分析①】 データの入力と分析方法を理解し、実施できる。                                |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 8                   | 10)   | 【データの分析②】 データ処理について理解し、説明できる。                                   |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 9                   | 11)   | 【論文の執筆①】 論文のアウトラインを書くことができる。                                    |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 10                  | 11)   | 【論文の執筆②】 方法と結果を書くことができる。  |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 11                  | 11)   | 【論文の執筆③】 考察と研究背景、文献を書くことができ、論文を仕上げることができる。                      |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 12                  | 12)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備①】 パワーポイントで、プレゼンテーションを作成できる。                   |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 13                  | 12)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備②】 プレゼンテーションの内容を、規定時間に合わせて修正できる。               |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 14                  | 12)   | 【発表(プレゼンテーション)の準備③】 発表の予演を行い、内容を修正できる。                          |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 15                  | 12)   | 【発表(プレゼンテーション)】 発表ができ、質問に答えることができる。                             |              |        |            | 演 習          | 江 口       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 指定なし。   |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 指定なし。   |              |        |            |              |           |

|                     |  |              |              |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 特別課題研究Ⅱ  |              |              | 授業コード  | 121311A208 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |              |              | ナンバリング | 21C423P02  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 中田 富久(保・作)   | 開講学期         | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>身体障害領域のリハビリテーションは日進月歩で変化し、AI・IoT、ロボットなどの参画も盛んになってきた。これらが作業療法で臨床応用されるのは遠いことではない。研究は、使う、作る、伝えるといった3側面を持ち、これらを包括的に捉え、対象者に生じる作業の問題を研究のプロセスを通して解決できる基礎を養うことを目標とする。テーマは自由であるが、身体障害領域のものが好ましく、特に自動車運転、脳損傷者の自己認識、機能障害などがよい。</p> |              |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>特別課題研究Ⅰに続き以下を到達目標とする</p> <p>①予備研究を踏まえ研究計画書を作成することができる</p> <p>②計画を実行しデータを集積できる</p> <p>③データを目的に応じて処理、解析できる</p> <p>④結果を考察できる</p> <p>⑤研究結果を報告できる</p>  |              |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 指導教員(中田)の臨床経験、学会発表、論文執筆の経験から指導を行う  |              |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 到達目標の達成具合(70%)、取り組み姿勢(15%)、授業態度(15%)   |              |              |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 主体性が重要であり、1時間以上の学習を習慣的に行うこと。   |              |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間以外の在室中   |              |              |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |              |              |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容      |              |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | ①  | 研究計画書の作成①    |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 2                   | ②  | 研究計画書の作成②    |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 3                   | ②  | 計画の実行、データ集積① |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 4                   | ②  | 計画の実行、データ集積② |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 5                   | ③  | データ処理、解析①    |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 6                   | ③  | データ処理、解析②    |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 7                   | ③  | 結果の分析①       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 8                   | ③  | 結果の分析②       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 9                   | ④  | 結果の考察①       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 10                  | ④  | 結果の考察②       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 11                  | ④  | 結果の考察③       |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 12                  | ⑤  | 発表準備①        |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 13                  | ⑤  | 発表準備②        |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 14                  | ⑤  | 発表準備③        |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 15                  | ⑤  | 発表           |              |        |            | 講義・演習        | 中 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特になし   |              |              |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 友利 幸之介/京極 真/竹林 崇【978-4-260-03662-7】   |              |              |        |            |              |           |

|                     |  |        |            |              |         |      |        |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|---------|------|--------|
| 科目名                 | 解剖学  | 授業コード  | 120212D201 | 単位数<br>(時間数) | 4<br>60 |      |        |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(1年)   | ナンバリング | 21C113P01  | AL科目         | ○       |      |        |
| 担当者                 | 近藤照義、立石修康(保・作)   | 開講学期   | 2020年度 前期  | 必修・選択        | 必修      | 授業形態 | 講義、SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 人体の正常な基本構造を知ることは医学の根本をなし、病理・病態を理解するために不可欠である。解剖学では、正常な人体の構造と機能を理解するために、人体を構成する細胞・組織・器官の顕微解剖および肉眼解剖レベルでの構造と機能に関する基本的知識を習得する。授業は、講義及び人体模型・パールチャルスライドを用いたスモールグループディスカッション(SGD)で進められ、解剖学総論、細胞、組織、骨格系、筋系、循環器系、消化器系について学習する。 |        |            |              |         |      |        |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人体の体形の概略を説明できる。2)細胞の構造と機能について説明できる。3)組織の種類と機能について説明できる。4)骨の構造と機能及び骨の連結について説明できる。5)骨格筋の構造及び人体の主要な骨格筋の種類と機能について説明できる。6)心臓・血管系の構造と機能について説明できる。7)リンパ系の構造と機能について説明できる。8)消化器系の構造と機能について説明できる。                              |        |            |              |         |      |        |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(近藤、立石)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、解剖学者(近藤)及び作業療法士(立石)としての実務経験を活かした授業を行う。   |        |            |              |         |      |        |
| 評価方法                | 授業確認小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。学習への取り組み姿勢(テスト返却の受け取り状況、課題の提出状況、授業態度)の評価を20%及び学期末の単位認定試験を80%として、単位認定を行う。評価の基準は授業開始日に説明する。   |        |            |              |         |      |        |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 教材として毎回プリントを配布するので、1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。返却された確認テストを再び自分で解き、完全に内容を理解すること。授業中の態度が悪い場合や、遅刻・途中退出が多い場合は、成績に考慮する。   |        |            |              |         |      |        |
| オフィスアワー             | 金曜日、13:00~17:00(近藤、立石)   |        |            |              |         |      |        |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.   | 授業内容                               | 授業方法   | 担当 |
|--------------------|---|------------------------------------|--------|----|
| 1                  | 1)4)  | 骨 1: 肩甲帯と上腕の骨の構成と骨の各部の名称を理解する。     | 講義、SGD | 立石 |
| 2                  | 1)4)  | 骨 2: 前腕と手の骨の構成と骨の各部の名称を理解する。       | 講義、SGD | 立石 |
| 3                  | 1)4)  | 骨 3: 骨盤の構成と骨の各部の名称を理解する。           | 講義、SGD | 立石 |
| 4                  | 1)4)  | 骨 4: 大腿と下腿の骨の構成と骨の各部の名称を理解する。      | 講義、SGD | 立石 |
| 5                  | 1)4)  | 骨 5: 足の骨の構成と骨の各部の名称を理解する。          | 講義、SGD | 立石 |
| 6                  | 1)4)  | 骨 6: 軸骨格の骨の構成と骨の各部の名称を理解する。        | 講義、SGD | 立石 |
| 7                  | 1)4)  | 骨 7: 頭蓋骨の構成と骨の各部の名称を理解する。          | 講義、SGD | 立石 |
| 8                  | 1)4)  | 関節 1: 上肢の関節の構成を理解する。               | 講義、SGD | 立石 |
| 9                  | 1)4)  | 関節 2: 下肢の関節の構成を理解する。               | 講義、SGD | 立石 |
| 10                 | 1)4)  | 関節 3: 軸骨格の関節の構成を理解する。              | 講義、SGD | 立石 |
| 11                 | 5)  | 筋 1: 肩と上腕の筋の種類と機能を理解する。            | 講義     | 立石 |
| 12                 | 5)  | 筋 2: 前腕と手の筋の種類と機能を理解する。            | 講義     | 立石 |
| 13                 | 5)  | 筋 3: 殿部と大腿の筋の種類と機能を理解する。           | 講義     | 立石 |
| 14                 | 5)  | 筋 4: 下腿と足の筋の種類と機能を理解する。            | 講義     | 立石 |
| 15                 | 5)  | 筋 5: 体幹の筋の種類と機能を理解する。              | 講義     | 立石 |
| 16                 | 2)  | 細胞の構造及び細胞内小器官の種類と機能を理解する。          | 講義     | 近藤 |
| 17                 | 3)  | 組織 1: 上皮組織と支持組織の種類と機能を理解する。        | 講義     | 近藤 |
| 18                 | 3)  | 組織 2: 筋組織と神経組織の種類と機能を理解する。         | 講義     | 近藤 |
| 19                 | 6)  | 循環器系 1: 循環器系の構成、血管の種類を理解する。        | 講義     | 近藤 |
| 20                 | 6)  | 循環器系 2: 心臓の構造と機能を理解する。             | 講義     | 近藤 |
| 21                 | 6)  | 循環器系 3: 心臓を観察し、構造を理解する。            | 講義、SGD | 近藤 |
| 22                 | 6)  | 循環器系 4: 上行大動脈と大動脈弓の枝、冠循環を理解する。     | 講義     | 近藤 |
| 23                 | 6)  | 循環器系 5: 頭頸部、上肢の動脈の分布を理解する。         | 講義     | 近藤 |
| 24                 | 6)  | 循環器系 6: 胸大動脈と腹大動脈の枝、下肢の動脈の分布を理解する。 | 講義     | 近藤 |
| 25                 | 6)  | 循環器系 7: 全身の静脈計の分布及び機能を理解する。        | 講義     | 近藤 |
| 26                 | 7)  | 循環器系 8: リンパ管系及びリンパ性器官の種類と機能を理解する。  | 講義     | 近藤 |
| 27                 | 8)  | 消化器系 1: 消化器系の概略、口腔・咽頭の構造と機能を理解する。  | 講義     | 近藤 |
| 28                 | 8)  | 消化器系 2: 食道・胃の構造と機能を理解する。           | 講義     | 近藤 |
| 29                 | 8)  | 消化器系 3: 小腸・大腸の構造と機能を理解する。          | 講義     | 近藤 |
| 30                 | 8)  | 消化器系 4: 肝臓・膵臓・腹膜の構造と機能を理解する。       | 講義     | 近藤 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | Standard Textbook 解剖学 第4版(奈良 勲、鎌倉 矩子) 医学書院【9784260020084】 |                                    |        |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 必要な場合は適宜紹介します。  |                                    |        |    |

|                     |  |          |              |        |            |              |         |
|---------------------|--|----------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 作業活動分析学・演習   |          |              | 授業コード  | 121208C201 | 単位数<br>(時間数) | 3<br>90 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年)   |          |              | ナンバリング | 21C213P03  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作), 立石 修康<br>(保・作), 内勢 美絵子(保・作),<br>江口 喜久雄(保・作), 中田 富<br>久(保・作), 黒木 彩(非常勤講<br>師)   | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 作業療法は、作業活動を媒介として様々な障害を持つ対象者を治療・指導・援助する技術である。この講義では、具体的な作業・活動分析を通して、どのように「作業」を対象者に適応して行くかについて講義と演習を行う中で学ぶ。特に、演習では作業療法で用いられる各種の作業活動を実践する上で必要な知識と技術を習得する。                     |          |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)作業療法と作業との関係について説明できる。2)作業療法の適応と分類について説明できる。3)作業分析について説明できる。4)各作業活動に必要な環境、素材、道具を説明できる。5)各作業活動を実施することができる。6)各作業活動の工程、治療的意義を説明できる。7)各作業活動を実施できる。8)各作業活動を分析しレポートを作成することができる。 |          |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 各教員の作業療法士としての臨床経験に基づき、治療手技としての作業活動の理論と技術について指導し、臨床実習において対象者に適用できるようにすることを目指す。  |          |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 各種目毎のレポート(50%)、各種目で制作した作品(50%)   |          |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の注<br>意等    | 各講義ごとに復習を行い理解を深めること。演習においては課題ごとにレポートの提出を求める。   |          |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 田中:水曜日 9:00~12:00 立石:金曜日 13:00~17:00 江口:月~木 12:30~13:00 内勢:前期 木曜日:12:30~13:00 後期 水曜日:12:30~13:00 中田:月~木 12:30~13:00  |          |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容  | 授業方法 | 担当     |  |  |  |
|--------------------|--|---|------|--------|--|--|--|
| 1                  | 1)2)3)   | 【作業療法と活動分析について①】 作業療法と作業との関係性について学び理解する。        | 講 義  | 田 中    |  |  |  |
| 2                  | 2)3)   | 【作業療法と活動分析について②】 心理社会的技能と作業分析について学び理解する。        | 講 義  | 江 口    |  |  |  |
| 3                  | 2)3)   | 【作業療法と活動分析について③】 感覚統合と作業分析について学び理解する。           | 講 義  | 内 勢    |  |  |  |
| 4                  | 2)3)   | 【作業療法と活動分析について④】 身体運動技能と作業分析の理論と方法について学び理解する。   | 講 義  | 中 田    |  |  |  |
| 5                  | 2)3)   | 【作業療法と活動分析について⑤】 認知技能と作業分析について学び理解する。           | 講 義  | 田 中    |  |  |  |
| 6                  | 4)5)6)7)   | 【作業活動:陶芸①】土練り・手びねりによる成形を行う。                     | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 7                  | 4)5)6)7)   | 【作業活動:アンデルセン手芸①】編み芯・たて芯を作る。                     | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 8                  | 4)5)6)7)   | 【作業活動:アンデルセン手芸②】作品を編む。                          | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 9                  | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:アンデルセン手芸③】コート剤で仕上げる。                      | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 10                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:陶芸②】絵付け・施釉を行う。                            | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 11                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:陶芸③】作品鑑賞・臨床応用について検討する。                    | 演 習  | 田 中    |  |  |  |
| 12                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:木工①】材料を加工する。                              | 演 習  | 立 石    |  |  |  |
| 13                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:木工②】材料を組み合わせる作品を作る。                       | 演 習  | 立 石    |  |  |  |
| 14                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:木工③】作品の仕上げをする。                            | 演 習  | 立 石    |  |  |  |
| 15                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:木工④】作品鑑賞・臨床応用について検討する。                    | 演 習  | 立 石    |  |  |  |
| 16                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:七宝焼き①】釉薬づくり・色盛り・作品の焼成を行う。                 | 演 習  | 内 勢    |  |  |  |
| 17                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:七宝焼き②】作品鑑賞・臨床応用について検討する。                  | 演 習  | 内 勢    |  |  |  |
| 18                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:絵画(臨床美術)①】作品を制作する。                        | 演 習  | 内 勢    |  |  |  |
| 19                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:絵画(臨床美術)②】完成した作品を紹介し臨床的応用について検討する。        | 演 習  | 黒木, 内勢 |  |  |  |
| 20                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:マクラメ①】作品を選びマクラメ紐を結ぶ。                      | 演 習  | 中 田    |  |  |  |
| 21                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:マクラメ②】仕上げる。作品鑑賞・臨床的応用について検討する。            | 演 習  | 中 田    |  |  |  |
| 22                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:タイルモザイク①】タイルを仮置きしデザインを決定する。タイルを接着剤で貼り付ける。 | 演 習  | 中 田    |  |  |  |
| 23                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:タイルモザイク②】目地入れし仕上げる。臨床的応用について検討する。         | 演 習  | 中 田    |  |  |  |
| 24                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:刺し子①】作品を制作する。                             | 演 習  | 内 勢    |  |  |  |
| 25                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:刺し子②】作品鑑賞・臨床的応用について検討する。                  | 演 習  | 内 勢    |  |  |  |
| 26                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:革細工①】革を裁断する。図案をトレースする。                    | 演 習  | 江 口    |  |  |  |
| 27                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:革細工②】カービングで図案を彫刻する。                       | 演 習  | 江 口    |  |  |  |
| 28                 | 4)5)6)7)   | 【作業活動:革細工③】染色する。穴を開けカシメ・ホックを打つ。                 | 演 習  | 江 口    |  |  |  |
| 29                 | 4)5)6)7)8)   | 【作業活動:革細工④】レーシングし仕上げる。臨床応用について検討する。             | 演 習  | 江 口    |  |  |  |
| 30                 | 4)5)6)7)8)   | 全体総括・環境整備                                       | 講 義  | 田 中    |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学(小林夏子, 福田恵美子) 医学書院 【ISBN978-4-260-00228-8】<br> つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル(古川宏) 医歯薬出版 【ISBN978-4-263-21397-1】 |   |      |        |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。   |   |      |        |  |  |  |

|                            |  |      |               |            |              |         |       |
|----------------------------|--|------|---------------|------------|--------------|---------|-------|
| 科目名                        | 作業療法評価Ⅱ  |      | 授業コード         | 121535C201 | 単位数<br>(時間数) | 3<br>90 |       |
| 配当学科(学年)                   | 作業療法学科(2 年次)   |      | ナンバリング        | 21C213P04  | AL 科目        | ○       |       |
| 担当者                        | 田中 睦英(保・作)   | 開講学期 | 2020 年度 前期～後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態    | 講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 1. 評価の概要について説明できる。 2. 関節可動域計測, 形態計測, 感覚検査, 反射検査, 協調性検査, 筋緊張検査, 意識障害の評価, 上肢機能検査, 徒手筋力検査, 脳卒中の運動機能評価が実施でき, 各検査についてのデータについて考察できる。 3. 脳卒中の運動障害の評価が実施できる。 4. 臨床活動(実習)の意義と倫理規定および情報保護について理解し実践できる。 5. 評価計画を立案し, データを記録および分析し障害構造を構造化できる。   |      |               |            |              |         |       |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1) 関節可動域 (ROM) 測定の基本を理解する。 2) 上肢の ROM が測定できる。 3) 下肢の ROM を測定できる。 4) 頭頸部・体幹の ROM を測定できる。 5) 形態計測の基礎知識を理解し, 実際に測定できる。 6) フィジカルアセスメント, Anderson の基準について理解し, 実践できる。 7) 腱反射・病的反射の原理を理解し, 評価ができる。 8) 協調性検査の基礎知識を理解し, 評価ができる。 9) 筋緊張検査の基礎知識を理解し, 評価ができる。 10) 上肢機能検査(主に STEF)の実施方法を理解し, 実践できる。 11) 感覚モダリティごとの評価法を理解し, 実践できる。 12) 徒手筋力検査(MMT)の概要と測定の原則を理解する。 13) 上肢の MMT を実施できる。 14) 手指の MMT を実施できる。 15) 下肢の MMT を実施できる。 16) 頭頸部・体幹の MMT を実施できる。 17) 脳卒中の運動障害とその評価方法の原則について理解し, 実際に評価できる。 18) 姿勢反応の構成要素とバランス戦略について理解し, 評価できる。 19) 情動や意欲障害について理解し, 評価ができる。 |      |               |            |              |         |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 身体障害分野および老年期分野での臨床経験に基づき, 各分野共通の評価方法の基礎を理解し, 臨床体験実習で臨床実習指導者の模倣ができる水準まで技術を修得できるよう, 演習中心に展開する。   |      |               |            |              |         |       |
| 準備学習・履修上の<br>注意等           | 本講義を受講するに当たって, あらかじめ解剖学や生理学の事前学習を必要とする。また, 講義および実技の予習と復習毎回 1 時間程度行い, 評価学のノート作成を行ってもらい。実技では, 骨や筋の触診を行なうので, 短パンや T シャツ等の着用をその都度指定する。特に, 男子学生には上半身を露出させることがある。何らかの事情で脱衣できない場合は, 事前に申し出る。事情を聴取の上, 配慮を決める。 初回配布の授業スケジュールに従って評価学ノートを作成し, 授業後ノート整理と実技の復習を行うこと(予復習 90 分)。  |      |               |            |              |         |       |
| オフィスアワー                    | 前期 木曜日 14:00~17:00 後期 月曜日 14:00~17:00  |      |               |            |              |         |       |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法  | 担当  |
|----|-------------|--|-------|-----|
| 1  | 1)2)        | ROM 測定の知識・技術を学び, 肩関節、上肢の測定法を習得する。              | 講義・演習 | 田 中 |
| 2  | 1)3)        | ROM 測定の知識・技術を学び, 下肢の測定法を習得する。                  | 講義・演習 | 田 中 |
| 3  | 1)4)        | ROM 測定の知識・技術を学び, 頭頸部・体幹の測定法を習得する。              | 講義・演習 | 田 中 |
| 4  | 1)2)3)4)    | 【ROM 測定のまとめ①】ROM 制限の成因や原因疾患等について学び, 理解する。      | 講義・演習 | 田 中 |
| 5  | 1)2)3)4)    | 【ROM 測定のまとめ②】測定結果の解釈方法を学び, 理解する。               | 講義・演習 | 田 中 |
| 6  | 5)          | 形態計測の知識・技術を学び, 測定方法を習得する。                      | 講義・演習 | 田 中 |
| 7  | 6)          | フィジカルアセスメント, Anderson の基準について学び, 理解する。         | 講義・演習 | 田 中 |
| 8  | 7)          | 反射検査の知識・技術について学び, 検査手法を習得する。                   | 講義・演習 | 田 中 |
| 9  | 8)          | 協調性検査の知識・技術を学び, 検査手法を習得する。                     | 講義・演習 | 田 中 |
| 10 | 9)          | 筋緊張検査の知識・技術を学び, 検査手法を習得する。                     | 講義・演習 | 田 中 |
| 11 | 10)         | 上肢機能検査(STEF)の知識・技術を学び, 検査手法を習得する。              | 講義・演習 | 田 中 |
| 12 | 11)         | 【感覚検査①】感覚モダリティごとの検査手法の知識・技術を学ぶ。                | 講義・演習 | 田 中 |
| 13 | 11)         | 【感覚検査②】触覚・識別覚の検査手法を習得する。                       | 講義・演習 | 田 中 |
| 14 | 11)         | 【感覚検査③】防御知覚(痛覚・温冷覚)の検査手法を習得する。                 | 講義・演習 | 田 中 |
| 15 | 11)         | 【感覚検査④】深部覚の検査手法を習得する。                          | 講義・演習 | 田 中 |
| 16 | 12)         | 【MMT①】徒手筋力検査(MMT)の概要について学び, 理解する。              | 講義・演習 | 田 中 |
| 17 | 13)         | 【MMT②】上肢(肩甲帯・肩)の MMT を習得する。                    | 講義・演習 | 田 中 |
| 18 | 13)         | 【MMT③】上肢(肘・前腕・手関節)の MMT を習得する。                 | 講義・演習 | 田 中 |
| 19 | 14)         | 【MMT④】手指の MMT を習得する。                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 20 | 14)         | 【MMT⑤】母指の MMT を習得する。                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 21 | 15)         | 【MMT⑥】下肢の MMT を習得する。                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 22 | 16)         | 【MMT⑦】頭頸部・体幹の MMT を習得する。                       | 講義・演習 | 田 中 |
| 23 | 12)~<br>16) | 【MMT⑧】MMT の結果の解釈と統合について学び, 理解する。               | 講義・演習 | 田 中 |
| 24 | 17)         | 脳卒中の運動障害の評価の概要について学び, 理解する。                    | 講義・演習 | 田 中 |
| 25 | 17)         | 脳卒中の運動障害の評価法(BRS, 上田 12G 法, FGA)を学び, 評価法を習得する。 | 講義・演習 | 田 中 |
| 26 | 18)         | 【姿勢反射・バランス評価①】正常な姿勢反応と姿勢戦略について学び, 理解する。        | 講義・演習 | 田 中 |
| 27 | 18)         | 【姿勢反射・バランス評価②】姿勢反射・バランス評価を学び, 評価法を習得する。        | 講義・演習 | 田 中 |
| 28 | 17)18)      | 脳卒中の運動障害評価・バランス評価の結果の解釈と統合について学び, 理解する。        | 講義・演習 | 田 中 |
| 29 | 19)         | 気分・うつ・意欲の評価法について学び, 理解する。                      | 講義・演習 | 田 中 |
| 30 | 19)         | 【全体総括】本講義で学んだ評価法について復習し, 臨床体験実習に向けた準備について検討する。 | 講義・演習 | 田 中 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学(岩崎 テル子)医学書院【978-4260267137】 ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版(田崎 義昭, 斎藤 佳雄, 坂井 文彦)南山堂【978-4525247171】 MMT-頭部・頸部・上肢(PT・OT のための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一, 仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903134】 MMT-体幹・下肢(PT・OT のための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一, 仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903141】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 特になし。   |

|                     |   |          |           |        |            |              |         |
|---------------------|---|----------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 作業療法評価Ⅳ   |          |           | 授業コード  | 121458B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年次)   |          |           | ナンバリング | 21C312P01  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)  | 開講学<br>期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義は、学生同士でモデル症例と作業療法士をロールプレイすることで、これまでに学んだ作業療法評価(主に身体障害領域の評価)を演習形式で学習し、実践的な技術に昇華することを目的とする。評価技能の到達度を判定する目的で、教員の演ずる模擬患者(Simulated patient; SP)を評価する客観的臨床能力試験(OSCE)を実施する。 また、臨床実習での院内発表や実習報告会を想定し、模擬症例の評価データを用いて症例報告書の作成とプレゼンテーションを独力でできるようになることを目指す。   |          |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)適切な面接が可能なコミュニケーション技法を実践できる(現病歴・既往歴に基づく主訴の聴取)。 2)院内を想定した安全な起居・移乗動作の介助、車椅子介助が実践できる。 3)バイタルチェック(血圧・脈拍・SpO2等)の測定ができる。 4)ROM検査が正確に行える。 5)筋力測定が正確に行える。 6)形態計測が正確に行える。 7)筋の触診と筋緊張評価が行える。 8)感覚検査が正確に行える。 9)反射検査(深部腱反射・病的反射)が正確に行える。 10)脳神経検査が正確に行える。 11)脳卒中中の麻痺側運動機能の評価が正確に行える。 12)運動失調の評価が正確に行える。 13)高次脳機能障害の評価(USN, 注意障害, 失行のスクリーニング, HDS-R/MMSE)ができ、特徴を説明できる。 14)基本動作の評価・分析(起居・立ち上がり・移乗)ができ、特徴を説明できる。 15)歩行動作の評価・分析ができ、特徴を説明できる。 16)トイレ動作の評価・分析ができ、特徴を説明できる。 17)更衣動作の評価・分析(上衣・下衣・靴下・靴)ができ、特徴を説明できる。 18)評価結果を統合・解釈し障害像を言語化できる。 19)目標設定に基づいて作業療法プログラムを考案できる。 20)症例報告書を作成し、口頭で報告ができる。 |          |           |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 身体障害分野および老年期分野での臨床経験に基づき、臨床評価実習・総合臨床実習で実施レベルに到達でき技術的基盤を習得できるよう、演習中心に展開する。   |          |           |        |            |              |         |
| 評価方法                | 実技試験(70%)、症例報告書(20%)、症例の口述発表(10%)で評価する。   |          |           |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の注<br>意等    | 本講義は3年次前期までに学んだ評価Ⅰ～Ⅲの内容および各領域の作業療法(特に身体障害作業療法技能Ⅰ・Ⅱ)の内容を実践レベルまで応用できるようになることが目標である。各講義回は学生によるSPの評価実技を中心に進行していくので、これまでの講義資料やテキスト、自主的な文献参照などによる予復習をそれぞれ90分程度求める。  |          |           |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 月曜日 14:00～17:00   |          |           |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業方法  | 担当  |
|----|-------------|---|-------|-----|
| 1  | 1)2)        | インテーク面接:ベッドサイド・リハ室での導入時面接とスクリーニングができる。          | 講義・演習 | 田 中 |
| 2  | 2)3)        | バイタルチェック:脈拍と血圧の測定,呼吸パターンと動脈血酸素飽和度(SpO2)の評価ができる。 | 講義・演習 | 田 中 |
| 3  | 2)4)        | ROM検査(上肢・手指)が正確にできる。                            | 講義・演習 | 田 中 |
| 4  | 2)4)        | ROM検査(下肢・体幹)が正確にできる。                            | 講義・演習 | 田 中 |
| 5  | 2)5)        | 筋力測定(上肢・手指)が正確にできる。                             | 講義・演習 | 田 中 |
| 6  | 2)5)        | 筋力測定(下肢・体幹)が正確にできる。                             | 講義・演習 | 田 中 |
| 7  | 2)6)        | 形態計測(周径)が正確にできる。                                | 講義・演習 | 田 中 |
| 8  | 2)6)        | 形態計測(上肢長・下肢長等)が正確にできる。                          | 講義・演習 | 田 中 |
| 9  | 2)7)        | 反射検査(深部腱反射・病的反射)が正確にできる。                        | 講義・演習 | 田 中 |
| 10 | 2)8)        | 筋の触診と筋緊張評価が正確にできる。                              | 講義・演習 | 田 中 |
| 11 | 2)9)        | 感覚検査(触覚・識別覚)が正確に行える。                            | 講義・演習 | 田 中 |
| 12 | 2)9)        | 感覚検査(温痛覚・固有受容覚)が正確にできる。                         | 講義・演習 | 田 中 |
| 13 | 2)10)       | 脳神経検査(視野検査)が正確にできる。                             | 講義・演習 | 田 中 |
| 14 | 2)10)       | 高次脳機能障害の評価ができる。                                 | 講義・演習 | 田 中 |
| 15 | 2)11)       | 麻痺側上肢の運動機能評価(BRS, FMA, SIAS)が正確に行える。            | 講義・演習 | 田 中 |
| 16 | 2)11)       | 麻痺側上肢の運動機能評価(MFT, STEF)が正確に行える。                 | 講義・演習 | 田 中 |
| 17 | 2)12)       | 運動失調の評価が正確に行える。                                 | 講義・演習 | 田 中 |
| 18 | 2)13)       | 立位バランスの評価ができる。                                  | 講義・演習 | 田 中 |
| 19 | 2)14)       | 基本動作の評価(起居動作)ができる。                              | 講義・演習 | 田 中 |
| 20 | 2)14)       | 基本動作の評価(移乗動作)ができる。                              | 講義・演習 | 田 中 |
| 21 | 2)15)       | 移動能力の評価(車椅子駆動)ができる。                             | 講義・演習 | 田 中 |
| 22 | 2)15)       | 移動能力の評価(歩行・階段昇降)ができる。                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 23 | 2)16)       | 食事動作の評価ができる。                                    | 講義・演習 | 田 中 |
| 24 | 2)16)       | 整容動作の評価ができる。                                    | 講義・演習 | 田 中 |
| 25 | 2)17)       | 更衣動作の評価(上衣)ができる。                                | 講義・演習 | 田 中 |
| 26 | 2)17)       | 更衣動作の評価(下衣・靴・装具)ができる。                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 27 | 18)19)20)   | 【症例検討①】模擬症例データから障害像を言語化する。                      | 講義・演習 | 田 中 |
| 28 | 18)19)20)   | 【症例検討②】目標を設定し作業療法プログラムを立案する。                    | 講義・演習 | 田 中 |
| 29 | 18)19)20)   | 【症例検討③】症例報告書を作成する。                              | 講義・演習 | 田 中 |
| 30 | 18)19)20)   | 【症例検討④】症例報告書をもとに口頭で報告する。                        | 講義・演習 | 田 中 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学(岩崎 テル子)医学書院【978-4260267137】 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(田崎 義昭, 斎藤 佳雄, 坂井 文彦)南山堂【978-4525247171】 MMT-頭部・頸部・上肢(PT・OTのための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一, 仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903134】 MMT-体幹・下肢(PT・OTのための測定評価 DVD Series)(伊藤 俊一, 仙石 泰仁)三輪書店【978-4895903141】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 特になし。   |

|                     |   |      |              |        |            |              |         |
|---------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 身体障害作業療法 I  |      |              | 授業コード  | 121459B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |      |              | ナンバリング | 21C313P01  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 中田 富久(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 作業療法の対象となる身体障害の特徴を理解し、作業療法を実践するに必要となる知識・技術を習得する。  |      |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | ①作業療法の対象となる身体障害領域について説明できる。 ②疾患の身体障害の特徴について説明できる。 ③身体障害の作業の関連について整理し説明できる。 ④身体障害者の作業療法(評価、目標設定、治療など)について説明できる。                      |      |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士として臨床で勤務経験を有する教員が、身体障害領域の作業療法について臨床症状、評価、臨床推論について説明し、具体的な治療内容について解説します。  |      |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 臨床経験を有す教員(作業療法士)による講義。  |      |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の注<br>意等    | 本講義では、脳血管障害を主に中枢神経系に由来する症状と作業との関係を学ぶことから、解剖学、生理学、内科学、運動学、日常生活活動技能といった幅広い知識を必要とする。そのため関連する分野の予習が必須である。また講義への積極的な参加、復習に努め理解を深める必要がある。 |      |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 講義時間以外の在室中  |      |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.  | 授業内容                           | 授業方法  | 担当  |
|----|--------------|--------------------------------|-------|-----|
| 1  | ①            | 講義オリエンテーション／身体作業領域における作業療法について | 講 義   | 中 田 |
| 2  | ①            | 脳血管障害の疫学                       | 講 義   | 中 田 |
| 3  | ①            | 脳血管障害の種類                       | 講 義   | 中 田 |
| 4  | ②            | 脳血管の構造と機能                      | 講 義   | 中 田 |
| 5  | ②            | 脳の構造と機能                        | 講 義   | 中 田 |
| 6  | ②            | 中枢神経系の機能と構造①                   | 講 義   | 中 田 |
| 7  | ②            | 中枢神経系の機能と構造②                   | 講 義   | 中 田 |
| 8  | ②            | 中枢神経系の機能と構造③                   | 講 義   | 中 田 |
| 9  | ②            | 脳血管障害の症状とその機構①                 | 講 義   | 中 田 |
| 10 | ②            | 脳血管障害の症状とその機構②                 | 講 義   | 中 田 |
| 11 | ②            | 脳血管障害の症状とその機構③                 | 講 義   | 中 田 |
| 12 | ②            | 脳血管障害の診断                       | 講 義   | 中 田 |
| 13 | ②③           | 脳血管障害者の障害                      | 講 義   | 中 田 |
| 14 | ①②           | 脳血管障害の整理                       | 講 義   | 中 田 |
| 15 | ③            | 脳血管障害のリハビリテーション①(病期、チームの役割)    | 講 義   | 中 田 |
| 16 | ③            | 脳血管障害のリハビリテーション②(病期、チームの役割)    | 講義・実技 | 中 田 |
| 17 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション③(障害・問題点の評価)    | 講義・実技 | 中 田 |
| 18 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション③(障害・問題点の評価)    | 講義・実技 | 中 田 |
| 19 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション④(ベッドサイド、早期訓練)  | 講義・実技 | 中 田 |
| 20 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション⑤(片麻痺)          | 講義・実技 | 中 田 |
| 21 | 4)5)6)7)8)9) | 脳血管障害のリハビリテーション⑥(拘縮)           | 講義・実技 | 中 田 |
| 22 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション⑦(基本動作)         | 講義・実技 | 中 田 |
| 23 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション⑧(家屋評価・改修)      | 講義・実技 | 中 田 |
| 24 | ③④           | 脳血管障害のリハビリテーション⑧(復職指導など)       | 講義・実技 | 中 田 |
| 25 | ③④           | 事例検討(急性期)                      | 講義・実技 | 中 田 |
| 26 | ③④           | 事例検討(急性期)                      | 講義・実技 | 中 田 |
| 27 | ③④           | 事例検討(回復期)                      | 講義・実技 | 中 田 |
| 28 | ③④           | 事例検討(回復期)                      | 講義・実技 | 中 田 |
| 29 | ③④           | 最新の治療①                         | 講義・実技 | 中 田 |
| 30 | ③④           | 最新の治療②                         | 講 義   | 中 田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(山口昇, 玉垣努)医学書院【978-4-260-02444-0】|脳卒中(正門由久, 高木誠)医歯薬出版【978-4-263-26599-4】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しません

|                     |   |          |               |            |              |               |
|---------------------|---|----------|---------------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 身体障害作業療法Ⅱ   |          | 授業コード         | 121460B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60       |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3 年次)  |          | ナンバリング        | 21C313P02  | AL 科目        | ○             |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作)・立石 修康<br>(保・作)・中田 富久(保・作)  | 開講学<br>期 | 2020 年度 前期～後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 前期は内部障害の作業療法について学ぶ。特に呼吸器障害と循環器障害に焦点を置き、臨床場面で活かせる実践的な知識と技術の修得(呼吸・循環器の解剖・生理、疾患の基礎知識、フィジカルアセスメント、心電図の見方、運動処方等を踏まえた作業療法)を主目標とする。後期については、脊髄損傷、末梢神経損傷、関節リウマチ、骨関節疾患など運動器障害に対する作業療法を中心に、各疾患に対する実践的な作業療法の知識・技術の理解と修得を主目標とする。   |          |               |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)内部障害の概要について理解する。 2)呼吸器・循環器・代謝機能に関する解剖学・運動生理学について理解を深め、運動負荷量の簡易計算法を習得する。 3)各内部障害の症状・臨床像を説明できる。 4)内部障害患者のフィジカルアセスメントについて理解し、実践できる。 5)脊髄損傷(主に頸髄損傷)の疾患・障害特徴と作業療法について説明できる。 6)末梢神経損傷・神経・筋疾患の疾患・障害特徴と作業療法について説明できる。 7)熱傷の疾患・障害特徴と作業療法について説明できる。 8)関節リウマチの疾患・障害特徴と作業療法について説明できる。 9)骨・関節疾患の疾患・障害特徴と作業療法について説明できる。 10)各疾患の作業療法評価計画とプログラムの立案ができる。 |          |               |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士としての臨床経験に基づき、疾患に応じた作業療法実践の理論と技術を指導し、臨床実習指導者の指導のもと OT プログラムの立案・介入ができるようになることを目指す。   |          |               |            |              |               |
| 評価方法                | 前期・後期実施の定期試験80%、小テスト20%で評価する。   |          |               |            |              |               |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 各回のテキスト該当部分について 60 分程度予習・復習すること。併せて対象疾患に関連する解剖学・生理学・運動学について復習すること。また授業ノートの提出を求めらるので、予復習の際にノート整理を行うこと。   |          |               |            |              |               |
| オフィスアワー             | 田中:木曜日 14:00～17:00 立石:金曜日 13:00～17:00 中田:月～木 12:30～13:00  |          |               |            |              |               |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容  | 授業方法  | 担当  |  |
|--------------------|--|---|-------|-----|--|
| 1                  | 1)   | 内部障害の概要と分類について理解する。                                     | 講 義   | 田 中 |  |
| 2                  | 2)   | 運動生理学に基づいた運動処方について理解する。                                 | 講 義   | 田 中 |  |
| 3                  | 3)   | 呼吸器障害①呼吸器の解剖・生理と呼吸の生理的意義ならびにメカニズムを理解する。                 | 講 義   | 田 中 |  |
| 4                  | 3)   | 呼吸器障害②病態生理と疾患、症状について理解する。                               | 講 義   | 田 中 |  |
| 5                  | 4)   | 呼吸器障害③フィジカルアセスメントと呼吸理学療法(呼吸介助法)について学び、基本手技を習得する。        | 講義・演習 | 田 中 |  |
| 6                  | 4)10)  | 呼吸器障害④ADL 訓練・指導方法について学び、OT プログラム立案の基礎を理解する。             | 講義・演習 | 田 中 |  |
| 7                  | 2)   | 循環器障害①解剖・生理と循環器の生理的意義ならびにメカニズムを理解する。                    | 講 義   | 田 中 |  |
| 8                  | 3)   | 循環器障害②病態生理と心電図について理解する。                                 | 講 義   | 田 中 |  |
| 9                  | 4)   | 循環器障害③運動処方に基づく作業療法プログラムを学び、プログラムの立案の基礎知識を習得する。          | 講 義   | 田 中 |  |
| 10                 | 3)   | 糖尿病①疾患の基礎知識を理解する。                                       | 講 義   | 田 中 |  |
| 11                 | 4)10)  | 糖尿病②糖尿病合併例に対する作業療法プログラムについて学び、プログラム立案の基礎知識を習得する。        | 講 義   | 田 中 |  |
| 12                 | 3)   | 腎不全①疾患の基礎知識(腎不全症状・合併症や人工透析の仕組み)について理解する。                | 講 義   | 田 中 |  |
| 13                 | 4)10)  | 腎不全②人工透析患者の作業療法プログラムについて学び、理解する。                        | 講 義   | 田 中 |  |
| 14                 | 3)4)10)  | がん①がんの種類と特徴(乳がんを中心に、その症状や後遺症)、作業療法実践について学び、理解する。        | 講 義   | 田 中 |  |
| 15                 | 3)10)  | がん②がん患者の心理や終末期医療について                                    | 講 義   | 田 中 |  |
| 16                 | 5)   | 脊髄損傷①疾患の基礎知識(頸髄損傷を中心に)を理解する。                            | 講 義   | 中 田 |  |
| 17                 | 5)   | 脊髄損傷②神経症状と合併症について学び、理解する。                               | 講 義   | 中 田 |  |
| 18                 | 5)10)  | 脊髄損傷③作業療法の実際(主に ADL について)について学び、OT 介入の基礎知識を習得する。        | 講 義   | 中 田 |  |
| 19                 | 6)10)  | 末梢神経損傷の基礎知識と作業療法実践について学び、OT 介入の基礎知識を習得する。               | 講 義   | 中 田 |  |
| 20                 | 6)10)  | 神経・筋疾患の基礎知識と作業療法実践について学び、OT 介入の基礎知識を理解する。               | 講 義   | 中 田 |  |
| 21                 | 5)10)  | 【事例検討①】 実際の脊髄損傷患者の評価データをもとに作業療法プログラムを立案する。              | 講義・演習 | 中 田 |  |
| 22                 | 7)   | 熱傷①疾患の基礎知識を学び、習得する。                                     | 演 習   | 立 石 |  |
| 23                 | 7)10)  | 熱傷②作業療法評価とプログラムについて学び、OT 介入の基礎知識を習得する。                  | 講 義   | 立 石 |  |
| 24                 | 8)   | 関節リウマチ①疾患の基礎知識について学び、理解する。                              | 講 義   | 立 石 |  |
| 25                 | 8)10)  | 関節リウマチ②作業療法評価とプログラムについて学び、OT 介入の基礎知識を習得する。              | 講 義   | 立 石 |  |
| 26                 | 9)   | 骨・関節疾患①疾患の基礎知識について学び、理解する。                              | 講 義   | 立 石 |  |
| 27                 | 9)10)  | 骨・関節疾患②上腕骨・前腕骨と作業療法実践について学び、OT 介入の基礎知識を習得する。            | 講 義   | 立 石 |  |
| 28                 | 9)10)  | 骨・関節疾患③手指骨折・下肢骨折(大腿骨頸部骨折)と作業療法実践について学び、OT 介入の基礎知識を習得する。 | 講 義   | 立 石 |  |
| 29                 | 9)10)  | 骨・関節疾患④肩関節周囲炎・腰痛・変形性関節症と作業療法実践について学び、OT 介入の基礎知識を習得する。   | 講 義   | 立 石 |  |
| 30                 | 9)10)  | 【事例検討②】 骨・関節疾患患者の評価データをもとに作業療法プログラムを立案する。               | 講義・演習 | 立 石 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学(岩崎 テル子編) 医学書院【978-4-260-00896-9】  |   |       |     |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 解剖学アトラス 原著第 10 版(平田 幸男)文光堂【978-4-8306-0036-4】 生理学テキスト 第 7 版(大地 陸男)文光堂【978-4-8306-0226-9】 PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方 国試画像問題攻略(中島 雅美、中島 喜代彦)医歯薬出版【978-4-263-21439-8】 |   |       |     |  |



|                     |   |      |           |        |            |              |         |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 精神障害作業療法 I  |      |           | 授業コード  | 121461B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 21C313P03  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 江口 喜久雄(保・作)   | 開講学期 | 2020年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・SGD  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ・精神医療, 精神障害に関する法律についての知識を習得する。 ・精神障害に関するリハビリテーション施設と社会資源についての知識を習得する。 ・精神医療の歴史と現状についての知識を習得する。 ・精神障害領域における各種治療理論(精神障害作業療法の関連領域理論)に関する知識を習得する。  また, 各種治療理論の精神科作業療法への応用についても十分な知識を習得する。   以上より, 精神障害作業療法 I では, 臨床で根拠のある治療を実施し, 精神科医療に貢献できる作業療法士となるために法律や歴史的背景, 理論を修得する。 |      |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)精神医療, 精神障害に関する法律について理解し, 説明できる。 2)精神障害に関するリハビリテーション施設と社会資源について説明できる。 3)精神科医療の歴史について理解し, 精神疾患の処遇の変遷について説明できる。 4)精神障害領域における各種治療理論と精神科作業療法への応用について説明できる。   |      |           |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | ・科目担当者は, 臨床での実務経験に基づき, 具体的な症例を例として挙げながら, 講義・SGDを実施する。   |      |           |        |            |              |         |
| 評価方法                | ・小テスト(5%), 学習への取り組み姿勢(課題提出, 質問・発言などの参加)(10%), 学期末の単位認定試験(85%)にて評価する。  |      |           |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | ・教員からの質問に積極的に答える。 ・SGDでは自分の考えを発言するよう努める。 ・1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。  |      |           |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | ・月～木曜日(12:30～13:00)   |      |           |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容                       | 授業方法   | 担当  |  |  |  |
|--------------------|--|----------------------------|--------|-----|--|--|--|
| 1                  | 1)   | 【精神障害者福祉に関する法律 I】          | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 2                  | 1)   | 【精神障害者福祉に関する法律 II】         | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 3                  | 1)   | 【精神障害者福祉に関する法律 III】        | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 4                  | 2)   | 【精神障害に関するリハビリテーション施設と社会資源】 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 5                  | 3)   | 【精神科医療の歴史】                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 6                  | 4)   | 【園芸療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 7                  | 4)   | 【芸術療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 8                  | 4)   | 【絵画療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 9                  | 4)   | 【音楽療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 10                 | 4)   | 【レクリエーション療法】               | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 11                 | 4)   | 【行動療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 12                 | 4)   | 【森田療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 13                 | 4)   | 【箱庭療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 14                 | 4)   | 【家族療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 15                 | 4)   | 【心理劇】                      | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 16                 | 4)   | 【心理教育】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 17                 | 4)   | 【精神分析療法 I (理論)】            | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 18                 | 4)   | 【精神分析療法 II (流れ)】           | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 19                 | 4)   | 【交流分析】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 20                 | 4)   | 【精神療法 I (基礎)】              | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 21                 | 4)   | 【精神療法 II (治療構造)】           | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 22                 | 4)   | 【精神療法 III (疾患別)】           | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 23                 | 4)   | 【集団療法】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 24                 | 4)   | 【治療共同体理論】                  | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 25                 | 2)   | 【デイケア】                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 26                 | 4)   | 【精神科作業療法 I (理論)】           | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 27                 | 4)   | 【精神科作業療法 II (治療構造)】        | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 28                 | 4)   | 【精神科作業療法 III (技術)】         | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 29                 | 4)   | 【統合失調症の認知機能】               | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 30                 | 4)   | 【治療構造のまとめ】                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | ≪標準作業療法学 専門分野≫精神機能作業療法学 第2版(小林 夏子)医学書院【978-4-260-01942-2】精神障害と作業療法 新版(山根 寛)三輪書店【978-4-89590-504-6】 |                            |        |     |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 指定なし。  |                            |        |     |  |  |  |

|                     |  |      |           |        |            |              |         |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 精神障害作業療法Ⅱ  |      |           | 授業コード  | 121462B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年次)  |      |           | ナンバリング | 21C313P04  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 立石 恵子(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義、実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ・精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎知識を習得する。 ・専門および一般的知識を統合し、対象者への作業療法を<br>実践できるようになる。 ・対人援助職に必要な自己理解を深める。                     |      |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | ・精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎知識を習得する。 ・専門および一般的知識を統合し、対象者への作業療法<br>を実践できるようになる。 ・対人援助職に必要な自己理解を深める。                     |      |           |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 作業療法士、特に精神障害の作業療法の経験を活かして患者さんとのコミュニケーションや疾患別の対応などについて授業<br>する  |      |           |        |            |              |         |
| 評価方法                | ・出席状況、授業ならびに実習態度、実習レポート、小テスト、期末試験により、総合的に評価する。   |      |           |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | ・教員からの質問に積極的に答える。 ・ディスカッションでは自分の考えを発言するよう努める。 ・実習であるため、学生として<br>ふさわしい立ち振る舞いや態度、服装等で臨む。 ・1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。 |      |           |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 毎回授業終了後作業療法学科準備室にて   |      |           |        |            |              |         |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容         | 授業方法 | 担当  |  |  |  |
|--------------------|--|--------------|------|-----|--|--|--|
| 1                  | 1  | 精神科作業療法の対象疾患 | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 2                  | 2-8  | 発達障害の作業療法 1  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 3                  | 2-8  | 発達障害の作業療法 2  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 4                  | 2-8  | 発達障害の作業療法 3  | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 5                  | 2-8  | 発達障害の作業療法 4  | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 6                  | 2-8  | てんかんの作業療法    | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 7                  | 2-8  | 認知症の作業療法     | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 8                  | 2-8  | 気分障害の作業療法 1  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 9                  | 2-8  | 気分障害の作業療法 2  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 10                 | 2-8  | 気分障害の作業療法 3  | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 11                 | 2-8  | 気分障害の作業療法 4  | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 12                 | 2-8  | 神経症の作業療法 1   | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 13                 | 2-8  | 神経症の作業療法 2   | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 14                 | 2-8  | 神経症の作業療法 3   | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 15                 | 2-8  | 神経症の作業療法 4   | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 16                 | 2-8  | 摂食障害の作業療法 1  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 17                 | 2-8  | 摂食障害の作業療法 2  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 18                 | 2-8  | 摂食障害の作業療法 3  | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 19                 | 2-8  | 摂食障害の作業療法 4  | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 20                 | 2-8  | 依存症の作業療法 1   | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 21                 | 2-8  | 依存症の作業療法 2   | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 22                 | 2-8  | 依存症の作業療法 3   | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 23                 | 2-8  | 依存症の作業療法 4   | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 24                 | 2-8  | 統合失調症の作業療法 1 | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 25                 | 2-8  | 統合失調症の作業療法 2 | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 26                 | 2-8  | 統合失調症の作業療法 3 | 講 義  | 立 石 |  |  |  |
| 27                 | 2-8  | 統合失調症の作業療法 4 | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 28                 | 2-8  | 統合失調症の作業療法 5 | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 29                 | 2-9  | 統合失調症の作業療法 6 | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 30                 | 2-9  | 統合失調症の作業療法 7 | 実 習  | 立 石 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第2版(小林 夏子) 医学書院 【978-4-260-01942-2】<br> 精神障害と作業療法 第3版(山根 寛) 三輪書店 【978-4895903493】 |              |      |     |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE(社団法人 日本精神科看護技術協会 監修) 中央法規 【978-<br>4805829257】                                     |              |      |     |  |  |  |

|                     |  |      |              |        |            |              |         |
|---------------------|--|------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 発達障害作業療法 I   |      |              | 授業コード  | 121463B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |      |              | ナンバリング | 21C313P05  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義, SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 近年、少子高齢化の中、出生数が減少傾向にある一方で、低出生体重児の増加や医療技術の進歩に伴い、重度・重複の障害を持つ子どもの数は年々増加傾向にある。また、発達障害者支援法の施行に伴い、知的に問題のないコミュニケーションや社会適応に支援が必要な発達障害児への対応が必要とされている。早期発見・早期療育の実現、インクルーシブ教育の充実、発達障害を持つ児・者が住み慣れた地域で一貫した継続的なりハビリテーションを受けることのできる体制づくりなどが求められている。  そのような中、対象児(者)およびその家族、その児   |      |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)発達過程作業療法の理念と目的、形成(歴史)と変遷について概説できる。 2)対象疾患と障害、またそれに伴う発達遅滞症状について列挙できる。 3)各対象疾患の疾患・障害、臨床像について説明できる。 4)各対象疾患に対する医学的治療について説明できる。 5)各対象疾患における実践過程の評価、作業療法立案、実施に必要なとされる知識・技術・態度について説明できる。 6)作業療法実践について治療原理を理解し、技術を習得したうえで、技術の習得と記録により、選択した技術を用いる理由と記録の大切さを表現することができる。 7)チームアプローチにおける作業療法士の役割を示すことができる。 8)資料・情報収集の方法、必要となる情報項目、収集の理由などについて説明できる。 9)面接の方法、ポイントになる点、注意点をあげることができる。 10)評価実施計画立案において、初期評価における検査項目の選択について得られた資料・情報から必要となる評価項目をあげ、その理由を説明し、結果の解釈ができる。 11)長期・短期ゴールの設定、治療・指導・援助、再評価、終了時期について説明できる。 |      |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、発達障害作業療法についての授業を行う。   |      |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 授業毎の確認テストにより形成的評価を行う。学習への取り組み姿勢(レポートの提出状況、授業態度、小テスト)の評価20%、学期末の単位認定試験80%として総括的評価を行う。   |      |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | ・人間・運動発達学、運動学、小児科学、作業療法評価学の内容を修得しておくこと。 ・1コマ当たり30分を目安に予習・復習を行うこと。 ・長期休暇を利用して、児童発達支援事業所、特別支援学校、知的障害者入所施設等の見学実習を行う(15時間)。  |      |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 前期)木曜日 12:30~13:00 後期)火曜日 12:30~13:00  |      |              |        |            |              |         |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                       | 授業方法   | 担当  |
|----|-------------|----------------------------|--------|-----|
| 1  | 1)2)        | 発達過程作業療法学の基礎①              | 講義・SGD | 内 勢 |
| 2  | 1)2)        | 発達過程作業療法学の基礎②              | 講義・SGD | 内 勢 |
| 3  | 1)2)        | 発達過程作業療法学の基礎③              | 講義・SGD | 内 勢 |
| 4  | 3)~7)       | 発達過程作業療法の実践 新生児疾患(NICU対象児) | 講義・SGD | 内 勢 |
| 5  | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺①          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 6  | 4)          | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺②          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 7  | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺③          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 8  | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺④          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 9  | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺⑤          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 10 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺⑥          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 11 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 脳性麻痺⑦          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 12 | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 進行性筋ジストロフィー①   | 講義・SGD | 内 勢 |
| 13 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 進行性筋ジストロフィー②   | 講義・SGD | 内 勢 |
| 14 | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 重症心身障害①        | 講義・SGD | 内 勢 |
| 15 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 重症心身障害②        | 講義・SGD | 内 勢 |
| 16 | 3)7)        | 発達過程作業療法の実践 発達障がい当事者を知る    | 講義・SGD | 内 勢 |
| 17 | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 知的発達障害①        | 講義・SGD | 内 勢 |
| 18 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 知的発達障害②        | 講義・SGD | 内 勢 |
| 19 | 3)          | 発達過程作業療法の実践 自閉症スペクトラム①     | 講義・SGD | 内 勢 |
| 20 | 4)          | 発達過程作業療法の実践 自閉症スペクトラム②     | 講義・SGD | 内 勢 |
| 21 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 自閉症スペクトラム③     | 講義・SGD | 内 勢 |
| 22 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 自閉症スペクトラム④     | 講義・SGD | 内 勢 |
| 23 | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 学習障害①          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 24 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 学習障害②          | 講義・SGD | 内 勢 |
| 25 | 3)4)        | 発達過程作業療法の実践 注意欠如・多動性障害①    | 講義・SGD | 内 勢 |
| 26 | 5)~7)       | 発達過程作業療法の実践 注意欠如・多動性障害②    | 講義・SGD | 内 勢 |
| 27 | 3)~7)       | 発達過程作業療法の実践 骨関節疾患(分娩麻痺)    | 講義・SGD | 内 勢 |
| 28 | 3)~7)       | 発達過程作業療法の実践 二分脊椎           | 講義・SGD | 内 勢 |
| 29 | 8)~11)      | 発達過程作業療法の実践現場と実践過程および記録    | 講義・SGD | 内 勢 |
| 30 | 10)11)      | 発達過程作業療法の地域支援              | 講義・SGD | 内 勢 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版(福田恵美子編集)医学書院【978-4260017589】発達障害の作業療法[実践編]第3版(岩崎清隆, 鴨下賢一著)三輪書店【978-4895906708】                             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ(小西紀一他著)メジカルビュー社【ISBN978-4-7583-1458-9】発達OTが考える子どもセラピーの思考プロセス(小西紀一他著)メジカルビュー社【ISBN978-4-7583-1697-2】 |

|                     |   |  |              |            |              |                      |
|---------------------|---|--|--------------|------------|--------------|----------------------|
| 科目名                 | 発達障害作業療法Ⅱ   |  | 授業コード        | 121464B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60              |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |  | ナンバリング       | 21C313P06  | AL科目         | ○                    |
| 担当者                 | 内勢 美絵子(保・作)、戸高 翼<br>(保・言)、渡邊 直美(非常勤講師)  | 開講学期                                     | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義・演習・SGD・実習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 近年、少子高齢化の中、出生数が減少傾向にある一方で、低出生体重児の増加や医療技術の進歩に伴い、重度・重複の障害を持つ子どもの数は年々増加傾向にある。また、発達障害者支援法の施行に伴い、知的に問題のないコミュニケーションや社会適応に支援が必要な発達障害児への対応が必要とされている。早期発見・早期療育の実現、インクルーシブ教育の充実、発達障害を持つ児・者が住み慣れた地域で一貫した継続的なりハビリテーションを受けることのできる体制づくりなどが求められている。  そのような中、対象児(者)およびその家族、その児  |  |              |            |              |                      |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)発達にみられる10の原則をあげ、それぞれ具体例を交えながら説明できる。 2)各期の発達課題について概説できる。 3)運動コントロールの運動学的基盤、運動発達を促進する原動力を説明できる。 4)各発達段階の姿勢・移動動作発達の特徴を説明できる。 5)眼の働き、手の働きについて説明できる。 6)各発達段階の目と手の協調の発達過程の概要を説明できる。 7)上肢の働きと認知機能との相互作用について説明できる。 8)知能を見る視点と、認知機能における各機能間の相互作用を説明できる。 9)各発達段階の認知機能の特徴を説明できる。 10)各発達段階のコミュニケーションの発達過程を説明できる。 11)日常生活の諸活動を分化過程として説明できる。 12)日常生活の諸動作(食事、排泄、更衣、整容、遊び)の発達過程を説明できる。 13)感覚統合理論について概説できる。 14)感覚統合理論に基づいた遊びを企画実行できる。 15)自分の意見を述べ、他者の意見を受け入れつつグループで根拠に基づいた遊びを企画することができる。 16)遊びを通して対象者を観察し、“Justrightchallenge”となる作業活動を提供することができる。 17)対象児の行動を客観的に観察し、記録、考察することができる。 18)保護者に対して適切な接遇態度で聴聞をし、情報を整理することができる。 |  |              |            |              |                      |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(内勢、渡邊)は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、発達障害作業療法についての授業を行う。   |  |              |            |              |                      |
| 評価方法                | 授業毎の確認テストにより形成的評価を行う。学習への取り組み姿勢(レポートの提出状況、授業態度、実習への参加状況)の評価20%、実習の報告書20%、学期末の単位認定試験60%として総括的評価を行う。  |  |              |            |              |                      |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | ・人間運動発達学、解剖学、運動学、小児科学、作業療法評価学、日常生活活動技能、発達障害作業療法Ⅰの講義内容を修得しておくこと。 ・1コマ当たり60分を目安に予習・復習を行うこと。 ・実習の準備、振り返り、情報共有時間として講義時間以外に10時間をグループワーク時間とする。  |  |              |            |              |                      |
| オフィスアワー             | 前期)木曜日 12:30～13:00、後期)火曜日 12:30～13:00   |  |              |            |              |                      |
| 授業計画                |   |  |              |            |              |                      |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                     |              |            | 授業方法         | 担当                   |
| 1                   | 1)  | 人間発達学総論①                                 |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 2                   | 1)  | 人間発達学総論②                                 |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 3                   | 2)  | 発達の諸段階と発達課題② 胎児期(受精～40週)                 |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 4                   | 2)3)  | 人間発達における各機能の発達 身体、姿勢・移動動作の発達①            |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 5                   | 2)4)  | 人間発達における各機能の発達 身体、姿勢・移動動作の発達②            |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 6                   | 2)4)  | 人間発達における各機能の発達 身体、姿勢・移動動作の発達③            |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 7                   | 2)4)  | 人間発達における各機能の発達 身体、姿勢・移動動作の発達④            |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 8                   | 2)5)6)7)  | 人間発達における各機能の発達 目と手の協調の発達①                |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 9                   | 2)5)6)7)  | 人間発達における各機能の発達 目と手の協調の発達②                |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 10                  | 2)5)6)7)  | 人間発達における各機能の発達 目と手の協調の発達③                |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 11                  | 2)8)9)  | 人間発達における各機能の発達 認知機能の発達①                  |              |            | 講義・SGD・演習    | 内 勢                  |
| 12                  | 2)10)   | 人間発達における各機能の発達 コミュニケーションの発達①             |              |            | 講義・SGD・演習    | 戸 高                  |
| 13                  | 2)10)   | 人間発達における各機能の発達 コミュニケーションの発達②             |              |            | 講義・SGD       | 戸 高                  |
| 14                  | 2)8)9)  | 人間発達における各機能の発達 認知機能の発達②                  |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 15                  | 11)12)  | 社会生活活動の発達 日常生活における諸機能の発達 排泄行動、更衣・整容動作の発達 |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 16                  | 13)   | 感覚統合理論① 概要                               |              |            | 講義・SGD       | 渡邊・内勢                |
| 17                  | 13)   | 感覚統合理論② 対象、評価                            |              |            | 講義・SGD       | 渡邊・内勢                |
| 18                  | 13)   | 感覚統合理論③ 発達障害と感覚統合                        |              |            | 講義・SGD       | 渡邊・内勢                |
| 19                  | 13)14)  | 感覚統合理論④ 感覚統合療法の実際                        |              |            | 講義・SGD・演習    | 渡邊・内勢                |
| 20                  | 12)   | 社会生活活動の発達③ 遊びの発達                         |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 21                  | 15)   | 発達過程作業療法の実際① 実習オリエンテーション、準備              |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 22                  | 15～<br>18)  | 発達過程作業療法の実際② 第1回実習                       |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 23                  | 15～<br>18)  | 発達過程作業療法の実際② 第1回実習                       |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 24                  | 15)17)  | 発達過程作業療法の実際③ 第1回実習の振り返り                  |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 25                  | 15)   | 発達過程作業療法の実際③ 第2回実習の準備                    |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 26                  | 12)   | 社会性生活活動の発達③ 食事動作の発達                      |              |            | 講義・SGD・実習    | 内 勢                  |
| 27                  | 12)   | 社会性生活活動の発達④ 食事動作の発達                      |              |            | 講義・SGD・実習    | 内 勢                  |
| 28                  | 15～<br>18)  | 発達過程作業療法の実際④ 第2回実習                       |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 29                  | 15～<br>18)  | 発達過程作業療法の実際④ 第2回実習                       |              |            | 実 習          | 内 勢                  |
| 30                  | 15～<br>18)  | 発達過程作業療法の実際③ 第2回実習の振り返り                  |              |            | 講義・SGD       | 内 勢                  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準理学療法学・作業療法学 人間発達学第2版(岩崎清隆編集)医学書院【978-4260032643】 発達障害の作業療法【実践編】第3版(岩崎清隆、鴨下賢一著)三輪書店【978-4895906708】  |  |              |            |              |                      |

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

やさしく学ぶからだの発達(林万里監修)全障出版部【978-4-88134-944-1】やさしく学ぶからだの発達 part2(林万里監修)全障出版部【978-4-88134-405-7】発達を学ぶ(森岡周著)協同医書出版社【978-4763910776】感覚統合 Q&A 改定第2版(土田玲子監修,石井孝弘+岡本武己編集)協同医書出版社【978-4-7639-2135-2】その他、講義の中で随時紹介する。

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 老年期障害作業療法 I   |      |           | 授業コード  | 121465B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60   |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 21C313P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 江口喜久雄(保・作)  | 開講学期 | 2020年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・SGD・実習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 老年期における精神・身体状況を理解を深め、老年期に多くみられる身体・精神疾病を理解する。また、地域作業療法学とは何かを理解し、地域作業療法を遂行していくために必要な他職種との連携や病院ならびに老人保健施設などの様々な施設の仕組み、介護保険の法制度を理解する。以上より、老年期に障害を持たれた方々に対する様々な支援方法について学ぶことを目的とする。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)高齢者の生活の変遷を説明できる 2)老年期における作業療法の目的を説明できる 3)老年期における作業療法の視点・考え方を説明できる 4)老年期における作業療法の対象者となる人々の特徴を説明できる 5)認知症の定義を説明できる 6)認知症のタイプと特徴を説明できる 7)認知症の人とのコミュニケーションの留意点を説明できる 8)中核症状への対応方法を説明できる 9)周辺症状への対応方法を説明できる 10)処方される薬や作用・副作用について説明できる 11)若年性認知症の特徴を説明できる 12)地域リハビリテーションについて説明できる |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床での実務経験に基づき、具体的な症例を例として挙げながら、講義・SGDを実施する。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(課題提出、質問・発言などの参加)(15%)、学期末の単位認定試験(85%)にて評価する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | ・教員からの質問に積極的に答える。 ・SGDでは自分の考えを発言するよう努める。 ・1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月～木曜日(12:30～13:00)  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.   | 授業内容                                     | 授業方法   | 担当  |  |  |  |
|--------------------|---|--|--------|-----|--|--|--|
| 1                  | 1)  | 高齢者の生活体験について                             | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 2                  | 2)  | 老年期における作業療法の目的について                       | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 3                  | 3)  | 老年期における作業療法の視点・考え方について                   | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 4                  | 4)  | 老年期における作業療法の対象者となる人々の特徴(高齢者体験セットを使用)について | 実 習    | 江 口 |  |  |  |
| 5                  | 5)  | 認知症の定義について                               | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 6                  | 6)  | アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症について                  | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 7                  | 6)  | レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、治る認知症について             | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 8                  | 7)  | 認知症の人とのコミュニケーションについて                     | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 9                  | 7)  | パーソン・センタード・ケアについて                        | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 10                 | 7)  | ユマニチュードについて                              | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 11                 | 8)  | 中核症状への対応について                             | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 12                 | 9)  | 周辺症状への対応について                             | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 13                 | 10)   | 認知症の薬物療法について                             | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 14                 | 11)   | 若年性認知症の定義について                            | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 15                 | 11)   | 若年性認知症と老年期認知症の相違点について                    | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 16                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 1】 定義について                   | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 17                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 2】 支援・教育・啓発活動について           | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 18                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 3】 在宅リハと病院や施設内リハの考え方について    | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 19                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 4】 時代的流れについて                | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 20                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 5】 法制度について                  | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 21                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 6】 介護保険法について                | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 22                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 7】 要介護認定について                | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 23                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 8】 介護予防について                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 24                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 9】 退院後の支援について               | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 25                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 10】 閉じこもりについて               | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 26                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 11】 介護期について                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 27                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 12】 終末期について                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 28                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 13】 ユニバーサルデザインについて          | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 29                 | 12)   | 【地域リハビリテーション 14】 諸外国について                 | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 30                 | 1)~<br>12)  | 老年期障害作業療法のまとめ                            | 講義・SGD | 江 口 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 認知症の作業療法 第2版(小川 敬之・竹田 徳則) 医歯薬出版株式会社【978-4-263-21949-2】 地域リハビリテーション原論(大田仁史) 医歯薬出版株式会社【978-4-263-21436-7】 |  |        |     |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 指定なし。   |  |        |     |  |  |  |

|                     |  |          |           |        |            |              |         |
|---------------------|--|----------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 老年期障害作業療法Ⅱ   |          |           | 授業コード  | 121466B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(3年)   |          |           | ナンバリング | 21C313P08  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 江口 喜久雄(保・作) 田中 睦英<br>(保・作)   | 開講学<br>期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | SGD・演習  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 老年期における身体・精神機能を理解した上で、指定された症例の障害構造、目標設定、アプローチについてグループにてディスカッションし、老年期作業療法の視点を養う。  |          |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)老年期で使用する評価用紙の目的や特徴を説明することができる 2)評価用紙を用いて評価することができる 3)指定された症例についてポイントとなり得る項目を列挙することができる 4)指定された症例について国際生活機能分類(ICF)にて整理することができる 5)指定された症例について短期ゴールの設定を行うことができる 6)指定された症例について長期ゴールの設定を行うことができる 7)指定された症例についてゴール設定に基づいたプログラムを立案することができる 8)指定された症例について全体像を捉えることができる 9)指定された症例についてまとめたものを報告することができる 10)高齢者や認知症の人に対して目的を明確にしたレクリエーションを計画・立案できる 11)高齢者や認知症の人に対して目的を明確にしたレクリエーションを実施できる |          |           |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床での実務経験に基づき、具体的な症例を例として挙げながら、講義・SGDを実施する。  |          |           |        |            |              |         |
| 評価方法                | 課題提出(40%)、SGD等の取り組み(40%)、学期末の単位認定試験(20%)により総合的に評価する。   |          |           |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | ・教員からの質問に積極的に答える。 ・SGDでは自分の考えを発言するよう努める。 ・1コマ当たり1時間を目安に予習・復習を行うこと。   |          |           |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 江口：月～木曜日(12:30～13:00) 田中：水曜日(9:00～12:00)   |          |           |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法  | 担当    |
|----|-------------|--|-------|-------|
| 1  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 1                                | S G D | 江 口   |
| 2  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 2                                | S G D | 江 口   |
| 3  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 3                                | S G D | 江 口   |
| 4  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 4                                | S G D | 江 口   |
| 5  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 5                                | S G D | 江 口   |
| 6  | 1)          | 老年期で使用する評価表について 6                                | S G D | 江 口   |
| 7  | 2)          | 老年期で使用する評価表について 7                                | 演 習   | 江 口   |
| 8  | 2)          | 老年期で使用する評価表について 8                                | 演 習   | 江 口   |
| 9  | 3)          | 【事例検討①-1】指定された症例のポイントとなり得る項目を列挙する                | S G D | 江 口   |
| 10 | 4)          | 【事例検討①-2】指定された症例のポイントとなり得る項目を国際生活機能分類(ICF)にて整理する | S G D | 江 口   |
| 11 | 5)          | 【事例検討①-3】指定された症例について短期ゴールの設定を行う                  | S G D | 江 口   |
| 12 | 6)          | 【事例検討①-4】指定された症例について長期ゴールの設定を行う                  | S G D | 江 口   |
| 13 | 7)          | 【事例検討①-5】指定された症例についてゴール設定に基づいたプログラムを立案する         | S G D | 江 口   |
| 14 | 8)          | 【事例検討①-6】指定された症例について得た情報を基に考察を行う                 | S G D | 江 口   |
| 15 | 9)          | 【事例検討①-7】症例報告                                    | 演 習   | 江 口   |
| 16 | 9)          | 【事例検討①-8】症例報告                                    | 演 習   | 江 口   |
| 17 | 3)          | 【事例検討②-1】指定された症例のポイントとなり得る項目を列挙する                | S G D | 田中・江口 |
| 18 | 4)          | 【事例検討②-2】指定された症例のポイントとなり得る項目を国際生活機能分類(ICF)にて整理する | S G D | 田中・江口 |
| 19 | 5)          | 【事例検討②-3】指定された症例について短期ゴールの設定を行う                  | S G D | 田中・江口 |
| 20 | 6)          | 【事例検討②-4】指定された症例について長期ゴールの設定を行う                  | S G D | 田中・江口 |
| 21 | 7)          | 【事例検討②-5】指定された症例についてゴール設定に基づいたプログラムを立案する         | S G D | 田中・江口 |
| 22 | 8)          | 【事例検討②-6】指定された症例について得た情報を基に考察を行う                 | S G D | 田中・江口 |
| 23 | 9)          | 【事例検討②-7】症例報告                                    | 演 習   | 田中・江口 |
| 24 | 9)          | 【事例検討②-8】症例報告                                    | 演 習   | 田中・江口 |
| 25 | 10)         | レクリエーション計画書作成 1                                  | S G D | 江 口   |
| 26 | 10)         | レクリエーション計画書作成 2                                  | S G D | 江 口   |
| 27 | 10)         | レクリエーション計画書作成 3                                  | S G D | 江 口   |
| 28 | 10)         | レクリエーション計画書作成 4                                  | S G D | 江 口   |
| 29 | 11)         | レクリエーション計画書作成 5                                  | 演 習   | 江 口   |
| 30 | 11)         | レクリエーション計画書作成 6                                  | 演 習   | 江 口   |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 指定なし。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 指定なし。

|                     |  |          |           |        |            |              |         |
|---------------------|--|----------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 日常生活活動技能Ⅱ  |          |           | 授業コード  | 121313B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科(2年生)  |          |           | ナンバリング | 21C212P05  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 田中 睦英(保・作) 内勢 美絵子<br>(保・作) 江口 喜久雄(保・作)   | 開講学<br>期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 作業療法で扱う日常生活活動の範囲である身辺処理、家庭生活、社会生活に含まれる具体的な活動を取り上げ、各活動の生活様式や伝統的な価値観などを学ぶ。そして、各活動の工程、その活動に必要な心身機能および影響する環境を知ること、生活のしづらさに対する要因分析の視点を学ぶ。さらに、身障分野・発達分野・精神障害分野・老年期分野における疾患特性やADL支援の特徴を学び、理解する。 |          |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)発達過程ある子どものADLの特徴を理解する。 2)健常児におけるADL獲得過程の特徴を理解する。 3)発達障害で生じるADLの問題点とその介入方法について学ぶ。 4)身体障害者のADLの特徴を理解する。 5)身体障害者のADL障害の要  |          |           |        |            |              |         |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | 因を理解する。 6)高齢者のADLの特徴を理解する。 7)高齢者のADL障害の要因を理解する。 8)精神障害者のADLの特徴を理解する。 9)精神障害者のADL障害の要因を理解する。                             |
| 実務経験のある<br>教員による教育 | 各領域(身体障害・精神障害・発達障害・老年期)における臨床経験に基づき、領域別のADLの評価・介入の概要について概要し、臨床評価実習・総合臨床実習に対応できる技術・知識の習得ができるよう、演習を交えながら講義を実施する。          |
| 評価方法               | 筆記試験で評価する。  |
| 準備学習・履修上の<br>注意等   | 本講義は、解剖学、生理学、運動学、神経内科学などの知識を必要とする。そのため、講義に臨むにあたり、関連分野を学習し理解しておかなければならない。予習、復習の方法としては学習ノートを作成し、事前・事後学習(各60分を目安に)を行ってもらう。 |
| オフィスアワー            | 田中:月曜日 14:00~17:00 江口:月~木 12:30~13:00 内勢:水曜日 12:30~13:00  |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                          | 授業方法  | 担当  |
|----|-------------|-------------------------------|-------|-----|
| 1  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL①:脳血管障害          | 講義・演習 | 田 中 |
| 2  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL②:パーキンソン病        | 講義・演習 | 田 中 |
| 3  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL③:神経筋疾患・神経難病     | 講義・演習 | 田 中 |
| 4  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL④:脊髄損傷           | 講義・演習 | 田 中 |
| 5  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL⑤:整形外科疾患         | 講義・演習 | 田 中 |
| 6  | 4)5)        | 身体障害分野の特徴とADL⑥:内部障害           | 講義・演習 | 田 中 |
| 7  | 6)7)        | 老年期分野の特徴とADL①:加齢による生活機能低下     | 講義・演習 | 田 中 |
| 8  | 6)7)        | 老年期分野の特徴とADL②:フレイルとサルコペニア     | 講義・演習 | 田 中 |
| 9  | 6)7)        | 老年期分野の特徴とADL③:在宅認知症高齢者        | 講義・演習 | 田 中 |
| 10 | 6)7)        | 老年期分野の特徴とADL④:介護予防(要支援・事業対象者) | 講義・演習 | 田 中 |
| 11 | 8)          | 精神障害分野のADLの特徴①                | 講義・演習 | 江 口 |
| 12 | 8)          | 精神障害分野のADLの特徴②                | 講義・演習 | 江 口 |
| 13 | 8)          | 精神障害分野のADL障害の要因①              | 講義・演習 | 江 口 |
| 14 | 8)          | 精神障害分野のADL障害の要因②              | 講義・演習 | 江 口 |
| 15 | 9)          | 精神障害分野の回復過程とADL障害①            | 講義・演習 | 江 口 |
| 16 | 9)          | 精神障害分野の回復過程とADL障害②            | 講義・演習 | 江 口 |
| 17 | 9)          | 精神障害分野のADL評価①                 | 講義・演習 | 江 口 |
| 18 | 9)          | 精神障害分野のADL評価②                 | 講義・演習 | 江 口 |
| 19 | 9)          | 精神障害分野の疾患別ADL援助法①             | 講義・演習 | 江 口 |
| 20 | 9)          | 精神障害分野の疾患別ADL援助法②             | 講義・演習 | 江 口 |
| 21 | 1)2)3)      | 日常生活における諸活動の発達①               | 講義・演習 | 内 勢 |
| 22 | 1)2)3)      | 日常生活における諸活動の発達②               | 講義・演習 | 内 勢 |
| 23 | 1)2)3)      | 食事動作の発達①                      | 講義・演習 | 内 勢 |
| 24 | 1)2)3)      | 食事動作の発達②                      | 講義・演習 | 内 勢 |
| 25 | 1)2)3)      | 排泄行動の発達①                      | 講義・演習 | 内 勢 |
| 26 | 1)2)3)      | 排泄行動の発達②                      | 講義・演習 | 内 勢 |
| 27 | 1)2)3)      | 更衣・整容動作の発達①                   | 講義・演習 | 内 勢 |
| 28 | 1)2)3)      | 更衣・整容動作の発達②                   | 講義・演習 | 内 勢 |
| 29 | 1)~<br>9)   | 総括①                           | 講義・演習 | 田 中 |
| 30 | 1)~<br>9)   | 総括②                           | 講義・演習 | 田 中 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準作業療法学専門分野 日常生活活動・社会生活行為学(医学書院)【9784260020381】                               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (石井 慎一郎) メジカルビュー社<br>【ISBN 978-4-7583-1474-9】 |



# 保健科学部

(言語聴覚療法学科)

## シラバス

*Syllabus 2020*

|                     |   |   |          |            |              |               |
|---------------------|---|---|----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 情報処理演習  |   | 授業コード    | 110079B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)     |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科(2年)   |   | ナンバリング   | 9CC222B01  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 柴田 文孝(非常勤講師)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 1年時の情報処理入門で学んだ知識をさらに深く、Word や Excel の各種機能について学び、応用力を高める。講義のレポート作成や論文作成には不可欠の Word は、目次作成、グラフの挿入などについてもできるようになる。また Excel では関数を組み合わせた文字列操作やデータ集計の関数、データ分析につかうグラフ作成を習得する。このほか Web ページと HTML の基礎についても理解しその作成方法を知る。  |   |          |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) Word でラベルや封筒、はがき印刷の機能を使い、名刺カードを作成できる。<br>2) Web ページについて理解し、HTML のタグを使い簡単な Web ページを作成できる。<br>3) Word 文書の段組みやドロップキャップ、図形描画などの機能を使った文書を作成できる。<br>4) Excel の新グラフ、パレート図やサンバーストを作成しデータ分析ができる。<br>5) Excel の日付関数を使って、月ごとに曜日が変わるカレンダーを作成できる。条件付き書式を使い、日曜日や誕生日のセルに塗りつぶしを設定できる<br>6) IF 関数や VLOOKUP 関数を組み合わせ、指定した月ごとに表示が変わる時間割表を作成できる。<br>7) Word の目次作成機能を使い、レポートの目次ページを作成できる。タブとリーダー機能を使い、目次項目にリーダーを作成できる。<br>8) Word の差し込み印刷機能を使い、Excel で作成したデータを差し込むことができる。Word で PDF 文書として保存し印刷できる。<br>9) Excel のデータベース関数を使って、特定のデータだけを抽出できる。<br>10) Word 文書に Excel で作成した組織図を「図として貼り付け」た文書を作成できる。<br>11) Word 文書に段落の網掛けを設定し、一部の段組みやリーダー設定、ページ罫線の付いた文書を作成できる。<br>12) グラフ作成機能について知り、文書中に積み上げ棒グラフやドーナツグラフを挿入したレポートを作成できる。 |   |          |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |   |          |            |              |               |
| 評価方法                | 毎回の講義で作成したファイルの評価を60%、課題の提出状況及び授業態度、まとめとして実施する小テストなどを40%として総合的に評価する。評価の基準は初回授業時に説明する。   |   |          |            |              |               |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | パソコンのスキルアップは日々の積み重ねになるので、講義で学んだことは配布プリントを使い、自宅パソコンや学内のパソコンで復習し理解しておくこと。またシラバスを確認し、次の講義の用語や操作等について調べておくこと。個人用パソコンの所有者で学内 LAN に接続できるものはできるだけ個人パソコンを使用するのが望ましい。  |   |          |            |              |               |
| オフィスアワー             | 講義日の授業前後の可能な時間に授業実施教室で質問や相談に応じる。また前もって連絡があれば、教室の空き時間や非常勤講師控室で対応する。  |   |          |            |              |               |
| 授業計画                |   |   |          |            |              |               |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当            |
| 1                   | 1)  | Web メールログイン確認<br>Word で名刺を作る ラベルと封筒の作成  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 2                   | 2)  | [HTML] 簡単な Web ページを作成する<br>文字や画像、イラストをブラウザで表示させる Web ページへリンクさせる                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 3                   | 3)  | [Word パンフレット作成 1]<br>縦書きの段組文書作成 レイアウト機能 段区切り  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 4                   | 3)  | [Word パンフレット作成 2]<br>文書内に自由に表を配置する イラストの挿入と図形配置                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 5                   | 4)  | [Excel グラフ作成]<br>補助円つきグラフ パレート図 サンバースト  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 6                   | 5)  | [Excel 日付関数]<br>WEEKDAY 関数などを使って万年カレンダーを作成する  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 7                   | 6)  | [Excel VLOOKUP 関数 IF 関数]<br>検索値に合致したセルを参照し、条件に応じた値を返す                               |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 8                   | 5)6)  | [Excel 日付関数と VLOOKUP 関数のネスト]<br>月ごとに自動処理する時間割を作成する                                  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 9                   | 7)  | [Word] 目次作成<br>レポートの目次ページ作成 タブとリーダー ページ番号   |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 10                  | 8)  | [Word と Excel のコラボレーション] 差し込み印刷と PDF 保存<br>Word 文書に Excel で作成したデータを差し込み、PDF 文書で保存する |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 11                  | 9)  | [Excel データベース機能]<br>データベース関数を使って特定の条件のデータを集計する                                      |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 12                  | 10)   | [Word と Excel]<br>Excel で作成した組織図を Word 文書に貼り付ける                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 13                  | 7)11)   | [Word 案内文書作成]<br>段落の網掛け タブとリーダー 段組 イラスト挿入 ページ罫線                                     |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 14                  | 12)   | [Word グラフ入り文書作成 1]<br>ページ設定とインデント 文字数と行数設定  |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 15                  | 12)   | [Word グラフ入り文書作成 2]<br>Word のグラフ機能 積み立て縦棒グラフ ドーナツグラフ                                 |          |            | 講義・演習        | 柴田文孝          |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |          |            |              |               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特に指定しないが、分からないパソコン用語や操作方法は、その都度インターネットで検索すること。                                      |          |            |              |               |

|                 |  |      |          |            |              |           |
|-----------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名             | キャリア教育   |      | 授業コード    | 110005B202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)        | 言語聴覚療法学科(2年)   |      | ナンバリング   | 9CC222B01  | AL科目         | ○         |
| 担当者             | 倉内 紀子(保・言)・原 修一(保・言)・吉武 重徳(保・言)・中村真理子(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・戸高 翼(保・言)・外部講師                                 | 開講学期 | 2020年度後期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・一般目標(GIO) | 本講義の目標は、「豊かな人間性、高いコミュニケーション能力、高度な臨床的知識を備えた言語聴覚士」になるために(DP1、2、5)、社会人としての基礎を身につけながら、並行して専門職を目指す者としての基礎を身につけることにある(CP1、2)。    |      |          |            |              |           |
| 到達目標(SBOs)      | 1)自分の特徴(いわゆる長所・短所)を客観視する。<br>2)自分と社会との接点に気付く。<br>3)言語聴覚士の仕事の社会的側面について知る。<br>4)関連他職種との存在とその特徴について知る。<br>5)他職種との連携の重要性を理解する。 |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある教員による教育  | 科目担当者(倉内、原、戸高)は言語聴覚士として5年以上の臨床経験を有する。また科目担当者(吉武、中村)は医師、歯科医師として5年以上の臨床経験を有する。各自臨床経験に基づいた授業を行う。                              |      |          |            |              |           |
| 評価方法            | 授業毎の小テストやレポート課題により形成的評価を行う。学習への取り組み姿勢(課題の提出状況、小テスト、授業への参加態度など)の評価を50%、学期末の総括レポートを50%として単位認定を行う。                            |      |          |            |              |           |
| 準備学習・履修上の注意等    | 医療や福祉に関する最新の動向について関心をもつように心がけること。また、自分の長所・短所を知り、長所は伸ばす、短所は改善することが、2・3・4年次の学内・外臨床実習や将来の臨床につなげるために重要である。                     |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー         | 各教員のオフィスアワーに準ずる。   |      |          |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs No. | 授 業 内 容                     | 授 業 方 法 | 担 当     |
|----|----------|-----------------------------|---------|---------|
| 1  | 1)、2)    | 自分と社会を見つめ直す                 | 講義、SGD  | 倉 内     |
| 2  | 1)、2)    | 本の世界へ①                      | 講義、SGD  | 吉 武     |
| 3  | 1)、2)    | 自分の特性を知る①                   | 講 義     | 松 山     |
| 4  | 1)、2)    | 自分の特性を知る②                   | 講 義     | 太 田     |
| 5  | 1)、2)    | 自分の特性を知る③                   | 講 義     | 内 藤     |
| 6  | 3)~5)    | 言語聴覚士の関連職種との連携① 小児の言語聴覚障害領域 | 講 義     | 戸 高     |
| 7  | 3)~5)    | 言語聴覚士の関連職種との連携② 成人の言語聴覚障害領域 | 講 義     | 原       |
| 8  | 1)、2)    | 本の世界へ②                      | 講義、SGD  | 吉 武     |
| 9  | 1)、2)    | 社会人として必要な資質とは①              | 講 義     | 松 山     |
| 10 | 1)、2)    | 社会人として必要な資質とは②              | 講 義     | 太 田     |
| 11 | 1)、2)    | 社会人として必要な資質とは③              | 講 義     | 内 藤     |
| 12 | 3)~5)    | 医療従事者に必要な資質とは一私の経験から        | 講 義     | 中 村     |
| 13 | 3)~5)    | 言語聴覚士に必要な資質とは一私の経験から        | 講 義     | 外部講師    |
| 14 | 1)~5)    | 職場体験①                       | 演 習     | 原、戸高、倉内 |
| 15 | 1)~5)    | 職場体験②                       | 演 習     | 原、戸高、倉内 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 指定しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 指定しない

|                     |  |                      |          |            |              |           |       |
|---------------------|--|----------------------|----------|------------|--------------|-----------|-------|
| 科目名                 | 国際保健福祉論  |                      | 授業コード    | 110070B401 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |       |
| 配当学科(学年)            | スポーツ健康福祉学科・臨床福祉学科・子ども保育福祉学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科・薬学科・動物生命薬科学科・生命医科学科(2年)  |                      | ナンバリング   | 9CG221B02  | AL科目         |           |       |
| 担当者                 | 日田 剛(福・福)、秋葉 敏夫  | 開講学期                 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態      | 講 義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>本学の学則第1条に「本学は(中略)国際化社会に向けて、介護・福祉、医療、薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする」とある。この目標実現に資するために大学共通科目として本講義が設定されている。この講義は本学が持つ学部・学科の教員がそれぞれの専門分野から保健、及び福祉に関する講義を行う形式をとる。さらに、海外で長年国際保健に取り組んできた非常勤講師からも、世界の保健状況についての情報を得ることができ、学生諸君は授業を通して保健福祉に関する多角的な視点が持てるようになる。</p> |                      |          |            |              |           |       |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)健康の定義、福祉の定義を説明できる。<br/>2)薬学部、保健科学部、社会福祉学部のそれぞれの視点から国内外の保健と福祉の関係を説明することができる。<br/>3)世界の小児保健の状況について述べるができる。<br/>4)世界の主要な感染症について現状と対策が説明できる。</p>  |                      |          |            |              |           |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | <p>医師としての経験を有し、海外で長年にわたって保健医療協力活動(JICA 専門家等)を重ねてきた実務経験者を、非常勤講師として招聘している。</p>   |                      |          |            |              |           |       |
| 評価方法                | <p>各回の授業で小レポートを課し、理解度合いをチェックする。学習への取り組み姿勢(小レポートの質、質問などによる授業への参加など)を20%、全講義終了後に提出する最終課題レポート80%で単位判定を行う。</p>   |                      |          |            |              |           |       |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>本講義はオムニバスで行われるので、事前準備は難しい。したがって授業中に適切にノートを取り、配布資料やインターネットなどをを用いて十分に復習することが肝要である。</p>  |                      |          |            |              |           |       |
| オフィスアワー             | 水・木・金曜日 12:30 から 13:00 まで  |                      |          |            |              |           |       |
| 授業計画                |  |                      |          |            |              |           |       |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容              |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当    |
| 1                   | 1)   | 国際保健福祉とは(イントロダクション)  |          |            |              | 講 義       | 稲田    |
| 2                   | 2)   | 薬学と国際保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 黒川    |
| 3                   | 2)   | リハビリテーションと国際保健福祉     |          |            |              | 講 義       | 立石    |
| 4                   | 2)   | 臨床工学と国際保健福祉          |          |            |              | 講 義       | 竹澤    |
| 5                   | 2)   | 臨床検査医学的見地から見た国際保健福祉  |          |            |              | 講 義       | 清水(慶) |
| 6                   | 2)   | 人獣共通感染症と国際保健福祉       |          |            |              | 講 義       | 明石    |
| 7                   | 2)   | 鍼灸と国際保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 渡邊    |
| 8                   | 3)   | 世界の小児保健の現状           |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 9                   | 4)   | 世界の主要な感染症 HIV/AIDS   |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 10                  | 4)   | 世界の主要な感染症 マラリア       |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 11                  | 4)   | 世界の主要な感染症 結核         |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 12                  | 4)   | 世界の主要な感染症 肝炎ウイルス     |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 13                  | 2)   | 世界の高齢者の保健福祉          |          |            |              | 講 義       | 清水    |
| 14                  | 2)   | 世界の精神保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 西田    |
| 15                  | 2)   | 世界の子供の保健福祉           |          |            |              | 講 義       | 日田    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。必要に応じて資料を提供する。 |          |            |              |           |       |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。               |          |            |              |           |       |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医療統計学演習   |      |          | 授業コード  | 110022B202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |          | ナンバリング | 2CG211B01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 評価に必要なプロセスが遂行できる言語聴覚士になるために、必要な統計学の知識を習得することを目的として、データの意味とその収集方法について知識・技能の獲得を図る。                            |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)エビデンスとしてのデータの役割を理解する。<br>2)図表からデータをよみとることができる。<br>3)データやデータ処理に関連する基本事項が説明できる。<br>4)データ収集の方法が説明できる。        |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点10%と期末試験90%の点数で総合的に評価する。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回授業につき240分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された小テストを再び、自分で解き完全に答えられるようにしておくこと。 |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 18:15~19:15   |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                   | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------------------------|----------|----|
| 1  | 1)          | データとは何か説明できる           | 講義       | 松山 |
| 2  | 1)          | 測定と尺度の関係が説明できる         | 講義       | 松山 |
| 3  | 1)          | 尺度の4つの水準が解説できる         | 講義       | 松山 |
| 4  | 1)2)        | 研究目的に応じた尺度の設定ができる      | 演習       | 松山 |
| 5  | 1)2)        | データをグラフにすることができる       | 演習       | 松山 |
| 6  | 3)          | 代表値のいくつかを挙げることができる     | 講義       | 松山 |
| 7  | 3)          | データの標準化が理解できる          | 講義       | 松山 |
| 8  | 3)          | 相関や相関係数の意味を解説できる       | 講義       | 松山 |
| 9  | 3)          | 帰無仮説の棄却域と採択域の設定と判断ができる | 講義       | 松山 |
| 10 | 3)          | 検定を決めるポイントを解説できる       | 講義       | 松山 |
| 11 | 3)4)        | 量的データによる2つの変数の差の検定ができる | 講義       | 松山 |
| 12 | 3)4)        | カテゴリーによる差の検定ができる       | 講義       | 松山 |
| 13 | 3)4)        | 量的データによる3つの変数の差の検定ができる | 講義       | 松山 |
| 14 | 3)4)        | 標本と母集団の関係を説明できる        | 講義       | 松山 |
| 15 | 3)4)        | 推測統計が説明できる             | 講義       | 松山 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 データの処理と解析 (岩淵 千明) 福村出版 【4-571-20058-7】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 適宜紹介する

|                     |  |   |           |        |            |              |   |
|---------------------|--|---|-----------|--------|------------|--------------|---|
| 科目名                 | 英語コミュニケーション  |   |           | 授業コード  | 110031B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科(2年)  |   |           | ナンバリング | 2CC221B01  | AL 科目        | ○   |
| 担当者                 | 柳田雅美(非常勤講師)  | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義、<br>Role Playing<br>Activity<br>TPR(Total Physical Response)<br>Presentation |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、英語を用いた言語活動において基本となりえる語彙や表現についての再確認を行い、一般社会および臨床の場面でより実践的なレベルにおける知識や運用を可能にすることを目標とする。医療専門用語を学びつつ、インターナショナルな場面でも実際の医療現場における会話シーンを想定し、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指す。特に検査等の現場で患者様に対し、身体動作に的確な指示出しができるよう TPR を駆使し、動作の指示出しが多用されるエクササイズインストラクターとしてのプレゼンテーションを英語で行ってみる。 |   |           |        |            |              |   |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)実際の医療現場で必要とされる英語の基礎力を身につけるために、「リスニング」「リーディング」「ライティング」「スピーキング」に関する基本的知識と技能をバランスよく使える。<br>2)医療現場で役立つ専門語彙、重要語句や症状等を説明する表現が言える。<br>3)英語を用いた実際のコミュニケーションにおいて情報の聞き取りや指示、説明の基本となる表現、フレーズなどが使える。<br>4)実践的なレベルにおける英語の知識や運用能力を実際のコミュニケーションドリルを通して体得する。               |   |           |        |            |              |   |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |   |           |        |            |              |   |
| 評価方法                | 授業取組姿勢、タスクプレゼンテーション 40%、復習テスト 10%、学期末テスト 50%の割合で評価   |   |           |        |            |              |   |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | unit 毎に予習、復習をすること。特に医療用語に関しては自分にしっかり取り込むべきものとして繰り返し復習すること。リスニングにおいても、クラス時に難があれば聞き取れるまで付属の CD を活用して努力をすること。グループワークは最終プレゼンテーションに繋がっていくので積極的に取り組むこと。予習、復習各 1 時間程度、特に復習には重点をおくこと。  |   |           |        |            |              |   |
| オフィスアワー             | 授業前後の可能な時間 教室にて  |   |           |        |            |              |   |
| 授業計画                |  |   |           |        |            |              |   |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当  |
| 1                   | 1)2)3)<br>4)   | 授業の進行や、学び方について説明。Unit 1 First Visit   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 2                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 1 First Visit (Interview Sheet)<br>Unit 2 At the Examination Room              |           |        |            | R P<br>講 義   | 柳 田   |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 3 Flue Symptoms  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 2,Unit 3 Role Playing / Total Physical Response                                |           |        |            | R P<br>T P R | 柳 田   |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 4 Pain Problem   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 6                   | 2)3)   | Review (Activity)<br>Exercise instructor TPR の進行の説明                                 |           |        |            | A C T        | 柳 田   |
| 7                   | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 5 Stomachache  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 8                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 6 Abdominal Pain   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 9                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 7 Urinalysis   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 10                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 8 Cholesterol  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 11                  | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 9 Anemia   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 12                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 10 Injury  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 13                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 12 Alcohol Poisoning   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 14                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 13 Ultrasound Examination  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 15                  | 2)3)   | The presentation of "Exercise Instructor"<br>Review (words and phrases run-through) |           |        |            | R P<br>A C T | 柳 田   |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | Medical English Clinic /西原俊明 西原真弓 Tony Brown<br>(Cengage Learning) ISBN978-4-86312-154-6   |   |           |        |            |              |   |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特に指定しない  |   |           |        |            |              |   |

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 教育学  | 授業コード  | 110057B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 保健科学部(2年)  | ナンバリング | 2CC221B02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 登坂 学(福・福)  | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 選 択       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義の目的は大きく二つに分けられる。一つは、人間の歴史において教育が果たしてきた役割を理解し、教育が我々の社会にとって必要不可欠なものであることを認識することである。そのうえで二つ目は、医療専門職として、あるいは親として、地域の大人として、自分なりの教育観を形成することである。なぜなら医療の現場において作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士等は様々な年齢層や社会的立場の患者さんと接し、治療やリハビリテーションについて説明したりアドバイスをしたりする。また時には医療の範囲を超えて悩みを打ち明けられることもあるかもしれない。まさに教育者としての一側面を有する職業だと考える。そのためにも「教育とは何か」「人をいかに育てるか」という人類共通の課題に関心を持ち、考えていってほしい。 |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人間をとりまく環境を考察するためのさまざまな視点を理解し説明できる。<br>2)教育に関連する諸問題が発生する社会環境や構造を冷静に観察することができ、単純な自己責任論から距離を置きつつ分析・発言することができる。<br>3)ディスカッションやグループワーク、全体発表等の機会を通じて自分の意見を率直に表明できる。さらには他者の意見とすり合わせを行ったうえで建設的議論を行うことができるようになる。<br>4)様々な教育的課題を乗り越えようとする人間の姿を描写した映画やルポルタージュの視聴及び解釈により、上記の「問い」の考察のためのヒントを掴み、自分なりに考えを表明できるようになる。  |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | ○ 担当者はかつて横浜市役所で生涯学習の実務に従事しており、大学及び大学院で専攻した社会教育・生涯学習の専門的知識と併せて実践的な指導が可能である。   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 2-3時間に1回のペースで提出を求められる個別ワーク課題(50%)＋最終授業で提出を求められる主課題(50%)の合算で判定する。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 一斉授業に加えて、個人課題及びグループワークやディスカッション等、アクティブラーニング型の授業コンテンツも多いため、何よりも主体的な参加姿勢及び貢献が求められる。なお、毎回最低1時間の予習・復習が必要である。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜 12:30-13:00、水曜 12:30-13:00、木曜 12:30-13:00。  |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業 方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|---------|-----|
| 1  | 1)2)3)      | 自己紹介と授業のオリエンテーション<br>人間の成長と教育(その1)<br>・最初の教育としての「名前」及び「名づけ」に注目し、個別作業・グループ発表・全体発表を通じて自己紹介し、自分の考えを発表できる。<br>・発達段階と教育の関係について知識を理解したうえで、人間の成長にとって不可欠な営みが教育であることを説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 2  | 1)2)3)      | 人間の成長と教育(その2)<br>・世界に目を転じ、発達段階に依拠する教育制度が機能しない事例があることを認識し説明できる。<br>・そこに私たちはどのように関わるか、個別作業やグループディスカッションを通じて教育をめぐる諸問題をグローバルな視点で認識することができ、自分なりに解決策を見出し、それを発表できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 3  | 1)2)3)      | 教育の目的と目標<br>・関係法令に記された「教育の目的と目標」について理解したうえで、我が国の教育政策の基本的な考え方を理解し説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 4  | 1)2)3)      | 理想の教育とは——個人により異なる教育観<br>・国が教育の大綱を決めたとしても、家庭や個人のレベルで「どのような教育が望ましいか」、「子どもをどのように育てたいか」、ということになると、大きな違いが出てくる。個別作業やグループディスカッションを通じて、子ども中心の教育観とはどのようなものかを考え、意見を表明できる。  | 講 義     | 登 坂 |
| 5  | 4)          | 映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その1)<br>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。                                | 視 聴     | 登 坂 |
| 6  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その1)「いじめ」<br>・学校における病理…「いじめの現状」について客観的データを基に事実を認識し、状況を説明できる。<br>・教育病理の根底にあるもの…「ピアプレッシャー」について認識し、説明することができる。<br>・「いじめ」を題材にしたサブカルチャー作品を認識・吟味し、創作者の意図を考え、自分なりの考えを表明できる。                                 | 講 義     | 登 坂 |
| 7  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その2)「いじめ」<br>・いじめが主題のサブカルチャー作品の感想文を皆で共有することにより、社会全体で取り組むべきテーマであることを認識できる。<br>・国や地方自治体(教育委員会)及び各学校はどのようにいじめに対処しようとしているのかを理解したうえで、自分なりの解決策を提言することができる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 8  | 1)2)3)      | 教育の諸原理——「系統主義」と「経験主義」<br>・懐かしい童謡を聴くことで、楽曲が象徴する授業の二つの考え方を直観し、続いてサブノートを活用しつつそれぞれを支える教育観や思想を理解し、自分なりに説明することができる。<br>・二つの立場の長所・短所を踏まえてどちらの教育観により共感を覚えるか SGD を通じて自分恩考えをまとめ、発表することができる。                            | 講 義     | 登 坂 |
| 9  | 1)2)3)      | 人にとって社会規範とは——「生活指導」「校則」の問題<br>・学校における様々な校則を思い出し紹介する中から、校則の教育的意義や問題点を認識でき、子どもにとって真に必要な校則やその決定プロセスの大切さについて自らの見解を表明できる。<br>・生きていく上でのルールを守り、他者と関係性ネットワークを構築することが大人になるための重要なプロセス(社会化)であることを理解したうえで、実際の支援方法を考察できる。 | 講 義     | 登 坂 |
| 10 | 1)2)3)      | 子どもにとって理想の先生とは——私のイチ推し先生<br>・これまでの学校課程で出会った先生のなかで最も思い出に残る先生を思い出し、そこから個別ワーク→グループワーク→全体発表へと進んでいく。  | 視 聴     | 登 坂 |

|                    |        |  |     |     |
|--------------------|--------|--|-----|-----|
|                    |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのなかで子どもが求める良い先生とはどのような先生か、親が求める良い先生とはどのような人物か考えることができ、それをもとに意見交換することができる。</li> <li>・さらにそれを国や地方自治体、つまり社会が求める教員像と比較し、その共通点や相違点等を認識し、説明することができる。</li> </ul>  |     |     |
| 11                 | 4)     | <p>映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その2)</p> <p>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。</p>   | 視 聴 | 登 坂 |
| 12                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その3)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における子どもの人権侵害の最たるものが「虐待」である。公式データを基に虐待をめぐる現状を客観的に把握して説明することができる。</li> <li>・虐待の4類型を理解し、それぞれについて説明できる。</li> <li>・映像資料にて二人の母親の子どもへの接し方を紹介したうえで、各自の感想を相互に発表・意見交換できる。</li> </ul> | 講 義 | 登 坂 |
| 13                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その4)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の内容を引き継ぎ、家庭における虐待を防止するために国や地方ではどのような対策が講じられているのか理解し、それを説明できる。</li> <li>・子どもと虐待の問題を一緒に考えるためにはどのような配慮が必要か理解し、それを説明できる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 14                 | 1)2)3) | <p>医療専門職と生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブノートを使用しつつ生涯学習の重要性を理解し、それを説明できるようになる。</li> <li>・OJTの重要性と自己教育の意識について認識でき、それを説明できる。</li> <li>・自らもまた生涯学習の担い手であることを認識でき、医療専門職としてどのような貢献ができるか、個別作業とSGDを通じて考えを深め、それを発表できる。</li> </ul>   | 講 義 | 登 坂 |
| 15                 | 1)2)3) | <p>授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業を振り返って各自が最も興味を持った内容を記述したうえで相互に発表し、本科目の内容を総括することができる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 特に指定しない。   |     |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 講義において適宜指示する。  |     |     |



|                     |   |  |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 解剖学   |  |           | 授業コード  | 120212b202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(1年)  |  |           | ナンバリング | 22C111P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 川野 純一(保・視)  | 開講学期                                   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 解剖学では、人体の構造と機能の概要について解剖学的に系統立てて学ぶことで、他の基礎医学や一般臨床医学の学習に必要な解剖学的知識を習得する。   |  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)基本的な解剖学用語を理解し、適切に使うことができる。<br>2)筋骨格系の構造と機能の概要を説明できる。<br>3)循環器系の構造と機能の概要を説明できる。<br>4)消化器系の構造と機能の概要を説明できる。<br>5)呼吸器系の構造と機能の概要を説明できる。<br>6)泌尿生殖器系の構造と機能の概要を説明できる。<br>7)内分泌系の構造と機能の概要を説明できる。<br>8)神経系の構造と機能の概要を説明できる。 |  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 単位認定試験(50～59点で毎回行う小テストの得点率が60%以上の場合は60点にする)   |  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業時間のおよそ2倍の予習復習時間が求められる。。   |  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡  |  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 解剖学の用語語、組織と発生の概要を含む                    |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 2                   | 2)  | 筋骨格系 1:総論                              |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 3                   | 2)  | 筋骨格系 2:各論                              |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 4                   | 3)  | 循環器系 1:総論、心臓                           |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 5                   | 3)  | 循環器系 2:血管系                             |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 6                   | 3)  | 循環器系 3:リンパ系                            |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 7                   | 3)  | 循環器系 4:血液と免疫系                          |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 8                   | 4)  | 消化器系                                   |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 9                   | 5)  | 呼吸器系                                   |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 10                  | 6)  | 泌尿生殖器系                                 |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 11                  | 7)  | 内分泌系                                   |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 12                  | 8)  | 神経系 1:総論                               |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 13                  | 8)  | 神経系 2:中枢神経系                            |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 14                  | 8)  | 神経系 3:末梢神経系                            |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 15                  | 8)  | 神経系4:自律神経系、感覚器系                        |           |        |            | 講義           | 川野        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 解剖生理学 第9版 (坂井建雄) 医学書院 【978-4260018265】 |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。                                 |           |        |            |              |           |

|                     |   |                   |            |              |            |    |
|---------------------|---|-------------------|------------|--------------|------------|----|
| 科目名                 | 臨床医学  | 授業コード             | 121044B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)  |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  | ナンバリング            | 22C212P01  | AL科目         |            |    |
| 担当者                 | 園田 徹(保・作)   | 開講学期              | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修 授業形態 講義 |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 内科学は、臨床医学の基礎をなす。日常診療のなかで頻度の高い疾患と、最近話題になることの多い疾患について、概要、頻度、症候と病態生理、診断、治療と予後の要点を言語聴覚療法との関連で理解し、国家試験はもとより、将来の職業で役立つために、内科学の知識を修得する。  |                   |            |              |            |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)全身的症状あるいは訴えの生理学的背景と発生機序について説明できる。<br>2)代表的な疾患の診断法を説明できる。<br>3)代表的な疾患につて、その概念、病態、臨床検査、治療法な、予後などについて説明できる。<br>4)免疫・アレルギーについて説明できる。<br>5)各器官・臓器の構造と機能について説明できる。<br>6)加齢現象、老人性疾患について説明できる。<br>7)ビタミンとビタミン欠乏症につて説明できる。<br>8)血液の成分、性状、機能、造血組織の解剖と生理、血液幹細胞について説明できる。 |                   |            |              |            |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員(園田)は医師であり、専門は小児科であるが、場合によっては内科疾患も診察治療する。   |                   |            |              |            |    |
| 評価方法                | 毎回の授業時間のなかで重要な部分(ヤマ)を示し、そのストックのなかから期末に行う筆記試験の点数、および学習への取り組み姿勢(授業態度)で評価する。評価の基準は授業開始日に説明する。  |                   |            |              |            |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。毎授業後に必ずレジュメを読み返すこと。<br>高校時代に生物学を履修しなかった学生は、自分で勉強して生物学の基礎知識を身につけておくこと。   |                   |            |              |            |    |
| オフィスアワー             | 毎週月・火曜日 1:800~19:00   |                   |            |              |            |    |
| 授業計画                |   |                   |            |              |            |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容           |            |              | 授業<br>方法   | 担当 |
| 1                   | 1)  | 臨床医学総論、症候学        |            |              | 講義         | 園田 |
| 2                   | 1)~3)   | 感染症①              |            |              | 講義         | 園田 |
| 3                   | 1)~3)   | 感染症②              |            |              | 講義         | 園田 |
| 4                   | 1)~4)   | 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全① |            |              | 講義         | 園田 |
| 5                   | 1)~4)   | 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全② |            |              | 講義         | 園田 |
| 6                   | 1)~<br>3)5)   | 循環器疾患①            |            |              | 講義         | 園田 |
| 7                   | 1)~<br>3)5)   | 循環器疾患②            |            |              | 講義         | 園田 |
| 8                   | 1)~<br>3)5)   | 呼吸器疾患①            |            |              | 講義         | 園田 |
| 9                   | 1)~<br>3)5)   | 呼吸器疾患②            |            |              | 講義         | 園田 |
| 10                  | 1)~<br>3)5)   | 消化器疾患①            |            |              | 講義         | 園田 |
| 11                  | 1)~<br>3)5)   | 消化器疾患②            |            |              | 講義         | 園田 |
| 12                  | 1)~<br>3)5)   | 内分泌疾患             |            |              | 講義         | 園田 |
| 13                  | 1)~3)<br>5)~7)  | 代謝性疾患、老年医学        |            |              | 講義         | 園田 |
| 14                  | 1)~<br>3)5)8)   | 血液・造血疾患           |            |              | 講義         | 園田 |
| 15                  | 1)~<br>3)5)   | 腎・泌尿器疾患           |            |              | 講義         | 園田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。            |            |              |            |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。            |            |              |            |    |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 精神医学   |   |          | 授業コード  | 120701B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 22C312P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 堀徹也(非常勤講師)、中山広宣<br>(保・作)   | 開講学期                                    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語機能の障害を人の胎生期から、成人し老化へ進むあらゆる過程で発生する。特に小児の発達期と老年期の基本授業概要:①精神機能について、②精神疾患と精神障害について、③精神疾患(障害)の治療とリハビリテーション。<br>一般目標:近年の社会構造や疾病構造の変化により、身体障害と精神的・心理的障害を合併した対象者が増加している。そのため、精神障害、および老年期疾患、高次脳障害、発達障害、身体障害の精神的・心理的・社会的支援は欠かすことができない。このような多様な背景を持つ精神障害者に対しても支援を行うことのできる言語聴覚士となるために(DP4, 5)、精神障害者や身体障害者の精神・心理を理解し、リハビリテーションの方法を修得する(CP1(4))。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1. 精神症状の概略について説明できる。<br>2. 精神医学の診断と評価、治療について概説できる。<br>3. 各種精神疾患の成因を説明できる。<br>4. 各種精神疾患の精神症状を述べることができる。<br>5. 薬物療法について述べるができる。<br>6. 精神療法の種類とその内容を説明できる。<br>7. 精神障害者の治療形態を述べるができる。<br>8. 精神障害者のリハビリテーションの流れと社会資源を述べるができる。   |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 精神科医として20年以上の臨床経験を有し、臨床経験に基づき、精神疾患と治療、精神科医療機関で活用される基礎知識の修得を目的とした講義を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 定期試験及び授業受講態度(小レポートや発表)   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 精神医学を学ぶことは人(精神または心)の理解において非常に重要である。そのため、疾患や障害をもった人を対象とする医療者には欠かせない学問であることを忘れずに受講すること。<br>予習・復習を行うこと。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                    |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1, 2   | 異常を判定する基準、精神医学特有の方法(了解、追体験、解釈等)         |          |        |            | 講義           | 堀         |
| 2                   | 1, 2   | 精神症状の概略                                 |          |        |            | 講義           | 堀         |
| 3                   | 1, 2   | 伝統的分類(器質性、内因性、心因性)、国際的診断分類(ICD, DSM)    |          |        |            | 講義           | 堀         |
| 4                   | 1, 2   | 精神障害の評価と診断、薬物療法                         |          |        |            | 講義           | 堀         |
| 5                   | 3, 7, 8  | 精神障害の成因と分類、精神保健福祉法、入院形態、医療観察法           |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 6                   | 3, 4   | 精神機能の障害と精神症状(意志の障害、自我障害、知覚障害、思考障害、感情障害) |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 7                   | 3, 4,<br>5, 6  | 脳器質性精神障害(アルツハイマー病、脳血管性認知症、その他の認知症)      |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 8                   | 3, 4,<br>5, 6  | 症状性精神障害、精神作用物質障害(アルコール依存症、薬物依存症)、てんかん   |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 9                   | 3, 4,<br>5, 6  | 統合失調症Ⅰ(タイプと症状)                          |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 10                  | 5, 6   | 統合失調症Ⅱ(治療)                              |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 11                  | 3, 4,<br>5, 6  | 気分障害(うつ病、躁うつ病)                          |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 12                  | 3, 4,<br>5, 6  | 神経症性障害(不安神経症障害、恐怖症性障害、強迫性障害、解離性障害)      |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 13                  | 3, 4,<br>5, 6  | 生理的障害、身体要因に関連した精神障害、人格障害                |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 14                  | 3, 4,<br>5, 6  | 精神遅滞、発達障害、心身医学、リエゾン精神医学                 |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 15                  | 5, 6,<br>7, 8  | 精神障害者の治療(精神療法、薬物療法)とリハビリテーション           |          |        |            | 講義           | 中山        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院【ISBN 978-4-260-02434-1】  |   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版   |   |          |        |            |              |           |

|                    |   |  |          |        |            |              |           |
|--------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                | リハビリテーション医学   |  |          | 授業コード  | 120088B202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)           | 言語聴覚療法学科(2年)  |  |          | ナンバリング | 22C212P02  | AL科目         |           |
| 担当者                | 帖佐悦男、鳥取部光司、山口洋一朗、黒木洋美(非常勤講師)  | 開講学期   | 2020年度後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・一般目標(GIO)    | 言語聴覚障害に関わる知識・技能を用い、評価に必要なプロセスが遂行でき(DP3)、適切な訓練目標を設定し、目標に基づいた訓練プログラムを実施できる言語聴覚士となるために(DP4)、リハビリテーション医学について、総論においてはリハビリテーションの理念、プロセス、診断評価の基礎的アプローチについて、各論においては主な疾患の評価法や治療等の、コメディカルに携わる者にとって必須の知識を修得する(CP1(4))。   |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標(SBOs)         | <p>1)【総論】リハビリテーション医学・医療の概要について理解する。</p> <p>2)【総論】リハビリテーション診療として、各種診察手順、検査、リハ評価等を理解し、概説できる。</p> <p>3)【総論】リハビリテーション診療として、運動学的アプローチや評価、ADL動作やその評価、およびQOLについて理解し、概説できる。</p> <p>4)【各論】障害別の病態生理、疾患としての評価治療を理解する。疾患として脳血管障害、脳損傷等の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>5)【各論】②末梢神経障害(顔面神経障害、糖尿病性神経障害等)の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。閉塞性動脈硬化症、糖尿病性壊疽、外傷に伴う切断と補装具について理解し説明できる。</p> <p>6)【各論】③筋・神経疾患:ALS、ポリオ、筋ジストロフィー、変性疾患:パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症等の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。固縮・痙縮の病態を理解する。様々な疾患の歩行障害について理解する。</p> <p>7)【各論】④骨・関節・筋肉疾患:骨折、骨粗しょう症、スポーツ外傷、運動器関連疼痛(頸部、上肢&amp;下疼痛、腰痛)の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>8)【各論】⑤脊髄損傷、排尿障害、褥瘡、脊椎疾患(二分脊椎)の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>9)【各論】⑥自己免疫性疾患、膠原病、リウマチ性疾患(関節リウマチ、強皮症、多発性筋炎)の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>10)【各論】⑦内部障害:呼吸器疾患、嚥下障害関連の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>11)【各論】⑧内部障害:循環器疾患、腎関連疾患、廃用症候群の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>12)【各論】⑨高次脳機能障害関連(記憶、失行、失認、失語、注意、遂行機能障害、認知)、精神疾患関連の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>13)【各論】⑩がんのリハビリテーション(悪性腫瘍、骨転移、がん性疼痛、チーム医療、複合性局所疼痛症候群含む)の病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> <p>14)【各論】⑪加齢による障害:サルコペニア、フレイル)、小児関連疾患として発達障害:脳性麻痺、自閉症、ADHDなどの病態、治療、評価、リハビリテーションについて理解し説明できる。</p> |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育 | 医師としての経験に基づき教授する。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法               | 筆記試験による知識・理解度、考え方について評価を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等   | 1コマ当たり4時間を目安に予習・復習をおこなうこと。資料を中心に行うので、欠席した場合の補充は各自で行うこと。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー            | 講義前後の可能な時間。   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画               |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                 | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                  | 1)  | 【総論】リハビリテーション医学・医療の概要について理解する。   |          |        |            | 講義           | 帖佐        |
| 2                  | 2)  | 【総論】リハビリテーション診療として、各種診察手順、検査、リハ評価等を理解し、概説できる。                            |          |        |            | 講義           | 帖佐        |
| 3                  | 2)  | 【総論】リハビリテーション診療として、運動学的アプローチや評価、ADL動作やその評価、およびQOLについて理解し、概説できる。          |          |        |            | 講義           | 帖佐        |
| 4                  | 3)  | 【各論】障害別の病態生理、疾患としての評価治療<br>① 脳血管障害、脳損傷等                                  |          |        |            | 講義           | 鳥取部       |
| 5                  | 4)  | 【各論】②末梢神経障害(顔面神経障害、糖尿病性神経障害等)<br>閉塞性動脈硬化症、糖尿病性壊疽、外傷に伴う切断と補装具             |          |        |            | 講義           | 鳥取部       |
| 6                  | 5)  | 【各論】③筋・神経疾患:ALS、ポリオ、筋ジストロフィー、変性疾患:パーキンソン病、<br>脊髄小脳変性症、多発性硬化症(固縮・痙縮)、歩行障害 |          |        |            | 講義           | 鳥取部       |
| 7                  | 6)  | 【各論】④骨・関節・筋肉疾患:骨折、骨粗しょう症、スポーツ外傷、<br>運動器関連疼痛(頸部、上肢&下疼痛、腰痛)                |          |        |            | 講義           | 山口(洋)     |
| 8                  | 7)  | 【各論】⑤脊髄損傷、排尿障害、褥瘡、脊椎疾患(二分脊椎)   |          |        |            | 講義           | 山口(洋)     |
| 9                  | 8)  | 【各論】⑥自己免疫性疾患、膠原病、リウマチ性疾患<br>(関節リウマチ、強皮症、多発性筋炎)                           |          |        |            | 講義           | 山口(洋)     |
| 10                 | 9)  | 【各論】⑦内部障害:呼吸器疾患、嚥下障害関連   |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 11                 | 10)   | 【各論】⑧内部障害:循環器疾患、腎関連疾患、廃用症候群、熱傷   |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 12                 | 11)   | 【各論】⑨-1 高次脳機能障害関連(記憶、失行、失認、失語、注意、遂行機能障害、認知)、精神疾患関連                       |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 13                 | 12)   | 【各論】⑨-2 高次脳機能障害関連(記憶、失行、失認、失語、注意、遂行機能障害、認知)、精神疾患関連                       |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 14                 | 13)   | 【各論】⑩がんのリハビリテーション(悪性腫瘍、骨転移、がん性疼痛、チーム医療)、複合性局所疼痛症候群含む                     |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 15                 | 14)   | 【各論】⑪加齢による障害:サルコペニア、フレイル)、発達障害:脳性麻痺、自閉症、ADHDなど)                          |          |        |            | 講義           | 黒木        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |   | 最新リハビリテーション医学 第3版(江藤文夫・里宇明元 監修)医歯薬出版株式会社【978-4-263-21730-6】              |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |   | リハビリテーション技術全書(服部一郎・細川忠義・和才嘉昭)医学書院【978-4-260-24290-5】                     |          |        |            |              |           |

現代リハビリテーション医学 改訂 第3版(千野直一 編)金原出版【978-4-307-25142-6】

標準リハビリテーション医学 第3版(上田敏)医学書院【978-4-260-01394-9】

リハビリテーションビジュアルブック第2版(監修 落合慈之)学研メディカル秀潤社【978-4780911930】

|                     |  |                                       |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 耳鼻咽喉科学   |                                       |          | 授業コード  | 120498B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |                                       |          | ナンバリング | 22C212P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)、島田 亜紀(非常勤講師)   | 開講学期                                  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域の知識は、言語聴覚障害児・者と適切に関わっていくためには必須のものである。「耳鼻咽喉科学」では、多様な状態を示す言語聴覚障害児・者に適切な評価および言語聴覚療法を行うことができる言語聴覚士となるために(DP3)、耳鼻咽喉科学領域の耳科学および鼻科学の基礎知識を理解し、構造・機能・病態の関係性を概説できる力を修得する(CP1(4))。                     |                                       |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)聴覚器の解剖学に精通し、聴覚機能のメカニズムおよび疾患を説明できる。<br>2)鼻・副鼻腔の解剖学に精通し、疾患と症候を説明できる。<br>3)耳鼻咽喉科学に関する国家試験の出題基準を知り、グループで討議し、問題を作成することができる。<br>4)3)について、グループで討議し、他者が理解できる解説を作成することができる。<br>5)耳鼻咽喉科学に関する問題を解き、回答に至るプロセスを概説できる。 |                                       |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 戸高:言語聴覚士として医療機関(耳鼻咽喉科)での5年以上の実務経験および国家試験受験経験に基づき、SGDにおいて指導・助言を行う。<br>島田:医師(耳鼻咽喉科)としての豊富な臨床経験に基づき、臨床的視点を含めた講義を行う。   |                                       |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、質問・発言など講義への参加)を30%、単位認定試験を70%として、単位認定を行う。   |                                       |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・1コマあたり4時間の予習復習を行うこと(講義内容の項目について、教科書の該当ページを読み、予習する。返却された確認テストを用いて、学習内容の復習する等)。<br>・確認テスト、レポート課題の実施を通して、理解度を確認しながら、予習復習に取り組むこと。<br>・SGDでは、積極的にグループ内で発言し、自ら能動的に考える場であること理解し、活動すること。                          |                                       |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 戸高:日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室<br>島田:講義前後の休み時間、場所-講義室もしくは言語聴覚療法学科の準備室  |                                       |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                                       |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 【耳科学】聴覚器の解剖と生理①                       |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 2                   | 1)   | 【耳科学】聴覚器の解剖と生理②                       |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 3                   | 1)   | 【耳科学】聴覚器の解剖と生理③                       |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 4                   | 1)   | 【耳科学】耳の疾患と症候、診断、治療①                   |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 5                   | 1)   | 【耳科学】耳の疾患と症候、診断、治療②                   |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 6                   | 1)   | 【耳科学】耳の疾患と症候、診断、治療③                   |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 7                   | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の構造と機能①                     |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 8                   | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の構造と機能②                     |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 9                   | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の構造と機能③                     |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 10                  | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の疾患と症候、診断、治療①               |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 11                  | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の疾患と症候、診断、治療②               |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 12                  | 2)   | 【鼻科学】鼻・副鼻腔の疾患と症候、診断、治療③               |          |        |            | 講義           | 島田        |
| 13                  | 3)4)   | 国家試験の出題基準に従い、耳鼻咽喉科学で学んだ知識で問題・解説を作成する① |          |        |            | SGD          | 戸高        |
| 14                  | 3)4)   | 国家試験の出題基準に従い、耳鼻咽喉科学で学んだ知識で問題・解説を作成する② |          |        |            | SGD          | 戸高        |
| 15                  | 5)   | まとめ:自分たちで作成した問題を解き、耳鼻咽喉科学に関する知識を整理する  |          |        |            | SGD          | 戸高        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 言語聴覚士のための耳鼻咽喉科学第2版(鳥山稔・田内光 編)医学書院【978-4-260-00444-2】<br>新耳鼻咽喉科学入門 改訂新版(言語聴覚士のための講義ノート)中野 雄一(著)考古堂書店【978-4-87499-710-9】   |                                       |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | なし   |                                       |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |            |            |              |           |     |
|---------------------|---|------|------------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | 臨床歯科医学  |      | 授業コード      | 121331B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2 年次)  |      | ナンバリング     | 22C312P02  | AL 科目        |           |     |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言)   | 開講学期 | 2020 年度 前期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態      | 講 義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い評価・訓練に必要なプロセスを遂行する(DP3, 4)ために歯科医学および口腔外科学について学び、口腔内の形態的および機能的障害について修得する(CP1)。また言語聴覚士として臨床現場に臨む際に必要な基本的知識を習得し、歯科専門職との更なる連携を目指す(CP5)。  |      |            |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)歯・歯周組織の発生、機能、疾患およびそれに対する治療法について説明できる。<br>2)口腔ケアの意義および内容について説明できる。<br>3)口腔器官の構造、機能、疾患およびそれに対する治療法について説明できる。<br>4)言語障害と関係のある疾患およびそれに対する治療法について説明できる。<br>5)口腔領域の障害に対する歯科医学的対応について説明できる。<br>6)口腔機能障害(後天的疾患、中枢性疾患、加齢による)およびその治療法について説明できる。 |      |            |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学附属病院矯正歯科外来)における5年以上の矯正歯科医師としての臨床経験に基づいた授業を行う。  |      |            |            |              |           |     |
| 評価方法                | 単位認定試験 90%、課題の提出状況を 10%とし、単位認定を行う   |      |            |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 口腔解剖学を修得済みであること。1 回の授業につき 60 分を目安に予習・復習を行うこと。<br>講義時には教科書を使うため、必ず持ってくること。   |      |            |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 火、水、木 12:30~13:00   |      |            |            |              |           |     |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|------------|-----|
| 1  | 1)          | 【歯科医学について①】<br>歯科医学の特徴、概要 歯・歯周組織の発生、機能                         | 講 義        | 中 村 |
| 2  | 1)          | 【歯科医学について②】<br>歯・歯周組織の疾患、治療                                    | 講 義        | 中 村 |
| 3  | 2)          | 【口腔ケアについて】<br>口腔ケアの意義、内容                                       | 講義、演習      | 中 村 |
| 4  | 3)          | 【口腔外科学について①】<br>口腔・顎・顔面の発生、構造、機能                               | 講 義        | 中 村 |
| 5  | 3)          | 【口腔外科学について②】<br>口腔・顎・顔面の疾患、治療                                  | 講 義        | 中 村 |
| 6  | 3)          | 【口腔外科学について③】<br>顎関節・唾液腺の発生、構造、疾患、治療                            | 講 義        | 中 村 |
| 7  | 4)          | 【言語障害と関係のある疾患について①】<br>唇顎口蓋裂および関連類似疾患、治療                       | 講 義        | 中 村 |
| 8  | 4)          | 【言語障害と関係のある疾患について②】<br>口腔軟組織異常・顎変形症・顎の先天および発育異常・顎関節疾患、治療       | 講 義        | 中 村 |
| 9  | 4)          | 【言語障害と関係のある疾患について③】<br>唾液腺疾患・末梢神経障害・口腔乾燥症、治療                   | 講 義        | 中 村 |
| 10 | 5)          | 【言語障害と関係のある疾患について④】<br>口腔粘膜疾患、治療 口腔を構成する器官に影響を与える症候群           | 講 義        | 中 村 |
| 11 | 5)          | 【言語・咀嚼・摂食障害に対する歯科医学的対応について】<br>手術的療法、人工材料による機能回復、訓練、歯科画像検査     | 講 義        | 中 村 |
| 12 | 6)          | 【口腔機能障害について①・後天的疾患 その1】<br>歯・口腔・顎・顔面の炎症・腫瘍による口腔機能障害、治療         | 講 義        | 中 村 |
| 13 | 6)          | 【口腔機能障害について②・後天的疾患 その2】<br>歯・口腔・顎・顔面のう胞・外傷による口腔機能障害、治療、再建と機能回復 | 講 義        | 中 村 |
| 14 | 6)          | 【口腔機能障害について③】<br>中枢性疾患による口腔機能障害、治療、評価                          | 講 義        | 中 村 |
| 15 | 6)          | 【口腔機能障害について④】<br>加齢による口腔機能障害および対応 筋機能療法                        | 講義、演習      | 中 村 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第2版(夏目 長門) 医学書院【978-4-260-02812-7】

よくわかる歯科医学・口腔ケア(喜久田 利弘, 楠川 仁悟) 医学情報社【978-4-903553-34-4】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 適宜指示します

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 呼吸発声発語系の構造、機能、病態  |      |           | 授業コード  | 120368B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |           | ナンバリング | 22C212P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言語) 宇高 二良<br>(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 呼吸、発声、発語は一連の運動であり、切り離して考えることは出来ない。発語がヒト固有の機能である一方、呼吸、発声はほ乳類共通の機能であり、その相違点を念頭に置いた上で、言語聴覚士の臨床を行う必要がある。本講義は、高い知識を持った言語聴覚士になるために、これらの仕組みを十分に理解し、その知識を、言語聴覚士の臨床へ応用できるように修得する(DP3&4)。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)呼吸発声発語器官の名称、形態および位置を説明できる。<br>2)肺、気管支等の呼気出力系の機能と構造を説明できる。<br>3)喉頭の発声機能と構造を説明できる。<br>4)鼻腔、口腔、咽頭の構音機能機能と構造を説明できる。<br>5)呼吸発声発語系機能を調べる諸検査を実施することができる。                             |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本講義は、経験年数5年以上の耳鼻科医師および言語聴覚士より、呼吸・発声発語系の解剖生理、疾患と障害の特徴について、実務経験に基づいた知識技術が提供される。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 試験(筆記)・レポート課題   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 呼吸、発声、発語器官は体表面から見えない管腔臓器であり、理解するための積極的姿勢と努力が必要である。講義終了の時点で十分な知識を獲得できるようにまとめや小テストの時間を挿んでゆく予定である。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火・水・木曜日 12:30-13:10(原)、講義前後の空き時間(宇高)  |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容            | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--------------------|------------|-----|
| 1  | 1)~4)       | 呼吸器系の基本構造・機能・病態(1) | 講 義        | 宇 高 |
| 2  | 1)~4)       | 呼吸器系の基本構造・機能・病態(2) | 講 義        | 宇 高 |
| 3  | 1)~4)       | 呼吸運動・呼吸器系の病態       | 講 義        | 宇 高 |
| 4  | 1)~5)       | 呼吸機能検査             | 講 義        | 宇 高 |
| 5  | 1)~4)       | 喉頭の基本構造            | 講 義        | 宇 高 |
| 6  | 1)~4)       | 喉頭の機能              | 講 義        | 宇 高 |
| 7  | 1)~4)       | 喉頭の検査              | 講 義        | 宇 高 |
| 8  | 1)~4)       | 喉頭の病態              | 講 義        | 宇 高 |
| 9  | 1)~4)       | 構音器官の基本構造          | 講 義        | 宇 高 |
| 10 | 1)~4)       | 構音運動               | 講 義        | 宇 高 |
| 11 | 1)~4)       | 構音器官の検査            | 講 義        | 宇 高 |
| 12 | 1)~4)       | 構音器官の病態            | 講 義        | 宇 高 |
| 13 | 1)~4)       | 音声機能の検査(1)         | 講義・演習      | 原   |
| 14 | 1)~5)       | 音声機能の検査(2)         | 演 習        | 原   |
| 15 | 1)~5)       | 音声機能の検査(3)         | 演 習        | 原   |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 新 ことばの科学入門(廣瀬 肇)医学書院【4-260-24437-X】



|                     |   |                |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|----------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 聴覚系の構造、機能、病態  |                |           | 授業コード  | 120764B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |                |           | ナンバリング | 22C212P05  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 留守 拓也(非常勤講師)  | 開講学期           | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、言語聴覚士として必要な知識・技能を身につけるために(DP3)、正常聴覚系の構造・機能に関する基礎知識を修得する(CP1(1))。また、聴覚系の構造・機能と関連づけて、その病態について理解し修得する(CP1(4))。   |                |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 感覚・知覚・認知機能の概要について説明できる<br>2) 聴覚系の概要を説明できる<br>3) 聴覚機能の概要を説明できる<br>4) 伝音系の概要を説明できる<br>5) 感音系の概要を説明できる<br>6) 聴覚障害と聴覚系の構造・機能との関連を説明できる<br>7) 耳音響放射と聴覚系の構造・機能との関連を説明できる<br>8) 聴性誘発電位と聴覚系の構造・機能との関連を説明できる<br>9) 聴覚補償と聴覚系の構造・機能との関連を説明できる |                |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 医師(耳鼻咽喉科)としての経験をもとに、授業を展開する。  |                |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点(授業への参加状況、レポート等)30%、筆記試験得点 70%。  |                |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 聴覚系を中心に、発声発語系・中枢神経系についても、その構造と機能、発達、その他全般について、予め 30 分を目安に自習を済ませておいて下さい。   |                |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間に行う。  |                |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容           |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 感覚・知覚・認知機能     |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 2                   | 1)3)  | 聴覚機能の概要        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 3                   | 1)~3)   | 聴覚系の構造・機能の概要   |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 4                   | 1)~4)   | 伝音系の構造・機能①     |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 5                   | 1)~4)   | 伝音系の構造・機能②     |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 6                   | 1)~5)   | 感音系の構造・機能①     |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 7                   | 1)~5)   | 感音系の構造・機能②     |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 8                   | 1)~5)   | 内耳の微細構造        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 9                   | 1)~6)   | 伝音系の病態①        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 10                  | 1)~6)   | 伝音系の病態②        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 11                  | 1)~6)   | 感音系の病態①        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 12                  | 1)~6)   | 感音系の病態②        |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 13                  | 1)~7)   | 耳音響放射の概要       |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 14                  | 1)~8)   | 聴性誘発電位の概要      |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 15                  | 1)~9)   | 聴覚補償(補聴器と人工内耳) |           |        |            | 講義           | 留守        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 資料配付致します。      |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 資料配付致します。      |           |        |            |              |           |

|                 |  |      |          |        |            |              |           |
|-----------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名             | 神経系の構造、機能、病態   |      |          | 授業コード  | 120618B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)        | 言語聴覚療法学科(2年)   |      |          | ナンバリング | 22C211P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者             | 原 修一(保・言)、吉武義徳(保・言)、橋本洋一郎(非常勤講師)、武居光雄(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・一般目標(GIO) | 脳・神経系の構造と機能、および病態(神経症候学)を知ることが、言語聴覚士になるために必須の知識である。本講義では、脳・神経系の構造と機能を、運動・感覚・内臓(自律神経)という側面より理解する(DP1)。さらに、神経症候学(脳血管障害、感染症、変性疾患等)、高次脳機能障害の概要を理解し、言語聴覚障害の正確な評価や訓練に必要なプロセスを遂行できるようにする(DP3&4)。  |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標(SBOs)      | 1)運動と脳、神経の関係を説明できる。<br>2)感覚と脳、神経の関係を説明できる。<br>3)内臓(自律神経)と脳、神経の関係を説明できる。<br>4)神経症候学全般について概要を説明できる。<br>5)神経系の疾患と言語聴覚療法との関連性について説明できる。<br>6)脳血管障害について説明できる。<br>7)神経系の臨床検査について説明できる。<br>8)大脳の主要な解剖学的領域について、画像診断学的に説明できる。<br>9)変性疾患・脱髄疾患・末梢神経疾患について説明できる。<br>10)発作性疾患について説明できる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある教員による教育  | 科目担当者(全員)は、病院等臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、脳と神経の解剖や生理学的特徴、疾患と障害に関する知識の修得を目的とした授業を行う。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法            | 単位認定試験(100%)   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の注意等    | 授業時間後には、脳の解剖学的部位やその機能、脳神経疾患に関する復習を行ってください。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー         | 原: 火・水・木曜日の昼休み 12:30-13:00<br>その他講師: 講義前後の可能な時間  |      |          |        |            |              |           |

| 授業計画               |          |   |       |    |  |  |  |
|--------------------|----------|---|-------|----|--|--|--|
| 回数                 | SBOs No. | 授業内容  | 授業方法  | 担当 |  |  |  |
| 1                  | 1)2)3)   | 神経症候学概論①  | 講義    | 吉武 |  |  |  |
| 2                  | 1)2)3)   | 神経症候学概論②  | 講義    | 吉武 |  |  |  |
| 3                  | 4)       | 神経疾患概論①   | 講義    | 吉武 |  |  |  |
| 4                  | 4)       | 神経疾患概論②   | 講義    | 吉武 |  |  |  |
| 5                  | 1)-5)    | 言語聴覚士と関連の深い神経系の構造・機能・病態①                                    | 講義    | 原  |  |  |  |
| 6                  | 1)-5)    | 言語聴覚士と関連の深い神経系の構造・機能・病態②                                    | 講義    | 原  |  |  |  |
| 7                  | 6)       | 脳血管障害① 一過性脳虚血発作、脳梗塞の症候と発生機序                                 | 講義    | 橋本 |  |  |  |
| 8                  | 6)       | 脳血管障害② 脳出血の症候と発生機序  | 講義    | 橋本 |  |  |  |
| 9                  | 6)       | 脳血管障害③ くも膜下出血等出血性疾患の症候                                      | 講義    | 橋本 |  |  |  |
| 10                 | 7)       | 神経系臨床検査の方法と結果の解釈  | 講義    | 橋本 |  |  |  |
| 11                 | 8)       | 神経系の画像診断①   | 講義・演習 | 原  |  |  |  |
| 12                 | 8)       | 神経系の画像診断②   | 講義・演習 | 原  |  |  |  |
| 13                 | 9)       | 変性疾患の症候と発生機序  | 講義    | 原  |  |  |  |
| 14                 | 10)      | 発作性疾患の症候と発生機序①  | 講義    | 武居 |  |  |  |
| 15                 | 10)      | 発作性疾患の症候と発生機序②  | 講義    | 武居 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |          | 病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 第2版:医療情報科学研究所(編)メディックメディア【978-4896326864】 |       |    |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |          | 使用しない   |       |    |  |  |  |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床心理学   |  |          | 授業コード  | 121071B202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |  |          | ナンバリング | 22C311P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害者の評価や支援に資する基本的な心理学的知見を身につけるために(DP3, 4)、臨床心理学が対象とする各種の障害及びその特徴と、対象者を理解するための基本的な技法、さらには、対象者に対する心理療法とそれに付随する種々の技法を修得する(CP1(4))。  |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)臨床心理学の定義と特徴、臨床心理士の役割と職域を説明できる。<br>2)性格類型論、性格特性論、及びそれぞれの長所と短所、Freudのパーソナリティ理論(力動論)を説明できる。<br>3)臨床心理学におけるアセスメントの流れ、質問紙法と投影法による代表的な性格検査とその内容を説明できる。<br>4)精神障害の診断基準の1つであるDSM-IV-TRの多軸評定システムを説明できる。<br>5)臨床心理学が対象とする各種の障害の特徴を説明できる。<br>6)対象者に対する心理療法とそれに付随する種々の技法を説明できる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 2回に1回おこなう小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この小テストを30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり4時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。国家試験に向けて精神医学(2年次後期)と関連付けて学習すること。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 臨床心理学とは何か:臨床心理学の定義と特徴、臨床心理士の役割と職域                            |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 2                   | 2)  | 性格、パーソナリティの基礎理論(1):性格類型論と性格特性論、及びそれぞれの長所と短所                  |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 3                   | 2)  | 性格、パーソナリティの基礎理論(2):Freudのパーソナリティ理論(力動論)                      |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 4                   | 3)  | 臨床心理学におけるアセスメント(1):質問紙法による代表的な性格検査と、それらがアセスメントする内容           |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 5                   | 3)  | 臨床心理学におけるアセスメント(2):投影法による代表的な性格検査と、それらがアセスメントする内容            |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 6                   | 4)  | 精神障害の分類と、診断基準:病因論と症候論、DSM-IV-TRの多軸評定システム                     |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 7                   | 5)6)  | 様々な精神障害(1):不安障害の類型とそれぞれにみられる症状、不安障害に対する心理療法                  |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 8                   | 5)6)  | 様々な精神障害(2):身体表現性障害の類型とそれぞれにみられる症状、身体表現性障害に対する心理療法            |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 9                   | 5)6)  | 様々な精神障害(3):解離性障害の類型とそれぞれにみられる症状、解離性障害に対する心理療法                |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 10                  | 5)6)  | 様々な精神障害(4-1):パーソナリティ障害の類型とそれぞれにみられる症状、パーソナリティ障害に対する心理療法      |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 11                  | 5)6)  | 様々な精神障害(4-2):パーソナリティ障害の類型とそれぞれにみられる症状、パーソナリティ障害に対する心理療法(その2) |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 12                  | 5)  | 様々な精神障害(5-1):気分障害にみられる症状                                     |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 13                  | 6)  | 様々な精神障害(5-2):気分障害に対する心理療法                                    |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 14                  | 5)  | 様々な精神障害(6-1):統合失調症にみられる症状                                    |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 15                  | 5)6)  | 様々な精神障害(6-2):統合失調症における病型、統合失調症に対する心理療法                       |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。講義レジュメを配布する。   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 第1回に紹介する。  |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生涯発達心理学演習   |      |          | 授業コード  | 121243A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |          | ナンバリング | 22C212P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用いて評価、支援を行うために、人間の生涯発達の各領域について、発達の原理や現象人間の必須の知識を習得する。  |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)発達の各領域の範疇について説明できる。<br>2)発達の各領域の発達順序が説明できる。<br>3)発達の各領域に関連する研究結果や諸説が理解できる。<br>4)発達全般や各領域の水準が測定できる。          |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 10%、中間テスト 45%、期末試験 45%の点数で総合的に評価する。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回授業につき 120 分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された小テストを再び、自分で解き完全に答えられるようにしておくこと。 |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15   |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|--|----------|----|
| 1  | 1)3)        | 【社会性の発達について学ぶ①】<br>乳児期の人の顔の知覚について説明できる。                | 講義       | 松山 |
| 2  | 1)2)        | 【社会性の発達について学ぶ②】<br>パーテンの遊びの発達について説明できる。                | 演習       | 松山 |
| 3  | 2)4)        | 【社会性の発達について学ぶ③】<br>集団の発達について説明できる。                     | 講義       | 松山 |
| 4  | 1)2)        | 【認知の発達について学ぶ①】<br>ピアジェの思考の4つの発達段階とそのメルクマールについて列挙できる。   | 講義       | 松山 |
| 5  | 1)2)        | 【認知の発達について学ぶ②】<br>ピアジェの思考の発達段階のメルクマールについて説明できる。        | 講義       | 松山 |
| 6  | 1)2)        | 【認知の発達について学ぶ③】<br>ピアジェの感覚運動期と具体的操作期について説明できる。          | 講義       | 松山 |
| 7  | 1)3)        | 【認知の発達について学ぶ④】<br>学習の準備性と「発達の最近接領域」の違いについて説明できる。       | 講義       | 松山 |
| 8  | 1)3)        | 【知覚の発達について学ぶ①】<br>知覚の概念と特性について説明できる。                   | 講義       | 松山 |
| 9  | 1)2)3)      | 【知覚の発達について学ぶ②】<br>視覚的断崖実験について説明できる。                    | 講義       | 松山 |
| 10 | 1)2)        | 【運動の発達について学ぶ①】<br>運動発達の法則について列挙できる。                    | 講義       | 松山 |
| 11 | 1)2)        | 【運動の発達について学ぶ②】<br>運動発達の標準月齢について列挙できる。                  | 講義       | 松山 |
| 12 | 1)4)        | 【発達の評価方法について学ぶ②】<br>主な発達検査の目的と方法について説明できる。             | 講義       | 松山 |
| 13 | 4)          | 【発達の評価方法について学ぶ②】<br>遠城寺式乳幼児分析的発達検査の採点方法と分析結果について説明できる。 | 演習       | 松山 |
| 14 | 1)3)        | 【感情の発達について学ぶ①】<br>生理反応と情動の関係について説明できる。                 | 講義       | 松山 |
| 15 | 1)2)        | 【感情の発達について学ぶ②】<br>感情の分化について説明できる。                      | 講義       | 松山 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 特に指定しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 図でわかる発達心理学(新井 邦二郎) 福村出版【978-4571230349】  
図解雑学 発達心理学(山下 富美代・井田 政則・山村 豊) ナツメ社【978-4816】

|                     |  |   |          |            |              |           |    |
|---------------------|--|---|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 学習・認知心理学   |   | 授業コード    | 120225b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |   | ナンバリング   | 22C211P02  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)   | 開講学期                                      | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害者の評価や支援に資する基本的な心理学的知見を身につけるために(DP3, 4)、直接経験、及び間接経験に基づく学習の基本的な原理、学習の礎となる感覚の種類とその特徴、知覚における基本的な現象を修得する(CP1(4))。   |   |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 生得的行動の例と学習された行動との違い、古典的条件づけ、試行錯誤学習を説明できる。<br>2) 行動主義、新行動主義に基づく学習理論、オペラント条件づけの基本的な現象を説明できる。<br>3) 技能学習、模倣学習、観察学習の基本的な現象を説明できる。<br>4) 感覚の種類、知覚(色、奥行き、形、運動)における基本的な現象を説明できる。 |   |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。  |   |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 2回に1回おこなう小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この小テストを30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。  |   |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり4時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。  |   |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00  |   |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |   |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                      |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)   | 学習とは何か: 定義、生得的行動の例、学習された行動との違い            |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 2                   | 1)   | 古典的条件づけ: 条件反射の形成、消去、自発的回復、般化、分化           |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 3                   | 1)   | 試行錯誤学習: Thorndikeによる問題箱を用いた試行錯誤学習とその説明原理  |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 4                   | 2)   | 行動主義に基づく学習理論: Watsonの行動主義、恐怖条件づけのメカニズム    |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 5                   | 2)   | 新行動主義に基づく学習理論: Hull, Tolmanの学習理論          |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 6                   | 2)   | オペラント条件づけ(1): Skinner箱、正の強化、マガジン訓練、シェーピング |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 7                   | 2)   | オペラント条件づけ(2): 強化のスケジュール                   |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 8                   | 2)   | オペラント条件づけ(3): 臨床場面への応用(行動療法、応用行動分析)       |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 9                   | 3)   | 技能学習: プラトー、結果の知識、集中と分散、転移                 |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 10                  | 3)   | 社会的学習(1): モデル、模倣、模倣学習                     |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 11                  | 3)   | 社会的学習(2): 観察学習、代理強化と代理罰、社会的学習理論           |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 12                  | 4)   | 感覚(1): 学習の礎となる感覚の種類とその内容                  |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 13                  | 4)   | 感覚(2): 視覚優位の統合、網膜における2つの視細胞の働き            |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 14                  | 4)   | 知覚(1): 色彩知覚、知覚の恒常性                        |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 15                  | 4)   | 運動知覚における諸現象知覚(2): 奥行き知覚の手がかり、形の知覚と群化の要因、  |          |            |              | 講義        | 内藤 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。講義レジュメを配布する。                        |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 第1回に紹介する。                                 |          |            |              |           |    |

|                     |  |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 学習・認知心理学演習   |   |           | 授業コード  | 121151A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |   |           | ナンバリング | 22C212P07  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害者の評価や支援に資する基本的な心理学的知見を身につけるために(DP3, 4)、人間が持つ高次精神機能であるところの認知とその特徴を修得する(CP1(4))。   |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 認知心理学の成立の契機、記憶の過程、区分、記銘方略、忘却に関する主要な理論を説明できる。<br>2) 概念の構造に関する理論、文字のパターン認知についてのモデル、単語認知のモデルを説明できる。<br>3) 一般的知識の表象についてのモデル、スキーマとその特徴を説明できる。<br>4) 問題解決の理論、問題解決に影響を及ぼす要因、推理について説明できる。 |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。  |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 2回に1回おこなう小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この小テストを30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。  |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり1時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。  |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00  |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                                       |           |        |            | 授 業<br>方 法   | 担 当       |
| 1                   | 1)   | 認知心理学とは: 認知心理学の成立の契機、扱う領域                     |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 2                   | 1)   | 記憶(1): 記憶の3過程(覚える・覚えておく・思い出す)、記憶の時間による区分とその内容 |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 3                   | 1)   | 記憶(2): CraikとLockhartの処理水準モデル、記銘方略            |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 4                   | 1)   | 記憶(3): 顕在記憶と潜在記憶の違い、長期記憶との対応関係                |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 5                   | 1)   | 記憶(4): Ebbinghausの再学習法、節約率、忘却曲線               |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 6                   | 1)   | 記憶(5): 忘却に関する様々な説(不使用による減衰説、干渉説、検索失敗説)        |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 7                   | 2)   | 概念と言語(1): カテゴリー化、カテゴリー、概念                     |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 8                   | 2)   | 概念と言語(2): 概念の構造に関する理論(定義的特性理論、プロトタイプ理論)       |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 9                   | 2)   | 概念と言語(3): 文字のパターン認知についてのモデル(鋳型照合モデル)          |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 10                  | 2)   | 概念と言語(4): 文字のパターン認知についてのモデル(特徴分析モデル)          |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 11                  | 3)   | 知識と表象(1): 一般的知識の表象についてのモデル(階層的ネットワーク、活性化拡散)   |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 12                  | 3)   | 知識と表象(2): スキーマとその特徴                           |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 13                  | 4)   | 問題解決と推理(1): 問題解決の理論(試行錯誤、洞察、情報処理論的アプローチ)      |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 14                  | 4)   | 問題解決と推理(2): 問題解決に影響を及ぼす要因                     |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 15                  | 4)   | 問題解決と推理(3): 帰納的推理と演繹的推理                       |           |        |            | 講 義          | 内 藤       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。講義レジュメを配布する。                            |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 第1回に紹介する。                                     |           |        |            |              |           |

|                     |   |                     |            |              |           |    |
|---------------------|---|---------------------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 心理測定法演習   | 授業コード               | 121237A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  | ナンバリング              | 22C212P08  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期                | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害者の評価や支援に資する基本的な心理学的的方法論を身につけるために(DP3, 4)、ヒトを対象としてデータを採取するときの様々な基本的技法と、それらの長所と短所を修得する(CP1(4))。   |                     |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 心理測定をおこなう目的、心理測定に伴う倫理的問題及びその対処方法を説明できる。<br>2) 実験法と質問紙(調査)法の特徴、及びそれらの長所と短所を説明できる。<br>3) データの尺度水準の種類、及びそれらの特徴を説明できる。<br>4) データの分布とその表現方法、データの分布の要約統計量の種類及び算出方法を説明できる。<br>5) 感覚・知覚心理学研究において用いられる測定法、測度を説明できる。<br>6) 発達・教育心理学研究における測定法である検査法、検査の信頼性と妥当性を説明できる。<br>7) 社会心理学研究において用いられる測定法、測度を説明できる。 |                     |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |                     |            |              |           |    |
| 評価方法                | 2回に1回おこなう小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この小テストを30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。   |                     |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり1時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。   |                     |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |                     |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |                     |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)  | 心理測定とは何か            |            |              | 講義        | 内藤 |
| 2                   | 2)  | 心理測定の二大方法論:実験法      |            |              | 講義        | 内藤 |
| 3                   | 2)  | 心理測定の二大方法論:質問紙(調査)法 |            |              | 講義        | 内藤 |
| 4                   | 3)  | データの尺度水準            |            |              | 講義        | 内藤 |
| 5                   | 4)  | データの分布と要約統計量(1)     |            |              | 講義        | 内藤 |
| 6                   | 4)  | データの分布と要約統計量(2)     |            |              | 講義        | 内藤 |
| 7                   | 5)  | 感覚・知覚心理学研究における測定(1) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 8                   | 5)  | 感覚・知覚心理学研究における測定(2) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 9                   | 5)  | 感覚・知覚心理学研究における測定(3) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 10                  | 5)  | 感覚・知覚心理学研究における測定(4) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 11                  | 6)  | 発達・教育心理学研究における測定(1) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 12                  | 6)  | 発達・教育心理学研究における測定(2) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 13                  | 6)  | 発達・教育心理学研究における測定(3) |            |              | 講義        | 内藤 |
| 14                  | 7)  | 社会心理学研究における測定(1)    |            |              | 講義        | 内藤 |
| 15                  | 7)  | 社会心理学研究における測定(2)    |            |              | 講義        | 内藤 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。講義レジュメを配布する。  |                     |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 第1回に紹介する。   |                     |            |              |           |    |

|                     |   |      |          |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語学   |      | 授業コード    | 120338b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床心理学科(1年)  |      | ナンバリング   | 22C111P03  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 太田 栄次(臨床心理学科)   | 開講学期 | 2020年度後期 | 必修・選択      | 言語聴覚コースのみ必修  | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセス(情報収集・観察・正確な検査・検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握)が遂行できる(DP3)ためには、ことばを客観的に記述及び分析する力が求められる。言語聴覚士としてことばを記述分析するためには、ことばが持っている基本的な特徴や、個別言語の構造について理解しておく必要がある。本講義では、人間の言語とはどのような性質を持っているのかを様々な角度から考え、同時に、日本語の特徴も紹介しながら言語学の基本的な知識を身につけるとことを目的とする。 |      |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)ことばに対する好奇心を持つ。<br>2)言語学の概説(目標、諸分野、基本的問題について説明できる)。<br>3)言語学に関する基本的概念と用語を説明できる。<br>4)言語類型論的に見た日本語の特徴を説明できる。  |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当者は、平成16年9月から平成17年8月まで台湾銘伝大学応用日本語学科にて、日本語教育担当教員としての勤務経験がある。その中で、日本語非母語話者に対して、日本語の統語的・形態的特徴、及び語用論的な側面について教示した。  |      |          |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点(授業態度+レポート等)30%と定期試験の点数70%で総合的に評価する。   |      |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 特になし。   |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週 曜日   |      |          |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |  |
|--------------------|-------------|--|----------|----|--|
| 1                  | 1)          | 【講義概要の説明、言語の一般的な性質】<br>本講義が目指すことや、言語学の研究対象について理解する。    | 講義・演習    | 太田 |  |
| 2                  | 2)          | 【言語学の基本概念を知る(ソシュール)】<br>ことばに対するソシュールの考え方を理解する。         | 講義・演習    | 太田 |  |
| 3                  | 2)          | 【日本語の「語」を分析する(1)形態論 1】<br>「語」の分析方法を理解し、分析できる。          | 講義・演習    | 太田 |  |
| 4                  | 2)          | 【日本語の「語」を分析する(2)形態論 2】<br>「語」の分析方法を理解し、分析できる。          | 講義・演習    | 太田 |  |
| 5                  | 2)          | 【日本語の文を分析する(1)文の構造 統語論 1】<br>「文」がどのような構造で成り立っているか理解する。 | 講義・演習    | 太田 |  |
| 6                  | 2)          | 【日本語の文を分析する(2)文の構造 統語論 2】<br>「文」がどのような構造で成り立っているか理解する。 | 講義・演習    | 太田 |  |
| 7                  | 2)          | 【日本語の文を分析する(3)文の構造 統語論 3】<br>「文」がどのような構造で成り立っているか理解する。 | 講義・演習    | 太田 |  |
| 8                  | 2)          | 【言語の分析方法(1)生成文法 1】<br>言語の分析方法の一つである生成文法の基本的な考え方を理解する。  | 講義・演習    | 太田 |  |
| 9                  | 2)          | 【言語の分析方法(2)生成文法 2】<br>言語の分析方法の一つである生成文法の基本的な考え方を理解する。  | 講義・演習    | 太田 |  |
| 10                 | 2)          | 【言語の分析方法(3)語用論 1】<br>言語の分析方法の一つである語用論の基本的な考え方を理解する。    | 講義・演習    | 太田 |  |
| 11                 | 2)          | 【言語の分析方法(4)語用論 2】<br>言語の分析方法の一つである語用論の基本的な考え方を理解する。    | 講義・演習    | 太田 |  |
| 12                 | 3)          | 【日本語について考える(1)】<br>日本語の特徴について理解する。                     | 講義・演習    | 太田 |  |
| 13                 | 3)          | 【日本語について考える(2)】<br>日本語の特徴について理解する。                     | 講義・演習    | 太田 |  |
| 14                 | 3)          | 【日本語について考える(3)】<br>日本語の特徴について理解する。                     | 講義・演習    | 太田 |  |
| 15                 | 3)          | 【日本語について考える(4)】<br>日本語の特徴について理解する。                     | 講義・演習    | 太田 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |          |    |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |          |    |  |



|                     |   |   |          |            |              |           |    |
|---------------------|---|---|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 音声学   |   | 授業コード    | 120175b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床心理学科(2年)  |   | ナンバリング   | 22C111P04  | AL科目         | ○         |    |
| 担当者                 | 太田 栄次(臨床心理学科)・中村<br>真理子(臨床心理学科)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセス(情報収集・観察・正確な検査・検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握)が遂行できる(DP3)ためには、音声の違い、またその違いがどのように生成されるかについての知識が必要となる。例えば言葉の音が何かの理由でうまくいかない人(小児も含む)に言葉の指導をする場合、音声器官のどの部分をどのよう<br>に使う、どのような音が作り出されるかを物理的、現実的な事実として捉えておく必要がある。本講では、音声を作り出すしく<br>みや音声器官がどのように動くことによってそれぞれの音声の違いが作り出されるのかについて説明できることと、それぞれ<br>の音声の違いを聞きとりIPA表記として記述できることを目指す。 |   |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 音声学の概説(目標、諸分野、基本的問題を説明できる)。<br>2) 音声生成の基本的な仕組みについて説明できる。<br>3) 日本語における母音や子音を国際音声字母(IPA)の方法に基づき記述できる。<br>4) 歯科疾患と発音の関係を説明できる。   |   |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 主担当者の太田は、平成16年9月から平成17年8月まで台湾銘伝大学応用日本語学科にて日本語教育担当教員として<br>の勤務経験がある。その中で、日本語非母語話者に対して日本語発音指導を含む日本語教育に携わった。また、副担当の中<br>村は、歯科医師としての豊富な実務経験を持ち、日本語の構音と歯科の関係について深い専門知識と業務知識を有する。   |   |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 平常点(授業態度+レポート等)30%と定期試験の点数70%で総合的に評価する。   |   |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 特になし。   |   |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 10:00~17:00(太田)   |   |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |   |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)  | 【講義概要の説明】<br>本講義の目標について理解する。                              |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 2                   | 2)  | 【音声とは何か】<br>音声学の研究対象について理解する。                             |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 3                   | 2)  | 【音声生成の仕組み】<br>音声生成の基本的な仕組みについて理解し、音声生成にかかわる音声器官を列挙できる。    |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 4                   | 3)  | 【音声学と音韻論】<br>音韻論と音声学の違いについて理解し、例を挙げて説明することができる。           |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 5                   | 3)  | 【単音(1) 単音の分類と音声表記】<br>音素、単音の概念、国際音声字母(IPA)の分類基準について説明できる。 |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 6                   | 3)  | 【単音(2) 日本語の母音 1】<br>日本語の母音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 7                   | 3)  | 【中間試験】<br>音声器官の名称と日本語の母音の記述法についての知識を定着させる。                |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 8                   | 3)  | 【単音(3) 日本語の子音 1】<br>日本語の子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 9                   | 3)  | 【単音(4) 日本語の子音 2】<br>日本語の子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 10                  | 2)  | 【単音(5) 日本語の子音 3】<br>日本語の子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 11                  | 3)  | 【単音(6) 日本語の子音 4】<br>日本語の子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 12                  | 3)  | 【単音(7) 日本語の子音 5】<br>日本語の子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。         |          |            |              | 講義・演習     | 太田 |
| 13                  | 4)  | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(1):不正咬合と発音の関係                            |          |            |              | 講義・演習     | 中村 |
| 14                  | 4)  | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(2):舌癖と発音の関係①                             |          |            |              | 講義・演習     | 中村 |
| 15                  | 4)  | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(3):舌癖と発音の関係②                             |          |            |              | 講義・演習     | 中村 |
| 教科書(著者名)出版社名[ISBN]  |   | 基礎から学ぶ音声学(鹿島 央)スリーエーネットワーク【4-8831-231-8】                  |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名[ISBN]  |   | 使用しない。  |          |            |              |           |    |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 音声科学演習  |      |          | 授業コード  | 120174A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |          | ナンバリング | 22C212P09  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 太田 栄次(保・言)・中村 真理子<br>(保・言)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ことばの発音には、1年次前期に音声学で学んだ母音や子音の個々の発音だけではなく、アクセントやイントネーションなども含まれる。本講義では、言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセス、特に音声の情報収集・観察が遂行できること(DP3)を目的に、アクセントやイントネーションとは何かといった定義から始め、さらに記述方法や、その仕組みについて理解することを大きな目的とする。また講義の後半では、音声の物理的性質を音響分析ソフトで分析しながら観察し、言語が利用することのありうる音声の違いについて理解を深める。また、言語機能障害に関する異常構音を音声学的式に基づき説明することができることを目指す。 |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 音声生成の基本的な仕組みについて理解する。<br>2) 日本語のアクセントやイントネーションについて理解する。<br>3) 音声の物理的性質を観察する。<br>4) 歯科疾患と発音の関係を説明できる。   |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 主担当者の太田は、平成16年9月から平成17年8月まで台湾銘伝大学応用日本語学科にて日本語教育担当教員としての勤務経験がある。その中で、日本語非母語話者に対して日本語発音指導を含む日本語教育に携わった。また、副担当の中村は、歯科医師としての豊富な実務経験を持ち、日本語の構音と歯科の関係について深い専門知識と業務知識を有する  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点(授業態度+レポート等)30%と定期試験の点数70%で総合的に評価する。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 特になし。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 10:00~17:00   |      |          |        |            |              |           |

| 授業計画               |             |   |          |    |  |  |  |
|--------------------|-------------|---|----------|----|--|--|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |  |  |  |
| 1                  | 1)          | 【前期の復習】<br>前期で身に付けた知識の再確認し、知識を定着させる。                    | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 2                  | 2)          | 【モーラと音節】<br>モーラと音節について理解し、単語をモーラや音節の単位に分けることができる。       | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 3                  | 2)          | 【韻律(1) リズム】<br>言語ごとに異なるリズムがあるが、どのようなリズムがあるか列挙することができる。  | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 4                  | 2)          | 【韻律(2) アクセント 1】<br>音声学におけるアクセントについて説明することができる。          | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 5                  | 2)          | 【韻律(3) アクセント 2】<br>アクセントの仕組みに応じて個別言語を分類することができる。        | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 6                  | 2)          | 【韻律(4) アクセント 3】<br>日本語のアクセント体系について理解する。                 | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 7                  | 2)          | 【韻律(5) イントネーション 1】<br>イントネーションについて説明することができる。           | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 8                  | 2)          | 【韻律(6) イントネーション 2】<br>日本語におけるイントネーションの機能について説明することができる。 | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 9                  | 2)          | 【韻律(7) プロミネンス、ポーズ、テンポ】<br>プロミネンス、ポーズ、テンポについて説明することができる。 | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 10                 | 2)          | 【音響分析ソフトを用いた演習(1)】<br>単音の観察 1                           | 講義・演習    | 太田 |  |  |  |
| 11                 | 3)          | 【音響分析ソフトを用いた演習(2)】<br>単音の観察 2                           | 演習       | 太田 |  |  |  |
| 12                 | 3)          | 【音響分析ソフトを用いた演習(3)】<br>アクセント・イントネーションの観察                 | 演習       | 太田 |  |  |  |
| 13                 | 4)          | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(1):言語機能障害と発音の関係①                       | 演習       | 太田 |  |  |  |
| 14                 | 4)          | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(2):言語機能障害と発音の関係②                       | 演習       | 太田 |  |  |  |
| 15                 | 4)          | 【歯科疾患と発音の関係】<br>(3):言語機能障害と発音の関係③                       | 演習       | 太田 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 基礎から学ぶ音声学(鹿島 央)スリーエーネットワーク【4-8831-231-8】                |          |    |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。  |          |    |  |  |  |

|                     |   |  |          |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 音響学演習   |  | 授業コード    | 121135A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年次)   |  | ナンバリング   | 22C211P03  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 山田 弘幸(非常勤講師)  | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | コミュニケーション機能および言語機能と聴覚機能とは密接に関連するので、聴覚を生起させる音響について理解を深めることは、言語聴覚士を目指す上で重要である。そこで、言語聴覚障害に関わる知識・技能を用いて、評価に必要なプロセス(情報収集・観察・正確な検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握)を遂行できるようになるために(DP3)、本科目では、言語聴覚士にとって必要な音響に関する基礎知識、音響・聴覚機能・発声発語機能等に関する測定や臨床検査に際して必要となる音響学的知識を修得する(CP1(4))。 |  |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 音響の概要について説明できる<br>2) 聴覚系および聴覚の概要について説明できる<br>3) 音の三要素と聴覚の三属性について説明できる<br>4) 純音と複合音について説明できる<br>5) 音響スペクトルについて説明できる<br>6) 波動の概要について説明できる<br>7) デシベルについて説明できる<br>8) 音響分析について説明できる<br>9) 語音の音響学的特性の概要について説明できる  |  |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |  |          |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の講義終了時の確認テストにより学習進捗状況を把握し、必要なフィードバックを行う。学習への取り組み姿勢(授業への参加状況、課題への取り組み状況、受講態度)の評価を20%、単位認定試験の得点を80%として単位認定を行う。  |  |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習は、聴覚系・発声発語系・中枢神経系の構造・機能・病態・発達等を中心に行って下さい。復習は、毎回の確認テストのプリントを手掛かりとして行って下さい。確認テストのプリントは、講義資料と共にファイルして、常に両者を関連させながら参照することによって、自主学習時に活用して下さい。  |  |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 集中講義時の休憩時間  |  |          |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~3)   | オリエンテーション／音響(可聴音)と聴覚像(聴覚イメージ)                |          |            | 講義           | 山田        |
| 2                   | 2), 3)  | 聴覚系の構造と機能                                    |          |            | 講義           | 山田        |
| 3                   | 1)~5)   | 音の定義／音の三要素と聴覚の三属性                            |          |            | 講義           | 山田        |
| 4                   | 1)~6)   | 波動現象／純音と複合音                                  |          |            | 講義           | 山田        |
| 5                   | 1)~5)   | スペクトル構造と聴知覚／デモンストレーション(正弦波、矩形波、三角波等)         |          |            | 講義/演習        | 山田        |
| 6                   | 1)~5)   | 純音のスペクトル構造と聴覚印象                              |          |            | 講義           | 山田        |
| 7                   | 1)~5)   | 複合音のスペクトル構造と聴覚印象                             |          |            | 講義           | 山田        |
| 8                   | 1)~5)   | 短音とそのスペクトル構造                                 |          |            | 講義           | 山田        |
| 9                   | 1)~6)   | 音波の伝播・反射・干渉・共鳴・回折                            |          |            | 講義           | 山田        |
| 10                  | 1)~7)   | デシベル、対数の概要                                   |          |            | 講義           | 山田        |
| 11                  | 1)~7)   | 音圧レベル／計算演習                                   |          |            | 講義/演習        | 山田        |
| 12                  | 1)~7)   | 聴力レベル  |          |            | 講義           | 山田        |
| 13                  | 1)~7)   | 感覚レベル、騒音レベル(A特性重み付け音圧レベル)                    |          |            | 講義           | 山田        |
| 14                  | 1)~9)   | サウンドスペクトログラム                                 |          |            | 講義           | 山田        |
| 15                  | 1)~9)   | 音源フィルタモデル(音源特性、声道の周波数特性・伝達特性、放射特性)／発話の超文節的要素 |          |            | 講義           | 山田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 『言語聴覚士テキスト 第3版』(大森孝一, 他) 医歯薬出版 【978-4-263-26560-4】<br>『言語聴覚士のための音響学』(今泉 敏) 医歯薬出版 【978-4-263-21267-7】  |  |          |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 『音響聴覚心理学』(大串健吾) 誠信書房 【978-4-414-30015-4 C3011】<br>『言語聴覚療法習得のための必須基礎知識』(山田弘幸) エスコアール 【978-4-900851-77-1】<br>『「音響学」を学ぶ前に読む本』(坂本真一, 蘆原 郁) コロナ社 【978-4-339-00891-3】<br>『ゼロからはじめる音響学』(青木直史) 講談社 【978-4061565296】   |  |          |            |              |           |

|                     |  |   |            |            |              |           |
|---------------------|--|---|------------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 聴覚心理学演習  |   | 授業コード      | 121293A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2 年次)   |   | ナンバリング     | 22C212P10  | AL 科目        |           |
| 担当者                 | 山田 弘幸(非常勤講師)   | 開講学期  | 2020 年度 後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | コミュニケーション機能・言語機能と聴覚機能とは密接に関連し、さらに音響刺激の性質や状態がそれによって生起する聴覚体験を規定するので、言語聴覚士を目指す上で、音響と聴覚との関連を理解することは重要である。そこで、言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用いて、評価に必要なプロセス(情報収集・観察・正確な検査の解釈・問題の抽出・全体像の把握)を遂行できるようにするために(DP3)、本科目では、聴覚および音響に関する基礎的事項、種々の聴覚心理学的概念、聴覚認知に関わる臨床的概念について習得する(CP1(4))。   |   |            |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 聴覚系の概要について説明できる<br>2) 音の 3 要素について説明できる<br>3) 聴覚の 3 属性について説明できる<br>4) 心理物理学的測定法について説明できる<br>5) 純音と複合音について説明できる<br>6) 音響スペクトルについて説明できる<br>7) 尺度水準について説明できる<br>8) ラウドネス、ピッチについて説明できる<br>9) ソーン尺度、メル尺度について説明できる<br>10) マスキングについて説明できる<br>11) 聴覚フィルタ、臨界帯域について説明できる<br>12) 両耳聴について説明できる<br>13) 聴覚説について説明できる |   |            |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |   |            |            |              |           |
| 評価方法                | 毎回の講義終了時の確認テストにより学習進捗状況を把握し、必要なフィードバックを行う。学習への取り組み姿勢(授業への参加状況、課題への取り組み状況、受講態度)の評価を 20%、単位認定試験の得点を 80%として単位認定を行う。   |   |            |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習は、聴覚系・発声発語系・中枢神経系の構造・機能・病態・発達等を中心に行って下さい。復習は、毎回の確認テストのプリントを手掛かりとして行って下さい。確認テストのプリントは、講義資料と共にファイルして、常に両者を関連させながら参照することによって、自主学習時に活用して下さい。   |   |            |            |              |           |
| オフィスアワー             | 集中講義時の休憩時間   |   |            |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |            |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |            |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1), 3)   | 感覚・知覚・認知機能／錯覚から知る認知   |            |            | 講義/演習        | 山 田       |
| 2                   | 1)~3)  | 聴覚と聴覚系の構造・機能との関連  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 3                   | 1)~4)  | 感覚閾値、弁別閾値／測定演習  |            |            | 講義/演習        | 山 田       |
| 4                   | 1)~4)  | 心理物理学的測定法   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 5                   | 1)~3)  | 音の三要素と聴覚の三属性  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 6                   | 1)~3)  | 可聴範囲・聴野   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 7                   | 1)~<br>4)8)  | 等ラウドネスレベル曲線   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 8                   | 1)~6)  | 純音のスペクトル構造と聴知覚  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 9                   | 1)~6)  | 複合音のスペクトル構造と聴知覚   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 10                  | 1)~9)  | ソーン尺度とメル尺度  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 11                  | 1)~<br>11)   | 聴覚フィルタおよび臨界帯域   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 12                  | 1)~<br>10)   | 各種のマスキング  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 13                  | 1)~<br>12)   | 両耳聴   |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 14                  | 1)~<br>13)   | 聴覚説(場所説、時間説)  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 15                  | 1)~<br>13)   | 短音の知覚／聴覚の情景分析、サウンドスケープ  |            |            | 講 義          | 山 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 『言語聴覚士テキスト 第 3 版』(大森孝一, 他) 医歯薬出版 【978-4-263-26560-4】<br>『音響聴覚心理学』(大串健吾) 誠信書房 【978-4-414-30015-4 C3011】  |            |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 『言語聴覚療法習得のための必須基礎知識』(山田弘幸) エスコアール 【978-4-900851-77-1】<br>『「音響学」を学ぶ前に読む本』(坂本真一, 蘆原 郁) コロナ社 【978-4-339-00891-3】<br>『言語聴覚士のための心理学』(山田弘幸 編) 医歯薬出版 【978-4-263-21269-1】 |            |            |              |           |

|                            |   |  |          |            |              |           |    |
|----------------------------|---|--|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                        | 公衆衛生学   |  | 授業コード    | 120370B203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)                   | 言語聴覚療法学科(4年)  |  | ナンバリング   | 22C411P01  | AL科目         |           |    |
| 担当者                        | 中村 真理子(保・言)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 人間集団における生活環境と健康、その集団を構成する人間の出生と死亡、疾病罹患の状況、健康障がいの発生原因等を学習する。すなわち、保健、医療、福祉、教育に参画・連携し地域に根差した障害にわたる支援を行うことができる言語聴覚士(DP5)として必要な予防医学、健康科学、環境問題の概念を習得する。(CP1)  |  |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1) 公衆衛生の概要、健康の概念を把握し、公衆衛生の歴史から現在の公衆衛生活動を理解できる。<br>2) 日本の人口統計から、人間集団の健康を評価するための健康指標についてグラフや表を読み取ることができる。<br>3) 疾病の自然史を予防という観点から把握するとともに、健康管理、医療制度などの予防対策を理解できる。<br>4) 日本における感染症の予防対策について法律と政策を理解し、主な感染症や病院内感染について知識を理解できる。<br>5) 日本における主な疾患と生活習慣病の動向を把握し、行政における予防政策の基本的な知識を理解できる。<br>6) 環境保健、母子保健、地域保健、学校保健、産業保健、老人保健、精神保健の各分野において、現在の動向、課題、行政の予防対策とそれに関わる法律について基本的な知識を理解できる。<br>7) 医療関連従事者の資格に関する法律を理解できる。<br>8) 疫学調査の方法や計算法を理解できる。 |  |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学附属病院歯科矯正科)で5年以上矯正歯科医としての臨床経験を有する。歯科臨床において公衆衛生活動は非常に重要であり、臨床で得た経験に基づいた授業を行う。<br>定期試験、講義中の小試験およびレポートの成績で総合的に評価する。  |  |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 教科書「シンプル衛生公衆衛生学 2020」の最新内容とデータを学習するので必ず持参すること。  |  |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー                    | 火、水、木 12:30~13:00   |  |          |            |              |           |    |
| 授業計画                       |   |  |          |            |              |           |    |
| 回数                         | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容  |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                          | 1)  | 【公衆衛生の歴史・公衆衛生の概要・健康の概念】<br>公衆衛生の概要、健康の概念と、公衆衛生の歴史から現在の公衆衛生活動について |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 2                          | 2)  | 【保健統計・人口の動き】<br>日本の人口統計とさまざまな人間集団の健康を評価するための健康指標について             |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 3                          | 3)  | 【予防医学と健康増進】<br>予防医学による疾病の自然史と健康管理、医療制度などの予防対策について                |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 4                          | 2)3)4)  | 【感染症の概念と予防①】<br>日本における感染症の予防対策における重要な法律と行政の政策について                |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 5                          | 2)3)4)  | 【感染症の概念と予防②】<br>世界的に問題となっている主な感染症の基本的な知識や動向について                  |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 6                          | 2)3)4)  | 【感染症の概念と予防③】<br>主な感染症と病院内感染について。正常細菌叢に関するミニデモンストレーション            |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 7                          | 2)3)5)  | 【疾病の概念と予防①】<br>生活習慣病に関わる主な疾病とその動向と、行政における予防政策について                |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 8                          | 2)3)5)  | 【疾病の概念と予防②】<br>主な疾患とその動向と、行政における予防対策について                         |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 9                          | 2)3)6)  | 【環境保健】<br>人の健康に影響を与える生活環境と汚染問題および地球規模での環境問題について                  |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 10                         | 2)3)6)  | 【母子保健】 母子保健活動と少子化問題について<br>【地域保健】 地域保健活動における保健所の役割について           |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 11                         | 2)3)6)  | 【学校保健】 子どもの心と身体の健康問題について<br>【産業保健】 健康で安全な職業生活を送るためのさまざまな法律について   |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 12                         | 2)3)6)  | 【老人保健と福祉】<br>高齢化の社会における医療制度、老人福祉対策、介護保険制度について                    |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 13                         | 2)3)6)  | 【精神保健】<br>精神保健活動の現状を把握と、行政における予防対策活動について                         |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 14                         | 7)  | 【国家資格と関係法規】<br>医療関連従事者(言語聴覚士)の資格に関する法律について                       |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 15                         | 8)  | 【疫学研究法】<br>疫学調査の方法や計算法について                                       |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】         |   | シンプル衛生公衆衛生学 2020(鈴木 庄亮・久道 茂) 南江堂【978-4-524-22656-6】              |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】         |   | 公衆衛生がみえる 2020-2021 メディックメディア【ISBN978-4-89632-779-3】              |          |            |              |           |    |

|                     |  |  |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害診断学演習Ⅱ   |  |           | 授業コード  | 121183A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |  |           | ナンバリング | 22C211P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)、太田 栄次<br>(保・言)、内藤 健一(保・言)   | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 患者さんや家族、他職種の状況を把握、考慮したコミュニケーションができ、適切な人間関係を築き、言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセスが遂行できる言語聴覚士になるために、自立的な学習能力の基礎となるリテラシー能力の獲得とコミュニケーション能力の向上を図る。              |  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 事実と意見を分けて書くことができる。<br>2) 症例報告の形式に沿って、評価結果と考察に分けて書くことができる。<br>3) 言語聴覚障害に関する教科書や、専門書を読むことができる。<br>4) 言語聴覚障害に関する症例研究の構成と考察部分が理解できる。                    |  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。   |  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 40%、期末試験 60%の点数で総合的に評価する。  |  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各活動が臨床や研究とどう結びつか、自らで考えてほしい。提出物の期日を必ず守ってほしい。<br>次のように、1回授業につき 120 分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。 |  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15  |  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ①】<br>小児領域の総合評価と他の項目の関係について説明できる。                |           |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 2                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ②】<br>小児領域の総合評価の内容について説明できる。                     |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 3                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ③】「症例プロフィール」や「検査結果及び評価」の内容について、適切な資料を使って調べるができる。 |           |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 4                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ④】<br>「症例プロフィール」や「検査結果及び評価」の内容について、説明することができる。   |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 5                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑤】<br>小児領域の総合評価下書きシートの構造が理解できる。                  |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 6                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑥】<br>小児領域の総合評価下書きシートに、適切な情報を書き込むことができる。         |           |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 7                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑦】<br>小児領域の総合評価下書きシートを使って、文章化できる。                |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 8                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑧】<br>成人領域の症例報告の主な項目について列挙できる。                   |           |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 9                   | 1)2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑨】<br>成人領域の症例報告の各項目の内容について、説明することができる。           |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 10                  | 2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ⑩】<br>成人用言語聴覚検査について説明できる。                        |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 11                  | 2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ 11】<br>成人用言語聴覚検査の結果について解釈できる。                   |           |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 12                  | 2)3)   | 【症例報告の書き方を学ぶ 12】<br>成人用言語聴覚検査について総合解釈できる。                    |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 13                  | 4)   | 【症例報告の書き方を学ぶ 13】<br>症例研究の構成について説明できる                         |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 14                  | 4)   | 【症例報告の書き方を学ぶ 14】<br>症例研究の各項目について説明できる                        |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 15                  | 4)   | 【症例報告の書き方を学ぶ 15】<br>症例研究の内容について説明できる                         |           |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |           |        |            |              |           |

|                     |  |                                  |          |            |              |               |
|---------------------|--|----------------------------------|----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 失語症演習 I  |                                  | 授業コード    | 121231A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)     |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |                                  | ナンバリング   | 22C211P05  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)  | 開講学期                             | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 失語症は、言語聴覚士の臨床において、その技術が最も問われるコミュニケーション障害の一つである。本講義は、標準失語症検査を中心とした、失語症評価の方法・記録・分析、鑑別診断について学ぶ。また、訓練プログラム立案に役立てるための言語の情報処理過程について理解することで、高い臨床的知識と技能を持った言語聴覚士を目指す(DP3&4)。   |                                  |          |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言語機能と脳の関係、言語の4側面について説明できる。</li> <li>2) 失語症の定義、原因疾患、障害部位を列挙できる。</li> <li>3) 失語症の機能・構造レベルの評価について、種類と目的を説明できる。</li> <li>4) 標準失語症検査(以下 SLTA)の施行方法を理解し、実施できる。</li> <li>5) 言語の情報処理過程を説明できる。</li> <li>6) 掘り下げ検査の施行方法を理解し、実施できる。</li> <li>7) 失語症の活動・参加レベルの評価について、種類を列挙し目的を説明できる。</li> <li>8) 実用的コミュニケーション能力検査の施行方法を理解し、実施できる。</li> <li>9) 評価結果を分析し、失語症の鑑別診断ができる。</li> <li>10) 評価報告書の作成ができる。</li> </ol> |                                  |          |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(原)は、病院等臨床現場における言語聴覚士としての5年以上の実務経験に基づき、失語症に関わる脳神経の解剖や疾患、障害に関する知識の修得を目的とした授業を行う。   |                                  |          |            |              |               |
| 評価方法                | 平常点(出席、提出物、小テスト等)20%、単位認定試験80%で評価する。   |                                  |          |            |              |               |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 原則として、毎回、前回講義分の内容について小テストを行うので準備をしておいてください。  |                                  |          |            |              |               |
| オフィスアワー             | 講義時間以外の在室中   |                                  |          |            |              |               |
| 授業計画                |  |                                  |          |            |              |               |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                          |          |            | 授 業<br>方 法   | 担 当           |
| 1                   | 1)2)   | 言語機能と脳の関係、言語の4側面／失語症の定義、原因疾患、病巣  |          |            | 講 義          | 原             |
| 2                   | 3)   | 失語症の機能・構造レベルの評価                  |          |            | 講 義          | 原             |
| 3                   | 4)5)   | SLTAの「聴く」の施行方法                   |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 4                   | 4)5)   | SLTAの「話す」の施行方法                   |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 5                   | 4)5)   | SLTAの「読む」の施行方法                   |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 6                   | 4)5)   | SLTAの「書く」の施行方法                   |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 7                   | 4)5)   | SLTAの「計算」の施行方法、プロフィール作成、総合評価法    |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 8                   | 5)   | 認知神経心理学的モデルに基づく障害のメカニズム          |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 9                   | 6)   | 掘り下げ検査の種類・目的・施行方法                |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 10                  | 6)   | 掘り下げ検査の種類・目的・施行方法                |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 11                  | 7)   | 失語症の活動・参加レベルの評価                  |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 12                  | 8)   | 実用的コミュニケーション能力検査の施行方法            |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 13                  | 9)10)  | 検査結果からみる言語症状の特徴や問題点の抽出／評価報告書の作成① |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 14                  | 9)10)  | 検査結果からみる言語症状の特徴や問題点の抽出／評価報告書の作成② |          |            | 講義・演習        | 原             |
| 15                  | 9)10)  | 評価結果の分析、失語症の鑑別診断                 |          |            | 講 義          | 原             |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 失語症言語治療の基礎(紺野 加奈恵)診断と治療社【4-7878-1158-4】<br>標準失語症検査マニュアル(日本高次脳機能障害学会)新興医学出版社【4-88002-618-2】   |                                  |          |            |              |               |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準言語障害学 失語症学 第2版(藤田郁代/立石雅子 編集)医学書院【ISBN978-4-260-02095-4】  |                                  |          |            |              |               |

|                     |  |                               |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|-------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 失語症演習Ⅱ   |                               |          | 授業コード  | 121232A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                               |          | ナンバリング | 22C311P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 飯干紀代子、原口友子、原有希、<br>有川瑛人(非常勤講師)   | 開講学期                          | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ICFに基づく失語症の問題点抽出・訓練立案・実施・再評価のプロセスを学ぶ。<br>失語症訓練の背景となる治療理論を理解する。<br>演習活動を通して、失語症訓練立案と実施を体験する。(DP1~4)   |                               |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)失語症の治療理論を理解する。<br>2)失語症訓練の流れを理解する。<br>3)失語症訓練を立案する。<br>4)失語症訓練を実施する。   |                               |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や、地域の相談センターにおいて臨床経験を積んだ言語聴覚士有資格者が、知識と技能を活かして指導する   |                               |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出物 15%、受講態度 15%、単位認定試験 70%  |                               |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 失語症演習Ⅰの内容をよく理解しておくこと。臨床実習での症状の整理や訓練プログラム立案と関連付けて、事前事後の学習を<br>すること。   |                               |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間の前後  |                               |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                               |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                          |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 2)   | 失語症の訓練目的・訓練形態・訓練立案のポイント       |          |        |            | 講義           | 飯干        |
| 2                   | 1)   | 失語症の活動参加レベルの治療理論              |          |        |            | 講義           | 飯干        |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)   | 実用的コミュニケーション能力訓練の理解と実践①PACE   |          |        |            | 講義・演習        | 飯干        |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)   | 実用的コミュニケーション能力訓練の理解と実践②その他の技法 |          |        |            | 講義・演習        | 飯干        |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)   | グループ訓練の理解と実践                  |          |        |            | 講義・演習        | 飯干        |
| 6                   | 1)   | 失語症の機能・構造レベルの治療理論             |          |        |            | 講義           | 原口        |
| 7                   | 2)   | 失語症者の社会活動・社会貢献                |          |        |            | 講義           | 原口        |
| 8                   | 1)2)3)<br>4)   | ICFに基づく失語症訓練立案と実施①            |          |        |            | 講義・演習        | 原         |
| 9                   | 1)2)3)<br>4)   | ICFに基づく失語症訓練立案と実施②            |          |        |            | 講義・演習        | 原         |
| 10                  | 1)2)3)<br>4)   | 掘り下げ検査に基づく失語症訓練立案と実施①         |          |        |            | 講義・演習        | 原         |
| 11                  | 1)2)3)<br>4)   | 掘り下げ検査に基づく失語症訓練立案と実施②         |          |        |            | 講義・演習        | 原         |
| 12                  | 1)2)3)<br>4)   | 刺激促進法の理解と実践①                  |          |        |            | 講義・演習        | 有川        |
| 13                  | 1)2)3)<br>4)   | 刺激促進法の理解と実践②                  |          |        |            | 講義・演習        | 有川        |
| 14                  | 1)2)3)<br>4)   | 機能再編成法の理解と実践①                 |          |        |            | 講義・演習        | 有川        |
| 15                  | 1)2)3)<br>4)   | 機能再編成法の理解と実践②                 |          |        |            | 講義・演習        | 有川        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 失語症臨床ガイド(竹内 愛子)協同医書出版【4-7639-3037-0】<br>失語症者の実用コミュニケーション臨床ガイド(竹内 愛子)協同医書出版【4-7639-3041-9】<br>標準言語聴覚障害学 失語症学第2版(藤田 郁代監修)医学書院【978-4-260-02095-4】 |                               |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |                               |          |        |            |              |           |



|                     |   |      |            |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 高次脳機能障害演習 I   |      |            | 授業コード  | 121202A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |            | ナンバリング | 22C211P06  | AL 科目        | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)、飯干 紀代子<br>(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020 年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義は、言語聴覚士の臨床における訓練対象として多く近年問題になっている高次脳機能障害について、その階層性と脳機能との関連性を理解する。また、高次脳機能障害の各論(注意障害・遂行機能障害・失行・失認・半側空間無視)について、定義・症候・病巣・評価法を学ぶ。さらに演習活動を通して、各高次脳機能障害評価の施行方法について学ぶ(DP3&4)。 |      |            |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)高次脳機能障害の階層性と脳機能との関連性を説明できる。<br>2)高次脳機能障害各論の定義と症候を説明できる。<br>3)高次脳機能障害と病巣の対応関係を図示できる。<br>4)高次脳機能障害の各評価を実施できる。   |      |            |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(全員)は、病院等臨床現場における言語聴覚士としての5年以上の実務経験に基づき、脳と神経の解剖や疾患と障害に関する知識の修得を目的とした授業を行う。   |      |            |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点(出席、提出物、小テスト等)20%、単位認定試験80%で評価する。  |      |            |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 原則として、毎回、前回講義分の内容について小テストを行うので準備をしておいてください。   |      |            |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間以外の在室時  |      |            |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                 | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|-------------------------|------------|-----|
| 1  | 1)2)<br>3)  | 高次脳機能障害の階層性と脳機能との関連性の理解 | 講 義        | 原   |
| 2  | 4)          | 注意障害の定義、症候、病巣           | 講義・演習      | 原   |
| 3  | 4)          | 注意障害の評価                 | 講義・演習      | 原   |
| 4  | 2)3)        | 遂行機能障害の定義、症候、病巣         | 講 義        | 原   |
| 5  | 4)          | 遂行機能障害の評価               | 講義・演習      | 原   |
| 6  | 4)          | 失行の定義、症候、病巣             | 講義・演習      | 飯 干 |
| 7  | 2)3)        | 失行の評価①                  | 講 義        | 飯 干 |
| 8  | 4)          | 失行の評価②                  | 講義・演習      | 飯 干 |
| 9  | 4)          | 失認の定義、症候、病巣             | 講義・演習      | 飯 干 |
| 10 | 2)3)        | 失認の評価①                  | 講 義        | 飯 干 |
| 11 | 4)          | 失認の評価②                  | 講義・演習      | 飯 干 |
| 12 | 4)          | 失認の評価③                  | 講義・演習      | 飯 干 |
| 13 | 2)3)        | 半側空間無視の定義、症候、病巣         | 講 義        | 飯 干 |
| 14 | 4)          | 半側空間無視の評価①              | 講義・演習      | 飯 干 |
| 15 | 4)          | 半側空間無視の評価②              | 講義・演習      | 飯 干 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 高次脳機能障害学 第2版(石合純夫)医歯薬出版【978-4-263-21396-4】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |   |                 |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|-----------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 高次脳機能障害演習Ⅱ  |                 |          | 授業コード  | 121203A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |                 |          | ナンバリング | 22C311P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 飯干 紀代子(非常勤講師)   | 開講学期            | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 高次脳機能障害の階層性と脳機能との関連を理解する。<br>高次脳機能障害の各論(注意障害・記憶障害・遂行機能障害・失行・失認・半側空間無視・認知症)について、定義・症候・病巣・<br>評価・訓練を学ぶ。演習活動を通して、高次脳機能障害各論の評価結果分析と訓練立案の実際を体験する。(DP3~4)     |                 |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)高次脳機能障害の階層性と脳機能との関連性を説明できる。<br>2)高次脳機能障害各論の定義と症候を説明できる。<br>3)高次脳機能障害と病巣の対応関係を図示できる。<br>4)高次脳機能障害の評価を実施し、結果を分析できる。<br>5)得られた評価結果から高次脳機能障害に対する訓練を立案できる。 |                 |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や、地域の相談センターにおいて臨床経験を積んだ言語聴覚士有資格者が、知識と技能を活かして指導する  |                 |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出物 15%、受講態度 15%、単位認定試験 70%   |                 |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 高次脳機能障害演習Ⅰの内容をよく理解しておくこと。臨床実習での症状の整理や訓練プログラム立案と関連付けて、事前事後の学習すること。   |                 |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義時間の前後   |                 |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                 |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容            |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)3)  | 注意障害の定義、症候、病巣   |          |        |            | 講義           | 飯干        |
| 2                   | 4)5)  | 注意障害の評価         |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 3                   | 4)5)  | 注意障害の訓練・支援      |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 4                   | 1)2)3)  | 記憶障害の定義、症候、病巣   |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 5                   | 4)5)  | 記憶障害の評価①        |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 6                   | 4)5)  | 記憶障害の評価②        |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 7                   | 4)5)  | 記憶障害の訓練・支援      |          |        |            | 講義           | 飯干        |
| 8                   | 1)2)3)  | 遂行機能障害の定義、症候、病巣 |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 9                   | 4)5)  | 遂行機能障害の評価①      |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 10                  | 4)5)  | 遂行機能障害の評価②      |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 11                  | 4)5)  | 遂行機能障害の訓練・支援    |          |        |            | 講義           | 飯干        |
| 12                  | 1)2)3)  | 認知症の定義、症候、病巣    |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 13                  | 4)5)  | 認知症の評価①         |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 14                  | 4)5)  | 認知症の訓練・支援       |          |        |            | 演習           | 飯干        |
| 15                  | 1)~5)   | まとめ             |          |        |            | 講義・演習        | 飯干        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 高次脳機能障害学 第2版(石合純夫)医歯薬出版【978-4-263-21396-4】<br>《標準言語聴覚障害学》高次脳機能障害学(第2版)医学書院【978-4-260-02096-1】   |                 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション (鹿島 晴雄・他) 永井書店 【4-8159-1808-8】   |                 |          |        |            |              |           |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語発達障害Ⅱ   |  |          | 授業コード  | 121192B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |  |          | ナンバリング | 22C211P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)、岩崎 まり子(非常勤講師)、倉井 成子(非常勤講師)  | 開講学期                                       | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚士として言語発達障害のある子どもたちに適切に関わっていくためには、定型的な発達の理解、言語発達障害の概要、アセスメントや支援技法を身につける必要がある。<br>「言語発達障害Ⅱ」では、多様な状態を示す言語障害、発達障害の子どもや発達が気になる子どもとその家族に対して、適切なアセスメントができる言語聴覚士になるために(DP3)、各種言語発達に対応した検査・評価方法の概要と評価診断のあり方を理解し、概説できる力を修得する(CP1(4))。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)言語発達障害の評価の観点と方法を説明できる。<br>2)各種検査の概要を理解し、説明できる。<br>3)臨床現場におけるアセスメントの概略を理解し、説明できる。  |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 戸高:言語聴覚士としての医療・教育現場での5年以上の実務経験に基づき、臨床的視点の習得を含めた講義を行う。<br>岩崎:臨床発達心理士としての豊富な実務経験に基づき、言語聴覚士とは別の視点からの子どものアセスメントの方法について講義を行う。<br>倉井:言語聴覚士としての豊富な実務経験、および国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の監修者としての立場から、実践的な講義を行う。                                    |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、質問・発言など講義への参加)を30%、単位認定試験70%として、単位認定を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・1年で履修した「言語発達障害学Ⅰ」を十分に復習しておくこと。<br>・1コマあたり4時間の予習復習を行うこと(講義内容の項目について、教科書の該当ページを読み、予習する。返却された確認テストを用いて、学習内容の復習する。<br>・確認テスト、レポート課題の実施を通して、理解度を確認しながら、予習復習に取り組むこと。<br>・SGDでは、積極的にグループ内で発言し、自ら能動的に考える場であること理解し、活動すること。              |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 戸高:日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-一研究室<br>岩崎:講義前後の休み時間、場所-言語聴覚療法学科の準備室、講義室<br>倉井:講義前後の休み時間、場所-言語聴覚療法学科の準備室、講義室   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                       |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 【評価】評価の目的と方法、基礎的検査                         |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 2                   | 1)2)  | 【評価】発達検査(新版K式発達検査2001、津守稲毛式乳幼児精神発達質問紙法など)  |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 3                   | 1)2)  | 【評価】知能検査①(田中ビネー知能検査Ⅴ、グッドイナフ人物画知能検査)        |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 4                   | 1)2)  | 【評価】知能検査②(ウェクスラー式知能検査、レーヴン色彩マトリックス検査)      |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 5                   | 1)2)  | 【評価】学習・認知の検査(日本版KABC-Ⅱ、DM-CAS、読み書きに関係する検査) |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 6                   | 1)2)  | 【評価】言語検査:LCスケール、LCSA、語彙検査・文(統語・意味)理解検査     |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 7                   | 1)2)  | 【評価】言語検査:言語発達検査(国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査)        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉井        |
| 8                   | 1)2)  | 【評価】言語検査:言語発達検査(国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査)        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉井        |
| 9                   | 1)2)  | 【評価】言語検査:言語発達検査(国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査)        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉井        |
| 10                  | 1)2)  | 【評価】言語検査:言語発達検査(国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査)        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉井        |
| 11                  | 1)2)  | 【評価】言語検査:言語発達検査(質問応答関係検査)                  |          |        |            | 講義・SGD       | 倉井        |
| 12                  | 1)3)  | 乳幼児健康診査におけるアセスメント                          |          |        |            | 講義・SGD       | 岩崎        |
| 13                  | 1)3)  | 発達相談におけるアセスメント                             |          |        |            | 講義・SGD       | 岩崎        |
| 14                  | 1)3)  | 巡回相談におけるアセスメント                             |          |        |            | 講義・SGD       | 岩崎        |
| 15                  | 1)2)  | 【評価】コミュニケーションの評価                           |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 教科書(著者名)出版社名[ISBN]  | 言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版(石田宏代・大石敬子編著)医歯薬出版【978-4-263-21366-7】<br>言語発達障害学 第2版(玉井ふみ他編)医学書院【978-4-260-02079-4】<br>国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査マニュアル(改訂第4版)エスコアール【4-900851-24-8】  |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名[ISBN]  | 知っておきたい発達障害のアセスメント(尾崎康子・三宅篤子編著)ミネルヴァ書房【978-4-634-07209-5】   |  |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |            |            |              |            |
|---------------------|---|------|------------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 言語発達障害演習 I  |      | 授業コード      | 121193A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)  |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      | ナンバリング     | 22C212P11  | AL 科目        | ○          |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)   | 開講学期 | 2020 年度 後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態 講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語発達障害をもつ子どもたちに適切な支援を行うためには、言語発達を支える基盤と前言語期から学童期までの定型的な言語発達を理解する必要がある。加えて、言語発達を評価し、結果を解釈する力が求められる。<br>そこで、「言語発達障害演習 I」では、「言語発達障害 II」で学んだ各検査の特徴を理解した上で、対象児に必要な検査を選択し、実施できる言語聴覚士となるために(DP3)、言語発達障害の評価に用いられる知能検査、発達検査、言語検査の概要や記録、分析の方法を知り、多角的・総合的な評価方法を習得する(CP1(4))。   |      |            |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言語発達障害の評価方法(基本的な検査方法の原理、施行方法など)について種類と目的を説明できる。</li> <li>2) 発達検査の概要や種類を理解し、各検査について検査内容や適応年齢を列挙することができる。</li> <li>3) 知能検査の概要や種類を理解し、各検査について検査内容や適応年齢を列挙することができる。</li> <li>4) WISC-IV 知能診断検査の施行方法、分析方法を理解し、実施することができる。</li> <li>5) 学習・認知の検査の概要や種類を理解し、各検査について検査内容や適応年齢を列挙することができる。</li> <li>6) 日本版 K-ABC II の施行方法、分析方法を理解し、実施できる。</li> <li>7) フロスティック、WAVES、HITSS の施行方法、分析方法を理解し、実施することができる。</li> <li>8) 言語検査の概要や種類を理解し、各検査について検査内容や適応年齢を列挙することができる。</li> <li>9) LCスケールの施行方法、分析方法を理解し、実施することができる。</li> <li>10) LCSA の施行方法、分析方法を理解し、実施することができる。</li> <li>11) コミュニケーション評価の概要や種類を理解し、各検査について検査内容や適応年齢を列挙することができる。</li> </ol> |      |            |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士として医療・教育現場での5年以上の実務経験に基づき、臨床的視点の習得を含めた講義を行う。   |      |            |            |              |            |
| 評価方法                | 講義で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、質問・発言など講義への参加)を30%、単位認定試験70%として、単位認定を行う。   |      |            |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで履修した「言語発達障害 I」、「言語発達障害 II」の講義資料を読んで、復習しておく。</li> <li>・1コマあたり1時間の予習復習を行うこと(返却された確認テストを用いて、学習内容の復習する。検査用具を使用し、検査者-被験者役に分かれて、演習を行うなど)</li> <li>・確認テスト、レポート課題の実施を通して、理解度を確認しながら、予習復習に取り組むこと。</li> <li>・SGD では、積極的にグループ内で発言し、自ら能動的に考える場であること理解し、活動すること。</li> </ul>   |      |            |            |              |            |
| オフィスアワー             | 日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室   |      |            |            |              |            |

| 授業計画 |             |  |            |     |  |  |
|------|-------------|--|------------|-----|--|--|
| 回数   | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |  |  |
| 1    | 1)          | オリエンテーション/言語発達障害に関する評価の目的と方法                       | 講 義        | 戸 高 |  |  |
| 2    | 2)          | 発達検査の概要<br>(新版K式発達検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、乳幼児精神発達診断法)   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 3    | 3)          | 知能検査の概要<br>(田中ビネー知能検査V、ウェクスラー式知能検査、その他の知能検査)       | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 4    | 3)、4)       | WISC-IV①<br>施行方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 5    | 3)、4)       | WISC-IV②<br>施行方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 6    | 3)、4)       | WISC-IV③<br>分析方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 7    | 5)          | 学習・認知の検査の概要<br>(KABC-II、DN-CAS、読み書きの検査)            | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 8    | 5)、6)       | KABC-II①<br>施行方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 9    | 5)、6)       | KABC-II②<br>施行方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 10   | 5)、6)       | KABC-II③<br>分析方法                                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 11   | 7)          | フロスティック、WAVES、HITSS<br>施行方法、分析方法                   | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 12   | 8)          | 言語検査の概要<br>(LCスケール、LCSA、ITPA、PVT-R、J-COSS日本語理解テスト) | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 13   | 8)、9)       | LCスケール<br>施行方法、分析方法                                | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 14   | 8)、<br>10)  | LCSA<br>施行方法、分析方法                                  | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |
| 15   | 11)         | コミュニケーション評価の概要                                     | 講義・演習      | 戸 高 |  |  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版(石田宏代 他) 医歯薬出版株式会社<br>【978-4-263-21366-7】                                     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | ことばの遅れ:評価と対応 (栗原まな) 新興医学出版 【978-4-88002-695-4】<br>臨床心理アセスメント 新改版 (松原達哉編) 丸善出版 【978-4-62108-648-3】 |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語発達障害演習Ⅱ  |   |          | 授業コード  | 121194A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 22C311P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)、岩崎 まり子(非常勤講師)、倉井成子(非常勤講師)、内勢 美絵子(保・作)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚士として言語発達障害のある子どもたちに適切に関わっていくためには、定型的な発達の理解、アセスメントや支援技法を身につける必要がある。<br>「言語発達障害演習Ⅱ」では、多様な状態を示す言語障害、発達障害の子どもや発達が気になる子どもとその家族に対して、適切な指導・助言ができる言語聴覚士になるために(DP3)、各種言語発達に対応した支援技法概要と具体的な指導・助言のあり方を理解し、概説できる力を修得する(CP1(4))。  |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)言語発達障害児に対する助言・訓練のあり方について説明できる。<br>2)養育者に対する助言・指導のあり方について説明できる。<br>3)各関連機関との連携のあり方について説明できる。<br>4)具体的な支援・訓練法について概要を説明できる。<br>5)言語発達障害児に対する臨床アプローチの方法を知り、訓練立案および実施のポイントと基本的方法を説明することができる。  |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 戸高:言語聴覚士としての医療・教育現場での5年以上の実務経験に基づき、臨床的視点の習得を含めた講義を行う。<br>岩崎:臨床発達心理士としての豊富な実務経験に基づき、子どもや家族に対する具体的な支援の方法について講義を行う。<br>倉井:言語聴覚士としての豊富な実務経験、および国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の監修者としての立場から、<S-S法>を利用した具体的な支援法について講義を行う。<br>内勢:作業療法としての豊富な実務経験に基づき、感覚統合療法の概念や具体的な支援の方法について講義を行う。 |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各回の講義で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、質問・発言など講義への参加)を30%、単位認定試験70%として、単位認定を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・これまで履修した「言語発達障害Ⅰ」、「言語発達障害演習Ⅰ」の講義資料を読んで、復習しておく。<br>・1コマあたり1時間の予習復習を行うこと(講義内容の項目について、教科書の該当ページを読み、予習する。返却された確認テストを用いて、学習内容の復習する。<br>・確認テスト、レポート課題の実施を通して、理解度を確認しながら、予習復習に取り組むこと。<br>・SGDでは、積極的にグループ内で発言し、自ら能動的に考える場であること理解し、活動すること。                             |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 戸高:日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室<br>岩崎:講義前後の休み時間、場所-言語聴覚療法学科の準備室、講義室<br>倉井:講義前後の休み時間、場所-言語聴覚療法学科の準備室、講義室<br>内勢:講義前後の休み時間、場所-言語聴覚療法学科の準備室、講義室   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 支援の枠組み  |          |        |            | 講義           | 戸高        |
| 2                   | 1)4)   | 【支援方法】行動主義的アプローチ(行動療法)、認知・言語的アプローチ、語用論的アプローチ、障害別支援(TEACCH、ボバースアプローチ等) |          |        |            | 講義、演習        | 戸高        |
| 3                   | 1)4)5)   | 【発達段階に即した支援】前言語期~語彙獲得期、幼児期前期、幼児期後期、学童期                                |          |        |            | 講義           | 戸高        |
| 4                   | 1)4)5)   | 【発達段階に即した支援】感覚統合療法の実際   |          |        |            | 講義、演習        | 内勢        |
| 5                   | 1)4)5)   | 障害別の指導・支援(事例を通じた具体的方法の検討)   |          |        |            | 講義、演習        | 戸高        |
| 6                   | 1)4)5)   | <S-S法>に基づく包括的な言語的働きかけのプログラムについて                                       |          |        |            | 講義、演習        | 倉井        |
| 7                   | 1)4)5)   | <S-S法>にみる言語的働きかけの原理について   |          |        |            | 講義、演習        | 倉井        |
| 8                   | 1)4)5)   | <S-S法>にみる発達のプログラムについて   |          |        |            | 講義、演習        | 倉井        |
| 9                   | 1)4)5)   | <S-S法>の結果を元に訓練立案と実施①(知的障害児に対して)                                       |          |        |            | 講義、演習        | 倉井        |
| 10                  | 1)4)5)   | <S-S法>の結果を元に訓練立案と実施②(自閉症スペクトラム児に対して)                                  |          |        |            | 講義、演習        | 倉井        |
| 11                  | 3)   | 言語発達障害のある子ども・「気になる」子どもを支える諸機関・専門職                                     |          |        |            | 講義、演習        | 岩崎        |
| 12                  | 1)2)   | 【家族を支援する】保護者との協働、事例検討   |          |        |            | 講義、演習        | 岩崎        |
| 13                  | 1)2)   | 【家族を支援する】ペアレントトレーニング、きょうだい支援  |          |        |            | 講義、演習        | 岩崎        |
| 14                  | 1)3)   | 幼稚園や保育園などの集団保育場面での援助  |          |        |            | 講義、演習        | 岩崎        |
| 15                  | 1)4)5)   | 【発表会】障害別の指導・支援(事例を通じた具体的方法の検討)  |          |        |            | 講義、演習        | 戸高        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | <S-S法>言語発達遅滞訓練マニュアル<1>(佐竹恒夫他著)エスコアール【978-4-900851-22-1】<br><S-S法>言語発達遅滞訓練マニュアル<2>(佐竹恒夫著)エスコアール【978-4-900851-23-8】  |   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | ことばの遅れ:評価と対応(栗原まな著)新興医学出版【978-4-88002-695-4】<br>言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害(大石敬子、田中裕美子編)医歯薬出版株式会社【978-4-263-21939-3】  |   |          |        |            |              |           |

|                     |   |                                    |          |            |              |           |    |
|---------------------|---|------------------------------------|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 構音障害  |                                    | 授業コード    | 121201B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |                                    | ナンバリング   | 22C211P08  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 中村真理子(保・言)  | 開講学期                               | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い評価・訓練を遂行する(DP3, 4)するうえで構音障害は、言語聴覚士が対象とする頻度が高い障害である。そのため構音障害の発症のメカニズム、症状、評価の方法、訓練・指導法について修得する(CP1-1.1-2)。   |                                    |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)呼吸・発声・共鳴・構音の発声・発語系のプロセスと背景となる解剖学的な身体の構造と機能が理解できる。<br>2)構音障害の概念と分類が説明できる。<br>3)運動障害性構音障害の各タイプの音声特徴、随伴する運動障害について理解できる。<br>4)運動障害性構音障害の評価のプロセスが理解できる。<br>5)発声発語器官の視診と触診、および運動の評価ができる。<br>6)器質性構音障害の原因である頭頸部癌の分類や特徴、再建法について理解できる。<br>7)器質性構音障害の原因である口蓋裂の分類や特徴について理解できる。<br>8)器質性構音障害に対する評価・訓練・指導法について理解できる。<br>9)機能性構音障害の定義について説明できる。<br>10)機能性構音障害の評価・診断・訓練法について理解できる。<br>11)筋機能訓練(MFT)について説明できる。<br>12)補綴装置について説明できる。<br>13)AACについて説明できる。 |                                    |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学歯学部附属病院矯正歯科外来)で5年以上の矯正歯科医としての臨床経験を積んでいる。矯正歯科での担当患者には口蓋裂患者も多く含まれ、器質性構音障害についての経験も有する。これらの臨床経験に基づいた授業を行う。   |                                    |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 単位認定試験 90%、レポート提出を 10%として、包括的に評価する。   |                                    |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 事前に、1年生で学習した頭頸部の解剖と音声学(特に音声記号)について復習をしてください。また、各回の予・復習を1時間以上行ってください。  |                                    |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週水曜日 12:15-13:10   |                                    |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |                                    |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                               |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)  | 頭頸部の解剖 1 大脳、小脳、脳幹および脳神経の解剖とその機能、疾患 |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 2                   | 1)  | 頭頸部の解剖 2 錐体路・錐体外路の解剖とその機能、異常反射、疾患  |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 3                   | 3)4)  | 運動障害性構音障害の各タイプの特徴、原因疾患、随伴する神経学的症状  |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 4                   | 2)5)  | 口腔内視診と発声発語器官の触診、運動の観察、反射の診かた       |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 5                   | 2)5)  | 歯科学的評価                             |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 6                   | 2)5)  | 構音・プロソディーの評価                       |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 7                   | 5)7)  | 器質性構音障害の原因疾患と構音の特徴(1) 唇顎口蓋裂        |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 8                   | 5)6)  | 器質性構音障害の原因疾患と構音・嚥下障害の特徴(2) 頭頸部癌・舌癌 |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 9                   | 5)7)  | 器質性構音障害の評価(2)口蓋裂の異常構音の評価           |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 10                  | 5)7)  | 器質性構音障害の評価(3)頭頸部癌・舌癌の構音評価          |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 11                  | 8)  | 器質性構音障害の訓練法                        |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 12                  | 9)  | 機能性構音障害の原因疾患と構音の特徴                 |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 13                  | 10)   | 機能性構音障害の評価・診断                      |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 14                  | 11)   | 筋機能療法について                          |          |            |              | 講義・演習     | 中村 |
| 15                  | 12)13)  | 補綴装置・AAC について                      |          |            |              | 講義        | 中村 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 発声発語障害学 第2版(熊倉 勇美編) 医学書院【ISBN978-4-260-02060-2】   |                                    |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 適宜指示します。  |                                    |          |            |              |           |    |

|                            |  |                                     |           |        |            |              |           |
|----------------------------|--|-------------------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | スピーチ・リハビリテーション   |                                     |           | 授業コード  | 121119B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)                   | 言語聴覚療法学科(2年)   |                                     |           | ナンバリング | 22C212P12  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 原 修一(保・言)、土屋美智子(非常勤講師)、兒玉成博(非常勤講師)   | 開講学期                                | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 一連の話し言葉の障害(神経疾患による運動障害性構音障害、小児の機能性構音障害、口唇・口蓋裂を中心とした器質性構音障害、吃音、音声障害)の評価、訓練法を中心に学ぶ。言語聴覚として必要な、検査や行動観察を用いての患者の適切な評価、及びそこから導き出された訓練の立案・実施をするための高い臨床能力を身につける(DP3&4)。                            |                                     |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1)運動障害性構音障害に関連する発声・発語系の解剖と、構音の運動学的・音響学的特性が理解できる。<br>2)機能性構音障害における音の誤りの特徴と、対応する訓練法が理解できる。<br>3)口唇・口蓋裂の特徴、口唇・口蓋裂に伴う異常構音の音響学的特徴、系統的訓練法が理解できる。<br>4)吃音に関する評価・訓練法が理解できる。<br>5)音声障害の評価・訓練法が理解できる |                                     |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 本講義の担当全員は臨床経験5年以上の言語聴覚士であり、実務経験に基づいた、発声発語およびその障害に関わる知識・技術を習得できる。<br>単位認定試験 90%、出席 10%。   |                                     |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 前期で学習した頭頸部の解剖と音声学(特に音声記号)について復習をしてください。また、講義時間と内容の関係上、臨床実習では不足する知識・技術がかなり生ずる可能性があります。毎日1時間以上の予習・復習と、講義終了後も継続的な話し言葉の障害に関する知識・技術の向上を図る必要があります。   |                                     |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 毎週水曜日 12:30-13:00  |                                     |           |        |            |              |           |
| 授業計画                       |  |                                     |           |        |            |              |           |
| 回数                         | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                             |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                          | 1)   | 運動障害性構音障害(1) 神経系の解剖、運動障害性構音障害の特徴 1  |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 2                          | 1)   | 運動障害性構音障害(2) 運動障害性構音障害の特徴 2         |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 3                          | 1)   | 運動障害性構音障害(3) 運動障害性構音障害の評価           |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 4                          | 2)3)   | 運動障害性構音障害(4) 運動障害性構音障害の訓練           |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 5                          | 2)3)   | 機能性・器質性構音障害(1)構音の発達、各構音障害の特徴・異常構音とは |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 6                          | 2)3)   | 機能性・器質性構音障害(2)機能性・器質性構音障害の評価        |           |        |            | 講義・演習        | 原         |
| 7                          | 2)3)   | 機能性・器質性構音障害(3)機能性・器質性構音障害の構音訓練      |           |        |            | 講 義          | 原         |
| 8                          | 4)   | 吃音(1) 吃音の基本的知識、吃音者の体験談の分析、吃音症状の理解   |           |        |            | 講 義          | 土 屋       |
| 9                          | 4)   | 吃音(2) 吃音の進展段階と軌道論、原因論               |           |        |            | 講 義          | 土 屋       |
| 10                         | 4)   | 吃音(3) 吃音の評価:吃音検査法、総合評価              |           |        |            | 講義・演習        | 土 屋       |
| 11                         | 4)   | 吃音(4) 吃音の指導・訓練法                     |           |        |            | 講 義          | 土 屋       |
| 12                         | 5)   | 音声障害(1)                             |           |        |            | 講 義          | 兒 玉       |
| 13                         | 5)   | 音声障害(2)                             |           |        |            | 講 義          | 兒 玉       |
| 14                         | 5)   | 音声障害(3)                             |           |        |            | 講 義          | 兒 玉       |
| 15                         | 5)   | 音声障害(4)                             |           |        |            | 講 義          | 兒 玉       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】         | 標準言語聴覚障害学 発声発語障害 第2版(熊倉勇美ほか編) 医学書院【978-4-260-02060-2】  |                                     |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】         | 口蓋裂の言語臨床 第3版(岡崎恵子他編) 医学書院【978-4-260-01239-3】<br>言語聴覚士テキスト(岩田 誠他編) 医歯薬出版【978-4-2632-1366-7】   |                                     |           |        |            |              |           |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | スピーチ・リハビリテーション演習 I   |  |          | 授業コード  | 121473A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |  |          | ナンバリング | 22C311P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)、中村真理子<br>(保・言)、北九州総合療育センタ<br>ー職員(非常勤講師)  | 開講学期                                   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 発話機能は、呼吸・発声・共鳴・構音およびプロソディーから構成される、極めて複雑なプロセスを経る機能であり、言語聴覚士になるための高い知識や技術の習得が必要となる。本演習では、話し言葉の障害を中心とした、(リ)ハビリテーションに関する臨床能力を修得する。具体的には、小児の機能的構音障害、器質性構音障害の評価・訓練を中心に、検査や行動観察を用いたの患者の適切な評価、及びそこから導き出された訓練の立案・実施の能力を、講義・グループワークを通じて身につける(DP3&4)。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)機能的構音障害における音の誤りの特徴と、対応する訓練法が理解できる。<br>2)口唇・口蓋裂の特徴、口唇・口蓋裂に伴う異常構音の音響学的特徴、系統的訓練法が理解できる。   |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 語聴覚士(原・北九州総合療育センター)および歯科医師(中村)が、病院、歯科医院にて得た、口唇口蓋裂等構音障害に関わる疾患やその(リ)ハビリテーションに関する知識・技術を提供する。  |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 形成的評価として、出席と授業態度、小テストで評価する。総括的評価として、単位認定試験を実施する。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 前期で学習した頭頸部の解剖と音声学(特に音声記号)について復習をしてください。また、講義時間と内容の関係上、臨床実習では不足する知識・技術がかなり生ずる可能性があります。毎日1時間以上の予習・復習と、講義終了後においても継続的な話し言葉の障害に関する知識・技術の向上を図る必要があります。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週水曜日 12:30-13:00  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                                |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 機能的構音障害(1) 機能的構音障害の特徴・評価               |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 2                   | 1)   | 機能的構音障害(2) 構音検査の実施 1                   |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 3                   | 1)   | 機能的構音障害(3) 構音検査の実施 2・訓練プログラム立案         |          |        |            | 講 義          | 原         |
| 4                   | 1)   | 機能的構音障害(4) 機能的構音障害に対する訓練プログラム 1 音の産生訓練 |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 5                   | 1)   | 機能的構音障害(5) 機能的構音障害に対する訓練プログラム 2 音の産生訓練 |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 6                   | 1)   | 機能的構音障害(6) 機能的構音障害に対する訓練プログラム 3 系統的訓練  |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 7                   | 2)   | 器質性構音障害(1) 口唇口蓋裂の原因、タイプ分類、手術           |          |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 8                   | 2)   | 器質性構音障害(2) 口唇口蓋裂の歯科学的評価 1              |          |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 9                   | 2)   | 器質性構音障害(3) 口唇口蓋裂の歯科学的評価 2              |          |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 10                  | 2)   | 器質性構音障害(4) 口唇口蓋裂の言語聴覚療法的評価 1           |          |        |            | 講 義          | 原         |
| 11                  | 2)   | 器質性構音障害(5) 口唇口蓋裂の言語聴覚療法的評価 2           |          |        |            | 講 義          | 原         |
| 12                  | 2)   | 器質性構音障害(6) 口唇口蓋裂の異常構音へのアプローチ 1         |          |        |            | 講 義          | 北九州       |
| 13                  | 2)   | 器質性構音障害(7) 口唇口蓋裂の異常構音へのアプローチ 2         |          |        |            | 講 義          | 北九州       |
| 14                  | 2)   | 器質性構音障害(8) 口唇口蓋裂児を持つ保護者への指導            |          |        |            | 講 義          | 北九州       |
| 15                  | 2)   | 器質性構音障害(9) 口唇口蓋裂児の成長に伴う経時的アプローチ        |          |        |            | 講 義          | 北九州       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版(藤田郁代 監修) 医学書院【978-4-2600-2060-2】<br>言語聴覚療法シリーズ7 改訂 機能的構音障害(本間慎治 編) 建帛社【978-4-7679-4527-9】<br>口蓋裂の言語臨床 第3版(岡崎 恵子 他著) 医学書院【978-4-260-01239-3】<br>言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害(斉藤 裕恵 編) 建帛社【978-4-7679-4508-8】                   |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 講義中に紹介します。   |  |          |        |            |              |           |



|                     |  |      |          |            |              |           |           |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|-----------|
| 科目名                 | スピーチ・リハビリテーション演習Ⅱ  |      | 授業コード    | 121474A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |           |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |      | ナンバリング   | 22C311P06  | AL科目         | ○         |           |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)、中村真理子<br>(保・言)、外部講師  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義・SGD・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 発話機能は、呼吸・発声・共鳴・構音およびプロソディーから構成される、極めて複雑なプロセスを経る機能であり、言語聴覚士になるための高い知識や技術の習得が必要となる。本演習では、話し言葉の障害を中心とした、リハビリテーションに関する臨床能力を修得する。具体的には、成人の運動障害性構音障害、器質性構音障害の評価・訓練を中心に、検査や行動観察を用いての患者の適切な評価、及びそこから導き出された訓練の立案・実施の能力を、講義・グループワーク、当事者と家族の体験発表を通じて身につける(DP3&4)。 |      |          |            |              |           |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)運動障害性構音障害における音の誤りの特徴と、対応する訓練法が理解できる。<br>2)頭頸部癌の特徴と手術、手術後による舌切除後の問題や、構音の評価・訓練法が理解できる。   |      |          |            |              |           |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士(原)および歯科医師(中村)が、病院、歯科医院にて得た、成人高齢者の構音障害に関わる疾患やそのリハビリテーションに関する知識・技術を提供する。   |      |          |            |              |           |           |
| 評価方法                | 形成的評価として、出席と授業態度、小テストで評価する。総括的評価として、単位認定試験を実施する。   |      |          |            |              |           |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 前期で学習した頭頸部の解剖と音声学(特に音声記号)について復習をしてください。また、講義時間と内容の関係上、臨床実習では不足する知識・技術がかなり生ずる可能性があります。毎日1時間以上の予習・復習と、講義終了後においても継続的な話し言葉の障害に関する知識・技術の向上を図る必要があります。   |      |          |            |              |           |           |
| オフィスアワー             | 毎週水曜日 12:30-13:00  |      |          |            |              |           |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                                   | 授業<br>方法 | 担当     |
|----|-------------|--|----------|--------|
| 1  | 1)          | 運動障害性構音障害(1) 運動障害性構音障害の特徴・評価           | 講義       | 原      |
| 2  | 1)          | 運動障害性構音障害(2) 標準ディサースリア検査の実施 1          | 講義・SGD   | 原      |
| 3  | 1)          | 運動障害性構音障害(3) 標準ディサースリア検査の実施 2          | 講義・SGD   | 原      |
| 4  | 1)          | 運動障害性構音障害(4) 標準ディサースリア検査の実施 3          | 講義・SGD   | 原      |
| 5  | 1)          | 運動障害性構音障害(5) 運動障害性構音障害に対する訓練 1         | 講義       | 原      |
| 6  | 1)          | 運動障害性構音障害(6) 運動障害性構音障害に対する訓練 2         | 講義       | 原      |
| 7  | 2)          | 運動障害性構音障害(7) 運動障害性構音障害に対する訓練 3         | 講義・SGD   | 原      |
| 8  | 2)          | 運動障害性構音障害(8) スピーチカニューレの取り扱い            | 講義       | 原      |
| 9  | 2)          | 運動障害性構音障害(9) 運動障害性構音障害とAAC(当事者・家族と共に)  | 講義       | 原・外部講師 |
| 10 | 2)          | 運動障害性構音障害(10) 運動障害性構音障害とAAC(当事者・家族と共に) | 講義       | 原・外部講師 |
| 11 | 2)          | 器質性構音障害(1) 頭頸部癌とは、頭頸部癌の手術、治療           | 講義       | 中村     |
| 12 | 3)          | 器質性構音障害(2) 頭頸部癌に関わる歯科学的問題 1            | 講義       | 中村     |
| 13 | 3)          | 器質性構音障害(3) 頭頸部癌に関わる歯科学的問題 2            | 講義       | 中村     |
| 14 | 3)          | 器質性構音障害(4) 舌切除者に対するスピーチリハビリテーション 1     | 講義・演習    | 原      |
| 15 | 3)          | 器質性構音障害(5) 舌切除者に対するスピーチリハビリテーション 2     | 講義       | 原      |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版(藤田郁代 監修)医学書院【978-4-2600-2060-2】<br>言語聴覚療法シリーズ9 改訂 運動障害性構音障害(熊倉勇美 編)建帛社【978-4-7679-4529-3】<br>言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害(齊藤裕恵 編)建帛社【978-4-7679-4508-8】<br>標準ディサースリア検査(西尾正輝 著)インテルナ出版【978-4-9006-3717-7】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 喉頭がん舌がんの人たちの言語と摂食・嚥下ガイドブック(菊谷武 監訳)医歯薬出版【978-4-263-44271-5】  |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 嚥下障害   |  |          | 授業コード  | 121337B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |  |          | ナンバリング | 22C211P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村真理子(保・言)、山口大樹<br>(非常勤講師)、佐藤 秀夫(非常<br>勤講師)、横山茂幹(外部講師)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い評価・訓練に必要なプロセスを遂行する(GIO3, 4)するうえで摂食嚥下障害は言語聴覚士が対象とする頻度が高い障害である。摂食嚥下障害とは、飲み込みが困難な状態であり、乳児から高齢者まで、多様な状態によって起こる問題である。飲むことができない、食べることができないことで、生命の危機に直面することもあり、摂食嚥下障害を早期に発見、対処することは、臨床的に極めて重要である。嚥下の定義、嚥下の仕組み、摂食嚥下障害をきたす要因、摂食嚥下障害の観察方法に関する知識を修得する(CP1-1, 1-2)。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 正常な嚥下とそれに関わる筋肉、神経について説明できる。<br>2) 嚥下の正常発達、加齢による変化について説明できる。<br>3) 嚥下障害に関する評価の概要を知り、正常か異常かの判別ができる。<br>4) 飲食材の変化による嚥下の違いについて説明できる。<br>5) 薬物による副作用が嚥下に及ぼす影響について説明できる。  |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学附属病院矯正歯科外来)において歯科医師として5年以上の臨床経験を有する。同じく科目担当者(山口、佐藤)は臨床現場(長崎大学附属病院摂食嚥下外来、鹿児島大学小児歯科外来)において歯科医師として5年以上の臨床経験を有する。科目担当者横山は言語聴覚士として5年以上の臨床経験を有する。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 単位認定試験(100%)により評価する。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 摂食・嚥下障害は、言語聴覚士の臨床で、最重要領域となっているため、予習として教科書の該当箇所を一読しておくこと。特に、解剖・生理学で学んだ消化管の解剖と生理をもう一度見直し、摂食・嚥下のプロセスがイメージできるようにすること。そのためにも、復習には1時間以上、2時間程度かける必要がある。講義終了後も、実習や臨床で十分取り組むことが出来るように、知識・技術を向上させていく必要がある。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 嚥下と摂食の定義およびその違いについて、簡潔に説明することができる。   |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 2                   | 1)   | 嚥下に関わる諸器官の図をもとに、その名称を答えることができる。  |          |        |            | 講義           | 山口        |
| 3                   | 1)   | 嚥下の期と相について、他の学生に説明することができる。  |          |        |            | 講義・SGD       | 山口        |
| 4                   | 1)~3)  | 正常に嚥下がなされるための要件について、自ら図を描いて説明ができる。   |          |        |            | 講義・SGD       | 山口        |
| 5                   | 1)~3)  | VF、VEを見て、正常な嚥下と異常な嚥下の違いを説明できる。   |          |        |            | 講義・SGD       | 山口        |
| 6                   | 1)~3)  | 歯と咀嚼・嚥下との関係について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 7                   | 1)~3)  | 準備期における摂食・嚥下障害について説明できる。   |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 8                   | 1)~3)  | 正常な嚥下運動について知るために、学生同士で演習を行う。水を飲むときや唾を飲むときに、喉頭や口腔周辺にどのような変化があるかを観察し、結果をディスカッションできる。 |          |        |            | 講義・SGD       | 中村        |
| 9                   | 1)~3)  | 加齢による嚥下障害のメカニズムを説明できる。   |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 10                  | 3)4)   | 加齢に伴う姿勢の変化、脳卒中による身体の拘縮による姿勢の変化について知り、それがどのような影響を及ぼすかを説明できる。                        |          |        |            | 講義・SGD       | 中村        |
| 11                  | 3)4)   | 嚥下障害者にとって、食形態の違いは飲み込みに多大な影響を及ぼす。それはどのような機序で起こるかを説明できる。                             |          |        |            | 講義・SGD       | 中村        |
| 12                  | 1)~3)  | 口腔がん患者のリハビリテーションにおける摂食・嚥下障害の評価・訓練  |          |        |            | 講義           | 横山        |
| 13                  | 1)~3)  | 口腔がん患者のリハビリテーションにおける摂食・嚥下障害の評価・訓練  |          |        |            | 講義           | 横山        |
| 14                  | 3)4)   | 小児の嚥下障害  |          |        |            | 講義           | 佐藤        |
| 15                  | 5)   | 小児の嚥下障害  |          |        |            | 講義、          | 佐藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | リハビリテーション医学に基づいた摂食嚥下障害の評価・対応 医歯薬出版株式会社【978-4-263-44558-7】                          |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 山田好秋 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-44179-4                              |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 嚥下障害演習 I  |      |           | 授業コード  | 121338A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |      |           | ナンバリング | 22C212P13  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言)・原 修一<br>(保・言)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義は、利用者本位の言語聴覚士になるための最重要領域として、臨床現場においてリハビリテーションの一翼を担うことのできる臨床能力を修得するために、摂食嚥下障害に関わる一連の評価(スクリーニング、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、摂食評価)について演習を通じて学び、摂食嚥下機能の評価と問題点の抽出、訓練プログラムが作成できる、高い技能を習得する(DP1-5)。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)摂食・嚥下障害のスクリーニング検査が実施できる。<br>2)嚥下造影検査および嚥下内視鏡検査の概要と方法が説明できる。<br>3)嚥下造影検査及び嚥下内視鏡検査の動画を見て、摂食・嚥下機能における問題点を抽出できる。<br>4)摂食評価において、姿勢やベッドアップ角度の調節など、患者の摂食環境を整えることができる。<br>5)摂食評価において、患者が経口摂取できる食物形態とその調節について理解ができる。<br>6)口腔ケアの方法、義歯の管理方法について理解が出来る。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や福祉施設、歯科医院において、5年以上の臨床経験をもつ歯科医師や言語聴覚士が、実務経験に基づき、摂食嚥下障害に関わる解剖生理、疾患、検査、訓練、対処法の実際について教育する。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席回数、講義態度、課題レポート提出等の形成的評価と、単位認定試験における論述試験の結果による統括的評価の2つを実施する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 言語聴覚士の最重要領域を学者として、頭頸部の解剖、神経学的知識に関する内容を含む、各回の予習・復習を1時間以上(2時間が望ましい)をしてください。また、学外臨床実習や臨床では、本講義での学んだことだけでは不十分です。日頃の摂食・嚥下障害に関する知識の向上が必要になります。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水・木曜日 12:30~13:00   |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                              | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--------------------------------------|------------|-----|
| 1  | 1)          | オリエンテーション、摂食・嚥下機能のスクリーニング検査(1) 概要    | 講義・演習      | 原   |
| 2  | 1)          | 摂食・嚥下機能のスクリーニング検査(2) 水飲みテスト・改訂水飲みテスト | 演 習        | 中 村 |
| 3  | 1)          | 摂食・嚥下機能のスクリーニング検査(3) 反復唾液嚥下テスト       | 演 習        | 中 村 |
| 4  | 1)          | 摂食・嚥下機能のスクリーニング検査(4) 歯科学的評価          | 演 習        | 中 村 |
| 5  | 1)          | 摂食・嚥下機能のスクリーニング検査(5) 問診・質問紙による評価     | 演 習        | 中 村 |
| 6  | 2)          | 嚥下造影検査の原理と方法・観察評価                    | 講義・演習      | 中 村 |
| 7  | 2)          | 嚥下内視鏡検査の原理と方法・観察評価                   | 講義・演習      | 中 村 |
| 8  | 2)3)        | フードテストの方法と評価(1)                      | 演 習        | 原   |
| 9  | 2)3)        | フードテストの方法と評価(2)                      | 演 習        | 原   |
| 10 | 4)5)        | 段階的摂食評価(1)                           | 演 習        | 原   |
| 11 | 4)5)        | 段階的摂食評価(2)                           | 演 習        | 原   |
| 12 | 6)          | 口腔ケア(1)                              | 演 習        | 中 村 |
| 13 | 6)          | 口腔ケア(2)                              | 演 習        | 中 村 |
| 14 | 6)          | 義歯の管理                                | 演 習        | 中 村 |
| 15 | 1)~<br>6)   | 事例検討                                 | 演 習        | 中 村 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 摂食・嚥下リハビリテーション 第3版(才藤 栄一・植田耕一郎 監修) 医歯薬出版【978-4-263-44447-4】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 (熊倉勇美・椎名英貴 編) 医学書院【978-4-260-01516-5】  
嚥下障害の臨床-リハビリテーションの考え方と実際 (日本嚥下障害臨床研究会 編集) 医歯薬出版【978-4263213223】

|                     |   |                                |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 嚥下障害演習Ⅱ   |                                |          | 授業コード  | 121339A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |                                |          | ナンバリング | 22C311P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)、山口 大樹(非常勤講師)、重田 律子(非常勤講師)   | 開講学期                           | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションは、言語聴覚士の臨床に最も重要な業務である。本講義では、摂食・嚥下障害について高い臨床能力を持つ言語聴覚士となるために、摂食・嚥下に関わる解剖・生理、摂食・嚥下障害の病態・障害像、評価、訓練、チームアプローチについての知識や技術を修得する(DP1-5)。   |                                |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)摂食・嚥下の解剖と生理について説明できる。<br>2)摂食・嚥下障害の病態を説明できる。<br>3)言語聴覚士の役割とチームアプローチの重要性を説明できる。<br>4)リスク管理について説明できる。<br>5)各種スクリーニングテストについて説明できる。<br>6)摂食・嚥下関連器官の評価が実施できる。<br>7)正常嚥下と嚥下障害のVF・VE所見を説明できる。<br>8)間接訓練について説明できる。<br>9)直接訓練について説明できる。<br>10)食形態の選択と一口量の調整について説明できる。<br>11)評価に基づいて訓練を選択し訓練計画を作成できる。<br>12)地域リハビリテーションなど、摂食・嚥下障害に関わる他職種との関連性について理解できる。 |                                |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(全員)は、病院等臨床現場における言語聴覚士・歯科医師としての5年以上の実務経験に基づき、摂食嚥下に関わる解剖や疾患、障害の特徴およびリハビリテーションに関する知識・技術の修得を目的とした授業を行う。   |                                |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席回数、授業中の提出物・演習の評価、及び単位認定試験で総合的に評価する。   |                                |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 嚥下障害Ⅰ、嚥下障害Ⅱを十分に復習しておくこと。また、各回ごとに予・復習を1時間以上行うこと。<br>摂食・嚥下機能の動き、実際の臨床場面を想定して講義に臨むこと。積極的に質問すること。   |                                |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間  |                                |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                                |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                           |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 摂食・嚥下の解剖と生理                    |          |        |            | 講義           | 原         |
| 2                   | 2)  | 摂食・嚥下障害とその病態                   |          |        |            | 講義           | 重田        |
| 3                   | 3)  | 言語聴覚士の役割とチームアプローチの重要性          |          |        |            | 講義           | 重田        |
| 4                   | 4)5)  | リスク管理、各種スクリーニングテストについて         |          |        |            | 講義           | 重田        |
| 5                   | 6)  | 嚥下関連器官機能の評価、演習                 |          |        |            | 講義・演習        | 重田        |
| 6                   | 7)  | VF・VEによる評価                     |          |        |            | 講義           | 重田        |
| 7                   | 7)  | VF・VEによる評価演習                   |          |        |            | 講義・演習        | 重田        |
| 8                   | 8)  | 摂食・嚥下障害の訓練 間接訓練・直接訓練(1)        |          |        |            | 講義           | 重田        |
| 9                   | 8)  | 摂食・嚥下障害の訓練 間接訓練・直接訓練(2)        |          |        |            | 講義・演習        | 山口        |
| 10                  | 9)  | 摂食・嚥下障害の訓練 間接訓練・直接訓練(3)        |          |        |            | 講義           | 山口        |
| 11                  | 9)  | 摂食・嚥下障害の訓練 間接訓練・直接訓練(4)        |          |        |            | 講義・演習        | 山口        |
| 12                  | 10)   | 食形態の選択と一口量の調整、代償法、介助方法の工夫      |          |        |            | 講義           | 山口        |
| 13                  | 11)   | 評価結果の解釈と訓練計画の立案                |          |        |            | SGD          | 山口        |
| 14                  | 1)~<br>11)  | 摂食・嚥下障害の疾患別対応                  |          |        |            | 講義           | 山口        |
| 15                  | 1)~<br>11)  | 摂食・嚥下障害の地域リハビリテーションの実際・関連職種の役割 |          |        |            | 講義           | 山口        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 摂食・嚥下リハビリテーション(才藤 栄一・向井 美恵 監修)第3版 医歯薬出版【978-4-263-44447-4】  |                                |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 目で見える嚥下障害(DVD付)(藤島 一郎)医歯薬出版【978-4-263-21856-3】<br>その他、講義内で連絡する  |                                |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |            |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 聴覚障害演習 I  |      |            | 授業コード  | 121291A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2 年次)  |      |            | ナンバリング | 22C211P10  | AL 科目        | ○         |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)、倉内 紀子(保・言)  | 開講学期 | 2020 年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | コミュニケーション障害としての聴覚障害を理解し、その種類と特性に応じた評価、指導・訓練ができる言語聴覚士となるために(DP3, 4)、小児聴覚障害、成人聴覚障害、高齢者の聴覚障害、視覚聴覚二重障害の特徴を理解し、必要な指導・支援方法を修得することができる(CP1(4))。  |      |            |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 聴覚機能と言語機能との関連性について説明できる<br>2) 聴覚機能と母語獲得・発達との関連性について説明できる<br>3) 聴覚障害の原因疾患の概要について説明できる<br>4) 聴覚障害の評価方法について説明できる<br>5) 聴覚補償の概要について説明できる<br>6) 聴能訓練、聴覚学習の概要について説明できる<br>7) 高齢難聴者のコミュニケーション支援について説明できる<br>8) 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション支援について説明できる<br>9) 聴覚障害領域の多職種連携について説明できる |      |            |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(倉内、戸高)は、医療機関での言語聴覚士としての豊富な実務経験に基づき、小児から高齢者までの聴覚(リ)ハビリテーションについて、より臨床的な授業を展開する。   |      |            |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業毎の確認テストやレポート課題により形成的評価を行う。学習への取り組み姿勢(課題の提出状況、小テスト、授業への参加態度など)の評価を 30%、学期末の単位認定試験を 70%として単位認定を行う。  |      |            |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | これまで履修した「耳鼻咽喉科学」、「聴覚障害」の講義資料を読んで、復習しておく。<br>授業毎に提示されるレポート等の課題に取り組む。併せて、次回行う内容について教科書の該当ページ(授業時に指示)を読んでおく。1回の授業につき1時間を目安に予習・復習を行うこと。   |      |            |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 各教員のオフィスアワーに準じる。  |      |            |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容            | 授 業<br>方 法 | 担 当   |
|----|--------------|--------------------|------------|-------|
| 1  | 1)~3)        | 小児聴覚障害の原因、種類、特徴    | 講義、演習      | 戸 高   |
| 2  | 4)、5)        | 成人聴覚障害の評価と聴覚補償①    | 講義、演習      | 倉 内   |
| 3  | 4)、5)        | 成人聴覚障害の評価と聴覚補償②    | 講義、演習      | 倉 内   |
| 4  | 4)           | 小児聴覚障害の評価①         | 講義、演習      | 戸 高   |
| 5  | 4)、5)        | 成人聴覚障害の評価と聴覚補償③    | 講義、演習      | 倉 内   |
| 6  | 4)           | 小児聴覚障害の評価②         | 講義、演習      | 戸 高   |
| 7  | 6)~8)        | 成人聴覚障害の指導・訓練①      | 講義、演習      | 倉 内   |
| 8  | 5)、6)        | 小児聴覚障害の聴覚補償、指導・訓練① | 講義、演習      | 戸 高   |
| 9  | 6)~8)        | 成人聴覚障害の指導・訓練②      | 講義、演習      | 倉 内   |
| 10 | 5)、6)        | 小児聴覚障害の聴覚補償、指導・訓練② | 講義、演習      | 戸 高   |
| 11 | 9)           | 聴覚障害と多職種連携         | 講義、演習      | 倉 内   |
| 12 | 4)~6)        | 人工聴覚器の進歩①          | 講義、演習      | 倉 内   |
| 13 | 4)~6)        | 人工聴覚器の進歩②          | 講義、演習      | 倉 内   |
| 14 | 5)、<br>6)、9) | 教育現場の実際①           | 講義、演習      | 戸高、倉内 |
| 15 | 5)、<br>6)、9) | 教育現場の実際②           | 講義、演習      | 戸高、倉内 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版(藤田 郁代 監修)医学書院【978-4-260-02117-3】  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 発達と障害を考える本(9) ふしぎだね！？聴覚障害のお友達(倉内 紀子 監修)ミネルヴァ書房【978-4-6230-5108-3】<br>言語聴覚士テキスト 第3版(大森 孝一他編) 医歯薬出版 【978-4-263-26560-4】<br>言語聴覚療法シリーズ第5巻 改訂聴覚障害Ⅰ-基礎編-(山田 弘幸 編著) 建帛社 【978-4-7679-4525-5】<br>言語聴覚療法シリーズ第6巻 改訂聴覚障害Ⅱ-臨床編-(山田 弘幸 編著) 建帛社 【978-4-7679-4526-2】 |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 聴覚障害演習Ⅱ   |      |          | 授業コード  | 121292A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |      |          | ナンバリング | 22C311P08  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)、石川 一葉<br>(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 聴覚障害児・者に対して、補聴器および人工内耳の聴覚(リ)ハビリテーションに貢献できる言語聴覚士になるために、適合・調整、プログラミングなどの基本事項を理解した上で、小児および成人の評価や装用指導・訓練について知識・技術を修得する(DP3、CP1(4))。また、発症時期やライフステージを考慮した本人および家族への支援に必要な臨床的な知識を修得する(DP4、CP1(4))。  |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 補聴器の適合・調整の手順について説明できる。<br>2) 補聴器の装用効果の評価法について説明できる。<br>3) 最新の人工聴覚器と適応基準について説明できる。<br>4) 人工内耳のプログラミングの具体的方法について説明できる。<br>5) 人工内耳の装用効果の評価法について説明できる。<br>6) 小児の補聴器・人工内耳の装用指導・訓練の原則と方法について説明できる。<br>7) 成人の補聴器・人工内耳の装用指導・訓練の原則と方法について説明できる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(倉内、石川)は、医療機関での言語聴覚士としての実務経験に基づき、補聴器・人工内耳の聴覚(リ)ハビリテーションについて、より実践的な授業を展開する。   |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業毎のレポート課題により形成的評価を行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(課題の提出状況、授業への参加態度等)の評価を30%、学期末の単位認定試験を70%として、単位認定を行う。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回の授業につき1時間を目安に予習・復習を行うこと。<br>授業毎に提示されるテーマについてレポートを作成する。教科書の次回授業部分(授業時に指示)を読んでおく。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月曜～水曜日 12:30～13:00  |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                        | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|-----------------------------|----------|----|
| 1  | 1)          | 補聴器の適合と言語聴覚士の役割             | 講義・演習    | 倉内 |
| 2  | 1)          | 補聴器の適合と調整①                  | 講義・演習    | 倉内 |
| 3  | 1)          | 補聴器の適合と調整②                  | 講義・演習    | 倉内 |
| 4  | 1)          | 補聴器の適合と調整③                  | 講義・演習    | 倉内 |
| 5  | 2)          | 補聴器の適合・調整の適切性の判断と装用効果の評価    | 講義・演習    | 倉内 |
| 6  | 7)          | 成人補聴器の装用指導・訓練の原則と方法         | 講義・演習    | 倉内 |
| 7  | 6)          | 小児補聴器の装用指導・訓練の原則と方法         | 講義・演習    | 倉内 |
| 8  | 3)          | 人工内耳の適応基準と言語聴覚士の役割          | 講義・演習    | 倉内 |
| 9  | 4)          | 人工内耳システムを用いたプログラミングの実際①     | 講義・演習    | 倉内 |
| 10 | 3)～5)       | 人工聴覚器の進歩①                   | 講義・演習    | 倉内 |
| 11 | 3)～5)       | 人工聴覚器の進歩②                   | 講義・演習    | 倉内 |
| 12 | 4)          | 人工内耳システムを用いたプログラミングの実際②     | 講義・演習    | 倉内 |
| 13 | 5)          | 人工内耳のプログラミングの適切性の判断と装用効果の評価 | 講義・演習    | 石川 |
| 14 | 7)          | 成人人工内耳の装用指導・訓練の原則と方法        | 講義・演習    | 石川 |
| 15 | 6)          | 小児人工内耳の装用指導・訓練の原則と方法        | 講義・演習    | 石川 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第2版(中村 公枝 他 編) 医学書院 【978-4-260-02117-3】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 言語聴覚士テキスト 第3版(大森 孝一他編) 医歯薬出版 【978-4-263-26560-4】  
補聴器のフィッティングと適応の考え方(小寺 一興著) 診断と治療社 【978-4-7878-2274-1】

|                     |   |                          |           |            |              |            |    |
|---------------------|---|--------------------------|-----------|------------|--------------|------------|----|
| 科目名                 | 聴覚検査  |                          | 授業コード     | 121288B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)  |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)  |                          | ナンバリング    | 22C212P14  | AL科目         | ○          |    |
| 担当者                 | 戸高翼(保・言)  | 開講学期                     | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義・演習 |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>聴覚検査は、難聴、言語障害の診断および治療、支援を考える上では、欠くことのできないものである。そのため、検査を実施する際には、高度な知識や技術の習得が要求される。</p> <p>「聴覚検査」では、聴覚の構造・機能・病態を理解した上で、検査の実施および解釈ができる言語聴覚士になるために(DP3)、成人聴覚検査、乳幼児聴覚検査、他覚的聴覚検査、その他各種聴覚検査法の原理、実施手続き、結果の分析について習得する(CP1(4))。</p>  |                          |           |            |              |            |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 聴覚検査に必要な予備知識について説明できる。</li> <li>2) 純音聴力検査の概要および検査前の準備、検査手順の説明ができ、実施ができる。</li> <li>3) 語音聴力検査の概要および検査前の準備、検査手順の説明ができ、実施ができる。</li> <li>4) 中耳機能検査の概要および検査手順の説明ができ、実施、解釈ができる。</li> <li>5) 内耳機能検査の概要および検査手順の説明ができ、実施、解釈ができる。</li> <li>6) 選別検査の概要および方法を説明し、実施することができる。</li> <li>7) 他覚的聴覚検査の概要および方法を知り、各検査の特徴を説明することができる。</li> <li>8) 乳幼児聴力検査の概要および検査手順の説明ができ、実施ができる。</li> <li>9) 検査結果から聴覚機能の状態を知ることができる。</li> <li>10) 聴覚補償機器の適用、選択、調整のために必要な検査を知り、必要な理由を説明することができる。</li> </ol> |                          |           |            |              |            |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士としての医療現場(耳鼻咽喉科)での5年以上の実務経験に基づき、臨床的視点の習得を含めた講義を行う。  |                          |           |            |              |            |    |
| 評価方法                | 講義で学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢(確認テストや課題の提出、質問・発言など講義への参加)を30%、単位認定試験70%として、単位認定を行う。   |                          |           |            |              |            |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで履修した「耳鼻咽喉科学」「聴覚障害」を十分に復習しておくこと。</li> <li>・1コマあたり4時間の予習復習を行うこと(講義内容の項目について、教科書の該当ページを読み、予習する。返却された確認テストを用いて、学習内容の復習する。</li> <li>・確認テスト、レポート課題の実施を通して、理解度を確認しながら、予習復習に取り組むこと。</li> <li>・SGDでは、積極的にグループ内で発言し、自ら能動的に考える場であること理解し、活動すること。</li> </ul>   |                          |           |            |              |            |    |
| オフィスアワー             | 毎週(火)から(木)の12:20~13:00  |                          |           |            |              |            |    |
| 授業計画                |   |                          |           |            |              |            |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                     |           |            |              | 授業<br>方法   | 担当 |
| 1                   | 1)  | オリエンテーション／聴覚検査の予備知識      |           |            |              | 講義         | 戸高 |
| 2                   | 2)3)  | 純音聴力検査①オーディオグラム、気導聴力検査   |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 3                   | 3)  | 純音聴力検査②骨導                |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 4                   | 3)  | 純音聴力検査③マスキング             |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 5                   | 4)  | 語音聴力検査                   |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 6                   | 5)6)  | インピーダンス・オーディオメトリー・耳管機能検査 |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 7                   | 5)6)  | 自記オーディオメトリー              |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 8                   | 5)6)  | 閾値上聴力検査、耳鳴検査             |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 9                   | 7)  | 選別聴力検査                   |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 10                  | 7)  | 聴性誘発反応                   |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 11                  | 8)  | 耳音響放射                    |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 12                  | 8)  | 乳幼児聴力検査①                 |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 13                  | 9)  | 乳幼児聴力検査②                 |           |            |              | 講義、演習      | 戸高 |
| 14                  | 1)~<br>7)、9)  | 後迷路障害および機能性難聴の検査         |           |            |              | 講義、SGD     | 戸高 |
| 15                  | 1)~<br>10)  | 補聴器・人工内耳装用のための検査         |           |            |              | 講義、SGD     | 戸高 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 聴覚検査の実際 改訂4版(日本聴覚医学会編)南山堂【978-4-525-37044-2】<br>言語聴覚療法シリーズ第5巻 改訂聴覚障害I-基礎編(山田弘幸編)建帛社【978-4-7679-4525-5】  |                          |           |            |              |            |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | ENT臨床フロンティア 実践的耳鼻咽喉科検査法(小林俊光編)中山書店【978-4-521-73459-0】   |                          |           |            |              |            |    |

|                     |   |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 聴覚検査演習  | 授業コード  | 121289A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  | ナンバリング | 22C311P09  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)  | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 聴覚検査の授業で取り上げた聴覚検査のうち、言語聴覚士が実施する代表的な聴覚検査を実施・分析できるようになるために(DP3)、検査機器を用いた演習やビデオ映像、及び各検査に関連した症例の検討を通して実践的に学び、検査の目的、手続き、結果の分析方法を修得する(CP4)。   |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 聴覚検査の種類を列挙し、聴覚検査の意義について説明できる。<br>2) 自覚的検査の種類を列挙し、それぞれの目的、手続き、結果の解釈について説明できる。<br>3) 他覚的検査の種類を列挙し、それぞれの目的、手続き、結果の解釈について説明できる。<br>4) 乳幼児聴覚検査の種類を列挙し、それぞれの目的、手続き、結果の解釈について説明できる。<br>5) 選別聴力検査の種類を列挙し、それぞれの目的、手続き、結果の解釈について説明できる。 |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、医療機関での言語聴覚士としての豊富な実務経験を有しており、聴覚検査について、より実践的な授業を行う。   |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | 授業毎のレポート課題により形成的評価を行う。学習への取り組み姿勢(課題の提出状況、授業への参加態度)の評価を30%、学期末の単位認定試験による評価を70%として単位認定を行う。  |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回の授業につき1時間を目安に予習・復習を行うこと。<br>授業毎に指示されるテーマについてレポートを作成する。教科書の次回授業部分(シラバスに記載)を読んでおく。  |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 毎週月曜～水曜日 12:30～13:00  |        |            |              |           |      |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---|----------|----|
| 1  | 1)          | 聴覚検査の種類と検査の意義                                 | 講義,SGD   | 倉内 |
| 2  | 2)          | 自覚的検査(1)<br>純音聴力検査の方法と結果の解釈・症例検討              | 講義,SGD   | 倉内 |
| 3  | 2)          | 自覚的検査(2)<br>自記オーディオメトリーの方法と結果の解釈・症例検討         | 講義,SGD   | 倉内 |
| 4  | 2)          | 自覚的検査(3)<br>SISI検査の方法と結果の解釈・症例検討              | 講義,SGD   | 倉内 |
| 5  | 2)          | 自覚的検査(4)<br>語音了解閾値検査の方法と結果の解釈・症例検討            | 講義,SGD   | 倉内 |
| 6  | 2)          | 自覚的検査(5)<br>語音弁別検査の方法と結果の解釈・症例検討              | 講義,SGD   | 倉内 |
| 7  | 3)          | 他覚的検査(1)<br>ティンパノメトリーの方法と結果の解釈・症例検討           | 講義,SGD   | 倉内 |
| 8  | 3)          | 他覚的検査(2)<br>聴性脳幹反応(ABR)を指標にした検査の方法と結果の解釈・症例検討 | 講義,SGD   | 倉内 |
| 9  | 4)          | 乳幼児聴覚検査(1)<br>聴性行動反応聴力検査(BOA)の方法と結果の解釈・症例検討   | 講義,SGD   | 倉内 |
| 10 | 4)          | 乳幼児聴覚検査(2)<br>条件詮索反応聴力検査(COR)の方法と結果の解釈・症例検討   | 講義,SGD   | 倉内 |
| 11 | 4)          | 乳幼児聴覚検査(3)<br>ピープショウテストの方法と結果の解釈・症例検討         | 講義,SGD   | 倉内 |
| 12 | 4)          | 乳幼児聴覚検査(4)<br>遊戯聴力検査の方法と結果の解釈・症例検討            | 講義,SGD   | 倉内 |
| 13 | 5)          | 選別聴力検査(1)<br>新生児聴覚スクリーニング検査の流れ・症例検討           | 講義,SGD   | 倉内 |
| 14 | 5)          | 選別聴力検査(2)<br>自動ABRを用いた新生児聴覚スクリーニングの方法と結果の解釈   | 講義,SGD   | 倉内 |
| 15 | 5)          | 選別聴力検査(3)<br>年齢に応じた選別検査の方法と聴覚検査にかかわる法令        | 講義,SGD   | 倉内 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版(中村 公枝 他 編)医学書院【978-4-260-02117-3】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 聴覚検査の実際 改訂4版(日本聴覚医学会 編)南山堂【978-4-525-37044-2】



|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 保健科学概論   |      |           | 授業コード  | 121475A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年生)  |      |           | ナンバリング | 22C212P16  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)、中村真理子<br>(保・言)、保健科学部・社会福祉<br>学部内教員、外部講師  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 利用者本位かつ高い臨床能力を持つ言語聴覚士を目指す学生にとって、近年必要とされている保健・医療・福祉の連携を学ぶためには、保健・医療・福祉関連職種について知る必要不可欠である。本講義は、言語聴覚士および関連他職種の業務について、講義や体験学習を通じて知り、将来の保健・医療・福祉の連携のための基礎を学ぶ事を目的とする(DP1, 5, 6)。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)保健・医療・福祉連携の現況を知ることができる。<br>2)講義や演習、施設体験を通じ、保健・医療・福祉職種の業務について学ぶことができる。<br>3)保健・医療・福祉におけるデータを理解でき、言語聴覚士の業務に活用する力を習得できる。<br>4)社会人として必要な資質を知り、その習得ができる。                      |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や福祉施設、歯科医院等で実務経験豊富な各担当教員が、経験に基づいた専門職の業務や多職種連携の実際について教育する。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 受講態度および演習におけるレポートの提出を、評価方法とする。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1)事前に、各粥腫についての業務に関して、予習しておくこと。<br>2)演習の際は、各担当教員の指示に従うこと。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 本学科および各担当講師と事前にアポイントを取ること。   |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                                | 授 業<br>方 法 | 担 当   |
|----|-------------|--|------------|-------|
| 1  | 1)2)        | 言語聴覚士の業務、再確認                           | 講 義        | 原     |
| 2  | 1)2)3)      | 保健・医療・福祉におけるデータの利用(データの種類、データの読み方、活用法) | 講 義        | 原     |
| 3  | 1)2)        | リハビリテーション関連職種について知る(1)理学療法士            | 講義・演習      | 外部講師  |
| 4  | 1)2)        | リハビリテーション関連職種について知る(2)作業療法士            | 講義・演習      | 作業療法  |
| 5  | 1)2)        | 医療関連職種について知る(1)看護師                     | 講義・演習      | 外部講師  |
| 6  | 1)2)        | 医療関連職種について知る(2)歯科領域                    | 講義・演習      | 中 村   |
| 7  | 1)2)        | 医療関連職種について知る(3)臨床工学技士                  | 講義・演習      | 臨床工学  |
| 8  | 1)2)        | 医療関連職種について知る(4)視能訓練士                   | 講義・演習      | 視機能療法 |
| 9  | 1)2)        | 医療関連職種について知る(5)歯科医師・歯科衛生士・在宅医療         | 講義・演習      | 外部講師  |
| 10 | 1)2)        | 医療関連職種について知る(6)義肢装具とリハビリテーション          | 講義・演習      | 作業療法  |
| 11 | 1)2)        | 保健関連領域の職種を知る 保健師                       | 講義・演習      | 外部講師  |
| 12 | 1)2)        | 福祉関連領域の職種を知る(1)社会福祉士                   | 演 習        | 社福学部  |
| 13 | 1)2)        | 介護・福祉関連領域の職種と言語聴覚士                     | 講義・演習      | 原     |
| 14 | 4)          | 社会人として必要な資質を知る 職場体験(1)                 | 演 習        | 原     |
| 15 | 4)          | 社会人として必要な資質を知る 職場体験(2)                 | 演 習        | 原     |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 特にありませんが、各講師より参考書等文献の指示があります。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 各講師の指示に従ってください。

|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|--------------------|---|----------------------------------|----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                | 学外評価臨床実習  |                                  |          | 授業コード  | 121476D201 | 単位数<br>(時間数) | 4<br>(180) |
| 配当学科(学年)           | 言語聴覚療法学科(3年)  |                                  |          | ナンバリング | 22C312P03  | AL科目         | ○          |
| 担当者                | 原 修一(保・言)・戸高 翼(保・言)・中村 真理子(保・言)・吉武 重徳(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・倉内 紀子(保・言)  | 開講学期                             | 2020年度後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習         |
| 授業の概要・一般目標(GIO)    | 本実習の目的は、高い臨床知識・技術を持つ言語聴覚士を目指す者が、利用者中心の言語聴覚療法を行うために必要な臨床能力を身につけるために実施されることにある。本実習では、障害児・者の評価を中心とした業務や、実習指導者とのやり取りを通じ、学生個人が言語聴覚士として必要なスキルや症例の持つ障害の特性に応じた評価の技術、訓練プログラム立案のための能力、討議する能力、分析する能力を身につける。また、病院等の施設において勤務することに必要な、積極性や協調性などの基本的態度や、地域に根差した支援の方法、生涯にわたる自己研鑽をするための姿勢を学ぶ(DP1-7)。   |                                  |          |        |            |              |            |
| 到達目標(SBOs)         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1)言語聴覚士としての基本的コミュニケーション態度・マナーを示すことができる。</li> <li>2)実習の計画立案と実習後の分析、報告書の作成ができる。</li> <li>3)症例に対して問診を実施し、問診の内容から必要なスクリーニング検査・鑑別検査を実施できる。</li> <li>4)症例の観察、問診・諸検査結果、逐次記録から、症例の問題点を抽出し、訓練プログラムの立案ができる。</li> <li>5)実習日誌、計画書・報告書等、実習に必要な書類・レポートを、提出期限までに作成・提出ができる。</li> <li>6)症例の障害や原因疾患等に関する文献を探索し、引用ができる。</li> <li>7)症例の評価に関するプレゼンテーションと討議ができる。</li> <li>8)施設や所属する症例の特性を考慮しつつ、実習指導者や施設スタッフの指導の下、言語聴覚士としての評価・記録・報告ができる。</li> </ol> |                                  |          |        |            |              |            |
| 実務経験のある教員による教育     | 本実習は、臨床経験5年以上の言語聴覚士による実習指導と、同経験年数をもつ言語聴覚士教員による事前・事後学修において、実務的な指導を受け、言語聴覚士としての態度・知識・技能を修得する。   |                                  |          |        |            |              |            |
| 評価方法               | 学内臨床実習30%、学外臨床実習50%、学外臨床実習後課題10%、単位認定試験10%  |                                  |          |        |            |              |            |
| 準備学習・履修上の注意等       | 実習は全出席が基本である。欠席の場合は書類を提出する必要がある。  |                                  |          |        |            |              |            |
| オフィスアワー            | なし  |                                  |          |        |            |              |            |
| 授業計画               |   |                                  |          |        |            |              |            |
| 回数                 | SBOs No.  | 授業内容                             |          |        |            | 授業方法         | 担当         |
| 1                  | 1)~8)   | 学外評価臨床実習                         |          |        |            | 実習           | 全担当者       |
|                    |   | 上記内容で160時間の学外実習と20時間の事前事後学修を実施する |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
|                    |   |                                  |          |        |            |              |            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 今までに受けた講義/演習/実習で用いた教科書を適宜使用してください。  |                                  |          |        |            |              |            |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 言語聴覚士リスク管理ハンドブック(山本 徹他編)ヒューマン・プレス【978-4908933080】<br>高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版(原 寛美監修)医歯薬出版【978-4263214985】<br>嚥下障害ポケットマニュアル第3版(聖隷嚥下チーム 著)医歯薬出版【978-4263213827】<br>その他、今までに受けた講義/演習/実習で用いた教科書・参考書を適宜使用・引用してください。   |                                  |          |        |            |              |            |

|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|---------------------|--|-----------------------------------|----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 学外総合臨床実習   |                                   |          | 授業コード  | 121477H201 | 単位数<br>(時間数) | 8<br>(360) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                                   |          | ナンバリング | 22C411P02  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)・戸高 翼(保・言)・中村 真理子(保・言)・吉武重徳(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・倉内 紀子(保・言)  | 開講学期                              | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習         |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本実習の目的は、高い臨床知識・技術を持つ言語聴覚士を目指す者が、利用者中心の言語聴覚療法を行うために必要な臨床能力を身につけるために実施されることにある。本実習では、障害児・者の評価を中心とした業務や、実習指導者とのやり取りを通じ、学生個人が言語聴覚士として必要なスキルや症例の持つ障害の特性に応じた評価の技術、訓練プログラム立案と実施のための能力、討議する能力、分析する能力を身につける。また、病院等の施設において勤務することに必要な、積極性や協調性などの基本的態度や、地域に根差した支援の方法、生涯にわたる自己研鑽をするための姿勢を学ぶ(DP1-7)。   |                                   |          |        |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言語聴覚士としての基本的コミュニケーション態度・マナーを示すことができる。</li> <li>2) 実習の計画立案と実習後の分析、報告書の作成ができる。</li> <li>3) 症例に対して問診を実施し、問診の内容から必要なスクリーニング検査・鑑別検査を実施できる。</li> <li>4) 症例の観察、問診・諸検査結果、逐次記録から、症例の問題点を抽出し、訓練プログラムの立案ができる。</li> <li>5) 立案された訓練プログラムを、症例の状態に応じて修正しながら実施ができる。</li> <li>6) 再評価により、症例の機能の変化を捉え、考察することができる。</li> <li>7) 実習日誌、計画書・報告書等、実習に必要な書類・レポートを、提出期限までに作成・提出ができる。</li> <li>8) 症例の障害や原因疾患等に関する文献を探索し、引用ができる。</li> <li>9) 症例の評価と訓練経過、再評価に関するプレゼンテーションと討議ができる。</li> <li>8) 施設や所属する症例の特性を考慮しつつ、実習指導者や施設スタッフの指導の下、言語聴覚士としての評価・記録・報告ができる。</li> </ol> |                                   |          |        |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本実習は、臨床経験5年以上の言語聴覚士による実習指導と、同経験年数をもつ言語聴覚士教員による事前・事後学修において、実務的な指導を受け、言語聴覚士としての態度・知識・技能を修得する。  |                                   |          |        |            |              |            |
| 評価方法                | 学内臨床実習 30%、学外臨床実習 50%、学外臨床実習後課題 10%、単位認定試験 10%   |                                   |          |        |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 実習は全出席が基本である。欠席の場合は書類を提出する必要がある。   |                                   |          |        |            |              |            |
| オフィスアワー             | なし   |                                   |          |        |            |              |            |
| 授業計画                |  |                                   |          |        |            |              |            |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                              |          |        |            | 授業方法         | 担当         |
| 1                   | 1)~8)  | 学外臨床実習                            |          |        |            | 実習           | 全担当者       |
|                     |  | 上記内容で320時間の学外実習と、40時間の事前事後学修を実施する |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
|                     |  |                                   |          |        |            |              |            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 今までに受けた講義/演習/実習で用いた教科書を適宜使用してください。   |                                   |          |        |            |              |            |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 言語聴覚士リスク管理ハンドブック(山本 徹他編)ヒューマン・プレス【978-4908933080】<br>高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版(原 寛美監修)医歯薬出版【978-4263214985】<br>嚥下障害ポケットマニュアル第3版(聖隷嚥下チーム 著)医歯薬出版【978-4263213827】<br>その他、今までに受けた講義/演習/実習で用いた教科書・参考書を適宜使用・引用してください。  |                                   |          |        |            |              |            |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害基礎ゼミⅢ  |  |          | 授業コード  | 121179A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |  |          | ナンバリング | 22C211P12  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)、太田 栄次<br>(保・言)、内藤 健一(保・言)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 患者さんや家族、他職種の状況を把握、考慮したコミュニケーションができ、適切な人間関係を築き、言語聴覚障害にかかわる知識・技能を用い、評価に必要なプロセスが遂行できる言語聴覚士になるために、自立的な学習能力の基礎となるリテラシー能力の獲得とコミュニケーション能力の向上を図る。  |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 話す際の態度を身につける。<br>2) レジューメ、OHC、Power Point を用いて分かりやすく話すことができる。<br>3) 文章の構成パターンに沿って書くことができる。<br>4) 事実と意見を分けて書くことができる。<br>5) 専門書から得た情報を、レジューメの形で書くことができる。<br>6) 症例報告の形式に沿って、評価結果と考察に分けて書くことができる。<br>7) 言語聴覚障害に関する教科書や、専門書を読むことができる。<br>8) 相手の話を聴く際の態度を身につける。<br>9) 専門用語の表す意味を教科書や専門書を用いて調べることができる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |  |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 40%、期末試験 60%の点数で総合的に評価する。  |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各活動が臨床や研究とどう結びつか、自らで考えていってほしい。提出物の期日を必ず守ってほしい。次のように、1回授業につき 120 分を目安に予習、復習を行うこと。授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。  |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 3)4)   | 【自らの文章能力を把握する】<br>これまで養ってきた文章能力を活かし、文章問題を解くことができる。       |          |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 2                   | 4)   | 【意見と事実について学ぶ①】<br>意見と事実の違いについて説明できる。                     |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 3                   | 4)   | 【意見と事実について学ぶ②】<br>意見と事実の違いについて説明できる。                     |          |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 4                   | 3)4)   | 【意見と事実について学ぶ③】<br>意見と事実を区別しながら、文章を書くことができる。              |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 5                   | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ①】<br>ケースカンファレンス資料の重要な用語を抽出できる。         |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 6                   | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ②】<br>抽出された重要な用語と関連概念が考えることができる。        |          |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 7                   | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ③】<br>用語や概念について、適切な資料を使って調べることができる。     |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 8                   | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ④】<br>調べた事柄について、新たな課題を考えることができる。        |          |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 9                   | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ⑤】<br>調べた事柄と新たな課題について、レジューメにまとめることができる。 |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 10                  | 1)2)5)<br>7)9)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ⑥】<br>調べた事柄と新たな課題について、OHC にまとめることができる。  |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 11                  | 1)2)5)<br>7)8)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ⑦】<br>調べた事柄と新たな課題について、プレゼンテーションの準備ができる。 |          |        |            | 講義           | 松山・内藤・太田  |
| 12                  | 1)2)5)<br>7)8)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ⑧】<br>調べた事柄と新たな課題について、プレゼンテーションできる。発表会① |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 13                  | 1)2)5)<br>7)8)   | 【専門用語を調べ方、まとめ方を学ぶ⑨】<br>調べた事柄と新たな課題について、プレゼンテーションできる。発表会② |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 14                  | 4)6)7)   | 【症例報告の書き方を学ぶ①】<br>症例報告の構成と小児領域の主な項目について列挙できる。            |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 15                  | 4)6)7)   | 【症例報告の書き方を学ぶ②】<br>小児領域の実際の症例報告から、各項目が抽出できる。              |          |        |            | 演習           | 松山・内藤・太田  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |          |        |            |              |           |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害基礎ゼミⅣ  |   |          | 授業コード  | 121180A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |   |          | ナンバリング | 22C212P17  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)、松山 光生<br>(保・言)、中村 真理子(保・言)  | 開講学期  | 2020年度後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる言語聴覚士となるために(DP6)、研究とは何か、どのような種類の研究があるのか、その中でも調査と実験はどのような特徴を持つのかななどを修得する(CP1(4))。なお、本科目は、3年次、4年次の「言語聴覚障害専門ゼミⅠ」「言語聴覚障害専門ゼミⅡ」「言語聴覚障害専門ゼミⅢ」を進めていく上でも、重要である。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究の定義、意義、必要性が説明できる。<br>2) 研究の進め方にかかわる諸事項を説明できる。<br>3) 研究の種類とその内容を説明できる。<br>4) CiNii、メディカル・オンライン、医学中央雑誌を用いて、必要な文献を検索できる。<br>5) 調査法の特徴などを説明できる。<br>6) 実験法の特徴などを説明できる。                               |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 単位認定試験 100%。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり4時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(その日の内容を復習すること)をおこなうこと。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 各担当者の研究室の前の掲示を参照。  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 研究とは何か  |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 2                   | 2)   | 研究の進め方  |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 3                   | 2)   | 研究の進め方  |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 4                   | 3)   | 研究の種類   |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 5                   | 3)4)   | 研究の種類, CiNii, メディカル・オンライン、医学中央雑誌を用いた文献検索                |          |        |            | 講義、演習        | 中村        |
| 6                   | 5)   | 調査法とその実際  |          |        |            | 講義           | 松山        |
| 7                   | 5)   | 調査法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 松山        |
| 8                   | 5)   | 調査法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 松山        |
| 9                   | 5)   | 調査法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 松山        |
| 10                  | 5)   | 調査法とその実際  |          |        |            | 講義           | 松山        |
| 11                  | 6)   | 実験法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 内藤        |
| 12                  | 6)   | 実験法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 内藤        |
| 13                  | 6)   | 実験法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 内藤        |
| 14                  | 6)   | 実験法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 内藤        |
| 15                  | 6)   | 実験法とその実際  |          |        |            | 講義、SGD       | 内藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 言語障害の研究入門～はじめての研究そして発表まで(伊藤 元信) 協同医書出版社【978-4763930446】 |          |        |            |              |           |

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I  |   |          | 授業コード  | 121184A205 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じてもつことができる言語聴覚士になるために、各自で、卒業研究に関連する資料・文献を収集し、熟読する。その上で、問題を解決するための視点を、卒業研究の研究計画を通じて学ぶ。                                     |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 今後の活動を見越して計画的に準備ができる。<br>2) 文献から得た情報を体系的に整理できる。<br>3) 情報を基づいて自分の考えを表現できる。<br>4) 相手の立場に立ち発言ができる。<br>5) ゼミ運営において自主的な行動ができる。                            |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点70%、提出物30%で総合的に評価する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 今後をしっかりと見据えて、真摯に取り組んでほしい。また、ゼミ運営にも積極的に参加してほしい。<br>次のように、1回授業につき120分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。 |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~5)   | ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。                                |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 2                   | 1)~5)   | 【ゼミのあり方について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。             |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 3                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 4                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ②】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 5                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ③】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 6                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ④】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 7                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ⑤】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 8                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 9                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 10                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 11                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 12                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 13                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 14                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 15                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特に指定しない。  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜紹介する。   |          |        |            |              |           |

|                     |  |                         |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|-------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I   |                         |          | 授業コード  | 121184A206 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                         |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 太田 栄次(保・言)   | 開講学期                    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる(DP6)ためには、また、常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点をもつ(DP7, CP1(6))ことが求められる。</p> <p>本講義では、自分の興味にしたがって関連する論文を収集し、事前に読み込んだ上で、問題意識を持って調べ、発表する。教員は論文についてコメントするが、主に学生が主体となって議論する能力を育成する。このような活動を通じて、自ら問題を発見し、それについて情報を収集し、自ら考え、行動する能力を育成する。</p> |                         |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1) 調べる</p> <p>①関連する論文を検索することができる。</p> <p>②正確に理解するために不明な用語や知識について調べることができる。</p> <p>2) 伝える</p> <p>①発表内容を明瞭かつ簡潔に記したレジュメを作成することができる。</p> <p>②論文から得られた知見は何か、疑問点や批判すべき点は何かについて明確に伝えることができる。</p> <p>3) 考える</p> <p>①論文を正確に読むための専門的基礎知識を身につける。</p> <p>②問題について多角的に考えることができる。</p>    |                         |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |                         |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%、提出物 30%  |                         |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自主的、意欲的に取り組む姿勢が必要不可欠   |                         |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 10:00~17:00  |                         |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                         |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                    |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)   | 講義の進め方の説明               |          |        |            | 講義・演習        | 太田        |
| 2                   | 1)2)   | 指定された論文を読み、まとめて発表する。    |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 3                   | 1)2)   | 指定された論文を読み、まとめて発表する。    |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 4                   | 1)2)3)   | 指定された論文を読み、まとめて発表する。    |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 5                   | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 6                   | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 7                   | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 8                   | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 9                   | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 10                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 11                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 12                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 13                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 14                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 15                  | 1)2)3)   | 各自で興味のある論文についてまとめ、発表する。 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |                         |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |                         |          |        |            |              |           |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅠ   |  |          | 授業コード  | 121184A210 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |  |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる自律性を養うため(DP7)本講義では、言語聴覚療法または各学生本人が興味のある医学的領域に関わる雑誌論文の文献抄読を中心に行い、研究手法や研究に必要な要素、プレゼンテーションの方法、質疑応答を通じた討議能力を養う。学外臨床実習に臨むための準備段階として、本講義を通じ、実習対象施設の特性に準じた障害領域の知識を深め、かつ、将来の臨床場面における知識・研究手法考案のための基礎的方法を習得する(CP7)。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)必要な雑誌論文を図書館等より収集できる。<br>2)文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋し、レジュメを作成することができる。<br>3)レジュメ等の資料を基に、教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>4)教員や他学生の質問に対し、答えるなどの討議ができる。<br>5)自己の興味のある、または学外臨床実習に向けた障害領域の知識を深めることができる。   |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は理化学研究所客員研究員として5年以上の実務経験に基づき確かな研究方法について教授する。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席、プレゼンテーションのレジュメ、プレゼンテーション・質疑応答の内容により、総括的に評価する。  |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 医学領域に関する文献を十分に読み込むこと。レジュメ等の準備も含め、プレゼンテーションには1時間以上の準備をかけること。質疑応答の内容を省みて、必要な知識を増やすこと。他学生が提供した情報・知識についても十分に復習すること。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 12時30分～13時(月曜、火曜、水曜)  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)～5)   | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                       |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 2                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 3                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 4                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 5                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 6                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 7                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 8                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 9                   | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 10                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 11                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 12                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 13                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 14                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                                 |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 15                  | 1)～5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・まとめ                             |          |        |            | 講義、SGD       | 中村        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 雑誌論文を中心に、適宜指示します。                                  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | なぜあなたの研究は進まないのか(佐藤雅昭)メディカルレビュー社【978-4-7792-1725-8】 |          |        |            |              |           |



|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅠ   |   |          | 授業コード  | 121184A204 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義では、言語聴覚療法または各学生本人が興味のある医学的・心理学的領域に関わる雑誌論文の文献抄読を中心に行い、言語聴覚士として必要になる研究手法や研究に必要な要素、プレゼンテーションの方法、質疑応答を通じた討議能力を養う(DP2-7)。また、学外臨床実習に臨むための準備段階として、本講義を通じ、実習対象施設の特性に準じた障害領域の知識を深め、かつ、将来の言語聴覚士としての臨床場面における倫理観、知識・研究手法考案のための基礎的方法を習得する(DP1-7)。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)必要な雑誌論文を図書館等より収集できる。<br>2)文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋し、レジュメを作成することができる。<br>3)レジュメ等の資料を基に、教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>4)教員や他学生の質問に対し、答えるなどの討議ができる。<br>5)自己の興味のある、または学外臨床実習に向けた障害領域の知識を深めることができる。   |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や福祉施設においても論文作成やプレゼンテーションは必須の業務である。言語聴覚士かつ大学教員として実務経験豊富な担当教員(原)が研究の実際について教育する。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席、プレゼンテーションのレジュメ、プレゼンテーション・質疑応答の内容により、総括的に評価する。  |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 障害領域に関する文献を十分に読み込むこと。レジュメ等の準備も含め、プレゼンテーションには1時間以上の準備をかけること。質疑応答の内容を省みて、必要な知識を増やすこと。他学生が提供した情報・知識についても十分に復習すること。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火・水・木曜日 12:30~13:10   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~5)   | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                |          |        |            | 講義           | 原         |
| 2                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 3                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 4                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 5                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 6                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 7                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 8                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 9                   | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 10                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 11                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 12                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 13                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 14                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                          |          |        |            | 講義           | 原         |
| 15                  | 1)~5)   | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・まとめ                      |          |        |            | 講義           | 原         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 雑誌論文を中心に、適宜指示します。                           |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 言語障害の研究入門(伊藤 元信) 協同医書出版社【978-4-7639-3044-6】 |          |        |            |              |           |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I   |   |          | 授業コード  | 121184A207 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生涯自律性と問題発見・解決力を身につけた言語聴覚士となるために(DP6, 7)、論文の集め方、読み方、まとめ方、発表の仕方の基礎を修得する(CP1(6))。                                     |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)論文の集め方を説明できる。<br>2)論文の読み方とまとめ方を説明できる。<br>3)先行研究で明らかになっていること、まだ明らかになっていないこと、研究の意義を説明できる。<br>4)卒業研究のテーマを具体的に説明できる。 |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%と提出物 30%。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり1時間を目安に予習(次に発表する論文を検索し読むこと)・復習(発表の際に説明できなかった点などを調べること)をおこなうこと。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 研究をおこなう上での基礎事項の確認(1):論文の集め方                 |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 2                   | 2)   | 研究をおこなう上での基礎事項の確認(2):論文の読み方とまとめ方            |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 3                   | 3)   | 課題論文発表:指定された論文を読み、まとめ、発表し、議論する。             |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 4                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 5                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 6                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 7                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 8                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 9                   | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 10                  | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 11                  | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 12                  | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 13                  | 3)   | 論文発表:各自の関心のあるテーマに関する論文を集めて、読み、まとめ、発表し、議論する。 |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 14                  | 4)   | 卒業研究のテーマについて:各自の卒業研究のテーマについて発表し、議論する。       |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 15                  | 4)   | 卒業研究のテーマについて:各自の卒業研究のテーマについて発表し、議論する。       |          |        |            | S G D        | 内藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。適宜、資料を配布する。                           |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 適宜、紹介する。                                    |          |        |            |              |           |

|                     |  |                                       |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I   |                                       |          | 授業コード  | 121184A203 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                                       |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 吉武 重徳(保・言)   | 開講学期                                  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | S G D     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚士にとって必要な臨床研究的視点を身につけるために、興味のある言語聴覚療法または医学的・心理学的領域に関する雑誌論文の文献抄読を行い、研究手法や研究に必要な要素の基礎、またプレゼンテーションの方法、質疑応答を通じた討議能力を修得する(DP7、CP1(6))。   |                                       |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 必要な雑誌論文を図書館等より収集できる。<br>2) 文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋し、レジュメを作成することができる。<br>3) レジュメ等の資料を基に、教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>4) 教員や他学生の質問に対し、適切な説明ができるなどの討議ができる。<br>5) 自己の興味のある、または学外臨床実習に向けた障害領域の知識を深めることができる。 |                                       |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |                                       |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(授業態度、課題発表、討論等)の評価70%、提出物30%で評価する。   |                                       |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 言語聴覚障害領域に関する文献を十分に読み込むこと。レジュメ等の準備も含め、プレゼンテーションには1時間以上の準備をかけること。質疑応答の内容を省みて、必要な知識を増やすこと。他学生が提供した情報・知識についても十分に復習すること。  |                                       |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 10:45~1300<br>金曜日 10:45~1200   |                                       |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                                       |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~5)  | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献検索の方法、読み方、まとめ方 |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 2                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 3                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 4                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 5                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 6                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 7                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 8                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 9                   | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 10                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 11                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 12                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 13                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 14                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議                    |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 15                  | 1)~5)  | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・まとめ                |          |        |            | S G D        | 吉 武       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 雑誌論文を中心に、適宜指示します。  |                                       |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | ありません。   |                                       |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I  |      |          | 授業コード  | 121184A209 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |      |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | S G D     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 将来、専門職として臨床活動を行っていく時には、EBM(根拠に基づく医療)を提供していくことが求められる。<br>つまり、臨床研究的視点を持ち、根拠に基づく言語聴覚療法を提供できる言語聴覚士になるために(DP6, 7)、論文検索、抄読およびディスカッションを通して、研究の方法論の基礎を修得する(CP1(6))。                                     |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究をおこなう上で必要な基本事項を説明することができる。<br>2) プレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。<br>3) 論文を読み、不明や用語や知識について調べ、発表することができる。<br>4) 論文を読み、内容を簡潔にまとめ、知見等について発表することができる。<br>5) 発表会、もしくはディスカッションに参加し、質問や意見を述べるすることができる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士としての臨床・研究経験を活かした講義を行う。   |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(授業への参加態度、発表態度など)の評価を70%、レポート等の提出物を30%として、総合的に評価する。評価の基準は、授業開始日に説明する。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 準備学習: 毎授業時に課題発表を行ってもらうため、1コマあたり1時間を目安に予習を行うこと。<br>履修上の注意: 授業中には、積極的に討論に参加すること。  |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室   |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容                                 | 授業<br>方法 | 担当 |  |  |
|--------------------|-------------|--------------------------------------|----------|----|--|--|
| 1                  | 1)          | 研究をおこなう上での基本的事項の確認①(情報の集め方・整理の仕方)    | S G D    | 戸高 |  |  |
| 2                  | 1)          | 研究をおこなう上での基本的事項の確認②(論文の読み方)          | S G D    | 戸高 |  |  |
| 3                  | 5)          | 研究をおこなう上での基本的事項の確認③(論文のまとめ方)         | S G D    | 戸高 |  |  |
| 4                  | 2)          | 課題発表: 指定された論文を読み、まとめて発表する            | S G D    | 戸高 |  |  |
| 5                  | 3)~5)       | 4年生の卒業論文の中間発表会(1)に参加する               | S G D    | 戸高 |  |  |
| 6                  | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する①        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 7                  | 5)          | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する②        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 8                  | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する③        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 9                  | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する④        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 10                 | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する⑤        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 11                 | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する⑥        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 12                 | 3)~5)       | 自由発表: 各自で興味がある論文を読み、まとめて発表する⑦        | S G D    | 戸高 |  |  |
| 13                 | 3)~5)       | 発表のまとめ: 各自の関心のあるテーマについて、先行研究をまとめ発表する | S G D    | 戸高 |  |  |
| 14                 | 3)~5)       | 卒業論文の研究計画を発表する                       | S G D    | 戸高 |  |  |
| 15                 | 3)~5)       | 4年生の卒業論文発表会に参加する                     | S G D    | 戸高 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。                               |          |    |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。                               |          |    |  |  |

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミ I  |   |          | 授業コード  | 121184A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 22C311P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)  | 開講学期                                    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | S G D     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 言語聴覚士にとって臨床研究的視点が重要であることを認識し(DP6、7)、小児および成人の聴覚障害に関連した研究論文の購読およびディスカッションを通して、臨床研究の方法論の基礎を修得する(CP6)。  |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文献検索を行い、必要な論文を入手することができる。</li> <li>2) 原著論文の構成を理解し、目的、方法の概要を説明できる。</li> <li>3) 図表を読み取り、結果と考察のポイントを説明できる。</li> <li>4) ディスカッションに参加し、質問や意見を述べることができる。</li> <li>5) ディスカッションに参加し、質問に対して適切に対応することができる。</li> <li>6) プレゼンテーション資料を作成し発表することができる。</li> </ol> |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は、言語聴覚士としての豊富な実務経験を活かして、臨床研究の視点から授業を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%、提出物 30%   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ゼミ活動を通して、自己主導型学習の習慣を身につけてほしい。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月曜～水曜日 12:30～13:00  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容                                 |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 文献検索の方法(1) 小児聴覚障害の研究論文を入手する             |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 2                   | 1)  | 文献検索の方法(2) 成人聴覚障害の研究論文を入手する             |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 3                   | 1)2)  | 論文購読(1) 目的、方法について発表する                   |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 4                   | 1)2)3)  | 論文購読(2) 図表を読み取り結果について発表する               |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 5                   | 1)2)3)  | 論文購読(3) 考察のポイントを発表する                    |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 6                   | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(1) 小児聴覚障害の研究テーマについて 検査・評価 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 7                   | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(2) 小児聴覚障害の研究テーマについて 指導・訓練 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 8                   | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(3) 小児聴覚障害の研究テーマについて その他   |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 9                   | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(4) 成人聴覚障害の研究テーマについて 検査・評価 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 10                  | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(5) 成人聴覚障害の研究テーマについて 指導・訓練 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 11                  | 1)～5)   | 論文購読とディスカッション(6) 成人聴覚障害の研究テーマについて その他   |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 12                  | 4)5)  | 総合ディスカッション(1) 小児聴覚障害領域のトピックのまとめ         |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 13                  | 4)5)  | 総合ディスカッション(2) 成人聴覚障害領域のトピックのまとめ         |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 14                  | 1)～6)   | プレゼンテーション資料を用いて発表を行う(1)                 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 15                  | 1)～6)   | プレゼンテーション資料を用いて発表を行う(2)                 |          |        |            | S G D        | 倉 内       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                                   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                                   |          |        |            |              |           |

|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ   |   |           | 授業コード  | 121185A205 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |   |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)  | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じてもつことができる言語聴覚士になるために、各自で、卒業研究に関連する資料・文献を収集し、熟読する。その上で、問題を解決するための視点を、卒業研究の研究計画を通じて学ぶ。                                     |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 今後の活動を見越して計画的に準備ができる。<br>2) 文献から得た情報を体系的に整理できる。<br>3) 情報を基づいて自分の考えを表現できる。<br>4) 相手の立場に立ち発言ができる。<br>5) ゼミ運営において自主的な行動ができる。                            |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。  |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点70%、提出物30%で総合的に評価する。   |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 今後をしっかりと見据えて、真摯に取り組んでほしい。また、ゼミ運営にも積極的に参加してほしい。<br>次のように、1回授業につき120分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。 |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15   |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~5)   | ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。                                |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 2                   | 1)~5)   | 【ゼミのあり方について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。             |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 3                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 4                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ②】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 5                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ③】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 6                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ④】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 7                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ⑤】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 8                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 9                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 10                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 11                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 12                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 13                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 14                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 15                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |           |        |            | SGD          | 松山        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特に指定しない。  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜紹介する。   |           |        |            |              |           |

|                     |  |                              |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ  |                              |           | 授業コード  | 121185A206 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                              |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 太田 栄次(保・言)   | 開講学期                         | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる(DP6)ためには、また、常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点をもつ(DP7, CP1(6))ことが求められる。</p> <p>本ゼミでは、以上の力を養成することを目的に、学外臨床実習で経験し、かつ各学生が興味を持つ言語聴覚療法的知見について、雑誌論文の抄読や教員との討議を実施する。その過程を通じて、文献の読み方やまとめ方の習得や、プレゼンテーション能力、質疑応答を通じた討議能力を養う。また本ゼミは、4年次における卒業研究の準備としての位置づけをもつ。</p>   |                              |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 必要な雑誌論文を図書館等より収集することができる。</li> <li>2) 文献より、発表に必要な要素を抜粋することができる。</li> <li>3) 資料を基に、発表のためのレジュメを作成することができる。</li> <li>4) 教員に相談して得た知見や他学生の意見を、レジュメと発表内容に反映することができる。</li> <li>5) 教員と他学生の前で、レジュメに沿ったプレゼンテーションができる。</li> <li>6) 教員や学生の質問内容に対し、十分な回答や説明をすることができる。</li> <li>7) 自己の発表を振り返り、4年次における卒業研究の計画を立てることができる。</li> </ol> |                              |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |  |                              |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%、提出物 30%  |                              |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | レジュメの内容に関する文献をできるだけ多く収集し、十分に読み込むこと。レジュメ作成においては、教員との打ち合わせに時間をかけること。発表原稿を作成し、発表の練習を十分に行うこと。予測できる質疑応答と回答の内容を十分に考えること。他学生の作成したレジュメや内容、自己の質疑応答の内容を振り返り、4年次の卒業研究に関して必要な知識を増やすこと。   |                              |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 12:30～13:10  |                              |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                              |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                      |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)   | 発表に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(1)    |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 2                   | 1)2)   | 発表に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(2)    |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 3                   | 1)2)   | 発表に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(3)    |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 4                   | 1)～4)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(1)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 5                   | 1)～4)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(2)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 6                   | 1)～4)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(3)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 7                   | 1)～4)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(4)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 8                   | 1)～4)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(5)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 9                   | 4)～6)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(6)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 10                  | 4)～6)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(7)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 11                  | 4)～6)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(8)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 12                  | 4)～6)  | レジュメの作成、教員・他学生との討議(9)        |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 13                  | 7)   | 自己の発表の振り返りと4年次における研究計画の立案(1) |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 14                  | 7)   | 自己の発表の振り返りと4年次における研究計画の立案(2) |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 15                  | 7)   | 自己の発表の振り返りと4年次における研究計画の立案(3) |           |        |            | S G D        | 太田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 雑誌論文を中心に、適宜指示します。  |                              |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 言語障害の研究入門 (伊藤 元信) 協同医書出版社 【978-4-7639-3044-6】  |                              |           |        |            |              |           |

|                     |   |      |           |            |              |           |    |
|---------------------|---|------|-----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ   |      | 授業コード     | 121185A210 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |      | ナンバリング    | 22C312P04  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 常に問題意識を持ち、問題を解決するための視点を研究を通じて養うため(DP7)本ゼミでは、学外臨床実習で経験し、かつ各学生が興味を持つ言語聴覚療法的知見について、雑誌論文の抄読を行う。その過程を通じて、文献の読み方やまとめ方の習得、ポスタープレゼンテーション能力、質疑応答を通じた討議能力を養う(CP1-6)。また本ゼミは、4年次における卒業研究の準備としての位置づけをもつ。 |      |           |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)必要な雑誌論文をインターネット、図書館等より収集することができる。<br>2)文献より、論文作成に必要な要素を抜粋することができる。<br>3)教員や学生の質問内容に対し、十分な回答や説明をすることができる。<br>4)自己のプレゼンテーションを振り返り、4年次における卒業研究の計画を立てることができる。                                 |      |           |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は理化学研究所客員研究員として5年以上の実務経験に基づき確かな研究方法について教授する。   |      |           |            |              |           |    |
| 評価方法                | 出席、教員とのやり取りにおけるポスターの改善の様子、ポスターとプレゼンテーション用抄録の内容、プレゼンテーションと質疑応答の内容により、総括的に評価する。   |      |           |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 文献をできるだけ多く収集し、十分に読み込むこと。抄読会では他学生からの質疑応答の内容を振り返り、4年次の卒業研究に関して必要な知識を増やすこと。  |      |           |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 火、水、木 12:30～13:00   |      |           |            |              |           |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                                | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|-------------------------------------|----------|----|
| 1  | 1)2)        | 研究に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(1)           | S G D    | 中村 |
| 2  | 1)2)        | 研究に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(2)           | S G D    | 中村 |
| 3  | 1)2)        | 研究に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(3)           | S G D    | 中村 |
| 4  | 1)～4)       | 研究計画の立案、教員・他学生との討議(1)               | S G D    | 中村 |
| 5  | 1)～4)       | 研究計画の立案、教員・他学生との討議(2)               | S G D    | 中村 |
| 6  | 1)～4)       | 研究計画の立案、教員・他学生との討議(3)               | S G D    | 中村 |
| 7  | 1)～4)       | 研究計画の立案、教員・他学生との討議(4)               | S G D    | 中村 |
| 8  | 1)～4)       | 研究計画の立案、教員・他学生との討議(5)               | S G D    | 中村 |
| 9  | 4)～6)       | 調査・研究の実施(1)                         | S G D    | 中村 |
| 10 | 4)～6)       | 調査・研究の実施(2)                         | S G D    | 中村 |
| 11 | 4)～6)       | 調査・研究の実施(3)                         | S G D    | 中村 |
| 12 | 5)6)        | ポスター発表会                             | S G D    | 中村 |
| 13 | 7)          | 自己のプレゼンテーションの振り返りと4年次における研究計画の立案(1) | S G D    | 中村 |
| 14 | 7)          | 自己のプレゼンテーションの振り返りと4年次における研究計画の立案(2) | S G D    | 中村 |
| 15 | 7)          | 自己のプレゼンテーションの振り返りと4年次における研究計画の立案(3) | S G D    | 中村 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】

雑誌論文を中心に、適宜指示します。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

なぜあなたの研究は進まないのか(佐藤雅昭) メディカルレビュー社 【978-4-7792-1724-1】



|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ  |      |           | 授業コード  | 121185A204 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 原 修一(保・言)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本ゼミでは、学外臨床実習で経験し、かつ各学生が興味を持つ言語聴覚療法的知見について、雑誌論文の抄読や教員との討議を通じて、ポスターを作成し、発表する。その過程を通じて、文献の読み方やまとめ方の習得や、ポスタープレゼンテーション能力、質疑応答を通じた討議能力を養う。また本ゼミは、4年次における卒業研究の準備や、言語聴覚士としての高い臨床能力やプレゼンテーション能力を持つための基礎的側面としての位置づけをもつ(DP1-4&7)。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 必要な雑誌論文を図書館等より収集することができる。<br>2) 文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋することができる。<br>3) 資料を基に、発表のためのポスターを作成することができる。<br>4) 教員に相談して得た知見や他学生の意見を、ポスターと発表内容に反映することができる。<br>5) 教員と他学生の前で、ポスターに関するプレゼンテーションができる。<br>6) 教員や学生の質問内容に対し、十分な回答や説明をすることができる。<br>7) 自己のプレゼンテーションを振り返り、4年次における卒業研究の計画を立てることができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 病院や福祉施設においても論文作成やプレゼンテーションは必須の業務である。言語聴覚士かつ大学教員として実務経験豊富な担当教員(原)が研究の実際について教育する。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席、教員とのやり取りにおけるポスターの改善の様子、ポスターとプレゼンテーション用抄録の内容、プレゼンテーションと質疑応答の内容により、総括的に評価する。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ポスターの内容に関する文献をできるだけ多く収集し、十分に読み込むこと。ポスター作成においては、教員との打ち合わせに時間をかけること。発表原稿を作成し、プレゼンテーションの練習を十分に行うこと。予測できる質疑応答と回答の内容を十分に考えること。他学生の作成したポスターデザインや内容、自己の質疑応答の内容を振り返り、4年次の卒業研究に関して必要な知識を増やすこと。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 12:30~13:10  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                       | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|-------------------------------|------------|-----|
| 1  | 1)2)        | 卒業研究に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(1)   | S G D      | 原   |
| 2  | 1)2)        | 卒業研究に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(2)   | S G D      | 原   |
| 3  | 1)2)        | ポスター作成に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(3) | S G D      | 原   |
| 4  | 1)~4)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(1)       | S G D      | 原   |
| 5  | 1)~4)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(2)       | S G D      | 原   |
| 6  | 1)~4)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(3)       | S G D      | 原   |
| 7  | 1)~4)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(4)       | S G D      | 原   |
| 8  | 1)~4)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(5)       | S G D      | 原   |
| 9  | 4)~6)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(6)       | S G D      | 原   |
| 10 | 4)~6)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(7)       | S G D      | 原   |
| 11 | 4)~6)       | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(8)       | S G D      | 原   |
| 12 | 5)6)        | 卒業研究の経過報告、教員・他学生との討議(9)       | S G D      | 原   |
| 13 | 7)          | データ・文献収集(1)                   | S G D      | 原   |
| 14 | 7)          | データ・文献収集(2)                   | S G D      | 原   |
| 15 | 7)          | データ・文献収集(3)                   | S G D      | 原   |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 雑誌論文を中心に、適宜指示します。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 言語障害の研究入門 (伊藤 元信) 協同医書出版社 【978-4-7639-3044-6】

|                     |   |             |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ   |             |           | 授業コード  | 121185A207 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |             |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期        | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生涯自律性と問題発見・解決力を身につけた言語聴覚士となるために(DP6, 7)、研究計画の作成、及びデータ収集の方法の基礎を修得する(CP1(6))。 |             |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)卒業論文のテーマを決定できる。<br>2)研究計画を作成し、実施できる。                                      |             |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |             |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%と提出物 30%。  |             |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり1時間を目安に予習(テーマの選定ないしは研究計画の作成)・復習(テーマの練り直しは研究計画の修正)をおこなうこと。             |             |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |             |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |             |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容     |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 2                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 3                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 4                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 5                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 6                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 7                   | 1)  | 卒業論文のテーマの選定 |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 8                   | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 9                   | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 10                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 11                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 12                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 13                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 14                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 15                  | 2)  | 研究計画の作成     |           |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。適宜、資料を配布する。   |             |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 適宜、紹介する。  |             |           |        |            |              |           |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ  |      |           | 授業コード  | 121185A203 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 吉武 重徳(保・言)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | S G D     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床研究の方法論の基礎を身につけるために、興味を持った言語聴覚療法的知見について、雑誌論文の抄読や教員との討議を通じて、ポスターを作成し、発表する。その過程を通じて、文献の読み方やまとめ方の習得や、ポスタープレゼンテーション能力、質疑応答を通じた討議能力を修得する(DP7、CP1(6))。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)必要な雑誌論文を図書館等より収集することができる。<br>2)文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋することができる。<br>3)資料を基に、発表のためのポスターを作成することができる。<br>4)教員に相談して得た知見や他学生の意見を、ポスターと発表内容に反映することができる。<br>5)教員と他学生の前で、ポスターに関するプレゼンテーションができる。<br>6)教員や学生の質問内容に対し、十分な回答や説明をすることができる。<br>7)自己のプレゼンテーションを振り返り、4年次における研究計画を立てることができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 教員とのやり取りにおけるポスターの改善の様子、ポスターと抄録内容、プレゼンテーションと質疑応答の内容などを、総括的に評価する。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 関連文献をできるだけ多く収集し、十分に読み込むこと。ポスター作成においては、教員との打ち合わせに時間をかけること。発表原稿を作成し、プレゼンテーションの練習を十分に行うこと。予測できる質疑応答と回答の内容を十分に考えること。他学生の作成したポスターデザインや内容、自己の質疑応答の内容を振り返り、必要な知識を増やすこと。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 10:45～13:00<br>金曜日 10:45～12:00   |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                          | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|----------------------------------|------------|-----|
| 1  | 1)2)        | ポスター作成に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(1)    | S G D      | 吉 武 |
| 2  | 1)2)        | ポスター作成に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(2)    | S G D      | 吉 武 |
| 3  | 1)2)        | ポスター作成に必要な文献収集と抄読・ポイントのまとめ(3)    | S G D      | 吉 武 |
| 4  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(1)            | S G D      | 吉 武 |
| 5  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(2)            | S G D      | 吉 武 |
| 6  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(3)            | S G D      | 吉 武 |
| 7  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(4)            | S G D      | 吉 武 |
| 8  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(5)            | S G D      | 吉 武 |
| 9  | 1)～4)       | ポスターの作成、教員・他学生との討議(6)            | S G D      | 吉 武 |
| 10 | 4)～6)       | ポスターの完成とプレゼンテーション内容の検討(1)        | S G D      | 吉 武 |
| 11 | 4)～6)       | ポスターの完成とプレゼンテーション内容の検討(2)        | S G D      | 吉 武 |
| 12 | 4)～6)       | ポスターの完成とプレゼンテーション内容の検討(3)        | S G D      | 吉 武 |
| 13 | 4)～6)       | ポスターの完成とプレゼンテーション内容の検討(4)        | S G D      | 吉 武 |
| 14 | 5)6)        | ポスター発表会                          | S G D      | 吉 武 |
| 15 | 7)          | 自己のプレゼンテーションの振り返りと4年次における研究計画の立案 | S G D      | 吉 武 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 雑誌論文を中心に、適宜指示します。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 特にありませんが、必要に応じて適宜提示します。

|                     |  |                     |           |        |            |              |           |     |
|---------------------|--|---------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ  |                     |           | 授業コード  | 121185A209 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |                     |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |     |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)  | 開講学期                | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 将来、専門職として臨床活動を行っていく時には、EBM(根拠に基づく医療)を提供していくことが求められる。<br>つまり、臨床研究的視点を持ち、根拠に基づく言語聴覚療法を提供できる言語聴覚士になるために(DP6, 7)、興味のある研究テーマについて、テーマを絞り、研究計画を作成し、調査等を実践できる臨床研究の視点と方法論を修得する(CP1(6))。 |                     |           |        |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)卒業論文のテーマを設定することができる。<br>2)研究計画を作成することができる。<br>3)研究計画に沿って、調査等を実施することができる。   |                     |           |        |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士としての臨床・研究経験を活かした講義を行う。  |                     |           |        |            |              |           |     |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(授業への参加態度、発表態度など)の評価を70%、レポート等の提出物を30%として、総括的に評価する。評価の基準は、授業開始日に説明する。  |                     |           |        |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 準備学習:自発的に卒業論文の作成に必要な学習を1コマあたり1時間を目安に行うこと。<br>履修上の注意:卒業論文計画の作成においては、指示持ちではなく、自ら考え、検証や推敲の作業を繰り返し行ってください。   |                     |           |        |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 戸高:日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室   |                     |           |        |            |              |           |     |
| 授業計画                |  |                     |           |        |            |              |           |     |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                |           |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当  |
| 1                   | 1)   | 卒業論文のテーマの選定①        |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 2                   | 1)   | 卒業論文のテーマの選定②        |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 3                   | 1)   | 卒業論文のテーマの選定③        |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 4                   | 2)   | 卒業論文の計画書を作成する①      |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 5                   | 2)   | 卒業論文の計画書を作成する②      |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 6                   | 2)   | 卒業論文の計画書を作成する③      |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 7                   | 2)   | 卒業論文の計画書を作成する④      |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 8                   | 2)   | 卒業論文の計画書を作成する⑤      |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 9                   | 2)   | 卒業論文の計画書の発表         |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 10                  | 3)   | 研究計画書に沿って、データ収集を行う① |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 11                  | 3)   | 研究計画書に沿って、データ収集を行う② |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 12                  | 3)   | 研究計画書に沿って、データ収集を行う③ |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 13                  | 3)   | 研究計画書に沿って、データ収集を行う④ |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 14                  | 3)   | 研究計画書に沿って、データ収集を行う⑤ |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 15                  | 3)   | データの確認、整理を行う        |           |        |            |              | S G D     | 戸 高 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。              |           |        |            |              |           |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。              |           |        |            |              |           |     |

|                     |   |  |           |        |            |              |           |    |
|---------------------|---|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅡ   |  |           | 授業コード  | 121185A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)  |  |           | ナンバリング | 22C312P04  | AL科目         | ○         |    |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)  | 開講学期                                   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 仮説・検証のプロセスに基づく、科学的臨床および臨床研究の視点と方法論を修得するために(DP6、7)、小児および成人・高齢期の聴覚障害に関連した研究テーマを設定して、調査または文献研究を実施し卒業論文を作成する(CP6)。  |  |           |        |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究テーマを設定し、研究計画を作成することができる。<br>2) 先行研究論文を収集し、問題の所在と背景について発表することができる。<br>3) 研究計画に基づき本研究を実施し、結果を整理することができる。<br>4) 結果に考察を加えて、発表することができる。<br>5) プレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。 |  |           |        |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は、言語聴覚士としての豊富な実務経験を活かして、臨床研究の視点から授業を行う。   |  |           |        |            |              |           |    |
| 評価方法                | 平常点 70%、提出物 30%   |  |           |        |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ゼミ活動を通して、自己主導型学習の習慣を身につけてほしい。   |  |           |        |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 毎週月曜～水曜日 12:30～13:00  |  |           |        |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |  |           |        |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                   |           |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)2)  | 研究テーマの設定(1) 問題の所在と背景について整理する           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 2                   | 1)2)  | 研究テーマの設定(2) 問題の所在と背景について整理する           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 3                   | 1)2)  | 論文購読とディスカッション(1) 重要な先行研究論文について概要を発表する  |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 4                   | 1)2)  | 論文購読とディスカッション(2) 重要な先行研究論文について概要を発表する  |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 5                   | 1)2)  | 論文購読とディスカッション(3) 複数の先行研究論文を比較して概要を発表する |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 6                   | 1)2)  | 研究計画書の作成(1)                            |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 7                   | 1)2)  | 研究計画書の作成(2)                            |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 8                   | 3)  | 研究の実施(1) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 9                   | 3)  | 研究の実施(2) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 10                  | 3)  | 研究の実施(3) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 11                  | 3)  | 研究の実施(4) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 12                  | 4)  | 結果の分析(1) 結果を分析し報告する                    |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 13                  | 4)  | 結果の分析(2) 結果を分析し報告する                    |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 14                  | 5)  | プレゼンテーションの準備 プレゼンテーション用資料を作成する         |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 15                  | 5)  | プレゼンテーションの実施                           |           |        |            |              | SGD       | 倉内 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                                  |           |        |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない                                  |           |        |            |              |           |    |

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ   |   |          | 授業コード  | 121186A204 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じてもつことができる言語聴覚士になるために、各自で、卒業研究に関連する資料・文献を収集し、熟読する。その上で、問題を解決するための視点を、卒業研究の研究計画を通じて学ぶ。                                     |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 今後の活動を見越して計画的に準備ができる。<br>2) 文献から得た情報を体系的に整理できる。<br>3) 情報を基づいて自分の考えを表現できる。<br>4) 相手の立場に立ち発言ができる。<br>5) ゼミ運営において自主的な行動ができる。                            |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点70%、提出物30%で総合的に評価する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 今後をしっかりと見据えて、真摯に取り組んでほしい。また、ゼミ運営にも積極的に参加してほしい。<br>次のように、1回授業につき120分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。 |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15~19:15   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~5)   | ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。                                |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 2                   | 1)~5)   | 【ゼミのあり方について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。             |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 3                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ①】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 4                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ②】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 5                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ③】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 6                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ④】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 7                   | 1)~5)   | 【卒業研究に関連する文献を通して研方法について学ぶ⑤】<br>ゼミの中でゼミ生同士・教員で討論をする。 |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 8                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 9                   | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 10                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 11                  | 1)~5)   | 【研究テーマについて検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。       |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 12                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する①】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 13                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する②】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 14                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する③】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 15                  | 1)~5)   | 【研究計画について検討する④】<br>進捗状況の報告およびゼミ生同士・教員で討論をする。        |          |        |            | SGD          | 松山        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 特に指定しない。  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜紹介する。   |          |        |            |              |           |

|                     |   |                                     |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ   |                                     |          | 授業コード  | 121186A205 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)  |                                     |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 太田 栄次(保・言)  | 開講学期                                | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>医療、特に言語聴覚療法をめぐる社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を行うことができる(DP6)ためには、また、常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点をもつ(DP7, CP1(6))ことが求められる。</p> <p>本講義では、自分が設定した具体的なテーマについて、学術の見地から客観的事実にもとづいて論理的に議論を展開し、明確な結論を提示する方法を学ぶ。また、卒業論文の内容もさることながら、口頭発表のしかた、配布資料の作り方など、就職後にも役に立つ具体的な技術も身に付けることを目指す。</p> |                                     |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究課題に関連した論文を検索することができる。</li> <li>2) 論文を精読し、内容を正確に把握することができる。</li> <li>3) 自分自身で疑問を持ち、そこからテーマを設定することができる。</li> <li>4) 自らの問題意識や目的に応じて、データを収集することができる。</li> <li>5) 自ら収集したデータを基に考察することができる。</li> </ol>                         |                                     |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 70%、提出物(卒業論文)30%  |                                     |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 自主的、意欲的に取り組む姿勢が必要不可欠  |                                     |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 10:00~17:00   |                                     |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                                     |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~3)   | 講義の進め方の説明                           |          |        |            | 講義・演習        | 太田        |
| 2                   | 1)~3)   | 各自の研究課題に関連する論文の精読。また、研究の進捗状況の報告及び検討 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 3                   | 1)~3)   | 各自の研究課題に関連する論文の精読。また、研究の進捗状況の報告及び検討 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 4                   | 1)~3)   | 各自の研究課題に関連する論文の精読。また、研究の進捗状況の報告及び検討 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 5                   | 1)~4)   | 各自の研究課題に関連する論文の精読。また、研究の進捗状況の報告及び検討 |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 6                   | 1)~4)   | 研究の進捗状況の報告及び検討                      |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 7                   | 1)~4)   | 研究の進捗状況の報告及び検討                      |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 8                   | 1)~4)   | 研究の進捗状況の報告及び検討                      |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 9                   | 1)~4)   | 研究の進捗状況の報告及び検討                      |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 10                  | 1)~4)   | 研究の進捗状況の報告及び検討                      |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 11                  | 1)~5)   | 論文の作成                               |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 12                  | 1)~5)   | 論文の作成                               |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 13                  | 1)~5)   | 論文の作成                               |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 14                  | 1)~5)   | 論文の作成                               |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 15                  | 1)~5)   | 論文の要旨を発表                            |          |        |            | 演習           | 太田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |                                     |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |                                     |          |        |            |              |           |

|                     |  |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ  |      |          | 授業コード  | 121186A202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)   |      |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村 真理子   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 常に問題意識を持ち、問題を解決するための視点を研究を通じてもつことができる(DP7)能力を養うため、本講義は、言語聴覚療法または各学生本人が興味のある医学的領域に関わる雑誌論文の文献抄読、卒業研究の進行状況の説明・討議を中心に行い、将来の臨床に臨むための準備段階として、研究手法や研究に必要な要素、プレゼンテーションの方法、質疑応答を通じた討議能力を養う。その過程で、柔軟な思考力を培い、臨床現場においてリハビリテーションの一翼を担うことのできる臨床能力を修得する(CP1-6)。 |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 論文作成に必要な参考論文を読み込み、論文の内容を教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>2) エビデンスのあるデータ収集を行うことができる。<br>3) 求められる書式に従い、論文作成することができる。   |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は理化学研究所客員研究員として5年以上の実務経験に基づき確かな研究方法について教授する。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出席と各回で作成するレジュメ内容、討議内容、卒業論文の提出状況と内容により、統括的に評価する。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 文献抄読は、学生が交代で行うので、一日1時間以上は、文献抄読のための時間を作る。日常的に図書館に行き、雑誌に目を通し、興味のある文献はコピーやPDFダウンロードにより保存しておくこと。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火、水、木 12:30～13:00  |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                                  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------------------------------------|----------|----|
| 1  | 1)～5)       | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究に関する説明 | 講義,SGD   | 中村 |
| 2  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 3  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 4  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 5  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 6  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 7  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 8  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 9  | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 10 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 11 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 12 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義,SGD   | 中村 |
| 13 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義       | 中村 |
| 14 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義       | 中村 |
| 15 | 1)～5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究の進捗状況説明と討議       | 講義       | 中村 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 特にありませんが、研究に必要な雑誌論文等を適宜指示します。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 なぜあなたは論文が書けないのか(佐藤雅昭) メディカルレビュー社【978-4-7792-1725-8】



|                            |  |      |          |        |            |              |           |
|----------------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ  |      |          | 授業コード  | 121186A206 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)                   | 言語聴覚療法学科(4年)   |      |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 原 修一(保・言)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 本講義では、言語聴覚療法または各学生本人が興味のある医学的・心理学的領域に関わる卒業論文の完成を中心に行う。卒業論文の作成を通じ、研究手法や研究に必要な手続き、分析と卒論完成、プレゼンテーションの方法、質疑応答を通じた討議能力を養う(DP2-7)。   |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1)必要な雑誌論文を図書館等より収集できる。<br>2)文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋し、レジュメを作成することができる。<br>3)レジュメ等の資料を基に、教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>4)卒業論文を完成させることができる。<br>5)他学生との討議で、興味のある障害領域の知識を深めることができる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 病院や福祉施設においても論文作成やプレゼンテーションは必須の業務である。言語聴覚士かつ大学教員として実務経験豊富な担当教員(原)が研究の実際について教育する。<br>出席、プレゼンテーションのレジュメ、プレゼンテーション・卒業論文の作成過程と内容により、総括的に評価する。                                       |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等           | 障害領域に関する文献を十分に読み込むこと。レジュメ等の準備も含め、プレゼンテーションには1時間以上の準備をかけること。質疑応答の内容を省みて、必要な知識を増やすこと。他学生が提供した情報・知識についても十分に復習し、卒業論文の作成に活かすこと。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 火・水・木曜日 12:30~13:10  |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                         | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------------------------------|----------|----|
| 1  | 1)~5)       | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議 | 講義       | 原  |
| 2  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 3  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 4  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 5  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 6  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 7  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 8  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 9  | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 10 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 11 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 12 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議           | 講義       | 原  |
| 13 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・卒論の完成     | 講義       | 原  |
| 14 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・卒論の完成     | 講義       | 原  |
| 15 | 1)~5)       | 言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・まとめ       | 講義       | 原  |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 雑誌論文を中心に、適宜指示します。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 言語障害の研究入門 (伊藤 元信) 協同医書出版社 【978-4-7639-3044-6】

|                     |   |                   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|-------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ   |                   |          | 授業コード  | 121186A203 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)  |                   |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期              | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生涯自律性と問題発見・解決力を身につけた言語聴覚士となるために(DP6, 7)、データ分析、及び結果の解釈の仕方の基礎を修得する(CP1(6))。 |                   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)結果を適切に表示し、適切な分析法を選択できる。<br>2)結果の解釈をおこなうことができる。                          |                   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |                   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 50%と卒業論文 50%。   |                   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり1時間を目安に予習(次に発表する論文を検索し読むこと)・復習(発表の際に説明できなかった点などを調べること)をおこなうこと。      |                   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |                   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |                   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容           |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 結果の分析             |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 2                   | 1)  | 結果の分析             |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 3                   | 1)  | 結果の分析             |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 4                   | 1)  | 結果の分析             |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 5                   | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 6                   | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 7                   | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 8                   | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 9                   | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 10                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 11                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 12                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 13                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 14                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 15                  | 2)  | 結果の解釈と卒業論文の作成     |          |        |            | S G D        | 内 藤       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。適宜、資料を配布する。 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜、紹介する。          |          |        |            |              |           |

|                     |  |                                       |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---------------------------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ  |                                       |          | 授業コード  | 121186A207 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)   |                                       |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 吉武 重徳(保・言)   | 開講学期                                  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 柔軟な思考力と問題解決能力を培い、臨床現場においてリハビリテーションの一翼を担うことのできる臨床能力を身につけるために、卒業論文の作成を通して、仮説・検証のプロセスに基づく科学的臨床および臨床研究の視点と方法論を修得する(DP7、CP1(6))。  |                                       |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 必要な雑誌論文を図書館等より収集できる。<br>2) 文献より、プレゼンテーションに必要な要素を抜粋し、レジュメを作成することができる。<br>3) レジュメ等の資料を基に、教員・他学生の前で文献のプレゼンテーションができる。<br>4) 教員や他学生の質問に対し、答えるなどの討議ができる。<br>5) 自己の卒業研究について説明し、討議の中で指導等を受け、卒業論文を完成させることができる。 |                                       |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |                                       |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 研究への取り組み姿勢(課題提出状況、課題発表、討論等)の評価50%と、卒業論文50%で評価する。   |                                       |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎回1時間以上は、文献抄読・研究テーマのための学習時間を作る。常に問題意識を持ち、討論には、積極的に参加すること。  |                                       |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 水曜日 10:45~13:00<br>金曜日 10:45~12:00   |                                       |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                                       |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~4)  | オリエンテーション・言語聴覚療法等に関する文献抄読・討議・研究に関する説明 |          |        |            | 講義           | 吉武        |
| 2                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 3                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 4                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 5                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 6                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 7                   | 1)~4)  | 研究テーマに関する文献抄読・研究の進捗状況説明と討議            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 8                   | 1)~4)  | 卒業研究の進捗状況説明と討議                        |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 9                   | 1)~4)  | 卒業研究の進捗状況説明と討議                        |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 10                  | 1)~4)  | 卒業研究の進捗状況説明と討議                        |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 11                  | 1)~4)  | 卒業研究の進捗状況説明と討議                        |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 12                  | 1)~4)  | 卒業研究の進捗状況説明と討議                        |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 13                  | 4)5)   | 卒業論文の完成と修正                            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 14                  | 4)5)   | 卒業論文の完成と提出                            |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 15                  | 4)5)   | 卒業論文内容のプレゼンテーションと討議                   |          |        |            | SGD          | 吉武        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特にありませんが、研究に必要な雑誌論文等を適宜指示します。  |                                       |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | こちらより適宜提示します。  |                                       |          |        |            |              |           |

|                     |   |           |          |        |            |              |           |    |
|---------------------|---|-----------|----------|--------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ   |           |          | 授業コード  | 121186A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)  |           |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |    |
| 担当者                 | 戸高 翼(保・言)   | 開講学期      | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | S G D     |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 将来、専門職として臨床活動を行っていく時には、EBM(根拠に基づく医療)を提供していくことが求められる。<br>つまり、臨床研究的視点を持ち、根拠に基づく言語聴覚療法を提供できる言語聴覚士になるために(DP6, 7)、興味のある研究テーマについて、データ分析と結果の解釈を行い、得られた成果を考察し、まとめる過程を通して、仮説・検証のプロセスや臨床研究の視点と方法論を修得する(CP1(6))。 |           |          |        |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)結果を集計・分析し、考察することができる。<br>2)論文を作成することができる。<br>3)成果を発表することができる。   |           |          |        |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 言語聴覚士としての臨床・研究経験を活かした講義を行う。   |           |          |        |            |              |           |    |
| 評価方法                | 学習への取り組み姿勢(授業への参加態度、発表態度など)の評価を50%、卒業論文50%として、総合的に評価する。評価の基準は、授業開始日に説明する。   |           |          |        |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 準備学習:自発的に卒業論文の作成に必要な学習を1コマあたり1時間を目安に行うこと。<br>履修上の注意:卒業論文の作成においては、指示持ちではなく、自ら検証や推敲の作業を繰り返し行ってください。   |           |          |        |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 日時-毎週(月)(木)12:20~13:00、場所-研究室   |           |          |        |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |           |          |        |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容      |          |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)  | 結果の集計・分析① |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 2                   | 1)  | 結果の集計・分析② |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 3                   | 1)  | 結果の集計・分析③ |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 4                   | 1)  | 結果の解釈①    |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 5                   | 1)  | 結果の解釈②    |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 6                   | 1)  | 結果の解釈③    |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 7                   | 1)  | 結果の解釈④    |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 8                   | 2)  | 卒業論文作成①   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 9                   | 2)  | 卒業論文作成②   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 10                  | 2)  | 卒業論文作成③   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 11                  | 2)  | 卒業論文作成④   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 12                  | 2)  | 卒業論文作成⑤   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 13                  | 2)  | 卒業論文作成⑥   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 14                  | 2)  | 卒業論文作成⑦   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 15                  | 3)  | 卒業研究発表会   |          |        |            |              | SGD       | 戸高 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。    |          |        |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。    |          |        |            |              |           |    |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害専門ゼミⅢ  |  |          | 授業コード  | 121186A208 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(4年)   |  |          | ナンバリング | 22C411P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)   | 開講学期                                   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 仮説・検証のプロセスに基づく、科学的臨床および臨床研究の視点と方法論を修得するために(DP6、7)、小児および成人・高齢期の聴覚障害に関連した研究テーマを設定して、調査または文献研究を実施し卒業論文を作成する(CP6)。   |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究テーマを設定し、研究計画を作成することができる。<br>2) 先行研究論文を収集し、問題の所在と背景について発表することができる。<br>3) 研究計画に基づき本研究を実施し、結果を整理することができる。<br>4) 結果に考察を加えて、卒業論文を作成することができる。<br>5) 推敲を重ねて、卒業論文を完成させることができる。<br>6) プレゼンテーション資料を作成し発表することができる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は、言語聴覚士としての豊富な実務経験を活かして、臨床研究の視点から授業を行う。  |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 50%、卒業論文 50%   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ゼミ活動を通して、自己主導型学習の習慣を身につけてほしい。  |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月曜～水曜日 12:30～13:00   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                                   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)   | 研究テーマの設定 問題の所在と背景について整理し研究計画を作成する      |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 2                   | 1)2)   | 論文購読とディスカッション(1) 重要な先行研究論文について概要を発表する  |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 3                   | 1)2)   | 論文購読とディスカッション(2) 複数の先行研究論文を比較して概要を発表する |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 4                   | 3)   | 研究の実施(1) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 5                   | 3)   | 研究の実施(2) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 6                   | 3)   | 研究の実施(3) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 7                   | 3)   | 研究の実施(4) 研究の進捗状況の報告とディスカッション           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 8                   | 4)   | 結果の分析と考察(1) 結果を分析し報告する                 |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 9                   | 4)   | 結果の分析と考察(2) 結果に考察を加え発表する               |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 10                  | 4)   | 卒業論文の執筆(1) 方法と結果を仕上げ発表する               |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 11                  | 4)   | 卒業論文の執筆(2) 考察を仕上げ発表する                  |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 12                  | 5)   | 卒業論文の執筆(3) 目的、方法、結果、考察の整合性について検討する     |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 13                  | 5)   | 卒業論文の完成 卒業論文を形式面も含めて最終チェックする           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 14                  | 6)   | プレゼンテーションの準備 プレゼンテーション用資料を作成する         |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 15                  | 6)   | プレゼンテーションの実施                           |          |        |            | SGD          | 倉内        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない                                  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない                                  |          |        |            |              |           |

|                     |  |           |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|-----------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害特講 I   |           |          | 授業コード  | 121478A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |           |          | ナンバリング | 22C311P12  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)、吉武 重徳<br>(保・言)、原 修一(保・言)、中村<br>真理子(保・言)、松山 光生(保・<br>言)、太田 栄次(保・言)、内藤 健<br>一(保・言)、戸高 翼(保・言)、宇野<br>彰(非常勤講師)   | 開講学期      | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 高い臨床能力を持つ言語聴覚士になるために必要となる知識を、多数にわたる履修科目の枠を越えて、専門基礎分野および専門臨床分野の2系統に整理して理解する。また、人体の構造と機能について、中枢神経系、聴覚系、発声発語・摂食嚥下系の3系統に整理して理解し、さらに各系統の構造・機能の側面に病理・病態の側面も加えて統合的に学ぶ。これにより、高い専門知識・技術を習得した言語聴覚士となる基本となる、言語聴覚士国家試験を合格するための知識・技術の習得が達成できる(DP1-7)。 |           |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)中枢神経系の構造・機能の概要について説明できる<br>2)聴覚系の構造・機能の概要について説明できる<br>3)発声発語・摂食嚥下系の構造・機能の概要について説明できる<br>4)3系統にわたる構造・機能について、統合して全体としての概要を説明できる<br>5)各系統の構造・機能の側面に、病理・病態の側面も加えて概要を説明できる<br>6)1)~5)を踏まえた上で、専門基礎科目との関連を説明することができる                          |           |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(倉内、原、戸高)は言語聴覚士として5年以上の臨床経験を有する。また科目担当者(吉武、中村)は医師、歯科医師として5年以上の臨床経験を有する。各自臨床経験に基づいた授業を行う。  |           |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 出欠状況、各種小テスト、提出物、授業態度による形成的評価と、単位認定試験(筆記)による総括的評価を行う。   |           |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本講義は、学内・外臨床実習や国家試験につながる講義であるため、最低限1時間は本講義に関する予・復習を行うこと。授業終了後も継続的な学習をすることが望ましい。   |           |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 教員により随時  |           |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |           |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容      |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~3)  | 臨床歯学系     |          |        |            | 講義           | 中村        |
| 2                   | 1)~5)  | 臨床医学系①    |          |        |            | 講義           | 吉武        |
| 3                   | 1)~5)  | 臨床医学系②    |          |        |            | 講義           | 吉武        |
| 4                   | 1)~5)  | 言語発達障害系③  |          |        |            | 講義           | 戸高        |
| 5                   | 1)~5)  | 高次脳機能障害系① |          |        |            | 講義           | 原         |
| 6                   | 1)~5)  | 高次脳機能障害系② |          |        |            | 講義           | 原         |
| 7                   | 1)~5)  | 聴覚障害系     |          |        |            | 講義           | 倉内        |
| 8                   | 1)~5)  | 言語聴覚障害総論  |          |        |            | 講義           | 太田        |
| 9                   | 1)~5)  | 言語聴覚障害総論  |          |        |            | 講義           | 松山        |
| 10                  | 1)~5)  | 言語聴覚障害総論  |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 11                  | 1)~5)  | 言語発達障害①   |          |        |            | 講義           | 宇野        |
| 12                  | 6)   | 言語発達障害②   |          |        |            | 講義           | 宇野        |
| 13                  | 6)   | 言語発達障害③   |          |        |            | 講義           | 宇野        |
| 14                  | 6)   | 言語発達障害④   |          |        |            | 講義           | 内藤        |
| 15                  | 1)~6)  | 言語発達障害⑤   |          |        |            | 講義           | 宇野        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 指定しない。    |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 指定しない。    |          |        |            |              |           |

|                 |   |      |           |        |            |              |           |
|-----------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名             | 言語聴覚障害特講Ⅱ   |      |           | 授業コード  | 121479A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)        | 言語聴覚療法学科(4年)  |      |           | ナンバリング | 22C412P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者             | 倉内 紀子(保・言)、吉武 重徳(保・言)、原 修一(保・言)、中村 真理子(保・言)、松山 光生(保・言)、太田 栄次(保・言)、内藤 健一(保・言)、戸高 翼(保・言)、榎山 美寿(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・一般目標(GIO) | 言語聴覚療法学科4年次では、将来の言語聴覚士として、柔軟な思考力と臨床現場におけるリハビリテーションの一翼を担うことのできる臨床能力を発揮できる確かな能力を身につける必要がある(DP3、4)。本講義では、臨床的な知識について、人体の構造と機能を中枢神経系、聴覚系、発声発語・摂食嚥下系の3系統に整理して理解し、さらに各系統の構造・機能の側面に病理・病態の側面も加えて統合的に学ぶ(CP1、4)。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標(SBOs)      | 1)中枢神経系の構造・機能の概要について説明できる<br>2)聴覚系の構造・機能の概要について説明できる<br>3)発声発語・摂食嚥下系の構造・機能の概要について説明できる<br>4)3系統にわたる構造・機能について、統合して全体としての概要を説明できる<br>5)中枢神経系の構造・機能・病態の概要および相互の関連について説明できる<br>6)聴覚系の構造・機能・病態の概要および相互の関連について説明できる<br>7)発声発語・摂食嚥下系の構造・機能・病態の概要および相互の関連について説明できる<br>8)3系統にわたる構造・機能・病態について、統合して全体としての概要を説明できる<br>9)各種キーワードについて、単に辞書的定義を暗記するのではなく、具体例を挙げながらわかりやすく説明できる<br>10)国家試験の過去問題・模擬試験問題について、根拠を挙げながら正誤について解説できる |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある教員による教育  | 科目担当者(倉内、原、戸高)は言語聴覚士として5年以上の臨床経験を有する。また科目担当者(吉武、中村)は医師、歯科医師として5年以上の臨床経験を有する。各自臨床経験に基づいた授業を行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法            | 講義時間中の各種小テスト、模擬試験、提出物による形成的評価、単位認定試験による総括的評価により単位認定を行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の注意等    | 本講義は国家試験対策にも直結する講義である。よって、毎日規則正しい生活の中での1時間以上の予習復習が必要になる。また、日頃の学習態度も評価の対象となる。知識・技術・基本的態度共に「言語聴覚士としてふさわしいか」が統括的評価の基準となる。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー         | 各教員の時間に準ずる。   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs No. | 授業内容       | 授業方法 | 担当    |
|----|----------|------------|------|-------|
| 1  | 1)~4)    | オリエンテーション  | 講義   | 原     |
| 2  | 1)~8)    | 言語発達障害     | 講義   | 戸高    |
| 3  | 1)~8)    | 高次脳機能障害    | 講義   | 原     |
| 4  | 1)~8)    | 発声・発語障害    | 講義   | 中村    |
| 5  | 1)~8)    | 聴覚障害       | 講義   | 倉内    |
| 6  | 1)~8)    | 言語聴覚障害総論系① | 講義   | 太田/内藤 |
| 7  | 1)~8)    | 言語聴覚障害総論系② | 講義   | 内藤/松山 |
| 8  | 1)~10)   | 国家試験問題解説①  | 講義   | 戸高    |
| 9  | 1)~10)   | 国家試験問題解説②  | 講義   | 中村    |
| 10 | 1)~10)   | 国家試験問題解説③  | 講義   | 吉武    |
| 11 | 1)~10)   | 国家試験問題解説④  | 講義   | 太田/松山 |
| 12 | 1)~10)   | 国家試験問題解説⑤  | 講義   | 榎山    |
| 13 | 1)~10)   | 国家試験問題解説⑥  | 講義   | 榎山    |
| 14 | 1)~10)   | 国家試験問題解説⑦  | 講義   | 榎山    |
| 15 | 1)~10)   | 国家試験問題解説⑧  | 講義   | 榎山    |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 指定しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 指定しない

|                     |  |                          |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 高齢障害演習   |                          |           | 授業コード  | 121206A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(2年)   |                          |           | ナンバリング | 22C222P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言), 飯干 紀代子(非常勤講師)   | 開講学期                     | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 保健、医療、福祉に参画・連携し、地域に根差した、生涯にわたる支援を行うことができる(DP5)言語聴覚士となるため高齢者の身体的・精神的・社会的健康状態の特徴について取得する(GP1-1)。特にパーソンセンタードケアを学習し、認知症ケアに関する知識習得を図る(GP1-1)。また高齢者のシミュレーション体験を通して、授業で得た知識を再確認する(GP1-4)。 |                          |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 高齢者を取り巻く社会的状況を理解する。<br>2) 老化の機序を理解する。<br>3) 高齢者に特有な感覚的・身体的・精神的特徴を理解する。<br>4) 高齢者の生活背景とそれを活かした働きかけができる。<br>5) 生涯発達における高齢者の位置づけとサクセスフルエイジングについて説明できる。                             |                          |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学附属病院歯科矯正科)で5年以上歯科矯正医として臨床経験を積んでいる。大学病院での臨床経験に基づいた授業を行う。   |                          |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出物 85%、受講態度 15%   |                          |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 講義を受ける前に教科書をよく読んでおくこと  |                          |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間   |                          |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                          |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 高齢者を取り巻く社会的状況            |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 2                   | 2)   | 老化の機序                    |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 3                   | 3)   | 高齢者に特有の症状                |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 4                   | 2~3)   | 高齢者の身体的・感覚的低下を体験する①      |           |        |            | 演 習          | 中 村       |
| 5                   | 2~3)   | 高齢者の身体的・感覚的低下を体験する②      |           |        |            | 演 習          | 中 村       |
| 6                   | 2~3)   | 体験発表                     |           |        |            | 演 習          | 中 村       |
| 7                   | 5)   | 生涯発達心理学における高齢者           |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 8                   | 5)   | サクセスフルエイジング・プロダクティブエイジング |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 9                   | 4)   | 高齢者の生活史                  |           |        |            | 講 義          | 中 村       |
| 10                  | 4)   | 高齢者インタビュー①               |           |        |            | 演 習          | 飯 干       |
| 11                  | 4)   | 高齢者インタビュー②               |           |        |            | 演 習          | 飯 干       |
| 12                  | 4)   | 高齢者インタビュー③               |           |        |            | 演 習          | 飯 干       |
| 13                  | 4)   | メモリーブック作成①               |           |        |            | 演 習          | 飯 干       |
| 14                  | 4)   | メモリーブック作成②               |           |        |            | 演 習          | 飯 干       |
| 15                  | 1~5)   | 総括                       |           |        |            | 演 習          | 中 村       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | チェアサイド オーラルフレイルの診かた 菊谷 武 医歯薬出版株式会社 【ISBN978-4-262-44526-6】   |                          |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |                          |           |        |            |              |           |



|                     |  |                   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|-------------------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | コミュニケーション機器論演習   |                   |          | 授業コード  | 121480A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年次)  |                   |          | ナンバリング | 22C311P13  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 倉内 紀子(保・言)、原 修一(保・言)、松山 光生(保・言)、戸高 翼(保・言)  | 開講学期              | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、言語聴覚障害者のコミュニケーション支援を行うことができる言語聴覚士になるために(DP2、4)、AAC(拡大・代替コミュニケーション)の概念と、多様なコミュニケーション障害への適応の実践について学ぶ(CP3、4)。   |                   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) AACの定義について説明できる<br>2) AACにおけるSTの役割について説明できる<br>3) ローテク・コミュニケーション、ハイテク・コミュニケーションについて説明できる<br>4) 小児領域のAACの選択と支援方法について説明できる<br>5) 成人領域のAACの選択と支援方法について説明できる<br>6) スイッチの選択と操作について説明できる<br>7) 各種の障害とAACとの関連について説明できる |                   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(倉内、原、戸高)は、臨床現場での言語聴覚士としての実務経験に基づき、コミュニケーション機器の選択と適合について、より実践的な授業を行う。   |                   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業毎の小テストやレポート課題により形成的に評価し単位認定を行う。  |                   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回の授業につき、30分を目安に予習・復習を行って下さい。<br>授業の中で提示されるテーマについてレポートを作成する。教科書等の次回授業部分(授業時に指示)を読んでおく。   |                   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 各教員の指示に従うこと。   |                   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容           |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | AACとは何か           |          |        |            | 講義・SGD       | 倉内        |
| 2                   | 2)~<br>4)、<br>6)、7)  | 小児領域のAACの選択と支援方法  |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 3                   | 2)~<br>4)、<br>6)、7)  | 「読み書き」の困難さを補うAAC  |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 4                   | 4)~7)  | 肢体不自由とは           |          |        |            | 講義・SGD       | 松山        |
| 5                   | 4)~7)  | 肢体不自由児・者へのAACの適応  |          |        |            | 講義・SGD       | 松山        |
| 6                   | 2)~<br>4)、<br>6)、7)  | 発達障害の子どもを支援するAAC  |          |        |            | 講義・SGD       | 戸高        |
| 7                   | 4)~7)  | AACの活用の実際         |          |        |            | 講義・SGD       | 松山        |
| 8                   | 2)、<br>3)、5)<br>~7)  | スイッチの選択と操作        |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 9                   | 2)、<br>3)、5)<br>~7)  | 成人領域のAACの選択と支援方法① |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 10                  | 2)、<br>3)、5)<br>~7)  | 成人領域のAACの選択と支援方法② |          |        |            | 講義・SGD       | 原         |
| 11                  | 2)、3)  | 言語聴覚士とAAC①        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉内        |
| 12                  | 2)、<br>6)、7)   | 教育現場の実際①          |          |        |            | 演習           | 原、戸高、倉内   |
| 13                  | 2)、<br>6)、7)   | 教育現場の実際②          |          |        |            | 演習           | 原、戸高、倉内   |
| 14                  | 2)、<br>6)、7)   | 教育現場の実際③          |          |        |            | 演習           | 原、戸高、倉内   |
| 15                  | 1)~7)  | 言語聴覚士とAAC②        |          |        |            | 講義・SGD       | 倉内        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 言語聴覚療法シリーズ16改訂 AAC(久保 健彦 編著)建帛社【978-4-7679-4536-1】   |                   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない  |                   |          |        |            |              |           |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害社会支援演習   |  |          | 授業コード  | 121181A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |  |          | ナンバリング | 22C321P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 保健、医療、福祉、教育に参画・連携し、地域に根差した、生涯にわたる支援を行うことができる言語聴覚士になるために、社会からみた障がい児・者に焦点を当て、学齢期、死周期の問題について学ぶと同時に、社会態度とその変容について、コメディカルに携わる者にとって必須の知識を習得する。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)障がい児の学齢期の問題が理解できる<br>2)死周期の問題と支援が理解できる<br>3)障がい児・者の差別に関する問題が理解できる  |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 60%、提出物 40%の点数で総合的に評価する。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回授業につき 120 分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。                                  |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜日 18:15～19:15  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 【特別支援教育について学ぶ①】<br>特別支援教育の意義について説明できる。                           |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 2                   | 1)   | 【特別支援教育について学ぶ②】<br>特別支援教育の対象について説明できる。                           |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 3                   | 1)   | 【特別支援教育について学ぶ③】<br>軽度発達障がい児とその教育的ニーズについて説明できる。                   |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 4                   | 1)   | 【特別支援教育について学ぶ④】<br>特別支援教育の具体的な支援について理解することができる。                  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 5                   | 1)   | 【特別支援教育について学ぶ⑤】<br>特別支援教育の意義における言語聴覚士の役割について理解することができる。          |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 6                   | 2)   | 【障がい児・者に対する死周期の援助について学ぶ①】<br>ターミナル・ケアの意義について説明できる。               |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 7                   | 2)   | 【障がい児・者に対する死周期の援助について学ぶ②】<br>ターミナル・ケアの対象について説明できる。               |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 8                   | 2)   | 【【障がい児・者に対する死周期の援助について学ぶ③】<br>ターミナル・ケアにおける言語聴覚士の役割について考えることができる。 |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 9                   | 3)   | 【障がい児・者に対する社会態度変容の手立てを学ぶ①】<br>障がい児・者に対する社会態度について理解することができる。      |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 10                  | 3)   | 【障がい児・者に対する社会態度変容の手立てを学ぶ②】<br>障がい児・者に対する社会態度について考えることができる。       |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 11                  | 3)   | 【障がい児・者に対する社会態度変容の手立てを学ぶ③】<br>障がい児・者に対する社会態度の測定について理解することができる。   |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 12                  | 3)   | 【障がい児・者に対する社会態度変容の手立てを学ぶ④】<br>障がい児・者に対する社会態度変容について理解することができる。    |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 13                  | 3)   | 【障がい児・者に対する社会態度変容の手立てを学ぶ⑤】<br>障がい児・者に対する社会態度変容の手立てについて考えることができる。 |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 14                  | 1)2)3)   | 【障がい児・者の社会的問題を学ぶ①】<br>障がい児・者を取り巻く社会の各側面について理解することができる。           |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 15                  | 1)2)3)   | 【障がい児・者の社会的問題を学ぶ②】<br>障がい児・者の社会的問題を総合的に考えることができる。                |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特に指定しない。   |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 適宜紹介する。  |  |          |        |            |              |           |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 言語聴覚障害家族支援演習   |   |          | 授業コード  | 121178A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 22C311P14  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 松山 光生(保・言)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必 須        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 患者さんや家族の状況を把握、考慮したコミュニケーションができ、適切な人間関係を築くことができる言語聴覚士になるために、障がい当事者や障がい児を持つ養育者、きょうだい、家族介護者の心理的問題について、手記や調査を教材に具体的なイメージを持ち、受容過程とそれを促進するための心理について、コメディカルに携わる者にとって必須の知識を習得する。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)障がい当事者および家族の障害受容とその過程について理解する。<br>2)障がい当事者および家族の内的世界に共感する力を養う。<br>3)自らの考えを論理的に表現する。  |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(松山)は、臨床発達心理士としての実務経験に基づき、実践を意識した授業を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 平常点 60%、提出物 40%の点数で総合的に評価する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 次のように、1回授業につき 240 分を目安に予習、復習を行うこと。<br>授業プリントの次回授業部分を読んでおく(各授業で予告を行う)。<br>返却された提出物を再び、独力で完成できるようにしておくこと。  |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週火・水曜日 18:15～19:15  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 2)   | 【障害の主観性を考える】<br>障害を持つ意味を考えることができる。  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 2                   | 1)   | 【障がい者の QOL(生活の質)と障害受容を学ぶ】<br>障害受容の重要性と各定義が理解できる。  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 3                   | 1)   | 【中途障がい者の障害受容の段階について学ぶ】<br>中途障がい者の障害受容の段階を説明できる。   |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 4                   | 2)3)   | 【障がい児を持つ母親の受容について学ぶ】<br>障がい児を持つ母親の受容段階説と慢性悲観説を説明できる。  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 5                   | 2)3)   | 【障がい児の各ライフステージと養育者の心理的問題について学ぶ】<br>障がい児のライフステージごとの養育者の心理的問題について理解できる。                       |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 6                   | 2)3)   | 【障がい児の父親の心理的問題について学ぶ】<br>障がい児の父親の心理的問題について、母親の異同が理解できる。                                     |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 7                   | 2)3)   | 【障がい児を同胞にもつきょうだいの心理的問題について学ぶ】<br>障がい児を同胞にもつきょうだいの心理的問題とその援助が理解できる。                          |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 8                   | 2)3)   | 【障がい児を持つ親が描いた手記から心理を理解する①】<br>障がい児を持つ親の心理を描いた手記を読み、養育者の心理的問題を抽出することができる。                    |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 9                   | 2)3)   | 【障がい児を持つ親が描いた手記から心理を理解する②】<br>障がい児を持つ親の心理を描いた手記を読み、養育者の心理的問題を抽出することができる。                    |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 10                  | 2)3)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える①】<br>在宅高齢障がい者の実態を説明できる<br>【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える②】<br>家族介護者の実態を説明できる |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 11                  | 2)3)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える③】<br>家族介護者の心理的な問題を説明できる  |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 12                  | 2)3)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える④】<br>家族介護者の心理的な問題を説明できる  |          |        |            | 演 習          | 松 山       |
| 13                  | 2)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える⑤】<br>手記を通して、家族介護者の心理的な問題を抽出できる                                       |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 14                  | 2)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える⑥】<br>家族介護者の支援のあり方を説明できる  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 15                  | 2)   | 【在宅高齢障がい者と家族介護者の支援を考える⑦】<br>家族介護者の具体的な支援を考えられる  |          |        |            | 講 義          | 松 山       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 特に指定しない。  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 適宜紹介する。   |          |        |            |              |           |

|                            |  |      |           |        |            |              |           |
|----------------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                        | 臨床実習Ⅱ  |      |           | 授業コード  | 121066A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>45   |
| 配当学科(学年)                   | 言語聴覚療法学科(2年)   |      |           | ナンバリング | 22C211P11  | AL科目         | ○         |
| 担当者                        | 原 修一(保・言)・戸高 翼(保・言)・中村 真理子(保・言)・吉武 重徳(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・倉内 紀子(保・言)   | 開講学期 | 2020年度 前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習・SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 学内臨床実習は、言語聴覚士を目指す者が、模擬的な臨床を通じ、利用者中心の言語聴覚療法を行うために必要な臨床能力を身につけるために実施される。本実習では、健常者の評価や言語聴覚士へのインタビュー体験実習を通じ、学生個人が言語聴覚士として必要なスキルや障害をトータルに見る視点を身につけ、かつ、チーム活動の中で協調性や討議する能力、分析する能力を身につける(DP1-7)。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1)検査の被験者を体験し、患者の立場に立った検査の方法が理解できる 2)言語聴覚士の業務を理解し、言語聴覚士に必要な基本的態度、知識・技術を理解する。 3)言語聴覚療法的評価の方法や分析に必要な視点を理解する。 4)高齢者および特別支援学校の見学・体験を通じて、利用者の心理や言語聴覚士として必要な働きかけ方について学ぶ。                        |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 言語聴覚士や医療専門職として臨床経験5年以上の者(原、戸高、倉内、吉武、中村)および報告書作成等のリテラシーに関する教育経験がある者(太田、松山、内藤)が各コマを担当する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の<br>注意等           | 出席回数、実習日誌やレポート等提出物、単位認定試験により包括的に評価する。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー                    | 各教員毎に決まっているので、担当教員に確認をすること。  |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                       | 授業方法   | 担当   |
|----|-------------|----------------------------|--------|------|
| 1  | 1)~<br>4)   | 実習オリエンテーション                | 講義・SGD | 全担当者 |
| 2  | 1)~<br>4)   | 検査の被験者を体験する                | 講義・SGD | 全担当者 |
| 3  | 1)~<br>4)   | 高齢者施設体験実習(高齢者へのレクリエーション指導) | 講義・演習  | 全担当者 |
| 4  | 1)~<br>3)   | 医療面接の方法                    | 講義・SGD | 全担当者 |
| 5  | 1)~<br>3)   | 成人言語障害の評価と分析(1)            | 講義・SGD | 全担当者 |
| 6  | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー準備              | S G D  | 全担当者 |
| 7  | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー(1)             | 演 習    | 全担当者 |
| 8  | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー(2)             | 演 習    | 全担当者 |
| 9  | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー(3)             | 演 習    | 全担当者 |
| 10 | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー(4)             | 演 習    | 全担当者 |
| 11 | 1)~<br>3)   | 言語聴覚士インタビュー 報告会            | S G D  | 全担当者 |
| 12 | 1)~<br>3)   | 成人言語障害の評価と分析(2)            | 講義・SGD | 全担当者 |
| 13 | 1)~<br>4)   | 高齢者体験実習(1)                 | 演 習    | 全担当者 |
| 14 | 1)~<br>4)   | 高齢者体験実習(2)                 | 演 習    | 全担当者 |
| 15 | 1)~<br>4)   | 高齢者体験実習(3)                 | 演 習    | 全担当者 |
| 16 | 1)~<br>4)   | 高齢者体験実習(4)                 | 演 習    | 全担当者 |
| 17 | 1)~<br>4)   | 特別支援学校体験実習(1)              | 演 習    | 全担当者 |
| 18 | 1)~<br>4)   | 特別支援学校体験実習(2)              | 演 習    | 全担当者 |
| 19 | 1)~<br>4)   | 特別支援学校体験実習(3)              | 演 習    | 全担当者 |
| 20 | 1)~<br>4)   | 特別支援学校体験実習(4)              | 演 習    | 全担当者 |
| 21 | 1)~<br>4)   | 体験実習報告会                    | S G D  | 全担当者 |
| 22 | 1)~<br>3)   | 小児言語聴覚障害の評価・分析             | 講義・SGD | 全担当者 |
| 23 | 1)~<br>4)   | 学外総合臨床実習報告会                | S G D  | 全担当者 |

|                    |  |  |  |  |
|--------------------|--|--|--|--|
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
|                    |  |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 図解 言語聴覚療法技術ガイド(深浦順一 編集主幹)文光堂【978-4-8306-4511-2】 言語聴覚療法 臨床マニュアル(平野哲雄・長谷川賢一・立石恒雄 編集)協同医書出版社【978-4-7639-3049-1】 |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 適宜指示します。   |  |  |  |

|                 |  |      |           |            |              |         |           |
|-----------------|--|------|-----------|------------|--------------|---------|-----------|
| 科目名             | 臨床実習Ⅲ  |      | 授業コード     | 121067A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>45 |           |
| 配当学科(学年)        | 言語聴覚療法学科(2年)   |      | ナンバリング    | 22C212P15  | AL科目         | ○       |           |
| 担当者             | 原 修一(保・言)・戸高 翼(保・言)・中村 真理子(保・言)・吉武重徳(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・倉内 紀子(保・言)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態    | 講義・SGD・演習 |
| 授業の概要・一般目標(GIO) | 学内臨床実習は、言語聴覚士を目指す者が、模擬的な臨床を通じ、利用者中心の言語聴覚療法を行うために必要な臨床能力を身につけるために実施される。本実習では、健常または障害児・者の評価を通じ、学生個人が言語聴覚士として必要なスキルや障害をトータルに見る視点をも身につけ、かつ、チーム活動の中で協調性や討議する能力、分析する能力を身につける(DP1-7)。 |      |           |            |              |         |           |
| 到達目標(SBOs)      | 1) 言語聴覚障害・摂食嚥下障害に対する基本的検査が実施できる。 2) 症例の状態を観察しながら、検査が実施できる。 3) 障害の背景となる疾患について理解できる。 4) 地域における言語聴覚士の役割が理解できる。 5) 社会人として必要な基本的態度が理解できる。 6) 言語聴覚療法・摂食嚥下機能療法における評価に必要な知識・技術が理解できる。  |      |           |            |              |         |           |
| 実務経験のある教員による教育  | 語聴覚士や医療専門職として臨床経験5年以上の者(原、戸高、倉内、吉武、中村)および報告書作成等のリテラシーに関する教育経験がある者(太田、松山、内藤)が各コマを担当する。  |      |           |            |              |         |           |
| 評価方法            | 出席回数、実習内容・実習態度、実習日誌、計画書等提出物、模擬 OSCE、単位認定試験によって総合的に評価する。  |      |           |            |              |         |           |
| 準備学習・履修上の注意等    | 実習は全出席が基本である。欠席の場合は書類を提出する必要がある。   |      |           |            |              |         |           |
| オフィスアワー         | 各教員毎に決まっているので、担当教員に確認をすること。  |      |           |            |              |         |           |

授業計画

| 回数 | SBOs No. | 授業内容                         | 授業方法   | 担当   |
|----|----------|------------------------------|--------|------|
| 1  | 1)       | オリエンテーション                    | 講義・SGD | 全担当者 |
| 2  | 1)2)     | 成人関連検査                       | 講義・SGD | 全担当者 |
| 3  | 1)2)     | 成人関連検査                       | 演習     | 全担当者 |
| 4  | 1)2)     | 聴覚検査                         | 講義・SGD | 全担当者 |
| 5  | 1)2)     | 聴覚検査                         | 演習     | 全担当者 |
| 6  | 1)2)     | 小児関連検査                       | 講義・SGD | 全担当者 |
| 7  | 1)2)     | 小児関連検査                       | 演習     | 全担当者 |
| 8  | 1)2)     | 摂食嚥下機能検査                     | 講義・SGD | 全担当者 |
| 9  | 1)2)     | 摂食嚥下機能検査                     | 演習     | 全担当者 |
| 10 | 1)2)     | バイタルチェック                     | 講義・SGD | 全担当者 |
| 11 | 1)2)     | バイタルチェック                     | 演習     | 全担当者 |
| 12 | 1)2)     | 各種検査の演習・実技確認                 | 演習     | 全担当者 |
| 13 | 1)2)     | 各種検査の演習・実技確認                 | 講義・SGD | 全担当者 |
| 14 | 3)       | 講演会参加：発達支援の実際                | 講義・SGD | 全担当者 |
| 15 | 1)~4)    | 地域における言語聴覚士の役割を知る(1)地域ケア会議   | 演習     | 全担当者 |
| 16 | 1)~4)    | 地域における言語聴覚士の役割を知る(2)地域ケア会議   | 演習     | 全担当者 |
| 17 | 1)~4)    | 地域における言語聴覚士の役割を知る(3)乳幼児健康診査  | 演習     | 全担当者 |
| 18 | 1)~4)    | 地域における言語聴覚士の役割を知る(4)乳幼児健康診査  | 演習     | 全担当者 |
| 19 | 4)       | 講演会への参加：失語症者向け意思疎通支援者に関する講演会 | 演習     | 全担当者 |
| 20 | 4)       | 講演会への参加：失語症者向け意思疎通支援者に関する講演会 | 演習     | 全担当者 |
| 21 | 4)       | 認知症サポーター養成講座                 | 演習     | 全担当者 |
| 22 | 4)       | 認知症サポーター養成講座                 | S G D  | 全担当者 |
| 23 | 1)~6)    | 学外評価臨床実習報告会                  | S G D  | 全担当者 |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |
|    |          |                              |        |      |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 図解 言語聴覚療法技術ガイド(深浦順一 編集主幹) 文光堂【978-4-8306-4511-2】 言語聴覚療法 臨床マニュアル(平野哲雄・長谷川賢一・立石恒雄 編集)協同医学出版社【978-4-7639-3049-1】 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編(深浦順一他編) 建帛社【978-4-7679-4539-2】 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編(深浦順一他編) 建帛社【978-4-7679-4540-8】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 適宜指示します。  |

| 科目名                | 臨床実習Ⅳ  |  |          | 授業コード  | 121068A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>45   |
|--------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 配当学科(学年)           | 言語聴覚療法学科(3年)   |  |          | ナンバリング | 22C311P10  | AL科目         | ○         |
| 担当者                | 原 修一(保・言)・戸高 翼(保・言)・中村 真理子(保・言)・吉武 重徳(保・言)・松山 光生(保・言)・太田 栄次(保・言)・内藤 健一(保・言)・倉内 紀子(保・言)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・演習・SGD |
| 授業の概要・一般目標(GIO)    | 学内臨床実習は、言語聴覚士を目指す者が、模擬的な臨床を通じ、利用者中心の言語聴覚療法を行うために必要な臨床能力を身につけるために実施される。本実習では、学生個人が言語聴覚士として必要なスキルや障害をトータルに見る視点を身につけ、かつ、チーム活動の中で協調性や討議する能力、分析する能力を身につける(DP1-7)。 |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標(SBOs)         | 1) 学外評価・総合臨床実習に向けて、言語聴覚士に必要なかつ実践的な知識・技能を習得することができる。 2) 地域に住む言語聴覚障害・摂食嚥下障害者が抱える問題点を知り、地域における言語聴覚士や病院等施設の役割を知ることができる。  |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある教員による教育     | 言語聴覚士や医療専門職として臨床経験5年以上の者(原、戸高、倉内、吉武、中村)および報告書作成等のリテラシーに関する教育経験がある者(太田、松山、内藤)が各コマを担当する。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法               | 出席、実習態度、実習日誌やレポート等提出、単位認定試験により、総合的に評価する。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の注意等       | 実習は全出席が基本である。欠席の場合は、診断書等の書類を提出する必要がある。チーム学習が主体となるが、担当教員のデモやチーム内外の学生の良いところ、良い文書を吸収していくことが、学外実習や臨床につながる。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー            | 各教員毎に決まっているので、担当教員に確認をすること。  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画               |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                 | SBOs No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業方法         | 担当        |
| 1                  | 1)   | 実習オリエンテーション・報告書の作成   |          |        |            | 講義・SGD       | 全担当者      |
| 2                  | 1)   | 「学外評価臨床実習」に向けて 口腔ケア  |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 3                  | 1)   | 言語聴覚障害症例の評価・分析   |          |        |            | 講義・SGD       | 全担当者      |
| 4                  | 1)   | 「学外評価臨床実習」に向けて バイタルチェック、吸引の実際  |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 5                  | 1)   | 成人言語障害の評価・分析(1)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 6                  | 1)   | 成人言語障害の評価・分析(2)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 7                  | 1)   | 成人言語障害の評価・分析(3)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 8                  | 1)   | 成人聴覚障害の評価・分析(1)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 9                  | 1)   | 成人言語障害の評価・分析(2)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 10                 | 1)   | 成人言語障害の評価・分析(3)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 11                 | 1)2)   | 地域と言語聴覚士との結びつきを知る：地域ケア会議への参加(1)  |          |        |            | 演習           | 全担当者      |
| 12                 | 1)2)   | 地域と言語聴覚士との結びつきを知る：地域ケア会議への参加(2)  |          |        |            | 演習           | 全担当者      |
| 13                 | 1)   | 「学外評価臨床実習」に向けて 車椅子操作、トランスファー   |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 14                 | 1)2)   | 言語聴覚士インタビュー報告会   |          |        |            | 講義・SGD       | 全担当者      |
| 15                 | 1)   | 小児言語障害の評価・分析(1)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 16                 | 1)   | 小児言語障害の評価・分析(2)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 17                 | 1)   | 小児言語障害の評価・分析(3)  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 18                 | 1)2)   | 地域と言語聴覚士との結びつきを知る：乳幼児健康診査への参加  |          |        |            | S G D        | 全担当者      |
| 19                 | 1)   | 緊急時における対応：BLS講習(1)   |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 20                 | 1)   | 緊急時における対応：BLS講習(2)   |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 21                 | 1)   | 緊急時における対応：BLS講習(3)   |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 22                 | 1)   | 緊急時における対応：BLS講習(4)   |          |        |            | 講義・演習        | 全担当者      |
| 23                 | 1)2)   | 学外総合臨床実習 報告会   |          |        |            | 講義・SGD       | 全担当者      |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |  | 図解 言語聴覚療法技術ガイド(深浦順一 編集主幹)文光堂【978-4-8306-4511-2】 言語聴覚療法 臨床マニュアル(平野哲雄・長谷川賢一・立石恒雄 編集)協同医書出版社【978-4-7639-3049-1】 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編(深浦順一他編)建帛社【978-4-7679-4539-2】 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編(深浦順一他編)建帛社【978-4-7679-4540-8】 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |  | 適宜指示します。   |          |        |            |              |           |

**保健科学部**

**(視機能療法学科)**

**シラバス**

*Syllabus 2020*



|                     |   |          |           |            |              |               |
|---------------------|---|----------|-----------|------------|--------------|---------------|
| 科目名                 | 視能検査学実習Ⅲ  |          | 授業コード     | 121221B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60       |
| 配当学科(学年)            | 視能療法学科(3年)  |          | ナンバリング    | 23C311P04  | AL科目         | ○             |
| 担当者                 | 田村省悟(保・視)、齋藤真之介<br>(保・視)、可児一孝(保・視)、後藤<br>禎久(非常勤講師)  | 開講学<br>期 | 2020年度 前期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態<br>実習・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科医療で活躍できる視能訓練士となるためには、病態評価および治療に結びつく専門的知識および技術、医療従事者として適切な態度の修得が求められる。本科目では、視覚器の構造異常および機能異常を評価できるようになるため、視覚電気生理学検査の原理、測定方法、評価法に関する基本的知識と技能を修得する。加えて、視野検査の評価法および網脈絡膜の画像診断検査に関する基本的知識と技能を修得する。   |          |           |            |              |               |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)網膜電図(ERG)の原理、測定方法、評価法について説明できる。2)視覚誘発電位(VEP)の原理、測定方法、評価法について説明できる。3)眼球電図(EOG)の原理、測定方法、評価法について説明できる。4)電気眼振図(ENG)の原理、測定方法、評価法について説明できる。5)筋電図(EMG)の原理、測定方法、評価法について説明できる。6)疾患と視野との関係について説明することができる。7)光干渉断層計(OCT)の原理、測定方法、評価法について説明できる。8)代表的な網膜・硝子体疾患、視神経疾患の光干渉断層計(OCT)所見について説明できる。9)眼底カメラの原理、撮影方法、評価法について説明できる。10)代表的な網膜・硝子体疾患、視神経疾患の眼底所見について説明できる。11)蛍光眼底造影の原理、評価法について説明できる。12)代表的な網膜疾患、脈絡膜疾患の蛍光眼底造影所見について説明できる。13)視能検査機器の規格、構成、安全管理について説明できる。 |          |           |            |              |               |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、眼科医師(可児)または視能訓練士(可児以外)としての眼科臨床現場における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技能の修得を目的とした授業を行う。  |          |           |            |              |               |
| 評価方法                | 単位認定試験の成績を90%、学習への取り組み姿勢を10%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況より判断する。  |          |           |            |              |               |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 課題として、講義後に講義内容のまとめ、レポートの作成を課すことがある。 毎回の講義プリント、講義内容のまとめ、レポートは各自でファイリングするとともに復習に活用すること。それらは学習効果のフィードバックにおいても使用する。 実習および演習では、臨床症例に基づく検討、臨床問題を含む視能訓練士国家試験問題の検討等を行う。 全出席が単位認定の必須条件となる。 視能検査学実習Ⅰの学内実習ガイダンスで定める態度、身だしなみ、実習使用機器の心得、機器の取り扱い等が順守できない学生には退学を命じるとともに、その日の出席を無効とする。  |          |           |            |              |               |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 2F E-204)   |          |           |            |              |               |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容                               | 授業方法  | 担当  |  |
|--------------------|--|------------------------------------|-------|-----|--|
| 1                  | 1)~5)  | 視覚電気生理学検査に必要な視覚系の構造と機能、検査の種類と基本的知識 | 演 習   | 田 村 |  |
| 2                  | 1)   | 網膜電図(ERG)                          | 演 習   | 田 村 |  |
| 3                  | 1)   | 網膜電図(ERG)                          | 演 習   | 田 村 |  |
| 4                  | 1)   | 網膜電図(ERG)                          | 演 習   | 田 村 |  |
| 5                  | 1)   | 網膜電図(ERG)の実践                       | 演習・実習 | 田 村 |  |
| 6                  | 1)   | 網膜電図(ERG)の実践                       | 演習・実習 | 田 村 |  |
| 7                  | 2)   | 視覚誘発電位(VEP)                        | 演 習   | 田 村 |  |
| 8                  | 2)   | 視覚誘発電位(VEP)                        | 演 習   | 田 村 |  |
| 9                  | 3)   | 眼球電図(EOG)                          | 演 習   | 田 村 |  |
| 10                 | 3)   | 眼球電図(EOG)                          | 演 習   | 田 村 |  |
| 11                 | 4)   | 眼振と電気眼振図(ENG)                      | 演 習   | 田 村 |  |
| 12                 | 4)   | 眼振と電気眼振図(ENG)                      | 演 習   | 田 村 |  |
| 13                 | 4)   | 視運動性眼振(OKN)と他覚的視力                  | 演 習   | 田 村 |  |
| 14                 | 5)   | 筋電図(EMG)                           | 演 習   | 田 村 |  |
| 15                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 16                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 17                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 18                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 19                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 20                 | 6)   | 視野検査と視野所見の読み方                      | 演 習   | 齋 藤 |  |
| 21                 | 7)8)   | 光干渉断層計(OCT)検査                      | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 22                 | 7)8)   | 光干渉断層計(OCT)検査                      | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 23                 | 7)8)   | 光干渉断層計(OCT)検査                      | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 24                 | 9)10)  | 眼底写真撮影                             | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 25                 | 9)10)  | 眼底写真撮影                             | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 26                 | 9)10)  | 眼底写真撮影                             | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 27                 | 11)12)   | 蛍光眼底造影検査                           | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 28                 | 11)12)   | 蛍光眼底造影検査                           | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 29                 | 11)12)   | 蛍光眼底造影検査                           | 演習・実習 | 後 藤 |  |
| 30                 | 13)  | 視能検査機器の規格、構成、安全管理                  | 演 習   | 可 児 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 視能学エキスパート 視能検査学(和田直子・小林昭子・中川真紀・若山暁美 編集)医学書院【978-4-260-03258-2】視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編集)文光堂【978-4-8306-5539-5】 |                                    |       |     |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 眼科検査ガイド 第2版(根本昭・飯田知弘・近藤峰生・中村誠・山田昌和 編集)文光堂【978-4-8303-5547-0】目で見える臨床視覚電気生理学検査の進めかた(小口芳久)金原出版【978-4-307-35139-3】   |                                    |       |     |  |

|                     |  |          |           |            |              |         |             |
|---------------------|--|----------|-----------|------------|--------------|---------|-------------|
| 科目名                 | 視能検査学実習Ⅳ   |          | 授業コード     | 121471B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |             |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |          | ナンバリング    | 23C312P01  | AL科目         | ○       |             |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)、田村 省吾<br>(保・視)、内田 憲之(保・視)、塚<br>田 貴大(保・視)   | 開講学<br>期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必 修          | 授業形態    | 講義実習・演習・SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 将来、医療・保健・福祉領域で視能訓練士として有為な人材となるためには、医療専門職者としてのマナーや良好なコミュニケーションを構築する態度、視能に関する専門知識や技術が必要である。臨床実習では、知識、技術、態度を統合・補完し、医療専門職者に求められる態度および視能訓練士に求められる専門性の高い実践力や応用力が必要となる。そこで、本科目では臨床実習で必要不可欠となる知識、技術、態度を向上させることを目的としこれまで学習した内容のシミュレーション実習を実施する。また、臨床実習目標、成績評価方法、実習記録、個人情報保護、学生心得について理解する。   |          |           |            |              |         |             |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 患者を想定したシミュレーション実習として視力、屈折、眼圧、動的視野、静的視野、Amsler チャート、中心フリッカ、眼底、眼位、眼球運動、両眼視機能、大型弱視鏡、眼軸長、角膜内皮、涙液、色覚、レンズメータ、角膜形状解析検査について下記項目を行うことができる。 1) 検査目的を説明できる。 2) 検査の適応を説明できる。 3) 機器の構造、検査の原理を説明できる。 4) 検査の流れを説明できる。 5) 被検者への配慮ができる(検査説明、声かけ、誘導など)。 6) 機器を丁寧に扱うことができる。 7) 検査に適した環境および機器の設定ができる。 8) 基本的に忠実に検査を行うことができる。 9) 再現性のある結果をだすことができる。 10) 指定された様式で検査結果を記載することができる。 11) 結果を評価することができる(正常値、正常像を説明できる)。 12) 患者の心理、医療者の心理について説明できる。 13) 医療コミュニケーションについて説明できる。 14) 眼科クレーム対応について説明できる。 15) 臨床実習の概要を説明できる。 16) 高齢患者の身体的特徴から適切な誘導や検査時の注意について SGD で検討し実習を行うことができる。 |          |           |            |              |         |             |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。   |          |           |            |              |         |             |
| 評価方法                | 単位認定試験として、筆記試験と実技試験を行う。筆記試験の成績を40%、実技試験の成績を50%、学習への取り組み姿勢を10%として総合評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況により判断する。全出席を単位認定の必須要件とする。   |          |           |            |              |         |             |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | 本科目は視能検査学実習の総合科目であり、予め講義内容の予習を行うこと。臨床実習ではマニュアル的な発言や動作ではなく個々の患者の状況に応じた対応が求められる。そのため SGD では患者の主訴や特性に応じた誘導、検査説明、検査準備、検査、患者接遇について討論し実習へ移行すること。課題は、毎回の実習課題に取り組み、結果をまとめる。毎回の講義資料および実習課題のまとめは各自でファイリングするとともに復習に活用すること。臨床実習生求められる態度、身だしなみ、実習機器使用の心得、機器の取り扱い等が守られていない学生には退室を命じるとともに、その日の出席を無効とする。   |          |           |            |              |         |             |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00～10:30(場所:3号棟 2階 E-204)  |          |           |            |              |         |             |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                                 | 授業方法   | 担当  |
|----|-------------|--------------------------------------|--------|-----|
| 1  | 15)         | 臨床実習概要: 目標、成績評価方法、実習記録、個人情報保護、学生心得   | 講 義    | 齋 藤 |
| 2  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習①: 視力検査、屈折検査、眼圧検査、検影法      | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 3  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習②: 眼位・眼球運動、両眼視機能検査         | 実習・SGD | 田 村 |
| 4  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習②: 眼位・眼球運動、両眼視機能検査         | 実習・SGD | 田 村 |
| 5  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習③: レンズメータ、角膜形状解析           | 実習・SGD | 内 田 |
| 6  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習③: レンズメータ、角膜形状解析           | 実習・SGD | 内 田 |
| 7  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習④: 視野検査(動的、静的、Amsler チャート) | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 8  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習④: 視野検査(動的、静的、Amsler チャート) | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 9  | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑤: 小児眼科検査、網膜電図             | 実習・SGD | 田 村 |
| 10 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑤: 小児眼科検査、網膜電図             | 実習・SGD | 田 村 |
| 11 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑥: 眼軸長測定検査、角膜内皮細胞検査、涙液検査   | 実習・SGD | 塚 田 |
| 12 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑥: 眼軸長測定検査、角膜内皮細胞検査、涙液検査   | 実習・SGD | 塚 田 |
| 13 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑦: 大型弱視鏡                   | 実習・SGD | 塚 田 |
| 14 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑦: 大型弱視鏡                   | 実習・SGD | 塚 田 |
| 15 | 1)～<br>11)) | 網膜光干渉断層(OCT)による病態評価①                 | 講 義    | 齋 藤 |
| 16 | 1)～<br>11)) | 網膜光干渉断層(OCT)による病態評価②                 | 講 義    | 齋 藤 |
| 17 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑧: 眼底写真撮影、中心フリッカ、色覚        | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 18 | 1)～<br>11)) | シミュレーション実習⑧: 眼底写真撮影、中心フリッカ、色覚        | 実習・SGD | 齋 藤 |

|                    |            |  |        |     |
|--------------------|------------|--|--------|-----|
| 19                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習①:視力検査、屈折検査、眼圧検査、検影法   | 実習・SGD | 内 田 |
| 20                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習①:視力検査、屈折検査、眼圧検査、検影法   | 実習・SGD | 内 田 |
| 21                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習⑩:高齢患者に対する誘導や検査時の注意について SGD を行い実践する  | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 22                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習⑩:高齢患者に対する誘導や検査時の注意について SGD を行い実践する  | 実習・SGD | 齋 藤 |
| 23                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習③:視野検査(動的、静的、Amsler チャート)  | 実習・SGD | 田 村 |
| 24                 | 1)~<br>11) | シミュレーション実習③:視野検査(動的、静的、Amsler チャート)  | 実習・SGD | 田 村 |
| 25                 | 12)        | 臨床心理、医療コミュニケーション   | 講義・演習  | 内 田 |
| 26                 | 12)        | 手紙と電話のマナー  | 講義・演習  | 内 田 |
| 27                 | 13)        | 眼科クレーム対応   | 講義・演習  | 塚 田 |
| 28                 | 14)        | 眼科臨床医療英語   | 講 義    | 塚 田 |
| 29                 | 1)~<br>11) | 総合実習①  | 実 習    | 全 員 |
| 30                 | 1)~<br>11) | 総合実習②  | 実 習    | 全 員 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |            | ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン 患者対応マナーのランクアップ教本・決定版(小山美智子)【ISBN978-4-87058-461-7】 OCT 便利手帳(白神史雄)メジカルビュー【ISBN978-4-7583-1096-3】   |        |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |            | 視能学エキスパート 視能検査学(公益社団法人 日本視能訓練士協会)医学書院【978-4-260-03258-2】 理解を深めよう 視野検査(松本 長太 監修)金原出版【978-4-307-35133-1】 眼科検査ガイド第2版(根木 昭 監修)文光堂【978-4-8306-5547-0】 眼科検査法ハンドブック 第4版(小口芳久、澤充、大月洋、湯澤美都子 編)医学書院【978-4-260-13780-5】 |        |     |

| 科目名                 | 視能障害学Ⅳ  |                                       |              | 授業コード  | 121224D201 | 単位数<br>(時間数) | 4<br>60 |
|---------------------|---|---------------------------------------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   |                                       |              | ナンバリング | 23C312P03  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 可児 一孝(保・視)、中馬 秀樹<br>(非常勤講師)、尾崎 峯生(非常<br>勤講師)、田淵 昭雄(非常勤講<br>師)、中崎 秀二(非常勤講師)  | 開講学<br>期                              | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科医療で活躍できる視能訓練士となるためには、病態評価および治療に必要な専門的知識の修得が求められる。本科<br>目では、神経眼科疾患を取り上げ、病態評価に必要な臨床症状および検査所見に関する基本的知識を修得する。さらに、眼<br>科臨床で高頻度に見られる緑内障および白内障を取り上げ、問診から治療に至る各過程において、視能訓練士に必要な知<br>識および技術を修得する。  |                                       |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視神経交叉部、外側膝状体、視放線、後頭葉の疾患における症状および検査所見について説明できる。 2)神経眼科に関<br>わる画像検査の原理および基本的評価法について説明できる。 3)視神経疾患(視神経炎、視神経症、うっ血乳頭)の原因、<br>症状、検査所見について説明できる。 4)相対的瞳孔求心路障害を説明できる。 5)瞳孔の異常を伴う主要眼疾患の症状およ<br>び検査所見について説明できる。 6)瞳孔不同の原因を説明できる。 7)対光反射・近見反応乖離を説明できる。 8)眼振を伴<br>う主要眼疾患の症状および検査所見について説明できる。 9)視覚情報処理、高次視機能障害の症状について説明できる。<br> 10)小児における主要眼疾患の症状および検査所見について説明できる。 11)緑内障の問診、検査、診察、治療における留<br>意点を説明できる。 12)眼球運動障害を伴う主要眼疾患の症状および検査所見について説明できる。 13)眼運動神経麻痺<br>の症状および検査所見について説明できる。 14)重症筋無力症および眼窩壁骨折の眼症状の発生機序、症状、検査所見に<br>ついて説明できる。 15)白内障の問診、検査、診察、治療における留意点を説明できる。 |                                       |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、眼科医師としての眼科臨床現場における実務経験に基づき、眼疾患の病態評価に必要な基本的知識の修<br>得を目的とした授業を行う。  |                                       |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 単位認定試験の成績を90%、学習への取り組み姿勢を10%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提<br>出状況より判断する。  |                                       |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 課題として、眼疾患に関する英語プレゼンテーションに取り組む。 英語プレゼンテーションで作成した資料は、毎回の講義プ<br>リントとともに各自でファイリングし、復習に活用すること。それらは英語プレゼンテーション後の学習のフィードバックにおいて<br>も使用する。 各回の講義は2コマとする。  |                                       |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00～10:30(場所:3号棟 2F E-204)   |                                       |              |        |            |              |         |
| 授業計画                |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 回<br>数              | SBOs<br>No.   | 授業内容                                  |              |        | 授業方法       | 担当           |         |
| 1                   | 1)~3)   | 視路疾患とその評価(X線、CT検査、MRI検査、超音波検査Bモードを含む) |              |        | 講 義        | 可 児          |         |
| 2                   | 1)~3)   | 視路疾患とその評価(X線、CT検査、MRI検査、超音波検査Bモードを含む) |              |        | 講 義        | 可 児          |         |
| 3                   | 3)4)  | 視神経疾患                                 |              |        | 講 義        | 中 馬          |         |
| 4                   | 4)~7)   | 瞳孔疾患                                  |              |        | 講 義        | 中 馬          |         |
| 5                   | 8)  | 眼 振                                   |              |        | 講 義        | 中 馬          |         |
| 6                   | 9)  | 高次視機能障害                               |              |        | 講 義        | 中 馬          |         |
| 7                   | 10)   | 小児眼科                                  |              |        | 講 義        | 田 淵          |         |
| 8                   | 10)   | 小児眼科                                  |              |        | 講 義        | 田 淵          |         |
| 9                   | 10)   | 小児眼科                                  |              |        | 講 義        | 田 淵          |         |
| 10                  | 10)   | 小児の神経眼科                               |              |        | 講 義        | 尾 崎          |         |
| 11                  | 11)   | 緑内障の診断と治療                             |              |        | 講 義        | 尾 崎          |         |
| 12                  | 12)~14)   | 眼球運動障害                                |              |        | 講 義        | 尾 崎          |         |
| 13                  | 12)~14)   | 眼球運動障害(英語プレゼンテーションを含む)                |              |        | 講義・演習      | 尾 崎          |         |
| 14                  | 15)   | 白内障の診断と治療                             |              |        | 講 義        | 中 崎          |         |
| 15                  | 15)   | 白内障の診断と治療                             |              |        | 講 義        | 中 崎          |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 0                   |   |                                       |              |        |            |              |         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 神経眼科診療のてびき 病歴と診察から導く鑑別疾患 第2版(石川 弘) 金原出版【978-4-307-35169-0】  |                                       |              |        |            |              |         |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 神経眼科学を学ぶ人のために 第2版(三村 治) 医学書院【978-4-260-03218-6】 標準眼科学 第14版<br>(中澤 満・村上 晶・園田 康平 編集) 医学書院【978-4-260-03657-3】  |                                       |              |        |            |              |         |

|                     |   |          |              |        |            |              |           |
|---------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 視能リハビリテーション学演習  |          |              | 授業コード  | 121216B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60   |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   |          |              | ナンバリング | 23C311P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)、山田 敏夫<br>(非常勤講師)、林 京子(非常勤<br>講師)、外部講師   | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 須        | 授業形態         | 講義・演習・SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 障害者基本法で定められている「障がい者の自立と社会参加」へ向けて視能訓練士として必要な知識の修得と視能リハビリテーションに関わる技術を修得する。  |          |              |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)世界と日本における視覚障がいの現状を説明できる。 2) QOLについて説明できる。 3) QOVについて説明できる。 4) ノーマライゼーションについて説明できる。 5) 視覚障がいの関係法規とその背景を説明できる。 6) 視覚障がいの総合的リハビリテーションを説明できる。 7) 視覚障がい者に対する公的支援を説明できる。 8) 原因疾患と視覚障がいを説明できる。 9) 視能リハビリテーションにおける視能評価を理解し実践できる。 10) 視覚障がいの行動評価と QOL 評価を理解できる。 11) 視覚障がいの歩行援助を行うことができる。 12) 視覚障がいの日常生活における不自由度を述べるができる。 13) 視覚障がいの日常生活動作の援助指導を述べるができる。 14) 視覚情報端末を用いたロービジョンケアを説明できる。 15) 重複障がい児への対応と視能訓練の実際を説明できる。 16) 視覚障がいに対する補助具の適応、種類、特徴、有用性を説明できる。 17) バリアフリー、ユニバーサルデザインについて説明できる。 |          |              |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能リハビリテーションに関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。  |          |              |        |            |              |           |
| 評価方法                | 筆記試験の成績を90%、学習への取り組み姿勢を10%として総合評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況により判断する。全出席を単位認定の必須要件とする。筆記試験は各学期末に単位認定試験を実施し前期試験と後期試験の総括的評価を行う。  |          |              |        |            |              |           |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 本科目は視覚障害者を対象とした誘導、検査手技、ロービジョンケアの習得を目標とする。そのため SGD では患者の主訴や特性に応じた誘導、検査説明、検査準備、検査、患者接遇について討論し実習へ移行すること。課題は実習講義後の課題に取り組み、結果をまとめる。毎回の講義資料および実習課題のまとめは各自でファイリングするとともに復習に活用すること。視能検査学実習Ⅰの学内実習ガイダンスで定める態度、身だしなみ、実習機器使用の心得、機器の取り扱い等が守られていない学生には退室を命じるとともに、その日の出席を無効とする。   |          |              |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 E-204)外部講師についてはメール等で対応する。   |          |              |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.   | 授業内容   | 授業方法      | 担当   |
|----|---------------|--|-----------|------|
| 1  | 1)2)<br>3)4)  | 視能リハビリテーション総論(1):疫学と関係法規                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 2  | 5)6)<br>7)16) | 視能リハビリテーション総論(2):視覚障がいの総合的リハビリテーション                    | 講 義       | 齋 藤  |
| 3  | 8)            | 視覚障がいと原因疾患   | 講 義       | 齋 藤  |
| 4  | 10)           | 視能と行動の評価:行動と QOL の評価                                   | 講 義       | 齋 藤  |
| 5  | 9)            | 視能リハビリテーションにおける視能評価①(概要と演習)                            | 講義・実習・SGD | 齋 藤  |
| 6  | 9)            | 視能リハビリテーションにおける視能評価②(概要と演習)                            | 講義・実習・SGD | 齋 藤  |
| 7  | 9)            | 視能リハビリテーションにおける視能評価③(概要と演習)                            | 講義・実習・SGD | 齋 藤  |
| 8  | 14)           | 視覚情報端末によるロービジョンケア(拡大読書器、タッチスクリーン端末)                    | 講義・演習     | 齋 藤  |
| 9  | 11)           | 歩行援助の基本(1):視覚障害者に対するガイドヘルプ①(概要と演習)                     | 講義・演習     | 外部講師 |
| 10 | 11)           | 歩行援助の基本(1):視覚障害者に対するガイドヘルプ②(概要と演習)                     | 講義・演習     | 外部講師 |
| 11 | 11)           | 歩行援助の基本(1):視覚障害者に対するガイドヘルプ③(概要と演習)                     | 講義・演習     | 外部講師 |
| 12 | 11)           | 歩行援助の基本(1):視覚障害者に対するガイドヘルプ④(概要と演習)                     | 講義・演習     | 外部講師 |
| 13 | 11)           | 歩行援助の基本(2):視覚障害者の歩行訓練①(概要と演習)                          | 講義・演習     | 外部講師 |
| 14 | 11)           | 歩行援助の基本(2):視覚障害者の歩行訓練②(概要と演習)                          | 講義・演習     | 外部講師 |
| 15 | 12)13)        | 視覚障害者の生活活動の支障とリハビリテーションの実際①                            | 講 義       | 外部講師 |
| 16 | 12)13)        | 視覚障害者の生活活動の支障とリハビリテーションの実際②                            | 講 義       | 外部講師 |
| 17 | 15)           | 重複障がい児に対する視能検査と評価(1)                                   | 講義・演習     | 林    |
| 18 | 15)           | 重複障がい児に対する視能検査と評価(2)                                   | 講義・演習     | 林    |
| 19 | 15)           | 重複障がい児に対する視能検査と評価(3)                                   | 講義・演習     | 林    |
| 20 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(1):非光学的補助具の適応、有用性について SGD とプレゼンテーションを行う。 | 講義・演習・SGD | 山 田  |
| 21 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(1):非光学的補助具②                              | 講義・演習・SGD | 山 田  |
| 22 | 17)           | 視覚障害者に有効な建築と空間デザイン:ユニバーサルデザインの実際                       | 講 義       | 山 田  |
| 23 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具①                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 24 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具②                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 25 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具③                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 26 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具④                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 27 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具⑤                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 28 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(2):光学的補助具⑥                               | 講 義       | 齋 藤  |
| 29 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(3):遮光眼鏡①                                 | 講義・演習     | 外部講師 |
| 30 | 16)           | 視覚補助具の利用とその原理(3):遮光眼鏡②                                 | 講義・演習     | 外部講師 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 新しいロービジョンケア(山本 修一)メジカルビュー社【ISBN:978-4758316354】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 視能学第2版(丸尾敏夫)文光堂【978-4-8306-5539-5】|専門医のための眼科診療クオリファイ26 ロービジョンケアの実際(山本修一)中山書店【ISBN:978-4-521-73923-6】|ロービジョンの総合的リハビリテーション(田淵昭雄)自由企画出版【978-4-88052-013-1】|眼科プラクティス14 ロービジョンケアガイド(樋田哲夫)文光堂【978-4-8306-5571-5 C3047】|視覚障害者介護技術シリーズ3 初めてのガイド 全国視覚障害者情報提供施設協会【ISBN978-4-86055-512-2】

|                     |   |      |           |        |            |              |         |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 視能矯正・訓練学演習Ⅱ   |      |           | 授業コード  | 121220B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 23C312P04  | AL科目         |         |
| 担当者                 | 沼田 公子(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 有能な視能訓練士となるために、弱視・斜視・麻痺性斜視の模擬症例について POS 方式に従って患者のプロフィール、検査結果の評価を行い、症例の問題点を抽出して鑑別診断に必要な検査や疾患の治療方針、その他の問題点に対するプラン作成の技術を学ぶことを通じ、臨床における診療の取り組み方の基本を修得する。また模擬症例で実施している検査や自己が立案したプランで実施する検査の原理や手技についても確認を行う。授業は小グループディスカッションで進める。”  |      |           |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)患者のプロフィール、経過および検査結果から病態を説明できる。2)類似疾患鑑別のために必要な検査を述べることができる。3)検査の原理を説明できる。4)症例の問題点解決の具体的方法を述べるができる。5)症例の全体像から治療予後などを含めた考察を文章で述べるができる。6)症例の経過中に、実践された検査・治療法とその結果について考察することができる。7)与えられた課題を解決するための実践的・論理的な手法を考える(解決策を考える)。8)プレゼンテーションを通じて SGD で検討した症例の問題点・治療プランを説明できる。9)臨床の斜視検査例ビデオ視聴を通じて場面に応じた患者への声掛けなど患者対応を知る。 |      |           |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(沼田)は、臨床現場(総合病院)での 25 年の実務経験に基づき、症例の評価、類似疾患との鑑別に必要な検査、疾患の治療に必要な知識の修得を目的とした授業を行う。   |      |           |        |            |              |         |
| 評価方法                | ”各回の授業で与えられた模擬症例について課題への取り組む姿勢およびグループで検討、考察して提出したレポートを 20%、単位認定試験の評価を 80%として総合的評価を行う。各グループへ与える評価(20%)はグループに所属する学生全員を同一評価とする。”   |      |           |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | ”原則として全出席とする。2 年次および 3 年前期の斜視・弱視関連の授業および実習内容を復習しておくこと。視能学、実習関連の教科書、視能矯正・訓練学演習Ⅰ、実習関連の配布資料、ノート類を持参すること。”  |      |           |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 講義・会議時間以外の在室中   |      |           |        |            |              |         |

| 授業計画               |             |                                      |  |  |           |     |  |
|--------------------|-------------|--------------------------------------|--|--|-----------|-----|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容                                 |  |  | 授業方法      | 担当  |  |
| 1                  | 1~6)        | 弱視の模擬症例について検討、考察する。(1)               |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 2                  | 1)~5)       | 弱視の模擬症例について検討、考察する。(1)               |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 3                  | 1)~5)       | 弱視の模擬症例について検討、考察する。(2)               |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 4                  | 1)~5)       | 弱視の模擬症例について検討、考察する。(2)               |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 5                  | 1)~5)       | 内斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 6                  | 1)~5)       | 内斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 7                  | 1)~5)       | 内斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 8                  | 1)~5)       | 内斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 9                  | 1)~5)       | 外斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 10                 | 1)~5)       | 外斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 11                 | 1)~5)       | 外斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 12                 | 1)~5)       | 外斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)              |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 13                 | 1)~5)       | 麻痺性斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 14                 | 1)~5)       | 麻痺性斜視の模擬症例について検討、考察する。(1)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 15                 | 1)~5)       | 麻痺性斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)            |  |  | S G D     | 沼 田 |  |
| 16                 | 1)~5)       | 麻痺性斜視の模擬症例について検討、考察する。(2)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 17                 | 1)~5)       | 斜視特殊型の模擬症例について検討、考察する。(1)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 18                 | 1)~5)       | 斜視特殊型の模擬症例について検討、考察する。(1)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 19                 | 1)~5)       | 斜視特殊型の模擬症例について検討、考察する。(2)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 20                 | 1)~5)       | 斜視特殊型の模擬症例について検討、考察する。(2)            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 21                 | 7)          | 与えられた課題について SDG を行い、プレゼンテーションの準備をする。 |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 22                 | 7)          | 与えられた課題について SDG を行い、プレゼンテーションの準備をする。 |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 23                 | 8)          | 与えられた課題のプレゼンテーションを行う。                |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 24                 | 6)          | 与えられた課題のプレゼンテーションを行う。                |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 25                 | 5)6)        | 模擬カルテ症例のまとめ、考察(1)                    |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 26                 | 5)6)        | 模擬カルテ症例のまとめ、考察(1)                    |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 27                 | 5)6)        | 模擬カルテ症例のまとめ、考察(2)                    |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 28                 | 5)6)        | 模擬カルテ症例のまとめ、考察(2)                    |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 29                 | 9)          | 斜視検査ビデオ視聴                            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 30                 | 9)          | 斜視検査ビデオ視聴                            |  |  | 講義・演習・SGD | 沼 田 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。                               |  |  |           |     |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 視能学第 2 版 丸尾敏夫ら編                      |  |  |           |     |  |

|     |          |       |            |              |         |
|-----|----------|-------|------------|--------------|---------|
| 科目名 | 視能学総合演習Ⅰ | 授業コード | 120446B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
|-----|----------|-------|------------|--------------|---------|

|                 |  |      |              |        |           |      |       |
|-----------------|--|------|--------------|--------|-----------|------|-------|
| 配当学科(学年)        | 視機能療法学科(3年)  |      |              | ナンバリング | 23C312P07 | AL科目 | ○     |
| 担当者             | 山本 隆一(葉・葉)、鬼塚 信(保・視)、川野純一(保・視)、沼田公子(保・視)、田村省悟(保・視)、内田憲之(保・視)、塚田貴大(保・視)、齋藤真之介(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 必修        | 授業形態 | 講義・演習 |
| 授業の概要・一般目標(GIO) | 眼疾患や斜視・弱視の診断・治療につながる有用かつ正確な病態評価が行えるようになるために、1～2年次に学習した医学の基礎知識から視能の専門知識までを補完、統合し、臨床との関連性を考察していくことで、眼科臨床に役立つ実践的な知識を修得する。   |      |              |        |           |      |       |
| 到達目標(SBOs)      | 1) 人体の構造と機能及び心身の発達加齢について説明できる。 2) 疾病(主として全身疾患や感染症)と障害について説明できる。 3) 解剖生理について人体を構成する各臓器の構造と機能を説明できる。 4) 保健医療福祉とリハビリテーションについて視能訓練士として必要な関係法規を説明できる。 5) 両眼視機能と眼球運動について説明できる。 6) 視覚生理学の基礎では視力・光覚・色覚など人の眼の機能について説明できる。 7) 光学/屈折調節/屈折矯正では眼鏡やコンタクトレンズに関わる基礎的項目を説明できる。 8) 視野異常/検査では視野についての基本的項目と検査手技を説明できる。 9) 眼科検査学では眼科検査の原理、方法、評価について説明できる。 10) 眼科薬理では眼科で使用する薬物の作用、副作用、禁忌について説明できる。 11) 眼疾病では眼疾患の病態生理とその病態を評価するために必要な検査について説明できる。 12) 神経眼科では眼球運動障害や瞳孔異常など神経眼科学的な疾患が説明できる。 13) 斜視検査では両眼視機能や眼球運動の検査手技と病態別の特徴について説明できる。 14) 斜視治療について説明できる。 15) 斜視各型では共同性斜視の病態と鑑別方法などが説明できる。 16) 弱視では弱視各型の定義、原因、臨床所見について説明できる。 17) ロービジョンでは障害認定に関する方法や対応について説明できる。 18) 臨床心理について説明できる。 19) 弱視訓練では弱視の機能回復のための方法が説明できる。 20) 斜視訓練では斜視の機能回復のための方法が説明できる。 |      |              |        |           |      |       |
| 実務経験のある教員による教育  | 各種の専門家として長年にわたり教育・研究・臨床に携わっている教員により行う。具体的には沼田は長年にわたる臨床経験を有する。田村は長年にわたる臨床経験と産学共同の検診業務に関する経験を有する。内田は長年にわたる眼鏡関連の業務と臨床経験を有する。塚田は長年にわたる大学病院での実務的経験を有する。齋藤は長年にわたる一般眼科での実務的経験を有する。これらの実務的経験を有する教員が主となり本講義を展開する。   |      |              |        |           |      |       |
| 評価方法            | 単位認定試験(70%)と各単元で実施する理解度確認テスト(30%)を併せた総合的評価を行う。   |      |              |        |           |      |       |
| 準備学習・履修上の注意等    | 1～2年次で使用した教科書・配布資料などに眼を通したうえで臨むこと。尚、総合演習①～⑤の理解度確認テストの結果を書く個別にフィードバックを行い、また自己学習と講義内容とをリンクさせ総合的理解をより向上させるために平素からの自己学習を必要とする。   |      |              |        |           |      |       |
| オフィスアワー         | 各担当教員のオフィスアワーに準ずる。   |      |              |        |           |      |       |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs No.        | 授業内容                                | 授業方法  | 担当 |
|----|-----------------|-------------------------------------|-------|----|
| 1  | 1)～20)          | 視能訓練士として知っておくべき知識を知る。①              | 演習    | 内田 |
| 2  | 1)～20)          | 視能訓練士として知っておくべき知識を知る。②              | 演習    | 内田 |
| 3  | 1)～5),7)        | 総合演習①(基礎医学/眼の解剖と整理/外眼筋両眼視/光学の基礎)    | 演習    | 内田 |
| 4  | 1)              | 基礎医学大要(人体の機能と構造)についてまとめる。           | 講義・演習 | 川野 |
| 5  | 1)2)            | 基礎医学大要(心身の発達/疾病と障害)についてまとめる。        | 講義・演習 | 川野 |
| 6  | 4)              | 基礎医学大要(視能訓練士法・保健医療福祉・安全管理/医療面接)     | 講義・演習 | 川野 |
| 7  | 3)              | 眼の解剖生理についてまとめる。                     | 講義・演習 | 川野 |
| 8  | 5)              | 外眼筋の作用/眼球運動についてまとめる。                | 講義・演習 | 田村 |
| 9  | 5)              | 輻湊と開散/AC/A比/両眼視についてまとめる。            | 講義・演習 | 田村 |
| 10 | 7)              | 光学の基礎(幾何光学/眼球光学/プリズム)についてまとめる。      | 講義・演習 | 内田 |
| 11 | 6)7)8)9)        | 総合演習②(屈折調節検査/視覚生理/視野異常検査/眼科検査)      | 演習    | 齋藤 |
| 12 | 7)              | 屈折調節検査/角膜形状解析についてまとめる。              | 講義・演習 | 内田 |
| 13 | 6)              | 視覚生理(形態覚・色覚・光覚)についてまとめる。            | 講義・演習 | 田村 |
| 14 | 8)              | 視野異常についてまとめる。                       | 講義・演習 | 田村 |
| 15 | 9)              | 眼科一般検査/電気生理についてまとめる。                | 講義・演習 | 齋藤 |
| 16 | 7)10)11)15)     | 総合演習③(屈折矯正/眼科薬理/視能障害/斜視各型)          | 演習    | 塚田 |
| 17 | 7)              | 屈折矯正についてまとめる。                       | 講義・演習 | 内田 |
| 18 | 10)             | 眼科薬理についてまとめる。                       | 講義・演習 | 内田 |
| 19 | 11)             | 視能障害についてまとめる。                       | 講義・演習 | 塚田 |
| 20 | 15)             | 斜視各型についてまとめる。                       | 講義・演習 | 田村 |
| 21 | 13)16)          | 総合演習④(弱視各型検査/眼球運動障害/斜視検査(眼/斜視検査(両)) | 演習    | 田村 |
| 22 | 16)             | 弱視各型検査についてまとめる。                     | 講義・演習 | 田村 |
| 23 | 13)             | 眼球運動障害を伴わない斜視についてまとめる。              | 講義・演習 | 塚田 |
| 24 | 13)             | 斜視検査(眼球運動検査)についてまとめる。               | 講義・演習 | 田村 |
| 25 | 13)             | 斜視検査(両眼視機能検査)についてまとめる。              | 講義・演習 | 田村 |
| 26 | 12)14)17)19)20) | 総合演習⑤(神経眼科/ロービジョン/視能訓練/斜視治療)        | 演習    | 内田 |
| 27 | 12)             | 神経眼科についてまとめる。                       | 講義・演習 | 塚田 |
| 28 | 17)             | ロービジョンについてまとめる。                     | 講義・演習 | 齋藤 |
| 29 | 19)20)          | 視能訓練についてまとめる。                       | 講義・演習 | 塚田 |
| 30 | 14)             | 斜視治療(斜視の光学的治療/斜視手術)についてまとめる。        | 講義・演習 | 沼田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】  
 視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編) 文光堂【978-4-8306-5539-5】|標準眼科学 第12版(大野重昭 他) 医学書院【978-4-260-01651-3】|屈折異常とその矯正 第6版(所敬) 金原出版【978-4-307-35159-1】|理解を深めよう 視力検査 屈折検査(所敬 監修) 金原出版

|                    |  |
|--------------------|--|
|                    | 【978-4-307-35132-4】理解を深めよう 視野検査 (松本 長太 監修) 金原出版【978-4-307-35133-1】     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 視能学エキスパート視能検査学(医学書院)【978-4-260-03258-2】、視能訓練学(医学書院)【978-4-260-03223-0】 |



|                     |  |                                |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------------------------------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 屈折学特論演習  |                                |           | 授業コード  | 121172A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)  |                                |           | ナンバリング | 23C412P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内田 憲之(保・視)、沼田 公子<br>(保・視)、塚田 貴大(保・視)   | 開講学期                           | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 屈折学特論演習では、1年次から3年次までに得た光学的基礎知識を礎とし、一人ひとりの患者の視生活に合わせ、屈折矯正法の目的・適応・方法の選択・効果判定などの一連の総合的判断ができるようになるために、また、患者の“見る”をプロデュースするための基本的な知識と技術やマナーを修得することを目標とする。  |                                |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 斜視患者の年齢に応じた態度を行うこと、守るべきマナーが説明できる。</li> <li>2) 斜視患者の主訴から検査法とそのプランニングが行える。</li> <li>3) 斜視患者への問診により病歴・診療録の記録と医師への報告が行える。</li> <li>4) 斜視患者の心理を理解し、配慮が行える。</li> <li>5) 屈折矯正に関わる薬理の使用用途が説明できる。</li> <li>6) 円錐角膜へコンタクトレンズを用いた治療と合わせ方が説明できる。</li> <li>7) 心因性視力障害や詐盲等に対する検査法と対応が説明できる。</li> <li>8) 臨床で起こる実際の症例から事前の対応を考える。</li> <li>9) 問診から想定される検査法と対処法が説明できる。</li> <li>10) 眼鏡やコンタクトレンズの処方箋の取扱いと問題点が説明できる。</li> <li>11) 両眼開放視力検査の意義と検査の方法について説明できる。</li> <li>12) 特殊眼鏡に対する屈折矯正が説明できる。</li> </ol> |                                |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 沼田は総合病院で25年にわたる臨床経験および数多くの臨床実習指導者としての経験を有している。塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士業務および総合病院、眼科医院への外部勤務を8施設の経験を有している。内田は、14年の眼鏡関連業界での業務および、8年間の眼科での臨床経験を有している。各教員がそれぞれの分野で、その専門性を活かした講義を展開する。  |                                |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 演習科目であることから全出席および無遅刻を原則とする。期末試験(論述問題を含む)の成績を重視(90%)するが、学習への取り組み姿勢も評価(10%)する。学習への取り組み姿勢は、確認試験や課題(レポート)の提出状況から判断する。  |                                |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 本講義は、臨床実習後に行われる講義であることから、より臨床に即した内容となっていることから、1年次～3年次までに学んだ眼球の解剖など基礎的知識から眼疾患やそれに関連する総合的知識が求められる。SGD(スモールグループディスカッション)で議論した内容は、まとめた上で後日提出したものを理解度確認のためのフィードバックに使用するため、記録・保管を行うこと。   |                                |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 在室中、いつでも。  |                                |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |                                |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                        |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 5)~9)  | 屈折矯正に関わる薬理的症例検討                |           |        |            | 演 習          | 塚 田       |
| 2                   | 5)~9)  | コンタクトレンズを用いた円錐角膜に対する屈折矯正の症例検討  |           |        |            | 演 習          | 塚 田       |
| 3                   | 5)~9)  | 心因性視力障害や詐盲等に対する症例検討            |           |        |            | 演 習          | 塚 田       |
| 4                   | 5)~9)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。① |           |        |            | 演 習          | 塚 田       |
| 5                   | 9)10)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。② |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 6                   | 9)10)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。③ |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 7                   | 9)10)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。④ |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 8                   | 9)10)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。⑤ |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 9                   | 9)10)  | 一般的な臨床的事例から患者に対する対応と屈折矯正を考える。⑥ |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 10                  | 11)  | 両眼開放視力検査に関する実践的な測定法を考える。       |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 11                  | 12)  | 特殊眼鏡を希望する患者に対する対応              |           |        |            | 演 習          | 内 田       |
| 12                  | 1)~4)  | 斜視患者に対する眼鏡処方の症例検討①             |           |        |            | 演 習          | 沼 田       |
| 13                  | 1)~4)  | 斜視患者に対する眼鏡処方の症例検討②             |           |        |            | 演 習          | 沼 田       |
| 14                  | 1)~4)  | 斜視患者に対する眼鏡処方の症例検討③             |           |        |            | 演 習          | 沼 田       |
| 15                  | 1)~4)  | 斜視患者に対する眼鏡処方の症例検討④             |           |        |            | 演 習          | 沼 田       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | すぐに役立つ臨床で学ぶ 眼鏡処方の実際(所 敬・梶田 雅義)金原出版【978-4-307-35140-9】  |                                |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 屈折異常とその矯正  |                                |           |        |            |              |           |

|                     |   |  |            |              |           |    |
|---------------------|---|--|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 保育  | 授業コード  | 120929B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   | ナンバリング   | 23C311P01  | AL科目         | ○         |    |
| 担当者                 | 安原 青兒(非常勤講師)  | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 視機能療法学科における本科目の目標は、環境を通して行われる養護と教育が一体となった保育の本質と、保育所の機能や役割を知り、将来、視能訓練士の臨床現場での業務に役立つよう、発達段階に沿った一般的な乳幼児期の子どもの成長及び心と身体の発達、子どもへの声掛けや保育的支援方法、保護者の子育てのニーズ等、基礎的知識を修得することである。加えて保育園での園児観察を通して、子どもの生活と関わり方の実際を理解する。また障害児や病児に対する理解や対応、保育教材の活用についても学んでいく。   |  |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 保育の理念、概要を説明できる。<br>2) 保育所の社会的機能や役割を法的根拠も含めて説明できる。<br>3) 保育所保育の特性や保育職員の主な業務などを説明できる。<br>4) 年齢別の子どもの心身の発達について理解し、年齢に合わせた保育支援について説明できる。<br>5) 乳幼児を持つ保護者の保育ニーズを理解し、支援のあり方を説明できる。<br>6) 保育所での実践演習(乳幼児とのかかわり)を通して、発達段階や子どもの年齢に沿った支援方法を身につける。<br>7) 障害種別のそれぞれの特性や保育的対応について、基礎的に理解し説明ができる。<br>8) 病児、障害児を含め、特別支援を必要とする子どもへの対応と保育教材等の活用方法を説明できる。 |  |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |  |            |              |           |    |
| 評価方法                | 毎回の授業では自筆ノートへのまとめと小レポートによるフィードバックを行い、学んだことを客観的に振り返り整理する。保育現場への複数回の学外演習では、事前・事後指導も含めて全員参加とし、事後レポートを課す。最終的に、自筆ノートの提出、学外演習参加、SGDへの積極的参加、各種レポートの提出、単位認定試験を総合的に評価する。評価項目とその割合・基準などは初回授業で説明する。  |  |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 専用のノートを1冊用意し、1回の授業につき60分を目安にノートへのまとめと予習・復習を丁寧に行うこと。学外演習として乳幼児にかかわる機会があるので、全般を通して体調管理、身だしなみ、マナーに十分気を付けること。体調不良その他で対応しにくい者は、学外演習への参加を認めないことがある。   |  |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 授業等のない時間は随時、教務課を通して対応する。  |  |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |  |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)  | 【授業概要】<br>保育の概要と授業の進め方、評価方法等を理解する。                   |            |              | 講義        | 安原 |
| 2                   | 1)2)  | 【保育所の理解1】<br>保育所の社会機能や役割、法的根拠、保育の特性について理解する。         |            |              | 講義        | 安原 |
| 3                   | 1)2)3)  | 【保育所の理解2】<br>保育所の生活の流れや保育職員の業務や支援の考え方について理解する。       |            |              | 講義        | 安原 |
| 4                   | 3)4)  | 【子ども理解1】<br>子どもの年齢や発達段階の違い、特徴などを理解する。                |            |              | 講義        | 安原 |
| 5                   | 3)4)  | 【子ども理解2】<br>環境を通して行われる保育内容と子どもの集団特性について理解する。         |            |              | 講義        | 安原 |
| 6                   | 3)4)6)  | 【子ども理解3】<br>遊びを通して行われる保育内容と遊戯療法の個別支援について理解する。        |            |              | 講義        | 安原 |
| 7                   | 4)5)  | 【保護者支援】<br>保育における保護者の支援ニーズ、また支援の方法について理解する。          |            |              | 講義        | 安原 |
| 8                   | 7)  | 【障害児の理解と対応】<br>障害種別の理解とその特性、およびその支援の方法について理解する。      |            |              | 講義        | 安原 |
| 9                   | 1)~6)   | 【学外演習1】<br>保育所における保育の実際。演習の事前指導として内容や心構えを学ぶ。         |            |              | 講義        | 安原 |
| 10                  | 2)~6)   | 【学外演習2】<br>保育所における保育の実際。乳児(0, 1, 2歳児)への保育を体験的に学ぶ。    |            |              | 演習        | 安原 |
| 11                  | 2)~6)   | 【学外演習3】<br>保育所における保育の実際。幼児(3, 4, 5歳児)への保育を体験的に学ぶ。    |            |              | 演習        | 安原 |
| 12                  | 1)~6)   | 【学外演習4】<br>保育所における保育の実際。演習の事後指導として体験を総括する。           |            |              | SGD       | 安原 |
| 13                  | 4)5)7)  | 【病児への保育教材の活用1】<br>病児支援のプレパレーションや保育教材の意義、目的、活用法を理解する。 |            |              | 講義        | 安原 |
| 14                  | 4)5)7)<br>8)  | 【病児への保育教材の活用2】<br>病児支援のプレパレーションや保育教材の意義、目的、活用法を理解する。 |            |              | 講義        | 安原 |
| 15                  | 1)~8)   | 【総括】<br>この科目で得た知識や学びを総括し、専門職者としての人間性を理解する。           |            |              | SGD       | 安原 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。   |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 必要に応じて、授業で資料を配布する。                                   |            |              |           |    |

|                     |  |      |          |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | リハビリテーション概論  |      | 授業コード    | 120089a202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(15) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(2年次)   |      | ナンバリング   | 23C311P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 福本 安甫(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | リハビリテーション、ハビリテーションの概念について学ぶ。また、少子高齢化が進行し疾病構造や生活環境が変化する現代社会で、障がいを持った人々が生き甲斐を持って生活を送るために、障がい者やその家族にどのようなアプローチができるかを考える。  |      |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)リハビリテーションの概念および理念について説明できる。<br>2)ICFについて説明できる。<br>3)リハビリテーションの過程および諸段階について説明できる。<br>4)リハビリテーションのチーム・アプローチについて説明できる。<br>5)ADL および QOL について説明できる。<br>6)障害受容について説明できる。<br>7)人間発達とリハビリテーションについて説明できる。<br>8)視覚障害に関する構造と機能について説明できる。<br>9)リハビリテーションの実際について説明できる。 |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | オンデマンド授業のため特になし。   |      |          |            |              |           |
| 評価方法                | 期末試験(論述問題を含む)の成績を重視(94%)するが、学習への取り組み姿勢も評価(6%)する。学習への取り組み姿勢は、確認テストや課題の提出状況から判断する。   |      |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習復習を行うこと。毎回の授業内容に関連させて、視覚障がい者への適応についてノートにまとめる。  |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週月～水曜日 16:00～17:00  |      |          |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                      | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------------------------|----------|----|
| 1  | 1)          | オリエンテーション、リハビリテーションの概念・理念 | 講義       | 福本 |
| 2  | 2)          | 健康と障害(ICF)                | 講義       | 福本 |
| 3  | 3)          | リハビリテーションの過程と諸段階          | 講義       | 福本 |
| 4  | 4)          | リハビリテーションのチーム・アプローチ       | 講義       | 福本 |
| 5  | 5)          | ADL・QOL の概念と評価            | 講義       | 福本 |
| 6  | 6)7)        | 障害受容および人間発達とリハビリテーション     | 講義       | 福本 |
| 7  | 8)          | 視覚障害に関する構造と機能             | 講義       | 福本 |
| 8  | 9)          | リハビリテーションの実際(脳機能)         | 講義       | 福本 |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |
|    |             |                           |          |    |

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。 |

|                     |   |                                     |          |            |              |           |        |
|---------------------|---|-------------------------------------|----------|------------|--------------|-----------|--------|
| 科目名                 | 外眼筋の作用と眼球運動   |                                     | 授業コード    | 121145B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |        |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(2年)   |                                     | ナンバリング   | 23C211P05  | AL科目         | ○         |        |
| 担当者                 | 田村 省悟(保・視)  | 開講学期                                | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義・SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科医療で活躍できる視能訓練士となるためには、専門的知識、技術、態度および眼科医療における実践力を身につけることが求められる。本科目では、視能訓練士に求められる専門的知識のうち、外眼筋の作用、眼球運動のメカニズム、眼位の分類およびAC/A比に関する基本的知識を修得する。   |                                     |          |            |              |           |        |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 外眼筋の形態的特徴について説明できる。<br>2) 各外眼筋の単独作用を説明できる。<br>3) 各外眼筋のともひき筋、直接はりあい筋を述べることができる。<br>4) Fick座標系、単眼運動の法則を説明できる。<br>5) 各外眼筋のともむき筋、間接はりあい筋を述べることができる。<br>6) 両眼離反運動、両眼運動の法則を説明できる。<br>7) 外眼筋の神経支配を説明できる。<br>8) 眼球運動の種類と役割を説明できる。<br>9) 眼位について説明できる。<br>10) 近見反応について説明できる。<br>11) AC/A比を算出および評価することができる。 |                                     |          |            |              |           |        |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、基礎視能矯正学に関する基本的知識の修得を目的とした授業を行う。   |                                     |          |            |              |           |        |
| 評価方法                | 単位認定試験の成績を70%、確認テストの成績を20%、学習への取り組み姿勢を10%として総合的評価を行う。確認テストは、前回の講義内容を復習するため、毎回の講義開始前に実施する。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況より判断する。   |                                     |          |            |              |           |        |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 課題として、毎回の講義後に講義内容のまとめを作成する。毎回の講義プリント、講義内容のまとめ、確認テストは各自でファイリングするとともに復習に活用すること。それらは、毎回の確認テスト後に実施する学習のフィードバックにおいても使用する。SGDでは自身の考えを明確に述べること。疑問があればSGDの時間にグループ単位で質問を行う。  |                                     |          |            |              |           |        |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30  |                                     |          |            |              |           |        |
| 授業計画                |   |                                     |          |            |              |           |        |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |        |
| 1                   | 1)  | 外眼筋の構造、外眼筋の付着部と走行                   |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 2                   | 2)  | 外眼筋の単独作用                            |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 3                   | 2)  | 外眼筋の最大作用                            |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 4                   | 3)4)  | Fick座標系、ともひき筋、直接はりあい筋、単眼運動の法則       |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 5                   | 5)6)  | 両眼共同運動、両眼離反運動、ともむき筋、間接はりあい筋、両眼運動の法則 |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 6                   | 5)  | 両眼共同運動と主作用筋                         |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 7                   | 7)  | 外眼筋の支配神経、外眼筋の収縮メカニズム、外眼筋の位置覚と自己受容器  |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 8                   | 8)  | 眼球運動の種類、固視微動                        |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 9                   | 1)~8)   | 1~8回のまとめ                            |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 10                  | 9)  | 眼位                                  |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 11                  | 10)   | 輻湊・開散、調節、縮瞳                         |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 12                  | 11)   | AC/A比の定義、種類、影響因子                    |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 13                  | 11)   | AC/A比の測定法(gradient法、大型弱視鏡を用いた方法)    |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 14                  | 11)   | AC/A比の正常と異常                         |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 15                  | 9)~11)  | 10~14回のまとめ                          |          |            | 講義・SGD       | 田村        |        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 視能学第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編集) 文光堂【978-4-8306-5539-5】  |                                     |          |            |              |           |        |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 視能矯正学 改訂第3版(丸尾敏夫 編集) 金原出版【978-4-307-35152-2】  |                                     |          |            |              |           |        |

|                     |  |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 両眼視の基礎   |      |          | 授業コード  | 121324B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(2年)  |      |          | ナンバリング | 23C211P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 田村 省悟(保・視)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義・SGD    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科医療で活躍できうる視能訓練士となるためには、専門的知識、技術、態度および眼科医療における実践力を身につけることが求められる。本科目では、視能訓練士に求められる専門的知識のうち、正常な両眼視機能および異常な両眼視機能に関する基本的知識を修得する。   |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 正常な両眼視機能について説明できる。<br>2) 両眼視の3要素を説明できる。<br>3) 両眼視機能の発達について説明できる。<br>4) 両眼視機能の成立条件を列挙し、それぞれの概要を説明できる。<br>5) 斜視の概要を説明できる。<br>6) 弱視の概要を説明できる。<br>7) 異常な両眼視機能について説明できる。<br>8) 単眼複視の原因、単眼複視と両眼複視の違いを説明できる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、基礎視能矯正学に関する基本的知識の修得を目的とした授業を行う。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 単位認定試験の成績を70%、確認テストの成績を20%、学習への取り組み姿勢を10%として総合的評価を行う。確認テストは、前回の講義内容を復習するため、毎回の講義開始前に実施する。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況より判断する。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 課題として、毎回の講義後に講義内容のまとめを作成する。毎回の講義プリント、講義内容のまとめ、確認テストは各自でファイリングするとともに復習に活用すること。それらは、毎回の確認テスト後に実施する学習のフィードバックにおいても使用する。SGDでは自身の考えを明確に述べること。疑問があればSGDの時間にグループ単位で質問を行う。                                       |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 2F E-204)  |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                                  | 授業方法   | 担当 |
|----|-------------|---------------------------------------|--------|----|
| 1  | 1)          | 両眼視野、網膜正常対応                           | 講義・SGD | 田村 |
| 2  | 1)          | ホロプテル円、Vieth-Muller円、Panumの融像感覚圏、固視ずれ | 講義・SGD | 田村 |
| 3  | 1)          | 生理的複視、生理的抑制                           | 講義・SGD | 田村 |
| 4  | 1)2)        | 同時視、融像、立体視、動体覚                        | 講義・SGD | 田村 |
| 5  | 3)          | 両眼視機能の発達                              | 講義・SGD | 田村 |
| 6  | 4)          | 両眼視機能の成立条件                            | 講義・SGD | 田村 |
| 7  | 5)          | 斜視総論                                  | 講義・SGD | 田村 |
| 8  | 6)          | 弱視総論                                  | 講義・SGD | 田村 |
| 9  | 7)          | 不同視と不等像視                              | 講義・SGD | 田村 |
| 10 | 7)8)        | 病的複視、単眼複視と両眼複視                        | 講義・SGD | 田村 |
| 11 | 7)          | 眼位異常と複視                               | 講義・SGD | 田村 |
| 12 | 7)          | 眼球運動障害と複視                             | 講義・SGD | 田村 |
| 13 | 7)          | 網膜対応異常の種類および定義                        | 講義・SGD | 田村 |
| 14 | 7)          | 網膜対応異常と複視                             | 講義・SGD | 田村 |
| 15 | 7)          | 混乱視、病的抑制                              | 講義・SGD | 田村 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 視能学第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編集) 文光堂【978-4-8306-5539-5】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 視能矯正学 改訂第3版(丸尾敏夫 編集) 金原出版【978-4-307-35152-2】

|                     |   |                                |          |            |              |                   |
|---------------------|---|--------------------------------|----------|------------|--------------|-------------------|
| 科目名                 | 眼科薬理学   |                                | 授業コード    | 121157B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)         |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   |                                | ナンバリング   | 23C311P03  | AL科目         | ○                 |
| 担当者                 | 山本隆一(薬・薬)   | 開講学期                           | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>講義、演習、SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科領域では、診断や治療に多くの薬物が利用されている。視能訓練士として、これらの作用を理解した上で適切に業務を遂行できるようになるために、診断および治療に用いる基本的な薬物について、その基礎知識を習得することが不可欠である。眼科薬理学では、有能な視能訓練士となるために、主な眼疾患について、なぜ薬物を用いて診断や治療ができるのか理解できるようになる。そして、薬物が作用する一般的なメカニズムについて習得し、続いて眼科領域の主な疾患について、診断や治療にどのような薬物が使用されるのかその作用機序を含めて基礎知識を習得する。 |                                |          |            |              |                   |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 薬の剤形と投与経路、および薬が吸収・分布・代謝・排泄されるしくみを説明できる。<br>2) 薬が作用し、効くメカニズムを概説できる。<br>3) 薬の副作用や影響因子について概説できる。<br>4) 主要な眼疾患について、その病態と症状を説明できる。<br>5) 主要な眼疾患の診断薬と薬物療法について概説できる。  |                                |          |            |              |                   |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |                                |          |            |              |                   |
| 評価方法                | 期末試験(論述問題を含む)の成績を重視(94%)するが、学習への取り組み姿勢も評価(6%)する。学習への取り組み姿勢は、確認テストや課題の提出状況から判断する。  |                                |          |            |              |                   |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業内容の項目について、授業プリントを読み予習しておくこと。SGDでは、間違っても良いので自分の考えを述べること。疑問があれば、SGDの時間にグループ単位での質問を推奨する。また、講義内容のまとめを作成して復習を行うこと。なお、確認テストや課題の提出物は、学期末の学習成果フィードバックに使用するので、各自で保管すると共に復習に活用すること。学生証を忘れた者は、授業が始まる前に申し出ること。私語などの、授業の妨げとなる行為をした学生には退室を命じるとともに、その日の出席を無効とする。                   |                                |          |            |              |                   |
| オフィスアワー             | 月曜～金曜日 8:15～8:45 (場所:4号棟 5F M504)   |                                |          |            |              |                   |
| 授業計画                |   |                                |          |            |              |                   |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                           |          |            | 授業<br>方法     | 担当                |
| 1                   | 1)  | 薬物療法とは                         |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 2                   | 1)  | 内服後の薬物の排泄までの過程                 |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 3                   | 1) 2)   | 薬物の投与ルートと薬効の相違について             |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 4                   | 1-3)  | 薬物の投与タイミングの重要性と薬効に影響を及ぼす因子について |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 5                   | 3) 4)   | 自律神経系と作用薬物①                    |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 6                   | 3) 4)   | 自律神経系と作用薬物②                    |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 7                   | 3) 4)   | 受容体に作用する薬物について                 |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 8                   | 3) 4)   | 酵素に作用する薬物について                  |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 9                   | 3) 4)   | チャネルとトランスポーターに作用する薬物について       |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 10                  | 1-4)  | これまでの学習到達度の確認                  |          |            | 演習           | 山本(隆)             |
| 11                  | 3-5)  | 眼の疾患と治療薬について                   |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 12                  | 3-5)  | 眼の疾患と治療薬について                   |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 13                  | 3-5)  | 眼の疾患と診断薬について                   |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 14                  | 3-5)  | 抗病原微生物薬について                    |          |            | 講義, SGD      | 山本(隆)             |
| 15                  | 3-5)  | これまでの学習到達度の確認                  |          |            | 演習           | 山本(隆)             |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | かみくだき薬理学(町谷安紀 著) 南山堂【978-4-525-14081-6】   |                                |          |            |              |                   |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 視能学(丸尾敏夫 ほか 編) 分光堂【978-4-8306-5539-5】   |                                |          |            |              |                   |

|                     |  |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 視能検査学総合実習 I  |      |          | 授業コード  | 121222B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |      |          | ナンバリング | 23C311P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)・沼田 公子<br>(保・視)・内田 憲之(保・視)・齋藤<br>真之介(保・視)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科臨床における視能訓練士の役割と責任を理解し、眼科医療に貢献するためには、病態評価および治療に結びつくような専門性の高い技能と、医療従事者として適切な態度の修得が求められる。<br>円滑な診療を実現するには、診療チームの中における視能訓練士の立場を自覚し、症例に応じた検査とその評価を、正確かつ迅速に行うための基本的知識・技術および判断力、柔軟性のある患者接遇技術が高いレベルで要求される。本科目では、シミュレーション実習を行い、臨床現場における実践的な視能検査技術を修得する。   |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 眼鏡度数の測定および眼鏡フィッティングの適切な評価ができる。<br>2) 視力・屈折検査の特徴を理解し、その評価を行うことができる。<br>3) 他覚的屈折検査の結果を利用して視力・屈折検査を行うことができる。<br>4) 病態シミュレーション下における、視力・屈折検査とその評価を行うことができる。<br>5) 視野検査(静的・動的)の具体的検査法と特徴を理解し、評価することができる。<br>6) 病態シミュレーション下における、視野検査とその評価を行うことができる。<br>7) 被検者への配慮ができる(検査説明、声かけ、誘導など)<br>8) 個々の症例に必要な検査を的確に選択し、正確かつ迅速に施行することができる。 |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 沼田は総合病院で25年にわたる臨床経験、4年間の大学病院研究生、日本視能訓練士協会生涯教育における新人教育プログラムの実習指導者経験を有している。塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。内田は、長年の眼鏡関連の業務および、8年間の眼科での勤務経験を有している。齋藤は眼科医院における9年間の視能訓練士勤務経験を有している。各教員がそれぞれの分野で、その専門性を活かした講義を展開する。   |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実技試験(20%)、筆記試験(70%)、学習への取り組み姿勢(10%)<br>学習への取り組み姿勢は課題レポートを主として評価する。<br>実技試験、筆記試験のどちらも6割の到達度を達成することで合格とする。<br>全出席を単位認定の必須要件とする。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎授業後に実習課題を示す。期限までに実習課題レポートを提出すること。<br>課題レポートは学期末の学習成果フィードバックに用いるので、各自保管し、復習に活用すること。<br>教科書・参考書等の実習テーマに関する箇所を一読した上で実習に臨むこと。<br>シミュレーション実習では間違えても良いので自分の考えを積極的に述べること。<br>実習で不明な点や曖昧な点があったら、その都度、教員に確認して解決すること。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡   |      |          |        |            |              |           |

| 授業計画               |             |  |       |       |
|--------------------|-------------|--|-------|-------|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法  | 担当    |
| 1                  | 1)8)        | 眼鏡検査   | 実習    | 内田    |
| 2                  | 2)7)8)      | 視力・屈折検査  | 実習    | 内田    |
| 3                  | 2)7)8)      | 総合実習1(眼鏡検査、視力・屈折検査)  | 実習    | 内田・塚田 |
| 4                  | 2)3)7)8)    | 他覚的屈折検査の結果を利用した視力・屈折検査   | 実習    | 沼田    |
| 5                  | 2)3)4)7)8)  | 視力が不良な患者の視力・屈折検査   | 実習    | 沼田    |
| 6                  | 2)3)7)8)    | 近見視力検査・不等像視検査  | 実習    | 塚田    |
| 7                  | 2)3)7)8)    | 総合実習2(他覚的屈折検査の結果を利用した視力・屈折検査、眼鏡検査)   | 実習    | 内田・塚田 |
| 8                  | 5)7)8)      | 動的視野検査、静的視野検査  | 講義・演習 | 齋藤・塚田 |
| 9                  | 5)7)8)      | 総合実習3(視野検査①)   | 講義・演習 | 齋藤・塚田 |
| 10                 | 5)6)7)8)    | 動的視野検査(緑内障)  | 講義・演習 | 沼田    |
| 11                 | 5)6)7)8)    | 動的視野検査(網膜色素変性)   | 講義・演習 | 沼田    |
| 12                 | 5)6)7)8)    | 動的視野検査(視神経疾患)  | 講義・演習 | 沼田    |
| 13                 | 5)6)7)8)    | 動的視野検査(頭蓋内疾患)  | 講義    | 沼田    |
| 14                 | 5)6)7)8)    | 動的視野検査(心因性視野障害)  | 講義・演習 | 沼田    |
| 15                 | 5)6)7)8)    | 総合実習4(視野検査②)   | 講義・演習 | 齋藤・塚田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 眼科検査ガイド(眼科診療プラクティス編集委員)文光堂【978-4-8306-5521-0】<br>理解を深めよう 視力検査 屈折検査(所 敬 監修)金原出版【978-4-307-35132-4】<br>理解を深めよう 視野検査(松本 長太 監修)金原出版【978-4-307-35133-1】<br>視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編)文光堂【978-4-8306-5539-5】<br>屈折異常とその矯正 第6版(所 敬)金原出版【978-4-307-35159-1】 ※第5版でも可 |       |       |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | 標準眼科学 第12版 (大野 重昭 他) 医学書院【978-4-260-01651-3】                  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 眼科検査法ハンドブック 第4版 (小口芳久、澤充、大月洋、湯澤美都子 編) 医学書院【978-4-260-13780-5】 |



|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 視能検査学総合実習Ⅱ   |      |           | 授業コード  | 121223B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 23C312P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)・沼田 公子<br>(保・視)・内田 憲之(保・視)・齋藤<br>真之介(保・視)・貴 優美子(社・<br>臨)・有安 正規(非常勤講師)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 実 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科臨床における視能訓練士の役割と責任を理解し、眼科医療に貢献するためには、病態評価および治療に結びつくような専門性の高い技能と、医療従事者として適切な態度の修得が求められる。臨床現場で医師・患者から信頼される視能訓練士になるためには、基礎的な知識・技術の上に、個々の疾患(患者)に応じた判断力、柔軟性が必要である。本科目ではシミュレーション実習を行い、疾患の臨床像(患者の訴え)と、生理や病理の理解を繋ぎ合わせ、一人ひとりの患者(疾患)に合わせた検査・訓練を施行するための視能検査技術を修得する。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 主要眼疾患の病態シミュレーション下において、正確な視能検査とその評価を行うことができる。<br>2) 医療面接を理解し、患者を理解するための情報収集、患者とのラポールの構築、患者脅威感と治療への動機づけのための説明の主要3項目の説明ができる。<br>3) 好ましい服装、身だしなみ、座る位置・距離、目線、アイコンタクト、顔の表情、態度、身振り、手振り、スキンシップ、声の調子などを理解し、患者への適切な配慮ができる。<br>4) 主訴、現病歴、経過・症状、増悪要因、寛解要因、随伴症状、既往歴、家族歴、患者背景などの徴収すべき項目を列挙できる。<br>5) 症例に応じた医療面接、検査計画の立案、検査の実施および検査結果の評価、訓練・治療計画の立案を行うことができる。<br>6) 視能訓練・両眼視訓練の種類と内容を理解している。<br>7) インシデント・アクシデントとレポートについて説明できる。<br>8) 患者の安全を確保した移動、診療介助の方法を説明できる。<br>9) 院内感染対策の基本を理解し、眼科領域のウィルス感染症の院内感染対策を述べることができる。<br>10) 必要となる検査の優先度を的確に選択し、正確かつ迅速に施行することができる。<br>11) 問題指向形システムでは異議、目的、記載法を説明でき、問題指向形診療録では意味、書き方、プロブレムを説明できる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 沼田は総合病院で25年にわたる臨床経験、4年間の大学病院研究生、日本視能訓練士協会生涯教育における新人教育プログラムの実習指導者経験を有している。内田は、長年の眼鏡関連の業務および、8年間の眼科での勤務経験を有している。齋藤は眼科医院における9年間の視能訓練士勤務経験を有している。塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。各教員がそれぞれの分野で、その専門性を活かした講義を展開する。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実技試験(20%)、筆記試験(70%)、学習への取り組み姿勢(10%)<br>学習への取り組み姿勢は課題レポートの評価を主とする。<br>実技試験、筆記試験のどちらも6割の到達度を達成することで合格とする。<br>全出席を単位認定の必須要件とする。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎授業後に実習課題を示す。期限までに実習課題レポートを提出すること。<br>教科書・参考書等の実習テーマに関する箇所を一読した上で実習に臨むこと。<br>課題レポートは学期末の学習成果フィードバックに用いるため、各自保管すると共に復習に活用すること。<br>シミュレーション実習では間違えても良いので自分の考えを述べること。<br>実習で不明な点や曖昧な点があったら、その都度、教員に確認して解決すること。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.      | 授 業 内 容           | 授 業 方 法 | 担 当   |
|----|------------------|-------------------|---------|-------|
| 1  | 2)-5)            | 医療面接の方法、診療録の記録と報告 | 実 習     | 齋 藤   |
| 2  | 1)-<br>5)10)     | 網膜疾患に対する病態評価①     | 実 習     | 塚田・齋藤 |
| 3  | 1)-<br>5)10)     | 網膜疾患に対する病態評価②     | 実 習     | 塚田・齋藤 |
| 4  | 1)-<br>5)10)     | 網膜疾患に対する病態評価③     | 実 習     | 塚田・齋藤 |
| 5  | 1)-<br>5)10)     | 緑内障に対する病態評価①      | 実 習     | 齋藤・塚田 |
| 6  | 1)-<br>5)10)     | 緑内障に対する病態評価②      | 実 習     | 齋藤・塚田 |
| 7  | 6)10)            | 視能訓練技術①           | 実 習     | 沼 田   |
| 8  | 6)10)            | 視能訓練技術②           | 実 習     | 沼 田   |
| 9  | 6)10)            | 視能訓練技術③           | 実 習     | 沼 田   |
| 10 | 3)5)6)<br>10)11) | 斜視・弱視に対する病態評価①    | 実 習     | 内田・塚田 |
| 11 | 3)5)6)<br>10)11) | 斜視・弱視に対する病態評価②    | 実 習     | 内田・塚田 |
| 12 | 3)5)6)<br>10)11) | 斜視・弱視に対する病態評価③    | 実 習     | 内田・塚田 |
| 13 | 3)5)6)<br>10)11) | 斜視・弱視に対する病態評価④    | 実 習     | 内田・塚田 |
| 14 | 1)-<br>5)10)     | 症例検討(視覚発達支援を含む)   | 実 習     | 有 安   |

|                    |  |             |    |   |
|--------------------|--|-------------|----|---|
| 15                 | 7)8)9)   | 医療安全対策/介助技術 | 実習 | 貫 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 眼科検査ガイド(眼科診療プラクティス編集委員)文光堂【978-4-8306-5521-0】<br>理解を深めよう 視力検査 屈折検査(所 敬 監修)金原出版【978-4-307-35132-4】<br>理解を深めよう 視野検査(松本 長太 監修)金原出版【978-4-307-35133-1】<br>視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編)文光堂【978-4-8306-5539-5】<br>屈折異常とその矯正 第6版(所 敬)金原出版【978-4-307-35159-1】 ※第5版でも可<br>標準眼科学 第12版(大野 重昭 他)医学書院【978-4-260-01651-3】 |             |    |   |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 眼科検査法ハンドブック 第4版(小口芳久、澤充、大月洋、湯澤美都子 編)医学書院【978-4-260-13780-5】  |             |    |   |

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 視能障害学Ⅱ  | 授業コード  | 120481b202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(2年)   | ナンバリング | 23C211P08  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)  | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 患者の主訴から診断に必要な検査計画を立案し、それを実施できるようになるためには、眼疾患の病態を理解する必要がある。本科目では、主要な眼疾患を取り上げ、それらの病態、検査、治療に関する基本的知識を修得する。さらに疾患の病態理解に必要な視覚器の構造と機能に関する基本的知識を修得する。  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 眼球および視覚系の構造と機能について説明できる。<br>2) 主要な眼疾患において、疾患概念、病態を説明できる。<br>3) 主要な眼疾患において、診断に必要な検査項目を列挙し、検査所見を説明できる。<br>4) 主要な眼疾患において、治療法、予防法の概要を説明できる。<br>5) 院内感染の原因となる眼疾患を列挙し、感染防止対策について説明できる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当教員は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。<br>診断に繋がる検査を実践するための、疾患の基本的知識の習得を目指す。   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学期末の単位認定試験(90%)、学修への取り組み姿勢(10%)。  |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履上の注意等     | 教科書のうちテーマに関連する箇所を一読して講義に臨むこと。<br>講義後、学習内容を確認し、不明な点や曖昧な点は、その都度、解決すること。<br>授業前後の学習は、十分な時間(全授業あわせて60時間ほど)をかけることが求められる。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡  |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------------------|----------|----|
| 1  | 1)          | 眼の構造と機能             | 講義       | 塚田 |
| 2  | 1)~<br>4)   | 眼瞼疾患                | 講義       | 塚田 |
| 3  | 1)2)        | 結膜疾患①解剖・生理、病態       | 講義       | 塚田 |
| 4  | 5)          | 結膜疾患②感染防止対策         | 講義       | 塚田 |
| 5  | 1)~<br>4)   | 涙器疾患                | 講義       | 塚田 |
| 6  | 1)3)        | 角膜疾患・強膜疾患① 解剖・生理、検査 | 講義       | 塚田 |
| 7  | 2)~<br>4)   | 角膜疾患・強膜疾患② 病態、治療    | 講義       | 塚田 |
| 8  | 1)          | 水晶体の病変① 解剖・生理       | 講義       | 塚田 |
| 9  | 2)~<br>4)   | 水晶体の病変② 病態、検査、治療    | 講義       | 塚田 |
| 10 | 1)          | 緑内障① 解剖・生理          | 講義       | 塚田 |
| 11 | 3)          | 緑内障② 検査             | 講義       | 塚田 |
| 12 | 2)3)        | 緑内障③ 病態             | 講義       | 塚田 |
| 13 | 2)~<br>4)   | 緑内障④ 病態、治療          | 講義       | 塚田 |
| 14 | 1)          | ぶどう膜疾患① 解剖・生理       | 講義       | 塚田 |
| 15 | 2)~<br>4)   | ぶどう膜疾患② 病態          | 講義       | 塚田 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準眼科学 第12版(大野 重昭 他)医学書院【978-4260016513】<br>視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編)文光堂【978-4-8306-5539-5】  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 現代の眼科学 改訂第11版(所 敬 監修)金原出版【ISBN 978-4-307-35146-1】<br>「眼疾患 説明の仕方と解説」改訂3版 菅謙治(原著)直井信久(改訂)金芳堂【ISBN 978-4-7653-1514-2】<br>※購入する必要はありません |

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 視能障害学Ⅲ   | 授業コード  | 120482b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(2年)  | ナンバリング | 23C212P08  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 患者の主訴から診断に必要な検査計画を立案し、それを実施できるようになるためには、眼疾患の病態を理解する必要がある。本科目では、主要な眼疾患を取り上げ、それらの病態、検査、治療に関する基本的知識を修得する。さらに疾患の病態理解に必要な視覚器の構造と機能に関する基本的知識を修得する。 |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 眼球および視覚系の構造と機能について説明できる。<br>2) 主要な眼疾患において、疾患概念、病態を説明できる。<br>3) 主要な眼疾患において、診断に必要な検査項目を列挙し、検査所見を説明できる。<br>4) 主要な眼疾患において、治療法、予防法の概要を説明できる。   |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当教員は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。<br>診断に繋がる検査を実践するための、疾患の基本的知識を習得することを目的とする。                                    |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学期末の単位認定試験(90%)、学修への取り組み姿勢(10%)。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 教科書のうちテーマに関連する箇所を一読して講義に臨むこと。<br>講義後、学習内容を確認し、不明な点や曖昧な点は、その都度、解決すること。<br>授業前後の学習は、十分な時間(全授業あわせて60時間ほど)をかけることが求められる。                          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡   |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容              | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|----------------------|------------|-----|
| 1  | 1)          | 【網膜・硝子体疾患】① 解剖・生理    | 講 義        | 塚 田 |
| 2  | 3)          | 【網膜・硝子体疾患】② 検査       | 講 義        | 塚 田 |
| 3  | 2)~<br>4)   | 【網膜・硝子体疾患】③ 病態、検査、治療 | 講 義        | 塚 田 |
| 4  | 2)~<br>4)   | 【網膜・硝子体疾患】④ 病態、検査、治療 | 講 義        | 塚 田 |
| 5  | 2)~<br>4)   | 【網膜・硝子体疾患】⑤病態、検査、治療  | 講 義        | 塚 田 |
| 6  | 1)3)        | 【視神経疾患①】解剖・生理、検査     | 講 義        | 塚 田 |
| 7  | 2)~<br>4)   | 【視神経疾患②】病態、治療        | 講 義        | 塚 田 |
| 8  | 1)~<br>3)   | 【瞳孔異常①】解剖・生理、病態      | 講 義        | 塚 田 |
| 9  | 1)~<br>3)   | 【瞳孔異常②】解剖・生理、病態      | 講 義        | 塚 田 |
| 10 | 1)~<br>4)   | 【眼窩疾患】               | 講 義        | 塚 田 |
| 11 | 1)~<br>4)   | 【眼外傷】                | 講 義        | 塚 田 |
| 12 | 1)~<br>4)   | 【視覚器の発生と先天異常】        | 講 義        | 塚 田 |
| 13 | 1)~<br>4)   | 【全身疾患と眼】             | 講 義        | 塚 田 |
| 14 | 1)~<br>4)   | 【全身疾患と眼】             | 講 義        | 塚 田 |
| 15 | 1)~<br>4)   | 【小児眼科】               | 講 義        | 塚 田 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 標準眼科学 第12版(大野 重昭 他)医学書院【978-4260016513】<br>視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編)文光堂【978-4-8306-5539-5】  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 現代の眼科学 改訂第11版(所 敬 監修)金原出版【ISBN 978-4-307-35146-1】<br>「眼疾患 説明の仕方と解説」改訂3版 菅謙治(原著)直井信久(改訂)金芳堂【ISBN 978-4-7653-1514-2】<br>※購入する必要はありません |

|                     |  |  |          |            |              |           |    |
|---------------------|--|--|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 視能矯正・訓練学演習 I   |  | 授業コード    | 121219C201 | 単位数<br>(時間数) | 3<br>(90) |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |  | ナンバリング   | 23C311P07  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 沼田 公子(保・視)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、斜視・弱視の各型、眼球運動障害を生じる疾患について臨床的特徴・検査所見・治療法を学び、臨床における診断と治療に応用する能力、視能障害への対処法および視能訓練士の主業務である視能矯正・訓練を実践するために必要な知識を修得する。   |  |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)弱視、斜視の分類を列挙できる。<br>2)弱視の病因・病態評価・治療方法を説明できる。<br>3)斜視の病因・病態評価・治療方法を説明できる。<br>4)眼球運動に関係する脳神経の走行経路および病変部位と眼球運動障害との関係を説明できる。<br>5)眼球運動障害の病因・病態・評価を具体的に述べるができる。<br>6)視能訓練の枠組みと適応を関係づけ説明できる。<br>7)視能訓練の原理・適応・具体的方法を述べるができる。<br>8)斜視各型の病態と手術方針を関係づけ説明できる。<br>9)斜視手術の禁忌・副作用を述べるができる。<br>10)眼振の分類・臨床的特徴・記載法・治療法を述べるができる。 |  |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(沼田)は、臨床現場(総合病院)での25年の実務経験に基づき、症例の評価、類似疾患との鑑別に必要な検査、疾患の治療に必要な知識の修得を目的とした授業を行う。  |  |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 毎回の授業前に前回授業の要点の試験を実施する。<br>毎授業の試験の評価を40%、学期末の単位認定試験60%として総括的評価を行う。   |  |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1回の授業は3コマ実施する。<br>毎授業後に配布資料を読み返すこと。  |  |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 講義・会議時間以外の在室中  |  |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |  |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)2)   | この科目を学習する目的、斜視・弱視分類の枠組、弱視総論、弱視各型(1)斜視弱視、微小斜視弱視                                     |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 2                   | 2)   | 弱視各型(2)不同視弱視・屈折異常弱視・経線弱視・形態覚遮断弱視   |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 3                   | 3)   | 斜視各型(1)内斜視①乳児内斜視②調節性内斜視③その他の内斜視  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 4                   | 3)   | 斜視各型(2)外斜視・間欠性外斜視・恒常性外斜視・続発性外斜視  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 5                   | 3)   | 斜視各型(3):上下斜視・回旋斜視・交代性上斜位・上下斜視・回旋斜視   |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 6                   | 3)   | 斜視各型(4):A-V斜視・微小斜視   |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 7                   | 4)5)   | 眼筋麻痺(1)中枢性神経障害:水平注視麻痺・上下注視麻痺・開散麻痺・輻湊麻痺・核間麻痺・double elevator palsy(2)末梢性神経障害:動眼神経麻痺 |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 8                   | 4)5)   | 眼筋麻痺(2)末梢性神経障害:滑車神経麻痺  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 9                   | 4)5)   | 眼筋麻痺(2)末梢性神経障害:外転神経麻痺・全眼筋麻痺<br>神経筋接合部障害・筋原性斜視:重症筋無力症・慢性進行性外眼筋ミオパシー                 |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 10                  | 5)   | 筋原性障害:・甲状腺眼症、general fibrosis syndrome、固定斜視<br>機械的運動障害:眼窩底骨折・Brown症候群              |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 11                  | 1)~5)  | 9~10回のまとめ  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 12                  | 6)7)   | 視能訓練(1):概要・光学的視能・矯正・遮閉法  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 13                  | 7)   | 視能訓練(2):抑制除去訓練・網膜対応異常矯正訓練・融像訓練・家庭訓練  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 14                  | 8)9)   | 斜視手術(1):手術方法と適応、副作用、禁忌   |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 15                  | 10)  | 眼振:生理的眼振、病的眼振動、治療法(手術・プリズム療法)  |          |            |              | 講義        | 沼田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |          |            |              |           |    |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 屈折学各論実習 I  |   |          | 授業コード  | 121168B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |   |          | ナンバリング | 23C311P08  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内田 憲之(保・視)、沼田 公子<br>(保・視)、外部講師、塚田 貴大<br>(保・視)、齋藤 真之介(保・視)  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 視能訓練士は屈折矯正に関連する業務に多く携わる。屈折学各論実習 I では屈折矯正分野で高い評価を得る視能訓練士になるため、眼科医療で特に重要とされる眼鏡とコンタクトレンズ全般に関わる検査手技やケア方法、および白内障手術に関わる眼内レンズについての検査手技と理論を詳細に学び実践できる。   |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 屈折矯正に関する法律について説明できる。</li> <li>2) 各種屈折矯正の歴史と利点・欠点が説明できる。</li> <li>3) 眼鏡とコンタクトレンズを使用している屈折矯正の適応と方法について説明できる。</li> <li>4) 眼鏡とコンタクトレンズによる矯正の禁忌と注意点が説明できる。</li> <li>5) 各種のコンタクトレンズを患者に対し装用指導と自己管理が説明できる。</li> <li>6) コンタクトレンズの装脱及びその指導ができる。</li> <li>7) 模擬患者にコンタクトレンズを合わせることができる。</li> <li>8) 不当なコンタクトレンズ装用を原因とする眼障害と関連する前眼部疾患が説明できる。</li> <li>9) コンタクトレンズによって異なるケア方法や患者に対するケア指導ができる。</li> <li>10) 特殊コンタクトレンズとしてのオルソケラトロジーについて説明できる。</li> <li>11) 眼内レンズの種類と構造・光学的特性を述べることができる。</li> <li>12) 白内障手術の術前・術後検査及び評価が実践できる。</li> </ol> |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 沼田は総合病院で25年にわたる臨床および数多くの臨床実習指導者としての経験を有している。塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士業務および総合病院、眼科医院への外部勤務を8施設の経験を有している。齋藤は、一般眼科医院で9年の臨床経験を有している。内田は、14年の眼鏡関連業界での業務および、8年間の眼科での臨床経験を有している。また外部講師は、企業で長年にわたり実務的業務を行っている。これら各教員がそれぞれの分野で、コンタクトレンズ、白内障手術に関する専門領域を活かした講義を展開する。  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 単位認定は知識(筆記試験 70%)・技術(口頭試問方式 20%)・態度(レポート 10%)の面から総合的に判定する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 理解度を確保するためのレポートを要所により提出を求める。レポートはパーソナルコンピュータで入力したものをインターネットを介した提出とする。記載された内容を基に各個人に対してフィードバックを行うと共に保存したレポートを用いた復習を行うこと。  |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 在室中はいつでも   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 屈折矯正に関わる臨床の実際と法律について説明できる。                            |          |        |            | 演習           | 内田        |
| 2                   | 2)   | 加齢による眼の変化とそれに伴う屈折矯正の種類を知る。                            |          |        |            | 演習           | 内田        |
| 3                   | 3)~7)  | 【ソフトコンタクトレンズ①】<br>ソフトコンタクトレンズの構造や素材特性の特徴を知る。          |          |        |            | 演習           | 内田/外部講師   |
| 4                   | 3)~7)  | 【ソフトコンタクトレンズ②】<br>ソフトコンタクトレンズの適切な選択方法を知る。             |          |        |            | 演習           | 内田/外部講師   |
| 5                   | 3)~7)  | 【ハードコンタクトレンズ①】<br>ハードコンタクトレンズの基本を知る。                  |          |        |            | 演習           | 沼田        |
| 6                   | 3)~7)  | 【ハードコンタクトレンズ②】<br>ハードコンタクトレンズの選択と装脱指導を知る。             |          |        |            | 演習           | 沼田        |
| 7                   | 3)~7)  | 【ハードコンタクトレンズ③】<br>ハードコンタクトレンズの処方手技を知る。                |          |        |            | 演習           | 沼田        |
| 8                   | 8)9)   | 【コンタクトレンズケア】<br>コンタクトレンズのレンズケアを知る。                    |          |        |            | 演習           | 外部講師/内田   |
| 9                   | 9)   | 【前眼部】<br>前眼部病態と評価を行える。                                |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 10                  | 3)~9)  | 【総合コンタクトレンズ矯正のまとめ】                                    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 11                  | 10)  | 【オルソケラトロジー】<br>特殊な屈折矯正の方法を知る。                         |          |        |            | 演習           | 内田/外部講師   |
| 12                  | 11)12)   | 【白内障①】<br>眼内レンズについて種類と特徴を知る。                          |          |        |            | 演習           | 内田        |
| 13                  | 11)12)   | 【白内障②】<br>白内障の術前検査を知る。①                               |          |        |            | 演習           | 齋藤        |
| 14                  | 11)12)   | 【白内障③】<br>白内障の術後検査を知る。②                               |          |        |            | 演習           | 齋藤        |
| 15                  | 11)12)   | 【白内障に関する屈折矯正のまとめ】                                     |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | すぐに役立つ臨床で学ぶ 眼鏡処方の実際(所 敬・梶田 雅義)金原出版【978-4-307-35140-9】 |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 屈折異常とその矯正(所 敬)金原出版                                    |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 屈折学各論実習Ⅱ  |      |           | 授業コード  | 121169B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 23C312P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)、沼田 公子<br>(保・視)、内田 憲之(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 視能訓練士は、眼鏡やコンタクトレンズの関連業務に携わることが多く、3割が眼鏡やコンタクトレンズに関するトラブルを経験しているという現状がある。これらのトラブルは、視能訓練士のみならず、所属する眼科医療機関に対する信頼性にまで影響し、臨床における眼鏡やコンタクトレンズに関しては、充分かつ高い知識・技能・態度が要求される。本実習では、屈折矯正分野で高い評価を得る視能訓練士となるために、一人ひとりの患者の視生活を支えるという観点から、患者の様々なニーズに対応する屈折矯正を実践できる技能を習得することを目標とする。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 臨床における屈折矯正の意義と目的が説明できる。<br>2) 眼鏡度数調整の目的・手順を理解し、流れに従って検査できる。<br>3) 完全屈折矯正度数と日常利用度数との違いを理解する。<br>4) 使用者の年齢や目的に応じた度数調整が行える。<br>5) 適正眼鏡と治療用眼鏡の違いを理解し、症例に応じた検査が実施できる。<br>6) 各種屈折矯正法について、その特徴を述べるができる。<br>7) 遠視性屈折異常・弱視・不同視・斜視の模擬患者に対する眼鏡度数調整ができる。<br>8) オートレフラクトメータの測定値から屈折値を予測し、適切な遠用度数の決定ができる。<br>9) 二重・三重焦点レンズの光学特性と処方の概要を述べるができる。<br>10) 累進屈折力レンズの光学特性と処方の概要を述べるができる。<br>11) 眼鏡レンズの特性に合わせたフレームのフィッティング評価ができる。<br>12) 患者の訴えから眼鏡の不具合に対する原因を想定し、的確な説明ができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 沼田は総合病院で25年にわたる臨床経験、4年間の大学病院研究生、日本視能訓練士協会生涯教育における新人教育プログラムの実習指導者経験を有している。内田は、長年の眼鏡関連の業務および、8年間の眼科での勤務経験を有している。塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医医院への外勤8施設の実務経験を有している。各教員がそれぞれの分野で、その専門性を活かした講義を展開する。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実技試験(20%)、筆記試験(70%)、学習への取り組み姿勢(10%)<br>学習への取り組み姿勢は課題レポートを主として評価する。<br>実技試験、筆記試験のどちらも6割の到達度を達成することで合格とする。<br>全出席とレポート提出を単位認定の必須要件とする。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎授業後に実習課題を示す。期限までに実習課題レポートを提出すること。<br>臨床上に何をどのように注意を払う必要があるかについて、1回の授業につき110分の復習とレポート作成を行い、よく考察を行う事。課題レポートは学期末の学習成果フィードバックに用いるため、各自保管し復習に活用すること。<br>教科書・参考書等の実習テーマに関連する箇所を一読した上で実習に臨むこと。<br>シミュレーション実習では間違えても良いので自分の考えを積極的に述べる事。<br>実習で不明な点や曖昧な点があったら、その都度、教員に確認して解決すること。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 在室中はいつでも  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.   | 授業内容  | 授業方法 | 担当 |
|----|---------------|---|------|----|
| 1  | 1)5)7)        | 【学童期・小児の眼鏡合わせ①】<br>感受性期の眼鏡の重要性。                       | 演習   | 沼田 |
| 2  | 1)4)5)        | 【学童期・小児の眼鏡合わせ②】<br>学童期における学業や日常生活を考慮した度数調整。           | 演習   | 沼田 |
| 3  | 5)7)8)        | 【斜視・弱視】<br>斜視弱視の光学的治療法(プリズム眼鏡・弱視治療)。                  | 演習   | 沼田 |
| 4  | 2)3)4)<br>8)  | 【眼疾患と眼鏡度数決定】<br>眼精疲労などの眼疾患を考慮した矯正。                    | 演習   | 沼田 |
| 5  | 2)3)4)<br>5)  | 【成人および高齢者に対する眼鏡処方】<br>遠用眼鏡処方時の初期値から処方度数決定まで。          | 演習   | 塚田 |
| 6  | 2)3)6)        | 【強度乱視眼】<br>等価球面置換法(乱視が強い時の度数調整の方法)。                   | 演習   | 塚田 |
| 7  | 1)2)3)<br>4)  | 【成人の遠用眼鏡】<br>成年期～老年期の遠用眼鏡の度数合わせの注意点。                  | 演習   | 塚田 |
| 8  | 1)2)4)        | 【近用眼鏡①】<br>近用明視を得るための眼鏡。                              | 演習   | 塚田 |
| 9  | 1)2)4)        | 【近用眼鏡②】<br>クロスシリンドラーを用いた近用度数測定。                       | 演習   | 塚田 |
| 10 | 2)9)          | 【二重焦点・三重焦点レンズ】<br>遠近で境目のある眼鏡の度数調整。                    | 演習   | 内田 |
| 11 | 2)5)10)<br>)  | 【累進屈折力レンズ】<br>累進屈折力レンズの種類と特徴を理解した適切なレンズの選択。           | 演習   | 内田 |
| 12 | 1)4)<br>12)   | 【アイポイント】<br>瞳孔間距離・瞳孔中心と光学中心の位置の測定。                    | 演習   | 内田 |
| 13 | 1)4)7)<br>12) | 【眼鏡のフィッティング】<br>眼鏡レンズを眼前の適切な位置への保持するための傾斜角・頂間距離などの評価。 | 演習   | 内田 |
| 14 | 11)           | 【眼鏡レンズの構造と性能】<br>眼鏡レンズの装用感を向上させるための工夫。                | 演習   | 内田 |
| 15 | 3)12)         | 【作成後の眼鏡の評価】<br>オーバーレチノスコピー、レンズメータ。                    | 演習   | 塚田 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | すぐに役立つ臨床で学ぶ 眼鏡処方の実際(所 敬・梶田 雅義)金原出版【978-4-307-35140-9】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない   |



|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|---------------------|--|-------------|----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 臨地実習 I   |             |          | 授業コード  | 121094G201 | 単位数<br>(時間数) | 7<br>(315) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)  |             |          | ナンバリング | 23C411P01  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)、沼田 公子<br>(保・視)、塚田 貴大(保・視)、田<br>村 省吾(保・視)、内田 憲之(保・<br>視)  | 開講学期        | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 実 習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 眼科診療および視能訓練士業務の実際の経験を通じて、視能訓練士に必要な専門知識・技能と、チーム医療における視能訓練士の役割と責任を理解する。患者に対する共感的態度、医療従事者および社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける。学内での講義や実習、演習で習得した知識や技術を臨床現場で統合し、眼疾患、斜視・弱視など様々な視能障害をもつ患者の病態評価、訓練計画やリハビリテーション指導の立案に関わる実践的知識、検査技術と評価技能、これに必要な専門知識を向上させることを目的とする。  |             |          |        |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習生としての心構えを理解し、実践できる。</li> <li>2) 社会人としての基本行動(挨拶、礼儀、整容、行動)が実践できる。</li> <li>3) 視能訓練士の役割とチーム医療の一員としての責任を理解することができる。</li> <li>4) 医療従事者としての守秘義務(個人情報保護など)の遂行ができる。</li> <li>5) 医療従事者との良好なコミュニケーションを構築できる。</li> <li>6) 患者接遇の基本用語を使用し、心のこもった対応ができる。</li> <li>7) 患者様に分かりやすい検査説明ができる。</li> <li>8) 検査機器を正しく扱うことができる。</li> <li>9) 臨床症状から考えられる疾患と必要な検査を挙げることができる。</li> <li>10) 視力、屈折検査とその評価を行うことができる。</li> <li>11) 眼圧検査とその評価を行うことができる。</li> <li>12) 視野検査とその評価を行うことができる。</li> <li>13) 斜視検査(眼位、眼球運動、両眼視機能検査)とその評価を行うことができる。</li> <li>14) 視能検査結果の評価や問題点抽出ができる。</li> <li>15) 実習記録は専門用語を用い、指導内容や課題内容を記すことができる。</li> </ol> |             |          |        |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。   |             |          |        |            |              |            |
| 評価方法                | 評価は臨床実習 90%、学内実習評価 10%(事前事後指導期間中の提出物、臨床実習報告会)で行う。臨床実習中において、無断で欠席、遅刻をした場合は大学側の判断により実習を中止する。   |             |          |        |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 臨床実習の実習期間は約7週間である。臨床実習期間中は実習記録を作成し指導者へ提出すること。<br>臨床実習の事前指導および事後指導は臨床実習と別途行う。<br>臨床実習中に問題のある態度や行動(下記の1.~5.の事項に反する)が発生した際は実習指導者および大学の指導(実習中止を含む)に従うこと。1. 実習中は患者・利用者に対する安全の義務を遵守する。2. 故意または過失により発生した実習中の事故、怪我については、自己において責任を負う。3. 実習中は臨床実習要綱に記された個人情報保護を遵守し、病院内で知り得た個人情報、検査   |             |          |        |            |              |            |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 E-204)   |             |          |        |            |              |            |
| 授業計画                |  |             |          |        |            |              |            |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容     |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当         |
| 1~7回                | 1)~<br>15)   | 臨床実習        |          |        |            | 実 習          | 全 員        |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
|                     |  |             |          |        |            |              |            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 教科書指定はありません |          |        |            |              |            |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 眼科検査ガイド第2版(眼科診療プラクティス編集委員) 文光堂【978-4-8306-5547-0】<br>眼科検査法ハンドブック 第4版(小口芳久、澤充、大月洋、湯澤美都子 編) 医学書院【978-4-260-13780-5】<br>視能学第2版(丸尾敏夫) 文光堂【978-4-8306-5539-5】<br>ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン 患者対応マナーのランクアップ教本・決定版(小山美智子)【ISBN978-4-87058-461-7】<br>OCT 便利手帳(白神史雄)メジカルビュー【I】 |
|--------------------|---|

|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|---------------------|---|---------|----------|--------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 臨地実習Ⅱ   |         |          | 授業コード  | 121095G201 | 単位数<br>(時間数) | 7<br>(315) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   |         |          | ナンバリング | 23C411P02  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)、沼田 公子<br>(保・視)、塚田 貴大(保・視)、田<br>村 省吾(保・視)、内田 憲之(保・<br>視)   | 開講学期    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 実 習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨地実習Ⅰおよび学内での講義や実習、演習で修得した知識や技術、コミュニケーション能力を臨床現場で統合し、視能訓練士や医師、看護師などの医療従事者との関わりの中で、検査技術および評価技能を向上させる。さらに患者やその家族、医療従事者に信頼され、かつ必要とされる視能訓練士として業務を遂行できるように自己を向上させる。   |         |          |        |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習生としての心構えを理解し、実践できる。</li> <li>2) 社会人としての基本行動(挨拶、礼儀、整容、行動)が実践できる。</li> <li>3) 視能訓練士の役割とチーム医療の一員としての責任を理解することができる。</li> <li>4) 医療従事者としての守秘義務(個人情報保護など)の遂行ができる。</li> <li>5) 医療従事者との良好なコミュニケーションを構築できる。</li> <li>6) 患者接遇の基本用語を使用し、心のこもった対応ができる。</li> <li>7) 患者様に分かりやすい検査説明ができる。</li> <li>8) 検査機器を正しく扱うことができる。</li> <li>9) 臨床症状から考えられる疾患と必要な検査を挙げることができる。</li> <li>10) 視力、屈折検査とその評価を行うことができる。</li> <li>11) 眼圧検査とその評価を行うことができる。</li> <li>12) 視野検査とその評価を行うことができる。</li> <li>13) 斜視検査(眼位、眼球運動、両眼視機能検査)とその評価を行うことができる。</li> <li>14) 視能検査結果の評価や問題点抽出ができる。</li> <li>15) 実習記録は専門用語を用い、指導内容や課題内容を記すことができる。</li> <li>16) 臨床実習で習得した態度、知識、技術を臨床実習報告会で発表することができる。</li> </ol> |         |          |        |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。  |         |          |        |            |              |            |
| 評価方法                | 評価は臨床実習90%、学内実習評価10%(事前事後指導期間中の提出物、臨床実習報告会)で行う。臨床実習中において、無断で欠席、遅刻をした場合は大学側の判断により実習を中止する。  |         |          |        |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 臨床実習の実習期間は約7週間である。臨床実習期間中は実習記録を作成し指導者へ提出すること。<br>臨床実習の事前指導および事後指導は臨床実習と別途行う。<br>臨床実習中に問題のある態度や行動(下記の1~5の事項に反する)が発生した際は実習指導者および大学の指導(実習中止を含む)に従うこと。1. 実習中は患者・利用者に対する安全の義務を遵守する。2. 故意または過失により発生した実習中の事故、怪我については、自己において責任を負う。3. 実習中は臨床実習要綱に記された個人情報保護を遵守し、病院内で知り得た個人情報、検査  |         |          |        |            |              |            |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 E-204)  |         |          |        |            |              |            |
| 授業計画                |   |         |          |        |            |              |            |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容 |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当         |
| 1~7回                | 1)~<br>16)  | 臨床実習    |          |        |            | 実 習          | 全 員        |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
|                     |   |         |          |        |            |              |            |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 教科書指定はありません   |         |          |        |            |              |            |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン 患者対応マナーのランクアップ教本・決定版(小山美智子)【ISBN978-4-87058-461-7】   |         |          |        |            |              |            |

|  |
|--|
| <p>OCT 便利手帳(白神史雄)メジカルビュー【ISBN978-4-7583-1096-3】<br/>眼科検査ガイド第2版(眼科診療プラクティス編集委員) 文光堂【978-4-8306-5547-0】<br/>眼科検査法ハンドブック 第4版 (小口芳久、澤充、大月洋、湯澤美都子 編) 医学書院【978-4-260-13780-5】<br/>視能学第2版 (丸尾敏夫) 文光</p> |
|--|

|                     |  |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 専門ゼミ I   | 授業コード  | 121275B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C311P09  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 川野 純一(保・視)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミ I は、卒業研究の第1段階であり、専門ゼミ II の準備を行う。   |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | ゼミの出席(10%)、態度(40%)と提出課題の評価(50%)で判定する。  |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>ゼミでは、自分自身で考え行動する事が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 後日連絡   |        |            |              |           |      |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容    | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 川野 |
| 15 | 1)          | 実習報告会参加 | 演習       | 川野 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |

|                     |  |         |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミ I   |         |          | 授業コード  | 121275B207 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |         |          | ナンバリング | 23C311P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 田村 省悟(保・視)   | 開講学期    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミ I は、卒業研究の第1段階であり、専門ゼミ II の準備を行う。   |         |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |         |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |         |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題の評価を 50%、受講態度を 30%、学習への取り組み姿勢を 20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。  |         |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に課題学習等を 30 時間以上行うことが求められる。<br>各回の授業は 2 コマとする。  |         |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 2F E-204)  |         |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |         |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容    |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 2                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 3                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 4                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 5                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 6                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 7                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 8                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 9                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 10                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 11                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 12                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 13                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 14                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 15                  | 1)   | 実習報告会参加 |          |        |            | 演習           | 田村        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない   |          |        |            |              |           |

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミ I   | 授業コード  | 121275B209 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C311P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内田 憲之(保・視)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミ I は、卒業研究の第1段階であり、専門ゼミ II の準備を行う。   |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教官である内田憲之は、14年の眼鏡関連の研究所および物販店での実務的経験を有する。その経験から、より臨床的・実務的視点から知識だけでなく、マナーなどの態度面など幅広いゼミ指導を展開する。  |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題評価(70%)、課題発見力(5%)、計画力(5%)、発信力(5%)、柔軟性(5%)、主体性(5%)、実行力(5%)で総合的な評価を行う。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。表の1回の授業は2コマである。本講義では、論文を読み深め、まとめて発表する形式をとり、SGD(スモールグループディスカッション)でグループ内でより深い理解を行うこと。その際の議論により行ったフィードバックの内容は記録しておくこと。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 木曜日 1~2限   |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容    | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 内田 |
| 15 | 1)          | 実習報告会参加 | 演習       | 内田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |  |         |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミ I   |         |          | 授業コード  | 121275B206 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |         |          | ナンバリング | 23C311P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)   | 開講学期    | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミ I は、卒業研究の第1段階であり、専門ゼミ II の準備を行う。   |         |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |         |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 塚田は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。   |         |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題 90%、ゼミ活動への取り組み姿勢 10%で判定する。  |         |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |         |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 在室時はいつでも   |         |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |         |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容    |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 2                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 3                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 4                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 5                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 6                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 7                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 8                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 9                   | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 10                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 11                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 12                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 13                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 14                  | 1)-5)  | ゼミ活動    |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 15                  | 1)   | 実習報告会参加 |          |        |            | 演習           | 塚田        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない   |          |        |            |              |           |



|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミ I   | 授業コード  | 121275B203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C311P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)  | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミ I は、卒業研究の第1段階であり、専門ゼミ II の準備を行う。   |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題の評価を60%、受講態度を20%、学習への取り組み姿勢を20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 E-204)   |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容    | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演習       | 齋藤 |
| 15 | 1)          | 実習報告会参加 | 演習       | 齋藤 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 論文・レポートの基本 石黒 圭 日本実業出版社 【ISBN978-4-534-04927-8】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅡ  | 授業コード  | 121276B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C312P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 川野 純一(保・視)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅡは、卒業研究の中間段階であり、専門ゼミⅢで卒業論文が完成できるように、準備を行う。                                  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |        |            |              |           |
| 評価方法                | ゼミの出席(10%)・態度(40%)と提出課題(50%)で判定する。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>ゼミでは、自分自身で考え行動する事が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 後日連絡   |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 15 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅡ  | 授業コード  | 121276B207 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C312P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 田村 省悟(保・視)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅡは、卒業研究の中間段階であり、専門ゼミⅢで卒業論文が完成できるように、準備を行う。                                  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題の評価を50%、受講態度を30%、学習への取り組み姿勢を20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に課題学習等を30時間以上行うことが求められる。<br>各回の授業は2コマとする。  |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 2F E-204)  |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 15 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |

|                     |  |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 専門ゼミⅡ  | 授業コード  | 121276B209 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  | ナンバリング | 23C312P06  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 内田 憲之(保・視)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅡは、卒業研究の中間段階であり、専門ゼミⅢで卒業論文が完成できるように、準備を行う。                                  |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教官である内田憲之は、14年の眼鏡関連の研究所および物販店での実務的経験を有する。その経験から、より臨床的・実務的視点から知識だけでなく、マナーなどの態度面など幅広いゼミ指導を展開する。  |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | 平素行うスモールグループディスカッションでの発言(25%)、提出文章などの論理性(25%)、能動的な行動(25%)、卒業論文の進捗状況(25%)など総合的に判定する。  |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。表の1回の授業は2コマである。本講義では、論文を読み深め、まとめて発表する形式をとり、SGD(スモールグループディスカッション)でグループ内でより深い理解を行うこと。その際の議論により行ったフィードバックの内容は記録しておくこと。   |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 木曜日 1~2限   |        |            |              |           |      |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習       | 内田 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |
| 15 | 1)-5)       | ゼミ活動 | 演習・SGD   | 内田 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |

|                     |  |       |           |        |            |              |           |    |
|---------------------|--|-------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 専門ゼミⅡ  |       |           | 授業コード  | 121276B206 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |       |           | ナンバリング | 23C312P06  | AL科目         | ○         |    |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅡは、卒業研究の中間段階であり、専門ゼミⅢで卒業論文が完成できるように、準備を行う。                                  |       |           |        |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |       |           |        |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当教員は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。   |       |           |        |            |              |           |    |
| 評価方法                | 提出課題 90%、ゼミ活動への取り組み姿勢 10%で判定する。  |       |           |        |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |       |           |        |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 在室時はいつでも   |       |           |        |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |       |           |        |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |           |        |            |              | 授業<br>方法  | 担当 |
| 1                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 2                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 3                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 4                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 5                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 6                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 7                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 8                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 9                   | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 10                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 11                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 12                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 13                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 14                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 15                  | 1)-5)  | ゼミ活動  |           |        |            |              | 演習        | 塚田 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない |           |        |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない |           |        |            |              |           |    |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅡ  |      |           | 授業コード  | 121276B203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 23C312P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅡは、卒業研究の中間段階であり、専門ゼミⅢで卒業論文が完成できるように、準備を行う。                                  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題の評価を60%、受講態度を20%、学習への取り組み姿勢を20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 E-204)   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容 | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|---------|------------|-----|
| 1  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 2  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 3  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 4  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 5  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 6  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 7  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 8  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 9  | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 10 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 11 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 12 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 13 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 14 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |
| 15 | 1)-5)       | ゼミ活動    | 演 習        | 齋 藤 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |

|                     |   |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 専門ゼミⅢ   | 授業コード  | 121277B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   | ナンバリング | 23C412P02  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 川野 純一(保・視)  | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅢでは、卒業論文を完成させる。  |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。<br>6)科学論文として体裁の整った卒業論文を書くことができる。 |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | ゼミの出席(10%)・態度(30%)と提出された卒業論文(60%)で判定する。   |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>ゼミでは、自分自身で考え行動する事が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。  |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 後日連絡  |        |            |              |           |      |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 2  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 3  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 4  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 5  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 6  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 7  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 8  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 9  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 10 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 11 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 12 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 13 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 14 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |
| 15 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 川野 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |   |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 専門ゼミⅢ   | 授業コード  | 121277B205 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   | ナンバリング | 23C412P02  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 田村 省悟(保・視)  | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅢでは、卒業論文を完成させる。  |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。<br>6)科学論文として体裁の整った卒業論文を書くことができる。 |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | 卒業論文の評価を60%、受講態度を20%、学習への取り組み姿勢を20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。  |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に課題学習等を30時間以上行うことが求められる。<br>各回の授業は2コマとする。   |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00~10:30(場所:3号棟 2F E-204)   |        |            |              |           |      |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 2  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 3  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 4  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 5  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 6  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 7  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 8  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 9  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 10 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 11 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 12 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 13 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 14 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |
| 15 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 田村 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |



|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅢ   |      |           | 授業コード  | 121277B206 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   |      |           | ナンバリング | 23C412P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 内田 憲之(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅢでは、卒業論文を完成させる。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。<br>6)科学論文として体裁の整った卒業論文を書くことができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教官である内田憲之は、14年の眼鏡関連の研究所および物販店での実務的経験を有する。その経験から、より臨床的・実務的視点から知識だけでなく、マナーなどの態度面など幅広いゼミ指導を展開する。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 評価表に則った卒業論文評価(80%)および平素行うスモールグループディスカッションでの発言(5%)、提出文章などの論理性(5%)、能動的な行動(5%)、卒業論文の進捗状況(5%)など総合的に判定する。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。表の1回の授業は2コマである。本講義では、論文を読み深め、まとめて発表する形式をとり、SGD(スモールグループディスカッション)でグループ内でより深い理解を行うこと。その際の議論により行ったフィードバックの内容は記録しておくこと。                                    |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 木曜日 1~2限  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業方法   | 担当 |  |  |
|--------------------|-------------|-------|--------|----|--|--|
| 1                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習     | 内田 |  |  |
| 2                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 3                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 4                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 5                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 6                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 7                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 8                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 9                  | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 10                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 11                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 12                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 13                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 14                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 15                 | 1)-6)       | ゼミ活動  | 演習・SGD | 内田 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない |        |    |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない |        |    |  |  |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅢ   |      |           | 授業コード  | 121277B207 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   |      |           | ナンバリング | 23C412P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 塚田 貴大(保・視)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅢでは、卒業論文を完成させる。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。<br>6)科学論文として体裁の整った卒業論文を書くことができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当教員は国立大学病院眼科における11年間の視能訓練士勤務および総合病院、眼科医院への外勤8施設の実務経験を有している。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 提出課題 90%、ゼミ活動への取り組み姿勢 10%で判定する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 在室時はいつでも  |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 2  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 3  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 4  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 5  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 6  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 7  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 8  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 9  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 10 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 11 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 12 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 13 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 14 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |
| 15 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 塚田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 専門ゼミⅢ   | 授業コード  | 121277B208 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(60) |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   | ナンバリング | 23C412P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 齋藤 真之介(保・視)   | 開講学期   | 2020年度 後期  | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | ゼミ活動により自主的にかつ共同して学ぶ喜びを体験し、視能訓練士としての科学的思考力と態度を身につけることを目標とする。専門ゼミⅢでは、卒業論文を完成させる。  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)視能訓練士として必要な科学的思考力と態度を身につけている。<br>2)自主的にかつ共同して学ぶことができる。<br>3)得られた事実について科学的、論理的にまとめることができる。<br>4)必要な文献を見つける方法について説明できる。<br>5)文献を読んで要約ができる。<br>6)科学論文として体裁の整った卒業論文を書くことができる。 |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、視能訓練士としての眼科臨床および眼科健康診査における実務経験に基づき、視能検査学に関する基本的知識および技術の習得を目的とした授業を行う。  |        |            |              |           |
| 評価方法                | 卒業論文の評価を60%、受講態度を20%、学習への取り組み姿勢を20%として総合的評価を行う。学習への取り組み姿勢は、課題の提出状況等より判断する。  |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業以外に30時間以上の学習が求められる。<br>表の1回の授業は2コマである。  |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 9:00～10:30(場所:3号棟 E-204)  |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容 | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|------|----------|----|
| 1  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 2  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 3  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 4  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 5  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 6  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 7  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 8  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 9  | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 10 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 11 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 12 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 13 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 14 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |
| 15 | 1)-6)       | ゼミ活動 | 演習       | 齋藤 |

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない |

|                     |   |      |           |        |            |            |          |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|------------|----------|
| 科目名                 | 視能学総合演習Ⅱ  |      |           | 授業コード  | 120447D201 | 単位数<br>時間数 | 4<br>120 |
| 配当学科(学年)            | 視機能療法学科(4年)   |      |           | ナンバリング | 23C412P03  | AL科目       | ○        |
| 担当者                 | 内田 憲之   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態       | 講義・演習    |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 視能訓練士の業務である眼科一般検査・検診業務。ロービジョン・斜視弱視に関連する診断・治療につながる有用かつ正確な病態評価が行えるようになるために、1～3年次に学習した医学の基礎知識から視能の専門知識までを補完、統合し、臨床との関連性を考察していくことで、眼科臨床に役立つ実践的な知識を修得する。   |      |           |        |            |            |          |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人体の構造と機能及び心身の発達加齢について説明できる。</li> <li>2) 疾病(主として全身疾患や感染症)と障害について説明できる。</li> <li>3) 解剖生理について人体を構成する各臓器の構造と機能を説明できる。</li> <li>4) 保健医療福祉とリハビリテーションについて視能訓練士として必要な関係法規を説明できる。</li> <li>5) 両眼視機能と眼球運動について説明できる。</li> <li>6) 視覚生理学の基礎では視力・光覚・色覚など人の眼の機能について説明できる。</li> <li>7) 光学/屈折調節/屈折矯正では眼鏡やコンタクトレンズに関わる基礎的項目を説明できる。</li> <li>8) 視野異常/検査では視野についての基本的項目と検査手技を説明できる。</li> <li>9) 眼科検査学では眼科検査の原理、方法、評価について説明できる。</li> <li>10) 眼科薬理では眼科で使用する薬物の作用、副作用、禁忌について説明できる。</li> <li>11) 眼疾病では眼疾患の病態生理とその病態を評価するために必要な検査について説明できる。</li> <li>12) 神経眼科では眼球運動障害や瞳孔異常など神経眼科学的な疾患が説明できる。</li> <li>13) 斜視検査では両眼視機能や眼球運動の検査手技と病態別の特徴について説明できる。</li> <li>14) 斜視治療について説明できる。</li> <li>15) 斜視各型では共同性斜視の病態と鑑別方法などが説明できる。</li> <li>16) 弱視では弱視各型の定義、原因、臨床所見について説明できる。</li> <li>17) ロービジョンでは障害認定に関する方法や対応について説明できる。</li> <li>18) 臨床心理について説明できる。</li> <li>19) 弱視訓練では弱視の機能回復のための方法が説明できる。</li> <li>20) 斜視訓練では斜視の機能回復のための方法が説明できる。</li> </ol> |      |           |        |            |            |          |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | それぞれの分野において長年にわたり教育と研究、臨床に精通している教員によって実施する。より具体的に沼田は長年にわたる臨床経験を有する。田村は長年にわたる臨床経験と産学共同の検診業務に関する経験を有する。内田は長年にわたる眼鏡関連の業務と臨床経験を有する。塚田は長年にわたる大学病院での実務的経験を有する。齋藤は長年にわたる一般眼科での実務的経験を有する。これらの実務的経験を有する教員が主となり本講義を展開する。  |      |           |        |            |            |          |
| 評価方法                | 演習科目であることから全出席および無遅刻を原則とする。単位認定は、期末試験(70%)を主とし、単位認定試験以外に実施する2回の理解度確認総合試験結果の平均点を(30%)として評価を行う。   |      |           |        |            |            |          |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 視能学総合演習では、数か月に一度、学習ノートを利用し学習方法や学習の質に対するフィードバックを受けること。学習ノートは記録保管いつでも提出できるようにしておくこと。特に本講義では多分野にわたる内容であることから、講義内外でSGD(スモールグループディスカッション)が求められる。SGDの結果、理解度が低い内容については、教員に質問を行うこと。   |      |           |        |            |            |          |
| オフィスアワー             | 各担当教員のオフィスアワーの時間に準ずる。   |      |           |        |            |            |          |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容                             | 授業方法 | 担当 |
|----|-------------|----------------------------------|------|----|
| 1  | 3)          | 眼の解剖と生理についてまとめる。①                | 演習   | 川野 |
| 2  | 3)          | 眼の解剖と生理についてまとめる。②                | 演習   | 川野 |
| 3  | 1)          | 人体の構造と機能、免疫と遺伝、病気のメカニズムについてまとめる。 | 演習   | 川野 |
| 4  | 2)4)18      | 視能訓練士法・心身の発達・医療安全対策についてまとめる。     | 演習   | 川野 |
| 5  | 4)          | 医療面接・心肺蘇生法・診療録についてまとめる。          | 演習   | 川野 |
| 6  | 5)          | 外眼筋の作用と眼球運動についてまとめる。①            | 演習   | 田村 |
| 7  | 5)          | 外眼筋の作用と眼球運動についてまとめる。②            | 演習   | 田村 |
| 8  | 5)          | 両眼視機能についてまとめる。①                  | 演習   | 田村 |
| 9  | 5)          | 両眼視機能についてまとめる。②                  | 演習   | 田村 |
| 10 | 16)         | 弱視各型、弱視検査についてまとめる。①              | 演習   | 田村 |
| 11 | 16)         | 弱視各型、弱視検査についてまとめる。②              | 演習   | 田村 |
| 12 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。①                   | 演習   | 田村 |
| 13 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。②                   | 演習   | 田村 |
| 14 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。③                   | 演習   | 田村 |
| 15 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。④                   | 演習   | 田村 |
| 16 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。⑤                   | 演習   | 田村 |
| 17 | 15)         | 斜視各型についてまとめる。⑥                   | 演習   | 田村 |
| 18 | 13)         | 斜視検査についてまとめる。①                   | 演習   | 田村 |
| 19 | 13)         | 斜視検査についてまとめる。②                   | 演習   | 田村 |
| 20 | 13)         | 斜視検査についてまとめる。③                   | 演習   | 田村 |
| 21 | 13)         | 斜視検査についてまとめる。④                   | 演習   | 田村 |
| 22 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。①                   | 演習   | 沼田 |
| 23 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。②                   | 演習   | 沼田 |
| 24 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。③                   | 演習   | 沼田 |
| 25 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。④                   | 演習   | 沼田 |
| 26 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。⑤                   | 演習   | 沼田 |
| 27 | 19)20)      | 視能訓練についてまとめる。⑥                   | 演習   | 沼田 |
| 28 | 14)         | 斜視手術についてまとめる。①                   | 演習   | 沼田 |
| 29 | 14)         | 斜視手術についてまとめる。②                   | 演習   | 沼田 |
| 30 | 11)         | 視能障害学 眼疾病についてまとめる。①              | 演習   | 塚田 |
| 31 | 11)         | 視能障害学 眼疾病についてまとめる。②              | 演習   | 塚田 |

|    |      |                          |                            |    |    |
|----|------|--------------------------|----------------------------|----|----|
| 32 | 11)  | 視能障害学                    | 眼疾病についてまとめる。③              | 演習 | 塚田 |
| 33 | 11)  | 視能障害学                    | 眼疾病についてまとめる。④              | 演習 | 塚田 |
| 34 | 11)  | 視能障害学                    | 眼疾病についてまとめる。⑤              | 演習 | 塚田 |
| 35 | 11)  | 視能障害学                    | 眼疾病についてまとめる。⑥              | 演習 | 塚田 |
| 36 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。①             | 演習 | 塚田 |
| 37 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。②             | 演習 | 塚田 |
| 38 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。③             | 演習 | 塚田 |
| 39 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。④             | 演習 | 塚田 |
| 40 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。⑤             | 演習 | 塚田 |
| 41 | 12)  | 視能障害学                    | 神経眼科についてまとめる。⑥             | 演習 | 塚田 |
| 42 | 8)9) | 眼科検査学(電気生理学含む)についてまとめる。① |                            | 演習 | 齋藤 |
| 43 | 8)9) | 眼科検査学(電気生理学含む)についてまとめる。② |                            | 演習 | 齋藤 |
| 44 | 8)9) | 眼科検査学(電気生理学含む)についてまとめる。③ |                            | 演習 | 齋藤 |
| 45 | 8)9) | 眼科検査学(電気生理学含む)についてまとめる。④ |                            | 演習 | 齋藤 |
| 46 | 7)   | 生理光学                     | 光学の基礎についてまとめる。             | 演習 | 内田 |
| 47 | 7)   | 生理光学                     | 屈折調節検査についてまとめる。①           | 演習 | 内田 |
| 48 | 7)   | 生理光学                     | 屈折調節検査についてまとめる。②           | 演習 | 内田 |
| 49 | 7)   | 生理光学                     | 屈折矯正 眼鏡とコンタクトレンズについてまとめる。① | 演習 | 内田 |
| 50 | 7)   | 生理光学                     | 屈折矯正 眼鏡とコンタクトレンズについてまとめる。② | 演習 | 内田 |
| 51 | 6)   | 視覚生理学                    | 形態覚についてまとめる。①              | 演習 | 田村 |
| 52 | 6)   | 視覚生理学                    | 形態覚についてまとめる。②              | 演習 | 田村 |
| 53 | 6)8) | 視覚生理学                    | 視野(視野検査を含む)についてまとめる。①      | 演習 | 田村 |
| 54 | 6)8) | 視覚生理学                    | 視野(視野検査を含む)についてまとめる。②      | 演習 | 田村 |
| 55 | 6)   | 視覚生理学                    | 色覚とその評価についてまとめる。①          | 演習 | 田村 |
| 56 | 6)   | 視覚生理学                    | 色覚とその評価についてまとめる。②          | 演習 | 田村 |
| 57 | 10)  | 眼科薬理学                    | についてまとめる。①                 | 演習 | 山本 |
| 58 | 10)  | 眼科薬理学                    | についてまとめる。②                 | 演習 | 山本 |
| 59 | 17)  | ロービジョン                   | についてまとめる。①                 | 演習 | 齋藤 |
| 60 | 17)  | ロービジョン                   | についてまとめる。②                 | 演習 | 齋藤 |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 視能学 第2版(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編) 文光堂【978-4-8306-5539-5】<br>標準眼科学 第12版(大野 重昭 他) 医学書院【978-4-260-01651-3】<br>屈折異常とその矯正 第6版(所 敬) 金原出版【978-4-307-35159-1】<br>眼科検査ガイド(眼科診療プラクティス編集委員) 文光堂【978-4-8306-5521-0】<br>理解を深めよう 視力検査 屈折検査(所 敬 監修) 金原出版【978-4-307-35132-4】<br>理解を深めよう 視野検査(松本 長太 監修) 金原出版【978-4-307-35133-1】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 視能訓練士セルフアセスメント 第6版(丸尾敏夫・久保田伸枝 編) 文光堂【978-4-8306-5541-8】  |

**保健科学部**

**(臨床工学科)**

**シラバス**

*Syllabus 2020*

|                     |   |   |          |            |              |                         |
|---------------------|---|---|----------|------------|--------------|-------------------------|
| 科目名                 | キャリア教育  |   | 授業コード    | 110005B204 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)               |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |   | ナンバリング   | 9CC221B01  | AL科目         | ○                       |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、丹下 佳洋<br>(保・工)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態<br>講 義<br>(SGD/演習) |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士に必要な常識、マナー、社会ルールについて学習する。臨床工学技士は単に医学・工学的な知識を有すればよい<br>と言うわけではなく、「ひと」としての資質が求められている。とくに、長期疾患を対象とした血液透析業務では患者との関わりが<br>長く、人間関係の形成に苦勞することも多い。ここでは大学人としての臨床工学技士のあり方、卒業後職場で苦勞しないための<br>ノウハウについて修得する。 |   |          |            |              |                         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)ビジネスマナーの基本を理解する。<br>2)患者対応の基本を理解する。<br>3)医療者としての自覚と責任を持つことができる。<br>4)高度な専門技術を身につける。   |   |          |            |              |                         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 竹澤は透析専門病院に16年間勤務、医療の中におけるマナーを習得している。さらに、ベンチャー企業の代表取締役でもあり、<br>ビジネスでの人的交流方法などについて豊富な経験を有している。丹下は透析専門病院に6年間臨床工学技士として勤務、<br>医療の中で臨床工学技士はどうあるべきかを熟知している。  |   |          |            |              |                         |
| 評価方法                | 講義ごとのレポート提出を行い、評価、フィードバックによる確実な習得を目指す。各レポートの評価点を合計し、単位認定する。   |   |          |            |              |                         |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各自のパソコンを使用することがあるので、持参すること。講義終了後に必ず30分以上は復習を行うこと。また、次回の講義内<br>容を説明するので、あらかじめネット検索するなど、予習を欠かさないこと。   |   |          |            |              |                         |
| オフィスアワー             | 月曜日 15~17時  |   |          |            |              |                         |
| 授業計画                |   |   |          |            |              |                         |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当                      |
| 1                   | 1)2)3)  | 【おとなの文書:ビジネスレターのナゾ-1】<br>Wordを用いた文書作成において、一般的なビジネスレターの基本を理解し、必要な情報を失礼の無いように先方<br>へ伝えることができる。  |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 2                   | 1)2)3)  | 【おとなの文書:ビジネスレターのナゾ-2】<br>病院実習先への挨拶文やお礼状、就職希望先への履歴書送付など、実際に即したレターを書くことができる。  |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 3                   | 2)3)  | 【難しい会話:患者さんと信頼関係を得るはじめての一步】<br>医療現場では患者さんとの喧嘩ごし会話が多い。患者さんは必死に助けを求めているからである。売られたけんか<br>を買わない必殺技を学習、臨床での失敗が少なくなる会話術を習得する。                                     |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 4                   | 1)2)3)  | 【大嫌いな電話対応】<br>電話は相手の顔が見えず、話し方を間違えると大きなトラブルになる。ビジネスでの電話対応の基本と印象の良い<br>単語、口調、トーンを学習し、電話対応で失敗することがないように練習する。   |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 5                   | 1)2)3)  | 【対応したくない患者クレーム】<br>最近は患者や家族からのクレームが多く、適切な対応をないがしろにすると訴訟問題に発展しかねない。クレーム<br>対応の基本を学習し、模擬患者家族からのクレーム対応を経験、臨床で失敗しないよう訓練する。                                      |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 6                   | 1)2)3)  | 【新入職員が大恥をかいたビジネスの落とし穴】<br>学生時代には全く考えもしなかったシチュエーションが、ビジネスではとても重要なこともある。就職したあとをイメ<br>ージし、先輩職員などとの行動で恥をかかないよう、実際のビジネスシーンで行動パターンを学習する。                          |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 7                   | 1)2)3)  | 【学生の常識はオトナの非常識】<br>今まで何も考えずに行動してきたことが、社会人として通用しないことは多々ある。現在、過去を振り返って社会人<br>マナーに反している事例を挙げ、「おとな」として失敗することがないように学習する。   |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 8                   | 1)2)3)  | 【難しい“お作法”】<br>日本のみならず、世界には様々な決まり事、すなわち「作法」があり、これを踏破しないと一人前の大人として迎え<br>入れることがない風潮がある。ビジネスや患者さんの前でどのような作法が必要とされているのか。いくつかの場面<br>を想定し、実際に訓練することによって必要な作法を習得する。 |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 9                   | 4)  | 【研究者の常識:文献検索】<br>一人前の臨床工学技士は、日本語、英語の文献検索ができて当たり前。インターネットを用いた検索方法を理解す<br>る。  |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 10                  | 3)  | 【生きるこそして死ぬこと:真の人世とは何か?】<br>生と死について考える。自らの人生哲学を探し求め、「医療者である前にまず人間であること」の意味を理解する。   |          |            | 講義演習SGD      | 竹澤                      |
| 11                  | 4)  | 【医療の常識は非常識?バイタルサインからはじめる患者対応】<br>概略を習ったバイタルの意味と取り方について、復習を兼ねて学習する。  |          |            | 講義演習SGD      | 丹下                      |
| 12                  | 4)  | 【医療に用いられる圧力は?モニタリング技術】<br>医療の世界では未だに mmHg 単位の圧力が用いられている。圧力はどのようにして測定しているのだろうか。その<br>測定原理、実際の測定方法などについて学習する。   |          |            | 講義演習SGD      | 丹下                      |
| 13                  | 4)  | 【医療従事者に不可欠なプレゼンテーション実践 1】<br>わかりやすいプレゼン技術は医療者に不可欠である。1年次に学習したプレゼンを、実践的に再確認する。   |          |            | 講義演習SGD      | 丹下                      |
| 14                  | 4)  | 【医療従事者に不可欠なプレゼンテーション実践 2】<br>わかりやすいプレゼン技術は医療者に不可欠である。1年次に学習したプレゼンを、実践的に再確認する。   |          |            | 講義演習SGD      | 丹下                      |
| 15                  | 4)  | 【医療における隠語】<br>病院では、わざと患者さんに分からない言葉を使って医療者同士が会話を行う。クリティカル、ツッカーなどが理解<br>できるように学習する。   |          |            | 講義演習SGD      | 丹下                      |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |          |            |              |                         |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |          |            |              |                         |

|                     |  |                      |          |            |              |           |       |
|---------------------|--|----------------------|----------|------------|--------------|-----------|-------|
| 科目名                 | 国際保健福祉論  |                      | 授業コード    | 110070B401 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |       |
| 配当学科(学年)            | スポーツ健康福祉学科・臨床福祉学科・子ども保育福祉学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科・薬学科・動物生命薬科学科・生命医科学科(2年)  |                      | ナンバリング   | 9CG221B02  | AL科目         |           |       |
| 担当者                 | 日田 剛(福・福)、秋葉 敏夫  | 開講学期                 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態      | 講 義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>本学の学則第1条に「本学は(中略)国際化社会に向けて、介護・福祉、医療、薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする」とある。この目標実現に資するために大学共通科目として本講義が設定されている。この講義は本学が持つ学部・学科の教員がそれぞれの専門分野から保健、及び福祉に関する講義を行う形式をとる。さらに、海外で長年国際保健に取り組んできた非常勤講師からも、世界の保健状況についての情報を得ることができ、学生諸君は授業を通して保健福祉に関する多角的な視点が持てるようになる。</p> |                      |          |            |              |           |       |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)健康の定義、福祉の定義を説明できる。<br/>2)薬学部、保健科学部、社会福祉学部のそれぞれの視点から国内外の保健と福祉の関係を説明することができる。<br/>3)世界の小児保健の状況について述べるができる。<br/>4)世界の主要な感染症について現状と対策が説明できる。</p>  |                      |          |            |              |           |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | <p>医師としての経験を有し、海外で長年にわたって保健医療協力活動(JICA 専門家等)を重ねてきた実務経験者を、非常勤講師として招聘している。</p>   |                      |          |            |              |           |       |
| 評価方法                | <p>各回の授業で小レポートを課し、理解度合いをチェックする。学習への取り組み姿勢(小レポートの質、質問などによる授業への参加など)を20%、全講義終了後に提出する最終課題レポート80%で単位判定を行う。</p>   |                      |          |            |              |           |       |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>本講義はオムニバスで行われるので、事前準備は難しい。したがって授業中に適切にノートを取り、配布資料やインターネットなどをを用いて十分に復習することが肝要である。</p>  |                      |          |            |              |           |       |
| オフィスアワー             | 水・木・金曜日 12:30 から 13:00 まで  |                      |          |            |              |           |       |
| 授業計画                |  |                      |          |            |              |           |       |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容              |          |            |              | 授業<br>方法  | 担当    |
| 1                   | 1)   | 国際保健福祉とは(イントロダクション)  |          |            |              | 講 義       | 稲田    |
| 2                   | 2)   | 薬学と国際保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 黒川    |
| 3                   | 2)   | リハビリテーションと国際保健福祉     |          |            |              | 講 義       | 立石    |
| 4                   | 2)   | 臨床工学と国際保健福祉          |          |            |              | 講 義       | 竹澤    |
| 5                   | 2)   | 臨床検査医学的見地から見た国際保健福祉  |          |            |              | 講 義       | 清水(慶) |
| 6                   | 2)   | 人獣共通感染症と国際保健福祉       |          |            |              | 講 義       | 明石    |
| 7                   | 2)   | 鍼灸と国際保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 渡邊    |
| 8                   | 3)   | 世界の小児保健の現状           |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 9                   | 4)   | 世界の主要な感染症 HIV/AIDS   |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 10                  | 4)   | 世界の主要な感染症 マラリア       |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 11                  | 4)   | 世界の主要な感染症 結核         |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 12                  | 4)   | 世界の主要な感染症 肝炎ウイルス     |          |            |              | 講 義       | 嶋田    |
| 13                  | 2)   | 世界の高齢者の保健福祉          |          |            |              | 講 義       | 清水    |
| 14                  | 2)   | 世界の精神保健福祉            |          |            |              | 講 義       | 西田    |
| 15                  | 2)   | 世界の子供の保健福祉           |          |            |              | 講 義       | 日田    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。必要に応じて資料を提供する。 |          |            |              |           |       |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。               |          |            |              |           |       |



|                     |  |                             |           |            |              |           |
|---------------------|--|-----------------------------|-----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生命倫理学  |                             | 授業コード     | 110104B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科、視機能療法学科、臨床工学科(1年)   |                             | ナンバリング    | 2CC122B01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 中村 真理子(保・言)  | 開講学期                        | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 専門職としての素養と自覚、責任感および倫理観をもつために、生命科学に基礎を置く現代の医療・保健分野における具体的な問題を把握し、それらの問題を生命観・倫理観の視野の中で考察するとともに、個々の課題に対して主体的に関わっていくための基本的知識を修得する。   |                             |           |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 生命倫理学の言葉の意味を理解するとともに、生命倫理学で扱う具体的諸問題を列挙できる。<br>2) 終末期医療を死をめぐる倫理問題について説明できる。<br>3) 出生をめぐる倫理問題について説明できる。<br>4) 先端医療技術について説明できる。<br>5) 医療・保健分野における利用者・従事者関係の歴史の変遷を理解し、インフォームドコンセントの意味と限界を説明できる。<br>6) 公衆衛生の倫理について説明できる<br>7) 医療倫理の個別性を理解し、それらに対応できる視野の広がりについて説明できる。 |                             |           |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(中村)は臨床現場(岡山大学附属病院歯科矯正科)で5年以上矯正歯科医としての臨床経験を有する。医療現場において臨床倫理に知識は必要不可欠であり、担当者が実際の臨床で得た経験に基づく授業を行う。  |                             |           |            |              |           |
| 評価方法                | レポートの内容ならびに学習の取り組み姿勢(課題の提出状況、授業への参加)より総括的に評価する。  |                             |           |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 普段からメディア等を通じて、現代社会の医療・保健分野のトピックスに注意を向けていること。   |                             |           |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週木曜 12:30~13:00   |                             |           |            |              |           |
| 授業計画                |  |                             |           |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                     |           |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 生命倫理学の言葉の意味は何か、生命倫理の4原則について |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 2                   | 1)5)   | インフォームドコンセント、守秘義務について       |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 3                   | 2)   | 終末期医療について                   |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 4                   | 2)   | 臓器移植について                    |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 5                   | 2)   | 安楽死と尊厳死について                 |           |            | 講義,SGD       | 中 村       |
| 6                   | 2)   | 救急医療・災害医療について               |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 7                   | 3)   | 着床前診断について                   |           |            | 講義,SGD       | 中 村       |
| 8                   | 3)   | 人工中絶と出生前診断について              |           |            | 講義,SGD       | 中 村       |
| 9                   | 3)   | 生殖補助医療技術について                |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 10                  | 3)4)   | 新生児医療における生命倫理について           |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 11                  | 1)5)   | 医療情報(個人情報、診療情報、遺伝情報)について    |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 12                  | 6)   | 公衆衛生の倫理                     |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 13                  | 1)7)   | 疫学研究について                    |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 14                  | 7)   | 医療機関における医療安全への取り組みについて      |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 15                  | 7)   | 医療人類学について                   |           |            | 講 義          | 中 村       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 生命倫理と医療倫理 改訂3版 伏木信次 樫則章 霜田 求 株式会社金芳堂 ISBN978-4-7653-1598-2   |                             |           |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない  |                             |           |            |              |           |

|                     |   |  |            |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|------------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医療経済学   |  |            | 授業コード  | 110153B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科(1年)   |  |            | ナンバリング | 2CC121B02  | AL 科目        |           |
| 担当者                 | 金谷 義弘(非常勤講師)  | 開講学期   | 2020 年度 前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>皆さんの4年後、3年後などを想像して下さい。皆さんはこの大学を卒業して、実社会に出て、これまでに学んだ専門的知識を活かして実社会で活動をいよいよ開始しているでしょう。現在に眼を向けて、皆さんは何を目指して九州保健福祉大学で学んでいますか。そこで気づいて欲しいのです。福祉も医療の世界も、モノ作りの世界や金融の世界と同じで、皆、先進国にふさわしい社会組織です。子供の頃とは違って、全ての社会的活動には、必ず経済的・経営的な諸条件に基礎づけられています。何をすることも予算の裏付けを持っているのです。このシラバスを書く今、日本と世界は新型コロナウイルスによる大きな混乱の中にあります。しかし、それはウイルスと感染という医学上の問題だけでこんな大きな問題になったのではなく、その医学上の問題が、世界と日本の経済的なシステムを揺るがしていることによって、当初、想定された危機以上の危機になっているのです。</p> <p>そこで、本講義は、九保大生である皆さんの社会的・経済的自立に自立するという観点に立って(特徴Ⅰ)、激動の現代社会を生き抜く実践的性格を持つように運営していきます(特徴Ⅱ)。この講義は、社会を生きる経済感覚を育成することを目標とします。そのために、皆さんが活動する医療や福祉なども包み込む、現代経済の仕組みを「大きく太く」捉えていくようにします。</p> <p>しかし、現代社会の大きな流れを、経済感覚として把握するには、眼前の現実だけ見ていると、現実は良く見えません。何故なら、現代社会というものは、絶えず過去から未来へ向けて変動する、その途上にあるものだからです。そこで、本講義では、歴史の観点を持って、近代経済社会が成立する18世紀から19世紀の産業革命なども視野に入れた授業を行います。250年の歴史の変化発展の中に、何故、福祉国家が生まれたのか、何故、コレラやペストの流行が起こったのか、というようなエピソードを取り入れて、医療や福祉をちよっとディープに把握できる、時代感覚・歴史感覚を掴んでもらうことを目指します(特徴Ⅲ)。</p> <p>しかし、現代はICT(情報・コミュニケーション技術)が社会全体を激変させていく、その過渡期にあり、未来に向かって、僕たちの眼が開かれている必要があります。そこで、ICT化の激変は、産業面では、IoT(Internet of Things)、交通面では自動運転などを促すTelematics、金融面ではFinTechなどの事態が進行中です。こうした現代の技術革新をこの授業は捉えます(特徴Ⅳ)。</p> <p>僕が学生だったころ、情報社会が到来すると言われはじめましたが、現代の動きは急激です。そうした変化の中に、手術支援ロボット、パワーアシストスーツ、義足・義手の進化、介護ロボットなどの変化も位置づいているのです。こうした経済社会の激変の中で、医療や福祉は如何なる特殊な社会領域であるかという点も取り扱います(特徴Ⅴ)。</p> <p>このように経済というものを深くとらえると、時代を生きる「大局観」があなたの中に生まれること、それが本講義の目標です。ゆっくりと、しかし着実に学んでいきましょう。</p> |  |            |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>本講義の目的は、医療や福祉を学ぶ皆さんが、その自分たちの専門性を深め、進路を開拓する上で、如何に経済の観点からモノを見る理解力、分析力が必要・不可欠かを理解してもらうことを課題とする。そのためには経済現象に関する基礎的な理解が不可欠です。そこで、本講義の到達目標は以下の諸点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)経済現象を理解できる見方・感覚を身につけること、</li> <li>2)経済現象を歴史的な変化・発展から理解できること、</li> <li>3)技術革新と経済発展の観点から、現実を見ることができると、</li> <li>4)医療や福祉などの経済が、自動車や情報通信などの産業諸分野とどのように異なっているか、その特殊性を把握できること、</li> <li>5)もって、これから遭遇するであろう現実や課題(それは多くの場合、皆さんの専門性を越えた総合力を要求することになります)を理解・分析できるようにすること</li> <li>6)最後に、これからも変化・発展する、日本における福祉や保健を取り巻く社会・経済・政策と制度変化を把握するための専門的な情報検索ができること。</li> </ol>   |  |            |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | <p>道具を使って加工を行う手工業の生産から、機械による生産への移行を、京都の伝統産業の一つ「京扇子」のメーカーの一員として8年間になった(金谷竹材工藝、京都市山科区の伝統工芸団地)。内容的には、(1)機械の設計・開発、(2)旋盤・電気溶接による部品製造、(3)これに伴う工場レイアウト・従業員の安全確保、(4)経理と資金繰りである。</p> <p>この経験は、一方で、英・米・独・仏などの19世紀における産業革命における技術革新から、現代のIoT、Telematics、FinTechに至る「技術の発展と経済・経営の変容」を経済学的に把握する地歩を作った。</p> <p>他方で、南九州で地域の多様な企業や医療・社会の組織を、経済学的・経営学的に具体的に把握する基盤を作った。</p> <p>こうした経験を授業で活かしていきたい。</p>  |  |            |        |            |              |           |
| 評価方法                | <p>A.平常評価<br/>(1)授業での質疑応答、グループ討論、学習への志向性と関心・疑問の提起=20点。<br/>(2)各授業を受けたショートレポート=25点。<br/>→ 合計45点。<br/>B.期末評価<br/>・90分の小論文の筆記試験=55点。</p>   |  |            |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>(1)心構えの問題として、経済学などを学ぶことは、皆さんの専門教育と異なり、自分の技能を現代社会の中に「位置づける」力を涵養することを忘れて欲しくない。<br/>(2)社会・経済とその絶えざる変動などの複雑な諸条件の中に、本当は存在している、皆さんの職場、医療・福祉の現況を感知する理解力を目指して欲しい。<br/>(3)資料は、十分読むに値するように書かれているので、復習に使って欲しい。<br/>(4)Web上で、如何に信頼に値するデータを獲得するかについて、説明するので、各回の復習に関する指示に従って欲しい。<br/>(5)適切な時期に、試験問題を複数選択できるように事前公開する。上掲(3)の配布資料は膨大になるので、毎回きっちりファイリングして、授業全体を見通した復習をされたい。</p>   |  |            |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | <p>私は非常勤の教員なので、講義中に配るリアクションペーパーにて質問してもらいたい。質問や授業内容に関するコメントは大歓迎！です。集中講義機関中なら昼食の時間もオーケーです。次回の授業で、必要なリアクションペーパーの論点へコメントもします。</p>   |  |            |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |            |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容  |            |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 3)  | <p>【①「経済学・医療経済学の入り口に立って<br/>－ これまでの生活・社会的自立・所得と生活への展望 －」】<br/>まず、僕たちのよって立つ生活の経済基盤を考えよう。大学へ入るまでにどのくらいお金がかかったか？大学在籍中にいくらかかるか？就活と就職、結婚や出産、マイホームの取得と住宅ローン、教育費、相続など、一生を見とおして、現在を生きよう！</p> |            |        |            | 講 義          | 金 谷       |

|    |        |   |    |    |
|----|--------|---|----|----|
| 2  | 2)     | 【②経済の歴史(1)ーイギリス産業革命と資本主義経済の自立ー】<br>産業革命とは何か？それって歴史の対象じゃないのか？そうでもない。そこには技術革新が起爆剤となって、劇的な経済活動の高まりと教訓が見られる。  | 講義 | 金谷 |
| 3  | 2)     | 【③経済の歴史(2)ー世界各国の産業革命の進展と19世紀世界経済へー】<br>産業革命はイギリスを超えて、ベルギー、フランス、ドイツ、さらにはアメリカ、日本にまで波及した。それは経済活動だけでなく、鉄道、海運と運河、情報通信、医療などの諸側面に大きな変化をもたらした。都市への人口集中は、都市の生活環境の悪化を招き、疫病から市民を救う医師の戦いも始まる。その過程で「公衆衛生学」が生まれる。       | 講義 | 金谷 |
| 4  | 1)2)4) | 【④貨幣(お金)の経済ー千円札と小銭から始める貨幣の現在・過去・未来ー】<br>財布から千円札を出してじっくり観察する。紙きれの「お金(貨幣)」には偽造防止システムが駆使されている。預金は通貨(預金通貨)になる。電子マネー・ポイントカード・デビットカード・クレジットカードの違い。Bitcoinまで。  | 講義 | 金谷 |
| 5  | 1)     | 【⑤「道の駅」の経済学ー何故、日本には1000以上も存在するのか？ー】<br>「道の駅」を作るには、どの府省庁が司っているのか？「道の駅」の作り方。「道の駅」は何を担っているのか？「道の駅」からみえてくる経済とは何か？   | 講義 | 金谷 |
| 6  | 1)     | 【⑥「道の駅」で発表だ！ーあなたの町の「道の駅」ー】<br>調べて来たことを発表する。金谷は、高速道路のサービスステーションや農産物販売所などと対比して、その姿を浮き彫りにする。だんだん見えてくる「道の駅」の役割りと経済というもの。  | 講義 | 金谷 |
| 7  | 1)     | 【⑦情報収集の経済学ー自分でやる経済情報収集ー】<br>ちょっと実践的に考えて見ても、企業や業界に関する社会・経済の調査力をアップしておくことは、直接的にも就活などに立つだろう。ではどうするか検索エンジンにキーワードを入れて…?! 実際には良い加減な情報も氾濫している。そんなことでは良い情報に出会えない。<br>どこに大事な情報は集約されているのか?検索マシン盲従からの脱却経済学。請う、ご期待!!! | 講義 | 金谷 |
| 8  | 1)     | 【⑧産業循環の経済学ーアメリカが世界一豊かになる1920年代と大恐慌ー】<br>1929年に始まる世界大恐慌って何?! その秘密は直前の1920年代のものすごい経済発展にある。エジソン、電灯・洗濯機・掃除機・ヘンリーフォードと自動車・飛行機。そこに世界一の豊かな経済と生活が生まれた!  | 講義 | 金谷 |
| 9  | 1)     | 【⑨マネジメントの経済学ーシェアーズと通信販売ー】<br>1920年代の経済発展、農村に都会の良い商品を求める声。これをかなえた信用できる「通信販売」を生んだシェアーズローバック。今のAmazonの通販が重なって見える。流通業でも存在する技術革新と経済の結びつき。  | 講義 | 金谷 |
| 10 | 1)     | 【⑩モノ作りの経済学ー自動車・家電・iPhone 6+とモノ作りの進化ー】<br>自動車産業では、20世紀初頭のフォードシステム、戦後日本の家電製品の製造、現代の自動車の自動運転化、iPhoneのグローバル製造など、モノ作りの変遷を追跡し、経済の生きた動態を理解する。  | 講義 | 金谷 |
| 11 | 1)2)   | 【⑪モノ作りの経済学ー自動車・家電・iPhone 6+とモノ作りの進化ー(続き)】<br>自動車産業では、20世紀初頭のフォードシステム、戦後日本の家電製品の製造、現代の自動車の自動運転化、iPhoneのグローバル製造など、モノ作りの変遷を追跡し、経済の生きた動態を理解する。  | 講義 | 金谷 |
| 12 | 1)2)   | 【⑫モノ作りの経済学ー自動車・家電・iPhone 6+とモノ作りの進化ー(続き)】<br>自動車産業では、20世紀初頭のフォードシステム、戦後日本の家電製品の製造、現代の自動車の自動運転化、iPhoneのグローバル製造など、モノ作りの変遷を追跡し、経済の生きた動態を理解する。  | 講義 | 金谷 |
| 13 | 3)5)   | 【⑬医の経済学ー人命と倫理、法と制度による医療産業と経済ー】<br>患者、医師とコメディカル等の担い手とその育成、労働市場、医療保険の原理と日本の国民皆保険、医師不足の真実などなど、医療にも経済がある、経済活動がある。しかし、それは他の産業と異なり、市場経済に完全に委ねられている訳ではない。  | 講義 | 金谷 |
| 14 | 3)4)6) | 【⑭医の経済学ー人命と倫理、法と制度による医療産業と経済ー(続き)】<br>患者、医師とコメディカル等の担い手とその育成、労働市場、医療保険の原理と日本の国民皆保険、医師不足の真実などなど、医療にも経済がある、経済活動がある。しかし、それは他の産業と異なり、市場経済に完全に委ねられている訳ではない。  | 講義 | 金谷 |
| 15 | 3)7)   | 【⑮医薬品・医療機器、産業動物・愛玩動物の経済学】<br>先端技術開発の世界と言える医薬品・医療機器産業の実態。加えて、産業動物・愛玩動物の世界にも経済基盤がある!  | 講義 | 金谷 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】

特になし。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

参考文献やWebサイトについては、逐次、授業中に配布資料にて指摘して行く。  
配布資料は毎回「読み返せる資料」として多数配布するので、毎回、ファイリングを確りしないと、試験前に混乱します。ご注意ください!  
『日本の医療ー統制とバランスー』(池上直巳・J.C.キャンベル)中公新書、1996年。  
『医療経済学』(漆博雄編)東京大学出版会、1998年(古典的な医療経済学のテキストです)。  
その他、講義中に紹介して行きます。  
『数字でみるニッポンの医療』(読売新聞医療情報部)講談社現代新書、2008年。  
『東日本大震災 石巻災害医療の全記録ー「最大被災地」を医療崩壊から救った医師の7ヶ月ー』(石井正)講談社(ブルーバックス)、2012年。

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医療統計学演習   |      |           | 授業コード  | 110022B203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |      |           | ナンバリング | 2CC221B01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 渡辺 渡(生・医)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義、演習、SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療の現場では、エビデンスに基づいた最善の医療を患者に提供することが重要であり、そのためには医用従事者は正しいデータの取得や解釈ができる必要がある。本講義では、臨床工学技士が医療従事者として知っておくべき統計の基本を習得し、実践に活用できるデータ解析法の基礎を修得することを目標とする。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 医療統計の基本的な用語が説明できる。<br>2) 様々な統計処理方法について概説できる。<br>3) 統計処理された結果のポイントを読み取ることができる。<br>4) 事例に合った基本的な統計処理ができる。<br>5) 統計処理後の結果を図表で正しく表すことができる。       |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、企業の医薬品開発研究所での10年以上の実務経験に基づき、実践的な医療統計学の知識習得を目的とした授業を行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義内で実施する統計処理への取り組み姿勢や提出物を20%、学習到達度試験20%、単位認定試験を60%として単位認定を行う。なお詳細な基準は授業開始時に説明する。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・関数電卓と定規は必ず持参すること。<br>・毎回の授業の前夜や週末および長期休暇を利用して、計15時間程度の復習を行うこと。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月および火曜日: 13:00~17:00、金曜日: 12:30~14:30   |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                                      | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|------------|-----|
| 1  | 1)          | Evidence based medicine の意義や医療における統計の必要性を知る。 | 講 義        | 渡 辺 |
| 2  | 1) 2)       | 平均値や標準偏差値など基本的な統計用語の基礎を確認する。                 | 講義、SGD     | 渡 辺 |
| 3  | 1) 2)       | 身近なデータ値を処理して、適切な図で表す方法を知る。                   | 演習、SGD     | 渡 辺 |
| 4  | 1) 2)       | 代表値としての中央値の利用と箱ひげ図の作製方法を知る。                  | 演習、SGD     | 渡 辺 |
| 5  | 3)          | 帰無仮説と有意差の概念を知る。                              | 講 義        | 渡 辺 |
| 6  | 3)          | 感度と特異度、前向きと後ろ向き研究の相違を知る。                     | 講 義        | 渡 辺 |
| 7  | 3) 4)       | 身近なデータを処理して、相関性について知る。                       | 演習、SGD     | 渡 辺 |
| 8  | 3) 4)       | 相対的・絶対的リスク減少率とNNTを知る。                        | 講義、演習      | 渡 辺 |
| 9  | 1)~4)       | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅰ)。                        | 演 習        | 渡 辺 |
| 10 | 4)          | リスク比とオッズ比について知る。                             | 講義、SGD     | 渡 辺 |
| 11 | 4)          | パラメトリックとノンパラメトリック検定の相違について知る。                | 講 義        | 渡 辺 |
| 12 | 4)          | $\chi^2$ 二乗検定について知る。                         | 講 義        | 渡 辺 |
| 13 | 4) 5)       | 多変量解析と生存曲線について知る。                            | 講義、演習      | 渡 辺 |
| 14 | 1)~5)       | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅱ)。                        | 演 習        | 渡 辺 |
| 15 | 4) 5)       | 様々な事例を十分理解し、適切な統計処理を実践する。                    | 演習、SGD     | 渡 辺 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 恋する医療統計学 出版社: 南江堂; 1版 (2015/4/16) ISBN-13: 978-4524257171 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。  |

|                     |  |   |           |        |            |              |   |
|---------------------|--|---|-----------|--------|------------|--------------|---|
| 科目名                 | 英語コミュニケーション  |   |           | 授業コード  | 110031B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科(2年)  |   |           | ナンバリング | 2CC221B02  | AL 科目        | ○   |
| 担当者                 | 柳田雅美(非常勤講師)  | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 講義、<br>Role Playing<br>Activity<br>TPR(Total Physical Response)<br>Presentation |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目では、英語を用いた言語活動において基本となりえる語彙や表現についての再確認を行い、一般社会および臨床の場面でより実践的なレベルにおける知識や運用を可能にすることを目標とする。医療専門用語を学びつつ、インターナショナルな場面でも実際の医療現場における会話シーンを想定し、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指す。特に検査等の現場で患者様に対し、身体動作に的確な指示出しができるよう TPR を駆使し、動作の指示だしが多用されるエクササイズインストラクターとしてのプレゼンテーションを英語で行ってみる。 |   |           |        |            |              |   |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)実際の医療現場で必要とされる英語の基礎力を身につけるために、「リスニング」「リーディング」「ライティング」「スピーキング」に関する基本的知識と技能をバランスよく使える。<br>2)医療現場で役立つ専門語彙、重要語句や症状等を説明する表現が言える。<br>3)英語を用いた実際のコミュニケーションにおいて情報の聞き取りや指示、説明の基本となる表現、フレーズなどが使える。<br>4)実践的なレベルにおける英語の知識や運用能力を実際のコミュニケーションドリルを通して体得する。               |   |           |        |            |              |   |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし   |   |           |        |            |              |   |
| 評価方法                | 授業取組姿勢、タスクプレゼンテーション 40%、復習テスト 10%、学期末テスト 50%の割合で評価   |   |           |        |            |              |   |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | unit 毎に予習、復習をすること。特に医療用語に関しては自分にしっかり取り込むべきものとして繰り返し復習すること。リスニングにおいても、クラス時に難があれば聞き取れるまで付属の CD を活用して努力をすること。グループタスクワークは最終プレゼンテーションに繋がっていくので積極的に取り組むこと。予習、復習各 1 時間程度、特に復習には重点をおくこと。   |   |           |        |            |              |   |
| オフィスアワー             | 授業前後の可能な時間 教室にて  |   |           |        |            |              |   |
| 授業計画                |  |   |           |        |            |              |   |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当  |
| 1                   | 1)2)3)<br>4)   | 授業の進行や、学び方について説明。Unit 1 First Visit   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 2                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 1 First Visit (Interview Sheet)<br>Unit 2 At the Examination Room              |           |        |            | R P<br>講 義   | 柳 田   |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 3 Flue Symptoms  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 2,Unit 3 Role Playing / Total Physical Response                                |           |        |            | R P<br>T P R | 柳 田   |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 4 Pain Problem   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 6                   | 2)3)   | Review (Activity)<br>Exercise instructor TPR の進行の説明                                 |           |        |            | A C T        | 柳 田   |
| 7                   | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 5 Stomachache  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 8                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 6 Abdominal Pain   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 9                   | 1)2)3)<br>4)   | Unit 7 Urinalysis   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 10                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 8 Cholesterol  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 11                  | 1)2)3)<br>4)   | 中間小テスト<br>Unit 9 Anemia   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 12                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 10 Injury  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 13                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 12 Alcohol Poisoning   |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 14                  | 1)2)3)<br>4)   | Unit 13 Ultrasound Examination  |           |        |            | 講 義          | 柳 田   |
| 15                  | 2)3)   | The presentation of "Exercise Instructor"<br>Review (words and phrases run-through) |           |        |            | R P<br>A C T | 柳 田   |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | Medical English Clinic /西原俊明 西原真弓 Tony Brown<br>(Cengage Learning) ISBN978-4-86312-154-6   |   |           |        |            |              |   |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 特に指定しない  |   |           |        |            |              |   |

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医療英語  | 授業コード  | 110019B204 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   | ナンバリング | 2CG222B01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 選択        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | コメディカルとしての医療専門英語の語彙、聴き取り能力、表現能力、writing skill等を総合的にプラクティスする。  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)医療英単語の特徴を既知の単語と関連づけ列挙する。<br>2)英語構文についてその構成を吟味する。<br>3)英語アレルギーを克服して身近に感じてみる。<br>4)英語で表現してみる。                     |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業における教官による行われる質疑応答態度、および毎回の小テストによる評価。  |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各授業における小テストの内容に対して各回復習を確実にを行い習得すること。<br>小テストの内容が提示された場合は、確実に内容の習得を行い授業に参加すること。<br>各課題提出がある場合は、次回講義までに予習を準備していること。 |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日 11:00~12:30 研究室 B-331   |        |            |              |           |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.                                 | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |  |
|--------------------|---|--|----------|----|--|
| 1                  | 1)2)  | 【英語の論文を読む1】英語論文を読み、全体から何がテーマでどのように構成されているか判読を試みる。                  | 講義       | 吉武 |  |
| 2                  | 1)2)  | 【英語の論文を読む1】英語論文を読み、全体から何がテーマでどのように構成されているか判読を試みる。                  | 講義       | 吉武 |  |
| 3                  | 1)2)  | 【英語の論文を読む1】英語論文を読み、全体から何がテーマでどのように構成されているか判読を試みる。                  | 講義       | 吉武 |  |
| 4                  | 3)4)  | 【英語で表現してみる2】<br>日常生活での身の回りの出来事を英語で表現する。                            | 講義       | 吉武 |  |
| 5                  | 1)  | 【医療英語の語彙をみる1】<br>テキストを使用。見て、聴いて、書いて、習得する。                          | 講義       | 吉武 |  |
| 6                  | 1)  | 【医療英語の語彙をみる1】<br>テキストを使用。見て、聴いて、書いて、習得する。                          | 講義       | 吉武 |  |
| 7                  | 2)3)4)                                      | 【英語の論文を読む1】英語論文を読み、全体から何がテーマでどのように構成されているか判読を試みる。                  | 講義       | 吉武 |  |
| 8                  | 2)3)4)                                      | 【英語の論文を読む2】<br>英文をみて、日本語との構造の違い、さらに考え方の違いを見てみる。                    | 講義       | 吉武 |  |
| 9                  | 2)3)4)                                      | 【英語の論文を読む3】<br>英文をみて、日本語との構造の違い、さらに考え方の違いを見てみる。                    | 講義       | 吉武 |  |
| 10                 | 3)4)  | 【英語で対話する1】<br>自己表現を磨く。さらに対話で意思疎通が図れるように工夫する。                       | 講義       | 吉武 |  |
| 11                 | 3)4)  | 【英語で対話する1】<br>自己表現を磨く。さらに対話で意思疎通が図れるように工夫する。                       | 講義       | 吉武 |  |
| 12                 | 3)4)  | 【英語で対話する1】<br>自己表現を磨く。さらに対話で意思疎通が図れるように工夫する。                       | 講義       | 吉武 |  |
| 13                 | 3)4)  | 【英語で対話する1】<br>自己表現を磨く。さらに対話で意思疎通が図れるように工夫する。                       | 講義       | 吉武 |  |
| 14                 | 1)2)  | 【医療用の英語教材について】<br>英語をさらにbrush upするためには？効率よく、集中して。その方法を例示するので考えてみる。 | 講義       | 吉武 |  |
| 15                 | 1)2)3)<br>4)                                | 【医療人としての英語力】<br>医療を行ううえで、どのくらいの英語の力が必要なのか？表現力、読解力、発言力などから考えてみる。    | 講義       | 吉武 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 東大病院発 医療スタッフのための英会話 ISBN-13: 978-4860644758 |  |          |    |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。                                      |  |          |    |  |

|                     |   |                    |          |            |              |           |     |
|---------------------|---|--------------------|----------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | 心理学   |                    | 授業コード    | 110086B402 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 言語聴覚療法学科(1年)、臨床工学科(2年)、生命医科学科(1年)   |                    | ナンバリング   | 2CG222B02  | AL科目         |           |     |
| 担当者                 | 内藤 健一(保・言)  | 開講学期               | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態      | 講 義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 健常児(者)の基本的な心理学的知見を身につけた医療従事者となるために、感覚と知覚、学習、記憶、性格、概念、対人行動、情動についての基本事項を修得する。   |                    |          |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)心理学とは何か、心理学の歴史を説明できる。<br>2)感覚、知覚に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>3)学習に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>4)記憶に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>5)性格に関する理論を説明できる。<br>6)概念に関する理論を説明できる。<br>7)対人行動に関する基本的な現象と理論を説明できる。<br>8)情動に関する理論を説明できる。 |                    |          |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし。   |                    |          |            |              |           |     |
| 評価方法                | 毎回の授業後の確認シートにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。この確認シートの提出を15%、学期末の単位認定試験を85%として、単位認定を行う。  |                    |          |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1コマ当たり4時間を目安に予習(次の回のレジュメを読むこと)・復習(小テストに備えてその日習ったレジュメの内容を復習すること)をおこなうこと。   |                    |          |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 毎週火～金曜日 12:15～13:00   |                    |          |            |              |           |     |
| 授業計画                |   |                    |          |            |              |           |     |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容            |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |     |
| 1                   | 1)  | 心理学とは、心理学の歴史       |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 2                   | 2)  | 感覚、知覚(1)           |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 3                   | 2)  | 感覚、知覚(2)           |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 4                   | 3)  | 学習(1)              |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 5                   | 3)  | 学習(2)              |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 6                   | 4)  | 記憶(1)              |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 7                   | 4)  | 記憶(2)              |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 8                   | 5)  | 性格(1)              |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 9                   | 5)  | 性格(2)              |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 10                  | 6)  | 概念(1)              |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 11                  | 6)  | 概念(2)              |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 12                  | 7)  | 対人行動(1)            |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 13                  | 7)  | 対人行動(2)            |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 14                  | 8)  | 情動(1)              |          |            | 演 習          | 内 藤       |     |
| 15                  | 8)  | 情動(2)              |          |            | 講 義          | 内 藤       |     |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。講義レジュメを配布する。 |          |            |              |           |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 適宜紹介する。            |          |            |              |           |     |

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 教育学   | 授業コード  | 110057B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 保健科学部(2年)   | ナンバリング | 2CC221B03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 登坂 学(福・福)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 選 択       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義の目的は大きく二つに分けられる。一つは、人間の歴史において教育が果たしてきた役割を理解し、教育が我々の社会にとって必要不可欠なものであることを認識することである。そのうえで二つ目は、医療専門職として、あるいは親として、地域の大人として、自分なりの教育観を形成することである。なぜなら医療の現場において作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士等は様々な年齢層や社会的立場の患者さんと接し、治療やリハビリテーションについて説明したりアドバイスをしたりする。また時には医療の範囲を超えて悩みを打ち明けられることもあるかもしれない。まさに教育者としての一側面を有する職業だと考える。そのために「教育とは何か」「人をいかに育てるか」という人類共通の課題に関心を持ち、考えていってほしい。 |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人間をとりまく環境を考察するためのさまざまな視点を理解し説明できる。<br>2)教育に関連する諸問題が発生する社会環境や構造を冷静に観察することができ、単純な自己責任論から距離を置きつつ分析・発言することができる。<br>3)ディスカッションやグループワーク、全体発表等の機会を通じて自分の意見を率直に表明できる。さらには他者の意見とすり合わせを行ったうえで建設的議論を行うことができるようになる。<br>4)様々な教育的課題を乗り越えようとする人間の姿を描写した映画やルポルタージュの視聴及び解釈により、上記の「問い」の考察のためのヒントを掴み、自分なりに考えを表明できるようになる。   |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | ○ 担当者はかつて横浜市役所で生涯学習の実務に従事しており、大学及び大学院で専攻した社会教育・生涯学習の専門的知識と併せて実践的な指導が可能である。  |        |            |              |           |
| 評価方法                | 2-3時間に1回のペースで提出を求められる個別ワーク課題(50%)＋最終授業で提出を求められる主課題(50%)の合算で判定する。  |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 一斉授業に加えて、個人課題及びグループワークやディスカッション等、アクティブラーニング型の授業コンテンツも多いため、何よりも主体的な参加姿勢及び貢献が求められる。なお、毎回最低1時間の予習・復習が必要である。  |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜 12:30-13:00、水曜 12:30-13:00、木曜 12:30-13:00。   |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業 方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|---------|-----|
| 1  | 1)2)3)      | 自己紹介と授業のオリエンテーション<br>人間の成長と教育(その1)<br>・最初の教育としての「名前」及び「名づけ」に注目し、個別作業・グループ発表・全体発表を通じて自己紹介し、自分の考えを発表できる。<br>・発達段階と教育の関係について知識を理解したうえで、人間の成長にとって不可欠な営みが教育であることを説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 2  | 1)2)3)      | 人間の成長と教育(その2)<br>・世界に目を転じ、発達段階に依拠する教育制度が機能しない事例があることを認識し説明できる。<br>・そこに私たちはどのように関わるか、個別作業やグループディスカッションを通じて教育をめぐる諸問題をグローバルな視点で認識することができ、自分なりに解決策を見出し、それを発表できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 3  | 1)2)3)      | 教育の目的と目標<br>・関係法令に記された「教育の目的と目標」について理解したうえで、我が国の教育政策の基本的な考え方を理解し説明できる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 4  | 1)2)3)      | 理想の教育とは——個人により異なる教育観<br>・国が教育の大綱を決めたとしても、家庭や個人のレベルで「どのような教育が望ましいか」、「子どもをどのように育てたいか」、ということになると、大きな違いが出てくる。個別作業やグループディスカッションを通じて、子ども中心の教育観とはどのようなものかを考え、意見を表明できる。  | 講 義     | 登 坂 |
| 5  | 4)          | 映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その1)<br>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。                                | 視 聴     | 登 坂 |
| 6  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その1)「いじめ」<br>・学校における病理…「いじめの現状」について客観的データを基に事実を認識し、状況を説明できる。<br>・教育病理の根底にあるもの…「ピアプレッシャー」について認識し、説明することができる。<br>・「いじめ」を題材にしたサブカルチャー作品を認識・吟味し、創作者の意図を考え、自分なりの考えを表明できる。                                 | 講 義     | 登 坂 |
| 7  | 1)2)3)      | 現代の教育病理(その2)「いじめ」<br>・いじめが主題のサブカルチャー作品の感想文を皆で共有することにより、社会全体で取り組むべきテーマであることを認識できる。<br>・国や地方自治体(教育委員会)及び各学校はどのようにいじめに対処しようとしているのかを理解したうえで、自分なりの解決策を提言することができる。   | 講 義     | 登 坂 |
| 8  | 1)2)3)      | 教育の諸原理——「系統主義」と「経験主義」<br>・懐かしい童謡を聴くことで、楽曲が象徴する授業の二つの考え方を直観し、続いてサブノートを活用しつつそれぞれを支える教育観や思想を理解し、自分なりに説明することができる。<br>・二つの立場の長所・短所を踏まえてどちらの教育観により共感を覚えるか SGD を通じて自分恩考えをまとめ、発表することができる。                            | 講 義     | 登 坂 |
| 9  | 1)2)3)      | 人にとって社会規範とは——「生活指導」「校則」の問題<br>・学校における様々な校則を思い出し紹介する中から、校則の教育的意義や問題点を認識でき、子どもにとって真に必要な校則やその決定プロセスの大切さについて自らの見解を表明できる。<br>・生きていく上でのルールを守り、他者と関係性ネットワークを構築することが大人になるための重要なプロセス(社会化)であることを理解したうえで、実際の支援方法を考察できる。 | 講 義     | 登 坂 |
| 10 | 1)2)3)      | 子どもにとって理想の先生とは——私のイチ推し先生<br>・これまでの学校課程で出会った先生のなかで最も思い出に残る先生を思い出し、そこから個別ワーク→グループワーク→全体発表へと進んでいく。  | 視 聴     | 登 坂 |



|                    |        |  |     |     |
|--------------------|--------|--|-----|-----|
|                    |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのなかで子どもが求める良い先生とはどのような先生か、親が求める良い先生とはどのような人物か考えることができ、それをもとに意見交換することができる。</li> <li>・さらにそれを国や地方自治体、つまり社会が求める教員像と比較し、その共通点や相違点等を認識し、説明することができる。</li> </ul>  |     |     |
| 11                 | 4)     | <p>映像資料に学ぶ「子どもと社会」(その2)</p> <p>これまでの学習に有益なヒントを与えてくれる映画やルポルタージュ等映像資料を視聴することにより、見聞を広げ、教育の重要性について認識できる。視聴の後、レビューを執筆し、自己の感想や見解を表明することができる。良い視点や意見を含む感想を次回授業の冒頭で共有することによりさらに学習を深めることができる。</p>   | 視 聴 | 登 坂 |
| 12                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その3)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における子どもの人権侵害の最たるものが「虐待」である。公式データを基に虐待をめぐる現状を客観的に把握して説明することができる。</li> <li>・虐待の4類型を理解し、それぞれについて説明できる。</li> <li>・映像資料にて二人の母親の子どもへの接し方を紹介したうえで、各自の感想を相互に発表・意見交換できる。</li> </ul> | 講 義 | 登 坂 |
| 13                 | 1)2)3) | <p>現代の教育病理(その4)「虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の内容を引き継ぎ、家庭における虐待を防止するために国や地方ではどのような対策が講じられているのか理解し、それを説明できる。</li> <li>・子どもと虐待の問題を一緒に考えるためにはどのような配慮が必要か理解し、それを説明できる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 14                 | 1)2)3) | <p>医療専門職と生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブノートを使用しつつ生涯学習の重要性を理解し、それを説明できるようになる。</li> <li>・OJTの重要性と自己教育の意識について認識でき、それを説明できる。</li> <li>・自らもまた生涯学習の担い手であることを認識でき、医療専門職としてどのような貢献ができるか、個別作業とSGDを通じて考えを深め、それを発表できる。</li> </ul>   | 講 義 | 登 坂 |
| 15                 | 1)2)3) | <p>授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業を振り返って各自が最も興味を持った内容を記述したうえで相互に発表し、本科目の内容を総括することができる。</li> </ul>  | 講 義 | 登 坂 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 特に指定しない。   |     |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |        | 講義において適宜指示する。  |     |     |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 病理学   |  |          | 授業コード  | 120883b203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |  |          | ナンバリング | 24C311P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 近藤 照義   | 開講学期                                   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 病理学は病気の原因や病変の成り立ちを理解するための学問である。病理学は全ての医療従事者が必ず学ばなければならない科目であり、基礎と臨床の橋渡しを担う重要な分野である。本病理学では、病気について総合的に理解するため、人体の臓器に起こった病気に共通している基本的な病気の原因や病変の成り立ちに関する知識を習得する。         |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)病因の種類、細胞傷害の特徴を説明できる。<br>2)変性・萎縮・壊死・アポトーシスを説明できる。<br>3)肥大・過形成・再生・化生を説明できる。<br>4)創傷の治癒を説明できる。<br>5)循環障害の特徴・分類を説明できる。<br>6)炎症の特徴・分類を説明できる。<br>7)新生物(腫瘍)の特徴・分類を説明できる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、正常臓器と病的臓器の形態及び機能の相違に関する実務経験を活かした授業を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業確認小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。学習への取り組み姿勢(テスト返却の受け取り状況、課題の提出状況、授業態度)の評価を20%及び学期末の単位認定試験を80%として、単位認定を行う。評価の基準は授業開始日に説明する。  |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 教材として毎回プリントを配布するので、1コマ当たり4時間を目安に予習・復習を行うこと。その他、毎授業後に復習レポートを提出すること。授業中の態度が悪い場合や、遅刻・途中退出が多い場合は、成績に考慮する。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日、13:00～17:00   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                                   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 病因と細胞傷害：病因の種類、細胞傷害の特徴を理解する。            |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 2                   | 2)  | 変性の種類と特徴、萎縮の種類と特徴を理解する。                |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 3                   | 2)  | 壊死・アポトーシスの特徴及び相違を理解する。                 |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 4                   | 3)  | 進行性病変(1) 肥大・過形成・再生・化生の特徴を理解する。         |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 5                   | 4)  | 進行性病変(2) 創傷治癒と異物処理の仕組みを理解する。           |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 6                   | 5)  | 循環障害(1) 出血の種類、血液凝固と線維素溶解の仕組みを理解する。     |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 7                   | 5)  | 循環障害(2) 血栓症、塞栓、梗塞の種類と特徴を理解する。          |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 8                   | 5)  | 循環障害(3) 充血・うっ血・虚血の特徴を理解する。             |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 9                   | 5)  | 循環障害(4) 浮腫の特徴と原因を理解する。                 |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 10                  | 5)  | 循環障害(5) 心不全と全身性うっ血、ショックの発生機序と分類を理解する。  |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 11                  | 6)  | 炎症(1) 炎症の症状(四主徴・五主徴)、炎症の基本的な過程を理解する。   |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 12                  | 6)  | 炎症(2) 急性炎症の特徴と分類を理解する。                 |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 13                  | 6)  | 炎症(3) 慢性炎症の特徴と分類を理解する。                 |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 14                  | 7)  | 腫瘍(1) 腫瘍の分類・形態学的特徴・転移を理解する。            |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 15                  | 7)  | 腫瘍(2) 腫瘍の悪性度と分化度・異型度との関係、悪性腫瘍の病期を理解する。 |          |        |            | 講義           | 近藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | わかりやすい病理学改訂第6版(岩田隆子)南江堂【4-524-26569-5】  |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しません。   |  |          |        |            |              |           |

|                     |  |                                    |           |            |              |           |
|---------------------|--|------------------------------------|-----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 病理学演習  |                                    | 授業コード     | 121318A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |                                    | ナンバリング    | 24C322P01  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 近藤 照義  | 開講学期                               | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 病理学演習では病理学で学んだ疾病に関する知識を充実させるために、臨床工学技士国家試験及び統一模擬試験の問題を各自が主体的に解いていく。その場合、臨床医学分野の臓器別に特徴的な疾患と関連付けて知識を深める。   |                                    |           |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)細胞障害とその修復を説明できる。<br>2)代謝障害の種類と特徴を説明できる。<br>3)循環障害の種類と特徴を説明できる。<br>4)炎症の種類と特徴を説明できる。<br>5)腫瘍の種類と特徴を説明できる。<br>6)感染症の種類と特徴を説明できる。<br>7)免疫異常の種類と特徴を説明できる。<br>8)先天異常の種類と特徴を説明できる。 |                                    |           |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、正常臓器と病的臓器の形態及び機能の相違に関する実務経験を活かした授業を行う。  |                                    |           |            |              |           |
| 評価方法                | 授業確認小テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。学習への取り組み姿勢(テスト返却の受け取り状況、課題の提出状況、授業態度)の評価を20%及び学期末の単位認定試験を80%として、単位認定を行う。評価の基準は授業開始日に説明する。   |                                    |           |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 教材として毎回問題プリントを配布するので、1コマ当たり4時間を目安に予習・復習を行うこと。返却された確認テストを再び自分で解き、完全に内容を理解すること。授業中の態度が悪い場合や、遅刻・途中退出が多い場合は、成績に考慮する。   |                                    |           |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日、13:00～17:00  |                                    |           |            |              |           |
| 授業計画                |  |                                    |           |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容                            |           |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 細胞傷害、変性、萎縮、壊死、アポトーシスに関する問題         |           |            | 演習           | 近藤        |
| 2                   | 1)   | 肥大、過形成、再生、化生、器質化に関する問題             |           |            | 演習           | 近藤        |
| 3                   | 1)   | 創傷治癒、異物処理に関する問題                    |           |            | 演習           | 近藤        |
| 4                   | 2)   | タンパク質代謝障害、糖質代謝障害に関する問題             |           |            | 演習           | 近藤        |
| 5                   | 2)   | 脂質代謝障害、無機物代謝障害、色素代謝障害に関する問題        |           |            | 演習           | 近藤        |
| 6                   | 3)   | 充血、うっ血、虚血、貧血、チアノーゼに関する問題           |           |            | 演習           | 近藤        |
| 7                   | 3)   | 出血、血液凝固、線維素溶解、血栓症、塞栓症、梗塞に関する問題     |           |            | 演習           | 近藤        |
| 8                   | 3)   | 浮腫、ショック、側副循環に関する問題                 |           |            | 演習           | 近藤        |
| 9                   | 4)   | 炎症の徴候、炎症の基本的な過程、炎症細胞に関する問題         |           |            | 演習           | 近藤        |
| 10                  | 4)   | 炎症の経過・形態による分類に関する問題                |           |            | 演習           | 近藤        |
| 11                  | 5)   | 腫瘍の分類・形態学的特徴・転移に関する問題              |           |            | 演習           | 近藤        |
| 12                  | 5)   | 腫瘍の悪性度と分化度・異型度との関係、悪性腫瘍の病期に関する問題   |           |            | 演習           | 近藤        |
| 13                  | 6)   | 感染症成立の要素に関する問題                     |           |            | 演習           | 近藤        |
| 14                  | 7)   | 免疫担当細胞、液性・細胞性免疫、アレルギー、自己免疫疾患に関する問題 |           |            | 演習           | 近藤        |
| 15                  | 8)   | 奇形発生の形式、奇形の分類、染色体異常に関する問題          |           |            | 演習           | 近藤        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | わかりやすい病理学改訂第6版(岩田隆子)南江堂【4-524-26569-5】   |                                    |           |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しません。  |                                    |           |            |              |           |

|                     |  |                          |           |            |              |                |
|---------------------|--|--------------------------|-----------|------------|--------------|----------------|
| 科目名                 | 生化学  |                          | 授業コード     | 120642b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)      |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |                          | ナンバリング    | 24C212P01  | AL科目         | ○              |
| 担当者                 | 渡辺 渡(生・医)  | 開講学期                     | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義、演習、SGD |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医学における生命現象の基礎とその病態を理解するために、生化学に関する基礎知識を身につけることは臨床工学技士として重要である。本講義では、病因の基礎となるビタミン・糖質・脂質・アミノ酸とタンパク質・核酸の代謝などに関する基本的知識を習得する。   |                          |           |            |              |                |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)細胞の構造と機能について説明できる。<br>2)各種生体成分の構造と機能について説明できる。<br>3)糖質の代謝(分解、合成)を概説できる。<br>4)脂質の代謝(分解、合成)を概説できる。<br>5)タンパク質とアミノ酸の代謝(分解、合成)を概説できる。<br>6)核酸とヌクレオチドの代謝(分解、合成)を概説できる。<br>7)遺伝情報の翻訳と転写について説明できる。<br>8)エネルギー代謝について概説できる。 |                          |           |            |              |                |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、企業の医薬品開発の研究所における10年以上の実務経験に基づき、医療で必要な生化学の基礎的な知識習得を目的とした授業を行う。   |                          |           |            |              |                |
| 評価方法                | 講義中の質疑応答への取り組み姿勢やSGDの参加状況を10%、学習到達度試験を20%、そして単位認定試験を70%として単位認定を行う。なお詳細な基準は授業開始時に説明する。  |                          |           |            |              |                |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | ・本科目は生理学との関連が強いため、その復習をして講義に臨むこと。<br>・毎回の授業の最初に講義のポイントを示すため、遅刻は大きなハンディを負うことになるので注意すること。<br>・授業の前後、週末や長期休暇を利用して、計15時間程度の予復習を行うこと。   |                          |           |            |              |                |
| オフィスアワー             | 月および火曜日:13:00~17:00、金曜日:12:30~14:30  |                          |           |            |              |                |
| 授業計画                |  |                          |           |            |              |                |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容                     |           |            | 授業<br>方法     | 担当             |
| 1                   | 1)   | タンパク質・脂質の基本的な構造と機能を理解する。 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 2                   | 1)   | 糖質の基本的な構造と機能を理解する。       |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 3                   | 2)   | 無機塩類の種類と機能、ビタミンの種類を理解する。 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 4                   | 2)   | ビタミンの生理作用と欠乏症を理解する。      |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 5                   | 4)   | 糖質代謝を理解する①。              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 6                   | 4)   | 糖質代謝を理解する②。              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 7                   | 1~4)   | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅰ)。    |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 8                   | 5)   | 脂質代謝を理解する①。              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 9                   | 5)   | 脂質代謝を理解する②。              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 10                  | 5)   | 脂質代謝を理解する③。              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 11                  | 1~5)   | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅱ)。    |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 12                  | 6)   | タンパク質代謝を理解する。            |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 13                  | 7)   | ヌクレオチド代謝を理解する。           |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 14                  | 8)   | 糖質・タンパク質・脂質代謝の関連性を理解する。  |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 15                  | 1~8)   | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅲ)。    |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床生化学 第5版(宮澤 恵二)メディカ出版【978-4-8404-6128-3】  |                          |           |            |              |                |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しません。  |                          |           |            |              |                |

|                     |   |      |          |            |              |           |           |
|---------------------|---|------|----------|------------|--------------|-----------|-----------|
| 科目名                 | 臨床免疫疫学  |      | 授業コード    | 121052B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |           |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      | ナンバリング   | 24C311P02  | AL科目         | ○         |           |
| 担当者                 | 渡辺 渡(生・医)、砂子澤 裕(生・医)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義、SGD、演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療の現場において、多くの患者は易感染宿主であり、感染防御対策は重要である。そのため、臨床工学技士は、生体防御機構と主な病原微生物についてその基本的な知識が必要である。本講義では、生体防御機構としての免疫応答を理解すると共に、病原微生物や消毒・滅菌法の原則と実際についても基本的な知識を修得することを目標とする。  |      |          |            |              |           |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 微生物の特徴および微生物によって発症する主な感染症について説明できる。</li> <li>2) 体液性免疫と細胞性免疫について概説できる。</li> <li>3) 自然免疫と獲得免疫の相違について説明できる。</li> <li>4) 生体移植について概説できる。</li> <li>5) アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全について説明できる。</li> <li>6) 消毒剤による化学的処理法について説明できる。</li> <li>7) 高圧蒸気滅菌およびガス滅菌等による物理的処理法について説明できる。</li> <li>8) 病原微生物と生体防御機構の関連性を概説できる。</li> </ol> |      |          |            |              |           |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 渡辺は企業の医薬品開発の研究所における10年以上、砂子澤は病院における臨床工学技士としての5年以上の実務経験がある。これらの実務経験に基づき、臨床における実践的な感染免疫学の基礎的な知識修得を目的とした授業を行う。   |      |          |            |              |           |           |
| 評価方法                | 授業中に行う小試験、提出物およびSGD取り組み姿勢など10%、学習到達度試験10%、学期末の単位認定試験80%として単位認定を行う。なお詳細な基準は授業開始時に説明する。   |      |          |            |              |           |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達度を高める目的で、授業中に消毒薬や医療器具などを持ち込むことがある。そのため、安全を確保することも含めて、私語を慎み集中して授業に臨む姿勢が必要である。</li> <li>・小テストは授業開始時に実施後、ディスカッションをしながらフィードバックして学習到達度を高めるのに利用することがある。そのため、遅刻は厳禁である。</li> <li>・授業の前後、週末や長期休暇を利用して、計15時間程度の予復習をすること。</li> </ul>   |      |          |            |              |           |           |
| オフィスアワー             | 渡辺：月および火曜日 13:00～17:00、金曜日 12:30～14:30 砂子澤：金曜日 12:00～13:00  |      |          |            |              |           |           |

| 授業計画               |             |  |          |     |  |  |
|--------------------|-------------|--|----------|-----|--|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当  |  |  |
| 1                  | 1) 8)       | 院内感染症と日和見感染について理解する。                                   | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 2                  | 1)          | 細菌感染症について理解する①。  | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 3                  | 1)          | 細菌感染症について理解する②。  | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 4                  | 1)          | ウイルス感染症について理解する①。                                      | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 5                  | 1)          | ウイルス感染症について理解する②。                                      | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 6                  | 1)          | 真菌、原虫による感染症を理解する。                                      | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 7                  | 1) 8)       | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅰ)。                                  | 演習       | 渡辺  |  |  |
| 8                  | 2)          | 抗体の特性と体液性免疫を理解する。                                      | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 9                  | 3)          | 免疫担当細胞の分類と役割を理解する。                                     | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 10                 | 4)          | 主要組織適合抗原と移植拒絶を理解する。                                    | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 11                 | 5)          | 自己免疫疾患やアレルギー反応を理解する。                                   | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 12                 | 1) 8)       | 代表的な感染症で誘導される免疫応答を理解する。                                | 講義、SGD   | 渡辺  |  |  |
| 13                 | 6)          | 消毒剤による化学的処理法を理解する。                                     | 講義・演習    | 砂子澤 |  |  |
| 14                 | 7)          | 高圧蒸気滅菌、ガス滅菌等による物理的処理法を理解する。                            | 講義・演習    | 砂子澤 |  |  |
| 15                 | 1)～8)       | 学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅱ)。                                  | 演習       | 渡辺  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | わかる身につく病原体・感染・免疫 改訂第3版(藤本秀士 編著)南山堂 【978-4-525-16233-7】 |          |     |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 好きになる微生物学(渡辺 渡 著)講談社 【978-4-06-154183-2】               |          |     |  |  |

|                     |   |                                   |           |            |              |                |
|---------------------|---|-----------------------------------|-----------|------------|--------------|----------------|
| 科目名                 | 臨床薬理学   |                                   | 授業コード     | 121093B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30)      |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |                                   | ナンバリング    | 24C312P01  | AL科目         | ○              |
| 担当者                 | 渡辺 渡(生・医)   | 開講学期                              | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義、SGD、演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 薬物治療の進歩は目覚しく、医療の現場において薬物が関与する状況は多岐にわたっている。そのため、医療従事者として薬物の作用について理解することは重要である。臨床薬理学では、臨床工学技士が理解しておくべき薬物の作用と生体への影響、ならびに臨床応用に関する知識を習得する。   |                                   |           |            |              |                |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬物がどのようにして生体に作用するのか説明できる。</li> <li>2) 薬物動態の用語について説明できる。</li> <li>3) 薬物の作用機序を大別し、その概略を説明できる。</li> <li>4) 神経系に作用する薬物について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>5) 循環器系に作用する薬物について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>6) 血液系に作用する薬物について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>7) 呼吸器系に作用する薬物について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>8) 消化器系に作用する薬物について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>9) 抗炎症薬について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>10) 抗病原生物薬について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> <li>11) 抗悪性腫瘍薬について、代表薬を挙げてその作用機序と臨床応用を概説できる。</li> </ol> |                                   |           |            |              |                |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、企業の医薬品開発の研究所における10年以上の実務経験に基づき、実践的な薬理学の知識習得を目的とした授業を行う。  |                                   |           |            |              |                |
| 評価方法                | 講義中の質疑応答やSGDの参加状況を10%、学習到達度試験を20%、そして単位認定試験を70%として単位認定を行う。なお詳細な基準は授業開始日に説明する。   |                                   |           |            |              |                |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 臨床薬理学は、生理学・生化学と密接に関連を持っているため、本科目を独立したものとせず、関連講義の内容も復習しておくこと。<br>毎回の授業の最初に講義のポイントを示すため、遅刻は大きなハンディを負うことになるので注意すること。<br>毎回の授業の前後、週末および長期休暇期間を使って、計15時間の予習復習を行うこと。  |                                   |           |            |              |                |
| オフィスアワー             | 毎週月曜日&火曜日:13:00~17:00、金曜日:12:30~14:30   |                                   |           |            |              |                |
| 授業計画                |   |                                   |           |            |              |                |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                              |           |            | 授業<br>方法     | 担当             |
| 1                   | 1)  | 薬物療法とはどのようなものか知る。                 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 2                   | 1) 2)   | 内服後の薬物の排泄までの過程を知る。                |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 3                   | 1) 2)   | 薬物の投与ルートと薬効の相違について知る              |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 4                   | 1) 2)   | 薬物の投与タイミングの重要性と薬効に影響を及ぼす因子について知る。 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 5                   | 1) 2)   | これまでの学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅰ)。        |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 6                   | 3) 4)<br>7)   | 自律神経系と作用薬物について知る。                 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 7                   | 3) 5)<br>8) 9)  | 受容体に作用する薬物について知る。                 |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 8                   | 3) 4)<br>5)   | 酵素に作用する薬物について知る。                  |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 9                   | 3) 4)<br>5)   | チャネルとトランスポーターに作用する薬物を知る。          |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 10                  | 1-5)<br>7-9)  | これまでの学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅱ)。        |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 11                  | 6)  | 血液凝固系に作用する薬物について知る。               |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 12                  | 5)  | 循環器系に作用する薬物について知る。                |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 13                  | 11)   | 抗悪性腫瘍薬について知る。                     |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 14                  | 10)   | 抗病原微生物薬について知る。                    |           |            | 講義、SGD       | 渡辺             |
| 15                  | 1-11)   | これまでの学習到達度を確認する(学習到達度試験Ⅲ)         |           |            | 演習           | 渡辺             |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | かみくだき薬理学 (町谷安紀 著) 南山堂【978-4-525-14081-6】  |                                   |           |            |              |                |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |                                   |           |            |              |                |

|                     |  |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用電気工学実習   |   |          | 授業コード  | 120129A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |   |          | ナンバリング | 24C211P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 高木 俊明(非常勤講師)、戸畑 裕志(保・工)、丹下 佳洋(保・工)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医用電気工学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を実験実習によって学生各自が確認し理解を深める。これらの実験は、学生にとって初めての電気・電子系実験となる。実験は13テーマを2名を1組として数組に分かれて行う。実験の内容は、医用電気工学と医用電子工学で学ぶ内容が含まれる。与えられたテーマの実験を漠然とするのではなく、”学習した各法則通りに実験系が動作するかどうか”また、なぜ法則通りに動作しないのかなど、疑問を持ちながら自分で解決する力を獲得する。 |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)電気部品の役割について説明できる。<br>2)電気部品の構造について説明できる。<br>3)電気回路図を読むことができる。<br>4)オシロスコープで電気特性を確認することができる。<br>5)実習内容についてテーマごとに説明できる。  |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は、大学病院において生態情報モニタ装置の研究・開発を行ってきた。その経験を基に医用電気工学の実習を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各テーマの実習前に提出する予習レポートをチェックし、内容の不備については学生へフィードバックする。毎回の実習レポートの内容と最終確認試験により総合評価する。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各実習に対しては実習指導書を中心に事前レポートを提出し、実習終了後には事後レポートを提出する。不明な点は検索し考察に反映させること。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)3)   | 【実習上の諸注意、実習報告書の書き方】<br>実習に必要な工具の理解およびレポートの書き方について説明できる。 |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 2                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【直流回路実習】<br>直流回路について説明でき、特徴を列挙できる。                      |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【CR フィルター回路実習】<br>CR フィルター回路について説明でき、特徴を列挙できる。          |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【最大供給電力実習】<br>最大供給電力について説明でき、特徴を列挙できる。                  |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【共振回路実習】<br>共振回路について説明でき、特徴を列挙できる。                      |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 6                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【電源の内部抵抗測定実習】<br>電源の内部抵抗について説明でき、特徴を列挙できる。              |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 7                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【デジタル回路実習】<br>デジタル回路の基本であるゲート回路について説明でき、特徴を列挙できる。       |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 8                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【実習後半の概略説明】<br>後半の実習を行う各種電子回路の説明ができる。                   |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 9                   | 1)2)3)<br>4)5)   | 【演算増幅器実習】<br>演算増幅器について説明でき、特徴を列挙できる。                    |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 10                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【ダイオード静特性実習】<br>ダイオード静特性について説明でき、特徴を列挙できる。              |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 11                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【差動増幅器実習】<br>差動増幅器について説明でき、特徴を列挙できる。                    |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 12                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【整流回路実習】<br>整流回路について説明でき、特徴を列挙できる。                      |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 13                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【時定数回路実習】<br>時定数回路について説明でき、特徴を列挙できる。                    |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 14                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【サーミスタ温度計実習】<br>サーミスタ温度計について説明でき、特徴を列挙できる。              |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 15                  | 1)2)3)<br>4)5)   | 【溶液の伝導度測定実習】<br>溶液の伝導度測定について説明でき、特徴を列挙できる。              |          |        |            | 実習           | 全員        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 医用電気工学実習書(実研開発製作)・非売品<br>実習開始のオリエンテーションで配布する。  |   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 必要の応じて資料を配付する。   |   |          |        |            |              |           |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用電子工学 I  |  |          | 授業コード  | 120130B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |  |          | ナンバリング | 24C211P02  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)  | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本科目は、医療機器の動作原理を理解する上で重要な電子回路の基本となる各種素子の特性及び電圧や電流の増幅を中心<br>に学習し回路の解析を修得する。   |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)CR回路の周波数特性、過渡特性の関係式の説明ができる。<br>2)半導体におけるダイオードの特性の整流特性の解析ができる。<br>3)トランジスタ回路の回路解析ができる。<br>4)増幅回路の周波数特性を学習し周波数応答のグラフが書ける。<br>5)増幅回路の増幅度の増幅度を説明できる。<br>6)差動増幅器(OPアンプ)を使用した電子回路の特徴を説明できる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において29年間医療機器安全管理、生体情報モニタ装置、治療機器の研究・開発を行<br>ってきた。その経験を基に医用電子工学の講義を行う。  |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義の最後に小テストを実施し理解の程度を学生へフィードバックし、講義期間中に中間評価試験、期末評価試験を実施し総合<br>評価を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業の学習については、オリエンテーション時に配布する資料の”学習の概要”部分をノートに書き写し調べておくこと。講義後は<br>講義ノートを中心に重要語句の整理をすること。   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 【CRフィルター回路の特徴1】<br>CR回路の周波数特性について理解し遮断周波数を説明できる。           |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 2                   | 1)  | 【CRフィルター回路の特徴2】<br>CR回路の過渡応答について学習し時定数を説明できる。              |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 3                   | 2)  | 【半導体の種類と性質】<br>半導体とは何か、その構造、半導体となる物質について理解し説明できる。          |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 4                   | 2)  | 【ダイオードの特性】<br>半導体の代表であるダイオードの特性について理解し説明できる。               |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 5                   | 2)  | 【波形整形回路】<br>ダイオードを使用した波形整形回路について理解し説明できる。                  |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 6                   | 3)  | 【トランジスタの動作原理】<br>トランジスタの基本構造および特性の基本を理解し説明できる。             |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 7                   | 4), 5)  | 【増幅回路の周波数特性】<br>トランジスタ1段の増幅回路の周波数特性について理解し説明できる。           |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 8                   | 4), 5)  | 【増幅回路の周波数特性】<br>トランジスタ2段の増幅回路の周波数特性について理解し説明できる。           |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 9                   | 4), 5)  | 【負帰還増幅回路】<br>増幅回路に負帰還を加えた場合の臍腑度および周波数特性について理解、説明できる。       |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 10                  | 4), 5)  | 【電界効果トランジスタ】<br>電界効果トランジスタの基本特性について理解し説明できる。               |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 11                  | 4),<br>5), 6)   | 【差動増幅器】<br>トランジスタを使用した場合の差動増幅器の基本について理解し説明できる。             |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 12                  | 4),<br>5), 6)   | 【演算増幅器】<br>演算増幅器(OPアンプ)との基本特性について理解し説明できる。                 |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 13                  | 4),<br>5), 6)   | 【演算増幅器の基本】<br>OPアンプを使用した増幅回路(反転増幅回路、非反転増幅回路)について理解し説明できる。  |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 14                  | 4),<br>5), 6)   | 【演算増幅器による回路】<br>OPアンプを使用した加算回路、減算回路、積分回路、微分回路について理解し説明できる。 |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 15                  | 4),<br>5), 6)   | 【演算増幅器による差動増幅】<br>OPアンプによる差動増幅回路について理解し説明できる。              |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 医用電子工学 第2班 (日本臨床工学技士施設協議会 監修、中島 彰夫 編集) 医歯薬出版<br>株式会社   |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | アナログ電子回路(大類 重範) 日本理工出版会【4-89019-191-7】<br>医・生物系のための電気・電子回路(堀川 宗之) コロナ(社)【4-339-00677-7】   |  |          |        |            |              |           |



|                     |   |      |           |            |              |           |    |
|---------------------|---|------|-----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 医用電子工学Ⅱ   |      | 授業コード     | 120131B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |      | ナンバリング    | 24C212P02  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器に使用されている各種電気・電子回路の内、信号発信回路、変調・復調回路およびパルス回路を中心にデジタル回路について学習し回路の動作を習得する(デジタル回路は、コンピュータのハードウェアの基礎であり、アナログ回路と同様に信号処理や機器を制御していく上では必須の学習である)。   |      |           |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)差動増幅器の特性が説明できる。<br>2)電源回路におけるダイオードとコンデンサの働きを説明できる。<br>3)発振の原理について学習し動作を説明できる。<br>4)パルスの発生および表現について説明できる。<br>5)デジタル回路における数の表現を説明できる。<br>6)デジタル回路の論理ゲートの使用法について説明できる。<br>7)論理回路の簡単化について説明できる。<br>8)AD/DA変換の基本を説明できる。<br>9)通信における変調・復調の概念を説明できる。 |      |           |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において29年間医療機器安全管理、生体情報モニタ装置、治療機器の研究・開発を行ってきた。その経験を基に医用電子工学の講義を行う。  |      |           |            |              |           |    |
| 評価方法                | 講義の最後に小テストを実施し理解の程度を学生へフィードバックし、講義期間中に中間評価試験、期末評価試験を実施し総合評価を行う。   |      |           |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業の予習については、オリエンテーション時に配布する資料の”学習の概要”部分をノートに書き写し調べておくこと。講義後は講義ノートを中心に重要語句の整理をすること。   |      |           |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 月曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |      |           |            |              |           |    |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---|----------|----|
| 1  | 1)          | 【演算増幅回路1】<br>差動増幅器(OPアンプ)の同相電圧除去比(CMRR)について説明できる。       | 講義       | 戸畑 |
| 2  | 2)          | 【演算増幅回路2】<br>差動増幅器(OPアンプ)の同相電圧除去比(CMRR)を求めることができる。      | 講義       | 戸畑 |
| 3  | 3)          | 【発振回路】<br>発振現象および発振を引き起こす回路の種類と原理を説明できる。                | 講義       | 戸畑 |
| 4  | 3)          | 【発振回路】<br>LC発信回路、CR発振回路、水晶発振回路について説明できる。                | 講義       | 戸畑 |
| 5  | 3)4)        | 【パルス回路】<br>パルス波とは何か。パルスの表し方について説明できる。                   | 講義       | 戸畑 |
| 6  | 3)4)        | 【パルス回路】<br>パルス発生回路として代表的なマルチバイブレータについて説明できる。            | 講義       | 戸畑 |
| 7  | 5)          | 【デジタル回路(2進法)】<br>デジタル回路の基本である2進数、8進数、16進数について説明できる。     | 講義       | 戸畑 |
| 8  | 5)6)        | 【デジタル回路(ゲート回路Ⅰ)】<br>論理ゲートの種類とその動作を説明できる。                | 講義       | 戸畑 |
| 9  | 5)6)7)      | 【デジタル回路(ゲート回路Ⅱ)】<br>真理値表およびブール代数を用いた論理式の簡単化について説明できる。   | 講義       | 戸畑 |
| 10 | 5)6)7)      | 【デジタル回路(カウンタ回路Ⅰ)】<br>フリップフロップおよびラッチ回路について説明できる。         | 講義       | 戸畑 |
| 11 | 5)6)7)      | 【デジタル回路(カウンタ回路Ⅱ)】<br>カウンタ回路の基本について説明できる。                | 講義       | 戸畑 |
| 12 | 8)          | 【AD/DA変換】<br>アナログ量(連続量)をデジタル量(離散値)への変換方法を説明できる。         | 講義       | 戸畑 |
| 13 | 3)4)9)      | 【通信(変調回路)】<br>変調とは何かを理解でき説明できる(アナログ変調とデジタル変調の相違を説明できる)。 | 講義       | 戸畑 |
| 14 | 3)4)9)      | 【通信(復調回路)】<br>復調とは何かを理説明できる。                            | 講義       | 戸畑 |
| 15 | 3)4)9)      | 【通信(復調回路)】<br>復調とは何かを説明できる。                             | 講義       | 戸畑 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 アナログ電子回路(大類重範著)日本理工出版会【978-4-89019-191-8】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 デジタル回路(高橋寛監修) Ohmsha【4-274-03533-6】

|                     |  |      |          |            |              |            |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|------------|
| 科目名                 | 医用電子工学演習 I   |      | 授業コード    | 120132A202 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)  |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |      | ナンバリング   | 24C211P03  | AL科目         | ○          |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態<br>演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 電気工学や電子工学の分野は臨床工学技士が理解しておくべき重要な領域である。本講義では単に電磁気学の内容を理解するだけでなく、電磁気学が他の学問分野や臨床工学技士の業務内容にどのように関連しているかを理解することを目標とする。例題による学習と問題演習によって、電磁気学の臨床工学分野への応用力を修得する。  |      |          |            |              |            |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)電荷がつくる電界や静電誘導などの性質が理解する。<br>2)電界と電束の関係について習得する。<br>3)電位と等電位面について説明できる。<br>4)電界と電位の関係について習得する。<br>5)キャパシタの原理の理解、接続方法について習得する。<br>6)磁気の性質について説明できる。<br>7)電流がつくる磁界の性質について習得する。<br>8)電磁誘導、電気抵抗、コンデンサ、コイルの性質について習得する。<br>9)電磁波の性質について説明できる。<br>10)電磁気学が臨床工学分野にどのように役立っているか説明できる |      |          |            |              |            |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において生体情報モニタ装置、治療機器の安全性に関する研究を行ってきた。これを基に医療機器の操作、保守管理に必要な電磁気の基礎に講義・演習を行う。   |      |          |            |              |            |
| 評価方法                | 講義の最後に小テストを実施し理解の程度を学生へフィードバックし、講義期間中に中間評価試験、期末評価試験を実施し総合評価を行う。  |      |          |            |              |            |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業の予習については、オリエンテーション時に配布する資料の”学習の概要”部分をノートに書き写し調べておくこと。講義後は講義ノートを中心に重要語句の整理をすること。  |      |          |            |              |            |
| オフィスアワー             | 火曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301   |      |          |            |              |            |

| 授業計画               |             |  |          |    |  |  |
|--------------------|-------------|--|----------|----|--|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |  |  |
| 1                  | 1)          | 【電磁気学の歴史的発展と他の学問分野との関連】<br>電磁気学という学問の歴史的背景を理解し、物理学、工学、臨床工学分野との関連について説明できる。     | 講義       | 戸畑 |  |  |
| 2                  | 1)          | 【静電気とその性質】<br>電荷・電子とその性質、静電気力・クーロン力について説明できる。                                  | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 3                  | 1)2)        | 【電界と電束】<br>電界・電気力線について説明できる。   | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 4                  | 1)2)3)      | 【電位と等電位面】<br>電位・等電位面について説明できる。   | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 5                  | 2)3)        | 【キャパシタンス】<br>静電容量(キャパシタンス)の概念を理解し性質を説明できる。                                     | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 6                  | 3)4)5)      | 【キャパシタ】<br>キャパシタ(コンデンサ)の原理・構造を説明できる。   | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 7                  | 3)4)5)      | 【キャパシタの接続】<br>キャパシタの接続方式(直列、並列)を理解し合成容量を計算できる。                                 | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 8                  | 1)~7)       | 【静電容量とエネルギーの復習】<br>第1~第7回までの講義で静電気に関する法則を体系的に理解し説明できる。                         | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 9                  | 6)7)        | 【磁気の性質】<br>磁石とその性質、磁界・磁極におけるクーロン力について説明できる。                                    | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 10                 | 6)7)        | 【電流がつくる磁界】<br>電流がつくる磁界の性質、コイルが作る磁界について説明できる。                                   | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 11                 | 6)7)8)      | 【電磁誘導】<br>演習を通してファラデーの法則・レンツの法則・誘導起電力について説明できる。                                | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 12                 | 6)7)8)      | 【コイルとインダクタンス】<br>演習を通してコイル(インダクタ)とその性質、インダクタンスという概念を理解し変圧器について説明できる。           | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 13                 | 6)7)8)      | 【電磁力】<br>演習を通して電磁力・フレミングの左手の法則・電流力・モータの原理について説明できる。                            | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 14                 | 1)~9)       | 【電磁波の性質】<br>電磁波とその性質について説明できる。   | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 15                 | 1)~<br>10)  | 【電磁気学の臨床工学への応用】<br>演習を通して学習した内容が臨床工学の分野でどのようなことに利用されているかについて説明できる。             | 講義・演習    | 戸畑 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 1. 臨床工学講座 医用電気工学2(日本臨床工学技士教育施設協議会 監修、戸畑 裕志・中島 章夫) 医歯薬出版株式会社【978-4-263-73402-5】 |          |    |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | プログラム学習による 基礎電気工学—磁気・静電気編(末武国弘監修 松下電器工学院編著 廣済堂出版)                              |          |    |  |  |

|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用電子工学演習Ⅱ   |   |           | 授業コード  | 120133A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |   |           | ナンバリング | 24C212P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)  | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医用電子工学Ⅱで学習する内容の演習問題を行い、医用電気工学における国家試験レベルの問題を正確に正答できる力を習得する。   |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 差動増幅器の特性の説明および CMRR の計算方法を習得する。<br>2) 電源回路におけるダイオードとコンデンサの動作について習得する。<br>3) 発振の条件について習得する。<br>4) パルスの発生および表現方法を習得する。<br>5) デジタル回路における数の表現および演算法を習得する。<br>6) デジタル回路の論理ゲートの使用を習得する。<br>7) 論理回路の単純化の手法を習得する。<br>8) AD/DA 変換の手法を習得する。<br>9) 通信における変調・復調の手法を習得する。<br>10) 臨床工学技士国家試験問題における医用電子工学関連問題が正確に解ける。 |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において29年間医療機器安全管理、生体情報モニタ装置、治療機器の研究・開発を行ってきた。その経験を基に医用電子工学の講義を行う。  |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義の最後に小テストを実施し理解の程度を学生へフィードバックし、講義期間中に中間評価試験、期末評価試験を実施し総合評価を行う。   |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 医用電気工学Ⅰ、Ⅱにおける講義内容を復習し各法則の導き方、電子回路の動作原理を復習をしておくこと。演習において問題を解くことにより理解を深めるので演習でノートした内容を復習すること。   |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)10)   | 【演算増幅回路】<br>差動増幅器(OPアンプ)の同相電圧除去比(CMRR)を説明できる。         |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 2                   | 2)10)   | 【演算増幅回路】<br>差動増幅器(OPアンプ)の同相電圧除去比(CMRR)を求めることができる。     |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 3                   | 3)10)   | 【発振回路】<br>発振現象および発振を引き起こす回路の種類と原理を説明できる。              |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 4                   | 3)10)   | 【発振回路】<br>LC発振回路、CR発振回路、水晶発振回路について説明できる。              |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 5                   | 3)4)10)   | 【パルス回路】<br>パルス波とは何か。パルスの表し方について説明できる。                 |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 6                   | 4)10)   | 【デジタル回路】<br>演習により論理ゲートの種類とその動作を理解できる。                 |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 7                   | 4)5)6)10)   | 【デジタル回路(2進法)】<br>デジタル回路の基本である2進数、8進数、16進数について説明できる。   |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 8                   | 4)5)6)10)   | 【デジタル回路(ゲート回路Ⅰ)】<br>論理ゲートの種類とその動作を説明できる。              |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 9                   | 5)6)7)10)   | 【デジタル回路(ゲート回路Ⅱ)】<br>真理値表およびブール代数を用いた論理式の単純化について説明できる。 |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 10                  | 5)6)7)10)   | 【デジタル回路(カウンタ回路Ⅰ)】<br>フリップフロップおよびラッチ回路について説明できる。       |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 11                  | 5)6)7)10)   | 【デジタル回路(カウンタ回路Ⅱ)】<br>カウンタ回路の基本について説明できる。              |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 12                  | 8)10)   | 【AD/DA変換】<br>アナログ量(連続量)をデジタル量(離散値)への変換方法を説明できる。       |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 13                  | 3)4)9)10)   | 【通信(変調回路)】<br>変調とは何かを理解でき説明できる。                       |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 14                  | 3)4)9)10)   | 【通信(復調回路)】<br>復調とは何かを説明できる。                           |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 15                  | 3)4)9)10)   | 【通信(復調回路)】<br>復調とは何かを説明できる。                           |           |        |            | 演習           | 戸畑        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 入門 電子回路 デジタル編(家村 道雄 編集) オーム社/出版局 【978-4-274-20365-7】  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |           |        |            |              |           |

|                     |   |  |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用電子工学実習  |  |           | 授業コード  | 120134A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |  |           | ナンバリング | 24C212P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 高木 俊明(非常勤講師)、戸畑<br>裕志(保・工)  | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 実 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器には電気・電子工学の知識・技術が応用されている。本実習では、医療機器の中でも心電図アンプ、デジタルカウンタ、A/D、D/Aコンバータの製作を行い、実際に生体からの信号を読み取ることで体系的な学習を目的とする。  |  |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)電子部品の役割について説明できる。<br>2)電子部品の構造について説明できる。<br>3)電子回路図を読むことができる。<br>4)心電図アンプについて説明できる。<br>5)デジタルカウンタについて説明できる。<br>6)A/D、D/A変換器について説明できる。<br>7)オシロスコープを使用し、電子部品の動作確認ができる。<br>8)はんだ付けなどアンプの製作ができる。 |  |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は、大学病院において40年以上、生体情報モニタ装置、治療機器の研究・開発を行ってきた。その経験を基に医用電子工学の実習を行う。   |  |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実技試験、小試験、レポート課題にて総合的に評価。  |  |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 医用電子工学で学習した各電子回路(オペアンプを使用した増幅回路、デジタル回路)の動作原理の復習をしておく。実習終了後には実習中に提示された課題についてレポートを提出する。不明な点は検索し考察に反映させること。  |  |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |  |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)7)8)  | 【製作実習に関する概要】<br>製作するにあたり工具・測定器の使用方法について説明できる。                  |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 2                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作①】<br>心電図アンプの概要について説明できる。                            |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 3                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作②】<br>心電図アンプの基板を基に製作する。                              |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 4                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作③】<br>心電図アンプの基板を基に製作する。                              |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 5                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作④】<br>増幅特性を測定し説明できる。                                 |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 6                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作⑤】<br>時程数回路について説明できる。                                |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 7                   | 1)2)3)<br>4)7)8)  | 【心電図アンプの製作⑥】<br>心電図アンプで実際に心電図測定を行うことができる。<br>測定上の注意点など列挙できること。 |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 8                   | 1)2)3)<br>5)7)8)  | 【デジタルカウンタの製作①】<br>デジタルカウンタの概要について説明できる。                        |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 9                   | 1)2)3)<br>5)7)8)  | 【デジタルカウンタの製作②】<br>デジタルカウンタの基板を基に製作できる。                         |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 10                  | 1)2)3)<br>5)7)8)  | 【デジタルカウンタの製作③】<br>デジタルカウンタの基板を基に製作できる。                         |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 11                  | 1)2)3)<br>5)7)8)  | 【デジタルカウンタの製作④】<br>デジタルカウンタの回路図を読み取り、特性を説明できる。                  |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 12                  | 1)2)3)<br>6)7)8)  | 【A/D、D/Aコンバータの製作①】<br>A/Dコンバータの概略を説明できる。                       |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 13                  | 1)2)3)<br>6)7)8)  | 【A/D、D/Aコンバータの製作②】<br>D/Aコンバータの概略を説明できる。                       |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 14                  | 1)2)3)<br>6)7)8)  | 【A/D、D/Aコンバータの製作③】<br>A/D、D/Aコンバータの関連を説明できる。                   |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 15                  | 1)2)3)<br>6)7)8)  | 【A/D、D/Aコンバータの製作④】<br>A/D、D/Aコンバータに外部の機器を接続し変換誤差について説明できる。     |           |        |            | 実 習          | 全 員       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 実習に必要な機材、回路図等は随時指示する。  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。   |           |        |            |              |           |

|                     |   |  |          |            |              |           |    |
|---------------------|---|--|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 物性工学  |  | 授業コード    | 120920b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |  | ナンバリング   | 24C311P03  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 中島 章夫   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士に必要な生体物性工学について、生理・解剖学的な知識を元に、生体を“もの”として捉える視点を養い、物理的特性を工学的に理解することを目的とし、臨床現場で用いる物理的エネルギー(医療機器)を安全、かつ有効に利用できる基礎を養う。  |  |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工学の基礎(物理・化学・電気工学・機械工学)と医学の基礎(解剖学・生理学)の知識が理解できている。</li> <li>2. 生体物性に必要な工学的な原理(物理、化学、電気)が関連づけ説明できる。</li> <li>3. 各種治療機器のエネルギー種類が分類できる。</li> <li>4. 各種生体計測における計測の原理が説明できる。</li> <li>5. 生体物性と臨床工学技士業務についての関連性について関連づけることができる。</li> <li>6. マインドマップを通じて、興味を持った内容について深めるとともに、表現の工夫やモチベーション向上につなげる。</li> </ol> |  |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |  |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 講義態度、プレゼン内容、確認演習、期末試験にて総合的に評価する。  |  |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>生体物性工学を学ぶための医学的基礎知識(生理学・解剖学)や工学的基礎知識(物理基礎、電気工学など)が必要となるので、復習をしておくこと。</p> <p>1コマあたり、4時間を目安に予習・復習を行うこと。予習は、教科書の該当単元についてノートにまとめ、復習は、提示したプリントをもとにノートをまとめるとよい。</p>  |  |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 集中講義期間のみ。他期間はメール等で対応。   |  |          |            |              |           |    |
| 授業計画                |   |  |          |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |    |
| 1                   | 1, 2, 3   | 【生体物性工学を学ぶための基礎知識①】<br>生体物性を学ぶための生理学的基礎知識を理解し、生体の特徴を説明できる。                                     |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 2                   | 1, 2, 3   | 【生体物性工学を学ぶための基礎知識②】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、物理的な単位について説明できる。                                  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 3                   | 1, 2, 3   | 【生体物性序論】<br>生体物性工学を理解するための関連分野について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 4                   | 1, 2,<br>3, 4, 5  | 【生体物性ポイント整理】<br>生体の物理的な特異性について理解する。マインドマップを用いた知識習得のポイントを理解する。                                  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 5                   | 4, 5  | 【マインドマップ調査】<br>生体物性に関して各自で興味のあるキーワードについて調査し、少人数でグループディスカッションする。                                |          |            | S G D        | 中島        |    |
| 6                   | 4, 5  | 【生体の電気的特性①】<br>生体の電気現象である受動的電気特性と能動的電気特性について解剖生理・電気的な基礎知識を整理する。                                |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 7                   | 4, 5  | 【生体の電気的特性②】<br>受動的な電気特性(細胞の電気特性)について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 8                   | 4, 5  | 【生体の電気的特性③】<br>能動的な電気特性について理解する。   |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 9                   | 4, 5  | 【生体の機械的特性①】<br>生体組織の力学特性・流体力学的特性について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 10                  | 4, 5  | 【生体の機械的特性②】<br>生体の音響特性について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 11                  | 4, 5  | 【生体の熱的特性】<br>生体の温度に対する反応と熱作用について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 12                  | 4, 5  | 【生体と放射線】<br>生体に関与する放射線の種類と性質、放射線の作用と障害について理解する。  |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 13                  | 4, 5  | 【生体の光特性】<br>光・レーザーの生体作用について理解する。   |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 14                  | 4, 5  | 【生体における輸送現象】<br>体液の組成と物質移動の機序、肺・血液におけるガス輸送と腎臓における物質輸送について理解する。                                 |          |            | プレゼン         | 中島        |    |
| 15                  | 4, 5, 6   | 【マインドマッププレゼンテーション】<br>生体物性に関する各自のキーワードで作成したマインドマップについてプレゼンテーション・ディスカッションを行い、生体物性の基礎知識の理解度を深める。 |          |            | 講義           | 中島        |    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 生体物性・医用材料工学(中島 章夫・氏平 政伸 編) 医歯薬出版【978-4-263-73407-0】  |  |          |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学ライブラリーシリーズ2 生体物性/医用機械工学(池田 研二・嶋津 秀昭) 秀潤社【978-4-87962-225-7】<br>臨床工学シリーズ6 医用工学概論(嶋津 秀昭 他) コロナ社【978-4-339-07106-1】<br>臨床工学技士 ブルー・ノート 基礎編(見目 恭一 他) メジカルビュー社【978-4758314657】  |  |          |            |              |           |    |

|                     |   |  |           |            |              |             |
|---------------------|---|--|-----------|------------|--------------|-------------|
| 科目名                 | 物性工学演習  |  | 授業コード     | 121321A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |  | ナンバリング    | 24C322P02  | AL科目         | ○           |
| 担当者                 | 中島 章夫(非常勤講師)  | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態<br>演 習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士に必要な生体物性工学について、生理・解剖学的な知識を元に、生体を“もの”として捉える視点を養い、物理的特性を工学的に理解することを目的とし、臨床現場で用いる物理的エネルギー(医療機器)を安全、かつ有効に利用できる実践的な知識を演習を通して養う。  |  |           |            |              |             |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工学の基礎(物理・化学・電気工学・機械工学)と医学の基礎(解剖学・生理学)の知識が理解できている。</li> <li>2. 生体物性に必要な工学的な原理を応用できる。</li> <li>3. 各種治療機器のエネルギー種類が分類できる。</li> <li>4. 各種生体計測における計測の原理が説明できる。</li> <li>5. 生体物性と臨床工学技士業務についての関連性について関連づけることができる。</li> <li>6. 生体物性のキーワードをテーマとして、アクティブラーニングを取り入れること、物性工学的な観点から医療機器を理解する。</li> <li>7. 国家試験やME2種問題の演習を通じて、生体物性の知識について知識を定着させる。</li> </ol> |  |           |            |              |             |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |  |           |            |              |             |
| 評価方法                | 講義態度、アクティブラーニング内容、確認演習、期末試験にて総合的に評価する。  |  |           |            |              |             |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 生体物性工学を学ぶための医学的基礎知識(生理学・解剖学)や工学的基礎知識(物理基礎、電気工学など)が必要となるので、復習しておくこと。アクティブラーニングを取り入れたグループ形式の学習を行うので、事前にアクティブラーニングについて調査するとともに、生体物性に関係する医療機器・医療材料の中で最も興味のあるものを1つ選んでおくこと。1コマあたり、1時間を目安に予習・復習を行うこと。予習は、教科書の該当単元についてノートにまとめ、復習は、アクティブラーニングで行うテーマについて調査すること。講義中、アクティブラーニングで実施する内容の調査を行うのでPCを持参すること。  |  |           |            |              |             |
| オフィスアワー             | 集中講義期間のみ。他期間はメール等で対応。   |  |           |            |              |             |
| 授業計画                |   |  |           |            |              |             |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容  |           |            | 授業<br>方法     | 担当          |
| 1                   | 1   | 【生体物性演習序論①】<br>生体に作用する各種物理的エネルギーの種類とその安全性について理解する。                                   |           |            | 講 義          | 中 島         |
| 2                   | 1   | 【生体物性演習序論②】<br>生体に作用する各種物理的エネルギーの種類とその安全性について理解する。                                   |           |            | 講 義          | 中 島         |
| 3                   | 2, 3,<br>4, 5   | 【生体物性工学を学ぶための基礎演習①】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、受動的電気特性と能動的電気特性を比較説明できる。(確認演習①)         |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 4                   | 2, 3,<br>4, 5   | 【生体物性工学を学ぶための基礎演習②】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、機械的作用と超音波作用について説明できる。(確認演習②)            |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 5                   | 2, 3,<br>4, 5   | 【生体物性工学を学ぶための基礎演習③】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、熱作用と光作用について説明できる。(確認演習③)                |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 6                   | 2, 3,<br>4, 5   | 【生体物性工学を学ぶための基礎演習④】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、放射線作用と電磁気作用について説明できる。(確認演習④)            |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 7                   | 2, 3,<br>4, 5   | 【生体物性工学を学ぶための基礎演習⑤】<br>生体物性を学ぶための工学的基礎知識を理解し、物質輸送の機序について説明できる。(確認演習⑤)                |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 8                   | 5, 6  | 【アクティブラーニング調査①】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関して興味のある機器について調査し、少人数でグループディスカッションする。            |           |            | S G D        | 中 島         |
| 9                   | 5, 6  | 【アクティブラーニング調査②】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関して興味のある機器について調査し、少人数でグループディスカッションする。            |           |            | S G D        | 中 島         |
| 10                  | 5, 6  | 【アクティブラーニング調査③】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関して興味のある機器について調査し、少人数でグループディスカッションする。            |           |            | S G D        | 中 島         |
| 11                  | 5, 6  | 【アクティブラーニング①】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関してアクティブラーニング形式でディスカッション等を行い、生体への治療効果と安全性の理解度を深める。 |           |            | S G D        | 中 島         |
| 12                  | 5, 6  | 【アクティブラーニング②】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関してアクティブラーニング形式でディスカッション等を行い、生体への治療効果と安全性の理解度を深める。 |           |            | S G D        | 中 島         |
| 13                  | 5, 6  | 【アクティブラーニング③】<br>物理的エネルギーを用いた医療機器に関してアクティブラーニング形式でディスカッション等を行い、生体への治療効果と安全性の理解度を深める。 |           |            | S G D        | 中 島         |
| 14                  | 7   | 【生体物性演習総合確認①】<br>生体物性に関して、国家試験やME2種問題を中心に、総合的に演習を行う。                                 |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 15                  | 7   | 【生体物性演習総合確認②】<br>生体物性に関して、国家試験やME2種問題を中心に、総合的に演習を行う。                                 |           |            | 演 習          | 中 島         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 生体物性・医用材料工学(中島 章夫・氏平 政伸 編) 医歯薬出版【978-4-263-73407-0】  |  |           |            |              |             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学ライブラリーシリーズ2 生体物性/医用機械工学(池田 研二・嶋津 秀昭) 秀潤社【978-4-87962-225-7】<br>臨床工学シリーズ6 医用工学概論(嶋津 秀昭 他) コロナ社【978-4-339-07106-1】  |  |           |            |              |             |

|                     |  |        |            |              |           |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 材料工学   | 授業コード  | 120399b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  | ナンバリング | 24C311P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器・医療用具などに使用される材料をバイオマテリアルと呼ぶ。臨床工学技士はこれら多くの医療機器、医療用具を用いて治療にあたるため、材料の特性を正確に把握することはきわめて重要である。ここでは材料の生体適合性、特徴、使用目的や適正などについて学習し、臨床現場で材料に関しての指導的立場となるよう理解を深める。  |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)医療に用いられる材料の特性、特徴、適正使用の意味が理解できる。<br>2)体外循環実習において、実習指導者の質問に対して的確に答えられる。<br>3)人工腎臓実習において、実習指導者の質問に対して的確に答えられる。<br>4)医療材料の使用部位と使用する理由が説明できる。<br>5)生体適合性についての的確に説明できる。  |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 竹澤は血液透析病院に長年勤務しており、透析膜の特性や生体適合性について臨床評価を行ってきた。人工腎臓や合成高分子については、実務経験を活かした講義が可能である。   |        |            |              |           |
| 評価方法                | 9回のレポートにて評価する。レポートは返却し、問題点があれば指摘、確実に理解できるよう指導する。1～8回は各10点満点、9回(生体適合性)は20点満点、合計100点満点とする。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各自のノート型パソコンで検索を行うので、必ず持参すること。講義前には1時間程度をかけて十分予習しておくこと。授業では、予習した内容を全員の前で発表・記述する形式を採用している。また、電子黒板を使用したその場での調査結果のリストアップ、まとめも受講者が行うので、グループ内での十分な事前調査(予習)、事後のまとめ(復習)がとても重要となる。予習復習にはかなりの時間を要するので、あらかじめ分業体制を取るなど、グループメンバーでの連携を密にすること。3回目以降はすべてActive Learningによる受講者主体の授業となる。 |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月～木曜日 15:00-17:00 / 金曜日 16:30-17:00<br>保健科学部 学部長室  |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---|----------|----|
| 1  | 1)          | 【医用材料の位置づけ】 医用材料とは何か? どのような特殊性があるのかについて学習、理解する。                           | 講義       | 竹澤 |
| 2  | 1)          | 【医用材料の適応部位】 人体で医用材料がどこに使用されているのか、あるいは治療においてどのような医療材料が用いられているのかを調査し、説明できる。 | 講義       | 竹澤 |
| 3  | 2)          | 【医用材料の実際-1】 人工心臓の構造と用いられている材料を調査し、授業受講者に説明できる。                            | SGD      | 竹澤 |
| 4  | 2)          | 【医用材料の実際-2】 前回の授業の結果を基に人工心臓の構造や材料についてまとめ、レポートを完成させることができる。                | SGD      | 竹澤 |
| 5  | 2)          | 【医用材料の実際-3】 人工血管の構造と用いられている材料を調査し、授業受講者に説明できる。                            | SGD      | 竹澤 |
| 6  | 2)          | 【医用材料の実際-4】 前回の授業の結果を基に人工血管の構造や材料についてまとめ、レポートを完成させることができる。                | SGD      | 竹澤 |
| 7  | 2)          | 【医用材料の実際-5】 人工弁の構造と用いられている材料を調査し、授業受講者に説明できる。                             | SGD      | 竹澤 |
| 8  | 2)          | 【医用材料の実際-6】 前回の授業の結果を基に人工弁の構造や材料についてまとめ、レポートを完成させることができる。                 | SGD      | 竹澤 |
| 9  | 3)          | 【医用材料の実際-7】 人工腎臓の構造と用いられている材料を調査し、授業受講者に説明できる。                            | SGD      | 竹澤 |
| 10 | 3)          | 【医用材料の実際-8】 前回の授業の結果を基に人工腎臓の構造や材料についてまとめ、レポートを完成させることができる。                | SGD      | 竹澤 |
| 11 | 2)          | 【医用材料の実際-9】 体外循環用のチューブに用いられている材料を調査し、発表、レポートを作成できる。                       | SGD      | 竹澤 |
| 12 | 4)          | 【医用材料の実際-10】 金属が用いられている部位を調査し、発表、レポートを作成できる。                              | SGD      | 竹澤 |
| 13 | 4)          | 【医用材料の実際-11】 セラミックスが用いられている部位を調査し、発表、レポートを作成できる。                          | SGD      | 竹澤 |
| 14 | 4)          | 【医用材料の実際-12】 合成高分子が用いられている部位を調査し、発表、レポートを作成できる。                           | SGD      | 竹澤 |
| 15 | 5)          | 【生体適合性】 生体適合性を向上させるための工夫について調査し、レポートが作成できる。                               | SGD      | 竹澤 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学講座 生体物性・医用材料工学 ISBN978-4-263-73407-0 ¥3,570-

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |   |      |           |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 材料工学演習  |      | 授業コード     | 121207A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      | ナンバリング    | 24C322P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 前期に学習した材料工学の知識を元に、国家試験全般の内容が理解できることを目的とする。  |      |           |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)医療に用いられる材料の特性、特徴、適正使用の意味が理解できる。<br>2)材料工学関連の国家試験問題を説明できる。<br>3)医療系国家試験問題が理解できる。 |      |           |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |      |           |            |              |           |
| 評価方法                | 複数回の小テストを行い理解度を確認、理解度の低い内容を重点的に取り上げる。各小テストの点数と学期末定期試験にて最終評価を行う。                   |      |           |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各自のコンピュータを使用する。予習復習は30分以上行うこと。  |      |           |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月～木曜日 15:00-17:00 / 金曜日 16:30-17:00<br>保健科学部 学部長室                                 |      |           |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|------------|-----|
| 1  | 1)          | 【材料工学問題の傾向】 国家試験問題における材料工学の出題傾向が理解できる。                   | 講 義        | 竹 澤 |
| 2  | 1)          | 【医用材料の過去問 1】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。        | S G D      | 竹 澤 |
| 3  | 1)          | 【医用材料の過去問 2】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。        | S G D      | 竹 澤 |
| 4  | 1)          | 【医用材料の過去問 3】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。        | S G D      | 竹 澤 |
| 5  | 1)          | 【医用材料の過去問 4】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。        | S G D      | 竹 澤 |
| 6  | 2)          | 【医用材料の過去問練習 1】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員に関連問題をわかりやすく説明できる。 | S G D      | 竹 澤 |
| 7  | 2)          | 【医用材料の過去問練習 2】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員に関連問題をわかりやすく説明できる。 | S G D      | 竹 澤 |
| 8  | 2)          | 【医用材料の過去問練習 3】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員に関連問題をわかりやすく説明できる。 | S G D      | 竹 澤 |
| 9  | 2)          | 【医用材料の過去問練習 4】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員に関連問題をわかりやすく説明できる。 | S G D      | 竹 澤 |
| 10 | 2)          | 【医用材料の過去問練習 5】 国家試験過去問題の材料工学関連が理解でき、全員に関連問題をわかりやすく説明できる。 | S G D      | 竹 澤 |
| 11 | 3)          | 【国家試験過去問練習 1】 国家試験過去問題の医療系関連問題が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。      | S G D      | 竹 澤 |
| 12 | 3)          | 【国家試験過去問練習 2】 国家試験過去問題の医療系関連問題が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。      | S G D      | 竹 澤 |
| 13 | 3)          | 【国家試験過去問練習 3】 国家試験過去問題の医療系関連問題が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。      | S G D      | 竹 澤 |
| 14 | 3)          | 【国家試験過去問練習 4】 国家試験過去問題の医療系関連問題が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。      | S G D      | 竹 澤 |
| 15 | 3)          | 【国家試験過去問練習 5】 国家試験過去問題の医療系関連問題が理解でき、全員にわかりやすく説明できる。      | S G D      | 竹 澤 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。



|                     |  |      |          |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用機器工学   |      | 授業コード    | 120121b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |      | ナンバリング   | 24C311P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 木塚 俊和(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 検査、診断、治療などの医療分野ではさまざまな機器が使用されている。これら機器を正しく使い、とっさの場合の適切な対応、<br>或いは正しいメンテの為に機器の機構、動作に関する原理原則的な機械工学の知識、物の見方、考え方が必要である。本講<br>座ではこれらのベースとなる、一般力学、材料力学、流体力学、波動、熱力学等についての基本知識、考え方を習得する。更<br>に、人体を機械と同じ観点でとらえ、その機能や動作原理を工学的に考える力を修得する。<br>上記知識、考え方を踏まえ臨床工学技士の国家試験合格を目指す。                       |      |          |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | ①力学の基礎:力とこれによる運動と仕事、及びエネルギーとの関係について基本原理が説明できる。<br>②固体材料の変形と強度:材料の弾性的性質、強度、及び破壊現象についての基本が説明できる。<br>③流体とその流れ:液体、及び気体流れに関する原理原則を理解し、生体系での流れに関する基本的な考察ができる。<br>④波動:波動(音波、光)の概念、性質と波動(超音波等)を応用した機器の基本原理が説明できる。<br>⑤熱と熱力学:熱に関する現象を熱エネルギーの概念で理解し、熱に関する医療機器及び生体系での熱の流れに関し、基本的な<br>原理、挙動が説明できる。 |      |          |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は長年(40年)化学系企業で技術開発、設備管理業務を経験してきており、講座関連の実例も紹介しながら授業を<br>行う。   |      |          |            |              |           |
| 評価方法                | 講義日の2コマ目終わりに学習効果、授業参画具合確認の短時間の小テストを行う。テストは回収し、必要に応じコメント記入<br>の上、次回に返却する。又、講義の途中の演習問題で回答を尋ね、その回答内容及び、上記小テストを総合評価に勘案する。こ<br>れら小テスト、演習で最大20%、学期末の単位認定試験で最小80%として、総合評価を行う。総合評価60%以上で合格とする。や<br>むを得ず欠席した者には次回出席した時に小テスト問題を配布、その次の講義日に提出してもらい、評点に反映する。                                       |      |          |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習、復習は教科書、及び、事前配布のプリントを必ず学習して来ること。1コマあたり、予習、復習で4時間を目安として勉強す<br>ること。欠席が1/3を超えた場合は評価の対象とならない。  |      |          |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義日の1コマ目の講義前(12:30~)、及び1コマ目と2コマ目開始の間(14:40~14:55)いずれも2階の教員事務所:尚、講義日<br>の11:30~12:30は大学入り口の講師控室   |      |          |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|--|----------|----|
| 1  | ①           | 【医用機器工学とは】<br>・医用機器工学を学ぶ意義を認識し、物理法則と単位、及び次元の関係を理解する。<br>【力学の基礎】<br>・力の定義、ニュートンの運動の法則、力のベクトルについて理解する。   | 講義       | 木塚 |
| 2  | ①           | ・特別な力(重力、引力、摩擦力)、及び剛体に働く力の釣り合いを理解、斜面に置かれた物体の釣り合いを図と式<br>で表す。   | 講義       | 木塚 |
| 3  | ①           | ・力と運動、いろんな運動と力(等速運動、等加速度運動、円運動等)について数式を理解し、計算する。<br>・慣性力、遠心力の意味を理解し、円運動の釣り合い条件を式で表す。   | 講義       | 木塚 |
| 4  | ①           | ・力と仕事の関係、及び力学的エネルギーを理解し、エネルギー保存則を用いて位置エネルギーと速度エネルギ<br>ーの計算をする。<br>・力学の基礎の総復習と演習により知識を再確認する。  | 講義/演習    | 木塚 |
| 5  | ②           | 【固体材料の変形と強度】<br>・弾性と塑性、応力について意味を正確に理解する。<br>・縦ひずみと横ひずみ、せん断ひずみ、縦弾性係数について理解し、応力とひずみの概略相関線図を作成する。   | 講義       | 木塚 |
| 6  | ②           | ・安全率の意味、体積弾性率、梁の強さ/軸の強さの式を理解し、梁の曲げ時の発生応力を図により確認する。<br>・材料の大変形による破局的破壊のメカニズムを理解し、又復習と演習を通じ知識を再確認する。   | 講義/演習    | 木塚 |
| 7  | ③           | 【流体とその流れ】<br>・圧力、パスカルの原理、絶対圧とゲージ圧について理解し、Pa、気圧、水銀柱の換算計算を行う。  | 講義       | 木塚 |
| 8  | ③           | ・連続の式、圧力差による流れ(トリチェリー、ベルヌーイの式)を理解し、水管内の静圧、全圧の計算を行う。<br>・粘性流体の流れ(ニュートン流体、ハーゲンポアゼイユの法則等)を理解し、配管内流量を計算する。   | 講義       | 木塚 |
| 9  | ③           | ・層流と乱流の違いを理解し、毛細血管内の流れの判定をする。<br>又粘度計の原理を理解する。<br>・液滴の形成条件を理解し、液滴径と流量を計算する。<br>又ポンプの類別をし、適切な選定を行う。<br>・総復習と演習により知識を再確認する。                          | 講義/演習    | 木塚 |
| 10 | ④           | 【波動】<br>・横波、縦波の特徴を理解し、縦波を横波表記する。波の図から<br>その速度と周期等を計算する。波のエネルギー要因を知り、<br>波の速度と媒質弾性率の関係の重要性を確認する。<br>・波の反射、透過、屈折についてホイヘンスの原理を用い図で説明する。               | 講義       | 木塚 |
| 11 | ④           | ・音波と超音波の性質と属性について理解し、反射/透過に関する<br>音響インピーダンスの重要性を式により確認する。<br>・光の波動性(干渉、屈折)についてヤングの実験を通して理解し、<br>スリットを通過した光の明線、暗線の位置を数式で確認する。<br>・総復習と演習により知識を再確認する | 講義/演習    | 木塚 |
| 12 | ⑤           | 【熱と熱力学】<br>・熱、温度、熱に関する基本的な用語、物理量を理解し、<br>伝導、対流、放射による熱の移動を数式で組み立て、評価する。   | 講義       | 木塚 |
| 13 | ⑤           | ・身体の熱移動と体温調節のメカニズムを理解する。<br>・温度と相の変化に関する用語、熱膨張の式を理解する。<br>気体の状態方程式を使い容積/圧力/温度の関係を計算する。   | 講義       | 木塚 |
| 14 | ⑤           | ・熱と仕事の関係、及び熱力学の第一法則を数式で表現する。<br>第二法則について理解する。  | 講義/演習    | 木塚 |

|                    |     |  |       |    |
|--------------------|-----|--|-------|----|
|                    |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱機関とエントロピー関連の用語を理解し、熱効率の計算をする。</li> <li>・総復習と演習により知識を再確認する。</li> </ul> |       |    |
| 15                 | ①~⑤ | <b>【医用機器工学総復習及び演習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・総復習、演習により知識を再確認する。</li> </ul>                | 講義/演習 | 木塚 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |     | 臨床工学講座 医用機械工学 著 嶋津秀昭、馬淵清資 医歯薬出版株式会社 【ISBN】978-4-263-73409-4<br>その他 配布プリント                                      |       |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |     | 使用しない。   |       |    |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用機器工学演習   |      |           | 授業コード  | 121129A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 24C322P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 木塚 俊和(非常勤講師)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演習/講義     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 既に、医用機器工学講座で臨床工学技師に必要な機器工学の知識、物の見方、考え方を学んできた。一方で、実際には、これら知識を活用し、現場での具体的な種々の問題に対応する能力が求められている。本講座では、これら基本知識を基に、いかに種々の問題に対処し、解決するかという観点から、演習問題を主体に進める。又、同時に機器工学の原理原則も総復習することで、知識を深耕化、国家試験合格を目指す。                                       |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | ①力学:力、運動と仕事、エネルギーに関する具体的な問題に対応できる。<br>②固体材料の変形と強度:材料の弾性的性質、強度、及び破壊現象に関する具体的な問題に対応できる。<br>③流体とその流れ:液体、気体の流れ、体の循環系、呼吸系について具体的な問題に対応できる。<br>④波動:波動(音波、光)に関する具体的な問題に対応できる。<br>⑤熱と熱力学:熱に関する具体的な問題に対応できる。                                  |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は長年(40年)化学系企業で技術開発、設備管理業務を経験してきており、講座関連の実例も紹介しながら授業を行う。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義日の2コマ目終わりに学習効果、授業参画具合確認の短時間の小テストを行う。テストは回収し、必要に応じコメント記入の上、次回に返却する。又、講義の途中の演習問題で回答を尋ね、その回答内容及び、上記小テストを総合評価に勘案する。これら小テスト、演習で最大20%、学期末の単位認定試験で最小80%として、総合評価を行う。総合評価60%以上で合格とする。やむを得ず欠席した者には次回出席した時に小テスト問題を配布、その次の講義日に提出してもらい、評点に反映する。 |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習、復習は教科書、及び、事前配布のプリントを必ず学習して来ること。1コマあたり予習復習で少なくとも1時間を目途に勉強すること。欠席が1/3を超えた場合は評価の対象とならない。演習は教科書、過去問参考に講師が作成したプリントで行う。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義日の1コマ目の講義前(12:30~)、及び1コマ目と2コマ目開始の間(14:40~14:55)いずれも2階の教員事務所:尚、講義日の11:30~12:30は大学入り口の講師控室   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|------------|-----|
| 1  | ①           | 【力学の基礎】演習<br>・力の定義、基本的な力、ニュートンの運動の法則、<br>・力の数式的取り扱いを復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 2  | ①           | ・特別な力(重力、引力、摩擦力)、剛体に働く力の釣り合い を復習し問題を解く   | 演習/講義      | 木 塚 |
| 3  | ①②          | ・力と運動、いろんな運動と力(等速運動、等加速度運動、円運動等)を復習し問題を解く。<br>・慣性力と遠心力を復習し問題を解く。   | 演習/講義      | 木 塚 |
| 4  | ②           | ・エネルギーとは、力と仕事、力学的エネルギー、エネルギー保存則等を復習し問題を解く。   | 演習/講義      | 木 塚 |
| 5  | ②           | 【材料の変形と強度】演習<br>・弾性と塑性、応力を復習し問題を解く。<br>・縦ひずみと横ひずみ、せん断ひずみ、縦弾性係数を復習し問題を解く。<br>・安全率、体積弾性率、梁の強さ、軸の強さを復習し問題を解く。<br>・大変形による破局的破壊を復習し問題を解く。 | 演習/講義      | 木 塚 |
| 6  | ③           | 【流体とその流れ】演習<br>・圧力、パスカルの原理、絶対圧とゲージ圧を復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 7  | ③           | ・連続の式、圧力差による流れを復習し問題を解く。<br>・粘性流体の流れ(ニュートン流体、ハーゲンポアゼイユの法則等)を復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 8  | ③           | ・層流と乱流、粘度測定を復習し問題を解く。<br>・液滴の形成条件、ポンプを復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 9  | ④           | 【波動】演習<br>・波の特徴、波を表す式、波の持つエネルギー、波の速度を復習し問題を解く。<br>・波の反射、透過と屈折を復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 10 | ④           | ・音波と超音波を復習し問題を解く。<br>・光の波動性を復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 11 | ⑤           | 【熱と熱力学】演習<br>・熱とは、温度、熱に関する基本的な物理量を復習し問題を解く。  | 演習/講義      | 木 塚 |
| 12 | ⑤           | ・身体の熱移動と体温調節を復習し問題を解く。   | 演習/講義      | 木 塚 |
| 13 | ⑤           | ・温度と相の変化、熱膨張を復習し問題を解く。<br>・熱と仕事、熱力学の法則を復習し問題を解く。33   | 演習/講義      | 木 塚 |
| 14 | ⑤           | ・熱機関とエントロピーを復習し問題を解く。  | 演習/演習      | 木 塚 |
| 15 | ①~⑤         | 【医用機器工学演習総復習】  | 演習/講義      | 木 塚 |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 臨床工学講座 医用機械工学 著 嶋津秀昭、馬淵清資 医歯薬出版株式会社 【ISBN】978-4-263-73409-4<br>その他 配布プリント |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。  |

|                     |   |        |            |              |           |
|---------------------|---|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 応用数学  | 授業コード  | 120168b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   | ナンバリング | 24C211P04  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 堀 純也(非常勤講師)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学の専門科目を学ぶためには、応用数学の基礎知識と素養が必要である。医用電気・電子工学、物性工学、医用機器安全管理学などをはじめとした臨床工学分野で扱う諸現象を理解するために、基礎数学から関数、極限、微分積分および微分方程式、フーリエ解析などについての計算能力を修得するとともに臨床工学の分野でこれらの数学がどのように応用されているかを理解することを目標とする。   |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基本的な数学の考え方が理解できる。</li> <li>2) ブール代数の考え方を理解できる。</li> <li>3) 関数と極限について理解できる。</li> <li>4) 微分の概念の理解とその応用について説明できる。</li> <li>5) 積分の概念の理解とその応用について説明できる。</li> <li>6) 微分方程式を解くことができる。</li> <li>7) フーリエ解析の概念の理解とその応用について説明できる。</li> <li>8) ベクトルの概念の理解とその応用について説明できる。</li> <li>9) 数学の臨床工学への応用について説明できる。</li> </ol> |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |        |            |              |           |
| 評価方法                | 適宜与える演習問題を解いてもらった後、説明を行ってもらうことで到達状況を確認し、フィードバックする。<br>適宜行う演習(20%)および定期試験(80%)を基に総合的に評価する。   |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 高等学校で学習する数学の内容はしっかり復習しておくこと。また、1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。応用数学演習の講義で行う演習内容も参考にすること。  |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間。E-Mailでも質問を受け付ける( <a href="http://www.dap.ous.ac.jp/~j-hori/profile.html">http://www.dap.ous.ac.jp/~j-hori/profile.html</a> )。   |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.    | 授業内容  | 授業方法  | 担当 |
|----|----------------|---|-------|----|
| 1  | 1, 9)          | 【複素関数とその応用】<br>複素数の概念と医用電気・電子工学との関係について理解する。                    | 講義・演習 | 堀  |
| 2  | 2, 9)          | 【ブール代数】<br>ブール代数の概念と医用電子工学との関係について理解する。                         | 講義・演習 | 堀  |
| 3  | 3, 9)          | 【 $n$ 次関数】<br>$n$ 次関数とその臨床工学への応用について理解する。                       | 講義・演習 | 堀  |
| 4  | 3, 9)          | 【三角関数】<br>三角関数とその臨床工学への応用について理解する。                              | 講義・演習 | 堀  |
| 5  | 3, 9)          | 【指数関数・対数関数】<br>指数関数・対数関数とその臨床工学への応用について理解する。                    | 講義・演習 | 堀  |
| 6  | 3, 4,<br>9)    | 【関数の極限と導関数】<br>関数の極限と導関数について理解する。                               | 講義・演習 | 堀  |
| 7  | 4, 9)          | 【 $n$ 次関数, 三角関数の微分法】<br>$n$ 次関数, 三角関数の微分法とその臨床工学分野における応用例を理解する。 | 講義・演習 | 堀  |
| 8  | 4, 9)          | 【指数関数, 対数関数の微分法】<br>指数関数, 対数関数の微分法とその臨床工学分野における応用例を理解する。        | 講義・演習 | 堀  |
| 9  | 5, 9)          | 【高次導関数と関数の展開】<br>高次導関数と関数の展開および臨床工学分野における応用例を理解する。              | 講義・演習 | 堀  |
| 10 | 5, 9)          | 【不定積分法】<br>不定積分とその臨床工学分野における応用例を理解する。                           | 講義・演習 | 堀  |
| 11 | 5, 9)          | 【定積分】<br>定積分とその臨床工学分野における応用例を理解する。                              | 講義・演習 | 堀  |
| 12 | 4, 5,<br>6, 9) | 【微分方程式】<br>微分方程式とその臨床工学分野における応用例を理解する。                          | 講義・演習 | 堀  |
| 13 | 7, 9)          | 【フーリエ解析】<br>フーリエ解析とその臨床工学分野における応用例を理解する。                        | 講義・演習 | 堀  |
| 14 | 8, 9)          | 【ベクトル】<br>ベクトルとその臨床工学分野における応用例を理解する。                            | 講義・演習 | 堀  |
| 15 | 1)~9)          | 【まとめ】<br>応用数学の臨床工学への応用について1~14回までのまとめを行う。                       | 講義・演習 | 堀  |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学シリーズ5 応用数学(西村 千秋 著) コロナ社【978-4-339-07105-4】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 大学生のための基礎シリーズ1 数学入門(上村 豊, 坪井 堅二 著) 東京化学同人【4-8079-0558-9】

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 応用数学演習  |   |          | 授業コード  | 120169A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |   |          | ナンバリング | 24C211P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 堀 純也(非常勤講師)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学の専門科目を学ぶためには、応用数学の基礎知識と素養が必要である。医用電気・電子工学、物性工学、医用機器安全管理学などをはじめとした臨床工学分野で扱う諸現象を理解するために、応用数学の講義で学んだ内容を演習を通じて定着させつつ、臨床工学分野において数学がどのように応用されているかを理解することを目標とする。<br>例題による学習と問題演習を中心とした授業を行う。                         |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)複素関数の基本的な計算ができる。<br>2)各種関数の性質と極限值を求める計算ができる。<br>3)基本的な関数の微分ができ、その応用例について説明ができる。<br>4)基本的な関数の積分ができ、その応用例について説明ができる。<br>5)行列の基本とその応用例について説明できる。<br>6)ベクトルの基本的性質とその応用例について説明できる。<br>7)数学が臨床工学分野にどのように役立っているか説明できる。 |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 特になし  |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 適宜与える演習問題を解いてもらった後、説明を行ってもらうことで到達状況を確認し、フィードバックする。<br>講義中の演習(20%)と定期試験(80%)の点数で総合的に評価する。  |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 事前に演習課題を課すことがあるので、その場合は前もって演習に取り組んでから講義に望むこと。演習の合間に簡単な講義を行うこともある。テキストは適宜プリントを配布する。また、1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間。E-Mailでも質問を受け付ける( <a href="http://www.dap.ous.ac.jp/~j-hori/profile.html">http://www.dap.ous.ac.jp/~j-hori/profile.html</a> )。   |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)7)  | 【基礎数学の問題演習】<br>虚数と複素数および集合と論理式について演習を通して理解を深める。                       |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 2                   | 1)7)  | 【基礎数学の臨床工学への応用】<br>虚数と複素数および集合と論理式が臨床工学分野においてどのように利用されているかについて理解を深める。 |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 3                   | 2)7)  | 【関数と極限値の演習】<br>関数と極限値について理解を深める。                                      |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 4                   | 2)7)  | 【関数と極限値の臨床工学への応用】<br>関数と極限値が臨床工学分野においてどのように利用されているかについて理解を深める。        |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 5                   | 3)7)  | 【微分学の演習①】<br>n次関数、指数関数、対数関数、三角関数など基本的な関数の微分について理解を深める。                |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 6                   | 3)7)  | 【微分学の演習②】<br>テイラー展開、関数の増減・極大極小などの微分について理解を深める。                        |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 7                   | 4)7)  | 【積分学の演習①】<br>不定積分に関して演習を通して理解を深める。                                    |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 8                   | 4)7)  | 【積分学の演習②】<br>定積分に関して演習を通して理解を深める。また、フーリエ級数について理解を深める。                 |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 9                   | 3)4)7)  | 【微分方程式と微分・積分学の臨床工学への応用】<br>微分・積分が臨床工学分野においてどのように利用されているかについて理解を深める。   |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 10                  | 5)7)  | 【行列・行列式の演習①】<br>行列とその性質について演習を通して理解を深める。                              |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 11                  | 5)7)  | 【行列・行列式の演習②】<br>行列式とその応用について演習を通して理解を深める。                             |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 12                  | 5)7)  | 【行列・行列式の臨床工学への応用】<br>行列・行列式が臨床工学分野においてどのように利用されているかについて理解を深める。        |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 13                  | 6)7)  | 【ベクトルの演習①】<br>ベクトルとその基本的性質について演習を通して理解を深める。                           |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 14                  | 6)7)  | 【ベクトルの演習②】<br>ベクトルの内積・外積とその性質について演習を通して理解を深める。                        |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 15                  | 6)7)  | 【ベクトルの臨床工学への応用】<br>ベクトルが臨床工学分野においてどのように利用されているかを理解を深める。               |          |        |            | 演習           | 堀         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学シリーズ5 応用数学(西村 千秋)コロナ社【4-339-07105-6】  |   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 大学生のための基礎シリーズ1 数学入門(上村 豊, 坪井 堅二)東京化学同人【978-480-790558-4】  |   |          |        |            |              |           |

|                     |  |  |           |            |              |           |    |
|---------------------|--|--|-----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | システム工学   |  | 授業コード     | 120047B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |  | ナンバリング    | 24C312P02  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 福長 一義(非常勤講師)   | 開講学期   | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | システム工学に関連した専門用語とその定義を理解し、様々なシステムの構成と考え方を習得する。さらに、医用機器に用いられる自動制御機構を理解する目的で、自動制御の基礎理論およびフィードバック制御の考え方を学ぶ。また、システムや制御に関連した工学系の基礎知識の大切さを再認識し、これを様々な場面で役立てるためのセンスを磨く。  |  |           |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) システムの定義と種類を整理して列挙できる。</li> <li>2) 様々なシステムの構成と考え方を理解する。</li> <li>3) 自動制御の基礎理論とフィードバック制御の考え方を説明できる。</li> <li>4) 医用機器とシステム工学を関連づけることができる。</li> <li>5) システムの信頼性と安全について理解する。</li> <li>6) 実際に現れる諸現象を関数で解析できる。</li> </ol> |  |           |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 該当なし   |  |           |            |              |           |    |
| 評価方法                | 授業毎の確認テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。確認テスト 30%、学習への取り組み姿勢(テスト返却の受け取り状況、課題の提出状況)の評価を 30%、及び授業中の口頭試問を 40%として、単位認定を行う。評価の基準は授業開始日に説明する。  |  |           |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 1回の授業につき 60分を目安に予習・復習を行うこと。1回の授業につき復習内容をまとめたノートを作成し、次回の授業前までに提出すること。   |  |           |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 集中講義のため、講義当日の開始前および終了後に教室内で対応します。  |  |           |            |              |           |    |
| 授業計画                |  |  |           |            |              |           |    |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容   |           |            | 授業<br>方法     | 担当        |    |
| 1                   | 1)2)   | 【システム工学とは】<br>システム工学の基本的な用語と定義について学ぶ。                  |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 2                   | 1)2)   | 【システム工学の基礎】<br>システムの構成と制御の基礎について学ぶ。                    |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 3                   | 3)   | 【システムの設計と評価】<br>システムの設計と評価について学ぶ。                      |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 4                   | 5)   | 【システムの信頼性】<br>システムの信頼性について学ぶ。                          |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 5                   | 5)   | 【システムの故障】<br>システムの故障、修理、解析について学ぶ。                      |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 6                   | 4)   | 【生体システム】<br>生体のシステムとその特徴について学ぶ。                        |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 7                   | 3)   | 【制御の基礎】<br>制御の定義などの基礎について学ぶ。                           |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 8                   | 3)   | 【制御の種類】<br>フィードバック制御などの制御の種類について学ぶ。                    |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 9                   | 6)   | 【制御における関数】<br>制御に用いる関数について学ぶ。                          |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 10                  | 6)   | 【ラプラス変換】<br>ラプラス変換について学ぶ。                              |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 11                  | 6)   | 【ブロック線図】<br>図を用いた制御系の記述方法について学ぶ。                       |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 12                  | 3)6)   | 【伝達関数】<br>式を用いた制御系の記述方法について学ぶ。                         |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 13                  | 3)6)   | 【制御系の応答】<br>制御とその応答の特徴などについて学ぶ。                        |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 14                  | 4)   | 【医療における制御】<br>医療に应用されているシステム工学、制御について学ぶ。               |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 15                  | 1)2)3)<br>4)5)6)   | 【まとめと演習】<br>これまでの総括と問題演習を行う。                           |           |            | 講義           | 福長        |    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 臨床工学講座 医用システム・制御工学 著 嶋津秀昭、堀内邦雄 【ISBN】978-4-263-73413-1 |           |            |              |           |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。   |           |            |              |           |    |

|                     |   |      |          |            |              |           |     |
|---------------------|---|------|----------|------------|--------------|-----------|-----|
| 科目名                 | 生体機能工学  |      | 授業コード    | 120665B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |     |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      | ナンバリング   | 24C322P05  | AL科目         |           |     |
| 担当者                 | 福長 一義(非常勤講師)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択          | 授業形態      | 講 義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生体機能代行装置とその周辺技術についての基礎的な知識を習得し、原理を理解することを目標とする。本講義は、受講者がこれまで学んできた基礎医学と基礎工学の応用分野であり、個々の学問の重要性を再認識し、医用工学の知識体系化を図るための機会とする。また、各論を学ぶために必要となる医用工学の基礎を身につける。  |      |          |            |              |           |     |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 人工心肺装置の構成要素とキーワードを挙げ、原理、構造、仕組みを説明できる。<br>2) 人工呼吸器の構成要素とキーワードを挙げ、原理、構造、仕組みを説明できる。<br>3) 血液浄化装置の構成要素とキーワードを挙げ、原理、構造、仕組みを説明できる。<br>4) 既に習得した基礎学問の知識を応用できる。<br>5) 基礎科目の重要性を再認識し、自己の到達度を評価できる。(復習につなげる) |      |          |            |              |           |     |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 該当なし  |      |          |            |              |           |     |
| 評価方法                | 授業毎の確認テストにより学習進捗状況を把握し、フィードバックを行う。確認テスト30%、学習への取り組み姿勢(テスト返却の受け取り状況、課題の提出状況)の評価を30%、及び授業中の口頭試問を40%として、単位認定を行う。評価の基準は授業開始日に説明する。  |      |          |            |              |           |     |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 生体機能代行装置について復習しておくこと。1回の授業につき60分を目安に予習・復習を行うこと。1回の授業につき復習内容をまとめたノートを作成し、次回の授業前までに提出すること。  |      |          |            |              |           |     |
| オフィスアワー             | 集中講義のため、講義当日の開始前および終了後に教室内で対応します。   |      |          |            |              |           |     |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容                                  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|--|------------|-----|
| 1  | 4)5)        | 【生体機能代行装置とは】<br>生体機能代行装置と臨床工学との関連について学ぶ。 | 講 義        | 福 長 |
| 2  | 1)4)5)      | 【循環系①】<br>生体の血液循環、および体外循環について学ぶ。         | 講 義        | 福 長 |
| 3  | 1)4)5)      | 【循環系②】<br>血液ポンプの構造、機能および必要性能について学ぶ。      | 講 義        | 福 長 |
| 4  | 1)4)5)      | 【循環系③】<br>人工肺の構造、材料および必要性能について学ぶ。        | 講 義        | 福 長 |
| 5  | 1)4)5)      | 【循環系④】<br>人工心肺装置の構成要素について学ぶ。             | 講 義        | 福 長 |
| 6  | 2)4)5)      | 【呼吸系①】<br>生体の呼吸、および人工呼吸について学ぶ。           | 講 義        | 福 長 |
| 7  | 2)4)5)      | 【呼吸系②】<br>血液ガスの正常値、単位、計算方法習得する。          | 講 義        | 福 長 |
| 8  | 2)4)5)      | 【呼吸系③】<br>換気と二酸化炭素分圧との関係について学ぶ。          | 講 義        | 福 長 |
| 9  | 2)4)5)      | 【呼吸系④】<br>酸素解離曲線と酸素分圧との関係について学ぶ。         | 講 義        | 福 長 |
| 10 | 2)4)5)      | 【呼吸系⑤】<br>人工心肺装置の構成要素について学ぶ              | 講 義        | 福 長 |
| 11 | 3)4)5)      | 【代謝系①】<br>生体の腎機能、および血液透析について学ぶ           | 講 義        | 福 長 |
| 12 | 3)4)5)      | 【代謝系②】<br>グラム当量、浸透圧などの単位、計算方法について学ぶ。     | 講 義        | 福 長 |
| 13 | 3)4)5)      | 【代謝系③】<br>透析液の基本的な組成について学ぶ。              | 講 義        | 福 長 |
| 14 | 3)4)5)      | 【代謝系④】<br>血液透析装置の構成要素について学ぶ。             | 講 義        | 福 長 |
| 15 | 4)5)        | 【人工臓器】<br>人工心臓、人工関節などの人工臓器について学ぶ。        | 講 義        | 福 長 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学技士ポケットレビュー帳(福長一義)メジカルビュー【978-4758316873】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 解剖生理学および生理学で使用した教科書を持参すること。

|                     |   |      |           |            |                        |           |
|---------------------|---|------|-----------|------------|------------------------|-----------|
| 科目名                 | 画像診断学   |      | 授業コード     | 120188B201 | 単位数<br>(時間数)           | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      | ナンバリング    | 24C322P06  | AL科目                   |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 選 択<br>※2011年度以前入学生は必修 | 授業形態 講 義  |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士として、必要な医療画像に対する、解剖・生理・病態を理解して、診断から治療にいたる一連の流れを習得する。   |      |           |            |                        |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)画像診断に関する基礎:解剖生理学について説明できる。<br>2)画像より診断を説明できる。<br>3)画像診断を応用して、治療する疾患と治療方法を説明できる。   |      |           |            |                        |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |      |           |            |                        |           |
| 評価方法                | 授業における教官により行われる質疑応答態度、および毎回の小テストによる評価。  |      |           |            |                        |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業における内容に対して各回復習を確実にし習得すること。2回目以降の授業では、これまでの講義内容の復習を行うので重要なポイントを習得すること。次回の講義の内容を事前に通知するので、テキスト等で予習を行うこと。予習復習の時間を1回あたり目安として1時間を確保すること。 |      |           |            |                        |           |
| オフィスアワー             | 毎週月曜日 13:00~15:00   |      |           |            |                        |           |

| 授業計画               |             |  |            |     |  |  |
|--------------------|-------------|--|------------|-----|--|--|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |  |  |
| 1                  | 1)          | 【X線撮影解剖との関連】<br>X線撮影画像をみて、どのように画像上、立体が平面画像になるのかを学ぶ。    | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 2                  | 1)          | 【X線撮影臨床における応用】<br>臨床応用を総論的に俯瞰する。特に著しい進歩について学習する。       | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 3                  | 1)          | 【CTを読む】<br>CTスライスから、各臓器の構造を再構築して解剖を理解する。               | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 4                  | 1)          | 【超音波画像診断】<br>超音波画像の原理と臨床応用を学習する。                       | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 5                  | 1)2)        | 【呼吸器系1】<br>解剖をよく理解して、X線画像でどのように表現されているのかを考える。          | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 6                  | 1)2)        | 【呼吸器系2】<br>呼吸器系1で学習したことえを踏まえて、病態とあわせて画像診断を考えてみる。       | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 7                  | 1)2)        | 【呼吸器系3】<br>呼吸器系1、2とあわせて、3D上で、同様に画像が構築され、病態と結びつくのか考える。  | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 8                  | 1)2)        | 【循環器系1】<br>心臓・大血管系の解剖を考え、X線、CTではどのように正常構造が描かれるかを学習する。  | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 9                  | 1)2)        | 【循環器系2】<br>循環器系1を踏まえ、病態とあわせて考え学習する。                    | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 10                 | 1)2)3)      | 【循環器系3】<br>循環器系1、2を踏まえ、画像上での治療効果の判定の利点と限界を学習する。        | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 11                 | 1)2)        | 【腹部臓器1】<br>腹部臓器の解剖を考え、X線、CTではどのように正常構造が描かれるかを学習する。     | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 12                 | 1)2)3)      | 【腹部臓器2】<br>腹部臓器1を踏まえ、病態とあわせて考え学習する。                    | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 13                 | 1)2)        | 【脊髄・脳神経1】<br>脊髄・脳神経の解剖を考え、X線、CTではどのように正常構造が描かれるかを学習する。 | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 14                 | 1)2)3)      | 【脊髄・脳神経2】<br>脊髄・脳神経1を踏まえ、病態とあわせて考え学習する。                | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 15                 | 1)2)        | 【MRI】<br>原理とその表現について、臨床工学科学学生として、重要となる部分を学習する。         | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 診断画像解剖学テキスト (小谷 正彦) 文光堂 【978-4830-64211-1】             |            |     |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |            |     |  |  |



|                     |  |      |           |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体計測装置学Ⅱ   |      | 授業コード     | 120677B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |      | ナンバリング    | 24C312P03  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態 講義   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>生体計測装置は単体で使用するもの、治療機器と共に使用するもの、ICUやCCUあるいは手術室などで医療システムの中に組み込まれて使用するものなど極めてその使用範囲は広い。生体計測装置学Ⅱでは、生体計測装置の基礎的な原理・構造は無論、生体という計測対象の特異性についてや変動する測定データの評価方法について講義を行う。</p> <p>生体計測装置全般の特徴を理解し、臨床実践業務に貢献できる臨床工学技士となるために、その計測装置の目的、特性、操作法、管理技術法について説明できることを目的とする。また、各種生体計測装置の特性についてアクティブラーニング(AL)として、SGDによるプレゼンテーション発表を行う。</p>   |      |           |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体情報計測法と臨床的意義について説明できる。</li> <li>2) 生体計測装置の構成および情報処理技術について説明できる。</li> <li>3) 循環器系計測装置の特性を説明し、データ評価できる。</li> <li>4) 脳・神経・筋系計測装置の特性を説明し、データ評価できる。</li> <li>5) 呼吸器系計測装置の特性を説明し、データ評価できる。</li> <li>6) 画像診断計測装置の特性を説明し、データ評価できる。</li> <li>7) 生体計測装置の保守管理について説明できる。</li> <li>8) 生体計測装置の取扱と注意点を列挙し説明できる。</li> <li>9) 生体計測装置を正確かつ安全に操作できる。</li> <li>10) 生体計測装置の特性を調査し、プレゼンテーション発表できる。</li> </ol> |      |           |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実施予定なし。  |      |           |            |              |           |
| 評価方法                | <p>各回の講義において復習レポートの提出および学習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。</p> <p>評価基準については、単位認定試験(40%)、プレゼンテーション(40%)、小試験(10%)、レポート課題(10%)にて総合的評価を行う。</p>   |      |           |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。</p> <p>授業日前までに授業内容の予習および授業後には復習を最低1時間は行うこと。</p> <p>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。</p>  |      |           |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332   |      |           |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当  |
|----|-------------|---|----------|-----|
| 1  | 1)2)10)     | 【生体計測法と生体計測機器概論】<br>生体計測法と臨床的意義について説明できる。                               | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 2  | 1)2)10)     | 【生体情報計測】<br>生体計測装置の構成・増幅・変換処理技術・雑音対策等について説明できる。                         | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 3  | 3)8)9)10)   | 【心電計・心電図モニター・ホルタ心電計・心音計他】<br>心電計・心電図モニター・ホルタ心電計・心音計等、循環器系計測機器について説明できる。 | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 4  | 3)8)9)10)   | 【脈波計・容積脈波計】<br>脈波計・容積脈波計等、生体の物理・化学現象について説明できる。                          | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 5  | 3)8)9)10)   | 【血圧計】<br>観血式・非観血式血圧測定法・その他の血圧測定法について説明できる。                              | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 6  | 3)8)9)10)   | 【血流計】<br>心拍出量計・電磁血流計・超音波血流計等、血流測定法について説明できる。                            | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 7  | 4)8)9)10)   | 【脳波計・大脳誘発電位計・聴性脳幹反応他】<br>脳波計・大脳誘発電位計・聴性脳幹反応等、脳・神経・筋系計測機器について説明できる。      | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 8  | 4)8)9)10)   | 【筋電計・誘発筋電計他】<br>筋電計・誘発筋電計等、脳・神経・筋系計測機器について説明できる。                        | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 9  | 5)8)9)10)   | 【呼吸計測装置1】<br>スパイロメータ・呼吸流量計等、呼吸器系計測機器について説明できる。                          | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 10 | 5)8)9)10)   | 【呼吸計測装置2】<br>血液ガス分析・パルスオキシメータ・カプノメータ等、呼吸器系計測機器について説明できる。                | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 11 | 6)8)9)10)   | 【医用赤外線画像装置・体温計】<br>生体温計測法について説明できる。                                     | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 12 | 6)8)9)10)   | 【超音波診断装置】<br>超音波診断装置による画像診断法について説明できる。                                  | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 13 | 6)8)9)10)   | 【生体磁気計測】<br>心磁図・脳磁図・肺磁図等、生体磁気計測について説明できる。                               | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 14 | 6)8)9)10)   | 【X線CT・MRI他】<br>X線CT・MRI等、医用画像診断装置について説明できる。                             | 講義・SGD   | 砂子澤 |
| 15 | 7)8)9)10)   | 【生体計測機器の保守管理】<br>生体計測機器の外観・作動・機能点検等、保守点検・保守管理について説明できる。                 | 講義・SGD   | 砂子澤 |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 臨床工学講座 生体計測装置学(編集 石原 謙) 医歯薬出版【4-263-73406-3】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。                                       |

|                     |  |  |          |            |                        |             |
|---------------------|--|--|----------|------------|------------------------|-------------|
| 科目名                 | 生体計測装置学演習  |  | 授業コード    | 120678A201 | 単位数<br>(時間数)           | 1<br>(30)   |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |  | ナンバリング   | 24C321P01  | AL科目                   | ○           |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択      | 選 択<br>※2011年度以前入学生は必修 | 授業形態<br>演 習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>生体計測装置学演習では、生体計測機器について原理・構造等の理解を深め、正確かつ安全な生体計測のために必要な基礎的知識・技術の講義・演習を行う。また、診断用計測装置とモニタリング装置の相違点についても学ぶ。</p> <p>生体計測装置全般の特徴を理解し、臨床実践業務に貢献できる臨床工学技士となるために、その計測装置の目的、特性、操作法、管理技術法について説明できることを目的とする。</p>   |  |          |            |                        |             |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体計測装置の基礎について説明できる。</li> <li>2) 生体計測装置の情報処理技術について説明できる。</li> <li>3) 循環器系計測装置の原理・構造について説明できる。</li> <li>4) 呼吸器系計測装置の原理・構造について説明できる。</li> <li>5) 脳・神経・筋系計測装置の原理・構造について説明できる。</li> <li>6) 画像診断計測装置の原理・構造について説明できる。</li> <li>7) 検体計測装置の原理・構造について説明できる。</li> <li>8) 生体計測装置の保守管理について説明できる。</li> <li>9) 生体計測装置の取扱と注意点を列挙し説明できる。</li> <li>10) 生体計測装置を正確かつ安全に操作できる。</li> </ol> |  |          |            |                        |             |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実施予定なし。  |  |          |            |                        |             |
| 評価方法                | <p>各回の講義において復習レポートの提出および学習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。</p> <p>評価基準については、単位認定試験(60%)、小試験(20%)、レポート課題(20%)にて総括的評価を行う。</p>  |  |          |            |                        |             |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。</p> <p>授業日前までに授業内容の予習および授業後には復習を最低1時間は行うこと。</p> <p>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。</p>  |  |          |            |                        |             |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332   |  |          |            |                        |             |
| 授業計画                |  |  |          |            |                        |             |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |          |            | 授 業<br>方 法             | 担 当         |
| 1                   | 1)   | 【生体計測機器の基礎】<br>生体計測機器の基礎計測論について説明できる。                        |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 2                   | 2)   | 【生体情報計測法】<br>生体計測機器の構成・増幅・変換処理技術・雑音対策等について説明できる。             |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 3                   | 3)9)10<br>)  | 【循環器系計測機器の構成と原理1】<br>心電図・医用テレメータ・心音図等について説明できる。              |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 4                   | 3)9)10<br>)  | 【循環器系計測機器の構成と原理2】<br>血圧計(観血式・非観血式・その他)について説明できる。             |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 5                   | 3)9)10<br>)  | 【循環器系計測機器の構成と原理3】<br>血流計測法について説明できる。                         |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 6                   | 4)9)10<br>)  | 【呼吸器系計測機器の構成と原理1】<br>呼吸モニタ等、呼吸器系計測機器について説明できる。               |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 7                   | 4)9)10<br>)  | 【呼吸器系計測機器の構成と原理2】<br>血液ガス分析装置等、呼吸器系計測機器について説明できる。            |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 8                   | 5)9)10<br>)  | 【脳・神経・筋系計測機器の構成と原理1】<br>脳波・大脳誘発電位等、脳・神経・筋系計測機器について説明できる。     |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 9                   | 5)9)10<br>)  | 【脳・神経・筋系計測機器の構成と原理2】<br>筋電図・誘発筋電図等、脳・神経・筋系計測機器について説明できる。     |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 10                  | 6)9)10<br>)  | 【医用画像計測機器の構成と原理1】<br>サーモグラフィ等、医用画像計測機器について説明できる。             |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 11                  | 6)9)10<br>)  | 【医用画像計測機器の構成と原理2】<br>体温計測・体温計(電子体温計・深部体温計等)・サーミスタ等について説明できる。 |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 12                  | 6)9)10<br>)  | 【超音波診断装置の構成と原理】<br>超音波診断装置について説明できる。                         |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 13                  | 7)   | 【検体計測装置の構成と原理】<br>自動分析化学装置・吸光光度計等、検体計測装置について説明できる。           |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 14                  | 8)   | 【生体計測機器の保守管理】<br>生体計測機器の外観・作動・機能点検等、保守点検・保守管理について説明できる。      |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 15                  | 9)10)  | 【新しい医用生体計測機器】<br>最新の医用生体計測機器について説明できる。                       |          |            | 講義・演習                  | 砂子澤         |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 生体計測装置学(編集 石原 謙) 医歯薬出版【4-263-73406-3】   |  |          |            |                        |             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |  |          |            |                        |             |

|                     |  |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体計測装置学実習  |      |          | 授業コード  | 120679A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |      |          | ナンバリング | 24C312P04  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)、右田 平八(保・工)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>臨床工学技士業務では、生命維持管理装置に関連した患者生体情報の検出と評価は極めて重要な技量の一つである。患者生体情報は精度よく正確に検出し、適切に対応することが臨床工学技士の役割でもある。</p> <p>生体計測装置実習では、臨床で実際に使用されている生体計測装置を取扱い、各計測装置の原理および操作方法・保守管理を中心に実習を行う。</p> <p>生体計測装置全般の特徴を理解し、臨床実践業務に貢献できる臨床工学技士となるために、確かな計測装置の操作、計測法および保守管理技術を習得することを目的とする。</p> |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)計測機器の各種名称と役割を説明できる。</p> <p>2)計測機器の作動原理と使用目的を説明できる。</p> <p>3)取扱と注意点を理解し、具体的に説明できる。</p> <p>4)計測データをについて理解し、評価できる。</p> <p>5)計測機器を確実に操作できる。</p>   |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 生体計測装置の管理および保守は、臨床工学技士の実践業務において欠かせない業務であるため、科目担当者の実践業務に基づいた実習を展開する。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | <p>各回の実習において復習レポートの提出および実習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。</p> <p>評価基準については、単位認定試験(40%)、小試験(20%)、レポート課題(40%)にて総合的評価を行う。</p>  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。</p> <p>実習日前までに実習内容の予習および実習後には復習を最低1時間は行うこと。</p> <p>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。</p>  |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332   |      |          |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当     |
|----|-------------|--|----------|--------|
| 1  | 1)          | 【全体説明会】<br>計測機器備品管理および事前学習・レポートの書き方を習得できる。             | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 2  | 2)~5)       | 【血圧計測実習Ⅰ】<br>聴診法、オシロメトリック法、容積脈波法、トノメトリ法等の実際と技術を習得できる。  | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 3  | 2)~5)       | 【血圧計測実習Ⅱ】<br>聴診法、オシロメトリック法、容積脈波法、トノメトリ法等の実際と技術を習得できる。  | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 4  | 2)~5)       | 【心電図・心電図モニタ計測実習Ⅰ】<br>各誘導法、心電図解析、モニタ電極の装着等の実際と技術を習得できる。 | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 5  | 2)~5)       | 【心電図・心電図モニタ計測実習Ⅱ】<br>各誘導法、心電図解析、モニタ電極の装着等の実際と技術を習得できる。 | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 6  | 2)~5)       | 【呼吸計測装置実習Ⅰ】<br>スパイロメータによる肺気量分画、肺機能疾患の評価の実際と技術を習得できる。   | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 7  | 2)~5)       | 【呼吸計測装置実習Ⅱ】<br>カブノメータによる呼気炭酸ガス分圧の測定および評価の実際と技術を習得できる。  | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 8  | 2)~5)       | 【呼吸計測装置実習Ⅲ】<br>パルスオキシメータによる酸素飽和度の測定および評価の実際と技術を習得できる。  | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 9  | 2)~5)       | 【熱画像計測実習Ⅰ】<br>サーモグラフィによる熱画像計測の実際と技術を習得できる。             | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 10 | 2)~5)       | 【熱画像計測実習Ⅱ】<br>サーモグラフィによる熱画像計測の実際と技術を習得できる。             | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 11 | 2)~5)       | 【自律神経系計測実習Ⅰ】<br>周波数スペクトル解析による自律神経系の評価の実際と技術を習得できる。     | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 12 | 2)~5)       | 【自律神経系計測実習Ⅱ】<br>周波数スペクトル解析による自律神経系の評価の実際と技術を習得できる。     | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 13 | 2)~5)       | 【超音波診断装置実習Ⅰ】<br>超音波診断装置による心臓断層像計測の実際と評価、技術を習得できる。      | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 14 | 2)~5)       | 【超音波診断装置実習Ⅱ】<br>超音波診断装置による心臓断層像計測の実際と評価、技術を習得できる。      | 実習       | 砂子澤・右田 |
| 15 | 2)~5)       | 【超音波診断装置実習Ⅲ】<br>超音波診断装置による腹部断層像計測の実際と評価、技術を習得できる。      | 実習       | 砂子澤・右田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学講座 生体計測装置学(編集 石原 謙) 医歯薬出版【4-263-73406-3】  
別途、実習書およびプリントを配布

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |  |        |            |              |           |      |    |
|---------------------|--|--------|------------|--------------|-----------|------|----|
| 科目名                 | 臨床検査機器学  | 授業コード  | 121056B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |      |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  | ナンバリング | 24C211P06  | AL科目         | ○         |      |    |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)   | 開講学期   | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床検査機器学では、生体を医学的に診断・治療を目的に検査を行うための、検査理論を基礎として学習する。臨床検査機器の構成、生体の電気現象、化学・物理現象の基礎と計測、物理エネルギーを外部から与えた場合の生体計測および臨床検査機器の保守管理について講義を行う。<br>臨床検査データを読解し、臨床実践業務に応用できる臨床工学技士となるために、臨床で使用される臨床検査機器について、その目的、測定法、臨床的意義、臨床検査データ解釈について説明出来ることを目的とする。 |        |            |              |           |      |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)臨床検査の基礎理論について説明できる。<br>2)臨床検査の臨床的意義を説明できる。<br>3)臨床検査の実際と臨床応用について説明できる。<br>4)臨床検査の臨床的解釈について説明できる。<br>5)臨床検査機器の取扱・注意点について説明できる。<br>6)臨床検査機器を正確かつ安全に操作できる。<br>7)患者データを読解できる。  |        |            |              |           |      |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実施予定なし。  |        |            |              |           |      |    |
| 評価方法                | 各回の講義において復習レポートの提出および学習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。<br>評価基準については、単位認定試験(60%)、小試験(20%)、レポート課題(20%)にて総括的評価を行う。   |        |            |              |           |      |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。<br>授業日前までに授業内容の予習および授業後には復習を最低1時間は行うこと。<br>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。   |        |            |              |           |      |    |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00～13:00、1号棟 3F、B-332   |        |            |              |           |      |    |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業方法 | 担当  |
|----|-------------|---|------|-----|
| 1  | 1)          | 【臨床検査機器総論】<br>臨床検査の臨床的意義および臨床検査機器について説明できる。                           | 講義   | 砂子澤 |
| 2  | 1)          | 【Vital signs】<br>Vital signs(体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベル)について説明できる。             | 講義   | 砂子澤 |
| 3  | 2)～6)       | 【一般臨床検査】<br>尿検査・尿試験紙検査(蛋白・糖・沈渣他)・糞便・脳脊髄液・胸水・腹水・喀痰・分泌液等の検体検査について説明できる。 | 講義   | 砂子澤 |
| 4  | 2)～6)       | 【血液学的検査】<br>血球数(赤血球・白血球・血小板)・末梢血液像・凝固線溶系検査について説明できる。                  | 講義   | 砂子澤 |
| 5  | 2)～6)       | 【生化学的検査】<br>糖・蛋白・各種電解質・各種血清酵素等の検査について説明できる。                           | 講義   | 砂子澤 |
| 6  | 2)～6)       | 【免疫学的検査】<br>感染症・アレルギー・免疫グロブリン・血液型・HBV・HCV・HIV・輸血検査等の検査について説明できる。      | 講義   | 砂子澤 |
| 7  | 2)～6)       | 【心機能検査】<br>心電図・心音図・心臓カテテル検査の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。                | 講義   | 砂子澤 |
| 8  | 2)～6)       | 【血流測定】<br>生体内の血流測定法の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。                        | 講義   | 砂子澤 |
| 9  | 2)～6)       | 【超音波診断装置】<br>心臓エコー、腹部エコーの原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。                   | 講義   | 砂子澤 |
| 10 | 2)～6)       | 【呼吸機能検査】<br>呼吸調節・換気機能・ガス交換機能等の呼吸機能検査機器の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。     | 講義   | 砂子澤 |
| 11 | 2)～6)       | 【血液ガス分析】<br>血液ガス分析装置の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。                       | 講義   | 砂子澤 |
| 12 | 2)～6)       | 【神経・筋機能検査】<br>脳波・筋電図等の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。                      | 講義   | 砂子澤 |
| 13 | 2)～6)       | 【画像診断検査】<br>単純X線撮影・CT・MRI・核医学検査等の原理・応用・臨床的解釈・臨床応用について説明できる。           | 講義   | 砂子澤 |
| 14 | 2)～6)       | 【臨床検査領域における感染症対策】<br>微生物・ウイルス等による臨床検査領域における感染症対策について説明できる。            | 講義   | 砂子澤 |
| 15 | 7)          | 【臨床検査データ読解】<br>臨床検査データから患者情報について説明できる。                                | 講義   | 砂子澤 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 標準臨床検査医学第4版(高木康・山田俊幸)医学書院【4-260-01600-1】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |  |      |          |            |              |           |    |
|---------------------|--|------|----------|------------|--------------|-----------|----|
| 科目名                 | 医用治療機器学  |      | 授業コード    | 120122B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |    |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |      | ナンバリング   | 24C211P07  | AL科目         |           |    |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医用治療機器学では、臨床利用されている医用治療機器の原理・構造・治療条件・操作法等について基本的概念を習得する。また医用治療機器は、効果と同時に安全性が優先されることから、運用上での落とし穴や、不具合が生じた場合の発見方法、緊急時を含む対処方法を、保守点検方法を習得する。 |      |          |            |              |           |    |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 医用治療機器の作用と治療効果を説明できる。<br>2) 医用治療機器の原理・構造を説明できる。<br>3) 医用治療機器の取扱と注意点を列挙し説明できる。<br>4) 医用治療機器の保守管理について説明できる。<br>5) 医用治療機器を正確かつ安全に操作できる。  |      |          |            |              |           |    |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 医療機器が医療において必要不可欠であり、授業においても臨床現場での経験スキルが重要である。担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務しており、実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。                       |      |          |            |              |           |    |
| 評価方法                | 学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。おもに定期試験の成績で評価するが、受講姿勢(確認テストやレポートの提出遵守、質問・発言など授業への参加)なども加味する。  |      |          |            |              |           |    |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業に際しては、シラバスを確認して90分を目安に予習・復習を行うこと。<br>毎授業後にレポートをまとめ、提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。  |      |          |            |              |           |    |
| オフィスアワー             | 月曜から金曜日の12:30~13:00 その他、1号棟B340 在室中は何時でも対応します。   |      |          |            |              |           |    |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---|----------|----|
| 1  | 1)~5)       | 【医用治療機器概論】<br>医用治療機器の基礎を理解できる。                  | 講義       | 右田 |
| 2  | 1)~5)       | 【ペースメーカ】<br>ペースメーカの原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。       | 講義       | 右田 |
| 3  | 1)~5)       | 【除細動器】<br>除細動器の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。           | 講義       | 右田 |
| 4  | 1)~5)       | 【電気メス】<br>電気メスの原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。           | 講義       | 右田 |
| 5  | 1)~5)       | 【電磁波治療器】<br>電磁波治療器の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。       | 講義       | 右田 |
| 6  | 1)~5)       | 【レーザー手術装置】<br>レーザー手術装置の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。   | 講義       | 右田 |
| 7  | 1)~5)       | 【内視鏡手術装置】<br>内視鏡手術装置の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。     | 講義       | 右田 |
| 8  | 1)~5)       | 【熱治療機器】<br>熱治療機器の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。         | 講義       | 右田 |
| 9  | 1)~5)       | 【超音波吸引装置】<br>超音波吸引装置の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。     | 講義       | 右田 |
| 10 | 1)~5)       | 【光凝固装置】<br>光凝固装置原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。          | 講義       | 右田 |
| 11 | 1)~5)       | 【冷凍手術装置】<br>冷凍手術装置の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。       | 講義       | 右田 |
| 12 | 1)~5)       | 【高気圧酸素治療機器】<br>高気圧酸素治療機器の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。 | 講義       | 右田 |
| 13 | 1)~5)       | 【結石破碎装置】<br>結石破碎装置の原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。       | 講義       | 右田 |
| 14 | 1)~5)       | 【輸液ポンプ】<br>輸液ポンプの原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。         | 講義       | 右田 |
| 15 | 1)~5)       | 【シリンジポンプ】<br>シリンジポンプの原理・構造・操作・保守管理方法を説明できる。     | 講義       | 右田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学講座 医用治療機器学(編集 篠原 一彦) 医歯薬出版【4-263-73400-1】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |  |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用治療機器学演習  |      |          | 授業コード  | 120123A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |      |          | ナンバリング | 24C221P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 選 択        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医用治療機器の原理、臨床での具体的な使用方法、保守点検、安全対策などの基本知識を学び、将来の臨床業務に役立てるように習得する。本講義で与えられた課題を考察し、次の実習へと継続させていく。また、臨床工学技士国家試験、ME1種、2種技術実力検定試験を見据えての演習も習得する。   |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医用治療機器の基礎、作用と副作用と治療に用いる物理エネルギーの種類と特性を説明できる。</li> <li>2) ペースメーカの原理・構造・操作・保守管理について説明できる。</li> <li>3) 除細動器の原理・構造・操作・保守管理、目的や適応症、不整脈について説明できる。</li> <li>4) 電気メスの原理・構造・操作・保守管理、歴史、基礎、事故と安全対策等について説明できる。</li> <li>5) マイクロ波手術装置の原理・構造・操作・保守管理、歴史等について説明できる。</li> <li>6) レーザ治療の変遷や基礎知識、装置の原理・構造・保守管理について説明できる。</li> <li>7) 内視鏡の歴史と概要、原理と構造・保守管理、内視鏡による診断と治療について説明できる。</li> <li>8) 内視鏡外科手術装置の機器の原理・構造・操作・保守管理、留意点について説明できる。</li> <li>9) 超音波の性質、発生法、医療への応用と超音波吸引装置の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。</li> <li>10) 超音波凝固切開装置の原理・構造・操作・保守管理、適応と対象疾患について説明できる。</li> <li>11) 冷凍手術の作用機序と治療の特徴、冷凍手術器の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。</li> <li>12) ハイパーサーミア(癌温熱療法)装置についての理工学的基礎と生物学的基礎について説明できる。</li> <li>13) 体外衝撃波結石砕石術の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。</li> <li>14) 輸液ポンプの構成と分類、流量の制御方式、使用手順、原理・構造・操作・保守管理について説明できる。</li> <li>15) 心血管系インターベンションの目的と歴史・臨床及び使用機器と方法、また、吸引器の種類と目的について説明できる。</li> </ol> |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 医療機器が医療において必要不可欠であり、授業においても臨床現場での経験スキルが重要である。担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務しており、実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。   |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。おもに定期試験の成績で評価するが、受講姿勢(確認テストやレポートの提出遵守、質問・発言など授業への参加)なども加味する。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 臨床の実際についてはスライドにて説明する。1コマ当たり90分を目安に教科書の予習をし、講義後は質問できるよう復習を必ず行うこと。提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。   |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜から金曜日の12:30~13:00 その他、1号棟B340在室中は何時でも対応します。  |      |          |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授 業<br>方 法 | 担 当 |
|----|-------------|---|------------|-----|
| 1  | 1)          | 【医用治療機器概論】治療の基礎、作用と副作用と治療に用いる物理エネルギーの種類と特性を説明できる。                                 | 講義・演習      | 右 田 |
| 2  | 1)2)        | 【ペースメーカ】ペースメーカの原理・構造・操作・保守管理について、歴史・周辺機器を説明できる。                                   | 講義・演習      | 右 田 |
| 3  | 3)          | 【除細動器】除細動器(AEDを含む)の原理・構造・操作・保守管理、目的や適応症、不整脈について説明できる。                             | 講義・演習      | 右 田 |
| 4  | 4)          | 【電気メス】電気メスの原理・構造・操作・保守管理、歴史、基礎、事故と安全対策等について説明できる。                                 | 講義・演習      | 右 田 |
| 5  | 5)          | 【マイクロ波手術装置】マイクロ波手術装置の原理・構造・操作・保守管理、歴史等について説明できる。                                  | 講義・演習      | 右 田 |
| 6  | 6)          | 【レーザー手術装置】レーザー手術装置において、レーザー治療の変遷や基礎知識、装置の原理・構造・保守管理について説明できる。                     | 講義・演習      | 右 田 |
| 7  | 7)          | 【内視鏡】内視鏡の歴史と概要、原理と構造・保守管理、内視鏡による診断と治療について説明できる。                                   | 講義・演習      | 右 田 |
| 8  | 8)          | 【内視鏡外科手術装置】内視鏡外科手術装置の機器の原理・構造・操作・保守管理、留意点について説明できる。                               | 講義・演習      | 右 田 |
| 9  | 9)          | 【超音波吸引装置】超音波の性質、発生法、医療への応用と超音波吸引装置の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。                        | 講義・演習      | 右 田 |
| 10 | 10)         | 【超音波凝固切開装置】超音波凝固切開装置の原理・構造・操作・保守管理、適応と対象疾患について説明できる。理解する。                         | 講義・演習      | 右 田 |
| 11 | 11)         | 【熱治療装置】冷凍手術の作用機序と治療の特徴、冷凍手術器の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。                              | 講義・演習      | 右 田 |
| 12 | 12)         | 【ハイパーサーミア】ハイパーサーミア(癌温熱療法)装置についての理工学的基礎と生物学的基礎について説明できる。                           | 講義・演習      | 右 田 |
| 13 | 13)         | 【結石砕石装置】体外衝撃波結石砕石術の原理・構造・操作・保守管理について説明できる。  | 講義・演習      | 右 田 |
| 14 | 14)         | 【輸液ポンプ】輸液ポンプの構成と分類、流量の制御方式、使用手順、原理・構造・操作・保守管理について説明できる。                           | 講義・演習      | 右 田 |
| 15 | 15)         | 【心血管系インターベンション・吸引器】心血管系インターベンションの目的と歴史・臨床及び使用機器と方法について理解する。また、吸引器の種類と目的について説明できる。 | 講義・演習      | 右 田 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 臨床工学講座 医用治療機器学 監修 日本臨床工学技士教育施設協議会 編集 篠原 一彦 医歯薬出版株式会社【978-4-263-73400-1】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 MEの基礎知識と安全管理 監修 (社)日本エム・イー学会 ME技術教育研究会 南江堂【4-524-22408-4】

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用治療機器学実習  |      |           | 授業コード  | 120124A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |      |           | ナンバリング | 24C212P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)、右田 平八<br>(保・工)・外部講師   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>医用治療機器学実習は、生体の治療を目的とした治療機器である除細動器・ペースメーカー・電気メス・IABP・輸液ポンプ・シリンジポンプ・急性血液浄化治療・心臓カテーテル治療等の構造・原理・保守管理を中心に実習を行う。</p> <p>医用治療機器全般の特徴を理解し、臨床実践業務に貢献できる臨床工学技士となるために、確かな医療機器の管理および保守技術を習得することを目的とする。また、医用治療機器による事故症例についてアクティブラーニング(AL)として、症例検討会によるプレゼンテーション発表を行う。</p> |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1) 医用治療機器の各種名称と役割を説明できる。</p> <p>2) 治療機器の作動原理と使用目的を説明できる。</p> <p>3) 取扱と注意点を理解し具体的に説明できる。</p> <p>4) 副作用を概説できる。</p> <p>5) 治療機器を確実に操作できる。</p>   |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | <p>医用治療機器管理および保守は、臨床工学技士の実践業務において欠かせない業務であるため、科目担当者の実践業務に基づいた実習を展開する。</p> <p>また、外部講師として、臨床現場の一線で活躍されている方を招聘する予定である。</p>  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | <p>各回の実習において復習レポートの提出および実習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。</p> <p>評価基準については、単位認定試験(40%)、小試験(20%)、レポート課題(40%)にて総合的評価を行う。</p>  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。</p> <p>実習日前までに実習内容の予習および実習後には復習を最低1時間は行うこと。</p> <p>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。</p>  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332   |      |           |        |            |              |           |

| 授業計画               |             |   |  |  |  |          |             |
|--------------------|-------------|---|--|--|--|----------|-------------|
| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容  |  |  |  | 授業<br>方法 | 担当          |
| 1                  | 1)          | 【全体説明会】<br>治療機器備品管理および事前学習・レポートの書き方を習得する。                                 |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 2                  | 2)~5)       | 【除細動器実習】<br>除細動器の実際と保守管理技術を習得する。  |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 3                  | 2)~5)       | 【ペースメーカー実習】<br>ペースメーカーの実際と保守管理技術を習得する。                                    |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 4                  | 2)~5)       | 【電気メス実習】<br>電気メスの実際と保守管理技術を習得する。  |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 5                  | 2)~5)       | 【IABP実習】<br>IABPの実際と保守管理技術を習得する。  |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 6                  | 2)~5)       | 【輸液ポンプ実習】<br>輸液ポンプの実際と保守管理技術を習得する。  |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 7                  | 2)~5)       | 【シリンジポンプ実習】<br>シリンジポンプの実際と保守管理技術を習得する。                                    |  |  |  | 実習       | 砂子澤・右田      |
| 8                  | 2)~5)       | 【急性血液浄化療法実習】<br>急性血液浄化療法の実際および患者管理技術を習得する。                                |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 9                  | 2)~5)       | 【低圧持続吸引器実習】<br>低圧持続吸引器の実際と保守管理技術を習得する。                                    |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 10                 | 2)~5)       | 【医用治療機器と保守管理実習】<br>臨床使用される医用治療機器と保守管理技術を習得する。                             |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 11                 | 2)~5)       | 【心臓カテーテル検査実習】<br>心臓カテーテル検査の実際技術を習得する。                                     |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 12                 | 2)~5)       | 【AED・除細動器実習】<br>AED・除細動器の実際技術を習得する。                                       |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 13                 | 2)~5)       | 【医用テレメータ・EMC実習】<br>医用テレメータ・EMCの実際技術を習得する。                                 |  |  |  | 実習       | 外部講師        |
| 14                 | 3)4)        | 【事故事例と症例検討会1】<br>医用治療機器による事故症例を挙げ、その問題点・対処法を自己で考え理解し、プレゼンテーションにて説明・発表できる。 |  |  |  | SGD      | 砂子澤・右田・外部講師 |
| 15                 | 3)4)        | 【事故事例と症例検討会2】<br>医用治療機器による事故症例を挙げ、その問題点・対処法を自己で考え理解し、プレゼンテーションにて説明・発表できる。 |  |  |  | SGD      | 砂子澤・右田・外部講師 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 臨床工学講座医用治療機器学(編集 篠原 一彦) 医歯薬出版【4-263-73400-1】<br>別途、実習書およびプリントを配布          |  |  |  |          |             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。  |  |  |  |          |             |

|                     |  |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|--|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学 I  |  |          | 授業コード  | 120666B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |  |          | ナンバリング | 24C211P08  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 丹下 佳洋(生・生)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 血液透析を主体とした血液浄化療法の、工学的な手技手法ならびに医学面での諸問題を講義する。血液透析とはどのようなものか、具体的にどのような方法で行い、治療を受ける患者はどのような状態になっているのかを習得する。臨床ビデオ、実際に使用する器具を用いた講義内容であり、将来臨床国学技士を目指す学生、医療系企業への就職を希望する学生双方に役立つ内容で構成し、血液透析全般について理解・説明ができる。                |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)血液透析の原理について説明できる。<br>2)工学的手法を用いた血液透析の原理について説明できる。<br>3)透析膜の特徴・溶質除去について説明できる。<br>4)血液透析の歴史について説明できる。<br>5)血液透析の手技について説明できる。<br>6)透析中のトラブルおよび合併症について説明できる。<br>7)透析液ライン(配管)の現状および細菌について説明できる。<br>8)血液浄化療法について説明できる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(丹下)は透析専門病院に6年間臨床工学技士として勤務、血液透析療法に求められる臨床工学技士業務を熟知している。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各回の授業で学習内容のレポートを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢を20%および期末試験の点数を80%として総合的に評価し単位認定を行う。詳細な評価基準は授業開始日に資料を配布し説明する。  |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の学習内容レポートを中心に予習・復習すること。SGDでは間違ってもよいので自分の考えを述べる技術を身に付けること。疑問があれば、SGD中にグループ単位での質問を推奨する。授業ノートとしてコーネルノートを積極的に活用する。予習時の不明点をノートに書きだし、授業で理解できるようノートの取り方を工夫すること。それでもわからない場合は作成したノートを持参し、質問すること。<br>提出物等は、提出期日を必ず厳守する。    |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜～金曜日 8:00～16:00(8号棟 2F 準備室)<br>(火曜日を除く)  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |  |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)   | 【血液透析とは】<br>1年次での病院見学を思い出すため、血液透析の実際についてビデオで確認を行う。透析の現況について説明できる。  |          |        |            | 講義SGD        | 丹下        |
| 2                   | 1)   | 【血液透析の物理学】<br>透析で行われている工学的現象について、理解する。総括物質移動係数、境界層など、高度な工学的知識説明できる。  |          |        |            | 講義演習         | 丹下        |
| 3                   | 1)2)3)   | 【透析膜と溶質透過性】<br>市販透析膜の特徴、型分類、溶質除去について説明できる。   |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 4                   | 1)4)   | 【血液透析の実際】<br>透析が現状に至った歴史も含めて、現在の透析方法について説明できる。   |          |        |            | 講義SGD        | 丹下        |
| 5                   | 1)3)5)   | 【血液透析手技】<br>透析準備、透析開始、透析中のトラブル、終了操作、後片付けといった一連の動作について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 6                   | 1)6)   | 【血液透析施行での諸問題】<br>透析中起こりうる不均衡症候群、クロッティング、リーク、エア混入などについて、その原因と対処法を説明できる。実践医療で不可欠な内容である。  |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 7                   | 7)   | 【透析液ライン管理方法】<br>臨床工学技士業務の中心となるライン管理について説明できる。細菌繁殖、洗浄方法、分析方法の具体的方法を説明できる。   |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 8                   | 1)2)   | 【腹膜透析法と合併症】<br>血液透析以外の慢性腎不全対策として、腹膜透析療法がある。この回では腹膜透析の方法、実際の操作について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 9                   | 6)   | 【臨床上の諸問題-長期透析患者】<br>日本の透析レベルは世界最高であり、長期透析患者が多い。しかし、骨障害など多くの合併症を抱えることがあるため、その原因と対策について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 10                  | 6)   | 【臨床上の諸問題-高齢者・DM】<br>1年次に学習した患者心理ビデオを元に、高齢透析患者や糖尿病性腎症患者への接し方、患者の心理、医療者としての心構えを説明できる。  |          |        |            | 講義SGD        | 丹下        |
| 11                  | 8)   | 【臨床検査データ】<br>透析患者の臨床データについて学び、患者指導における注意点を説明できる。   |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 12                  | 2)3)   | 【プールモデル】<br>生体内をプールに見立てたプールモデルは、薬剤投与でよく用いられるが、血液透析でもプールモデルを用いて体内溶質挙動を推測することが可能である。とくに、透析指標としてのKt/Vはプールモデルが元となっており、工学的な意味を学習することは重要であり、工学者としての知識を説明できる。 |          |        |            | 講義演習         | 丹下        |
| 13                  | 8)   | 【血液浄化療法(血漿交換・吸着)-1】<br>他の血液浄化療法として行われている血漿交換、免疫吸着について学習する。   |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 14                  | 8)   | 【血液浄化療法(血漿交換・吸着)-2】<br>13回同様、他の血液浄化療法として行われている血漿交換、免疫吸着について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 丹下        |
| 15                  | 8)   | 【将来の血液浄化療法】<br>患者サイドにたつて、これからの血液透析はどうあるべきかを考える。単に一般的知識を述べるのではなく、自らの考えを披露して明日を担う臨床工学者としての意見を説明できる。  |          |        |            | SGD          | 丹下        |



|                    |   |
|--------------------|---|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法 (編集 竹澤真吾・出淵靖志・小久保謙一)第2版 医歯薬出版 【978-4-263-73421-6】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。  |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学Ⅱ  |  |          | 授業コード  | 120667B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |  |          | ナンバリング | 24C311P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)  | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | <p>生体機能代行装置学Ⅱでは、体外循環装置の原理・構造・操作法・患者管理・保守管理および補助循環・人工心臓等、体外循環の最新の進歩と派生する諸問題について講義を行う。</p> <p>体外循環装置を理解し、臨床実践業務に応用できる臨床工学技士となるために、その目的、装置の各種デバイス、臨床的意義(体外循環パラメータ)、操作法、管理技術法について説明できることを目的とする。</p> |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <p>1)人工心肺装置の背景と装置の変遷を説明できる。</p> <p>2)作動原理と制御装置について説明できる。</p> <p>3)各種デバイスについて説明できる。</p> <p>4)体外循環パラメータについて理解し、適切に評価できる。</p> <p>5)使用薬剤の目的と作用について概説できる。</p>  |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実施予定なし。   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | <p>各回の講義において復習レポートの提出および学習内容の確認テスト(小試験)を行い、その学習成果を受講生にフィードバックする。</p> <p>評価基準については、単位認定試験(60%)、小試験(20%)、レポート課題(20%)にて総合的評価を行う。</p>   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | <p>提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。</p> <p>授業日前までに授業内容の予習および授業後には復習を最低1時間は行うこと。</p> <p>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。</p>   |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332  |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容  |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 【体外循環技術概論】<br>体外循環の歴史・心臓生理・解剖について説明できる。                    |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 2                   | 2)3)  | 【体外循環装置の基本構成】<br>体外循環装置の回路構成について説明できる。                     |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 3                   | 2)3)  | 【血液ポンプ】<br>ローラポンプ・遠心ポンプ等の特性について説明できる。                      |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 4                   | 2)3)  | 【人工肺】<br>人工肺の種類・構造等、特性について説明できる。                           |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 5                   | 2)~4)   | 【体外循環の病態生理1】<br>体外循環中の適正灌流量・灌流圧・静脈血酸素飽和度・各臓器への影響について説明できる。 |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 6                   | 2)~4)   | 【体外循環の病態生理2】<br>血液希釈・低体温による影響および血液に及ぼす影響について説明できる。         |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 7                   | 2)~4)   | 【体外循環の病態生理3】<br>体外循環中のモニタリング項目(動脈圧・中心静脈圧・体温等)について説明できる。    |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 8                   | 2)~5)   | 【体外循環操作技術1】<br>体外循環充填液および抗凝固剤・中和剤・取扱について説明できる。             |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 9                   | 2)~5)   | 【体外循環操作技術2】<br>充填薬液予定表の作成について説明できる。                        |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 10                  | 2)~5)   | 【体外循環操作技術3】<br>心筋保護法と心筋保護装置について説明できる。                      |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 11                  | 2)~5)   | 【体外循環操作技術4】<br>体外循環の脱血・送血法および体外循環装置の操作法・離脱法について説明できる。      |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 12                  | 2)~5)   | 【体外循環における事故と安全対策】<br>体外循環の安全管理とトラブルシューティングについて説明できる。       |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 13                  | 2)~5)   | 【体外循環装置の保守管理】<br>体外循環装置の保守管理について説明できる。                     |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 14                  | 2)~5)   | 【補助循環と人工心臓】<br>IABP・PCPS・VAD等について説明できる。                    |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 15                  | 1)~5)   | 【体外循環をめぐる諸問題】<br>体外循環の最新の進歩と派生する諸問題について説明できる。              |          |        |            | 講義           | 砂子澤       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 体外循環装置(見目 恭一・福長 一義 編著) 医歯薬出版 【4-263-73411-7】<br>最新 人工心肺 理論と実際 第5版(上田 裕一・碓氷 章彦 編) 名古屋大学出版会 【4-8158-0864-8】  |  |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |  |          |        |            |              |           |

|                     |  |   |          |            |              |           |             |
|---------------------|--|---|----------|------------|--------------|-----------|-------------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学Ⅲ   |   | 授業コード    | 120668B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |             |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |   | ナンバリング   | 24C311P07  | AL科目         | ○         |             |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)   | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態      | 講義<br>S G D |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 人工呼吸療法や酸素療法を学ぶうえで、呼吸器の解剖、生理の理解は欠かせない。そこで呼吸器の解剖、生理を基盤として、人工呼吸療法や酸素療法の原理、ならびにそれらの有用性と適応疾患に関する知識を深める。また、人工呼吸療法や酸素療法で使用する装置とともに、呼吸管理を行う上で重要な監視装置(モニタ)の原理、構造について修得する。   |   |          |            |              |           |             |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸器の正常な解剖、組織を説明できる。</li> <li>2) 呼吸器の生理(換気、ガス交換)の概要を説明できる。</li> <li>3) 血液によるガスの運搬と細胞が行う内呼吸について説明できる。</li> <li>4) 機器管理の具体的管理方法を説明できる。</li> <li>5) 血液ガス、酸塩基平衡について説明できる。</li> <li>6) 睡眠時無呼吸症候群の治療と使用する各種装置の原理、構造について説明できる。</li> <li>7) 人工呼吸療法や酸素療法が必要となる代表的な疾患を列挙し、その概要について説明できる。</li> <li>8) 気道クリアランスの評価方法を列挙し、それぞれの特性について説明できる。</li> <li>9) 人工呼吸中の吸湿療法(加温・加湿)の重要性と吸入療法について説明できる。</li> <li>10) 人工呼吸器の警報(アラーム)を列挙し、その意義について説明できる。</li> <li>11) 酸素吸入療法や高気圧酸素療法について説明できる。</li> </ol> |   |          |            |              |           |             |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 人工呼吸器が救急医療において必要不可欠であり、授業においても臨床現場での経験スキルが重要である。担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務しており、実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。  |   |          |            |              |           |             |
| 評価方法                | 学習内容の確認テストを行い、学習成果をフィードバックする。おもに定期試験の成績で評価するが、受講姿勢(確認テストやレポートの提出遵守、質問・発言など授業への参加)なども加味する。  |   |          |            |              |           |             |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 受講にあたり、すでに履修済みの解剖学、生理学を復習しておくこと。<br>また、1コマあたり4時間を目安に予習・復習を行うこと。  |   |          |            |              |           |             |
| オフィスアワー             | 月曜から金曜日の 12:30~13:00 その他、1号棟 B340 在空中は何時でも対応します。または講義前後の可能な時間  |   |          |            |              |           |             |
| 授業計画                |  |   |          |            |              |           |             |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容   |          |            | 授業<br>方法     | 担当        |             |
| 1                   | 1)   | 【呼吸器の基礎】呼吸器の基礎を理解し、呼吸器の正常な解剖、組織を説明できる。  |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 2                   | 2)   | 【呼吸器の生理】換気のみかメカニズムと肺気量分画を理解し、呼吸器の生理(換気、ガス交換)の概要を説明できる。                        |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 3                   | 2)   | 【人工呼吸器の原理】人工呼吸器の基本原則を理解し、適正な生体への圧力、ガス流量、換気量を説明できる。                            |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 4                   | 3)   | 【人工呼吸器の種類】人工呼吸器の様式を理解し、陰圧式、陽圧式、高頻度換気方式を説明できる。                                 |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 5                   | 4)5)6)   | 【人工呼吸器の基本構造】陽圧式人工呼吸器のシステムを理解し、利点、欠点を説明できる。                                    |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 6                   | 5)   | 【呼吸機能評価】血液ガス(ABG)と酸塩基平衡について理解し、ABG から呼吸機能評価ができる。                              |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 7                   | 6)10)  | 【人工呼吸器の警報】人工呼吸器のアラームを理解し、適切な警報設定ができる。   |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 8                   | 6)   | 【加温・加湿器と人工鼻】人工呼吸中の加温加湿の必要性を理解し、適切なデバイスを用いた加温加湿の方法を説明できる。                      |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 9                   | 4)7)   | 【在宅酸素療法と在宅人工呼吸療法】慢性呼吸不全患者に対する呼吸療法を理解し、HOT の患者病態と酸素療法、および ALS に対する HVT を説明できる。 |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 10                  | 6)   | 【睡眠時無呼吸症候群(SAS)の治療】SAS の病態を理解し、PSG 検査と重症度評価、および CPAP 療法を説明できる。                |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 11                  | 8)   | 【気道クリアランス】肺内パーカッション療法、機械的排痰補助、bi-PAP について理解し、気道クリアランスについて説明できる。               |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 12                  | 4)   | 【人工呼吸器保守管理の基本】ME 中央管理の利点と人工呼吸器の保守点検方法を説明できる。                                  |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 13                  | 6)9)10)  | 【高気圧酸素治療】高気圧酸素治療の概要を理解し、高気圧環境下の酸素拡散能と溶解型酸素について説明できる。                          |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 14                  | 4)11)  | 【高気圧酸素治療装置】高気圧酸素治療装置の第 1 種、第 2 種装置の相違を理解し、患者管理とオペレーションについて説明できる。              |          |            | 講義           | 右田        |             |
| 15                  | 1)~<br>11)   | 【総括】人工呼吸器と各種のデバイスの pros and cons を小グループでまとめ、プレゼン形式で発表できる。                     |          |            | 講義<br>S G D  | 右田        |             |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 生体機能代行装置学 呼吸療法装置(日本臨床工学技士教育施設協議会 監修、廣瀬 稔・生駒 俊和 編集) 医歯薬出版<br>【978-4-263-73410-0】<br>* 講義の際にプリントも配布する。  |   |          |            |              |           |             |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。   |   |          |            |              |           |             |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学演習 I  |      |           | 授業コード  | 120669A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)  |      |           | ナンバリング | 24C212P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 丹下 佳洋(生・生)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生体機能代行装置学演習 I では、臨床工学技士業務の一つである血液浄化療法を中心に、講義、演習を行う。血液浄化療法における基礎医学、臨床医学、医療機器、患者管理等を含めた医学的、工学的諸問題について理解し説明できる。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 血液浄化療法の臨床的意義について説明できる。<br>2) 血液浄化療法の種類・原理・構造について説明できる。<br>3) 血液浄化療法の特性について説明できる。<br>4) 血液浄化療法装置の具体的な操作技術・取扱・注意点について説明できる。<br>5) 透析液清浄化対策を含めた水処理システムについて説明できる。<br>6) 血液浄化療法の患者監視システムについて説明できる。<br>7) 血液浄化療法の事故事例を列挙し、具体的な安全対策・対処法について説明できる。<br>8) 急性血液浄化療法の特性を説明できる。<br>9) 血液浄化療法患者の検査データを読解することができる。<br>10) 血液浄化療法装置の安全管理・保守管理することができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者(丹下)は透析専門病院に6年間臨床工学技士として勤務、血液透析療法に求められる臨床工学技士業務を熟知している。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各回の授業で学習内容のレポートを行い、学習成果をフィードバックする。学習への取り組み姿勢を20%および期末試験の点数を80%として総合的に評価し単位認定を行う。詳細な評価基準は授業開始日に資料を配布し説明する。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各回の学習内容レポートを中心に予習・復習すること。これにより学習成果をフィードバックする。授業ノートとしてコーネルノートを積極的に活用する。予習時の不明点をノートに書きだし、授業で理解できるようノートの取り方を工夫すること。それでもわからない場合は作成したノートを持参し、質問すること。提出物等は、提出期日を必ず厳守する。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜～金曜日 8:00～16:00(8号棟 2F 準備室)<br>(火曜日を除く)  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授業<br>方法 | 担当  |
|----|-------------|---|----------|-----|
| 1  | 1)          | 【血液浄化療法概論】<br>血液浄化療法の歴史・生体腎と人工腎の相違・臨床的意義について説明できる。                      | 講義・演習    | 丹 下 |
| 2  | 1)          | 【血液浄化療法における代謝系の病態生理】<br>腎・泌尿器系の解剖生理および病態生理等について説明できる。                   | 講義・演習    | 丹 下 |
| 3  | 2)3)4)      | 【血液浄化療法における物理】<br>血液浄化療法における流体力学と物質輸送論について説明できる。                        | 講義・演習    | 丹 下 |
| 4  | 2)3)4)      | 【血液透析の原理と構成 1】<br>血液浄化療法の種類・原理・構造について説明できる。                             | 講義・演習    | 丹 下 |
| 5  | 2)3)4)      | 【血液透析の原理と構成 2】<br>血液透析膜の性能評価・構造および透析液・抗凝固薬・シャント等について説明できる。              | 講義・演習    | 丹 下 |
| 6  | 2)3)4)      | 【血液浄化技術 1】<br>血液浄化療法の治療モードについて説明できる。                                    | 講義・演習    | 丹 下 |
| 7  | 2)3)4)      | 【血液浄化技術 2】<br>腹膜透析(メリット、デメリット、日本の現況)について説明できる。                          | 講義・演習    | 丹 下 |
| 8  | 5)          | 【水処理装置】<br>水処理装置・透析液供給装置・透析用監視装置・透析液清浄化対策について説明できる。                     | 講義・演習    | 丹 下 |
| 9  | 6)7)        | 【血液浄化療法における患者管理】<br>血液透析中の患者管理・チェック項目および食事療法について説明できる。                  | 講義・演習    | 丹 下 |
| 10 | 6)7)        | 【血液浄化療法における事故事例と安全対策 1】<br>血液浄化療法における事故事例と安全対策について説明できる。                | 講義・演習    | 丹 下 |
| 11 | 6)7)        | 【血液浄化療法における感染症と合併症対策 2】<br>血液浄化療法における感染症と長期透析患者の合併症対策について説明できる。         | 講義・演習    | 丹 下 |
| 12 | 8)          | 【急性血液浄化療法技術】<br>CHD・CHF・CHDF等の急性血液浄化療法技術について説明できる。                      | 講義・演習    | 丹 下 |
| 13 | 8)          | 【アフエーシス療法】<br>血漿交換・吸着療法等について説明できる。                                      | 講義・演習    | 丹 下 |
| 14 | 9)          | 【臨床検査データ読解】<br>血液浄化療法患者の臨床検査データ読解について説明できる。                             | 講義・演習    | 丹 下 |
| 15 | 10)         | 【血液浄化療法における安全管理・保守点検技術】<br>血液浄化装置の始業・使用中・終業・定期点検等の保守点検・安全管理技術について説明できる。 | 講義・演習    | 丹 下 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 血液浄化療法ハンドブック 2019 (透析療法合同専門委員会 編) 協同医書出版社 【978-4763950260】

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学演習Ⅱ  |      |          | 授業コード  | 120670A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |          | ナンバリング | 24C312P05  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)  | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 本講義は生体機能代行装置学で学習する人工心肺装置、補助循環装置が生命維持管理装置の主たる装置であることから、臨床工学技士が主業務として行う生命維持管理装置の操作および保守点検の実施能力育成を目的とする。生体機能代行装置を理解するためには、代行する臓器の機能、能力を知ることが重要であるが患者の評価・管理についても理解しておく必要がある。救急救命・集中治療領域に関わる生体機能代行装置の演習を行い、生体臓器の機能代行装置を具体的に習得する。 |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人工心肺装置の背景と装置の変遷を説明できる。<br>2)作動原理と制御装置について説明できる。<br>3)各種デバイスについて説明できる。<br>4)パラメータについて理解し、適切に評価できる。<br>5)使用薬剤の目的と作用について概説できる。   |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 人工心肺装置、補助循環装置等はその特殊性から臨床現場での経験スキルが重要である。担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務しており、実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。   |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 筆記試験、レポート課題、口頭試問、演習に臨む姿勢や積極性などを総合的に評価する。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業毎の予習・復習は90分を目安に行うこと。<br>提出物等は、提出期限を必ず厳守すること。  |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜から金曜日の12:30~13:00 その他、1号棟B340 在室中は何時でも対応します。  |      |          |        |            |              |           |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No.  | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |  |  |  |
|--------------------|--------------|--|----------|----|--|--|--|
| 1                  | 1)           | 【体外循環ガイダンス】体外循環概要と医療事故の背景を理解し、臨床工学技士の業務を説明できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 2                  | 2)3)         | 【体外循環の基礎】人工心肺装置の原理と装置構成を解説できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 3                  | 2)3)         | 【人工心肺システムの概要】人工心肺装置のシステムと保守管理について説明できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 4                  | 2)3)         | 【人工心肺での生体反応】血管抵抗の変化、酸素消費量、異物との接触反応について説明できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 5                  | 2)3)4)       | 【患者情報の見方】患者情報の入手と還流量の決定、充填液充填、ポンプオクリュージョン調整法を解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 6                  | 2)3)4)       | 【人工心肺装置関連の保守管理】各装置の定期点検と保守点検の具体的内容を解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 7                  | 2)3)4)       | 【補助循環装置演習】大動脈バルーンポンプ、経皮的心肺補助法の原理と構成を解説できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 8                  | 2)3)4)<br>5) | 【血液ガス分析】ABG分析によるpH、PaCO <sub>2</sub> 、HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 、PaO <sub>2</sub> 、BEの値から患者評価法を解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 9                  | 2)3)4)<br>5) | 【バイタルサインおよび循環動態の評価】人工心肺装置が血圧、脈拍、呼吸、体温に及ぼす影響を解説できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 10                 | 2)3)4)<br>5) | 【各種構成要素の機能と特徴】血液ポンプ、安全監視機器、人工肺、ベントポンプ、各種フィルタをDVDを見て解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 11                 | 2)3)4)<br>5) | 【体外循環とモニター】人工心肺側モニター、強制脱血と陰圧モニター、生体側モニターを評価できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 12                 | 2)3)4)<br>5) | 【低体温体外循環法】単純低体温法と生体の変化、超低体温の病態生理説明できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 13                 | 2)3)4)<br>5) | 【心筋保護法と注入回路】低温化学的心筋保護法と化学的心停止、付加的保護をDVD等を見て解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 14                 | 2)3)4)<br>5) | 【胸部大動脈手術の体外循環】体外循環を必要とする胸部大動脈疾患をDVD等を見て解説できる。  | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 15                 | 1)~5)        | 【体外循環の合併症と対策】空気塞栓、微少塞栓、肺合併症、腎合併症、人工心肺装置の故障と対応を説明できる。   | 演習       | 右田 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |              | 臨床工学講座 体外循環装置 (見目恭一・福長一義 編著) 医歯薬出版 【4-263-73411-7】<br>最新 人工心肺 理論と実際 第4版 (上田 裕一 編) 名古屋大学出版会 【4-8158-0861-1】 |          |    |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |              | 使用しない。   |          |    |  |  |  |

|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学演習Ⅲ  |   |           | 授業コード  | 120671A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |   |           | ナンバリング | 24C312P06  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)、外部講師   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 演 習       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 慢性期・急性期に発症する呼吸不全や重篤な低酸素症に対して用いられる酸素療法と人工呼吸器の原理や構成、それらの機能について習得するとともに非侵襲的な換気様式と高気圧酸素下で行われる特殊な酸素療法である高気圧酸素治療について解説する。人工呼吸器は一定期間、連続使用される生命維持管理装置であり保守点検及び安全使用のための精度管理を必要とする特定保守管理医療機器であることから保守管理項目や実施方法について習得する。 |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人工呼吸器の歴史的背景と装置の変遷を説明できる。<br>2)自発呼吸と人工呼吸の違いを説明できる。<br>3)各種換気様式の相違点を説明できる。<br>4)特殊な換気モードの目的と効果を説明できる。<br>5)付属機器の使用目的を説明できる。<br>6)装置操作および保守が実際に行える。<br>7)患者の評価が適切に行える。<br>8)各種トラブルシューティングに対応できる。               |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 月曜から金曜日の 12:30~13:00 その他、1号棟 B340 在空中は何時でも対応し、外部講師は講義前後の可能な時間で対応します。  |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 筆記試験、レポート課題、口頭試問、演習に臨む姿勢や積極性などを総合的に評価する。  |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業に際しては、シラバスを確認して90分を目安に予習・復習を行うこと。<br>提出物等は、提出期限を必ず厳守すること。   |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 18:00~19:00   |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 【人工呼吸管理の進歩】<br>自発呼吸と機械換気の相違と生体に及ぼす影響を説明できる。                             |           |        |            | 演 習          | 右 田       |
| 2                   | 2)3)  | 【低酸素血症と酸素療法】<br>低酸素血症の病態と酸素療法のデバイスを説明できる。                               |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 3                   | 2)3)  | 【気管内挿管と気道管理】<br>気管挿管チューブの影響と管理、気道の管理方法を説明できる。                           |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 4                   | 2)3)4)  | 【人工呼吸中のモニタⅠ】<br>人工呼吸中に使用される酸素化モニタの種類と原理、その使用方法を説明できる。                   |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 5                   | 2)3)4)  | 【人工呼吸中のモニタⅡ】<br>人工呼吸中に使用される換気モニタと循環動態のモニタリングを説明できる。                     |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 6                   | 3)4)5)<br>6)  | 【非侵襲的陽圧換気法】<br>無呼吸・低呼吸症候群に用いられる連続気道内陽圧換気法を説明できる。                        |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 7                   | 6)7)8)  | 【人工呼吸器の換気モードⅠ】<br>従量換気(VCV)と従圧換気(PCV)を相違と利点を説明できる。                      |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 8                   | 5)6)7)<br>8)  | 【人工呼吸器の換気モードⅡ】<br>自発呼吸補助モードとPAV(Proportional Assist Ventilation)を説明できる。 |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 9                   | 6)7)8)  | 【人工呼吸中のモニタⅢ】<br>人工呼吸器の呼吸パターンと描出されるグラフィックモニタをマスターする。                     |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 10                  | 6)7)8)  | 【高気圧酸素治療Ⅰ】<br>高気圧酸素環境下での生体反応と安全管理を説明できる。                                |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 11                  | 6)7)8)  | 【高気圧酸素治療Ⅱ】<br>高気圧酸素治療で使用される医療機器と留意点を説明できる。                              |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 12                  | 4)~8)   | 【ARDSの病態と肺保護換気】<br>急性呼吸促進症候群の病態と肺保護換気の方法を説明できる。                         |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 13                  | 4)~8)   | 【人工呼吸器関連の感染対策】<br>人工呼吸器由来の感染および対策を説明できる。                                |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 14                  | 4)6)7)  | 【呼吸不全の呼吸管理方法】<br>呼吸不全の管理と急性増悪時の治療を説明できる。                                |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 15                  | 5)6)  | 【人工呼吸器と関連機器の保守管理】<br>人工呼吸器の保守点検(日常・定期点検)の点検項目を作成する。                     |           |        |            | 演 習          | 外部講師・右田   |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 使用しない。  |           |        |            |              |           |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学演習Ⅳ   |      |           | 授業コード  | 120672A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)  |      |           | ナンバリング | 24C412P01  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、近藤 照義<br>(保・工)、渡辺 渡(保・工)、右田<br>平八(保・工)、砂子澤 裕(保・<br>工)、丹下 佳洋(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・演習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 国家試験合格を目指して、国家試験過去問を中心に解説講義・演習を行い、国家試験対策を実施する。過去問を対象に各自の不得意内容を把握、弱点克服による国家試験全員合格(100%達成)を目指す。また、臨床工学技士全国統一模擬試験(日本臨床工学技士教育施設協議会主催)を3回実施し、達成率を把握、自己弱点克服による合格安全圏を目指す。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 国家試験合格を目指し、過去問の出題傾向を分析できる。<br>2) 国家試験合格を目指し、過去問の出題傾向についてキーワードを抽出できる。<br>3) 国家試験合格を目指し、不得意内容を把握し弱点克服できる。<br>4) 国家試験合格を目指し、国試対策ノートを作成することができる。<br>5) 臨床工学技士全国統一模擬試験にて70%以上取得することができる。<br>6) 臨床工学技士国家試験受験判定試験で70%以上取得することができる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 臨床工学技士全国統一模擬試験(3回)および臨床工学技士国家試験受験判定試験結果で臨床工学科専門科目担当教員全員により評価する。各回の結果は直ちにフィードバックを行い、不得手箇所の克服に向けた指導を行う。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎回模擬試験を行うので、実力がある程度達しているもの以外の受講は不可能である。学習度によって担当教員が適時入れ替わる。また、正当な理由なく欠席することは原則認めない。毎日3時間以上は予習復習を行うこと。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月~金 12:15-13:00  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授 業<br>方 法 | 担 当 |  |  |
|--------------------|-------------|---|------------|-----|--|--|
| 1                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習1】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 2                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習2】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 3                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習3】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 4                  | 1)~6)       | 【臨床工学技士全国統一模擬試験1】<br>全国統一模擬試験第1回目を行い、理解度を把握する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 5                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習4】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 6                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習5】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 7                  | 1)~6)       | 【臨床工学技士全国統一模擬試験2】<br>全国統一模擬試験第2回目を行い、理解度を把握する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 8                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習6】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 9                  | 1)~6)       | 【国家試験対策演習7】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 10                 | 1)~6)       | 【臨床工学技士全国統一模擬試験3】<br>全国統一模擬試験第3回目を行い、理解度を把握する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 11                 | 1)~6)       | 【国家試験対策演習8】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 12                 | 1)~6)       | 【国家試験対策演習9】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 13                 | 1)~6)       | 【国家試験対策演習10】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。 | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 14                 | 1)~6)       | 【国家試験対策演習11】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。 | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 15                 | 1)~6)       | 【国家試験対策演習12】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。 | 講義・演習      | 全 員 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。  |            |     |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。  |            |     |  |  |

|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学実習 I   |   |           | 授業コード  | 120673A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |   |           | ナンバリング | 24C212P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)、丹下 佳洋<br>(保・工)   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 生体機能代行装置学実習 I では、臨床工学技士業務である血液浄化技術について、その原理・構造および具体的な操作技術・取扱・注意点について実習を行う。<br>血液透析技術全般を理解し、臨床実践業務に貢献できる臨床工学技士となるために、水溶液系で実際の透析を行い、確かな血液浄化療法技術を習得することを目的とする。   |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)血液浄化療法の特性について説明できる。<br>2)血液浄化療法の治療原理・構造について説明できる。<br>3)血液浄化療法装置の具体的な操作技術・取扱・注意点について説明できる。<br>4)各実習テーマについて理解し、その臨床的意義について説明できる。<br>5)各実習テーマより得られた結果に対し、自己で考察し適切に報告できる。<br>6)血液浄化回路を適切に取扱いかつ確実にプライミング技術を習得できる。<br>7)血液浄化療法装置の安全管理・保守管理することができる。 |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 血液浄化領域は、臨床工学技士の実践現場において欠かせない業務であるため、科目担当者の実践業務に基づいた実習を展開する。   |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各回の実習で事前学習レポート(実習前レポート)および復習レポートを提出し、その学習成果を受講生にフィードバックする。<br>評価基準については、レポート課題(30%)、単位認定試験(30%)、実技試験(30%)、口頭試問(10%)により総合的評価を行う。   |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 提出物等は、提出期日を必ず厳守すること。<br>実習日前までに実習内容の予習および実習後には復習を最低1時間は行うこと。<br>また正当な理由がない限り、無断欠席・遅刻は原則認めない。  |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332  |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容  |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)2)  | 【オリエンテーション】<br>実習を行う上での注意事項の説明を受け、実習方法、透析準備方法(プライミング)、透析装置の使用法を習得できる。その後各自の血液回路、ダイアライザーを用いてプライミングの練習を実施できる。 |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 2                   | 1)2)  | 【班ごとの透析実験練習】<br>班に分かれて透析実験の練習を実施できる。  |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 3                   | 3)4)5)  | 【班ごとの透析実験-1】<br>班に分かれて透析実験を実施し、5テーマを順番に行い全員が全てのテーマについて内容を把握できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 4                   | 3)4)5)  | 【班ごとの透析実験-2】<br>班に分かれて透析実験を実施し、5テーマを順番に行い全員が全てのテーマについて内容を把握できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 5                   | 3)4)5)  | 【班ごとの透析実験-3】<br>班に分かれて透析実験を実施し、5テーマを順番に行い全員が全てのテーマについて内容を把握できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 6                   | 3)4)5)  | 【班ごとの透析実験-4】<br>班に分かれて透析実験を実施し、5テーマを順番に行い全員が全てのテーマについて内容を把握できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 7                   | 3)4)5)  | 【班ごとの透析実験-5】<br>班に分かれて透析実験を実施し、5テーマを順番に行い全員が全てのテーマについて内容を把握できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 8                   | 3)4)5)  | 【再透析実験1】<br>実験に失敗した内容を再度行い、確実に原理などを習得できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 9                   | 3)4)5)  | 【再透析実験2】<br>実験に失敗した内容を再度行い、確実に原理などを習得できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 10                  | 6)7)  | 【プライミング練習-1】<br>実技試験の対象となるプライミング方法を習得できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 11                  | 6)7)  | 【プライミング練習-2】<br>実技試験の対象となるプライミング方法を習得できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 12                  | 6)7)  | 【プライミング練習-3】<br>実技試験の対象となるプライミング方法を習得できる。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 13                  | 6)7)  | 【プライミング実技評価-1】<br>プライミング技術が十分身についたかどうかを確認するため、実技評価を受ける。   |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 14                  | 6)7)  | 【プライミング実技評価-2】<br>1回目の評価で不十分な点があった場合には、2回目の評価を受ける。  |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 15                  | 6)7)  | 【プライミング実技評価-3】<br>2回目の評価で不十分な点があった場合には、3回目の評価を受ける。  |           |        |            | 実習           | 砂子澤・丹下    |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置(編集 竹澤 真吾・出淵 靖志) 医歯薬出版【4-263-73408-7】<br>血液浄化療法ハンドブック2019(透析療法合同専門委員会 編) 協同医書出版社【4-7639-5026-0】<br>別途、実習書およびプリントを配布  |   |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |   |           |        |            |              |           |



|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学実習Ⅱ  |      |           | 授業コード  | 120674A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 24C312P07  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)、砂子澤 裕<br>(保・工)、外部講師  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 体外循環技術は習得困難な特殊な領域から、現在では救命救急・集中治療領域で日常的に行われる手技の1つとして普及している。臨床工学技士が習得しておくべき臨床技術として人工心肺装置をはじめとする装置を実際に作動させる。本実習では臨床で実際に使用されている体外循環装置の操作、保守点検を実践的に学習することで確実な操作技術を習得する。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)体外循環の実際をイメージできる。<br>2)人工心肺のオペレーションを実技できる。<br>3)パラメータについて理解し、適切に評価できる。<br>4)臨床工学技士の法的責任を説明できる。   |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員および外部講師は病院で臨床工学技士として永年勤務し、臨床業務経験が豊富で実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 筆記試験、レポート課題、口頭試問、実習に臨む姿勢や積極性などを総合的に評価する。<br>外部講師とのコミュニケーション能力を評価する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 人工心肺装置に関連する機器操作が的確に行えること。<br>シラバスを確認し、予習・復習は90分を目安に行うこと。<br>無断遅刻・欠席は認めない。<br>白衣等を着用し、身なりを清潔に保ち身だしなみを整えること。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜から金曜日の12:30~13:00 その他、1号棟B340在室中は何時でも対応し、外部講師は講義前後の可能な時間で対応します。   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当       |  |  |  |
|--------------------|-------------|--|----------|----------|--|--|--|
| 1                  | 1)          | 【体外循環の実際】<br>体外循環実習における事前学習のポイントと実習での留意事項、計測装置の種類と特徴、レポートの書き方を解説できる。                                     | 実習       | 右田・砂子澤   |  |  |  |
| 2                  | 2)          | 【人工心肺装置実習】<br>人工心肺装置の原理と構成を理解し、操作、保守管理技術を実施できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 3                  | 2)3)        | 【人工心肺システムの実際】<br>人工心肺装置の主回路、副回路、心筋保護液供給回路等を理解し、操作、保守管理が実施できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 4                  | 2)3)        | 【人工心肺中の病態実習】<br>人工心肺による生体反応での病態生理を理解し、至適還流量の実際と管理技術を手技できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 5                  | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅰ】<br>人工心肺回路、ポンプチューブおよび回路接続チューブ、貯血槽、人工心肺中の血液浄化技術を手技できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 6                  | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅱ】<br>人工心肺側モニター、生体側モニター、連続心拍出量、混合静脈血酸素飽和度測定技術を手技できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 7                  | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅲ】<br>生体の酸素需要と灌流量、灌流量と臓器循環、血液希釈/低体温と灌流量、血液希釈技術を手技できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 8                  | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅳ】<br>低温化学的心筋保護法、心筋保護液の注入方法、大動脈遮断解除後の処置技術を手技できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 9                  | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅴ】<br>新生児・乳児期開心術時の心筋保護、新生児・乳児期早期の心筋保護法技術を説明できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 10                 | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅵ】<br>体外循環開始から完全灌流中の循環管理、大動脈遮断解除を説明できる。  | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 11                 | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅶ】<br>体外循環を必要とする胸部大動脈疾患の上行大動脈置換術、弓部置換術、下行大動脈置換術を説明できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 12                 | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅷ】<br>大動脈内バルーンパンピング(IABP)の原理と血行動態の効果、適応と禁忌、IABP挿入患者の管理技術を説明できる。                                | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 13                 | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅸ】<br>体外設置型補助人工心臓、埋め込み型補助人工心臓、補助人工心臓の適応・装着・離脱技術を説明できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 14                 | 2)3)        | 【オペレーション実習Ⅹ】<br>体外循環に際しての血液節減と自己血輸血、人工心肺の無血充填技術を手技できる。   | 実習       | 外部講師     |  |  |  |
| 15                 | 4)          | 【人工心肺の特徴と臨床工学技士業務の責任】<br>人工心肺の特徴を理解し、関連医療法の法的解釈と業務責任を解説できる。  | 実習       | 砂子澤・外部講師 |  |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 臨床工学講座 体外循環装置(見目恭一・福長一義 編著) 医歯薬出版 【4-263-73411-7】<br>最新 人工心肺 理論と実際 第4版(上田 裕一 編) 名古屋大学出版会 【4-8158-0861-1】 |          |          |  |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |          |          |  |  |  |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 生体機能代行装置学実習Ⅲ  |      |           | 授業コード  | 120675A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 24C312P08  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 右田 平八(保・工)、外部講師   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 人工呼吸器の使用は重篤な換気障害を呈する呼吸不全患者、全身麻酔の手術や術後における場合など多岐に亘るが患者の状態によって適切な機器選定や設定をリアルタイム行わなければならない。本実習では呼吸不全における人工呼吸器の各種設定と患者呼吸評価法について習得することを目的とする。また医療法改正により臨床工学技士の人工呼吸器使用時の喀痰等の吸引操作が可能となったので呼吸理学療法の手技と併せて実践的に習得する。 |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)人工呼吸器の歴史的背景と装置の変遷を理解する。<br>2)自発呼吸と人工呼吸の違いを理解する。<br>3)各種換気様式を理解する。<br>4)特殊な換気モードを理解する。<br>5)付属機器の使用目的を理解する。<br>6)装置操作および保守が実際に行える。<br>7)患者の評価が適切に行える。<br>8)各種トラブルシューティングに対応できる。                          |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 月曜から金曜日の 12:30~13:00 その他、1号棟 B340 在空中は何時でも対応し、外部講師は講義前後の可能な時間で対応します。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 筆記試験、レポート課題、口頭試問、実習に臨む姿勢や積極性などを総合的に評価する。<br>外部講師とのコミュニケーション能力を評価する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 全ての人工呼吸器が取扱えるように実際に操作すること。<br>人工呼吸器に関連する機器操作が的確に行えること。<br>白衣等を着用し、身なりを清潔に保つこと。<br>授業毎の予習・復習は90分を目安に行うこと。<br>連絡のない遅刻・欠席は認めない。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 18:00~19:00   |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No.  | 授 業 内 容  | 授 業 方 法 | 担 当     |
|----|--------------|--|---------|---------|
| 1  | 1)           | 【呼吸療法ガイドランス】<br>呼吸療法に関連する各種装置・器具等について解説する。   | 実 習     | 右 田     |
| 2  | 2)3)         | 【人工呼吸器セッティング実習】<br>人工呼吸器の回路組立と基本設定の実際を理解し、手技を習得する。                                   | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 3  | 2)3)         | 【人工呼吸器の換気モード設定実習Ⅰ】<br>従量式(VCV)と従圧式(PCV)の換気モードの実際を理解し、手技を習得する。                        | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 4  | 2)3)4)       | 【人工呼吸器の換気モード設定実習Ⅱ】<br>自発呼吸補助モードとPAV(Proportional Assist Ventilation)の実際を理解し、手技を習得する。 | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 5  | 2)3)4)       | 【人工呼吸器の換気モード設定実習Ⅲ】<br>非侵襲的陽圧換気法(NIPPV)の実際を理解し、手技を習得する。                               | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 6  | 3)4)5)<br>6) | 【人工呼吸器の機種操作実習】<br>各種人工呼吸器のオペレーションの実際を理解し、手技を習得する。                                    | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 7  | 6)7)8)       | 【人工呼吸器トラブルシューティング実習】<br>人工呼吸器のトラブルシューティングと対応の実際を理解し、手技を習得する。                         | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 8  | 5)6)7)<br>8) | 【症例検討会シミュレーション実習】<br>呼吸不全症例をシミュレーションし Small Group Learning 手法を用いた症例検討会を実践し、習得する。     | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 9  | 6)7)8)       | 【呼吸機能評価法実習】<br>呼吸指標と血液ガス像(ABG)評価の実際を理解し、手技を習得する。                                     | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 10 | 6)7)8)       | 【気管内吸引操作実習】<br>人工呼吸器の喀痰吸引の実際を理解し、手技を習得する。  | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 11 | 6)7)8)       | 【呼吸理学療法実習】<br>体位排痰と排痰補助法の実際を理解し、手技を習得する。   | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 12 | 4)~8)        | 【高気圧酸素治療装置実習Ⅰ】<br>高気圧酸素治療装置操作の実際を理解し、手技を習得する。  | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 13 | 4)~8)        | 【高気圧酸素治療装置実習Ⅱ】<br>高気圧酸素治療装置に用いるME機器の実際を理解し、手技を習得する。                                  | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 14 | 4)6)7)       | 【肺保護換気と患者評価実習】<br>肺保護換気的具体的方法の実際を理解し、手技を習得する   | 実 習     | 右田・外部講師 |
| 15 | 5)6)         | 【人工呼吸器の保守点検実習】<br>人工呼吸器の保守点検の実際を理解し、手技を習得する。   | 実 習     | 右 田     |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |   |   |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用機器安全管理学   |   |          | 授業コード  | 120119b201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |   |          | ナンバリング | 24C311P08  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工), 外部講師  | 開講学期  | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器を安全に管理運用するために必要な電気、医療ガス、滅菌・消毒法、の基本的な知識を習得し、他の医療職へ説明できることを目標とする。   |   |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 医療機器使用時の安全性について説明できる。<br>2) 生体へのエネルギーの安全値について説明できる。<br>3) 医療機器の使用環境の概略を説明できる。<br>4) 医療機器の電氣的安全性の JIS について説明できる。<br>5) 医療施設における電気設備の JIS について説明できる。<br>6) 医療ガスの安全性について説明できる。<br>7) 医療施設における医療ガス設備の JIS について説明できる。<br>8) 医療機器の電磁環境について説明できる。<br>9) ヒューマンファクターエンジニアリングの概要が説明できる。<br>10) 医療機器の滅菌と消毒について説明できる。<br>11) 臨床工学技士に関連する法律の説明ができる。<br>12) 臨床工学技士国家試験問題における医用機器安全管理学分野の問題を正確に解答できる。 |   |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において 29 年間医療機器安全管理を実施した経験に基づき講義を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 講義の最後に小テストを実施し理解の程度を学生へフィードバックし、講義期間中に中間評価試験、期末評価試験を実施し総合評価を行う。   |   |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業の予習については、教科書の該当部分の技術用語をノートに書き写し調べておくこと。講義後は講義ノートを中心に重要語句の整理をすること。   |   |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |   |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)  | 【臨床工学と安全管理の重要性】<br>臨床工学における安全管理の重要性を説明できる。  |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 2                   | 1)2)11)   | 【各種エネルギーと生体物性】<br>生体へエネルギー(電気、器械、熱、光、放射線)が加わったときの反応を説明できる。                        |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 3                   | 1)2)12)   | 【医療機器使用時の電氣的安全性】<br>生体へ電気エネルギー(電流)が加わった時の特性を説明できる。                                |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 4                   | 3)12)   | 【規格の体系】<br>医療機器の電氣的安全の概要を説明できる。医療機器に表示されている各種図記号の意味を説明できる。                        |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 5                   | 3)12)   | 【漏れ電流の分類】<br>医療機器の漏れ電流の分類と特徴を説明できる。   |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 6                   | 3)12)   | 【漏れ電流の測定】<br>医療機器の漏れ電流の測定法を説明できる。   |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 7                   | 5)12)   | 【病院電気設備の安全基準】<br>病院の電気設備の特殊性を説明できる。<br>病院電気設備における接地、非接地配線方式、非常電源の種類と特徴 について説明できる。 |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 8                   | 6)  | 【医療ガスの安全性】<br>過去の医療事故を検証し安全の重要性について説明できる。   |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 9                   | 6)12)   | 【医療ガスの基礎】<br>医療ガスの種類と性質について説明できる。   |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 10                  | 7)12)   | 【医療ガス設備1】<br>医療ガスの中央配管方式の概略と特徴を説明できる。   |          |        |            | 講義           | 外部講師・戸畑   |
| 11                  | 7)12)   | 【医療ガス設備2】<br>医療ガスボンベに充填されたガスの状態と取り扱い方法を説明できる。                                     |          |        |            | 講義           | 外部講師・戸畑   |
| 12                  | 6)7)8)12)   | 【信頼性工学とシステム安全】<br>医療機器の信頼性の基礎および医療機器が単独でなくシステムとして使用される場合の信頼性について説明できる。            |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 13                  | 2)3)8)  | 【電磁環境】<br>医療機器が使用される電磁環境について説明できる。  |          |        |            | 講義           | 戸畑        |
| 14                  | 10)12)  | 【医療機器の滅菌消毒1】<br>医療機器による院内感染やその対策について概要を説明できる。                                     |          |        |            | 講義           | 真茅        |
| 15                  | 10)12)  | 【医療機器の滅菌消毒2】<br>医療機器の洗浄・消毒・滅菌について説明できる。   |          |        |            | 講義           | 真茅        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学講座 医療機器安全管理学(篠原 一彦・出淵 靖志 編集) 医歯薬出版株式会社【978-4-263-73403-2】<br>MEの基礎知識と安全管理(日本生体医工学会ME技術教育委員会 監修) 南江堂【978-4-524-24361-7】  |   |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 臨床工学(CE)とME 機器・システムの安全(渡辺敏) コロナ社【4-339-07182-x】   |   |          |        |            |              |           |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用機器安全管理学演習   |      |           | 授業コード  | 121128A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年生)  |      |           | ナンバリング | 24C312P09  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工), 外部講師  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器を安全に管理運用するために必要なヒューマンファクタの基本と病院での安全管理体制について、過去の医療事故例を通して、その原因と対策に関する分析手法を習得する。  |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヒューマンファクターエンジニアリング(HF)の概要が説明できる。</li> <li>2) 医療とHFの関連を説明できる。</li> <li>3) 医療におけるリスクを説明できる</li> <li>4) 医療現場での医療事故対策について説明できる。</li> <li>5) 薬事法の概略が説明できる。</li> <li>6) 医療法の概略が説明できる。</li> <li>7) 臨床工学技士法について説明できる。</li> <li>8) 医療機器安全管理体制について説明できる。</li> <li>9) 医療機器安全管理責任者について説明できる。</li> </ol> |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院で29年間医療事故の原因分析・対策に従事した経験を基に演習を行う。外部講師においても、教育機関の病院で医療事故分析・対策での経験がありグループ学習を中心に演習を指導する。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 各演習後のレポート提出により評価する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各講師による演習については、事前に資料を配付するので、資料の内容を把握して授業に臨むこと。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当      |
|----|-------------|--|----------|---------|
| 1  | 1)          | 【医療安全における人間工学】<br>医療安全の背景と人間工学との関連を説明できる。                  | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 2  | 2)          | 【ヒューマンエラーと医療安全】<br>ヒューマンエラーの分類について説明できる。                   | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 3  | 3)          | 【医療におけるリスクマネジメントの基礎】<br>医療におけるリスクマネジメントとセーフティマネジメントを説明できる。 | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 4  | 4)          | 【医療事故とその対策】<br>ヒューマンファクタから見た医療事故対策の概略を説明できる。               | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 5  | 5)          | 【薬事法】<br>薬事法の概要について説明できる。                                  | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 6  | 6)          | 【医療法】<br>医療法の概要について説明できる。                                  | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 7  | 7)          | 【臨床工学技士法】<br>臨床工学技士法の概要について説明できる。                          | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 8  | 5)6)        | 【医療機器安全管理における薬事法】<br>製造業と医療施設での薬事法の取り組みの相違を説明できる。          | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 9  | 5)6)        | 【医療機器安全管理における医療法】<br>製造業と医療施設での医療法の取り組みの相違を説明できる。          | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 10 | 8)9)        | 【医療機器安全管理責任者】<br>医療現場の安全管理体制について説明できる。                     | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 11 | 8)9)        | 【医療機器安全管理責任者の実際】<br>医療機器安全管理責任者と臨床工学技士の関連について説明できる。        | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 12 | 4)8)9)      | 【医療機器の安全管理体制の構築1】<br>基幹病院での安全管理体制について説明できる。                | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 13 | 4)8)9)      | 【医療機器の安全管理体制の構築2】<br>特定機能病院での安全管理体制について説明できる。              | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 14 | 4)8)9)      | 【病院における医療機器管理の実際1】<br>医療施設でおこなわれている医療機器保守点検の概略について説明できる。   | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |
| 15 | 4)8)9)      | 【病院における医療機器管理の実際2】<br>医療施設でおこなわれている医療機器保守点検方法について説明できる。    | 講義・演習    | 戸畑・外部講師 |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 医療安全に活かす医療人間工学(佐藤幸光、佐藤久美子 著)医療科学社【978-4-86003-376-7】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 補足資料については予め配布する。                                     |

|                     |  |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|--|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 医用機器安全管理学実習  |      |           | 授業コード  | 120120A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(45) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)  |      |           | ナンバリング | 24C312P10  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 実習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 医療機器を安全に管理運用するための保守管理(医療機器の電力測定、漏れ電流測定、医用電気設備の点検、医療ガス設備の点検を中心にに関する基本技術)を習得する。実習には自ら測定装置を製作するものがある。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)医療現場に即応した測定方法を習得する。<br>2)医療機器の電気的安全性における電力測定、漏れ電流測定の方法を習得する。<br>3)医療施設における電源設備の取り扱いの概略を実習設備において習得する。<br>4)医療施設における医療ガス設備の取り扱いの概略を実習設備において習得する。<br>5)医療機器の保守点検技術の基礎を習得する(パルスオキシメータ、人工呼吸器の初級メンテナンスができる)。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、大学病院において29年間医療機器安全管理を実施した経験に基づき実習指導を行う。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 実習前に提出する予習レポートをチェックし内容の不備については学生へフィードバックする。毎回の実習レポートの内容と最終確認試験により総合評価する。   |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 各実習に対しては実習指導書を中心に事前レポートを提出し、実習終了後には事後レポートを提出する。不明な点は検索し考察に反映させること。   |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 月曜日 13:10~16:25<br>木曜日 9:00~12:15<br>8号棟 301   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容   | 授 業<br>方 法 | 担 当     |
|----|-------------|---|------------|---------|
| 1  | 1)          | 【実習レポートの書き方】<br>実習に際しての態度、レポートの書き方、測定装置の取り扱いについて理解する。                 | 講義・実習      | 戸畑      |
| 2  | 1)2)        | 【漏れ電流測定器の制作】<br>電気的安全測定における生体模擬インピーダンスを理解し簡易漏れ電流測定装置を製作できる。           | 実習         | 戸畑      |
| 3  | 1)2)        | 【漏れ電流測定器の特性評価】<br>簡易漏れ電流測定装置の周波数特性を中心に測定できる。                          | 実習         | 戸畑      |
| 4  | 1)2)        | 【医療機器の漏れ電流の測定 1】<br>簡易漏れ電流測定器を用いて医療機器の漏れ電流を測定できる。                     | 実習         | 戸畑      |
| 5  | 1)2)        | 【医療機器の漏れ電流の測定 2】<br>簡易漏れ電流測定器を用いて医療機器の漏れ電流を測定できる。                     | 実習         | 戸畑      |
| 6  | 1)          | 【後半の実習に関する予備実習】<br>実習の後半のテーマに関する取り組み方と実習方法に関しての実習講義の内容が理解でき説明できる。     | 実習・講義      | 戸畑      |
| 7  | 1)2)        | 【医療機器の電力測定】<br>医療機器の電力測定をデジタルマルチメータを用いておこなう方法について習得する。                | 実習         | 戸畑      |
| 8  | 1)3)        | 【医用コンセントと分電盤の対応】<br>医療電源設備における各室の医用コンセントとの配線遮断器の関連を実習を通して確認することを習得する。 | 実習         | 戸畑      |
| 9  | 1)3)        | 【医用コンセントの保持力測定】<br>医用コンセントの保持力を測定するために簡易測定器を製作し保持力測定を行う技術を習得する。       | 実習         | 戸畑      |
| 10 | 1)3)4)      | 【接地線抵抗測定】<br>医療機器の接地線抵抗が測定できる。  | 実習         | 戸畑      |
| 11 | 1)4)        | 【医療ガス設備の点検法】<br>各種医療ガス配管内の圧力・流量測定および湿潤器の保守点検ができる。                     | 実習         | 戸畑、外部講師 |
| 12 | 1)5)        | 【人工呼吸器の保守点検】<br>人工呼吸器(ベネット 840)の動作原理を理解し分解組み立てができる。                   | 実習         | 戸畑、外部講師 |
| 13 | 1)5)        | 【人工呼吸器の保守点検】<br>人工呼吸器(ベネット 840)の性能および安全点検ができる。                        | 実習         | 戸畑、外部講師 |
| 14 | 1)5)        | 【パルスオキシメータの保守点検】<br>パルスオキシメータの動作原理を理解し分解組み立てができる。                     | 実習         | 戸畑、外部講師 |
| 15 | 1)5)        | 【パルスオキシメータの保守点検】<br>パルスオキシメータの性能点検および安全点検ができる。                        | 実習         | 戸畑、外部講師 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 実習指導書を提供し、これを中心に行う。外部講師の担当する実習では、別途資料を配付する。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 特に指定はしないが、各自の必要性に応じて検索する。

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 患者安全管理学   |      |           | 授業コード  | 120228B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 24C312P21  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 北野 達也(非常勤講師)  | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | この講義では、患者本位で安全で安楽な質の高い医療提供を基本とし、患者の権利、安全文化の確立手法、事例分析後の有効活用等学問体系的に学び、医療安全管理体制構築のための手法を見出すとともに、医療機関において医療安全管理者、ファシリテータとして組織マネジメントを実践するための手法などを修得する。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)患者-医療者間パートナーシップについて理解し、患者安全管理学を学問体系的に学ぶことの重要性を説明できる。<br>2)患者の権利、医療人としての職業倫理・責務、法的責任について理解し、説明できる。<br>3)システム不全、ヒューマン・エラー、CRM(Crew Resource Management)、医療事故要因分析手法(SHELL, 4M4E, RCA など)等について理解し、改善策を提案できる。<br>4)医療安全管理者の役割、適任者人選、リーダーシップのあり方、医療安全管理部門設置の必要性について理解し、説明できる。<br>5)継続的な医療安全の確保や医療の質の向上のための改善提案を列挙し、これらについて議論し、具体的な方策を提案できる。<br>6)Yes, and 哲学、コーチング、ファシリテーション、インプロヴィゼーション教育導入など Non-Technical Skills の強化、組織マネジメントの効果的な実施方法、医療安全管理体制構築の手法について具体的な方策を提案できる。<br>7)医療機関で医療安全管理者、ファシリテータとして実践するためのオペレーション・マネジメントについて理解し、具体的な方策を提案できる。 |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 航空業界(パイロット)における質・安全管理、CRM(Crew Resource Management)など組織マネジメントの実務経験、医療機関における救急救命をはじめとする臨床業務、医学教育(人材再教育)に携わり、全国初の「医療安全管理部」の Patients Safety Manager として医療の質・安全管理、医療経営・管理等の実務経験、さらに公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止センター初代医療事故防止事業課長の実務経験、医療マネジメントコース専攻長、医療安全管理顧問、日本ヒューマンファクター研究所研究主幹(医療安全担当)、自治体病院再建などの実務経験を踏まえ、医療倫理学、プロフェッショナルリズムの定義を重視した医療質・安全管理、組織マネジメントの手法、Non-Technical Skills(コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップなど)強化の新たな手法についても習得して頂く。   |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | ①期末テストによる評価:60%、②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、レポートなど):40%  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入退室禁。SGD時は活発に議論できるように予習してくる。各回講義内容に応じ、講義前予習(専門用語、関連文献等の検索)、講義後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。※1コマ当たり4時間を目安に予習・復習を行うこと。  |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 講義前後の可能な時間  |      |           |        |            |              |           |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授業<br>方法 | 担当  |
|----|-------------|--|----------|-----|
| 1  | 1)          | 【Introduction: 患者安全管理学とは】<br>患者安全管理学について、患者-医療者間パートナーシップ、安全文化などについて  | 講 義      | 北 野 |
| 2  | 2)          | 【医療安全管理学Ⅰ】<br>患者の権利、医療人としての職業倫理・責務、法的責任、Patients Safety Manager、JCAHO、IOM、AHRQ、NHS などについて  | 講 義      | 北 野 |
| 3  | 3)4)        | 【医療安全管理学Ⅱ】<br>医療安全推進、行政機関の取り組み、各医療機関の取り組み、医療事故調査制度、現状把握のための院内医療安全パトロールの実施などについて  | 講 義      | 北 野 |
| 4  | 3)4)        | 【医療安全管理学Ⅲ】<br>インシデント・アクシデント事例分析、警鐘事象(sentinel events)、有害事象(adverse events)、医療事故報告制度と活用方法   | 講 義      | 北 野 |
| 5  | 3)4)        | 【医療安全管理学Ⅳ】<br>システム不全、ヒューマン・エラー、CRM、医療事故要因分析手法(SHELL, 4M4E, RCA など)による有効活用、航空業界の応用  | 講 義      | 北 野 |
| 6  | 3)4)        | 【医療安全管理学Ⅴ】<br>医療事故発生のメカニズム、問題解決・改善、再発防止策及び未然防止対策、ヒューマンファクター工学応用  | S G D    | 北 野 |
| 7  | 4)5)        | 【医療安全管理学Ⅵ】<br>人材育成・再開発、シミュレーション教育、安全教育、危険予知トレーニング、人材適正配置、意識改革、継続的な取り組み、CRM、TeamSTEPS等チームワーク・システムの重要性、Yes, and 哲学、コーチング、ファシリテーション、インプロヴィゼーション教育導入の重要性 | 演 習      | 北 野 |
| 8  | 1)~5)       | 【 1~7回のまとめ】<br>1~7回のまとめ演習  | レポ<br>ート | 北 野 |
| 9  | 6)          | 【組織構築Ⅰ】<br>医療安全管理者の役割、医療安全管理者(適任者)人選のあり方、リーダーシップのあり方、医療安全管理部門設置の必要性  | 講 義      | 北 野 |
| 10 | 6)          | 【組織構築Ⅱ】<br>チーム医療の担い手として各部署間コミュニケーションを図り、組織横断的に取り組むことのできる Coordinator / Negotiator としての役割、医療オペレーション・マネジメント導入について、医学教育技法、医療面接技法などについて                  | 講 義      | 北 野 |
| 11 | 6)          | 【組織構築Ⅲ】<br>院内医療安全研修会、安全大会などの効果的実施のための手法、説明責任、医療事故訴訟対応及びADR(裁判外紛争解決)など  | 講 義      | 北 野 |
| 12 | 6)          | 【質評価、質改善】<br>医療安全管理と公益財団法人日本医療機能評価機構、ISO 認証の関わり  | 講 義      | 北 野 |
| 13 | 7)          | 【医療安全の確保と医療の質向上】<br>継続的な医療安全の確保や医療の質の維持に向けて  | 講 義      | 北 野 |

|                    |    |  |    |    |
|--------------------|----|--|----|----|
| 14                 | 7) | 【医療安全管理体制構築Ⅰ】<br>医療安全管理における新たな分析手法、Non-Technical Skills の強化、U 理論による行動変容プロセス、組織マネジメントの効果的実施について | 演習 | 北野 |
| 15                 | 7) | 【医療安全管理体制構築Ⅱ】<br>医療安全管理体制構築のための課題設定、具体的な方策立案、問題解決の手法   | 講義 | 北野 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |    | 使用しません。講義時に配布するプリントを使用する。  |    |    |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |    | 使用しません。講義時に配布するプリントを使用する。  |    |    |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床医学総論 I  |      |          | 授業コード  | 121325B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |      |          | ナンバリング | 24C211P09  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 腎臓の解剖、生理学から、病態を臨床的に評価し、どのように治療がおこなわれているのかを、学習していく。この時に、将来、機器を通して患者に接していく上で、腎臓病が、如何に関与してくるのかを学ぶ。                                       |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)腎臓に関する基礎:解剖生理学について説明できる。<br>2)腎臓に関する診断治療を説明できる。<br>3)腎臓器疾患の病態が説明できる。<br>4)腎臓モニタ、補助機械について説明できる。                                      |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業における教官により行われる質疑応答態度、および期末試験による評価。   |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業における内容に対して各回復習を確実にし習得すること。2回目以降の授業では、これまでの講義内容の復習を行うので重要なポイントを習得すること。次回の講義の内容を事前に通知するので、テキスト等で予習を行うこと。予習復習の時間を1回あたり目安として1時間を確保すること。 |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日 11:00~12:30 研究室 B-331   |      |          |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容  | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|---|----------|----|
| 1  | 1)          | 【腎臓の解剖と生理 1)】 なぜ“尿”がでているのか？解剖についてまず考える。       | 講義       | 吉武 |
| 2  | 1)          | 【腎臓の解剖と生理 2)】 前回とあわせて、“尿”について生理的なことから考えてみる。   | 講義       | 吉武 |
| 3  | 1)          | 【腎臓疾患の症状】 腎臓の機能低下でそのような、他覚所見があり自覚所見があるのか学習する。 | 講義       | 吉武 |
| 4  | 1)3)        | 【急性腎不全 1)】 概念を学び病態について考える。                    | 講義       | 吉武 |
| 5  | 1)3)        | 【急性腎不全 2)】 前回は踏まえ、治療と予後について学習する。              | 講義       | 吉武 |
| 6  | 4)          | 【尿毒症】 症状と病態について学習する。                          | 講義       | 吉武 |
| 7  | 1)3)        | 【慢性腎不全 1)】 CKDについて概念を学び病態について考える。             | 講義       | 吉武 |
| 8  | 1)3)        | 【慢性腎不全 2)】 概念を学び病態に着いて考える。                    | 講義       | 吉武 |
| 9  | 1)3)        | 【慢性腎不全 3)】 概念を学び病態に着いて考える。                    | 講義       | 吉武 |
| 10 | 1)3)        | 【糸球体疾患血液疾患】 症状と病態について学習する。                    | 講義       | 吉武 |
| 11 | 1)3)        | 【腎尿細管疾患】 症状と病態について学習する。                       | 講義       | 吉武 |
| 12 | 2)3)        | 【尿路閉塞症】 症状と病態について学習する。                        | 講義       | 吉武 |
| 13 | 2)3)        | 【腎血管性疾患】 症状と病態について学習する。                       | 講義       | 吉武 |
| 14 | 2)3)        | 【結石症とESWL】 症状と病態について学習する。予防法と治療について学習する。      | 講義       | 吉武 |
| 15 | 2)3)        | 【尿路感染症】症状と病態について学習する。予防法と治療について学習する。          | 講義       | 吉武 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 ISBN-13: 978-4896327717

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。



|                     |   |   |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|---|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床医学総論Ⅱ   |   |           | 授業コード  | 121326B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(2年)   |   |           | ナンバリング | 24C212P08  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期  | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 腎臓の解剖、生理学から、全身疾患との関連を病態を臨床的に評価し、どのように治療がおこなわれているのかを、学習していく。ここでは、集中治療医学との医療機器を通じた臨床医学を加えての学習する。  |   |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)腎臓に関する基礎:解剖生理学について説明できる。<br>2)内科的疾患について診断治療を説明できる。<br>3)集中治療における医療機器について説明できる。<br>4)腎臓を中心とした病態生理・疾患を全身症状とあわせて説明できる。                 |   |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |   |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業における教官により行われる質疑応答態度、および期末試験による評価。   |   |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業における内容に対して各回復習を確実にし習得すること。2回目以降の授業では、これまでの講義内容の復習を行うので重要なポイントを習得すること。次回の講義の内容を事前に通知するので、テキスト等で予習を行うこと。予習復習の時間を1回あたり目安として1時間を確保すること。 |   |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日 11:00~12:30 研究室 B-331   |   |           |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |   |           |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授 業 内 容   |           |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)3)  | 【血液浄化療法の応用と限界】 概念を学び病態について考える。                      |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 2                   | 1)3)  | 【集中治療と血液透析】 概念を学び病態について考える。                         |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 3                   | 1)3)  | 【集中治療と血液透析 2)】 予防法と治療について学習する。                      |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 4                   | 1)3)  | 【長期血液透: 病態、合併症】<br>症状と病態について学習する。                   |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 5                   | 1)3)  | 【腎臓移植】 概念を学び病態と透析における限界について考える。                     |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 6                   | 1)3)  | 【感染症と敗血症の概念】 概念を学び病態について考える。症状と病態について学習する。          |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 7                   | 1)3)  | 【感染症と敗血症の治療】 概念を学び病態について考える。                        |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 8                   | 1)3)  | 【膠原病】 概念を学び病態について考える。                               |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 9                   | 1)3)  | 【内分泌疾患 1)】 この 2)つの関係を考え予防法と治療について学習する。              |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 10                  | 1)3)  | 【内分泌疾患 2)】 概念を学び病態について考える。予防法と治療について学習する。           |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 11                  | 1)3)  | 【血液疾患、凝固異常】 血液疾患、凝固異常が腎臓に及ぼす影響について考え概念を学び病態について考える。 |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 12                  | 1)3)  | 【電解質代謝異常:pHについてもう一度考える】 概念を学び病態について考える。             |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 13                  | 1)2)4)  | 【高血圧と腎臓】 概念を学び病態について考える。                            |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 14                  | 1)2)4)  | 【腎尿路感染症】 概念を学び病態について考える。                            |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 15                  | 1)2)4)  | 【糖尿病の血管障害】 概念を学び病態について考える。予防法と治療について学習する。           |           |        |            | 講 義          | 吉 武       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 ISBN-13: 978-4896327717  |   |           |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | 使用しない。  |   |           |        |            |              |           |

|                     |   |      |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床医学総論Ⅲ   |      |          | 授業コード  | 121327B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |          | ナンバリング | 24C311P09  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期 | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 講義        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士として、循環器疾患の病態について学び、診断・治療における、補助循環方法等についての役割を習得する  |      |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)呼吸に関する基礎:解剖生理学について説明できる。<br>2)呼吸に関する診断治療を説明できる。<br>3)呼吸器疾患の病態が説明できる。<br>4)呼吸モニタ、補助機械について説明できる。                                      |      |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |      |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業における教官により行われる質疑応答態度、および毎回の小テストによる評価。  |      |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業における内容に対して各回復習を確実にし習得すること。2回目以降の授業では、これまでの講義内容の復習を行うので重要なポイントを習得すること。次回の講義の内容を事前に通知するので、テキスト等で予習を行うこと。予習復習の時間を1回あたり目安として1時間を確保すること。 |      |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日 11:00~12:30 研究室 B-331   |      |          |        |            |              |           |

授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業<br>方法 | 担当 |
|----|-------------|--|----------|----|
| 1  | 1)3)        | 【急性呼吸不全1】<br>病態を理解して、診断と治療を考えてみる。                  | 講義       | 吉武 |
| 2  | 1)3)        | 【急性呼吸不全2】<br>予防法と治療について学習する。                       | 講義       | 吉武 |
| 3  | 1)3)        | 【慢性呼吸不全1】<br>病態を理解して、診断と治療を考えてみる。                  | 講義       | 吉武 |
| 4  | 1)3)        | 【慢性呼吸不全2】<br>概念を学び病態に着いて考える。                       | 講義       | 吉武 |
| 5  | 1)3)        | 【慢性呼吸不全3】<br>予防法と治療について学習する。                       | 講義       | 吉武 |
| 6  | 1)3)        | 【人工呼吸器を装着した患者の管理1】<br>病態を理解して、診断と治療を考えてみる。         | 講義       | 吉武 |
| 7  | 1)3)        | 【人工呼吸器を装着した患者の管理2】<br>病態を理解して、診断と治療を考えてみる。         | 講義       | 吉武 |
| 8  | 1)3)        | 【全身性疾患と呼吸機能】<br>神経疾患等の呼吸器以外の疾患による、呼吸器への影響を学ぶ。      | 講義       | 吉武 |
| 9  | 1)3)        | 【人工呼吸器を装着した患者の管理3】<br>病態を理解して、診断と治療を考えてみる。         | 講義       | 吉武 |
| 10 | 1)3)        | 【人工呼吸器関連肺炎】<br>概念を学び病態に着いて考える。症状と病態について学習する。       | 講義       | 吉武 |
| 11 | 1)3)        | 【肺梗塞】<br>症状と病態について学習する。さらに予防法と治療について学習する。          | 講義       | 吉武 |
| 12 | 1)3)        | 【低酸素状態と低酸素血症】<br>概念を学び病態に着いて考える。                   | 講義       | 吉武 |
| 13 | 1)2)4)      | 【高炭酸ガス血症】<br>概念を学び病態に着いて考える。                       | 講義       | 吉武 |
| 14 | 1)2)4)      | 【人工呼吸の恩恵と限界】<br>人工呼吸器の利点と、限界について考えてみる。             | 講義       | 吉武 |
| 15 | 1)2)4)      | 【臨床工学と人工呼吸器】<br>人工呼吸器は進歩してきているが、患者は何を望んでいるかを考えてみる。 | 講義       | 吉武 |

|                    |                                      |
|--------------------|--------------------------------------|
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | シンプル内科学(寺野 彰) 南江堂【978-4-524-22344-2】 |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。                               |

|                     |   |      |           |        |            |              |           |
|---------------------|---|------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 臨床医学総論Ⅳ   |      |           | 授業コード  | 121328B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   |      |           | ナンバリング | 24C312P32  | AL科目         |           |
| 担当者                 | 吉武 重徳(臨心)   | 開講学期 | 2020年度 後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講 義       |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士として、循環器疾患の病態について学び、診断・治療における、補助循環方法等についての役割を習得する。   |      |           |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)循環に関する基礎:解剖生理学について説明できる。<br>2)循環に関する診断治療を説明できる。<br>3)循環器疾患の病態が説明できる。<br>4)循環モニタ、補助機械について説明できる。                                      |      |           |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 本教員は医療の臨床経験を有する医師として、大学付属病院等で習得した知識とスキルを本講義に活かして受講生に適合する教育を提供する。  |      |           |        |            |              |           |
| 評価方法                | 授業における教官により行われる質疑応答態度、および毎回の小テストによる評価。  |      |           |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 授業における内容に対して各回復習を確実にし習得すること。2回目以降の授業では、これまでの講義内容の復習を行うので重要なポイントを習得すること。次回の講義の内容を事前に通知するので、テキスト等で予習を行うこと。予習復習の時間を1回あたり目安として1時間を確保すること。 |      |           |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 金曜日 10:30~12:30 研究室 B-331   |      |           |        |            |              |           |

授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授 業 内 容  | 授 業<br>方 法 | 担 当 |  |  |
|--------------------|-------------|--|------------|-----|--|--|
| 1                  | 1)3)        | 【心不全 1】<br>概念を学び病態に着いて考える。                                 | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 2                  | 1)3)        | 【心不全 2】<br>症状と病態について学習する。                                  | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 3                  | 1)3)        | 【心不全 3】<br>予防法と治療について学習する。                                 | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 4                  | 1)3)        | 【後天性心臓病】<br>概念を学び病態に着いて考える。                                | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 5                  | 1)3)        | 【冠動脈疾患 1】<br>概念を学び病態に着いて考える。                               | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 6                  | 1)3)        | 【冠動脈疾患 2】<br>予防法と治療について学習する。                               | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 7                  | 1)3)        | 【脳循環障害・脳卒中】<br>脳卒中の概念を学び病態に着いて考える。                         | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 8                  | 1)3)        | 【脳循環障害・脳梗塞】<br>前回につづいて予防法と治療について学習する。                      | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 9                  | 1)3)        | 【末梢循環不全と心臓】<br>症状と病態について学習する。                              | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 10                 | 1)2)4)      | 【感染症と心臓病】<br>概念を学び病態に着いて考える。<br>感染性の心内膜炎について症状と病態について学習する。 | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 11                 | 1)2)4)      | 【心臓手術と体外循環】<br>概念を学び病態に着いて考える。                             | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 12                 | 1)2)4)      | 【高血圧】<br>概念を学び病態に着いて考える。予防法と治療について学習する。                    | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 13                 | 1)2)4)      | 【PCPS、VAS】<br>概念を学び病態に着いて考える。                              | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 14                 | 1)2)4)      | 【補助循環】<br>概念を学び病態に着いて考える。                                  | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 15                 | 1)2)4)      | 【心臓移植】<br>この治療法の適応、禁忌さらに恩恵と限界について学ぶ。                       | 講 義        | 吉 武 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |            |     |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |            |     |  |  |

|                     |   |                         |            |              |           |      |       |
|---------------------|---|-------------------------|------------|--------------|-----------|------|-------|
| 科目名                 | 看護学概論   | 授業コード                   | 120237B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>(30) |      |       |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(3年)   | ナンバリング                  | 24C312P43  | AL科目         | ○         |      |       |
| 担当者                 | 米倉 修司(非常勤講師)  | 開講学期                    | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修        | 授業形態 | 講義・演習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士は医師の指示のもとに、生命維持装置の操作や医療機器の保守・定期点検などを行う重要な役割を担う業務である。その生命維持装置や医療機器は、患者またはクライアントに使用されるために単に機器の取り扱いを習熟するだけではなく、「人間」への理解を深め配慮できることが重要である。そのために、患者に寄り添う看護師と同様、看護の本質を学ぶことによって、業務と対象との関連性、業務の法的な位置づけや関連性、社会との関わりなどを理解し、修得する必要がある。更に看護における基本的援助技術を演習することによって、ベッドサイドの協働者としての役割を修得する。                           |                         |            |              |           |      |       |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)看護実践の基礎を学ぶことによって、実践科学としての看護学、看護の機能、看護者の役割などを臨床工学技士の立場から理解し説明できる。<br>2)看護サービスの利用者である人間(対象)を、ニーズや成長・発達、健康障害、環境との関係、ライフサイクルなどの基本的な視点からみて、臨床工学技士の立場から対象を身体的・心理社会的存在として理解し、配慮できる。<br>3)看護ケアの基本的役割、看護における基本的援助技術を臨床工学技士の立場から学び、実施することができる。<br>4)クリティカルケア領域で展開されている看護を臨床工学技士の立場から理解し、生命維持装置が必要な患者管理の理解を深める事ができる。 |                         |            |              |           |      |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 看護師としての経験を活かし、臨床工学技士との連携など、医療業務に携わるスタッフとしての役割を教授する。   |                         |            |              |           |      |       |
| 評価方法                | 筆記試験  |                         |            |              |           |      |       |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 予習・復習を行うこと。<br>講義資料(パワーポイント)を配布しているので、それをノート代りに内容の追加すること。<br>基本的看護技術ではより実践的に学ぶために、GWを通して必要物品・場面設定やプレゼンテーションを学生自身で行う。  |                         |            |              |           |      |       |
| オフィスアワー             | 講義前後の時間   |                         |            |              |           |      |       |
| 授業計画                |   |                         |            |              |           |      |       |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容                    | 授業<br>方法   | 担当           |           |      |       |
| 1                   | 1)  | 看護とはなにか ～歴史と理念, 定義～     | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 2                   | 1)  | 看護教育と組織の特徴              | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 3                   | 1)  | 看護における法的側面、看護における倫理と価値  | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 4                   | 2)  | 看護の対象、ライフサイクルと健康        | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 5                   | 2)  | 看護実践のための理論的根拠、看護過程      | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 6                   | 2)  | 看護実践のための理論的根拠、看護過程      | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 7                   | 3)  | 看護における基本的援助技術           | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 8                   | 3)  | 看護における基本的援助技術(演習のための導入) | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 9                   | 3)  | 看護における基本的援助技術(演習)       | 演習 GW      | 米倉修司         |           |      |       |
| 10                  | 3)  | 看護における基本的援助技術(演習)       | 演習 GW      | 米倉修司         |           |      |       |
| 11                  | 4)  | 集中(クリティカル)ケア看護技術        | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 12                  | 4)  | 集中ケア看護技術                | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 13                  | 4)  | 集中ケア看護における基本的援助技術(演習)   | 演習 GW      | 米倉修司         |           |      |       |
| 14                  | 4)  | 集中ケア看護における基本的援助技術(演習)   | 演習 GW      | 米倉修司         |           |      |       |
| 15                  | 1)~4)   | 総括                      | 講義         | 米倉修司         |           |      |       |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  | ナースのためのやさしくわかる 基礎看護技術 石田弘子(監修) ナツメ社   |                         |            |              |           |      |       |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  | クリティカルケア看護技術の実践と根拠 道又元裕 編集 中山書店 2011年初版<br>系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学1 看護学概論 藤崎 郁 他 医学書院 2012年第15版   |                         |            |              |           |      |       |

|                     |  |   |            |              |                  |      |
|---------------------|--|---|------------|--------------|------------------|------|
| 科目名                 | 臨床指導   | 授業コード   | 121061A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30)        |      |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)  | ナンバリング  | 24C411P01  | AL科目         |                  |      |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、戸畑 裕志(保・工)、近藤 照義(保・工)、渡辺 渡(保・工)、右田 平八(保・工)、砂子澤 裕(保・工)、丹下 佳洋(保・工)  | 開講学期  | 2020年度前期   | 必修・選択        | 必修<br>授業形態<br>講義 |      |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士として業務に従事するため、血液浄化業務、人工心肺業務、人工呼吸業務、高気圧酸素治療業務、集中治療室業務および手術室業務、医療機器管理業務などの臨床業務についてのスキルを学習し、臨床実習を補完する。臨床実習の進め方、留意事項、目的を理解、確認し、円滑に進行できるよう自らが考え、行動できるように学習する。                    |   |            |              |                  |      |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)臨床工学技士としての医療倫理、法的責任を概説できる。<br>2)医療現場で医学の基礎および感染対策を理解する。<br>3)病院システムとチーム医療の必要性や重要性を理解する。<br>4)医療機器に用いられる医用工学技術を理解する。<br>5)実習内容を理解し適切なレポートを作成できる。<br>6)実習内容を理解し適切なプレゼンテーションができる。 |   |            |              |                  |      |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務し、臨床業務経験が豊富で実践経験に基づいた授業を一部展開しながら幅広い知識の習得を目的とした授業を行う。   |   |            |              |                  |      |
| 評価方法                | 小テストおよびレポートにて評価。   |   |            |              |                  |      |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 臨床実習と同様、重要な講義である。理解度が不足している学生は単位取得が不可能である。   |   |            |              |                  |      |
| オフィスアワー             | 講義後(内容によっては長時間対応可能)  |   |            |              |                  |      |
| 授業計画                |  |   |            |              |                  |      |
| 回数                  | SBOs<br>No.  | 授業内容  |            |              | 授業<br>方法         | 担当   |
| 1                   | 1)   | 【オリエンテーション】<br>実習と平行することがあるので、進め方について全員の理解を得る。                                      |            |              | 講義               | 全員   |
| 2                   | 2)   | 【感染防止対策】<br>ワクチン接種も含めた感染対策を理解し、実際の臨床でのトラブル事例などを元に自らが臨床実習でどのようにすべきかをシミュレーションできる。     |            |              | 講義               | 全員   |
| 3                   | 3)   | 【病院のシステムと特徴】<br>病院システムの詳細について説明できる。   |            |              | 講義               | 全員   |
| 4                   | 1)2)3)   | 【医療施設における業務】<br>臨床工学技士業務について、法律と実際の作業を説明できる。  |            |              | 講義               | 外部講師 |
| 5                   | 1)2)3)   | 【臨床実習の進め方】<br>実習の進め方、過去のトラブル事例などを説明できる。   |            |              | 演習               | 全員   |
| 6                   | 5)   | 【実習報告書の作成方法】<br>実習報告書(日報)の書き方、留意点について説明できる。   |            |              | 演習               | 全員   |
| 7                   | 1)2)3)   | 【臨床実習の留意事項】<br>各実習施設で異なる実習プログラムについて理解し、与えられた実習環境の中で何を学ぶべきかを考えられる。                   |            |              | 演習               | 全員   |
| 8                   | 1)2)3)   | 【医療事故防止対策】<br>起こりうる医療事故について再度学習し、その対策について説明できる。                                     |            |              | 演習               | 全員   |
| 9                   | 1)2)3)   | 【各施設での患者管理】<br>実習施設での患者管理方法などを学習、実習でとまどわないよう実践できる。                                  |            |              | 演習               | 外部講師 |
| 10                  | 1)2)3)   | 【患者安全管理1】<br>実習中の患者安全を確保するため、どこに注意すべきか、何をを行い、何をしてはいけないのかについて説明できる。(ブレインストーミング方式の予定) |            |              | 演習               | 外部講師 |
| 11                  | 1)~4)  | 【患者安全管理2】<br>実際の医療機器に関する安全管理について説明できる。  |            |              | 演習               | 外部講師 |
| 12                  | 5)6)   | 【実習ポイント1】<br>各実習内容での学習ポイントはどこか、どのようなことが求められているのかを説明できる。                             |            |              | 演習               | 全員   |
| 13                  | 5)6)   | 【実習ポイント2】<br>各実習内容での学習ポイントはどこか、どのようなことが求められているのかを説明できる。                             |            |              | 演習               | 全員   |
| 14                  | 5)6)   | 【実習ポイント3】<br>各実習内容での学習ポイントはどこか、どのようなことが求められているのかを説明できる。                             |            |              | 演習               | 全員   |
| 15                  | 5)6)   | 【実習ポイント4】<br>各実習内容での学習ポイントはどこか、どのようなことが求められているのかを説明できる。                             |            |              | 演習               | 全員   |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。  |            |              |                  |      |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |  | 使用しない。  |            |              |                  |      |

|                     |   |  |          |        |            |              |           |
|---------------------|---|--|----------|--------|------------|--------------|-----------|
| 科目名                 | 総合演習  |  |          | 授業コード  | 120732A201 | 単位数<br>(時間数) | 1<br>(30) |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |  |          | ナンバリング | 24C411P02  | AL科目         | ○         |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、近藤 照義<br>(保・工)、渡辺 渡(保・工)、右田<br>平八(保・工)、砂子澤 裕(保・<br>工)、丹下 佳洋(保・工)   | 開講学期   | 2020年度前期 | 必修・選択  | 必修         | 授業形態         | 演習        |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 国家試験過去問を中心に解説・演習を行い、国家試験対策を実施する。過去問を対象に各自の不得意内容を把握、弱点克服による国家試験全員合格(100%達成)を目指す。   |  |          |        |            |              |           |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 国家試験合格を目指し、過去問の出題傾向を分析できる。<br>2) 国家試験合格を目指し、過去問の出題傾向についてキーワードを抽出できる。<br>3) 国家試験合格を目指し、不得意内容を把握し弱点克服できる。<br>4) 国家試験合格を目指し、国試対策ノートを作成することができる。 |  |          |        |            |              |           |
| 実務経験のある<br>教員による教育  |   |  |          |        |            |              |           |
| 評価方法                | 国試過去問ベースの模擬試験により評価する。模擬試験結果は直ちにフィードバックを行い、各自の不得手内容を把握、的確に理解度が向上するよう指導を行う。   |  |          |        |            |              |           |
| 準備学習・<br>履修上の注意等    | 毎回過去問試験を行うので、実力がある程度達しているもの以外の受講は不可能である。学習度によって担当教員が適時入れ替わる。また、正当な理由なく欠席することは原則認めない。最低毎日2時間は予習復習をすること。  |  |          |        |            |              |           |
| オフィスアワー             | 火曜日 13:10-17:00   |  |          |        |            |              |           |
| 授業計画                |   |  |          |        |            |              |           |
| 回数                  | SBOs<br>No.   | 授業内容   |          |        |            | 授業<br>方法     | 担当        |
| 1                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習1】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 2                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習2】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 3                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習3】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 4                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習4】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 5                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習5】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 6                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習6】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 7                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習7】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 8                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習8】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 9                   | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習9】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。  |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 10                  | 1)~4)   | 【国家試験対策解説・演習10】<br>国試過去問の中で、不得意内容を中心に演習を行い、十分理解する。 |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 11                  | 1)~4)   | 【国家試験過去問試験1】<br>国試過去問を行い、不得意部分の理解と全体の学習度を把握する。     |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 12                  | 1)~4)   | 【国家試験過去問試験2】<br>国試過去問を行い、不得意部分の理解と全体の学習度を把握する。     |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 13                  | 1)~4)   | 【国家試験過去問試験3】<br>国試過去問を行い、不得意部分の理解と全体の学習度を把握する。     |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 14                  | 1)~4)   | 【国家試験過去問試験4】<br>国試過去問を行い、不得意部分の理解と全体の学習度を把握する。     |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 15                  | 1)~4)   | 【国家試験過去問試験5】<br>国試過去問を行い、不得意部分の理解と全体の学習度を把握する。     |          |        |            | 講義・演習        | 全員        |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 各自今までに購入した教科書全て                                    |          |        |            |              |           |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】  |   | 各自今までに購入した参考書全て                                    |          |        |            |              |           |

|                     |   |          |              |        |            |              |          |
|---------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|----------|
| 科目名                 | 臨床実習  |          |              | 授業コード  | 121064D201 | 単位数<br>(時間数) | 4<br>180 |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |          |              | ナンバリング | 24C423P01  | AL科目         | ○        |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、戸畑 裕志<br>(保・工)、近藤 照義(保・工)、渡<br>辺 渡(保・工)、右田 平八(保・<br>工)、砂子澤 裕(保・工)、丹下<br>佳洋(保・工)  | 開講学<br>期 | 2020年度 前期～後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 学外実習     |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 臨床工学技士として業務に従事するため、血液浄化関連業務(急性および慢性期を含む)、手術室関連業務(人工心肺装置<br>含む)、ICU関連業務(人工呼吸器含む)、高気圧酸素治療業務、医療機器中央管理業務などの臨床業務についての実際<br>のスキルを学習する。とくに、臨床での手技、機器の操作、心構え、患者や医療スタッフとの接し方を経験し、エキスパート医<br>療者として活躍できるだけの最低限の知識、技術を習得する。 |          |              |        |            |              |          |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1)患者心理やコミュニケーション(報告・連絡・相談)の重要性を理解する。 2)医療スタッフの専門職名称と役割が説明でき<br>る。 3)生命維持管理装置の構成及び適応疾患と病態について概説できる。 4)臨床データから患者の状態と評価が適切に行<br>える。 5)トラブルシューティングに対応できる。 6)医療機器の安全管理について具体的に説明できる。                                 |          |              |        |            |              |          |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員および実習指導者は大学病院等で臨床工学技士として永年勤務し、血液浄化療法業務、人工心肺業務、人工呼<br>吸療法業務、高気圧酸素治療業務、集中治療室業務および手術室関連業務、医療機器管理業務などの臨床業務について<br>実際のスキルを伝授する。  |          |              |        |            |              |          |
| 評価方法                | 各実習施設の実習指導者が評価基準を基に評価する。  |          |              |        |            |              |          |
| 準備学習・履修上の<br>注意等    | 実習に耐えうる実力があるもの以外の受講は不可能である。 実習期間は各施設との協議により異なる。 白衣等の定められ<br>た服装を着用し、身なりを清潔に保つこと。 連絡のない遅刻・欠席は認めない。   |          |              |        |            |              |          |
| オフィスアワー             | 各教員のオフィスアワーに準ずる   |          |              |        |            |              |          |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当    |  |  |
|--------------------|-------------|--|------|-------|--|--|
| 1                  | 1)          | 【オリエンテーション】各実習施設でのオリエンテーションを受けて実習がスムーズに行くよう理解する。 | 講 義  | 施設担当者 |  |  |
| 2                  | 1)2)        | 【血液浄化業務実習1】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 3                  | 1)2)3)      | 【血液浄化業務実習2】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 4                  | 3)4)        | 【血液浄化業務実習3】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 5                  | 3)4)        | 【血液浄化業務実習4】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 6                  | 3)4)5)      | 【血液浄化業務実習5】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 7                  | 3)4)5)6)    | 【血液浄化業務実習6】 血液浄化の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 8                  | 1)2)        | 【人工心肺業務実習1】 人工心肺の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 9                  | 2)3)        | 【人工心肺業務実習2】 人工心肺の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 10                 | 3)4)        | 【人工心肺業務実習3】人工心肺の業務について臨床現場で学習する。                 | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 11                 | 1)2)        | 【手術室業務実習1】 手術室の業務について臨床現場で学習する。                  | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 12                 | 2)3)        | 【手術室業務実習2】 手術室の業務について臨床現場で学習する。                  | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 13                 | 3)4)        | 【手術室業務実習3】 手術室の業務について臨床現場で学習する。                  | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 14                 | 1)～4)       | 【高気圧酸素業務実習1】 高気圧酸素の業務について臨床現場で学習する。              | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 15                 | 1)～4)       | 【高気圧酸素業務実習2】 高気圧酸素の業務について臨床現場で学習する。              | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 16                 | 1)2)3)      | 【集中治療業務実習1】 集中治療の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 17                 | 3)4)        | 【集中治療業務実習2】 集中治療の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 18                 | 3)4)        | 【集中治療業務実習3】 集中治療の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 19                 | 3)4)5)6)    | 【集中治療業務実習4】 集中治療の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 20                 | 1)～4)       | 【救命救急業務実習1】 救命救急の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 21                 | 1)～4)       | 【救命救急業務実習2】 救命救急の業務について臨床現場で学習する。                | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 22                 | 3)5)6)      | 【ME 機器管理業務実習1】 ME 機器管理の業務について臨床現場で学習する。          | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 23                 | 3)5)6)      | 【ME 機器管理業務実習2】 ME 機器管理の業務について臨床現場で学習する。          | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 24                 | 3)5)6)      | 【ME 機器管理業務実習3】 ME 機器管理の業務について臨床現場で学習する。          | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 25                 | 3)5)6)      | 【ME 機器管理業務実習4】 ME 機器管理の業務について臨床現場で学習する。          | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 26                 | 2)4)        | 【臨床検査業務実習】臨床検査の業務について臨床現場で学習する。                  | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 27                 | 3)4)5)      | 【医療治療機器業務実習1】 医療治療機器を用いた業務について幅広く臨床現場で学習する。      | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 28                 | 3)4)5)      | 【医療治療機器業務実習2】 医療治療機器を用いた業務について幅広く臨床現場で学習する。      | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 29                 | 3)4)5)      | 【生体計測装置業務実習1】 生体計測装置を用いた業務について幅広く臨床現場で学習する。      | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 30                 | 3)4)5)      | 【生体計測装置業務実習2】 生体計測装置を用いた業務について幅広く臨床現場で学習する。      | 実 習  | 施設担当者 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |       |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |       |  |  |

|                            |   |          |              |        |            |              |         |
|----------------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                        | 卒業研究  |          |              | 授業コード  | 120734B201 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)                   | 臨床工学科(4年)   |          |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                        | 戸畑 裕志(保・工)、竹澤 真吾<br>(保・工)、近藤 照義(保・工)、渡<br>辺 渡(保・工)、右田 平八(保・<br>工)、砂子澤 裕(保・工)、丹下 佳<br>洋(保・工)   | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学士としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。   |          |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1) 研究デザインを構築することができる。 2) 研究計画書を作成することができる。 3) 関連する研究テーマに関し、文献学的調査することができる。 4) 研究基本骨子を作成し、予備研究および本研究に取り組むことができる。 5) 研究結果を分析し、自己で考察することができる。 6) 研究結果を卒業論文として整理することができる。 7) 研究結果に対し、成果発表としてプレゼンテーションできる。 |          |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 戸畑、竹澤、右田、丹下は病院勤務経験が、竹澤、渡辺は企業勤務経験が永い。いずれも、その経験を卒業論文作成研究に活かすことができ、受講者は現場に即した内容の研究が可能である。  |          |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等           | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。毎日5時間以上は卒業研究を行い、担当教員と頻りに結果等の打ち合わせをすること。   |          |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー                    | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |          |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |
|--------------------|-------------|--|------|-----|
| 1                  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 全 員 |
| 2                  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 全 員 |
| 3                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 4                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 5                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 6                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 7                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 8                  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 全 員 |
| 9                  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 10                 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 11                 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 12                 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 13                 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 全 員 |
| 14                 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 15                 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 16                 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 17                 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 18                 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 19                 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 20                 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 21                 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 22                 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 23                 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 全 員 |
| 24                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 25                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 26                 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 全 員 |
| 27                 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 全 員 |
| 28                 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 全 員 |
| 29                 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 全 員 |
| 30                 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。      |  |      |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しない。      |  |      |     |



|                     |   |      |              |        |            |              |         |
|---------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 卒業研究  |      |              | 授業コード  | 120734B202 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |      |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 戸畑 裕志(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 卒業研究では、専門的かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学士としてふさわしい論文を作成する能力を身につける。   |      |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究デザインを構築することができる。 2) 研究計画書を作成することができる。 3) 関連する研究テーマに関し、文献学的調査することができる。 4) 研究基本骨子を作成し、予備研究および本研究に取り組むことができる。 5) 研究結果を分析し、自己で考察することができる。 6) 研究結果を卒業論文として整理することができる。 7) 研究結果に対し、成果発表としてプレゼンテーションできる。 |      |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 担当教員(臨床工学技士)は、29年間大学病院で医療機器の開発・研究に従事してきた経験があり、それを基に卒業論文作成研究に活かすことができ、受講者は現場に即した内容の研究が可能である。   |      |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 卒業論文発表会での全教員による評価をもって判定する。  |      |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | 各自のテーマにしたがって、必要な随時文献検索をおこなう。研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもあるが、毎日5時間以上は卒業研究を行い、担当教員と頻繁に結果等の打ち合わせをすること。   |      |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |      |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |  |  |
|--------------------|-------------|--|------|-----|--|--|
| 1                  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 全 員 |  |  |
| 2                  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 3                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 4                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 5                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 6                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 7                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 8                  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 9                  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 10                 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 11                 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 12                 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 13                 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 14                 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 15                 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 16                 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 17                 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 18                 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 19                 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 20                 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 21                 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 22                 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 23                 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 24                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 25                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 26                 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 27                 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 28                 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 29                 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 30                 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 全 員 |  |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |     |  |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |     |  |  |

|                     |   |      |              |        |            |              |         |
|---------------------|---|------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 卒業研究  |      |              | 授業コード  | 120734B203 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |      |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 近藤 照義(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学生としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。 |      |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学生としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。 |      |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 科目担当者は、臨床現場での5年以上の実務経験に基づき、解剖学者としての実務経験を活かした授業を行う。  |      |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 卒業論文発表会での全教員による評価をもって判定する。  |      |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。  |      |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |      |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |
|--------------------|-------------|--|------|-----|
| 1                  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 近 藤 |
| 2                  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 3                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 近 藤 |
| 4                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 近 藤 |
| 5                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 近 藤 |
| 6                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 近 藤 |
| 7                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 近 藤 |
| 8                  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 近 藤 |
| 9                  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 近 藤 |
| 10                 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 近 藤 |
| 11                 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 近 藤 |
| 12                 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 近 藤 |
| 13                 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 近 藤 |
| 14                 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 15                 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 16                 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 17                 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 18                 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 19                 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 20                 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 21                 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 22                 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 近 藤 |
| 23                 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 近 藤 |
| 24                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 近 藤 |
| 25                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 近 藤 |
| 26                 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 近 藤 |
| 27                 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 近 藤 |
| 28                 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 近 藤 |
| 29                 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 近 藤 |
| 30                 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 近 藤 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しません。     |  |      |     |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 | 使用しません。     |  |      |     |

|                     |   |      |              |            |              |         |       |
|---------------------|---|------|--------------|------------|--------------|---------|-------|
| 科目名                 | 卒業研究  |      | 授業コード        | 120734B204 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |       |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |      | ナンバリング       | 24C413P02  | AL科目         | ○       |       |
| 担当者                 | 砂子澤 裕(保・工)  | 開講学期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択      | 必修           | 授業形態    | 講義・実習 |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学士としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。   |      |              |            |              |         |       |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究デザインを構築することができる。 2) 研究計画書を作成することができる。 3) 関連する研究テーマに関し、文献学的調査することができる。 4) 研究基本骨子を作成し、予備研究および本研究に取り組むことができる。 5) 研究結果を分析し、自己で考察することができる。 6) 研究結果を卒業論文として整理することができる。 7) 研究結果に対し、成果発表としてプレゼンテーションできる。 |      |              |            |              |         |       |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 実施予定なし。   |      |              |            |              |         |       |
| 評価方法                | 卒業論文発表会で臨床工学科全教員による評価をもって判定する。  |      |              |            |              |         |       |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。  |      |              |            |              |         |       |
| オフィスアワー             | 毎週金曜日 12:00~13:00、1号棟 3F、B-332  |      |              |            |              |         |       |

#### 授業計画

| 回数                 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |  |
|--------------------|-------------|--|------|-----|--|
| 1                  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 砂子澤 |  |
| 2                  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 3                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 4                  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 5                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 6                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 7                  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 8                  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 9                  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 10                 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 11                 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 12                 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 13                 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 14                 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 15                 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 16                 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 17                 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 18                 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 19                 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 20                 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 21                 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 22                 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 23                 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 24                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 25                 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 26                 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 27                 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 28                 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 29                 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 30                 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 砂子澤 |  |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |     |  |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |             | 使用しない。   |      |     |  |

|                            |   |          |              |        |            |              |         |
|----------------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                        | 卒業研究  |          |              | 授業コード  | 120734B205 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)                   | 臨床工学科(4年)   |          |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                        | 丹下 佳洋(保・工)  | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO)        | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学士としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。   |          |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)             | 1) 研究デザインを構築することができる。 2) 研究計画書を作成することができる。 3) 関連する研究テーマに関し、文献学的調査することができる。 4) 研究基本骨子を作成し、予備研究および本研究に取り組むことができる。 5) 研究結果を分析し、自己で考察することができる。 6) 研究結果を卒業論文として整理することができる。 7) 研究結果に対し、成果発表としてプレゼンテーションできる。 |          |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育<br>評価方法 | 戸畑、竹澤、右田、丹下は病院勤務経験が、竹澤、渡辺は企業勤務経験が長い。いずれも、その経験を卒業論文作成研究に活かすことができ、受講者は現場に即した内容の研究が可能である。  |          |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等           | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。毎日5時間以上は卒業研究を行い、担当教員と頻りに結果等の打ち合わせをすること。   |          |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー                    | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |          |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |
|----|-------------|--|------|-----|
| 1  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 全 員 |
| 2  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 全 員 |
| 3  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 4  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 5  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 6  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 7  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 8  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 全 員 |
| 9  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 10 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 11 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 12 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 13 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 全 員 |
| 14 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 15 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 16 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 17 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 18 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 19 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 20 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 21 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 22 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 23 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 全 員 |
| 24 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 25 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 26 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 全 員 |
| 27 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 全 員 |
| 28 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 全 員 |
| 29 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 全 員 |
| 30 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 全 員 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |   |          |              |        |            |              |         |
|---------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 卒業研究  |          |              | 授業コード  | 120734B206 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |          |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 竹澤 真吾(保・工)、戸畑 裕志<br>(保・工)、近藤 照義(保・工)、渡<br>辺 渡(保・工)、右田 平八(保・<br>工)、砂子澤 裕(保・工)、丹下 佳<br>洋(保・工)   | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学生としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。 |          |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学生としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。 |          |              |        |            |              |         |
| 実務経験のある<br>教員による教育  | 卒業研究では、研究を進めるうえで担当教員の臨床現場での経験スキルが重要なヒントとなることもある。担当教員は救急病院等で臨床工学技士として永年勤務しており、実践経験に基づいた手法を一部展開しながら幅広い知識と技術の習得を目的とした指導を行う。                  |          |              |        |            |              |         |
| 評価方法                | 卒業論文発表会での全教員による評価をもって判定する。  |          |              |        |            |              |         |
| 準備学習・履修上<br>の注意等    | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。  |          |              |        |            |              |         |
| オフィスアワー             | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |          |              |        |            |              |         |

#### 授業計画

| 回数 | SBOs<br>No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当  |
|----|-------------|--|------|-----|
| 1  | 1)2)3)      | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 全 員 |
| 2  | 1)2)3)      | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 全 員 |
| 3  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 4  | 1)2)3)      | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 5  | 1)2)3)      | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 6  | 1)2)3)      | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 7  | 1)2)3)      | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 全 員 |
| 8  | 1)2)3)      | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 全 員 |
| 9  | 4)5)        | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 10 | 4)5)        | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 全 員 |
| 11 | 4)5)        | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 12 | 4)5)        | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 全 員 |
| 13 | 4)5)        | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 全 員 |
| 14 | 4)5)        | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 15 | 4)5)        | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 16 | 4)5)        | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 17 | 4)5)        | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 18 | 4)5)        | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 19 | 4)5)        | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 20 | 4)5)        | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 21 | 4)5)        | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 22 | 4)5)        | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 全 員 |
| 23 | 4)5)        | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 全 員 |
| 24 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 25 | 4)5)        | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 全 員 |
| 26 | 4)5)        | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 全 員 |
| 27 | 6)          | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 全 員 |
| 28 | 6)          | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 全 員 |
| 29 | 7)          | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 全 員 |
| 30 | 7)          | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 全 員 |

教科書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 使用しない。

|                     |   |          |              |        |            |              |         |
|---------------------|---|----------|--------------|--------|------------|--------------|---------|
| 科目名                 | 卒業研究  |          |              | 授業コード  | 120734B207 | 単位数<br>(時間数) | 2<br>60 |
| 配当学科(学年)            | 臨床工学科(4年)   |          |              | ナンバリング | 24C413P02  | AL科目         | ○       |
| 担当者                 | 渡辺 渡(保・工)   | 開講学<br>期 | 2020年度 前期~後期 | 必修・選択  | 必 修        | 授業形態         | 講義・実習   |
| 授業の概要・<br>一般目標(GIO) | 卒業研究では、配属された教員の指導の元で専門的、かつ高度な研究に従事し、その研究手法と意義について学習する。研究内容は最先端であることが多く、学会での発表や学会誌への論文投稿なども、場合によっては行う。自らが考え、学生としてふさわしい論文を作成すべく努力することが望まれる。 |          |              |        |            |              |         |
| 到達目標<br>(SBOs)      | 1) 研究デザインを構築することができる。2) 研究計画書を作成することができる。3) 関連する研究テーマに関し、文献学的調査することができる。4) 研究基本骨子を作成し、予備研究および本研究に取り組むことができる。5) 研究結果を分析し、自己                |          |              |        |            |              |         |

|                |   |
|----------------|---|
|                | で考察することができる。 6) 研究結果を卒業論文として整理することができる。 7) 研究結果に対し、成果発表としてプレゼンテーションできる。   |
| 実務経験のある教員による教育 | 科目担当者は、企業の医薬品開発の研究所における10年以上の実務経験を卒業論文作成研究に活かすことができ、受講者は現場に即した内容の研究が可能である。  |
| 評価方法           | 卒業論文発表会での全教員による評価をもって判定する。  |
| 準備学習・履修上の注意等   | 希望担当教員を選ぶことが可能だが、希望者の人数によっては第一希望とはならないことがある。また、研究進捗状況が思わしくない場合には、担当教員と協議の上論文発表を見合わせることもある。毎日5時間以上は卒業研究を行い、担当教員と頻りに結果等の打ち合わせをすること。 |
| オフィスアワー        | 担当教員とは随時可能。時間に縛られることなく自由に研究活動、教員との意見交換をすべき。   |

授業計画

| 回数                 | SBOs No. | 授業内容   | 授業方法 | 担当     |
|--------------------|----------|--|------|--------|
| 1                  | 1)2)3)   | 【オリエンテーション】 担当教員との意見交換を行い、何をテーマとしたいのか明確にする。      | 講 義  | 渡 辺    |
| 2                  | 1)2)3)   | 【テーマ発表】 各自の卒論テーマを決定する。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 3                  | 1)2)3)   | 【卒業論文概要作成1】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 渡 辺    |
| 4                  | 1)2)3)   | 【卒業論文概要作成2】 卒業論文の概要を作成する。                        | 実 習  | 渡 辺    |
| 5                  | 1)2)3)   | 【既往研究調査1】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 渡 辺    |
| 6                  | 1)2)3)   | 【既往研究調査2】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 渡 辺    |
| 7                  | 1)2)3)   | 【既往研究調査3】 類似する既往研究を調査する。                         | 実 習  | 渡 辺    |
| 8                  | 1)2)3)   | 【概要の見直し】 既往研究の結果を基に、卒論概要の見直しを行う。                 | 実 習  | 渡 辺    |
| 9                  | 4)5)     | 【基本骨子作成1】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 渡 辺    |
| 10                 | 4)5)     | 【基本骨子作成2】 実験方法の基本骨子を作成する。                        | 実 習  | 渡 辺    |
| 11                 | 4)5)     | 【予備実験1】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 渡 辺    |
| 12                 | 4)5)     | 【予備実験2】 予備実験を行い、実験方法のあり方が妥当かどうかを判断する。            | 実 習  | 渡 辺    |
| 13                 | 4)5)     | 【実験方法見直し】 実験方法の見直しと、具体的なスケジュール立案を行う。             | 実 習  | 渡 辺    |
| 14                 | 4)5)     | 【卒論実験1】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 15                 | 4)5)     | 【卒論実験2】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 16                 | 4)5)     | 【卒論実験3】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 17                 | 4)5)     | 【卒論実験4】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 18                 | 4)5)     | 【卒論実験5】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 19                 | 4)5)     | 【卒論実験6】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 20                 | 4)5)     | 【卒論実験7】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 21                 | 4)5)     | 【卒論実験8】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 22                 | 4)5)     | 【卒論実験9】 論文作成のための実験を行う。                           | 実 習  | 渡 辺    |
| 23                 | 4)5)     | 【卒論実験10】 論文作成のための実験を行う。                          | 実 習  | 渡 辺    |
| 24                 | 4)5)     | 【実験結果整理および検討1】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 渡 辺    |
| 25                 | 4)5)     | 【実験結果整理および検討2】 実験結果の整理と検討を行う。                    | 実 習  | 渡 辺    |
| 26                 | 4)5)     | 【追実験および論文作成】 不足データを補うとともに、論文の目次作成、使用するグラフの抽出を行う。 | 実 習  | 渡 辺    |
| 27                 | 6)       | 【論文作成】 論文の本文を作成する。                               | 実 習  | 渡 辺    |
| 28                 | 6)       | 【論文の見直し】 担当教員の意見も十分考慮し、論文内容を検討する。                | 実 習  | 渡 辺    |
| 29                 | 7)       | 【発表準備】 卒業論文発表用のパワーポイントファイルを作成、完成させる。             | 実 習  | 渡 辺    |
| 30                 | 7)       | 【卒論発表会】 発表会にて卒論の内容を公開する。                         | 実 習  | 学科教員全員 |
| 教科書(著者名)出版社名【ISBN】 |          | 使用しない。   |      |        |
| 参考書(著者名)出版社名【ISBN】 |          | 使用しない。   |      |        |